



Cisco DNA Assurance リリース 2.3.7.0 および 2.3.7.3 ユーザーガイド

初版：2023年8月11日

最終更新：2024年1月9日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ www.cisco.com/jp/go/safety_warning/ ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2023–2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 1 章	新機能および変更された機能に関する情報 1
	新機能および変更された機能 Cisco DNA Assurance 1

第 2 章	Cisco DNA Assurance の概要 3
	Cisco DNA Assurance の概要 3
	アシュアランス のアーキテクチャ 4
	IPv6 アドレスのサポート 5
	ユーザープロファイルの役割および権限 5
	アシュアランス を始める 5

第 3 章	Cisco AI Network Analytics の概要 7
	About Cisco AI Network Analytics 7
	Cisco AI ネットワーク分析の利点 9
	Cisco AI Network Analytics のライセンスと導入 10
	Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラ でサポートされている Cisco AI Network Analytics の機能 11

第 4 章	アシュアランス を使用するための Cisco DNA Center の設定 13
	アシュアランス の制限事項と制約事項 13
	基本的な設定のワークフロー 13
	デバイスの検出 16
	検出の概要 16
	ディスカバリの前提条件 17
	優先管理 IP アドレス 18

設定のガイドラインと制限事項のディスカバリ	18
ディスカバリ クレデンシヤル	19
CDP を使用したネットワークの検出	24
IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出	27
LLDP を使用したネットワークの検出	29
ディスカバリ ジョブの管理	31
ディスカバリ ジョブの停止および開始	31
ディスカバリ ジョブの複製	31
ディスカバリ ジョブの削除	32
ディスカバリ ジョブ情報の表示	32
ネットワーク階層の設計	33
新しいネットワーク階層の作成	34
サイトの作成、編集、削除	34
ビルディングの追加、編集、および削除	35
フロアの追加、編集、および削除	36
既存の Cisco ネットワーク階層の使用	38
Cisco Prime Infrastructure からのサイト階層のエクスポート	39
Cisco Prime Infrastructure からのマップアーカイブのエクスポート	39
Cisco DNA Center へのサイト階層のインポート	40
Cisco DNA Center へのマップアーカイブのインポート	41
既存の Ekahau ネットワーク階層の使用	41
Cisco DNA Center からの Ekahau プロジェクトのエクスポート	41
Cisco DNA Center への Ekahau プロジェクトのインポート	42
Ekahau サイト調査の Cisco DNA Center へのインポート	43
2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成	44
AP の追加、配置、編集、および削除	46
センサーの追加、配置、および削除	48
カバレッジエリアの追加、編集、および削除	49
吹き抜けの追加、編集、コピー、および削除	50
ロケーションリージョンの追加、編集、および削除	51
壁の追加、編集、および削除	52

	シェルフユニットの追加、コピー、編集、および削除	53
	マーカーの追加、編集、および削除	54
	GPS マーカーの追加、編集、および削除	55
	位置合わせポイントの追加、編集、および削除	55
	インベントリの管理	56
	インベントリについて	56
	デバイスポーリング間隔の更新	57
	インベントリに関する情報の表示	58
	ネットワーク デバイスの削除	70
	デバイスをサイトに追加する	70
	マップへの AP の追加	73
	AP をマップ上に配置する	74
	Cisco DNA Center 向けの Cisco ISE の設定について	78
	認証サーバとポリシー サーバの設定	78
	テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定	82
	Cisco AI Network Analytics の設定	84
	Cisco AI Network Analytics の無効化	86
	機械推論ナレッジベースの更新	87
	ローカリゼーションの有効化	88
<hr/>		
第 5 章	企業全体の健全性のモニターとトラブルシューティング	91
	企業について	91
	企業の全体的な健全性のモニターとトラブルシューティング	91
<hr/>		
第 6 章	ネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング	97
	ネットワークについて	97
	ネットワークの健全性のモニターとトラブルシューティング	97
	デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング	107
	スイッチおよびルータの重大レベルに満たない選択済み Syslog	123
	Cisco StackWise Virtual と制限事項について	124

Cisco StackWise と制限事項について	125
ネットワークデバイスの正常性スコアの設定	126
ファブリック デバイスで SNMP コレクタ メトリックを有効化	127
ネットワークの正常性スコアと KPI メトリックについて	128
ネットワーク ヘルス スコア	129
デバイスカテゴリの正常性スコア	129
個別のデバイス正常性スコア	129
スイッチ ヘルス スコア	130
ルータ ヘルス スコア	132
AP ヘルス スコア	132
ワイヤレス コントローラのヘルス スコア	134
Catalyst ワイヤレス コントローラのヘルス スコア	135
スイッチ上の Catalyst ワイヤレス コントローラのヘルス スコア	136
ネットワーク ヘルス スコアと KPI メトリックに対するメンテナンス モードの影響	136

第 7 章

クライアント正常性のモニターとトラブルシューティング	139
クライアントについて	139
すべてのクライアント デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング	139
トラッキング対象クライアントの設定	155
除外クライアントの設定	155
クライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング	157
有線クライアントのイベントビューアに表示されるメッセージ	169
クライアントの正常性スコアと KPI メトリックについて	170
クライアント ヘルス スコア	170
クライアント オンボーディング スコア	170
クライアント接続スコア	170
個別のクライアント ヘルス スコア	171

第 8 章

アプリケーション健全性のモニター	173
アプリケーションエクスペリエンスとアプリケーションの可視性について	173
サポートされるプラットフォーム	174

デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準	176
アプリケーションの正常性の前提条件	179
アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング	181
ホストのアプリケーションエクスペリエンスの表示	182
ネットワークデバイスのアプリケーションエクスペリエンスの表示	183
すべてのアプリケーションの健全性のモニター	185
アプリケーションの健全性のモニター	194
Webex アプリケーション正常性のモニターとトラブルシューティング	199
Microsoft Teams アプリケーションの正常性のモニターとトラブルシューティング	203
アプリケーションの正常性スコア設定の設定	207
アプリケーションのヘルス スコアと KPI メトリックスの理解	207
全体的なアプリケーション正常性スコア	208
個別アプリケーションの正常性スコア	208

第 9 章

ネットワークサービスの監視	209
AAA ネットワークサービスの監視	209
DHCP ネットワークサービスの監視	212
DNS ネットワークサービスの監視	216

第 10 章

SD-Access の正常性のモニターとトラブルシューティング	221
SD-Access ファブリック	221
ファブリックサイトの追加	221
ファブリックへのデバイスの追加	224
SD-Access ファブリックの正常性の監視とトラブルシューティング	226
ファブリックサイトの正常性の監視	231
トランジットおよびピアネットワークの正常性の監視	236
仮想ネットワークの正常性の監視	241
仮想ネットワークの正常性スコア	245

第 11 章

サイト分析を使用したネットワークのモニターとトラブルシューティング	247
サイト分析について	247

サイト分析ダッシュボードのインサイト 249

サイト分析の表示 254

サイト分析設定の構成 259

第 12 章

問題の表示と管理 261

問題について 261

機械推論エンジンについて 262

VLAN に関連するレイヤ 2 ループの問題について 262

未解決の問題を表示 263

AI 駆動型の問題に関与するインスタンスの詳細 267

AP 切断の問題についての [Issue Instance Details] 271

レイヤ 2 のループ問題に関与するインスタンスの詳細 272

PoE の問題に関する問題インスタンスの詳細 276

MRE を使用した有線クライアントの問題のトラブルシューティング 279

解決済みの問題の表示 282

無視された問題の表示 284

問題の解決または無視 286

無線にアクティビティなしの問題のトリガー 288

自動問題解決 288

グローバルな問題の設定の管理 292

ユーザー定義問題の設定の管理 293

カスタム問題の設定の管理 294

問題の通知の有効化 296

アシュアランス、Cisco AI Network Analytics、および MRE の問題 299

ルータの問題 299

コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 301

サードパーティデバイスの問題 306

コントローラの問題 307

アクセスポイントの問題 307

有線クライアントの問題 309

ワイヤレスクライアントの問題 309

AAA 障害の根本原因分析の問題を有効にする	314
アプリケーションの問題	314
センサーの問題	315
AI 駆動型の問題	317
MRE の問題	319

第 13 章
イベントの表示と管理 321

イベントダッシュボードの概要	321
デバイスイベントの表示	322
エンドポイントイベントの表示	325
イベント分析の表示：ダッシュボードのプレビュー	328

第 14 章
センサーの管理とセンサー主導のテスト 333

センサーとセンサー主導のテストについて	333
センサーのプロビジョニング	334
ワイヤレス Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーのプロビジョニング	334
ワイヤレス コントローラのプロビジョニング SSID の有効化	335
Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラのスコープ プロビジョニング SSID の有効化	335
ワイヤレスまたはセンサー デバイスのプロビジョニング	336
センサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング	340
すべてのワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング	340
ワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング	346
センサーの管理とバックホールの設定	348
ネットワーク内のセンサーの管理	348
バックホールの設定の管理	350
センサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続	352
SCEP プロファイルの管理	353
センサー主導テスト	354
センサー主導テストの作成方法 アシユアランス	354

レガシーの方法を使用したセンサー主導テストの作成と実行	354
テンプレートを使用したセンサー主導テストの作成と実行	358
センサー主導テストの管理	363

第 15 章**Wi-Fi 6E および 6 の対応状況のモニター 365**

Wi-Fi 6E および 6 の対応状況とその利点について	365
Wi-Fi 6E および 6 ネットワークの対応状況の確認	366

第 16 章**Power over Ethernet の監視 373**

PoE について	373
PoE テレメトリの設定ワークフロー	373
PoE テレメトリに使用するデバイスでの NETCONF の設定	375
PoE テレメトリのテレメトリ設定の更新	377
ネットワーク内の PoE 対応デバイスの監視	378

第 17 章**Manage Dashboards 387**

ダッシュボードについて	387
カスタム ダッシュボードの作成	387
テンプレートからのダッシュボードの作成	388
ダッシュボードの表示	390
ダッシュボードの編集または削除	390
ダッシュボードの複製	391
ダッシュボードをお気に入りにする	391
ダッシュレットの位置の変更	392

第 18 章**ネットワークのトレンドを観察し洞察を得る 393**

ネットワークのトレンドとインサイトについて	393
ワイヤレスアクセスポイントのパフォーマンスアドバイザリを表示する	394
ネットワークトレンドの表示とインサイトの取得	398
ネットワークヒートマップでのアクセスポイントおよびスイッチの比較	404
KPI 値をネットワーク内のピアと比較	408

建物、AP モデルファミリー、およびワイヤレス エンドポイント タイプの比較	409
ベースラインを使用したネットワークパフォーマンスの表示と監視	413
AI 活用型 RRM ダッシュボードを使用した RF ネットワークの表示	416

第 19 章
インテリジェントキャプチャの管理 435

インテリジェントキャプチャについて	435
インテリジェントキャプチャ対応デバイス	436
インテリジェントキャプチャのベストプラクティス	437
クライアントデバイス向けのライブおよびスケジュール済みキャプチャセッション	438
クライアントデバイス向けのキャプチャセッションについて	438
クライアント統計情報について	439
クライアントデバイスのライブキャプチャセッションの有効化	439
クライアントデバイス向けキャプチャセッションのスケジュールと管理	445
クライアントデバイス向けデータパケットキャプチャ	446
クライアントデバイス向けデータパケットキャプチャについて	446
NAM 統合について	446
NAM データポートでの IP アドレス設定	447
gRPC コレクタの設定	448
クライアントデバイスのデータパケットキャプチャの実行	448
クライアントの データパケットキャプチャ履歴の表示	455
アクセスポイント向けインテリジェントキャプチャ	456
アクセスポイントのインテリジェントキャプチャについて	456
アクセスポイントのインテリジェントキャプチャの有効化と管理	457
RF 統計情報の表示とアクセスポイントのスペクトル解析データの管理	461
スペクトル解析時の Cisco AP 機能について	466
インテリジェントキャプチャのトラブルシューティング	467
クライアントまたはアクセスポイントがインテリジェント キャプチャ データを送信できない Cisco DNA Center	467

第 20 章
SSID モニタリング設定の管理 469

SSID モニタリングの概要	469
----------------	-----

SSID モニタリングの設定 470

SSID モニタリングのプロビジョニングステータスの表示 471

第 21 章

デバイスのパスをトレース 473

パス トレースについて 473

パストレースの制限事項 473

パス トレースの実行 475

第 22 章

ワイヤレスマップ向け Cisco CMX の統合 479

Cisco Connected Mobile Experiences の統合について 479

Cisco CMX API サーバーへのユーザーの追加 479

Cisco CMX 設定の作成 480

Cisco CMX のトラブルシューティング 482

第 23 章

アシュアランス監査ログの表示 483

監査ログの表示 アシュアランス 483

第 24 章

データプラットフォームを使用した Cisco DNA Center のトラブルシューティング 485

データ プラットフォームについて 485

分析 Ops センターを使用したトラブルシューティング 486

コレクタの設定情報の表示または更新 488

データ保持設定の表示 489

パイプライン ステータスの表示 489



第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能 Cisco DNA Assurance \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能 Cisco DNA Assurance

次の表に、Cisco DNA Assurance 2.3.7.3 および 2.3.7.0 の新機能および変更された機能の概要と参照先を示します。

表 1: Cisco DNA Assurance リリース 2.3.7.3 の新機能および変更された機能

機能	説明
Assurance デバイス 360 からデバイスインベントリへの相互起動	[Device 360] ウィンドウから [Device Inventory] ウィンドウを相互起動して、デバイスの詳細を表示できます。 デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング (107 ページ) を参照してください。
NAM/vNAM の廃止	2.3.7.3 以降、ネットワーク分析モジュール (NAM) または vNAM サーバーをアシュアランスと統合することはできません。インテリジェントキャプチャは、NAM または vNAM と統合されなくなりました。

表 2: Cisco DNA Assurance リリース 2.3.7.0 の新機能および変更された機能

機能	説明
[Event Analytics - Preview] ダッシュボード	syslog メッセージとさまざまなタイプのネットワークイベントの分析データとインサイトデータを確認できます。[Issues and Events] ウィンドウの [Event Analytics - Preview] ダッシュボードから、さまざまなデータソース間のトレンドを特定し、イベントを関連付けられます。ダッシュボードには、syslog メッセージの数と有線およびワイヤレスデバイスからの到達可能性の遷移を含むヒートマップが表示されます。 イベント分析の表示: ダッシュボードのプレビュー (328 ページ) を参照してください。

機能	説明
更新の問題	<p>次の問題は消去時に更新されます。更新期間は28日です。問題ごとにタイムスタンプが更新されるため、次の消去サイクルまで問題が存在します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AP の切断 • スイッチ到達不能 • ルータ到達不能 • WLC 到達不能 • スイッチの WLC から AP が切断
RF Insights - Tx Drops チャート	<p>クライアント KPI ごとの [Tx Drops] は、リリース 17.12 以降、Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラと接続しているクライアントで使用できます。[Device 360] ダッシュボードの [RF] タブには、選択した無線の選択した SSID ごとに、パケットドロップ数が上位5つのクライアントを含む [Top Clients with Tx Drops per SSID] チャートが表示されます。</p> <p>[Client 360] ダッシュボードの [Connected] タブには、パケットドロップのパーセンテージを示す [Tx Drops] チャートが表示されます。</p> <p>デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング (107 ページ) および クライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング (157 ページ) を参照してください。</p>
有線 アシユアランス 向けサードパーティ製デバイスのサポート	<p>サードパーティ製デバイスは有線 アシユアランスでサポートされています。[Network] および [Device 360] アシユアランス の正常性ダッシュボードから、サードパーティ製デバイスをモニターおよびトラブルシューティングできます。デフォルトでは、サードパーティ製デバイスは [Core] デバイスファミリカテゴリにマッピングされます。</p> <p>[Issue Settings] ダッシュボードで、サードパーティ製デバイスによって生じた問題を確認できます。</p> <p>サードパーティデバイスの問題 (306 ページ) を参照してください。</p>



第 2 章

Cisco DNA Assurance の概要

- [Cisco DNA Assurance の概要](#) (3 ページ)
- [アシュアランス のアーキテクチャ](#) (4 ページ)
- [IPv6 アドレスのサポート](#) (5 ページ)
- [ユーザープロファイルの役割および権限](#) (5 ページ)
- [アシュアランス を始める](#) (5 ページ)

Cisco DNA Assurance の概要

アシュアランス 増え続けるビジネスニーズに対応するために、優れた一貫性のあるサービスレベルを保証する包括的なソリューションを提供します。リアクティブなネットワーク監視とトラブルシューティングに対応するだけでなく、ネットワーク実行のプロアクティブかつ予測的側面にも対応し、クライアント、アプリケーション、およびサービスの最適なパフォーマンスを確保します。

アシュアランス には、次のような利点があります。

- ネットワーク、クライアント、およびアプリケーション関連の問題へ実用的な情報を提供します。これらの問題は、複数の情報の基本的小および高度な相関関係から成り立っているため、ホワイトノイズと誤検出は除外されます。
- システムガイド付きとガイドなしの両方のトラブルシューティングを提供します。アシュアランス は多くの問題に対してシステムガイド付きアプローチを提供します。このアプローチでは、複数の重要業績評価指標 (KPI) が関連付けられ、テストおよびセンサーからの結果を使用して問題の根本原因を特定してから、可能なアクションを提示して問題を解決します。データの監視ではなく、問題点を浮き彫りにすることに重点が置かれています。アシュアランス では、非常に頻繁にレベル3サポートエンジニアの作業が実行されません。
- ネットワークとネットワークデバイス、クライアント、アプリケーション、およびサービスに関する詳細な正常性スコアを提供します。アクセス (オンボーディング) と接続の両方のクライアントエクスペリエンスが保証されます。

アシュアランスのアーキテクチャ

企業は多数のネットワークデータを扱っています。IT組織にとっては、ネットワークデータの量、多様性、速度、および精度への対応が重要です。アシュアランスは、ネットワークデータの問題（ある場合）を処理するために設計されています。

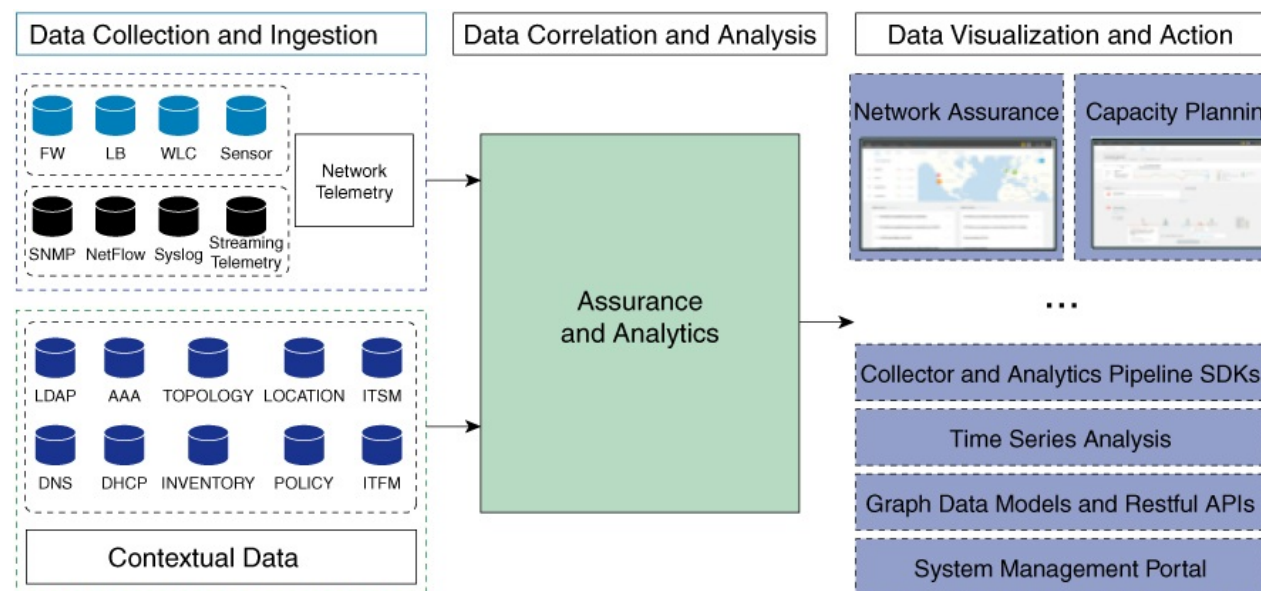
アシュアランスは多目的でリアルタイムのネットワークデータの収集および分析エンジンであり、これによりネットワークデータのビジネスにおける可能性を大幅に向上させることができます。

アシュアランスは収集層と分析層を簡略化および抽象化し、Web インターフェイスとともに豊富な API を提供しています。アシュアランスは、1 セットのネットワークデータを使用して幅広い使用例に対応します。これらの利点により、ネットワークデータの収集および分析に伴う動作およびネットワーク管理のオーバーヘッドが合理化され、企業はそれぞれの企業目標に効果的に注力できます。

柔軟なアーキテクチャを備えたアシュアランスは、広範な Cisco DNA 戦略をサポートしながら、モニターリングとトラブルシューティング、コスト管理、ポリシー検出など、一般的な多くの使用例に対応します。

次の図とその後の情報で、アシュアランスアーキテクチャについて説明します。

図 1: アシュアランスアーキテクチャ



- **データ収集と取り込み:** アシュアランスはストリーミングテクノロジーを活用して、さまざまなネットワークテレメトリとコンテキストデータをリアルタイムで収集します。
- **データ相関関係と分析:** データが取り込まれると、アシュアランスはデータを関連付けて分析します。

- **データの可視化とアクション**：データはデータベースに保存され、API を介してアシュアランス やキャパシティプランニング用のその他のアプリケーションに公開されます。アシュアランス は、以下を提供するオープンシステムです。

- コレクタと分析パイプライン SDK
- 時系列分析
- グラフデータモデルと RESTful API
- システム管理ポータル

IPv6 アドレスのサポート

Cisco DNA Center および Cisco DNA Assurance では IPv6 アドレスがサポートされています。単一の IPv6 アドレスは多くのテキスト形式で表現できますが、Cisco DNA Center では標準形式の IPv6 アドレスのみサポートされています。標準形式は、次に示されているように、正規化圧縮形式とも呼ばれます。

```
2001:db8::1:0:0:1
```

ユーザープロファイルの役割および権限

Cisco DNA Center は、ロールベース アクセス コントロール (RBAC) をサポートします。ユーザープロファイルに割り当てられたロールは、ユーザーが実行する権限を持つ機能を定義します。Cisco DNA Center には、次の 3 つの主要なデフォルトユーザーロールがあります。

- SUPER-ADMIN-ROLE
- NETWORK-ADMIN-ROLE
- OBSERVER-ROLE

SUPER-ADMIN-ROLE は、ユーザーに幅広い機能を提供し、カスタムロールの作成やユーザープロファイルへの割り当てなど、Cisco DNA Center GUI ですべてのアクションを実行できるようにします。NETWORK-ADMIN-ROLE と OBSERVER-ROLE は、Cisco DNA Center GUI での機能が制限されます。

Cisco DNA Center でアクションを実行できない場合、それを許可しないロールがユーザープロファイルに割り当てられていることが原因である可能性があります。詳細については、システム管理者に確認するか、または [Cisco DNA Center 管理者ガイド](#) を参照してください。

アシュアランス を始める

アシュアランス の使用を開始するには、まず、サーバーがネットワーク外と通信できるように Cisco DNA Center を設定する必要があります。

Cisco DNA Center の設定後、現在の環境でアシュアランス の使用を開始する方法を決定します。

- 既存のインフラストラクチャ：既存のインフラストラクチャ（既存の展開）があれば、ディスカバリを実行して開始します。ディスカバリを実行すると、すべてのデバイスが **[Inventory]** ウィンドウに表示されます。詳細については、[基本的な設定のワークフロー（13 ページ）](#) を参照してください。
- 新規または存在しないインフラストラクチャ：既存のインフラストラクチャがなく、ゼロから開始（新規導入）する場合は、ネットワーク階層を設計します。ネットワーク階層の設計については、[Cisco DNA Center ユーザガイド](#) を参照してください。



第 3 章

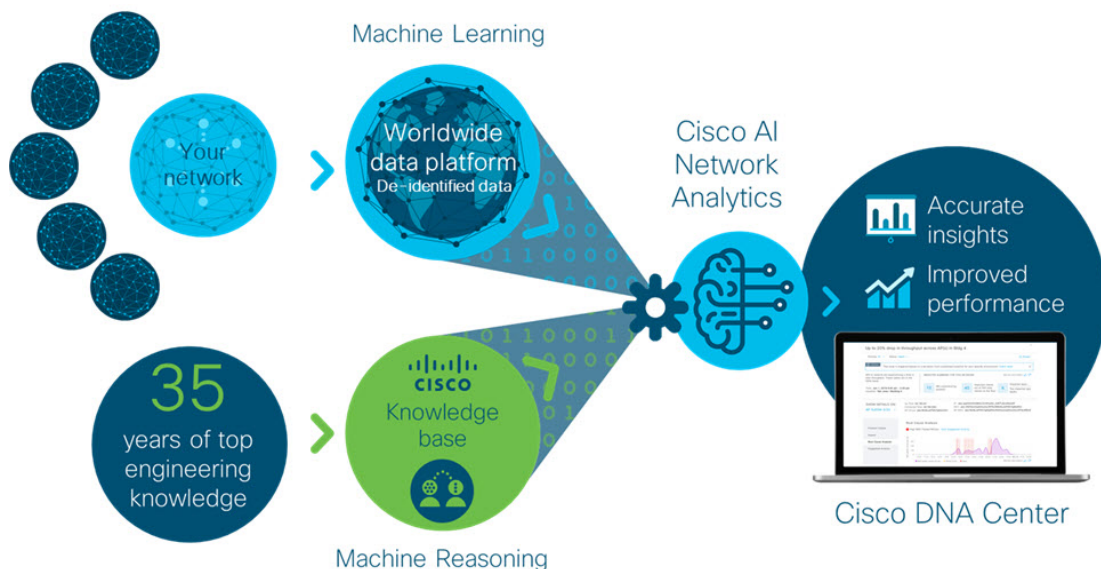
Cisco AI Network Analytics の概要

- [About Cisco AI Network Analytics](#) (7 ページ)
- [Cisco AI ネットワーク分析の利点](#) (9 ページ)
- [Cisco AI Network Analytics のライセンスと導入](#) (10 ページ)
- [Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ でサポートされている Cisco AI Network Analytics の機能](#) (11 ページ)

About Cisco AI Network Analytics

Cisco AI Network Analytics は、Cisco DNA Center に搭載されているアプリケーションです。機械学習と機械推論の能力を活用して、ネットワークの導入に特化した正確なインサイトを提供し、問題の迅速な解決を可能にします。次の図とその後の情報で、Cisco AI Network Analytics アーキテクチャについて説明します。

図 2: Cisco AI Network Analytics アーキテクチャ



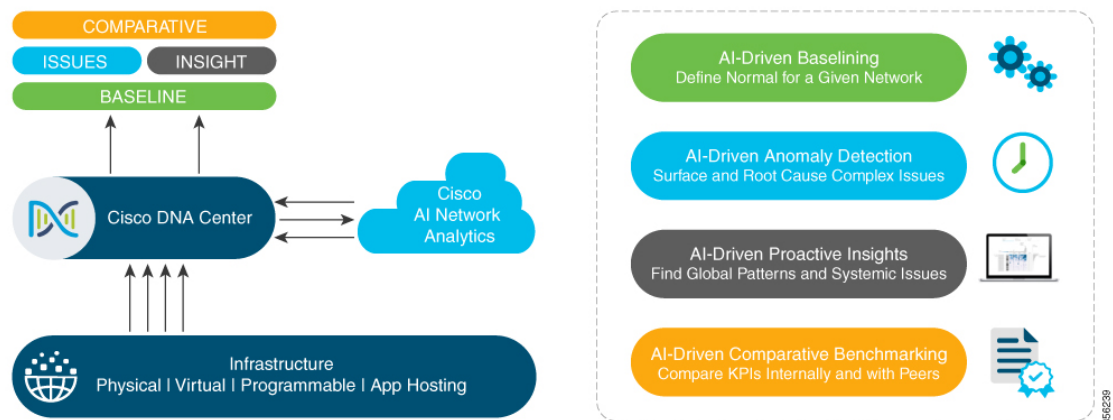
Cisco AI Network Analytics 構成は次のとおりです。

- 特定のネットワーク環境に応じた機械学習モデルの構築と分析を実現するグローバルなクラウドベースのデータプラットフォーム。
- 人間の専門知識を自動化し、ナレッジベースリポジトリ内のワークフローをキャプチャする機械推論エンジン。

機械学習

Cisco AI Network Analytics は高度な機械学習技術、および非特定化ネットワークイベントデータを含む高度なクラウド学習プラットフォームを活用して、ネットワーク内の重大な問題を特定し、豊富な情報を提供します。これにより、Cisco AI Network Analytics では問題の迅速なトラブルシューティングと根本原因の特定、トレンドとインサイトの特定による相対的な視点の獲得が実現します。Cisco AI Network Analytics は、Cisco DNA Assurance と完全に統合された Cisco DNA Center のシンプルかつ直感的で強力なユーザーインターフェイスを駆使して、こうした価値を提供します。

図 3: Cisco AI Network Analytics 機能



Cisco AI Network Analytics は、次のとおりです。

- **クラウドベースのインフラストラクチャ**：ネットワークイベント情報が Cisco DNA Center で非識別化され、セキュアな暗号化チャネルを介して Cisco AI Network Analytics クラウドベースのインフラストラクチャに送信されます。Cisco AI Network Analytics クラウドは、このような非識別化されたネットワークイベントデータに対して機械学習モデルを実行し、問題点と包括的なインサイトを Cisco DNA Center に返します。
- [Intelligent Issue Detection and Analysis] には次のものが含まれます。
 - **AI 駆動型の基準値設定**：基準値設定は、ネットワークダイナミクスの分析に使用される手法です。特定のネットワークの「通常」（基準）の動作を定義するための動作パターンを抽出します。次に、実際のネットワークパフォーマンスがその基準と比較されます。

Cisco AI Network Analytics 最先端の機械学習技術を活用して、特定のネットワークとサイトの現在の条件に合わせて基準を定義します。Cisco AI Network Analytics は、こ

の情報に基づいて特定の時点における各ネットワークとサイトの正常な動作を定義し、最も重要な問題を特定できます。

- **AI 駆動型の異常検出**：異常を検知して、根本原因を特定し、トラブルシューティングを容易にします。

Cisco AI Network Analytics 次のタイプの AI 駆動型の問題を検出できます。

- **接続の問題**（オンボーディングの問題）：過剰な時間、過剰な障害回数、過剰な DHCP 時間、過剰な DHCP 障害回数、過剰な AAA 時間、過剰な AAA 障害回数、過剰な関連付け時間、過剰な関連付け障害回数。
 - **アプリケーションエクスペリエンスに関する問題**：無線スループットの合計、メディアアプリケーションのスループット、クラウドアプリケーションのスループット、コラボレーションアプリケーションのスループット、およびソーシャルアプリケーションのスループット。
- [Trends and Insights] には次のものが含まれます。
 - [Trend Deviations]：グローバルパターン（トレンド）と乖離度を調べて、システム生成のインサイトを提供します。
 - [AP Performance Advisories]：一貫してクライアントエクスペリエンスが低い AP を検出し、根本原因と推奨されるアクションを提供します。
 - [Comparative Benchmarking] には次のものが含まれます。
 - [AI-Driven AP Comparisons in Network Heatmaps]：ヒートマップ内の特定の月について、ネットワーク内のすべての AP を比較してトレンドを把握し、洞察を得ます。
 - [AI-Driven Peer Comparisons]：選択した主要業績評価指標（KPI）について、ピアネットワークと比較してネットワークのパフォーマンスを判断します。
 - [AI-Driven Network Comparisons]：選択した KPI について、別のネットワークと比較したネットワーク（サイト、建物、AP モデル、クライアントタイプなど）のパフォーマンスを判断します。

機械推論

機械推論エンジン（MRE）は、ネットワーク自動化エンジンであり、人工知能（AI）を使用して複雑なネットワーク運用ワークフローを自動化します。完全に自動化された推論エンジンに人間の知識と専門知識をカプセル化し、複雑な根本原因の分析、問題や脆弱性の検出、および手動または自動による是正処置の実行を支援します。MRE は、シスコのネットワークエンジニアリングエキスパートによって構築された、クラウドホスト型のナレッジベースを実装しています。

Cisco AI ネットワーク分析の利点

Cisco AI Network Analytics には、次のような利点があります。

- **[More Visibility]** : 各ネットワークは一意であり、ネットワーク環境は常に変化しています。Cisco AI Network Analytics は、ローカルネットワークから継続的に関連データを収集し、そのデータを集約非特定化データセットと関連付けた後、高度な機械学習モデルを活用して、特定のネットワークとサイトに関連する基準を作成します。これらの基準は、ネットワーク環境の変化に応じて、デバイス、ユーザー、およびアプリケーションが増加するに伴い学習し、適応していきます。
- **[Greater Insight]** : Cisco AI Network Analytics では、機械学習を使用して、ネットワークからの膨大な量のデータを個別のネットワーク基準値に関連付け、ネットワークに重大な影響をもたらす問題を明らかにします。これにより、問題の関連性が絞り込まれます。Cisco AI Network Analytics は、ネットワーク動作の傾向とパターンを検出し、具体的な問題が発生する前に問題を特定できるようにします。
- **[Guided Action]** : Cisco AI Network Analytics は、機械学習アルゴリズムと自動化されたワークフローを使用して論理的なトラブルシューティング手順を実行し、エンジニアが問題を実行して解決できるようにします。これにより、IT部門は、問題と脆弱性を検出し、根本原因を分析し、迅速に是正措置を施すことができます。

Cisco AI Network Analytics のライセンスと導入

Cisco AI Network Analytics は、Cisco DNA Center の Cisco DNA Advantage ソフトウェアライセンスの一部で、アシユアランスのユーザーインターフェイスとシームレスに統合される、追加のコンポーネントとして提供されます。Cisco AI Network Analytics により、最先端の機械学習により生成されたインサイトと問題が提供され、機械学習エンジンで発生した問題の分析、トラブルシューティング、および対応に必要な可視化ツールも一緒に提供されます。

Cisco AI Network Analytics を展開するには、（アプライアンス フォーム ファクタで稼働している）Cisco DNA Center の実行インスタンスと、Cisco AI Network Analytics クラウドへの HTTPS 接続が必要です。HTTPS 接続は、プロキシサーバーを介してもサポートされます。HTTPS 接続にプロキシサーバーを使用する場合、設定は Cisco DNA Center グローバル設定から継承されます。ネットワークイベントデータは、クラウドに送信される前に非特定化されます。結果とインサイトは Cisco AI Network Analytics クラウドサービスによって返され、復号された後、アシユアランス ユーザーインターフェイスに直接表示されます。詳細については、[Cisco DNA Center Privacy Data Sheet](#) の「付録 1 Cisco AI Network Analytics」を参照してください。

Cisco AI Network Analytics では、ストレージと分析のためにクラウドインフラストラクチャへの接続が必要です。ワイヤレス AP の数が 500 未満の場合、効率的なエンコーディングおよび最適化スキームにより、1 日あたりの予測データ使用量はわずか 150 ~ 200 MB です。AP とワイヤレスクライアントに関して、データ使用量はネットワーク展開サイズに比例します。したがって、1800 の AP を使用した大規模な展開では、1 日あたりのデータ使用量は 500 ~ 700 MB になります。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ でサポートされている Cisco AI Network Analytics の機能

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ でサポートされている Cisco AI Network Analytics の機能、およびソフトウェアの最小バージョンを次の表に示します。

Cisco DNA Center リリース	サポートされる機能	Cisco IOS-XE の最小ソフトウェアバージョン
2.3.3	<ul style="list-style-type: none">• 接続の問題の特定 : Cisco AI Network Analytics は、過剰な時間、過剰な障害回数、過剰な関連付け時間、過剰な関連付け障害回数、過剰な認証時間、過剰な認証障害回数、過剰な DHCP 時間、過剰な DHCP 障害回数、スループットの問題などのオンボーディングの問題を特定できます。• 傾向の特定と洞察	16.12.1s



第 4 章

アシュアランス を使用するための Cisco DNA Center の設定

- [アシュアランス の制限事項と制約事項 \(13 ページ\)](#)
- [基本的な設定のワークフロー \(13 ページ\)](#)
- [デバイスの検出 \(16 ページ\)](#)
- [ネットワーク階層の設計 \(33 ページ\)](#)
- [インベントリの管理 \(56 ページ\)](#)
- [デバイスをサイトに追加する \(70 ページ\)](#)
- [マップへの AP の追加 \(73 ページ\)](#)
- [AP をマップ上に配置する \(74 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Center 向けの Cisco ISE の設定について \(78 ページ\)](#)
- [テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定 \(82 ページ\)](#)
- [Cisco AI Network Analytics の設定 \(84 ページ\)](#)
- [機械推論ナレッジベースの更新 \(87 ページ\)](#)
- [ローカリゼーションの有効化 \(88 ページ\)](#)

アシュアランス の制限事項と制約事項

アシュアランス では、ネットワークアドレス変換 (NAT) を介して接続されたデバイスをサポートしません。

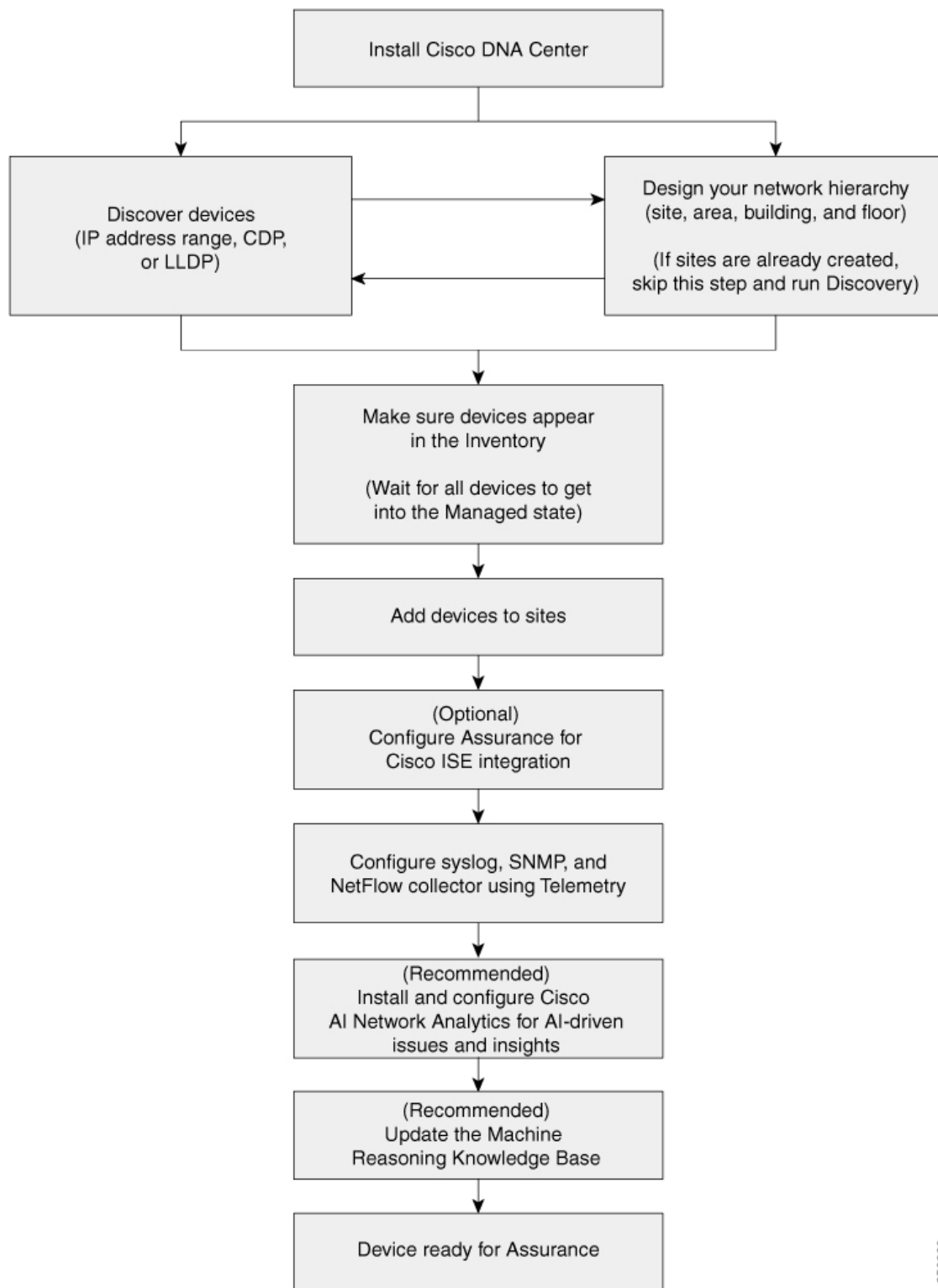
基本的な設定のワークフロー

アシュアランス アプリケーションの使用を開始する前に、アシュアランスを使用するために Cisco DNA Center を設定する必要があります。

ここでは、アシュアランスを設定するために実行する必要がある基本タスクについて説明します。この章は、[Cisco DNA Center ユーザガイド](#) と併用してください。

基本的なワークフローを理解するために、次の図と次の手順を参照してください。

図 4: アシュアランスを使用するための Cisco DNA Center の設定の基本的なワークフロー



356269

始める前に

[アシュアランスの制限事項と制約事項 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 Cisco DNA Center をインストールします。

[Cisco DNA Center 設置ガイド](#)を参照してください。

ステップ 2 任意の順序で次の操作を行います。

- デバイス (ルータ、スイッチ、ワイヤレス コントローラ、アクセス ポイント) を検出します。

[IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出 \(27 ページ\)](#)、[CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#)、および[LLDP を使用したネットワークの検出 \(29 ページ\)](#) を参照してください。

(注) Cisco ワイヤレス コントローラは、サービス ポート IP アドレスではなく、管理 IP アドレスを使用して検出する必要があります。それ以外の場合は、関連するワイヤレス コントローラ 360 および AP 360 のウィンドウでは、データが表示されません。

- 新しいネットワーク階層を設計するか、既存のものを使用します。

[新しいネットワーク階層の作成 \(34 ページ\)](#) または[既存の Cisco ネットワーク階層の使用 \(38 ページ\)](#) を参照してください。

(注) サイトがすでに作成されている場合は、このステップをスキップし、Discovery を実行できます。

ステップ 3 デバイス インベントリにデバイスが表示されることを確認します。

[インベントリに関する情報の表示 \(58 ページ\)](#) を参照してください。

(注) デバイスをサイトに追加する前に、すべてのデバイスが管理状態になるのを待つ必要があります。

ステップ 4 サイトにデバイスを追加します。

[デバイスをサイトに追加する \(70 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 5 AP がある場合は、フロアマップに追加することをお勧めします。

[マップへの AP の追加 \(73 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 ネットワークでのユーザー認証に Cisco Identity Services Engine (ISE) を使用している場合、アシュアランスを設定して Cisco ISE を統合できます。統合することで、アシュアランスのユーザー名やオペレーティングシステムなど、有線クライアントの詳細な情報を参照できます。

[Cisco DNA Center 向けの Cisco ISE の設定について \(78 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 7 テレメトリを使用して、Syslog、SNMP トラップ、および NetFlow コレクタ サーバーを設定します。

[テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定 \(82 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 8 (推奨) AI 駆動型の問題を確認し、ネットワークインサイトを取得するには、Cisco AI Network Analytics データ収集を設定します。

[Cisco AI Network Analytics の設定 \(84 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 9 (推奨) 最新の機械推論ワークフローにアクセスするには、機械推論ナレッジベースを更新します。

[機械推論ナレッジベースの更新 \(87 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 10 アシュアランス アプリケーションの使用を開始します。

デバイスの検出

Cisco DNA Center ディスカバリ機能を使用してネットワーク内のデバイスをスキャンします。

検出の概要

ディスカバリ機能は、ネットワーク内のデバイスをスキャンし、検出されたデバイスの一覧をインベントリに送信します。

また、ディスカバリ機能は、デバイスの可制御性機能と連携して、デバイスに必要なネットワーク設定を構成することもできます（これらの設定がデバイスにまだ存在しない場合）。

デバイスは次の 4 つの方法で検出できます。

- Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用し、シード IP アドレスを指定します。
- IP アドレスの範囲を指定します（最大 4096 デバイスの範囲がサポートされます）。
- Link Layer Discovery Protocol (LLDP) を使用し、シード IP アドレスを指定します。
- Classless Inter-Domain Routing (CIDR) を使用し、シード IP アドレスを指定します。

ディスカバリ基準を設定する際は、ネットワーク検出時間を短縮するために役立つ設定があることに注意してください。

- [CDP Level] と [LLDP Level] : CDP または LLDP をディスカバリ方式として使用する場合は、CDP レベルまたは LLDP レベルを設定して、スキャンするシードデバイスからのホップ数を指定できます。デフォルトのレベル 16 では、大規模なネットワークの場合に時間がかかる可能性があります。そのため、検出する必要があるデバイスが少ない場合は、このレベルをより低い値に設定できます。
- [Prefix Length] : 検出方法として CIDR を使用する場合は、プレフィックス長の値を 20 ～ 30 の範囲で設定できます。デフォルト値は 30 です。
- [Subnet Filters] : IP アドレスの範囲を使用する場合は、特定の IP サブネット内のデバイスをディスカバリで無視するように指定できます。

- [Preferred Management IP] : CDP、LLDP、CIDR、または IP アドレスの範囲のいずれを使用する場合でも、Cisco DNA Center がデバイスの任意の IP アドレスを追加するか、デバイスのループバックアドレスのみを追加するかを指定できます。



-
- (注) Cisco SD-Access ファブリックおよび Cisco DNA Assurance については、デバイスのループバックアドレスを指定することをお勧めします。
-

どの方式を使用する場合でも、Cisco DNA Center からデバイスにアクセスできる必要があり、デバイスを検出するための特定のクレデンシャルとプロトコルを Cisco DNA Center で設定する必要があります。これらのログイン情報は、[Design] > [Network Settings] > [Device Credentials] ウィンドウで（または [Discovery] ウィンドウでジョブごとに）設定して保存することができます。



-
- (注) デバイスが Hot Standby Router Protocol (HSRP) や Virtual Router Redundancy Protocol (VRRP) などのファーストホップ解決プロトコルを使用する場合、そのデバイスは、そのフローティング IP アドレスによって検出され、インベントリに追加される可能性があります。その後、HSRP または VRRP に障害が発生すると、その IP アドレスが別のデバイスに割り当てなおされる場合があります。この場合、Cisco DNA Center が分析のために取得するデータによって問題が発生する可能性があります。
-

ディスカバリの前提条件

ディスカバリを実行する前に、次の最小要件を満たしてください。

- Cisco DNA Center によって検出されるデバイスの情報については、[Cisco DNA Center 互換性マトリクス](#)を参照してください。
- Cisco DNA Center とデバイス間の望ましいネットワーク遅延は 100 ミリ秒のラウンドトリップ時間 (RTT) であることに注意してください（最大遅延は 200 ミリ秒 RTT です）。
- Cisco DNA Center が使用できるように 1 つ以上の SNMP クレデンシャルがデバイス上で設定されていることを確認してください。少なくとも、これには SNMPv2C 読み取りクレデンシャルを使用できます。
- Cisco DNA Center に検出させ、管理委させるデバイスの SSH クレデンシャルを設定します。以下の基準のうち、少なくとも 1 つが満たされる場合、Cisco DNA Center はデバイスを検出し、そのインベントリに追加します。
 - デバイスへの SSH アクセスのために Cisco DNA Center が使用するアカウントが、特権 EXEC モード (レベル 15) である。

- ディスカバリ ジョブで設定される CLI クレデンシャルの一部としてデバイスのイネーブルパスワードを設定している。詳細については、[設定のガイドラインと制限事項のディスカバリ \(18 ページ\)](#) を参照してください。
- 匿名化を設定します。匿名化では、ホスト名とユーザ ID フィールドが暗号化 (スクランブル) されます。



重要 [Discovery] を実行した後にデータを匿名化した場合、システムに入ってくる新しいデータは匿名化されますが、既存のデータは匿名化されません。

優先管理 IP アドレス

Cisco DNA Center でデバイスが検出されると、デバイスの IP アドレスの 1 つが優先管理 IP アドレスとして使用されます。IP アドレスは、デバイスの組み込み管理インターフェイス、または別の物理インターフェイス、または Loopback0 のような論理インターフェイスの IP アドレスにすることができます。デバイスのループバック IP アドレスを優先管理 IP アドレスとして使用するために Cisco DNA Center を設定できます (その IP アドレスが Cisco DNA Center から到達可能である場合)。

優先管理 IP アドレスとして [Use Loopback IP] を選択した場合、Cisco DNA Center では次のように優先管理 IP アドレスが指定されます。

- デバイスに 1 つのループバック インターフェイスがある場合、Cisco DNA Center は、そのループバック インターフェイスの IP アドレスを使用します。
- デバイスに複数のループバック インターフェイスがある場合、Cisco DNA Center は、最上位の IP アドレスを持つループバック インターフェイスを使用します。
- ループバック インターフェイスがない場合、Cisco DNA Center は、最上位の IP アドレスを持つイーサネット インターフェイスを使用します (サブインターフェイスの IP アドレスは考慮されません)。
- イーサネット インターフェイスがない場合、Cisco DNA Center は、最上位の IP アドレスを持つシリアル インターフェイスを使用します

デバイスが検出された後に、**[Inventory]** ウィンドウから管理 IP アドレスを更新できます。

設定のガイドラインと制限事項のディスカバリ

Cisco DNA Center による Cisco Catalyst 3000 シリーズ スイッチおよび Catalyst 6000 シリーズ スイッチの検出に関する注意事項と制約事項は、次のとおりです。

- CLI ユーザ名およびパスワードは特権 EXEC モード (レベル 15) で設定してください。これらのログイン情報は、ディスカバリ機能に関して Cisco DNA Center で設定する CLI ユー

ザー名およびパスワードと同じです。Cisco DNA Center にはデバイスへの最高レベルのアクセス権が必要です。

- 着信接続と発信接続の両方に関して、個々のインターフェイスで許可されるトランスポートプロトコルを明示的に指定してください。この設定には、**transport input** と **transport output** コマンドを使用してください。これらのコマンドについては、各デバイスタイプ用のコマンドリファレンス ドキュメントを参照してください。
- デバイスのコンソールポートと VTY 回線のデフォルトのログイン方式を変更しないでください。デバイスがすでに AAA (TACACS) ログインで設定されている場合は、Cisco DNA Center で定義されている CLI ログイン情報が、TACACS サーバで定義されている TACACS ログイン情報と同じであることを確認してください。
- シスコワイヤレス コントローラは、サービスポート IP アドレスではなく、管理 IP アドレスを使用して検出する必要があります。それ以外の場合は、関連するワイヤレスコントローラ 360 および AP 360 のウィンドウでは、データが表示されません。

ディスカバリ クレデンシャル

ディスカバリ クレデンシャルは、検出するデバイスに関する CLI、SNMPv2c、SNMPv3、HTTP (HTTPS)、および NETCONF 設定値です。検出を試みるデバイスの種類に基づいてクレデンシャルを指定する必要があります。

- ネットワークデバイス：CLI と SNMP のクレデンシャル。



(注) 組み込みワイヤレスコントローラなどの NETCONF 対応デバイスについては、管理者権限で SSH クレデンシャルを指定し、NETCONF ポートを選択する必要があります。

- コンピューティングデバイス (NFVIS)：CLI、SNMP、および HTTP (S) のクレデンシャル。

ネットワーク内のさまざまなデバイスが異なるクレデンシャルセットを持つことが可能であるため、Cisco DNA Center で複数のクレデンシャルセットを設定できます。ディスカバリプロセスでは、デバイスに使用できるクレデンシャルセットが見つかるまで、ディスカバリジョブ用に設定されているすべてのセットで反復処理されます。

ネットワーク内の大半のデバイスに同じクレデンシャル値を使用する場合は、それらを設定して保存し、複数のディスカバリジョブで再利用できます。固有のクレデンシャルを使用するデバイスを検出するために、ディスカバリジョブの実行時にジョブ固有のディスカバリクレデンシャルを追加できます。クレデンシャルタイプごとに最大 10 のグローバルクレデンシャルを設定し、そのうちの 5 つを定義できます。ジョブ固有のログイン情報を定義する必要がある場合は、ログイン情報の種類ごとに 5 つのグローバルログイン情報と 1 つのジョブ固有のログイン情報を定義できます。

ディスカバリ クレデンシャル

ディスカバリ クレデンシャルを定義するには、メニューアイコンをクリックして選択[Tools]> [Discovery]> [Add Discovery]の順にクリックします。続行するには、次の手順とディスカバリ クレデンシャルを使用します。

- [CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#)
- [IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出 \(27 ページ\)](#)
- [LLDP を使用したネットワークの検出 \(29 ページ\)](#)

表 3: CLI クレデンシャル

フィールド	説明
Name/Description	CLI クレデンシャルを説明する名前または語句。 CLI の認証が失敗した場合、Cisco DNA Center は、認証プロセスを 300 秒 (5 分) 間再試行します。
Username	ネットワーク内のデバイスの CLI にログインするために使用する名前。
Password	ネットワーク内のデバイスの CLI にログインするために使用されるパスワード。 セキュリティ上の理由から、確認のためにパスワードを再入力します。 (注) パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。
Enable Password	CLI で高い権限レベルに移るために使用するパスワード。ネットワークデバイスで必要な場合にのみ、このパスワードを設定します。 セキュリティ上の理由から、有効なパスワードを再入力します。 (注) パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。

表 4: SNMPv2c のクレデンシャル

フィールド	説明
Read	<ul style="list-style-type: none"> • [Name/Description] : 追加している SNMPv2c 設定の名前または説明。 • [Read Community] : デバイスに SNMP 情報を表示する目的のみに使用される読み取り専用のコミュニティ文字列パスワード。 <p>(注) パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。</p>

フィールド	説明
Write	<ul style="list-style-type: none"> • [Name/Description] : 追加している SNMPv2c 設定の名前または説明。 • [Write Community] : デバイス上の SNMP 情報を変更するために使用される書き込みコミュニティ文字列。 <p>(注) パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。</p>

表 5: SNMPv3 のクレデンシャル

フィールド	説明
Name/Description	追加した SNMPv3 設定の名前または説明。
Username	SNMPv3 設定に関連付けられている名前。
Mode	SNMP メッセージを必要とするセキュリティ レベル。次のいずれかのモードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Authentication and Privacy] : 認証と暗号化の両方を行います。 • [Authentication, No Privacy] : 認証は行いますが、暗号化は行いません。 • [No Authentication, No Privacy] : 認証も暗号化も行いません。
Auth. Type	使用する認証タイプ ([Mode] として [Authentication and Privacy] または [Authentication, No Privacy] を選択した場合に有効になります)。次のいずれかの認証タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [SHA] : HMAC-SHA に基づく認証。 • [MD5 (not recommended)] : HMAC-MD5 に基づく認証。
Auth. Password	SNMPv3 を使用するデバイスから情報にアクセスする際に使用する SNMPv3 パスワード。これらのパスワード (またはパスフレーズ) は、8 文字以上にする必要があります。 <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一部のシスコ ワイヤレス コントローラでは、パスワード (あるいはパスフレーズ) は少なくとも 12 文字以上である必要があります。ワイヤレス コントローラのパスワードの最小要件を必ず確認してください。パスワードに必要な最低限の文字数が守られないと、デバイスでは Cisco DNA Center による検出、監視、管理が行われなくなります。 • パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。

フィールド	説明
Privacy Type	<p>プライバシー タイプ。 ([Mode] として [Authentication and Privacy] を選択した場合に有効になります)。 次のいずれかのプライバシー タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AES128 : 暗号化の 128 ビット CBC モード AES。 • CISCOAES192 : シスコのデバイス上での暗号化の 192 ビット CBC モード AES。 • CISCOAES256 : シスコのデバイス上での暗号化の 256 ビット CBC モード AES。 <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 検出機能とインベントリ機能の使用は、プライバシータイプ CISCOAES192 および CISCOAES256 のみでサポートされています。アシュアランス 機能はサポートされていません。 • プライバシータイプ AES128 は、検出、インベントリ、およびアシュアランスでサポートされています。
Privacy Password	<p>暗号化の標準規格をサポートしているデバイスで交換されるメッセージを暗号化するための秘密鍵を生成するために使用される SNMPv3 プライバシーパスワード。パスワード (またはパスフレーズ) は、8 文字以上にする必要があります。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一部のシスコ ワイヤレス コントローラでは、パスワード (あるいはパスフレーズ) は少なくとも 12 文字以上である必要があります。ワイヤレスコントローラのパスワードの最小要件を必ず確認してください。パスワードに必要な最低限の文字数が守られないと、デバイスではCisco DNA Centerによる検出、監視、管理が行われなくなります。 • パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。

表 6: SNMP のプロパティ

フィールド	説明
Retries	Cisco DNA Centerが SNMP を使用してネットワークデバイスとの通信を試行する回数。
Timeout (in Seconds)	再試行の時間間隔 (秒単位)。

表 7: HTTPS クレデンシャル

フィールド	説明
Type	設定している HTTPS クレデンシャルのタイプを指定します。有効なタイプは、[Read] または [Write] です。
Read	<p>最大 10 つの HTTPS 読み取りクレデンシャルを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Name/Description] : 追加している HTTPS ログイン情報の名前または説明。 • [Username] : HTTPS 接続の認証に使用される名前です。 • [Password] : HTTPS 接続の認証に使用されるパスワードです。パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。 • [Port] : HTTPS トラフィックに使用される TCP/UDP ポートの番号です。デフォルトはポート番号 443 (HTTPS の既知のポート) です。 <p>パスワードは 7 ~ 128 文字で指定します。次から少なくとも 1 つずつ使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小文字の英字 (a ~ z) • 大文字の英字 (A ~ Z) • 数字 (0 ~ 9) • 特殊文字 (: # _ * ?) - <p>パスワードにスペースや山カッコ (<>) は使用できません。一部の Cisco IOS XE デバイスでは、疑問符 (?) を使用できないので注意してください。</p>

フィールド	説明
Write	<p>最大 10 つの HTTPS 書き込みクレデンシャルを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Name/Description] : 追加している HTTPS ログイン情報の名前または説明。 • [Username] : HTTPS 接続の認証に使用される名前です。 • [Password] : HTTPS 接続の認証に使用されるパスワードです。パスワードはセキュリティ上の理由から暗号化されており、この設定では表示されません。 • [Port] : HTTPS トラフィックに使用される TCP/UDP ポートの番号です。デフォルトはポート番号 443 (HTTPS の既知のポート) です。 <p>パスワードは 7 ~ 128 文字で指定します。次から少なくとも 1 つずつ使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小文字の英字 (a ~ z) • 大文字の英字 (A ~ Z) • 数字 (0 ~ 9) • 特殊文字 (: # _ * ?) - <p>パスワードにスペースや山カッコ (<>) は使用できません。一部の Cisco IOS XE デバイスでは、疑問符 (?) を使用できないので注意してください。</p>

表 8: NETCONF 設定

フィールド	説明
Port	<p>デバイスのポート。次のいずれかのポートを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポート 830 (デフォルト) • デバイスで使用可能なその他のポート • Cisco DNA Center で構成するカスタムポート。(デバイス可制御性が有効になっている場合のみ、カスタムポートを使用できます詳細については、Cisco DNA Center 管理者ガイドの「Device Controllability」の項を参照してください) <p>NETCONF の認証に失敗した場合、Cisco DNA Center は認証プロセスを 300 秒 (5 分) 間再試行します。</p>

CDP を使用したネットワークの検出

Cisco Discovery Protocol (CDP)、IP アドレス範囲、CIDR または LLDP を使用してデバイスを検出できます。この手順では、CDP を使用してデバイスとホストを検出する方法を示します。ディスカバリメソッドの詳細については、[IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワー](#)

クの検出 (27 ページ) および LLDP を使用したネットワークの検出 (29 ページ) を参照してください。



- (注)
- ディスカバリ機能では、正しい SNMP 読み取り専用 (RO) コミュニティストリングが必要です。SNMP RO コミュニティストリングが指定されていない場合、ベストエフォートとして、ディスカバリ機能はデフォルトの SNMP RO コミュニティストリングを公的に使用します。
 - CLI ログイン情報はホストの検出には必要ありません。ホストは接続されているネットワークデバイスを介して検出されます。

始める前に

- ネットワークデバイスで CDP を有効にします。
- [ディスカバリの前提条件 \(17 ページ\)](#) で説明されているように、ネットワークデバイスを設定します。
- クライアント IP アドレスとしてネットワークデバイスのホストの IP アドレスを設定します。(A host is an end-user device, such as a laptop computer or mobile device.)

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します: [Tools] > [Discovery]。


ステップ 2 [Discovery] ウィンドウで、[Add Discovery] をクリックします。

ステップ 3 [Let's Get Ready] ウィンドウで、[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Discover Devices] ウィンドウで、次のフィールドに入力します。

- a) 検出ジョブの名前を入力します。
- b) [Discovery Type] で、[CDP] を選択します。
- c) [IP アドレス (IP Address)] フィールドでシード IP アドレスを入力し、Cisco DNA Center でディスカバリ スキャンを開始します。
- d) (任意) [サブネットフィルタ (Subnet Filter)] フィールドで、ディスカバリ スキャンから除外する IP アドレスまたはサブネットを入力します。

個別の IP アドレス (x.x.x.x) または Classless Inter-Domain Routing (CIDR) アドレス (x.x.x.x/y) としてアドレスを入力できます。ここで x.x.x.x は IP アドレスを示し、y はサブネットマスクを示します。サブネットマスクは、0 ~ 32 の値です。

- e)  をクリックします。

手順 d および e を繰り返して、ディスカバリジョブから複数のサブネットを除外します。

- f) (任意) [CDP レベル (CDP Level)] フィールドに、スキャンするシードデバイスからのホップ数を入力します。

有効値は 1 ～ 16 です。デフォルト値は 16 です。たとえば、CDP レベル 3 は、CDP がシードデバイスから最大 3 つのホップまでスキャンすることを意味します。

g) [Preferred Management IP] で、次のいずれかのオプションを選択します。

- [None] : デバイスはすべての IP アドレスを使用できます。
- [Use Loopback IP] : デバイスのループバックインターフェイスの IP アドレスを指定します。

(注) [ループバック IP を使用 (Use Loopback IP)] の使用を選択し、デバイスにループバックインターフェイスがない場合、Cisco DNA Center は **優先管理 IP アドレス (18 ページ)** で説明されているロジックを使用して、管理 IP アドレスを選択します。

(注) ループバック インターフェイスの IP アドレスを優先管理 IP アドレスとして使用するには、CDP ネイバーの IP アドレスが Cisco DNA Center から到達可能であることを確認します。

ステップ 5 [Provide Credentials] ウィンドウで、少なくとも 1 つの CLI ログイン情報と 1 つの SNMP ログイン情報を入力します。このログイン情報は、Cisco DNA Center によって検出されたデバイスに対して構成されます。最大 5 つのグローバルログイン情報、およびタイプごとに 1 つのタスク固有のログイン情報を使用できます。詳細については、**ディスカバリ クレデンシャル (19 ページ)** を参照してください。

ステップ 6 [Advanced Settings] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) [Protocol Order] : [SSH] または [Telnet] を選択します。両方を選択した場合は、プロトコルを上下にドラッグして、使用する順序を指定できます。
- b) [SNMP Polling Properties] を構成します。[Network Settings] > [Device Credentials] ウィンドウで定義されたグローバル SNMP ポーリングプロパティを使用するか、この検出インスタンス用に変更します。

ステップ 7 [Assign Devices to Site] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

- [Assign devices to an existing site] : [Search Hierarchy] 検索フィールドまたはフィルタアイコンを使用して、サイト、ビルディング、またはエリアを見つけます。
- [Assign devices to a new site] : [Already have an area] オプションボタンまたは [Create a new area] ラジオボタンをクリックし、必須フィールドに入力します。
- [Skip site assignment for now] : 後でデバイスをインベントリからサイトに割り当てる場合は、このオプションを使用します。

ステップ 8 [Schedule Job] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) トグルボタンをクリックして、[Discover new devices only] オプションを有効または無効にします。
- b) [Now] をクリックしてデバイスの検出をすぐに開始するか、[Later] をクリックしてデバイスの検出を特定の時間にスケジュールします。

[Daily] または [Weekly] の繰り返しオプションを選択すると、[Discover new devices only] オプションは無効になります。

ステップ 9 [Summary] ウィンドウで、設定を確認します。変更するには、[Edit] をクリックします。

ステップ 10 [Start Discovery] をクリックします。


[Activities] ウィンドウでタスクのステータスを確認できます。


IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出

IP アドレス範囲、CIDR、CDP、または LLDP を使用してデバイスを検出できます。この手順では、IP アドレス範囲または CIDR を使用してデバイスとホストを検出する方法を示します。ディスカバリ メソッドの詳細については、[CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#) および [LLDP を使用したネットワークの検出 \(29 ページ\)](#) を参照してください。

始める前に

[ディスカバリの前提条件 \(17 ページ\)](#) で説明されているように、デバイスには必須のデバイス設定が存在する必要があります。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Tools] > [Discovery]**。
- ステップ 2** [Discovery] ウィンドウで、[Add Discovery] をクリックします。
- ステップ 3** [Let's Get Ready] ウィンドウで、[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Discover Devices] ウィンドウで、次のフィールドに入力します。
- 検出ジョブの名前を入力します。
 - [Discovery Type] で、[IP Address/Range] を選択します。
 - [IP Address/Range] 検出タイプを選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [From] フィールドと [To] フィールドに、スキャンする Cisco DNA Center の最初の IP アドレスと最後の IP アドレス (IP アドレス範囲) を入力し、 をクリックします。
検出スキャンに対して、単一の IP アドレス範囲または複数の IP アドレスを入力できます。
(注) Cisco ワイヤレス コントローラは、サービス ポート IP アドレスではなく、管理 IP アドレスを使用して検出する必要があります。それ以外の場合は、関連するワイヤレス コントローラ 360 および AP 360 のページでは、データが表示されません。
 - (オプション) 前のステップを繰り返して、追加の IP アドレス範囲を入力します。
- d) [CIDR] 検出タイプを選択した場合は、次の手順を実行します。
- [IP Address] フィールドに Cisco DNA Center のシード IP アドレスを入力し、ディスカバリ スキャンを開始します。
 - (オプション) [Subnet Filter] フィールドに、ディスカバリ スキャンから除外する IP アドレスまたはサブネットを入力します。
個別の IP アドレス (x.x.x.x) または Classless Inter-Domain Routing (CIDR) アドレス (x.x.x.x/y) としてアドレスを入力できます。ここで x.x.x.x は IP アドレスを示し、y はサブネットマスクを示します。サブネットマスクは、0 ~ 32 の値です。

3.  をクリックします。

前のステップを繰り返して、検出ジョブから複数のサブネットを除外します。

4. [Prefix Length] フィールドに、プレフィックス長の値を入力します。有効な値の範囲は 20 ~ 30 です。

- e) [Preferred Management IP] で、次のいずれかのオプションを選択します。

- [None] : デバイスはすべての IP アドレスを使用できます。
- [Use Loopback IP] : デバイスのループバックインターフェイスの IP アドレスを指定します。

(注) [ループバック IP を使用 (Use Loopback IP)] の使用を選択し、デバイスにループバックインターフェイスがない場合、Cisco DNA Center は [優先管理 IP アドレス \(18 ページ\)](#) で説明されているロジックを使用して、管理 IP アドレスを選択します。

ステップ 5 [Provide Credentials] ウィンドウで、少なくとも 1 つの CLI ログイン情報と 1 つの SNMP ログイン情報を入力します。このログイン情報は、Cisco DNA Center によって検出されたデバイスに対して構成されます。最大 5 つのグローバルログイン情報、およびタイプごとに 1 つのタスク固有のログイン情報を使用できます。詳細については、[ディスカバリ クレデンシャル \(19 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 [Advanced Settings] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) [Protocol Order] : [SSH] または [Telnet] を選択します。両方を選択した場合は、プロトコルを上下にドラッグして、使用する順序を指定できます。
- b) [SNMP Polling Properties] を構成します。[Network Settings] > [Device Credentials] ウィンドウで定義されたグローバル SNMP ポーリングプロパティを使用するか、この検出インスタンス用に変更します。

ステップ 7 [Assign Devices to Site] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

- [Assign devices to an existing site] : [Search Hierarchy] 検索フィールドまたはフィルタアイコンを使用して、サイト、ビルディング、またはエリアを見つけます。
- [Assign devices to a new site] : [Already have an area] オプションボタンまたは [Create a new area] ラジオボタンをクリックし、必須フィールドに入力します。
- [Skip site assignment for now] : 後でデバイスをインベントリからサイトに割り当てる場合は、このオプションを使用します。

ステップ 8 [Schedule Job] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) トグルボタンをクリックして、[Discover new devices only] オプションを有効または無効にします。
- b) [Now] をクリックしてデバイスの検出をすぐに開始するか、[Later] をクリックしてデバイスの検出を特定の時間にスケジュールします。

[Daily] または [Weekly] の繰り返しオプションを選択すると、[Discover new devices only] オプションは無効になります。

ステップ 9 [Summary] ウィンドウで、設定を確認します。変更するには、[Edit] をクリックします。

ステップ 10 [Start Discovery] をクリックします。

[Activities] ウィンドウでタスクのステータスを確認できます。

LLDP を使用したネットワークの検出

Link Layer Discovery Protocol (LLDP)、CDP、CIDR、または IP アドレス範囲を使用してデバイスを検出できます。この手順では、LLDP を使用してデバイスとホストを検出する方法を示します。ディスカバリ メソッドの詳細については、[CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#) および [IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出 \(27 ページ\)](#) を参照してください。



- (注)
- ディスカバリ機能では、正しい SNMP 読み取り専用 (RO) コミュニティストリングが必要です。SNMP RO コミュニティストリングが指定されていない場合、ベストエフォートとして、ディスカバリ機能はデフォルトの SNMP RO コミュニティストリングを公的に使用します。
 - CLI ログイン情報はホストの検出には必要ありません。ホストは接続されているネットワークデバイスを介して検出されます。

始める前に

- ネットワークデバイスで LLDP を有効にします。
- [ディスカバリの前提条件 \(17 ページ\)](#) で説明されているように、ネットワークデバイスを設定します。
- クライアント IP アドレスとしてネットワークデバイスのホストの IP アドレスを設定します。(A host is an end-user device, such as a laptop computer or mobile device.)

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します: [Tools] > [Discovery]。


ステップ 2 [Discovery] ウィンドウで、[Add Discovery] をクリックします。

ステップ 3 [Let's Get Ready] ウィンドウで、[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Discover Devices] ウィンドウで、次のフィールドに入力します。

- a) 検出ジョブの名前を入力します。
- b) [Discovery Type] で、[LLDP] を選択します。
- c) [IP アドレス (IP Address)] フィールドでシード IP アドレスを入力し、Cisco DNA Center でディスカバリ スキャンを開始します。
- d) (任意) [サブネットフィルタ (Subnet Filter)] フィールドで、ディスカバリ スキャンから除外する IP アドレスまたはサブネットを入力します。

個別の IP アドレス ($x.x.x.x$) または Classless Inter-Domain Routing (CIDR) アドレス ($x.x.x.x/y$) としてアドレスを入力できます。ここで $x.x.x.x$ は IP アドレスを示し、 y はサブネットマスクを示します。サブネット マスクは、0 ~ 32 の値です。

- e)  をクリックします。

手順 c および d を繰り返して、ディスカバリ ジョブから複数のサブネットを除外します。

- f) (任意) [LLDP レベル (LLDP Level)] フィールドで、スキャンするシードデバイスからのホップ数を入力します。

有効値は 1 ~ 16 です。デフォルト値は 16 です。たとえば、LLDP レベル 3 は、LLDP がシードデバイスから最大 3 つのホップをスキャンすることを意味します。

- g) [Preferred Management IP] で、次のいずれかのオプションを選択します。

- [None] : デバイスはすべての IP アドレスを使用できます。
- [Use Loopback IP] : デバイスのループバックインターフェイスの IP アドレスを指定します。

(注) このオプションを選択し、デバイスにループバック インターフェイスがない場合、Cisco DNA Center は **優先管理 IP アドレス (18 ページ)** で説明されているロジックを使用して、管理 IP アドレスを選択します。

(注) ループバック インターフェイスの IP アドレスを優先管理 IP アドレスとして使用するには、LLDP ネイバーの IP アドレスが Cisco DNA Center から到達可能であることを確認します。

ステップ 5 [Provide Credentials] ウィンドウで、少なくとも 1 つの CLI ログイン情報と 1 つの SNMP ログイン情報を入力します。このログイン情報は、Cisco DNA Center によって検出されたデバイスに対して構成されます。最大 5 つのグローバルログイン情報、およびタイプごとに 1 つのタスク固有のログイン情報を使用できます。詳細については、**ディスカバリ クレデンシャル (19 ページ)** を参照してください。

ステップ 6 [Advanced Settings] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) [Protocol Order] : [SSH] または [Telnet] を選択します。両方を選択した場合は、プロトコルを上下にドラッグして、使用する順序を指定できます。
- b) [SNMP Polling Properties] を構成します。[Network Settings] > [Device Credentials] ウィンドウで定義されたグローバル SNMP ポーリングプロパティを使用するか、この検出インスタンス用に変更します。

ステップ 7 [Assign Devices to Site] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。



- [Assign devices to an existing site] : [Search Hierarchy] 検索フィールドまたはフィルタアイコンを使用して、サイト、ビルディング、またはエリアを見つけます。
- [Assign devices to a new site] : [Already have an area] オプションボタンまたは [Create a new area] ラジオボタンをクリックし、必須フィールドに入力します。
- [Skip site assignment for now] : 後でデバイスをインベントリからサイトに割り当てる場合は、このオプションを使用します。

- ステップ 8** [Schedule Job] ウィンドウで、次の手順を実行します。
- トグルボタンをクリックして、[Discover new devices only] オプションを有効または無効にします。
 - [Now] をクリックしてデバイスの検出をすぐに開始するか、[Later] をクリックしてデバイスの検出を特定の時間にスケジュールします。
- [Daily] または [Weekly] の繰り返しオプションを選択すると、[Discover new devices only] オプションは無効になります。
- ステップ 9** [Summary] ウィンドウで、設定を確認します。変更するには、[Edit] をクリックします。
- ステップ 10** [Start Discovery] をクリックします。
- [Activities] ウィンドウでタスクのステータスを確認できます。

ディスカバリ ジョブの管理

ここでは、ディスカバリジョブの管理方法について説明します。

ディスカバリ ジョブの停止および開始


- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Tools] > [Discovery]。
- ステップ 2** アクティブなディスカバリジョブを停止するには、[Actions] 列の省略記号アイコン () にカーソルを合わせ、[Stop Discovery] を選択します。
- ステップ 3** 非アクティブなディスカバリジョブを再開するには、[Actions] 列の省略記号アイコン () にカーソルを合わせ、[Re-discover] を選択します。

ディスカバリ ジョブの複製

ディスカバリジョブを複製し、そのジョブ用に定義されているすべての情報を保持できます。

始める前に

少なくとも 1 つのディスカバリジョブを実行します。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Tools] > [Discovery]。
- ステップ 2** ディスカバリジョブをコピーするには、[Actions] 列の省略記号アイコン () の上にカーソルを置き、[Copy & Edit] を選択します。
- Cisco DNA Center では、「Clone of *Discovery_Job*」という名前でディスカバリジョブのコピーが作成されます。


ステップ3 (任意) ディスカバリジョブの名前を変更するには、[Discovery Name] フィールドのデフォルト名を新しい名前に置き換えます。

ステップ4 新しいディスカバリ ジョブのパラメータを定義または更新します。

ディスカバリ ジョブの削除

アクティブまたは非アクティブに関係なく、検出ジョブを削除できます。

ステップ1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Tools] > [Discovery]。

ステップ2 ディスカバリジョブを削除するには、[Actions] 列の省略記号アイコン () の上にカーソルを置き、[Delete] を選択します。

ステップ3 [OK] をクリックして確定します。

ディスカバリ ジョブ情報の表示

使用された設定やクレデンシャルなどの、ディスカバリ ジョブに関する情報を表示できます。実行された各ディスカバリジョブに関する履歴情報 (検出されたデバイスや検出に失敗したデバイスに関する情報など) も表示できます。

始める前に

少なくとも1つのディスカバリジョブを実行します。

ステップ1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Tools] > [Discovery]。

ステップ2 [Discovery] ウィンドウで、[All discoveries page from previous release] をクリックします。

ステップ3 左の [Discoveries] ペインで、ディスカバリジョブを選択します。もしくは、[Search] 機能を使用して、デバイス IP アドレスまたは名前によって、ディスカバリ ジョブを検索できます。

ステップ4 詳細については、次の領域のひとつの隣にある下矢印をクリックします。

- [Discovery Details] : ディスカバリジョブを実行するために使用されたパラメータが表示されます。パラメータには、CDP または LLDP レベル、IP アドレス範囲、およびプロトコルの順序などの属性が含まれます。
- [Credentials] : 使用されたログイン情報の名前が提供されます。
- [History] : 開始された時間およびデバイスが検出されたかどうかを含め、実行された各ディスカバリジョブがリストされます。

組み込みワイヤレスコントローラを正常に検出するには、NETCONF ポートを設定する必要があります。NETCONF ポートが設定されていない場合、ワイヤレスデータは収集されません。

[Filter]機能を使用して、IPアドレスあるいはICMP、CLI、HTTPS、NETCOMF 値の任意の組み合わせによってデバイスを表示できます。

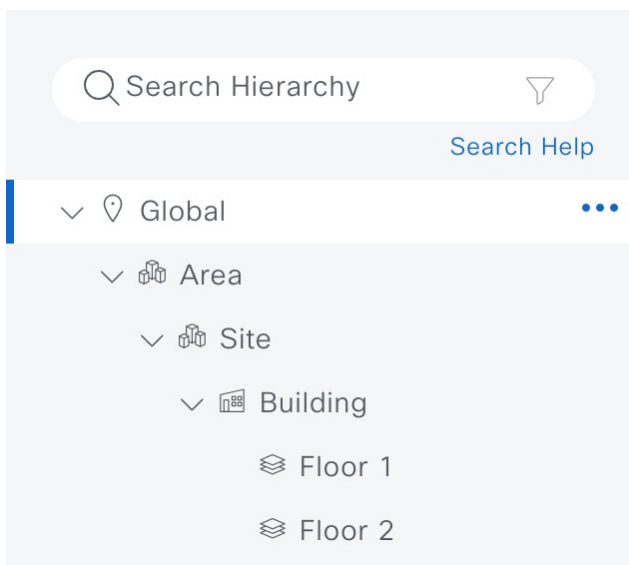
ネットワーク階層の設計


ネットワークの地理的な場所を表すネットワーク階層を作成できます。この階層構造により、デザインの設定や構成を特定の階層要素に簡単に適用できます。たとえば、デザインの設定をエリア全体に適用したり、床のみに適用したりすることができます。



デザインの設定を適用する場所を後で識別できるように、階層要素に名前を付けることができます。

作成できる階層要素には、その階層要素をどの要素に配置できるか、またどの要素をその階層要素に配置できるかを指定するルールがあります。次の図と説明を参照してください。

図 5: ネットワーク階層



- [Global] : 他のすべての階層要素がその中に存在するデフォルトの要素。[Global]の直下に配置できる要素は、エリアまたはサイトのみです。
- [Areas] と [Sites] () : エリア (Area) とサイト (Site) は、[Global] または他のエリアやサイトに存在します。エリアとサイトには物理アドレスがありません。最大の要素として、地理的地域を識別します。これらは、エリアまたはサイトをグループ化する方法を提供します。

- [Buildings] () : 建物 (Building) は、エリアまたはサイトに存在します。建物を作成する場合、物理アドレスまたは緯度と経度の座標を指定します。建物にエリアを含めることはできません。ただし、フロアを含めることはできます。
- [Floors] () : フロア (Floor) は建物に存在します。壁や窓など、建物のさまざまなコンポーネントを含むマップの有無にかかわらず、建物にフロアを追加できます。フロアマップを使用する場合は、手動で作成するか、DXF、DWG、JPG、GIF、PNG、または PDF を含むファイルタイプのファイルからインポートできます。次に、ワイヤレスデバイスをフロアマップに配置して、ワイヤレスネットワークのカバレッジを視覚化できます。
プロビジョニングされていないデバイスのサイト階層は、フロアマップ上の AP の場所を維持したまま変更できます。ただし、既存のフロアを別の建物に移動できないことに注意してください。
- [Outdoor Areas] : 屋外エリア (Outdoor Area) は、[Global] またはエリアやサイトに配置できます。フロアと同様、屋外エリアはマップの有無にかかわらず追加できます。マップを使用する場合は、手動で作成するか、DXF、DWG、JPG、GIF、PNG、または PDF を含むファイルタイプのファイルからインポートできます。次に、ワイヤレスデバイスをマップに配置して、ワイヤレスネットワークのカバレッジを視覚化できます。
また、フロアと同様に、既存の屋外エリアをあるサイトから別のサイトに、または[Global] からサイトに移動させることはできません。

開始するには、次のいずれかの方法を使用してネットワーク階層を構築します。

- 新しいネットワーク階層を作成する。詳細については、「[新しいネットワーク階層の作成 \(34 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco Prime Infrastructure または Ekahau Pro から既存のネットワーク階層をインポートする。詳細については、「[既存の Cisco ネットワーク階層の使用 \(38 ページ\)](#)」または「[既存の Ekahau ネットワーク階層の使用 \(41 ページ\)](#)」を参照してください。

新しいネットワーク階層の作成

新しいサイト (またはエリア)、建物、およびフロアを作成して、新しいネットワーク階層を作成します。

サイトの作成、編集、削除

Cisco DNA Center では、物理サイトを簡単に定義し、それらのサイトの共有リソースを特定することができます。[Design] エリアは、直観的な操作のために階層型になっており、デバイスをプロビジョニングするときに同じリソースを複数の場所で再定義する必要がありません。デフォルトでは、**グローバル**と呼ばれる1つのサイトがあります。ネットワーク階層には、複数のサイト、ビルディング、およびエリアを追加できます。プロビジョニング機能を使用する前に、少なくとも1つのサイトを作成する必要があります。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。

世界地図が右側のペインに表示されます。

ステップ 2 このウィンドウから、サイトを追加、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
サイトを追加します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. マップツールバーから、[+Add Site]>[Add Area] をクリックします。 または、左側のペインで親サイトの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせ、[Add Area] を選択することもできます。 2. [Area Name] フィールドに、サイト名を入力します。 [Area Name] フィールドには、次の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • エリア名は 40 文字までです。 • 特殊文字 (& < > ? ' " / []) は使用できません。 3. [Parent] ドロップダウンリストから、親ノードを選択します。[Global] がデフォルトの親ノードです。 4. [Add] をクリックします。
サイトを編集します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左側のペインで、サイトの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせて、[Edit Area] を選択します。 2. [Edit Area] ダイアログボックスで、必要な編集を行います。 3. [更新 (Update)] をクリックします。
サイトを削除します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左側のペインで、サイトの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせて、[Delete Area] を選択します。 2. [OK] をクリックします。

ビルディングの追加、編集、および削除

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。

ステップ 2 このウィンドウから、ビルディングを追加、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
ビルディングを追加します。	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="621 296 1477 464">1. [Network Hierarchy] ウィンドウで、[+Add Site] > [Add Building] をクリックします。 または、左側のペインで親サイトの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせ、[Add Building] を選択することもできます。 <li data-bbox="621 474 1477 716">2. [Add Building] ダイアログボックスでビルディングの詳細を追加します。 [Building Name] フィールドには、次の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="703 621 1036 653">• 建物名は 40 文字までです。 <li data-bbox="703 674 1260 705">• 特殊文字 (&><?'"/[]) は使用できません。 フィールドに住所を入力するか、マップをクリックできます。住所を追加すると、[Longitude] および [Latitude] の座標フィールドが自動的に設定されます。この座標はビルディングの北西角を意味し、Cisco DNA Center と統合されている場合は、Cisco Spaces や Cisco Connected Mobile Experiences (CMX) などのロケーションサービスで使用されます。 <li data-bbox="621 978 954 1010">3. [Add] をクリックします。
ビルディングを編集します。	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="621 1056 1477 1129">1. 左側のペインで、サイトの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせて、[Edit Building] を選択します。 <li data-bbox="621 1150 1406 1182">2. [Edit Building] ダイアログボックスで、必要な編集を行います。 <li data-bbox="621 1203 1097 1234">3. [更新 (Update)] をクリックします。
ビルディングを削除します。	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="621 1276 1477 1350">1. 左側のペインで、ビルディングの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせて、[Delete Building] を選択します。 <li data-bbox="621 1371 954 1402">2. [OK] をクリックします。

フロアの追加、編集、および削除

ビルディングを追加したら、それにフロアを追加できます。フロアマップのない基本フロアを追加してフロアマップを後から追加することも、フロアを追加すると同時にフロアマップを含めることもできます。

建物に基本フロアを追加するには、次の手順を使用します。

フロアとフロアマップを同時に追加するには、[Cisco DNA Center ユーザーガイド](#)を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。

ステップ 2 このウィンドウから、フロアを追加、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
基本フロアの追加	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左側のペインで、建物の横にある省略記号 ... の上にカーソルを置き、[Add Floor] を選択します。 2. [Floor Name] フィールドにフロアの名前を入力します。 [Floor Name] フィールドには、次の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> • フロア名は 40 文字までです。 • 特殊文字 (& < ? ' " / []) は使用できません。 3. [Global Unit System] エリアで、[Feet] または [Meters] を選択します。 フロアが追加されると、すべてのサイトの全フロアが同期され、選択した単位系ですべての測定値が表示されます。グローバル単位系を更新するには、Cisco DNA Center ユーザガイドの「2D Map View Options」を参照してください。 4. ワイヤレスデバイスがある場合、[Type (RF Model)] ドロップダウンリストで、フロアに適用する RF モデルを選択します。 RF モデルにより、カバレッジエリア内の RF 信号の相対強度を示す 2D および 3D ヒートマップを計算するときの RF の計算方法が決まります。 5. [Floor Number]、[Floor Type]、および [Thickness] フィールドを設定します。 フロアのタイプと厚さは、ワイヤレスデバイスのヒートマップを計算するときに使用されます。 6. [Floor Image] エリアでのフロアマップイメージのアップロードをスキップします。 7. [Width]、[Length]、および [Height] フィールドでマップの寸法を設定します。 8. [Add] をクリックします。
フロアの編集	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左側のペインで、そのフロアの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせて、[Edit Floor] を選択します。 2. [Edit Floor] ダイアログボックスで、必要な変更を行います。 3. [更新 (Update)] をクリックして変更を保存します。

アクション	手順
フロアの削除	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左側のペインで、そのフロアの横にある省略記号 ... にカーソルを合わせて、[Delete Floor] を選択します。 2. [OK] をクリックします。

既存の Cisco ネットワーク階層の使用

Cisco Prime Infrastructure に既存のネットワーク階層がある場合は、エクスポートしてから Cisco DNA Center にインポートすることで、新しいネットワーク階層の作成に費やす時間と労力を削減できます。

次の情報を使用して、ネットワーク階層を再作成できます。

- **サイト階層** : 既存のサイト階層を CSV ファイル形式でダウンロードします。CSV ファイルには、サイト名、親階層、フロア数、場所、サイトアドレスなどの詳細が含まれています。
- **マップアーカイブ** : マップ情報を TAR ファイル形式のマップアーカイブとしてダウンロードします。マップアーカイブファイルには、日時、フロアの数、AP などのデータが格納されます。ダウンロードするものに応じて、マップアーカイブには、フロアの寸法（長さ、幅、高さ）や、フロアマップに配置されている AP およびオーバーレイオブジェクトに関する詳細などのマップ情報も含めることができます。各フロアに適用されている RF 減衰モデルなどのキャリブレーション情報をダウンロードすることもできます。

マップアーカイブの基礎をグローバル階層に置くか、次のように単一のサイト、建物、またはフロアの階層に置くかを選択できます。

- [Site] : 選択したサイトとそのすべてのサブサイト、建物、およびフロアがエクスポートされます。
- [Building] : 選択した建物とそのすべてのフロアがエクスポートされます。
- [Floor] : 選択したフロアがエクスポートされます。



(注) Cisco DNA Center は米国の連邦情報処理標準 (FIPS) をサポートしています。FIPS は、Cisco DNA Center イメージのインストール時に有効にできるオプションのモードです。デフォルトでは、FIPS モードはディセーブルです。

FIPS モードは、マップアーカイブのエクスポートとインポートに次の影響を与えます。

FIPS モードが有効な場合 :

- エクスポートされるマップアーカイブは暗号化されません。
- 暗号化されていないマップアーカイブのみをインポートできます。

FIPS モードが無効な場合：

- エクスポートされるマップアーカイブは暗号化されます。
- 暗号化されたマップアーカイブと暗号化されていないマップアーカイブの両方をインポートできます。

詳細については、[Cisco DNA Center ユーザガイド](#)を参照してください。

Cisco Prime Infrastructure からのサイト階層のエクスポート

Cisco Prime Infrastructure からサイト階層を CSV ファイル形式でエクスポートできます。CSV ファイルには、サイト名、親階層、フロア数、場所、サイトアドレスなどの詳細が含まれています。

サイト階層のエクスポートは Cisco Prime Infrastructure リリース 3.2 以降でサポートされます。

-
- ステップ 1** Cisco Prime Infrastructure で、**[Inventory] > [Group Management] > [Network Device Groups]** の順に選択します。
 - ステップ 2** [Device Groups] ウィンドウで、**[Export Groups]** をクリックします。
 - ステップ 3** [Export Groups] ダイアログボックスで、**[APIC-EM]** オプションボタンをクリックします。
 - ステップ 4** CSV ファイルをダウンロードするには、**[OK]** をクリックします。
-

Cisco Prime Infrastructure からのマップアーカイブのエクスポート

Cisco Prime Infrastructure からマップアーカイブファイルをエクスポートし、それらを Cisco DNA Center にインポートできます。マップアーカイブには、フロア寸法などのマップ情報と Cisco Prime Infrastructure の各フロアに適用されている無線周波数 (RF) 減衰モデルなどのキャリブレーション情報が含まれています。

-
- ステップ 1** Cisco Prime Infrastructure GUI から、**[Maps] > [Wireless Maps] > [Site Maps (New)]** の順に選択します。
 - ステップ 2** **[エクスポート (Export)]** ドロップダウンリストから **[マップアーカイブ (Map Archive)]** を選択します。
[Export Map Archive] ウィンドウが開き、デフォルトで **[Select Sites]** ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3** エクスポートする特定のサイト、キャンパス、ビルディング、またはフロアの横にあるチェックボックスをオンにします。すべてのマップをエクスポートする場合は、**[Select All]** チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4** 次のオプションの少なくとも 1 つを選択します。

- [Map Information] : [On] ボタンをクリックして、フロアの寸法（長さ、幅、高さ）と、フロアマップに配置された AP およびオーバーレイオブジェクトに関する詳細をエクスポートします。
- [Calibration Information] : [On] ボタンをクリックして、各フロアに適用されている RF 減衰モデルをエクスポートします。既存のキャリブレーションデータを Cisco Prime Infrastructure からエクスポートすることをお勧めします。それ以外の場合は、キャリブレーションの詳細を手動で再入力する必要があります。

キャリブレーション情報を含めることを選択した場合は、次のように、選択したマップの情報を含めるか、すべての情報を含めるかを指定する必要があります。

- [Calibration Information for selected maps] : 選択したサイトマップのキャリブレーション情報がエクスポートされます。
- [All Calibration Information] : 選択したマップに加えて、システムで使用可能なその他のキャリブレーション情報もエクスポートされます。

ステップ 5 [マップアーカイブを生成 (Generate Map Archive)] をクリックします。

次のメッセージは、操作の進行状況を示しています。

Exporting data is in progress

TAR ファイルが作成され、ローカルマシンに保存されます。

ステップ 6 [Done] をクリックします。

Cisco DNA Center へのサイト階層のインポート

Cisco Prime Infrastructure から CSV ファイルとしてエクスポートしたサイト階層をインポートできます。サイト階層のエクスポートについては、[Cisco DNA Center ユーザガイド](#)を参照してください。

始める前に

- Cisco DNA Center インベントリにシスコワイヤレス コントローラおよび AP があることを確認します。ない場合は、[Discovery] 機能を使用して検出します。
- フロアマップ上に AP を追加して配置します。
- Cisco Prime Infrastructure にあるサイトを Cisco DNA Center で手動作成した場合は、インポートする前にそれらのサイトを Cisco DNA Center から削除する必要があります。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 マップツールバーから [Import] をクリックし、[Import Sites] を選択します。

ステップ 3 ダイアログボックスで、次のいずれかのオプションボタンをクリックします。

- [Merge with Existing Sites] : ダウンロードしたサイト情報を既存のサイト情報と結合します。

- [Overwrite Existing Sites] : Cisco DNA Center に同じサイトがすでに存在する場合、既存のサイト情報はダウンロードしたサイト情報で上書きされます。

ステップ 4 ダイアログボックスで、CSV ファイルをダウンロードエリアにドラッグアンドドロップします。または、[Choose a file] をクリックして CSV ファイルの場所に移動し、[Import] をクリックすることもできます。

- (注) CSV ファイルがない場合は、[CSV Template] をクリックして、CSV ファイルをダウンロードし、編集してからアップロードできます。

Cisco DNA Center へのマップアーカイブのインポート

マップアーカイブ TAR ファイルを Cisco DNA Center にインポートできます。たとえば、Cisco Prime Infrastructure からエクスポートした TAR ファイルをアップロードできます。



- (注) Cisco DNA Center は米国の連邦情報処理標準 (FIPS) をサポートしています。FIPS は、Cisco DNA Center イメージのインストール時に有効にできるオプションのモードです。デフォルトでは、FIPS モードはディセーブルです。

サイト階層のエクスポートについては、「[Cisco Prime Infrastructure からのマップアーカイブのエクスポート \(39 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 マップツールバーから [Import] をクリックし、[Import Floor Maps] を選択します。

ステップ 3 [Import Floor Maps] ダイアログボックスに、マップアーカイブファイルをドラッグアンドドロップします。

ステップ 4 [Import] をクリックします。

マップアーカイブファイルがインポートされます。

既存の Ekahau ネットワーク階層の使用

Ekahau Pro ツールを使用すると、フロアレイアウト、AP の場所、障害物など、企業の完全なネットワーク計画を作成できます。フロアレイアウトを作成したら、シミュレートしたネットワーク計画を Ekahau プロジェクトファイルとしてエクスポートできます。実際のサイト調査データを、Cisco DNA Center で使用できる形式にエクスポートすることもできます。

Cisco DNA Center からの Ekahau プロジェクトのエクスポート

事前設定済み作業フロアを拡張するために、Cisco DNA Center では、Cisco DNA Center から作業フロアを Ekahau プロジェクトとしてエクスポートし、プロジェクトを Ekahau Pro ツールにインポートできます。

-
- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。
世界地図が右側のペインに表示されます。
- ステップ 2** 左側のペインで、目的のサイト、建物、またはフロアを選択します。
- ステップ 3** 完全なネットワークマップを Ekahau プロジェクトとしてエクスポートするには、**[Export]** ドロップダウンリストから **[Export Floor Maps]** を選択します。
サイト、建物、またはフロアマップの Ekahau プロジェクトをエクスポートするには、左側のペインで、サイト、建物、またはフロアの横にある省略記号 **...** にカーソルを合わせ、**[Export Floor Maps]** を選択します。
[Export Floor Maps] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** **[Export Floor Maps]** ダイアログボックスで、**[Ekahau Project]** エクスポート形式を選択します。
- ステップ 5** **[エクスポート (Export)]** をクリックします。
ESX ファイルが作成され、ローカルマシンに保存されます。
- ステップ 6** ESX ファイルを Ekahau Pro ツールにインポートし、フロアを拡張して、ファイルを保存します。
- ステップ 7** Ekahau プロジェクトをサイトの下の Cisco DNA Center にインポートします。詳細については、「[Cisco DNA Center への Ekahau プロジェクトのインポート](#)」を参照してください。
-

Cisco DNA Center への Ekahau プロジェクトのインポート

始める前に

Ekahau Cloud プロジェクトと同期していないローカルの変更（AP や壁の削除など）がプロジェクトにある場合、Ekahau Cloud プロジェクトのインポートが失敗する可能性があります。この状況を回避するには、ローカルの変更を Ekahau Cloud に同期してから、Ekahau Cloud プロジェクトを Cisco DNA Center にインポートしてください。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。
- ステップ 2** サイト、ビルディング、フロアなどのネットワーク階層を設計します。
(注) 詳細については、[サイトの作成、編集、削除 \(34 ページ\)](#)、[ビルディングの追加、編集、および削除 \(35 ページ\)](#)、[およびフロアの追加、編集、および削除 \(36 ページ\)](#) を参照してください。
フロアを追加する際には、必ず、Ekahau プロジェクトで指定されたものと同じ名前でもフロアを作成してください。
- ステップ 3** 左側のペインで、Ekahau プロジェクトをインポートするサイトの横にある省略記号 **...** のアイコンにカーソルを合わせて、**[Import Ekahau Project]** を選択します。
[Import Ekahau Project] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Import Ekahau Project] ダイアログボックスのボックスエリアに ESX ファイルをドラッグアンドドロップするか、または [click to select] リンクをクリックして ESX ファイルを参照します。

(注) 建物をインポートするには、Ekahau プロジェクト内に座標が含まれている必要があります。Ekahau Pro で座標を追加できます。Ekahau プロジェクトのインポートが成功すると、計画された各 AP は、AP 名を使用してインベントリ内の既存の実際の AP にマッピングされます。計画された AP は、フロアマップ上にアイコン [P] とともに表示されます。たとえば、計画済みの AP の名前が SJC01-02-AP-B-1 の場合、インポートプロセスでは同じ名前の実際の AP が検索されます。

ステップ 5 インベントリで AP が見つからず、マッピングが解除されたままの場合、計画された AP はフロア上に保持されます。

不一致の理由を表示するには、フロアマップ上の計画された AP アイコンの上にカーソルを置いて、[Import History] をクリックします。

次の試行は、計画された AP を実際の AP にマッピングするために行われます。

- 新たに検出された AP が計画された AP と一致する場合、計画された AP は検出された実際の AP で置き換えられます。
- 計画された AP のマッピングが解除されたままの場合、計画された AP を実際の AP に手動で置き換えて、失敗の原因を示すことができます。

ステップ 6 実際の AP に計画された AP を手動で割り当てるには、フロアマップ上の計画された AP アイコンの上にカーソルを合わせて、[Assign] > [Assign] > をクリックします。

[Assign Planned APs] パネルが表示されます。

ステップ 7 [Assign Planned APs] パネルで、AP 名、AP タイプ、またはすべての AP によって計画された AP を実際の AP にマッピングします。

ステップ 8 AP 名の横にあるオプションボタンをクリックし、[Assign] をクリックして、計画された AP を手動で割り当てます。

ステップ 9 [Save] をクリックします。

Ekahau サイト調査の Cisco DNA Center へのインポート

Ekahau サイト調査をアップロードして、ネットワーク階層に建物とフロアを作成できます。サイト調査には、ワイヤレスデバイスが割り当てられているサイト、建物、フロア、およびフロアマップ上の位置など、ワイヤレスデバイスに関する情報が含まれます。ただし、AP アンテナ情報は含まれません。そのため、CSV ファイルを使用してこの情報を個別にアップロードする必要があります。

Cisco DNA Center には、ダウンロードして編集して必要な AP アンテナ情報を定義できる CSV テンプレートファイルが含まれています。

図 6: CSV テンプレートファイルには、次のフィールドとデフォルトが含まれています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	model	antennaName0	antennaAzimuth0	antennaElevation0	antennaName1	antennaAzimuth1	antennaElevation1	antennaName2	antennaAzimuth2	antennaElevation2
2	AP2700I	Internal-2700-5GHz	90d	0d	Internal-2700-2.4GHz	90d	0d			
3	AP1850I	Internal-1850-5GHz	90d	0d	Internal-1850-2.4GHz	90d	0d			
4	AP3800E	AIR-ANT2524DB-R-5GHz	179.9543762d	0d	AIR-ANT2524DB-R-2.4GHz	179.9543762d	0d			
5										

AP が Cisco DNA Center デバイスインベントリにない場合、計画された AP としてインポートされます。ただし、命名規則を使用して、AP をデバイスインベントリに追加するときに、Cisco DNA Center ではそれを実際の AP に自動的に変換することができます。

命名規則は、AP の後に AP の MAC アドレスの最後の 4 桁が続きます（例：AP-c4:e0）。この情報を使用して、Cisco DNA Center は提供された数字を AP のイーサネット MAC アドレスまたは無線 MAC アドレスの最後の 4 桁と照合しようとします。この情報がない場合、または一致に失敗した場合は、Cisco DNA Center は AP 名の照合を試みます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy] の順に選択します。

ステップ 2 [Add Site] > [Add Area] をクリックします。

または、左側のペインで [Global] または親サイトの横にある省略記号 **...** にカーソルを合わせ、[Add Area] を選択することもできます。詳細については、[サイトの作成、編集、削除 \(34 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 左側のペインで、作成したサイトの横にある省略記号 **...** アイコンにカーソルを合わせて、[Import Ekahau Survey] を選択します。

ステップ 4 [Import Ekahau Survey] ダイアログボックスの [Ekahau Survey] ボックス領域に、Ekahau 調査ファイルをドラッグアンドドロップするか、または [Choose a file] リンクをクリックして ESX ファイルを参照します。

ステップ 5 CSV ファイルを [AP Mapping CSV] ボックス領域にドラッグアンドドロップするか、[Choose a file] をクリックして CSV ファイルを参照します。

(注) CSV ファイルがない場合は、[Download AP Mapping Template] をクリックして、編集可能な CSV ファイルをダウンロードして、アップロードすることができます。

ステップ 6 [Import] をクリックします。

ファイルが正常にダウンロードされると、成功メッセージが表示されます。

ステップ 7 [View Hierarchy] をクリックし、フロアに移動して、デバイスがインポートされ、適切に配置されていることを確認します。

詳細を表示するには、デバイスにカーソルを合わせます。

2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成

2D マップで、デバイスを設定し、フロアマップ上にオブジェクトをオーバーレイできます。『Cisco DNA Assurance User Guide』[英語]には、2D マップの操作に関する基本的なガイド

スが記載されています。2D マップに加えて、Cisco DNA Center はより多くの機能を備えた 3D マップをサポートします。2D と 3D の両方のマップ機能の詳細については、『[Cisco DNA Center ユーザガイド](#)』[英語]を参照してください。

デバイス

- [APs] : アクセスポイント (AP) は、無線ネットワークと有線ネットワーク間の接続ポイントとして、またはスタンドアロンの無線ネットワークのセントラルポイントとして機能します。2D マップでは、AP は実際にインストールされているデバイスを表します。Cisco DNA Center でサポートされる AP の一覧については、『[Cisco DNA Center 互換性マトリクス](#)』[英語]を参照してください。
- [Planned APs] : 計画済み AP は、まだインストールされていない AP を表します。計画済み AP をマップ上に配置することで、実際に AP をインストールする前に、ワイヤレスネットワークの RF カバレッジを想定して変更を加えることができます。
- [Sensors] : センサーは、Cisco PnP を使用してブートストラップされる専用の Cisco Aironet 1800S アクティブセンサーです。アシュアランスサーバーに到達可能かどうかの詳細情報を取得してから、アシュアランスサーバーと直接通信します。センサーテストに関する情報を含む詳細については、『[センサーの管理とセンサー主導のテスト \(333 ページ\)](#)』[英語]を参照してください。

オーバーレイオブジェクト

- [Coverage Areas] : デフォルトでは、フロアマップの一部として定義されたエリアは、無線カバレッジエリアと見なされます。ただし、長方形以外のビルディングがある場合、またはフロア内で長方形以外または多角形のエリアをマークする場合には、[Coverage Areas] 描画ツールを使用してカバレッジエリアを作成できます。
- [Openings] : 吹き抜けはアトリウムとも呼ばれ、ビルディング内のオープンエアーまたは天窓で覆われたエリアです。吹き抜けは複数のフロアに伸びる可能性があり、ワイヤレス信号のカバレッジエリアに影響を与える可能性があります。
- [Location Regions] : ロケーションリージョンは、ヒートマップの計算に含まれるまたは除外されるエリアを定義します。包含エリアは計算に含まれ、除外エリアは計算に含めないエリアです。たとえば、ビルディング内の吹き抜け、アトリウム、階段の吹き抜けなどのエリアを除外して、作業エリア (小個室、研究室、製造現場など) を含めることができます。
- [Walls] : 壁は、窓、小部屋、ドアなど、建物の外部または内部の垂直構造を定義します。それぞれ異なる材料で構成され、密度が異なる可能性があるため、RF 信号の減衰とヒートマップの計算に大きな影響を与える可能性があります。たとえば、フロアマップに含める壁の数が多いほど、ヒートマップの計算にかかる時間が長くなります。ただし、フロアマップに多数の壁がある場合でも、ヒートマップの計算に使用される数を調整できます。詳細については、『[Cisco DNA Center ユーザガイド](#)』の「2D Map View Options」および「3D Map View Options」を参照してください。

- [Shelving Units] : シェルフユニットは、RF 信号の減衰とヒートマップの計算に大きな影響を与える可能性のある障害物です。シェルフユニットがある場所の例としては、天井が高い倉庫などがあります。
- [Markers] : マーカーは、マップ上の場所を示します。マーカーを作成するときは、後で識別しやすいように、マーカーに名前を付けて配置することができます。
- [GPS Markers] : Cisco DNA Center と統合すると、Cisco Spaces や Cisco Connected Mobile Experiences (CMX) などのロケーションサービスは、GPS マーカーを使用してクライアントのおおよその地理的位置を計算します。
- [Align Points] : 位置合わせポイントは、物理的な形状が異なる複数のフロアを配置するために使用されるマーカーです。3D マップでは、フロアはマップの左上隅 (ポイント 0,0) に配置されます。フロアごとに独立して管理すればズレは問題ありません。ただし、一部の 3D マップの機能を使用するには、実際のフロアをそのまま配置する必要があります。このズレを補正するために、2 つ以上のフロアに 1 つ以上の位置合わせポイントを挿入して、フロアが 3D マップ内で適切に上下に配置されるようにすることができます。

AP の追加、配置、編集、および削除

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 左側の階層ツリーで、フロアを選択します。

ステップ 3 マップツールバーから、[2D] > [Add/Edit] をクリックします。

デフォルトでは、[Devices] トグルボタンと [Access Points] トグルボタンが選択されています。

ステップ 4 このウィンドウから、AP を追加、配置、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
AP の追加	<ol style="list-style-type: none"> 1. マップの左側のペインで、[Add Access Points] をクリックします。 2. [Add Access Points] スライドインペインで、テーブルから次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 単一の AP を追加するには：追加する AP を見つけ、右にスクロールして [Add] をクリックします。 • 複数の AP を追加するには：追加する AP の横にあるチェックボックスをオンにして、[Add Selected] をクリックします。 <p>新しく追加された AP は、マップの左側のペインにある [Unpositioned] カテゴリに表示されます。</p> 3. [Unpositioned] カテゴリから、AP をクリックします。 4. AP を配置するマップ上の場所をクリックします。 5. マップツールバーで [Save] をクリックします。
計画済み AP の追加	<ol style="list-style-type: none"> 1. マップの左側のペインにある [Planned AP Models] エリアで、追加する計画済み AP の AP モデルをクリックします。 AP モデルがリストにない場合は、[Add Model] をクリックして、リストに追加する AP モデルを選択します。 2. フロアマップで、計画済み AP を配置する場所をクリックします。 3. [Edit Planned AP] スライドインペインで歯車アイコンをクリックし、一意の名前パターンを追加します。 4. 必要に応じて、アンテナタイプと方位角と仰角を定義します。 5. 引き続き同じプロパティを持つ計画済み AP を追加するには、マップ上の場所をクリックします。 6. 計画済み AP の追加を止めるには、Esc を押すか、フロアマップを右クリックします。 7. マップツールバーで [Save] をクリックします。

アクション	手順
AP の編集	<ol style="list-style-type: none"> マップで AP を右クリックし、[Edit] を選択します。 編集可能な AP 設定を変更します。次のフィールドに関する情報に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Antenna : 外部 AP の場合、アンテナを選択する必要があります。アンテナを選択しないと、AP がマップに表示されません。 • Azimuth : 方位角は、x 軸に対して測定されたアンテナの角度です。方位角の範囲は 0 ～ 360 です。Cisco DNA Center では、右向きは 0 度または 360 度で、下向きは 90 度です。 値を手動で入力するか、フィールドの下の青色の矢印を使用して値を変更できます。 無指向性アンテナの場合、仰角が 0 の場合、方位角は関係ありません。 • Elevation : 仰角（度）を手動で入力するか、フィールドの下の青色の矢印を使用して、値を変更できます。 天井に配置するように設計された AP およびアンテナモデルの場合、仰角が 0 の場合は下を向きます。壁に配置するように設計された AP およびアンテナモデルの場合、仰角を 0 にすると水平方向を向き、負の値の場合は下を向きます。 マップツールバーで [Save] をクリックします。
AP の削除	<ol style="list-style-type: none"> AP をクリックするか、複数の AP を選択する場合は、最初の AP をクリックし、Shift キーを押しながら残りの AP をクリックします。 [Edit] ペインで、[Remove] をクリックします。 マップツールバーで [Save] をクリックします。

センサーの追加、配置、および削除

始める前に

インベントリに Cisco AP 1800S センサーがあることを確認します。Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーをインベントリで表示するには、プラグアンドプレイを使用してプロビジョニングする必要があります。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ 3 マップツールバーから、**[2D]** > **[Add/Edit]** > **[Sensors]** をクリックします。

ステップ 4 このウィンドウから、センサーを追加、配置、編集、および削除できます。詳細については、次の表を参照してください。

アクション	手順
センサーの追加	<ol style="list-style-type: none"> [Add Sensors] スライドインペインから、追加するセンサーの横にある [Add] をクリックします。または複数のセンサーを追加する場合は、追加するセンサーの横のチェックボックスをオンにして、[Add Selected] をクリックします。 新しく追加されたセンサーは、マップの左ペインの [Unpositioned] カテゴリに表示されます。 マップの左ペインの [Unpositioned] カテゴリから、センサーをクリックします。 センサーを配置するマップ上の場所をクリックします。 [Save] をクリックします。
センサーの削除	<ol style="list-style-type: none"> センサーをクリックします。複数のセンサーを選択する場合は、最初のセンサーをクリックし、Shift キーを押しながら残りのセンサーをクリックします。 [Edit] ペインで、[Remove] をクリックします。 マップツールバーの [Save] をクリックします。

カバレッジエリアの追加、編集、および削除

この手順では、フロアマップで長方形以外または多角形のエリアをカバレッジエリアとしてマークする方法を示します。

カバレッジエリアの詳細については、「[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#)」[英語]を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Hierarchy]**。

ステップ 2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ 3 マップツールバーで、**[2D]** > **[Add/Edit]** > **[Overlays]** > **[Coverage Areas]** をクリックします。

ステップ 4 カバレッジエリアを追加するには、次の手順を実行します。

- [Coverage Area]** ダイアログボックスで、フィールドにカバレッジエリアの名前を入力します。
- [Add Coverage]** をクリックします。

- c) マップをクリックしてポイントを作成し、描画ツールを開始します。
- d) 引き続きポイントを作成して、カバレッジエリアの形状を定義します。
 - (注) カバレッジエリアの形状には、少なくとも3つのポイントが必要です。ポイントをクリックしてドラッグすると、カバレッジエリアの形状を定義し直すことができます。
- e) ダブルクリックして描画ツールを終了し、カバレッジエリアの形状を確定します。

ステップ5 カバレッジエリアを編集するには、次の手順を実行します。

- a) マップツールバーで、**[Add/Edit] > [Coverage Areas]** をクリックします。
- b) カバレッジエリアの形状を定義し直すには、ポイントをクリックしてドラッグします。
- c) カバレッジエリアの名前を編集するには、カバレッジエリアを右クリックして **[Edit]** を選択します。

ステップ6 カバレッジエリアを削除するには、次の手順を実行します。

- a) マップツールバーで、**[Add/Edit] > [Coverage Areas]** をクリックします。
- b) カバレッジエリアを右クリックし、**[Remove]** を選択します。

ステップ7 マップツールバーで **[Save]** をクリックします。

吹き抜けの追加、編集、コピー、および削除

吹き抜けの作成は、フロアでのオープンスペース（アトリウム）の作成と似ています。通常、複数フロアのビルディングでは、吹き抜けは複数のフロアを縦方向に伸びています。この手順では、フロアマップで吹き抜けを追加、編集、および削除する方法を示します。また、吹き抜けを他のフロアにコピーする方法も示します。

吹き抜けの詳細については、「[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#)」[英語]を参照してください。

ステップ1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。

ステップ2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ3 マップツールバーで、**[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Openings]** をクリックします。

ステップ4 吹き抜けを追加するには、次の手順を実行します。

- a) マップの左ペインで、**[Opening]** をクリックします。
- b) マップをクリックしてポイントを作成し、描画ツールを開始します。
- c) 引き続きポイントを作成して、吹き抜けの形状を定義します。
 - (注) 吹き抜けの形状には、少なくとも3つのポイントが必要です。ポイントをクリックしてドラッグすると、吹き抜けの形状を定義し直すことができます。
- d) ダブルクリックして描画ツールを終了し、形状を確定します。

ステップ5 吹き抜けを編集するには、次の手順を実行します。

- a) マップツールバーで、**[Add/Edit] > [Openings]** をクリックします。
- b) 吹き抜けの形状を定義し直すには、ポイントをクリックしてドラッグします。

- c) 吹き抜けを移動するには、網掛けされたエリア内をクリックします。次に、吹き抜けを配置する場所にドラッグアンドドロップします。

ステップ 6 別のフロアに吹き抜けをコピーするには、次の手順を実行します。

- a) マップツールバーで、**[Add/Edit] > [Openings]** をクリックします。
- b) 吹き抜けを右クリックし、**[Copy to other floors]** を選択します。
- c) ダイアログボックスで、関連フロアの横にあるチェックボックスをオンにします。
- d) **[コピー (Copy)]** をクリックします。
- e) **[Close]** をクリックします。

ステップ 7 吹き抜けを削除するには、次の手順を実行します。

- a) マップツールバーで、**[Add/Edit] > [Openings]** をクリックします。
- b) 吹き抜けを右クリックし、**[Remove]** を選択します。

ステップ 8 マップツールバーで **[Save]** をクリックします。

ロケーションリージョンの追加、編集、および削除

ロケーションリージョンは、ヒートマップの計算に含まれるまたは計算から除外されるマップ上の領域です。次のトピックで、ロケーションリージョンを追加、編集、および削除する方法を示します。

包含リージョンの追加、編集、および削除

この手順では、包含リージョンを追加、編集、および削除する方法を示します。次のガイドラインを使用して、フロアマップで包含リージョンを定義します。

- 包含リージョンは多角形領域で表され、最低 3 点で構成される必要があります。
- フロア上の包含リージョンを 1 つだけ定義できます。デフォルトでは、各フロア領域が作成されるたびに、各フロア領域に対して包含領域が定義されます。包含領域は、水色の実線で示され、通常はフロア領域全体の輪郭を描きます。

包含リージョンの詳細については、[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Hierarchy]**。

ステップ 2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ 3 マップツールバーで、**[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Location Regions]** をクリックします。

ステップ 4 マップの左側のペインで、**[Inclusion]** アイコンをクリックします。

ステップ 5 包含リージョンを作成するには、描画ツールを使用します。

- a) マップをクリックして、包含リージョンを開始するポイントを作成します。
- b) カーソルを次のポイントに移動して、もう一度クリックします。
- c) 引き続きポイントを作成して、包含リージョンの形状を定義します。

除外リージョンの追加、編集、および削除

- d) 形状を完成させるには、マップをダブルクリックします。
または、マップの左側のペインから、[Inclusion] アイコンをクリックします。
- e) 描画ツールを終了するには、マップをもう一度ダブルクリックします。

ステップ 6 包含リージョンの場所を編集するには、その形状を新しい場所にドラッグアンドドロップします。

ステップ 7 包含リージョンを削除するには、形状を右クリックして [Remove] を選択します。

ステップ 8 マップツールバーで [Save] をクリックします。

除外リージョンの追加、編集、および削除

この手順では、除外リージョンを追加、編集、および削除する方法を示します。次のガイドラインを使用して、フロアマップで除外リージョンを定義します。

- 除外リージョンは多角形領域で表され、最低 3 点で構成される必要があります。
- 除外リージョンは包含リージョンの境界内で定義されます。
- フロアマップ上で除外リージョンを複数定義できます。

除外リージョンの詳細については、[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ 3 マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Location Regions] をクリックします。

ステップ 4 マップの左側のペインから、[Exclusion] アイコンをクリックします。

ステップ 5 除外リージョンを作成するには、描画ツールを使用します。

- a) マップをクリックして、除外リージョンを開始するポイントを作成します。
- b) カーソルを次のポイントに移動して、もう一度クリックします。
- c) 引き続きポイントを作成して、除外リージョンの形状を定義します。
- d) 形状を完成させるには、マップをダブルクリックします。
または、マップの左側のペインから、[Exclusion] アイコンをクリックします。
- e) 描画ツールを終了するには、マップをもう一度ダブルクリックします。

ステップ 6 除外リージョンの場所を編集するには、その形状を新しい場所にドラッグアンドドロップします。

ステップ 7 除外リージョンを削除するには、形状を右クリックして [Remove] を選択します。

ステップ 8 マップツールバーで [Save] をクリックします。

壁の追加、編集、および削除

この手順では、フロアマップで壁を追加、編集、および削除する方法を示します。

壁がRF信号の減衰とヒートマップの計算に与える影響については、「[2Dフロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#)」を参照してください。

-
- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。
- ステップ 2** フロアを左側の階層ツリーから、します。
- ステップ 3** マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Walls] をクリックします。
- ステップ 4** 壁を追加するには、次の手順を実行します。
- マップの左側のペインで、[Others] または [On this floor] カテゴリの壁のタイプをクリックします。
(注) 壁タイプがリストにない場合は、[Add Wall Type] をクリックしてカスタムの壁タイプを作成します。
 - マップをクリックして、壁の開始ポイントを作成します。
 - 壁を終了する次のポイント、またはコーナーを作成する次のポイントにカーソルを移動して、もう一度クリックします。
 - 引き続きポイントを作成して、壁の形状を定義します。
 - 壁を終了するには、マップをダブルクリックします。
または、左側のペインで壁のタイプをクリックします。
 - 描画ツールを終了するには、マップをもう一度ダブルクリックします。
- ステップ 5** 壁のタイプを変更し、壁のタイプに応じてそのパラメータを設定するには、次の手順を実行します。
- 変更する壁をクリックします。
[Wall Type] ダイアログボックスが表示されます。
 - [Wall Type] ドロップダウンリストから、壁のタイプを選択します。
 - 新しい壁タイプに適したその他のパラメータを設定します。
 - [Update] をクリックします。
- ステップ 6** 壁を移動するには、次の操作を行います。
- 移動する壁にカーソルを合わせます。
壁が黒くなります。これは選択されたことを意味します。
 - 壁をクリックし、新しい場所にドラッグアンドドロップします。
- ステップ 7** 壁を削除するには、壁を右クリックして [Remove] を選択します。
- ステップ 8** マップツールバーで [Save] をクリックします。

シェルフユニットの追加、コピー、編集、および削除

この手順では、フロアマップでシェルフユニットを追加、コピー、編集、および削除する方法を示します。

シェルフユニットの詳細については、「[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#)」[英語]を参照してください。

-
- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。
- ステップ 2** フロアを左側の階層ツリーから、します。
- ステップ 3** マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Shelving Units] をクリックします。
- ステップ 4** シェルフユニットを追加するには、次の手順を実行します。
- マップの左ペインで、追加するシェルフタイプをクリックします。
 - シェルフダイアログボックスで、名前、寸法、向き、およびユニットが両面かどうかを構成するか、デフォルト値のままにします。向きとは、シェルフユニットの角度を意味します。シェルフユニットの向き 0 はシェルフユニットが垂直で y 軸に平行であることを意味します。

シェルフタイプがリストにない場合は、[Add Shelving Type] をクリックしてシェルフタイプを作成します。
 - [Add Shelving] をクリックします。

シェルフユニットがマップ上に表示されます。
 - シェルフユニットをマップ上の場所にドラッグアンドドロップします。
- ステップ 5** シェルフユニットのコピーまたはアレイを作成するには、次のいずれかを実行します。
- コピーを作成するには、シェルフユニットを右クリックして [Clone] を選択します。
 - アレイを作成するには、シェルフユニットを右クリックして [Array] を選択します。次に、ユニットの数とそれらの間の距離を指定します。
- ステップ 6** 名前、寸法、向き、および両面かどうかを編集するには、シェルフユニットを右クリックし、[Edit] を選択します。
- ステップ 7** シェルフユニットを削除するには、シェルフユニットを右クリックし、[削除] を選択します。
- ステップ 8** マップツールバーで [Save] をクリックします。

マーカーの追加、編集、および削除

次の手順では、マーカーを追加、編集、および削除する方法を示します。

-
- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。
- ステップ 2** フロアを左側の階層ツリーから、します。
- ステップ 3** マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Markers] をクリックします。
- ステップ 4** マップの左側のペインで、[Markers] アイコンをクリックします。
- ステップ 5** [Place Markers] ダイアログボックスで、マーカーの名前を入力し、[Add Marker] をクリックします。
- ステップ 6** マーカーを配置するには、マーカーを配置するマップをクリックします。

- ステップ7** マーカーを移動するには、マーカーが青色に変わるまでカーソルを合わせます。次に、マーカーを新しい場所にドラッグアンドドロップします。
- ステップ8** マーカーを編集するには、マーカーを右クリックして [Edit] を選択します。
- ステップ9** マーカーを削除するには、マーカーを右クリックして [Remove] を選択します。
- ステップ10** マップツールバーで [Save] をクリックします。

GPS マーカーの追加、編集、および削除

この手順では、GPS マーカーを追加、編集、および削除する方法を示します。GPS マーカーの詳細については、「[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#)」[英語] を参照してください。



(注) GPS マーカーは建物の属性です。建物のすべてのフロアに適用できます。

- ステップ1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。
- ステップ2** フロアを左側の階層ツリーから、します。
- ステップ3** マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [GPS Markers] をクリックします。
- ステップ4** GPS マーカーを追加するには、次の手順を実行します。
- マップの左側のペインから、[GPS Markers] アイコンをクリックします。
 - マップ上で、GPS マーカーを配置する場所をクリックします。
GPS マーカーは、外壁の内側、通常は建物の角に配置する必要があります。
 - [Place Markers] ダイアログボックスで、適切なフィールドに名前、緯度、経度、X座標、およびY座標を入力します。
フロアの北西角にある GPS マーカーの緯度と経度の座標が、建物の座標と一致する必要があります。
 - [GPS マーカーの追加 (Add GPS Marker)] をクリックします。
- ステップ5** GPS マーカーを編集するには、GPS マーカーを右クリックして [Edit] を選択します。
- ステップ6** GPS マーカーを削除するには、GPS マーカーを右クリックして [Remove] を選択します。
- ステップ7** マップツールバーで [Save] をクリックします。

位置合わせポイントの追加、編集、および削除

この手順では、位置合わせポイントを追加、編集、および削除する方法を示します。位置合わせポイントの詳細については、「[2D フロアマップのデバイスとオーバーレイオブジェクトの構成 \(44 ページ\)](#)」[英語] を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 フロアを 左側の階層ツリーから、 します。

ステップ 3 マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] > [Overlays] > [Align Points] をクリックします。

ステップ 4 位置合わせポイントを追加するには、次の手順を実行します。

- a) マップの左側のペインで、[Align Points] アイコンをクリックします。
- b) マップ上で、位置合わせポイントを配置する場所をクリックします。

ステップ 5 位置合わせポイントの名前を編集するには、次の手順を実行します。

- a) 位置合わせポイントを右クリックし、[Edit] を選択します。
- b) 名前を変更し、[Edit Marker] をクリックします。

ステップ 6 位置合わせポイントの位置を変更するには、次の手順を実行します。

- a) 位置合わせポイントを右クリックし、[Edit] を選択します。
- b) [Edit Marker] をクリックします。
- c) 位置合わせポイントを新しい位置にドラッグアンドドロップします。

ステップ 7 位置合わせポイントを削除するには、位置合わせポイントを右クリックして [Remove] を選択します。

ステップ 8 マップツールバーで [Save] をクリックします。

インベントリの管理

インベントリ機能は、ホストの IP アドレス、MAC アドレス、およびそのデータベース内のデバイスに関するネットワーク アタッチメント ポイントなどの詳細を取得して保存します。

インベントリについて

インベントリ機能は、ホストの IP アドレス、MAC アドレス、およびそのデータベース内のデバイスに関するネットワーク アタッチメント ポイントなどの詳細を取得して保存します。

また、インベントリ機能は、デバイスの制御性機能と連携して、デバイスに必要なネットワーク設定を構成することもできます（ネットワーク設定がデバイスにまだ存在しない場合）。

インベントリは、必要に応じて次のプロトコルを使用します。

- リンク層検出プロトコル (LLDP)
- IP デバイストラッキング (IPDT) またはスイッチ統合セキュリティ機能 (SISF) (IPDT または SISF をデバイス上で有効にする必要があります)。
- LLDP Media Endpoint Discovery (このプロトコルは IP フォンや一部のサーバーの検出に使用されます)。
- ネットワーク設定プロトコル (NETCONF) デバイスのリストについては、[ディスカバリの前提条件 \(17 ページ\)](#) を参照してください。

初期検出後、Cisco DNA Center は定期的にデバイスをポーリングすることでインベントリを維持します。デフォルトの間隔は 24 時間ごとです。ただし、この間隔は、ネットワーク環境の必要性に応じて変更できます。詳細については、[デバイスポーリング間隔の更新 \(57 ページ\)](#) を参照してください。また、デバイスの設定変更によって SNMP トラップがトリガーされ、次にデバイスの再同期がトリガーされます。ポーリングはデバイス、リンク、ホスト、およびインターフェイスごとに実行されます。アクティブ状態が 1 日未満のデバイスのみが表示されます。これによって、古いデバイス データが表示されないようにします。500 個のデバイスのポーリングに約 20 分かかります。

デバイスポーリング間隔の更新

[System] > [Settings] > [Network Resync Interval] の順に選択すると、グローバルレベルですべてのデバイスのポーリング間隔を更新できます。また、[Device Inventory] を選択すると、デバイスレベルで特定のデバイスのポーリング間隔を更新できます。[Network Resync Interval] を使用してポーリング間隔を設定すると、その値が [Device Inventory] ポーリング間隔値よりも優先されます。

デバイスにポーリングさせない場合は、ポーリングを無効にできます。

始める前に

インベントリにデバイスがあることを確認します。デバイスがない場合は、ディスカバリ機能を使用して検出します。


-
- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択します。
- ステップ 2** 更新するデバイスを選択します。
- ステップ 3** [Actions] ドロップダウンリストから [Inventory] > [Edit Device] の順に選択します。
- ステップ 4** [Edit Device] slide-in pane で、[Resync Interval] をクリックします。
- ステップ 5** 再同期タイプを選択します。
- (注)
- 再同期タイプをグローバルとして設定するには、[System] > [Settings] の順に移動します。
 - デバイス固有のポーリング時間は、グローバルなポーリング時間より優先されます。デバイス固有のポーリング時間を設定した後でグローバルなポーリング時間を変更した場合、Cisco DNA Center は引き続きデバイス固有のポーリング時間を使用します。
- ステップ 6** [Update Resync Interval] ダイアログボックスの [Status] フィールドで、[Enabled] をクリックしてポーリングを有効にするか、[Disabled] をクリックしてポーリングを無効にします。
- ステップ 7** [Resync Interval (in Mins)] フィールドで、連続するポーリングサイクル間の時間間隔 (分単位) を入力します。
- ステップ 8** [更新 (Update)] をクリックします。
-

インベントリに関する情報の表示

インベントリで検出されたデバイスに関する情報を表示およびフィルタリングできます。[Device] テーブルに表示される情報をカスタマイズまたは変更できます。

始める前に

インベントリにデバイスがあることを確認します。デバイスがない場合は、ディスカバリ機能を使用して検出します。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択します。
- [Inventory] ウィンドウには、検出プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。
- (注) 完全修飾ドメイン名 (FQDN) として追加されたデバイスの場合、[IP address] 列のデバイス名の横にある [i] アイコンにマウスのカーソルを合わせると、**解決された IP アドレス**が表示されます。
- ステップ 2** (任意) インベントリビューを変更するには、右上隅にあるトグルボタン () を使用します。既定のビュー (リストレイアウト) を、トポロジやマップレイアウトなどの他のレイアウトに変更できます。
- ステップ 3** (任意) [Devices] テーブルのフォーカスビューを変更するには、[Focus] ドロップダウンリストから、[Default]、[Inventory]、または [Software Images] などのビューを選択します。
- (注)
- 表示される列は、選択したフォーカスビューに応じて変わります。
 - 選択したデバイスは、それぞれの新しいフォーカスビューで保持されます。
- ステップ 4** (任意) [Devices] テーブルで特定のデバイスの詳細をフィルタ処理するには、次の操作を実行できます。
- デバイスファミリをフィルタ処理するには、[Inventory] ウィンドウの上部にある 1 つまたは複数のデバイスファミリボタンを選択します。
たとえば、[Routers] をクリックすると、テーブル内にルーターのみを表示できます。
 - デバイスの作業項目をフィルタ処理するには、左側のペインで、1 つ以上の作業項目のチェックボックスをオンにします。テーブルは、作業項目に対してすぐにフィルタ処理されます。
たとえば、[Unreachable] チェックボックスをオンにして、到達不能なデバイスのみをテーブルに表示できます。
 - 特定のデバイスの詳細をフィルタ処理するには、[Filter devices] をクリックし、フィルタオプション ([Quick Filters]、[Advanced Filters]、[Recent Filters]) から選択します。次に、[Apply] をクリックします。
- ステップ 5** (任意) 右上隅にある [Take a tour] をクリックすると、[Inventory] ウィンドウの詳しい説明が見られます。

ステップ 6 (任意) [Devices] テーブルのすべてのデータをエクスポートするには、右上隅の[Export] をクリックします。


ステップ 7 (任意) [Devices] テーブルをカスタマイズするには、右上隅にある設定アイコン (⚙️) をクリックし、[Table Settings] slide-in pane で次のオプションから選択して、[Apply] をクリックします。

- [Table Appearance] : デフォルトまたはコンパクトなテーブルビューと、テーブルストライピングにしたい場合に選択します。
- [Edit Table Columns] : カスタムビューを作成したい場合と、列の表示・非表示を選択します。列の選択はセッション間では保持されない点に注意してください。

以下の表に、テーブルの特定の列に関する重要な情報をまとめました。

■ インベントリに関する情報の表示

カラム	説明
Device Name	

カラム	説明
	<p>デバイスの名前。</p> <p>デバイス名をクリックすると、そのデバイスの詳細情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [View Assurance 360] : [Assurance 360] ウィンドウが表示されます。ウィンドウを開くには、DNA アシュアランス アプリケーションをインストールしておく必要があります。 • インターフェイス <ul style="list-style-type: none"> • [Ethernet Ports] (すべてのデバイスが対象) : イーサネットポートの動作ステータスと管理ステータスが表示されます。 <p>トグルボタン () を使用して、[Ports] ビューと [Ports] テーブルを切り替えます。[Ports] ビューでポートをクリックするか、[Ports] テーブルでポート名をクリックして、ポートの詳細を表示します。</p> <p>Cisco Catalyst 4000 シリーズ、6000 シリーズ、および 9000 シリーズ スイッチと Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータの場合、[Ports] ビューにはラインカードとスーパーバイザカードの詳細が表示されます (使用可能な場合)。</p> <p>ラインカードの詳細には、プラットフォーム、アドレス、シリアル番号、ロール、およびスタックメンバー番号に関する情報が含まれます。スーパーバイザカードの詳細には、部品番号、シリアル番号、スイッチ番号、およびスロット番号に関する情報が含まれます。</p> <p>[Ports] テーブルには、ポートの動作ステータス、管理ステータスなどの詳細が表示されます。</p> <p>Cisco Catalyst 2000、3000、および 9000 シリーズ スイッチの場合は、[Ports] ビューでポートをクリックするか、[Ports] テーブルのポート名をクリックして、ポートの最大割り当て電力、および消費電力の詳細を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Neighbor Details] : <ul style="list-style-type: none"> [Ports] ビューでポートをクリックするか、[Ports] テーブルでポート名をクリックして、ポートの詳細を表示します。[Port Details] ウィンドウには、ポートに接続されているデバイスの詳細が表示されます。[Neighbor Details] エリアには、デバイス名、デバイスが接続されているポートの名前、およびデバイスの機能が表示されます。 ポートには、CDP ネイバーの詳細が表示されます。CDP が存在しない場合、LLDP ネイバーの詳細が表示されます。CDP と LLDP ネイバーの両方が存在しない場合、[Port Details] ウィンドウに [Neighbor Details] が表示されません。 • [Color Code] : このドロップダウンリストには、次のビューが用意されています。 <ul style="list-style-type: none"> • [Status] : イーサネットポートのデフォルトビューを表示します。 • [VLANs] : 特定のポートに割り当てられている VLAN を表示します。[VLANs] ビューでは、最大 5 つの VLAN を選択し、ポートに関連付けられている VLAN のみを一覧表示できます。 <p>[VLANs] ビューには、VLAN ポートマッピングの [Selected]、[Not Configured]、</p>

カラム	説明
	<p>[Default]、および [VLAN] カラーコードが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Port Channels] : デバイスで設定されている上位 5 つのポートチャネルを表示します。 <p>[Port Channels] ビューには、デバイスで設定されているポートチャネルの [Selected] および [Port-channel] カラーコードが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Port Actions] : <ul style="list-style-type: none"> • [Clear Mac Address] : ポートの MAC アドレスをクリアできます。 [Ports] ビューでポートをクリックし、 [Port Actions] ドロップダウンリストから [Clear Mac Address] を選択します。 • [Port Shut] : ポートをシャットダウンできます。 [Ports] ビューでポートをクリックし、 [Port Actions] ドロップダウンリストから [Port Shut] を選択します。 [Okay] をクリックして確定します。 ポートの管理ステータスが [Down] に変わります。 <p>ポートの管理ステータスを [Up] に変更するには、 [Port Actions] ドロップダウンリストから [Port No Shut] を選択し、 [Okay] をクリックします。</p> <p>error-disabled ポートは黄色で表示されます。 [Ports] ビューで error-disabled ポートをクリックして、エラーの理由を表示します。 error-disabled ポートをアクティブにするには、 MAC アドレスをクリアして、ポートをシャットダウンします。</p> • [Port Description] : [PORT DESCRIPTION] の横にある [Edit] アイコンをクリックし、説明を入力して [Save] をクリックし、 [Okay] をクリックしてポートに説明を追加します。説明を削除するには、 [Delete] アイコンをクリックします。 • [Update VLAN] : [Edit] アイコンをクリックし、ドロップダウンリストから VLAN を選択し、 [Save] をクリックして VLAN を更新します。 2 つの VLAN が事前設定されているポートの VLAN を更新することはできません。 <ul style="list-style-type: none"> • VLAN の更新、ポートの説明の追加、 MAC アドレスのクリア、およびポートのシャットダウンを行うには、デバイスソフトウェアタイプが Cisco IOS または Cisco IOS-XE である必要があります。 • ワイヤレスコントローラでは、 VLAN の更新、 MAC アドレスのクリア、およびポートのシャットダウンはサポートされていません。 • VLAN の更新、 MAC アドレスのクリア、およびポートのシャットダウンは、アクセスポートでのみサポートされます。 • ポートをシャットダウンすると、ポートのトラフィックが中断されます。 • [Update Voice VLAN] : [Voice VLAN] の横にある [Edit] アイコンをクリックし、 [Edit Voice VLAN] ドロップダウンリストから VLAN を選択し、 [Save] をクリックして VLAN を更新します。

カラム	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [VLAN] (スイッチとハブのみが対象) : 動作ステータス、管理ステータス、VLAN タイプ、および IP アドレスが表示されます。このテーブルには、次のタイプの VLAN の ID も表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 製造時提供のデフォルト VLAN の VLAN ID • 設定されたデフォルト VLAN の VLAN ID • 設定された VLAN の VLAN ID <p>[Search] または [Filter] をクリックして、VLAN の詳細を表示できます。</p> • [Virtual Ports] (ワイヤレスデバイス、コントローラ、ルータのみが対象) : ポートの動作ステータスや管理ステータスなどの詳細が表示されます。[Search] または [Filter] をクリックして、ポートの詳細を表示できます。 • [Hardware and Software] : デバイスのハードウェアとソフトウェアの詳細が表示されます。 • [Configuration] : show running-config コマンドの出力で表示される内容に似た詳細な構成情報が表示されます。 この機能は、AP とワイヤレスコントローラにはサポートされていません。したがって、これらのデバイス タイプの場合は設定データは返されません。 • [Power] : デバイスに割り当てられている電力、消費電力、および残りの電力に関する詳細が表示されます。[Power Supplies] テーブルに、動作ステータス、シリアル番号、およびベンダー機器タイプの詳細が表示されます。 • [Fans] : ファンの動作ステータス、シリアル番号、およびベンダー機器タイプが表示されます。 • [SFP Modules] : プラットフォーム、シリアル番号、製造元、および Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールの接続先ポートの詳細を表示します。[Search] または [Filter] をクリックして、ポートの詳細を表示できます。 • [User Defined Fields] : デバイスに関連付けられているユーザー定義フィールドが表示されます。 • [Config Drift] : 構成の変更を表示し、同じデバイスの任意の 2 つのバージョンを選択して、各バージョンの実行中の構成データを比較できます。 • [Wireless Info] : プライマリとセカンダリの管理対象ロケーションが表示されます。 • [Mobility] : モビリティグループ名、RF グループ名、仮想 IP、およびモビリティ MAC アドレスが表示されます。


インベントリに関する情報の表示

カラム	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Chassis View] : シャーシ ビューの包括的で完全にインタラクティブな 3 次元 (3D) モデルと、単一のフレームワークから得られたポート統計情報が表示されます。シャーシビューのすべての物理コンポーネントはクリック可能です。また、色分けされているためインターフェイスの状態を確認できます。詳細については、の「」を参照してください。 Cisco Digital Network Architecture Center ユーザー ガイド <p>(注) 赤で表示されているデバイス名は、インベントリがデバイスをポーリングしておらず、30分を超える期間にわたってその情報を更新していないことを意味しています。</p>
IP Address	デバイスの IP アドレス。

カラム	説明
<p>Support Type</p>	<p>デバイスのサポートレベルが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Supported] : Cisco DNA Center のすべてのアプリケーションに対してデバイスプロファイルがテスト済みです。これらのデバイスのいずれかの Cisco DNA Center 機能が動作しない場合は、サービスリクエストを開くことができます。 • [Limited] : レガシーデバイス用のデバイスプロファイルは、Cisco DNA Center の次の機能のみを対象にベストエフォートベースでのみテストされています。 <ul style="list-style-type: none"> • 検出 • トポロジ • デバイスの到達可能性 • 構成変更監査 • インベントリ • ソフトウェアイメージ管理（ソフトウェアイメージは、cisco.com に記載の EOL デバイスでは利用できない場合があります。EOL デバイスには推奨されません。） • テンプレートプロビジョニング（スイッチにのみ適用されます。） <p>詳細については、『Cisco DNA Center Legacy Device Compatibility Matrix』を参照してください。</p> • [Third Party] : デバイスプロファイルは、SNMP MIB-2 値を入力できるサードパーティデバイスの Cisco DNA Center でテストされています。Cisco DNA Center はベストエフォートベースで、インベントリやトポロジなどの限られた基本的な自動化機能およびアシュアランス機能をサポートします。 <p>詳細については、『Cisco DNA Center Compatibility Matrix』を参照してください。</p> • [Unsupported] : Cisco DNA Center でテストおよび認定されていない他のすべてのシスコデバイスとサードパーティ製デバイス。これらのデバイスについて、Cisco DNA Center でさまざまな機能をベストエフォートとして試すことができます。ただし、Cisco DNA Center の機能が期待どおりに動作しない場合、サービスリクエストやバグを申請することはできません。
<p>Reachability</p>	<p>以下は、さまざまなステータスのリストです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Reachable] : Cisco DNA Center から SNMP、HTTP (S)、および NETCONF ポーリングを使用してデバイスに到達できます。 • [Ping Reachable] : Cisco DNA Center から ICMP ポーリングを使用してデバイスに到達できます。SNMP、HTTP (S)、および NETCONF ポーリングでは到達できません。 • [Unreachable] : SNMP、HTTP (S)、NETCONF、ICMP のいずれのポーリングでもデバイスに到達できません。

カラム	説明
[EoX Status]	<p>EoX スキャンのステータスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Success] : デバイスでの EoX アラートのスキャンに成功しました。 • [Not Scanned] : デバイスは EoX アラートについてスキャンされていません。 • [Scan Failed] : Cisco DNA Center でデバイスでの EoX アラートのスキャンに失敗しました。 • [Scanning] : Cisco DNA Center でデバイスでの EoX アラートのスキャンを実行しています。 <p>[EoX Status] の横にある [i] アイコンにカーソルを合わせ、[Click here to accept] をクリックして EoX スキャンを開始します。</p> <p>正常にスキャンされたデバイスについては、[EoX Status] 列にアラートの数が表示されます（ある場合）。</p> <p>アラートの数をクリックすると、アラートの詳細が表示されます。</p> <p>slide-in pane で、[Hardware]、[Software]、および [Module] タブをクリックして、ハードウェア、ソフトウェア、およびモジュールの EoX アラートを表示します。</p>
Manageability	<p>デバイスのステータスが示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Managed] と緑色のチェックアイコン : デバイスに到達可能で、完全に管理されています。 • [Managed] とオレンジ色のエラーアイコン : デバイスは管理されていますが、到達不能、認証失敗、NETCONF ポートがない、内部エラーなど、何らかのエラーがあります。エラーメッセージにカーソルを合わせると、エラーおよび影響を受けるアプリケーションに関する詳細が表示されます。 • [Unmanaged] : デバイスの接続の問題が原因でデバイスに到達できず、インベントリ情報が収集されていません。 <p>(注) [Last Sync Details] をクリックして、最後の同期の開始時刻と最後の同期の理由を表示します。</p>
MAC Address	デバイスの MAC アドレス。
Image Version	デバイスで現在実行されている Cisco IOS ソフトウェア。
Platform	シスコ製品の部品番号。
Serial Number	シスコ デバイスのシリアル番号。
Uptime	デバイスが起動してからの稼働時間。

カラム	説明
Device Role	<p>スキャンプロセス中に、検出された各デバイスに割り当てられているロール。デバイスロールは、ネットワーク内での役目と配置に従って、デバイスを識別およびグループ分けするために使用されます。Cisco DNA Center でデバイスロールを特定できない場合、デバイスロールは不明に設定されます。</p> <p>(注) デバイスロールを手動で変更すると、割り当ては静的のままになります。Cisco DNA Center は、後続のデバイスの再同期中に変更が検知されたとしても、デバイスロールは更新されません。</p> <p>必要に応じて、このカラムのドロップダウンリストを使用して、割り当てられたデバイスロールを変更することができます。</p>
Site	<p>デバイスに割り当てられているサイト。デバイスがどのサイトにも割り当てられていない場合は、[Assign] をクリックします。[Choose a site] をクリックし、階層からサイトを選択して [Save] をクリックします。詳細については、ネットワーク階層の設計 (33 ページ) を参照してください。</p>
Last Updated	<p>Cisco DNA Center がデバイスをスキャンし、デバイスに関する新しい情報でデータベースを更新した最新の日付と時刻。</p> <p>(注) [Last Sync Details] をクリックして、最後の同期の開始時刻と最後の同期の理由を表示します。</p>
Device Family	<p>ルータ、スイッチ、ハブ、またはワイヤレスコントローラなどの関連するデバイスのグループ。</p>
Device Series	<p>デバイスのシリーズ番号 (Cisco Catalyst 4500 シリーズスイッチなど)。</p>
Resync Interval	<p>デバイスのポーリング間隔。再同期間隔は、[Inventory] ウィンドウから [Actions] > [Edit Device] > [Resync Interval] の順に選択して設定します。再同期タイプを [Global] として設定するには、メインメニューから [System] > [Settings] の順に選択します。詳細については、『Cisco DNA Center Administrator Guide』を参照してください。</p>
Last Sync Status	<p>デバイス最終検出のスキャン状態。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Managed] : デバイスは完全に管理された状態です。 • [Partial Collection Failure] : デバイスは部分的に収集された状態で、すべてのインベントリ情報は収集されていません。障害の追加情報を表示するには、[Information] (i) アイコンにマウスを合わせます。 • [Unreachable] : デバイスの接続の問題が原因でデバイスに到達できず、インベントリ情報が収集されていません。この状態は、定期的な収集が行われたときに発生します。 • [Wrong Credentials] : デバイスをインベントリに追加した後にデバイスのクレデンシャルが変更された場合、この状態が表示されます。 • [In Progress] : インベントリ収集が実行されています。

カラム	説明
プロビジョニング ステータス	<p>デバイスで試行された最後のプロビジョニング操作のステータスが示されます。過去のプロビジョニング操作のステータスを確認するには、[See Details] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Success] : デバイスでの最近の操作が成功しました。 • [Success] と警告アイコン : デバイスでの最近の操作は成功しましたが、過去のプロビジョニング操作による障害があるため、注意が必要です。 • [Failed] : デバイスでの最近の操作が失敗しました。 • [Failed] と警告アイコン : デバイスでの最近の操作が失敗しました。過去のプロビジョニング操作による障害があるため、注意が必要です。 • [Configuring] : デバイスは現在設定中です。 • [Pending] : システムは、進行中のプロビジョニング操作によってデバイスが影響を受けるかどうかを判断しようとしています。 • [Not Provisioned] : デバイスは一度もプロビジョニングされていません。 • [Out of Sync] : デバイスのネットワーク設定またはネットワークプロファイルが、最後のプロビジョニング操作の後に変更されました。
Credential Status	<p>デバイスのクレデンシャルステータスが示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Not Applied] : デバイスのクレデンシャルがデバイスに適用されていません。 • [Success] : デバイスのクレデンシャルがデバイスに正常に適用されました。 • [Failed] : デバイスのクレデンシャルがデバイスで失敗しました。 <p>クレデンシャルの詳細を表示するには、[See Details] をクリックします。</p> <p>[Credential Status] slide-in paneには、クレデンシャルの [Type]、[Name/Description]、[Status]、および [Details] が表示されます。</p> <p>ステータスが [Failed] のデバイスの場合、[Actions] 列の省略記号アイコン () の上にカーソルを置き、[Retry] または [Clear] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Retry] : デバイスにクレデンシャルを適用します。 • [Clear] : デバイスのクレデンシャルをクリアします。
AP Ethernet Mac Address	<p>AP イーサネット MAC アドレスに関する詳細を表示します。</p>
AP CDP Neighbors	<p>[Inventory] ウィンドウの AP に接続されているスイッチとポートに関する詳細が表示されます。このウィンドウには、接続されたアクセススイッチが Cisco DNA Center によって管理されている場合でも、AP CDP ネイバーに関する情報が表示されます。</p>

- [Edit Custom Views] : 最初に、[Edit Table Columns] タブでカスタムビューを作成する必要があります。それから、カスタムビューを編集できます。
- [Reset All Settings] : テーブル設定をデフォルト設定にリセットします。

ステップ 8 (任意) [Devices] テーブルからデバイスを管理するには、次のオプションがあります。

名前	説明
タグ	[Tag] をクリックして、デバイスにタグを付けたり、タグを編集および削除したり、ポートグループを作成したりできます。
Add Device	[Add Device] をクリックして、ネットワークまたはコンピューティングデバイスを追加するか、Meraki ダッシュボードまたは Firepower Management Center (FMC) を Cisco DNA Center と統合できます。
[Actions] ドロップダウンリスト	[Actions] ドロップダウンリストを使用して、デバイス、ソフトウェアイメージ、テレメトリなどを管理できます。 各アクションオプションの詳細を表示するには、右隣の情報アイコン (ⓘ) をクリックします。

ステップ 9 (任意) [Devices] テーブルでは、次の操作を実行できます。

- 昇順または降順で列をソートするには、列ヘッダーをクリックします。
- デバイスを 1 つ以上選択するには、デバイス名の横のチェックボックスをオンにします。
- デバイスの詳細を表示するには、デバイス名をクリックしてから、[View Device Details] をクリックします。
- デバイスのコンプライアンスの詳細を表示するには、[Compliance] 列で [Non-Compliant] または [Compliant] をクリックします。
- サイトをデバイスに割り当てるには、[Site] 列の下の [Assign] をクリックします。
- デバイスロールを変更するには、[Device Role] 列の下にある編集アイコンをクリックし、[ACCESS] や [CORE] などのオプションから選択します。
- イメージをゴールデンとしてマークするか、必要な更新を表示するには、[Software Image] 列で [Mark Golden] または [Needs Update] をクリックします。
- エントリの数を変更するには、ウィンドウの一番下までスクロールし、[Show Records] ドロップダウンリストから、表示するエントリの数を選択します。

テーブルに 25 を超えるエントリがあり、別のフォーカスビューを選択した場合、新しい各ビューで同じ数のエントリが表示されます。
- テーブルのページを移動するには、ウィンドウの一番下までスクロールし、[<] または [>] をクリックします。

- (注) 各フォーカスビューには異なる列が表示され、テーブルビューをカスタマイズして、[Compliance]、[Site]、[Device Role]、[Software Image] などの列を含めることができます。

ネットワーク デバイスの削除

デバイスがまだサイトに追加されていない場合に限り、Cisco DNA Center データベースからデバイスを削除できます。

インベントリからワイヤレスセンサーを削除すると、センサーは工場出荷時のデフォルト状態にリセットされるため、再接続すると現在の構成が採用されます。


始める前に

この手順を実行するには、管理者 (ROLE_ADMIN) 権限、およびすべてのデバイスへのアクセス権 ([RBAC Scope] を [ALL] に設定) が必要です。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Inventory] の順に選択します。
- [Inventory] ウィンドウには、検出プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。
- ステップ 2** 削除するデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- (注) さらにチェックボックスをオンにして複数のデバイスを選択できますが、リストの上部にあるチェックボックスをクリックしてすべてのデバイスを選択できます。
- ステップ 3** [Actions] ドロップダウンリストから [Inventory] > [Delete Device] > の順に選択します。
- (注) ISE と統合された Digital Network Architecture Center デバイスを削除すると、削除したデバイスは Cisco ISE の新しい NDG グループに移動します。
- ステップ 4** [Warning] ウィンドウで、[Config Clean-Up] チェックボックスをオンにして、選択したデバイスからネットワーク設定およびテレメトリ設定を削除します。
- ステップ 5** [OK] をクリックして、アクションを確認します。

デバイスをサイトに追加する

デバイスをサイトに追加すると、Syslog サーバーおよび SNMP トラップサーバーとして Cisco DNA Center が設定されます。Syslog レベル 2 が有効になり、グローバルテレメトリを設定できます。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Provision]** > **[Network Devices]** > **[Inventory]** の順に選択します。
[Inventory] ウィンドウには、検出プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。
- ステップ 2** サイトに割り当てるデバイスのチェックボックスをオンにします。
- (注) Firepower Threat Defense (FTD) 高可用性 (HA) ペアのデバイスを異なるサイトに割り当てることはできません。ペアリングされた両方のデバイスを同じサイトに割り当てる必要があります。
- ステップ 3** [Actions] メニューから、**[Provision]** > **[Assign Device to Site]** を選択します。
- ステップ 4** [Assign Device To Site] スライドインペインで、デバイスのサイトアイコン () の横にあるリンクをクリックします。
- ステップ 5** [Choose a Floor] スライドインペインで、デバイスに割り当てるフロアを選択し、[Save] をクリックします。
- ステップ 6** (任意) 複数のデバイスを選択して同じ場所に追加する場合は、最初のデバイスで [Apply to All] チェックボックスをオンにして残りのデバイスに同じ場所を割り当て、[Next] をクリックします。
- ステップ 7** [Application and Endpoint Visibility is enabled on all applicable devices. Check this to skip enabling it on all devices] チェックボックスをオンにします。
- (注) [Application and Endpoint Visibility] の有効化は、コントローラベースのアプリケーション認識 (CBAR) の有効化または展開解除されたアプリケーション可視性サービス (AVS) がサポートされないデバイスについてはデフォルトでスキップされます。
- ステップ 8** [Summary] 設定を確認し、[Next] をクリックします。
- (注) アプリケーションテレメトリとコントローラベースのアプリケーション認識 (CBAR) は、[設計 (Design)] > [ネットワーク設定 (Network Settings)] > [テレメトリ (Telemetry)] ウィンドウでアプリケーションテレメトリと CBAR を有効にすると、該当するネットワークデバイスでデフォルトで有効になります。詳細については、[テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定 \(82 ページ\)](#) を参照してください。
- [Application and Endpoint Visibility] の有効化は、コントローラベースのアプリケーション認識 (CBAR) の有効化または展開解除されたアプリケーション可視性サービス (AVS) がサポートされないデバイスについてはデフォルトでスキップされます。
- ステップ 9** [Visibility of Configurations] の設定に基づいて、使用可能なオプションを選択します。詳細については、『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「[Visibility of Configurations Workflow](#)」[英語] を参照してください。
- デバイスをすぐにサイトに割り当てるには、[Now] オプションボタンをクリックします。
 - 将来の日付と時刻でタスクをスケジュールするには、[Later] オプションボタンをクリックして、展開する日時を定義します。

- Cisco DNA Center を使用すると、構成をシスコネットワークデバイスに展開する前に確認できます。構成は、[Preview Configuration] ウィンドウから確認できます。
CLI 設定をプレビューするには、[Generate Configuration Preview] オプションボタンをクリックします。

ステップ 10 [Visibility and Control of Configurations] の設定に基づいて、使用可能なオプションを選択します。詳細については、『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Visibility of Configurations Workflow」を参照してください。

- 設定をすぐに展開するには、[Now] をクリックします。
- 将来の日付と時刻で展開をスケジュールするには、[Later] をクリックし、展開する日付、時刻、タイムゾーンを定義します。
- 設定をプレビューするには、[Generate Configuration Preview] をクリックします。
可視性のみが有効になっている場合、または可視性と制御の両方が有効になっている場合、[Generate Configuration Preview] がデフォルトで選択され、[Now] と [Later] がグレー表示（使用不可）になります。詳細については、『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Visibility of Configurations Workflow」[英語] を参照してください。

ステップ 11 [Task Name] フィールドにタスク名を入力します。

ステップ 12 デバイスを今すぐ ([Now]) サイトに割り当てるか、後でスケジュールするかを選択します。

ステップ 13 [Assign] をクリックします。

[Now] または [Later] を選択した場合、デバイス構成はスケジュールされた時刻に展開されます。[Tasks] ウィンドウでタスクを確認できます。

ステップ 14 [Generate Configuration Preview] を選択した場合は、[Visibility and Control of Configurations] の設定に応じて、[Preview Configuration] ウィンドウで、次の手順を実行します。

1. デバイス構成を確認します。
詳細については、『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Visibility of Configurations Workflow」[英語] を参照してください。
2. 準備ができれば、[Deploy] または [Submit for Approval] をクリックします。構成の展開、または ITSM 承認のために送信する準備ができていない場合は、[Exit and Preview Later] をクリックします。
(注) ITSM 承認のためにデバイス設定を送信し、すべての設定をプレビューせずにこれらの設定を展開できます。
3. slide-in pane で、設定を展開するタイミングを指定し、タイムゾーンを選択します。可視性と制御が有効になっている場合は、IT 管理者へのメモを追加します。
4. [Submit] をクリックします。
設定が正常に送信されると、成功メッセージが表示されます。
展開するタスクをプレビューしてスケジュールした場合は、[Tasks] ウィンドウでタスクを確認できます。

ITSM 承認のために設定を送信した場合は、[Work Items] ウィンドウで作業項目のステータスを表示できます。承認されていない場合は、ITSM 承認のために作業項目を再送信する必要があります。設定が承認されると、スケジュールされた時刻に展開され、[Tasks] ウィンドウで確認できます。

ステップ 15 CLI 構成をプレビューするには、[Generate Configuration Preview] オプションボタンをクリックして、次の手順を実行します。

1. [Task Name] フィールドに任意のタスク名を入力し、[Preview] をクリックします。
後で、作成した構成のプレビューを使用して、選択したデバイスに展開できます。
2. [Task Submitted] ダイアログボックスで、[Work Items] リンクをクリックします。
(注) このダイアログボックスは表示されてから数秒で表示されなくなります。[Work Items] ウィンドウに移動するには、メニューアイコンをクリックして選択[Activities] > [Work Items] を選択します。
3. [Work Items] ウィンドウで、設定プレビュー要求を送信した CLI プレビュータスクをクリックします。
4. CLI 設定の詳細を表示し、[Deploy] をクリックします。
5. 即座にデバイスを展開するには、[Now] オプションボタンをクリックし、[Apply] をクリックします。
6. 将来の日付と時刻でデバイスの展開をスケジュールするには、[Later] オプションボタンをクリックし、展開する日時を定義します。
7. 確認ウィンドウで [Yes] をクリックします。
(注) CLI タスクは、[Work Items] ウィンドウで完了済みとしてマークされます。このタスクの CLI 設定は表示することはできませんが、再度展開することはできません。

ステップ 16 サイトにデバイスを割り当てるときにデバイスの可制御性が有効になっていると、ワークフローが自動的にトリガーされ、サイトからデバイスにデバイス設定がプッシュされます。
[Focus] ドロップダウンリストから [Provision] を選択し、[Provision Status] 列の [See Details] をクリックします。デバイスの可制御性を有効にしている場合、デバイスにプッシュされる設定が別のウィンドウに表示されます。

次のタスク

[Work Items] ウィンドウでタスクのステータスを確認できます。[Work Items] ウィンドウに移動するには、メニューアイコンをクリックして選択[Activities] > [Work Items] を選択します。

マップへの AP の追加

この手順では、マップに AP を追加する方法について説明します。

始める前に

インベントリにシスコの AP があることを確認してください。ない場合は、[Discovery] 機能を使用して検出します。『[検出の概要 \(16 ページ\)](#)』を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。

ステップ 2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ 3 マップツールバーから、[2D] > [Add/Edit] をクリックします。

デフォルトでは、[Devices] トグルボタンと [Access Points] トグルボタンが選択されています。

ステップ 4 マップの左側のペインで、[Add Access Points] をクリックします。

ステップ 5 [Add Access Points] slide-in pane で、テーブルから次のいずれかを実行します。

- **単一の AP を追加するには**：追加する AP を見つけ、右にスクロールして [Add] をクリックします。
- **複数の AP を追加するには**：追加する AP の横にあるチェックボックスをオンにして、[Add Selected] をクリックします。

(注) 利用可能な検索オプションを使用して、AP を検索できます。[Filter] フィールドを使用し、AP 名、MAC アドレス、モデル、シスコ ワイヤレス コントローラのいずれかを使って AP を検索します。検索では大文字と小文字は区別されません。検索結果がテーブルに表示されます。[追加 (Add)] をクリックして、フロア領域に 1 つ以上の AP を追加します。

編集モードでは、新しく追加された AP は、マップの左ペインの [Unpositioned] カテゴリに表示されます。詳細については、[AP をマップ上に配置する \(74 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 AP をフロアに追加したら、[Add Access Points] slide-in pane を閉じます。

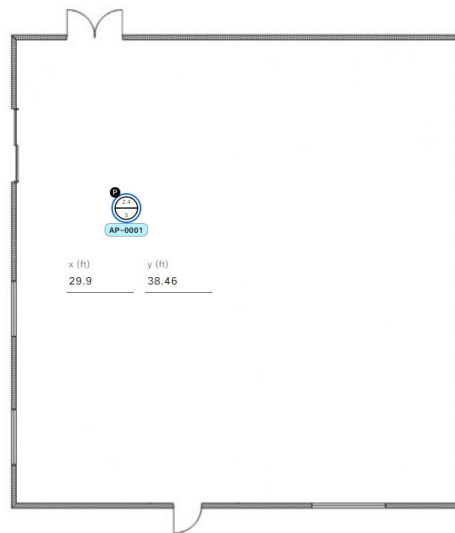
AP をマップ上に配置する

AP をフロアに追加した後、次のいずれかの方法を使用して、AP をマップ上に配置する必要があります。

- マップ上に手動で配置します。フロアマップの詳細に関連付けることができる建物内の参照ポイントを使用して AP のおおよその位置を把握できる場合は、この方法を使用します。

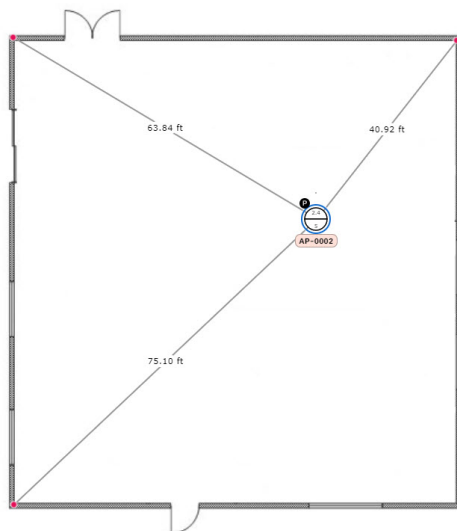


- **x** 座標と **y** 座標を定義します。AP の正確な座標が分かっている、マップ上の位置をできるだけ正確にする場合は、この方法を使用します。

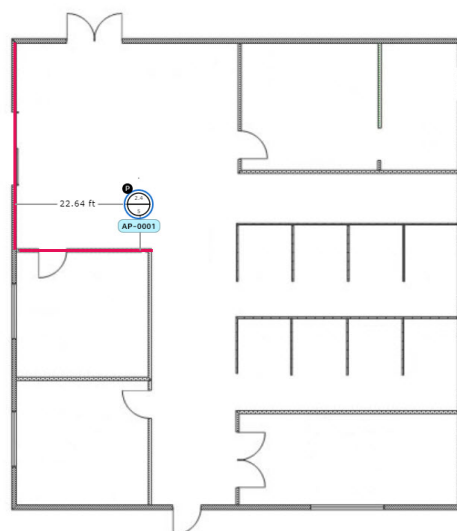


- 3 点を使用して三角測量します。AP までの距離を測定するポイントが数点しかない大規模なオープンスペースがある場合は、この方法を使用します。たとえば、AP から部屋の各隅までを測定できます。

AP をマップ上に配置する



- 2つの壁からの距離に基づいて位置を特定します。2つの壁が交差するスペースに AP が配置されている場合は、それらが互いに垂直でなくても、この方法を使用します。



最初の方法（手動配置）を除くすべての方法では、測定値を手元に用意し、[Global Map Properties] 設定で測定単位が正しく指定されていることを確認する必要があります。詳細については、「[2D マップビューオプション](#)」を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Hierarchy]。

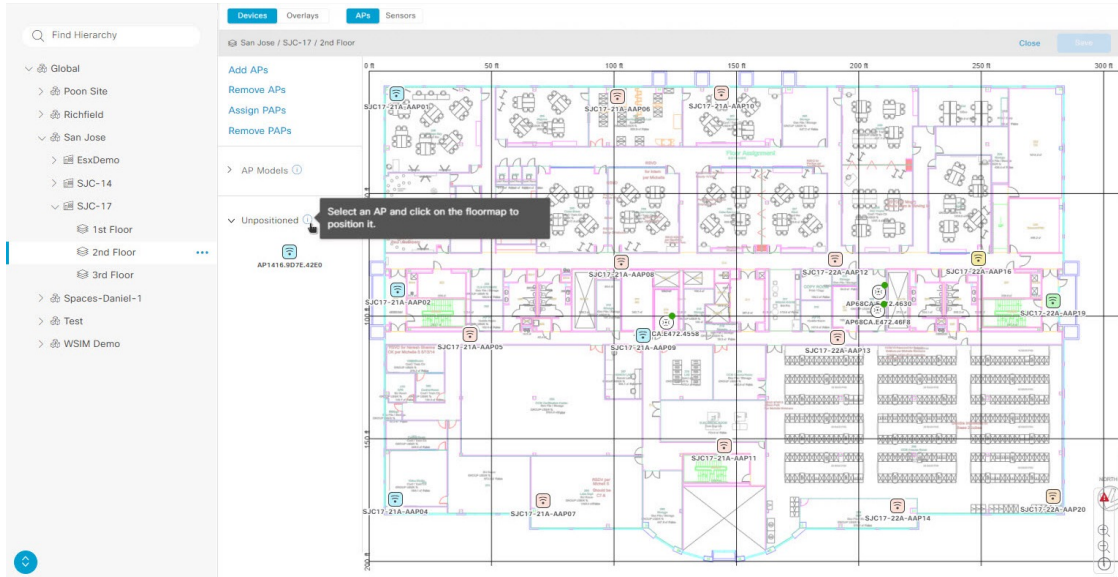
ステップ 2 フロアを左側の階層ツリーから、します。

ステップ 3 マップツールバーで、[2D] > [Add/Edit] をクリックします。

デフォルトでは、[Devices] トグルボタンと [Access Points] トグルボタンが選択されています。

ステップ 4 マップの左側のペインにある [Unpositioned] エリアで、AP をクリックします。

図 7:未配置の AP



ステップ 5 AP を配置するには、次のいずれの方法を使用します。

- AP を配置するフロアマップ上の場所をクリックします。
- [Edit AP] スライドインペインで **x** 座標と **y** 座標を定義します。
- その場所を三角測量します。
 1. [Edit AP] スライドインペインで、[3 points] をクリックします。
 2. フロアマップをクリックして、最初の点を描画します。
 3. ダイアログボックスで、AP から最初の点までの距離を設定し、[Set Distance] をクリックします。
 4. 2 番目と 3 番目の点を同様の方法で定義し、[保存 (Save)] をクリックします。
- フロアマップに 2 つの壁を定義し、定義した壁の間に AP を配置します。
 1. [Edit AP] スライドインペインで、[2 walls] をクリックします。
 2. 最初の壁を定義するには、フロアマップをクリックして線の描画を開始します。再度クリックすると線の描画が終了します。
AP から最初の壁までの距離を設定するためのダイアログボックスが表示されます。
 3. 距離をメートル単位で入力し、[Set Distance] をクリックします。
 4. 同様に 2 つ目の壁を定義し、最初の壁と 2 つ目の壁から AP までの距離が交差する点があることを確認します。
 5. [Save] をクリックします。
壁の間の定義された距離に基づいて AP が配置されます。

ステップ 6 マップツールバーで [Save] をクリックします。

- (注) Cisco Connected Mobile experience (CMX) が Cisco DNA Center と同期されている場合は、ヒートマップ上のクライアントの場所を表示できます。Cisco CMX 設定の作成 (480 ページ) を参照してください。

Cisco DNA Center 向けの Cisco ISE の設定について

ネットワークでのユーザー認証に Cisco ISE を使用している場合、Cisco DNA Center を設定して Cisco ISE を統合できます。統合することで、ユーザー名やオペレーティングシステムなど、有線クライアントの詳細な情報を参照できます。

Cisco ISE の設定は NCP (ネットワーク制御プラットフォーム) 内に一元化されているため、単一の GUI で Cisco ISE を設定できます。Cisco ISE の設定ワークフローは次のとおりです。

1. 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します: **[System] > [Settings] > [External Services] > [Authentication and Policy Servers]** の順に選択して、Cisco ISE サーバーの詳細を入力します。
2. Cisco ISE サーバーが正常に追加されると、NCP は NDP (ネットワーク データ プラットフォーム) との接続を確立し、pxGrid ノード、キーストア、およびトラストストアファイルの詳細を送信します。
3. NDP は、NCP から受信した設定に基づき、pxGrid セッションを確立します。
4. NCP が pxGrid ノードのフェールオーバーを自動的に検出すると、ペルソナが稼働し、NDP に通信します。
5. ISE 環境に変化があると、NDP は新しい pxGrid アクティブノードと新しい pxGrid セッションを開始します。

認証サーバとポリシー サーバの設定

Cisco DNA Center は AAA サーバをユーザ認証に使用し、Cisco ISE をユーザ認証とアクセス制御の両方に使用します。この手順を使って Cisco ISE を含む AAA サーバを設定します。

始める前に

- Cisco ISE を使用してポリシーと AAA 機能の両方を実行する場合、Cisco DNA Center および Cisco ISE が統合されていることを確認します。
- 他の製品 (Cisco ISE 以外) で AAA 機能を使用している場合、以下に注意してください。
 - AAA サーバーで Cisco DNA Center を登録します。これには、AAA サーバーと Cisco DNA Center の共有秘密を定義することが含まれます。

- AAA サーバーで Cisco DNA Center の属性名を定義します。
- Cisco DNA Center マルチホストクラスタの設定の場合は、AAA サーバーのマルチホストクラスタに、すべての個別のホスト IP アドレスと仮想 IP アドレスを定義します。
- Cisco ISE を設定する前に、以下の点を確認してください。
 - Cisco ISE をネットワークに展開していること。サポートされている Cisco ISE バージョンの詳細については、『[Cisco DNA Center Compatibility Matrix](#)』を参照してください。Cisco ISE のインストールについては、[Cisco Identity Services Engine インストールおよびアップグレードガイド \[英語\]](#) を参照してください。
 - スタンドアロン ISE 展開環境がある場合は、Cisco DNA Center を Cisco ISE ノードと統合し、そのノード上で pxGrid サービスと外部 RESTful サービス (ERS) を有効にする必要があります。



(注) pxGrid 2.0 では Cisco ISE の展開で最大 4 つの pxGrid ノードを使用できますが、Cisco DNA Center 2.2.1.x 以前のリリースは 2 つを超える pxGrid ノードをサポートしていません。

• 分散型 Cisco ISE 展開がある場合：

- Cisco DNA Center をプライマリポリシー管理ノード (PAN) と統合し、PAN 上で ERS を有効にする必要があります。



(注) PAN 経由で ERS を使用することを推奨します。ただし、バックアップの場合は、PSN 上で ERS を有効にできます。

- 分散型展開環境内のいずれかの Cisco ISE ノード上で pxGrid サービスを有効化する必要があります。PAN 上で pxGrid サービスを有効化することを選択できますが、必須ではありません。分散型展開環境にある任意の Cisco ISE ノード上で pxGrid を有効にできます。
- TrustSec または SD-Access のコンテンツと PAC を処理するように Cisco ISE で設定する PSN は、**[Work Centers] > [Trustsec] > [Trustsec Servers] > [Trustsec AAA Servers]** でも定義する必要があります。詳細については、『[Cisco Identity Services Engine Administrator Guide](#)』を参照してください。
- ポート 443、5222、8910、9060 で Cisco DNA Center と Cisco ISE の通信を有効にする必要があります。
- pxGrid が有効化されている Cisco ISE ホストには、Cisco ISE eth0 インターフェイスの IP アドレス上の Cisco DNA Center から到達できる必要があります。

- Cisco ISE ノードは、アプライアンス NIC 経由でファブリック アンダーレイ ネットワークに到達できます。
- Cisco ISE 管理ノード証明書のサブジェクト名またはサブジェクト代替名 (SAN) のいずれかに Cisco ISE の IP アドレスまたは FQDN が含まれている必要があります。
- Cisco DNA Center システム証明書の SAN フィールドに、Cisco DNA Center アプライアンスの IP アドレスと FQDN の両方がリストされている必要があります。



(注) Cisco ISE 2.4 パッチ 13、2.6 パッチ 7、および 2.7 パッチ 3 では、pxGrid 証明書に Cisco ISE のデフォルトの自己署名証明書を使用している場合、証明書が Cisco ISE によって拒否されることがあります。これは、その証明書の古いバージョンに、SSL サーバとして指定された Netscape Cert Type 拡張があるためです。これは、クライアント証明書が必要なため失敗します。

この問題は Cisco ISE 3.0 以降では発生しません。詳細については、[Cisco Cloud APIC リリースノート \[英語\]](#) を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Settings] > [External Services] > [Authentication and Policy Servers]。

ステップ 2 [Add] ドロップダウンリストから、[AAA] または [ISE] を選択します。

ステップ 3 プライマリ AAA サーバーを設定するには、次の情報を入力します。

- [Server IP Address] : AAA サーバの IP アドレス。
- [Shared Secret] : デバイス認証のキー。共有秘密の長さは、最大 100 文字です。

(注) 既存の Cisco ISE クラスタの一部である PSN をプライマリ AAA サーバーに設定しないでください。

ステップ 4 Cisco ISE サーバーを設定するには、次の詳細情報を入力します。

- [Server IP Address] : Cisco ISE サーバーの IP アドレス。
- [Shared Secret] : デバイス認証のキー。
- [Username] : Cisco ISE に HTTPS 経由でログインするために使用するユーザー名。
- [Password] : Cisco ISE HTTPS ユーザー名のパスワード。

(注) ユーザー名とパスワードは、ネットワーク管理者に属する ISE 管理者アカウントである必要があります。

- [FQDN] : Cisco ISE サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) 。

- (注)
- Cisco ISE ([Administration] > [Deployment] > [Deployment Nodes] > [List]) で定義されている FQDN をコピーして、このフィールドに直接貼り付けることをお勧めします。
 - 入力した FQDN は、Cisco ISE 証明書で定義されている FQDN、共通名 (CN) または Subject Alternative Name (SAN) と一致する必要があります。

FQDN は、次の形式で、ホスト名およびドメイン名の 2 つのパートで構成されています。

hostname.domainname.com

たとえば、Cisco ISE サーバーの FQDN は *ise.cisco.com* である可能性があります。

- [Virtual IP Address (es)] : Cisco ISE ポリシーサービスノード (PSN) が背後に配置されているロードバランサの仮想 IP アドレス。異なるロードバランサの背後に複数の PSN ファームがある場合は、最大 6 つの仮想 IP アドレスを入力できます。

ステップ 5 [Advanced Settings] をクリックして、設定を構成します。

- [Connect to pxGrid] : pxGrid 接続を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

Cisco DNA Center システム証明書を pxGrid クライアント証明書として使用する場合 (pxGrid クライアントとして Cisco DNA Center システムを認証するために Cisco ISE に送信) 、 [Use Cisco DNA Center Certificate for pxGrid] チェックボックスをオンにします。動作環境で使用されるすべての証明書を同じ CA で生成する必要がある場合は、このオプションを使用できます。このオプションを無効にすると、Cisco DNA Center は、システムが使用する pxGrid クライアント証明書を生成するための要求を Cisco ISE に送信します。

このオプションを有効にする場合は、次のことを確認してください。

- Cisco DNA Center 証明書が、Cisco ISE で使用中の CA と同じ認証局 (CA) によって生成されていること (そうでない場合、pxGrid 認証は失敗します) 。
 - [Certificate Extended Key Use (EKU)] フィールドに「クライアント認証」が含まれていること。
- [Protocol] : [TACACS] と [RADIUS] (デフォルト) 。両方のプロトコルを選択できます。

注目 ここで Cisco ISE サーバーの TACAS を有効にしない場合は、ネットワークデバイス認証用に AAA サーバーを設定するときに、 [Design] > [Network Settings] > [Network] で Cisco ISE サーバーを TACAS サーバーとして設定できません。
 - [Authentication Port] : AAA サーバーへの認証メッセージのリレーに使用されるポート。デフォルトの UDP ポートは 1812 です。
 - [Accounting Port] : AAA サーバーへの重要なイベントのリレーに使用されるポート。デフォルトの UDP ポートは 1813 です。
 - [Port] : デフォルトの TACACS ポートは 49 です。
 - [Retries] : 接続の試行が中止される前に、Cisco DNA Center が AAA サーバへの接続を試みた回数。デフォルトの試行回数は 3 回です。

- [Timeout] : 接続の試行が中止される前に、デバイスが AAA サーバーの応答を待機するタイムアウト期間。デフォルトのタイムアウトは 4 秒です。

(注) 必要な情報を入力すると、Cisco ISE は 2 つのフェーズを経て Cisco DNA Center と統合されます。統合が完了するまでには数分かかります。フェーズごとの統合ステータスは、[Authentication and Policy Servers] ウィンドウと [System 360] ウィンドウに表示されます。

Cisco ISE サーバー登録フェーズ :

- [Authentication and Policy Servers] ウィンドウ : 「進行中」
- [System 360] ウィンドウ : 「プライマリ使用可能」

pxGrid サブスクリプション登録フェーズ :

- [Authentication and Policy Servers] ウィンドウ : 「アクティブ」
- [System 360] ウィンドウ : 「プライマリ使用可能」 および 「pxGrid 使用可能」

設定された Cisco ISE サーバーのステータスがパスワードの変更により [FAILED] と表示されている場合は、[Retry] をクリックし、パスワードを更新して Cisco ISE 接続を再同期します。

ステップ 6 [Add] をクリックします。

ステップ 7 セカンダリサーバーを追加するには、前述の手順を繰り返します。

テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定

Cisco DNA Center では、デバイスを特定のサイトに割り当てる際のグローバルネットワーク設定を構成できます。テレメトリを使用すると、ネットワークデバイスがポーリングされ、SNMP サーバー、syslog サーバー、NetFlow コレクタ、または有線クライアントの設定に従ってテレメトリデータが収集されます。

始める前に

サイトを作成し、サイトにデバイスを割り当てます。『[サイトの作成、編集、削除 \(34 ページ\)](#)』を参照してください。

ステップ 1 [Design] > [Network Settings] > [Telemetry] の順に選択します。左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します :

ステップ 2 [SNMP Traps] エリアで、次のいずれかを実行します。

- [Use Cisco DNA Center as SNMP trap server] チェックボックスをオンにします。
- [Add an external SNMP trap server] チェックボックスをオンにし、外部 SNMP トラップサーバーの IP アドレスを入力します。選択したサーバーによってネットワークデバイスから SNMP トラップとメッセージが収集されます。

ステップ 3 [Syslogs] エリアで、次のいずれかを実行します。

- [Use Cisco DNA Center as syslog server] チェックボックスをオンにします。
- [Add an external syslog server] チェックボックスをオンにし、外部 syslog サーバーの IP アドレスを入力します。

ステップ 4 [Application Visibility] 領域で、[Enable by default on wireless access devices] チェックボックスをオンにして、ネットワークデバイスサイトの割り当て時にアプリケーションテレメトリおよびコントローラベースのアプリケーション認識 (CBAR) をデフォルトで有効にします。

次のいずれかを実行します。

- [Use Cisco DNA Center as NetFlow collector] オプションボタンをクリックします。デバイスインターフェイスの NetFlow の構成は、デバイスでアプリケーションテレメトリを有効にした場合のみ完了します。NetFlow の宛先サーバーをデバイスに設定するには、サイトレベルで NetFlow コレクタを選択します。
- [Add Cisco Telemetry Broker (CTB)] オプションボタンをクリックし、Cisco Telemetry Broker の IP アドレスとポート番号を追加します。Cisco Telemetry Broker はデバイスから NetFlow レコードを収集し、その情報を宛先に送信します。

(注) NetFlow レコードを受信するには、Cisco Telemetry Broker で Cisco DNA Center が宛先として設定されている必要があります。Cisco DNA Center が宛先として設定されていない場合、アプリケーションエクスペリエンスは機能しません。

ステップ 5 [Wired Endpoint Data Collection] エリアで、[Enable Cisco DNA Center Wired Endpoint Data Collection At This Site] オプションボタンをクリックして、サイトのアクセスデバイスで IP デバイストラッキング (IPDT) をオンにします。

サイトの IPDT を有効にしない場合は、[Disable] オプションボタン (デフォルト) をクリックします。

(注) CLI 構成をプレビューするには、IPDT を有効にする必要があります。デバイスをプロビジョニングする場合、デバイスに展開する前に CLI 構成をプレビューできます。

ステップ 6 [Wireless Controller, Access Point and Wireless Clients Health] エリアで、[Enable Wireless Telemetry] チェックボックスをオンにして、ネットワーク内のワイヤレスコントローラ、AP、およびワイヤレスクライアントの状態をモニターします。

ステップ 7 [Save] をクリックします。

Cisco AI Network Analytics の設定

この手順で、Cisco AI Analytics 機能を有効にして、ネットワークデバイスとインベントリ、サイト階層、トロポジデータからネットワークイベントのデータを Cisco AI Cloud にエクスポートします。

始める前に

- Cisco DNA Center 用の Cisco DNA Advantage ソフトウェアライセンスを保有していることを確認してください。AI ネットワーク分析 アプリケーションは、Cisco DNA Advantage ソフトウェアライセンスに含まれています。
- AI Network Analytics アプリケーションの最新バージョンがインストールされていることを確認してください。Cisco Digital Network Architecture Center 管理者ガイドの「パッケージと更新のダウンロードとインストール」のトピックを参照してください。
- ネットワークまたは HTTP プロキシが、次のクラウドホストへのアウトバウンド HTTPS (TCP 443) アクセスを許可するように設定されていることを確認します。
 - [api.use1.prd.kairos.ciscolabs.com] (米国東部地域)
 - [api.euc1.prd.kairos.ciscolabs.com] (EU 中央地域)

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Settings]の順に選択します。

ステップ 2 [External Services] までスクロールし、[Cisco AI Analytics] を選択します。
AI ネットワーク分析 ウィンドウが開きます。

AI Network Analytics

Using AI and Machine Learning, AI Network Analytics drives intelligence in the network, empowering administrators to accurately and effectively improve performance and issue resolution. AI Network Analytics eliminates noise and false positives significantly by learning, modeling and adapting to your specific network environment.

Configure

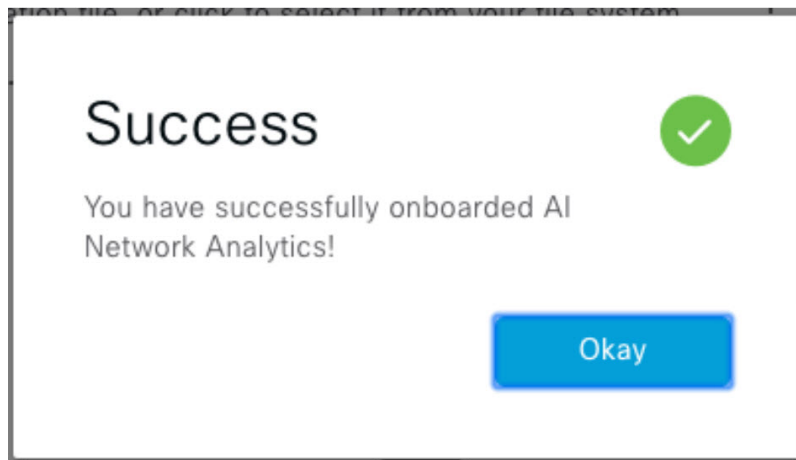
Recover from a config file ⓘ

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- アプライアンスに以前のバージョンの Cisco AI Network Analytics がインストールされている場合は、次の手順を実行します。
 1. [Recover from a config file] をクリックします。
[Restore] AI ネットワーク分析ウィンドウが開きます。

2. 表示されたエリアにコンフィギュレーション ファイルをドラッグアンドドロップするか、ファイルシステムからファイルを選択します。
3. [Restore] をクリックします。

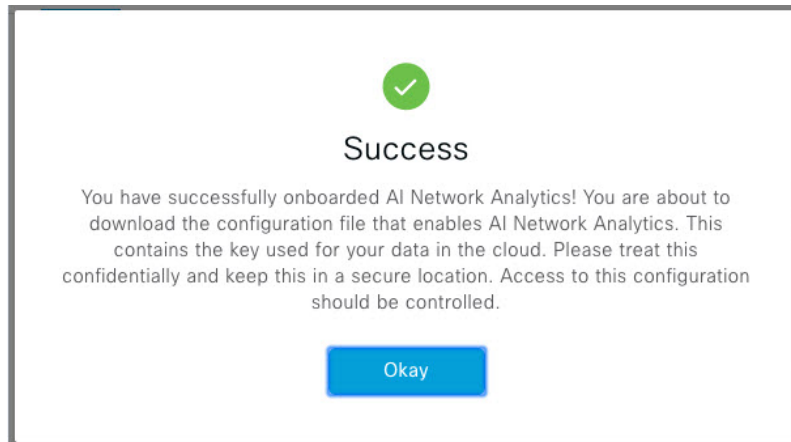
Cisco AI Network Analytics の復元には数分かかる場合があります。その後、[Success] ダイアログボックスが表示されます。



- Cisco AI Network Analyticsを初めて構成する場合、次の手順を実行します。

1. [Configure] をクリックします。
2. [Where should we securely store your data?] 領域で、データを保存する場所を選択します。[Europe (Germany)] または [US East (North Virginia)] を選択できます。
[Testing cloud connectivity...] タブで示されているように、システムはクラウド接続のテストを開始します。クラウド接続のテストが完了すると、[Testing cloud connectivity...] タブが [Cloud connection verified] に変わります。
3. [次へ (Next)] をクリックします。
[Terms and Conditions] ウィンドウが表示されます。
4. [Accept Cisco Universal Cloud Agreement] チェックボックスをオンにして契約条件に同意してから、[Enable] をクリックします。

Cisco AI Network Analytics が有効になるまでに数分かかる場合があります。その後、[Success] ダイアログボックスが表示されます。



- ステップ 4 [Success] ダイアログボックスで [Okay] をクリックします。
AI ネットワーク分析 ウィンドウが表示され、[Enable AI Network Analytics] トグルボタンが表示されます。
- ステップ 5 (推奨) **AI ネットワーク分析** ウィンドウで、[Download Configuration] ファイルをクリックします。

Cisco AI Network Analytics の無効化

Cisco AI Network Analytics のデータ収集を無効にするには、次のように AI Network Analytics 機能を無効にする必要があります。

- ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Settings]の順に選択します。
- ステップ 2 [External Services] までスクロールし、[Cisco AI Analytics] を選択します。
 各機能のチェックマーク () は、その機能が有効になっていることを示します。チェックボックスがオフの場合 ()、機能は無効になっています。
- ステップ 3 [AI Network Analytics] 領域で、[Enable AI Network Analytics] トグルボタンをクリックしてオフにします ()。
- ステップ 4 [Update] をクリックします。
- ステップ 5 Cisco AI Network Analytics クラウドからネットワークデータを削除するには、Cisco Technical Response Center (TAC) に連絡してサポートリクエストをオープンします。
- ステップ 6 以前の設定が間違っていて配置されている場合は、[Download configuration file] をクリックします。

機械推論ナレッジベースの更新

機械推論ナレッジパックは、機械推論エンジン（MRE）がセキュリティの問題を特定し、根本原因の自動分析を改善するために使用する、段階的なワークフローです。これらのナレッジパックは、より多くの情報を受信しながら継続的に更新されます。機械推論ナレッジベースは、これらのナレッジパック（ワークフロー）のリポジトリです。最新のナレッジパックは、機械推論ナレッジベースが毎日自動で更新されるよう Cisco DNA Center を設定するか、手動で更新することで入手できます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Settings] の順に選択します。

ステップ 2 [External Services] まで下にスクロールし、[Machine Reasoning Knowledge Base] を選択します。
[Machine Reasoning Knowledge Base] ウィンドウには、次の情報が表示されます。

- [INSTALLED]：インストールされている機械推論ナレッジベースパッケージのバージョンとインストール日が表示されます。

機械推論ナレッジベースに新しいアップデートがある場合は、[Machine Reasoning Knowledge Base] ウィンドウに [AVAILABLE UPDATE] が表示され、アップデートの [Version] と [Details] が示されます。

- [AUTO UPDATE]：機械推論ナレッジベースが Cisco DNA Center で自動的に毎日更新されます。
- [CISCO CX CLOUD SERVICE FOR NETWORK BUG IDENTIFIER, SECURITY ADVISORY, FIELD NOTICES AND EOX]：自動構成を実行できる CX Cloud と Cisco DNA Center を統合します。この統合により、Cisco DNA Center のセキュリティアドバイザリ ツールから直接デバイスの脆弱性を検出する機能が更に強化されました。

ステップ 3 （推奨）[AUTO UPDATE] チェックボックスをオンにして、機械推論ナレッジベースを自動的に更新します。

[Next Attempt] 領域に、次回の更新の日付と時刻が表示されます。

自動更新は、Cisco DNA Center がクラウドの機械推論エンジンに正常に接続されている場合にのみ実行できます。

ステップ 4 機械推論ナレッジベースを Cisco DNA Center で手動で更新するには、次のいずれかを実行します。

- [AVAILABLE UPDATES] の下にある [Update] をクリックします。[Success] ポップアップウィンドウが表示され、更新のステータスが表示されます。
- 機械推論ナレッジベースをローカルマシンに手動でダウンロードして Cisco DNA Center にインポートします。次の手順を実行します。

1. [Download] をクリックします。

[Opening mre_workflow_signed] ダイアログボックスが表示されます。

2. ダウンロードしたファイルを開くか、ローカルマシンの目的の場所に保存して、[OK] をクリックします。

3. [Import] をクリックして、ダウンロードした機械推論ナレッジベースをローカルマシンから Cisco DNA Center にインポートします。

ステップ 5 [CISCO CX CLOUD SERVICE FOR NETWORK BUG IDENTIFIER AND SECURITY ADVISORY] チェックボックスをオンにして、ネットワークバグ ID およびセキュリティアドバイザリとの Cisco CX Cloud の連携を有効にします。

ステップ 6 [Security Advisories Settings] エリアで、[RECURRING SCAN] トグルボタンをクリックして、毎週の定期的なスキャンを有効または無効にします。

ステップ 7 [CISCO CX CLOUD] トグルボタンをクリックして、Cisco CX Cloud を有効または無効にします。


ローカリゼーションの有効化

Cisco DNA Center の GUI ウィンドウは、英語（デフォルト）、中国語、日本語、または韓国語で表示できます。


デフォルトの言語を変更するには、次のタスクを実行します。

ステップ 1 ブラウザで、サポートされている言語（中国語、日本語、または韓国語）のいずれかにロケールを変更します。

- Google Chrome から、次の手順を実行します。

1. 右上隅にある  アイコンをクリックし、[Settings] を選択します。
2. [Languages] をクリックします。
3. [Add Languages] をクリックします。
4. [Add languages] ダイアログボックスで、[Chinese]、[Japanese]、または [Korean] を選択して、[Add] をクリックします。

- Mozilla Firefox から、次の手順を実行します。

1. 右上隅にある  アイコンをクリックし、[Settings] を選択します。
2. [Language and Appearance] > [Language] エリアで、[Choose] をクリックします。
3. [Select a language to add] ドロップダウンリストから、[Chinese]、[Japanese]、または [Korean] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

ステップ 2 Cisco DNA Center にログインします。

選択した言語で GUI が表示されます。

図 8: ローカライズされたログインウィンドウの例



Cisco DNA Center

ネットワークの設計、自動化、保証

ユーザ名*

パスワード*

ログイン



第 5 章

企業全体の健全性のモニターとトラブルシューティング

- [企業について \(91 ページ\)](#)
- [企業の全体的な健全性のモニターとトラブルシューティング \(91 ページ\)](#)

企業について

企業全体の健全性のモニターとトラブルシューティングに、アシュアランスを使用できます。企業はネットワークデバイスとクライアントで構成されています。

ネットワークは、ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、アクセスポイントを含む、1つまたは複数のデバイスで構成されています。メンテナンスモードのクライアントおよびデバイスはネットワーク健全性スコアに含まれないことに注意してください。

クライアントが、ネットワークデバイス（アクセスポイントやスイッチ）に接続されているエンドデバイス（コンピュータ、電話など）であること。Cisco DNA Center は、有線クライアントとワイヤレスクライアントの両方をサポートしています。

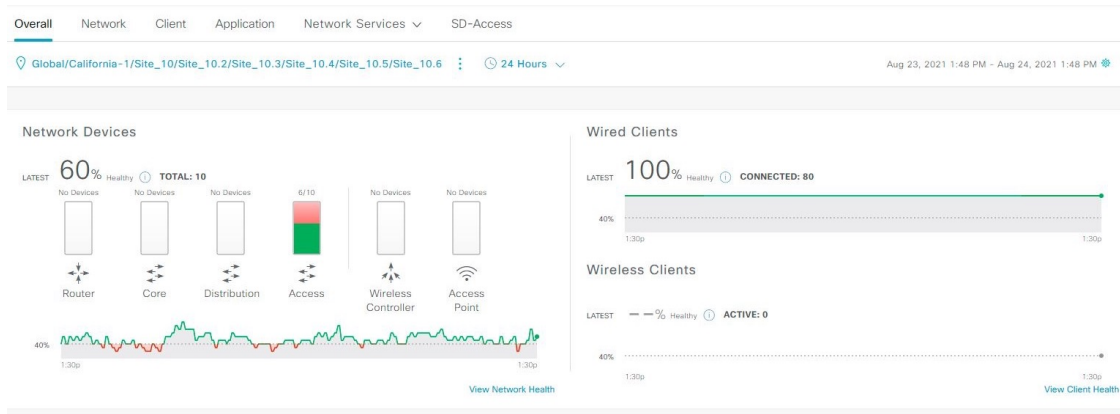
企業の全体的な健全性のモニターとトラブルシューティング

この手順を使用して、ネットワークデバイスやクライアントを含む企業の健全性の概要を把握し、対処する必要がある潜在的な問題があるかどうかを判断します。








ステップ 1 [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[アシュアランス](#)。

[Overall health] ダッシュボードが表示されます。

図 9: [Overall Health] ダッシュボード



ステップ 2 次の機能には、[Overall] 正常性ダッシュボードの上部のメニューバーを使用します。

[Overall] 正常性ダッシュボードの上部のメニューバー	
アイテム	説明
<p> Global</p> <p>[Location] ペイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> •  をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。 • ロケーションアイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して [Sites] テーブルを表示します。 <p>[Sites Details] テーブルから、次の機能を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  をクリックして [Sites] テーブルを非表示にします。 •  : このトグルボタンをクリックして、ドロップダウンリストから [Hierarchical Site View] または [Building View] を選択します。テーブルには、特定のロケーションの正常なクライアントとネットワークデバイスの割合が選択に基づいて表示されます。 •  : このトグルボタンをクリックすると、企業のすべてのサイトの正常性が、地理的ロケーションに基づいた正常性マップで表示されます。デフォルトでは、提示されるサイトは問題の重大度に従って色分けされています。 <p>ヘルス スコアの色は、その重大度を示します。正常性は 1 ~ 10 のスケールで測定され、10 が最高スコアになります。スコア 0 は、データを取得できなかったことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Overall] ダッシュボードに表示されます。
時間範囲	過去 3 時間、24 時間、または 7 日間のデータを表示できます。

[Overall] 正常性ダッシュボードの上部のメニューバー	
アイテム	説明
[Actions] ドロップダウン リスト	<p>[Overall] ダッシュボードを PDF 形式にエクスポートできます。[Export Dashboard] をクリックしてプレビュー ページを表示し、[Save] をクリックします。</p> <p>ドロップダウンリストから [Edit Dashboards] を選択すると、ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。ダッシュレットの位置の変更 (392 ページ) および カスタムダッシュボードの作成 (387 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 3 次の機能には、[Overall Health Summary] ダッシュレットを使用します。

[Overall Health Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Network Devices]	<p>Network Score : 企業全体での正常 (良好) なデバイス (ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、アクセスポイント) の割合。ネットワークヘルススコア (129 ページ) を参照してください。</p> <p>Device Category Health Score : デバイスカテゴリ ([Router]、[Core] (サードパーティ製デバイスを含む)、[Distribution]、[Access]、[Controller]、[Access Point]) で正常 (良好) なネットワークデバイスの割合。</p> <p>(注) SD-Access ファブリックを選択すると、このエリアには [Fabric Edge]、[Fabric Border]、および [Fabric Control Plane] のカテゴリで正常なネットワークデバイスの割合が表示されます。</p> <p>[View Network Health] をクリックして、[Network Health] ダッシュボードを開きます。ネットワークの健全性のモニターとトラブルシューティング (97 ページ) を参照してください。</p>
[Wired Clients] と [Wireless Clients]	<p>有線クライアントとワイヤレスクライアントの間のスコア分布を示します。[Wired] スコアまたは [Wireless] スコアは、企業全体の正常 (良好) な有線またはワイヤレスのクライアントデバイスの割合です。クライアントヘルススコア (170 ページ) を参照してください。</p> <p>[View Client Health] をクリックすると、[Client Health] ダッシュボードが開きます。すべてのクライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング (139 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 4 次の機能には、[Network Services] ダッシュレットを使用します。

[Network Services] ダッシュレット	
アイテム	説明
AAA	<p>企業全体のすべての AAA サーバーについて、成功したトランザクションと失敗したトランザクションの合計パーセンテージを示します。</p> <p>[View AAA Dashboard] をクリックして、[Network Services AAA] ダッシュボードを開きます。AAA ネットワークサービスの監視 (209 ページ) を参照してください。</p>
DNS	<p>企業全体のすべての DNS サーバーについて、成功したトランザクションと失敗したトランザクションの合計パーセンテージを示します。</p> <p>[View DNS Dashboard] をクリックして、[Network Services DNS] ダッシュボードを開きます。DNS ネットワークサービスの監視 (216 ページ) を参照してください。</p>
[DHCP]	<p>企業全体のすべての DHCP サーバーについて、成功したトランザクションと失敗したトランザクションの合計パーセンテージを示します。</p> <p>[View DHCP Dashboard] をクリックして、[Network Services DHCP] ダッシュボードを開きます。DHCP ネットワークサービスの監視 (212 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 5 次の機能には、[Site Analytics] ダッシュレットを使用します。

[Site Analytics] ダッシュレット
<p>[Site Analytics] ダッシュレットには、集約されたカバレッジ、オンボーディング、ローミング、および接続速度の観点から、ワイヤレスネットワークのパフォーマンスが最も低いサイトが表示されます。パフォーマンスは、デフォルトのパフォーマンスしきい値または [Site Analytics Settings] ウィンドウで設定したしきい値に基づいています。詳細については、サイト分析設定の構成 (259 ページ) を参照してください。</p> <p>サイト分析データを収集するには、AI Network Analytics を有効にする必要があります。[Enable AI Network Analytics] リンクをクリックして、このシステム設定を構成できる [Cisco AI Analytics] ウィンドウに直接移動します。詳細については、Cisco AI Network Analytics の設定 (84 ページ) を参照してください。</p> <p>各 KPI カテゴリで、サイト名をクリックしてサイトに関する詳細情報を表示するか、[View Site Analytics] をクリックして [Site Analytics] ウィンドウに直接移動します。詳細については、サイト分析を使用したネットワークのモニターとトラブルシューティング (247 ページ) を参照してください。</p> <p>(注) AI Network Analytics が有効になっていない場合、アシュアランスではサンプルデータを含むダッシュレットの例が表示されます。</p>

ステップ 6 次の機能には、[Top 10 Issue Type] ダッシュレットを使用します。

[Top 10 Issues] ダッシュレット

対処する必要がある上位 10 件の問題を表示します（存在する場合）。問題は色分けされ、事前割り当てされた P1 から始まる優先度レベルで並び替えられます。

問題をクリックすると、スライドインペインが開き、問題のタイプに関する追加の詳細が表示されます。スライドインペインで問題のインスタンスをクリックします。必要に応じて、次の操作を実行できます。

- 問題を解決するには、[Status] ドロップダウンメニューで [Resolve] を選択します。
- 問題のインスタンスを無視するには、次の手順を実行します。
 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。
 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定します。
 3. [Confirm] をクリックします。

[View All Issues] をクリックすると、[Open Issues] ウィンドウが開きます。

問題の詳細については、[未解決の問題を表示（263 ページ）](#) を参照してください。



第 6 章

ネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング

- ネットワークについて (97 ページ)
- ネットワークの健全性のモニターとトラブルシューティング (97 ページ)
- デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング (107 ページ)
- ネットワークデバイスの正常性スコアの設定 (126 ページ)
- ファブリック デバイスで SNMP コレクタ メトリックを有効化 (127 ページ)
- ネットワークの正常性スコアと KPI メトリックについて (128 ページ)

ネットワークについて

ネットワークは、ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、アクセスポイントを含む、1 つまたは複数のデバイスで構成されています。メンテナンスモードのクライアントおよびデバイスはネットワーク健全性スコアに含まれないことに注意してください。

ネットワークの健全性のモニターとトラブルシューティング

この手順を使用してネットワークの概要を把握して、対処する必要がある潜在的な問題があるかどうかを判断します。

ネットワークは、ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、アクセスポイントを含む、1 つまたは複数のデバイスで構成されています。メンテナンスモードのクライアントおよびデバイスはネットワーク健全性スコアに含まれないことに注意してください。



(注) ネットワークの正常性スコアは、場所のみに基づいて計算されます。デバイスの場所が不明な場合、そのデバイスはネットワークヘルススコアに考慮されません。

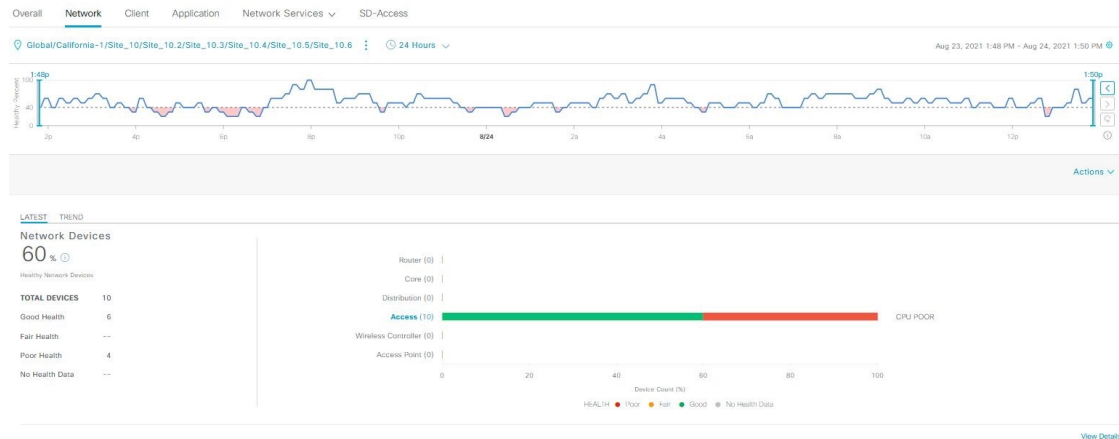
ステップ 1 [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス**。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。


ステップ 2 [Network] タブをクリックします。

[Network health] ダッシュボードが表示されます。

図 10: [Network Health] ダッシュボード



ステップ 3 上部のメニューバーで場所オプション ( Global) をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。

ステップ 4 ロケーションアイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して [Sites] テーブルを表示します。

ロケーションペインには、次の機能があります。

ロケーションオプション	
アイテム	説明
 トグルボタン [List View]	<p>このトグルボタンをクリックすると、ネットワークのサイトとビルディングがリスト形式で表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストをクリックして、次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Hierarchical Site View] : リストをサイトレベルで並べ替えます。[Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Network] ダッシュボードに表示されます。 • [Building View] : リストをビルディングレベルで並べ替えます。[Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Network] ダッシュボードに表示されます。
 トグルボタン [Map View]	<p>このトグルボタンをクリックすると、すべてのネットワークサイトの正常性が、地理的ロケーションに基づいたネットワーク正常性マップで表示されます。デフォルトでは、ネットワークサイトは問題の重大度に従って色分けされています。</p>
 Hide Sites	<p>[Hide Sites] アイコンをクリックして、サイトテーブルを非表示にします。</p>
 トポロジツール	<p>このアイコンをクリックすると、次のビューがある [Topology] ウィンドウが開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Geographical View] : このトグルボタンをクリックすると、ネットワークが地理的マップで表示されます。  <p>ロケーションにカーソルを合わせると、正常なデバイスの割合が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  [Topology View] : このトグルボタンをクリックすると、ネットワークにおけるコンポーネントの接続状況を示すトポロジが表示されます。 <p>デバイスにカーソルを重ねると、デバイスロール、IP アドレス、ソフトウェアバージョンなどのデバイス情報が表示されます。デバイスの 360 度ビューを取得するには、[View Details 360] をクリックします。</p>

ステップ 5 上部のメニューバーにある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ダッシュボードに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 Hours]、[24 Hours]、または [7 Days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。

c) [Apply] をクリックします。

ステップ 6 上部のメニューバーにある [Actions] ドロップダウンリストをクリックして、次の機能を実行できます。

- [Export Dashboard] : ネットワークダッシュボードを PDF 形式にエクスポートできます。[Export Dashboard] をクリックしてプレビュー ページを表示し、[Save] をクリックします。
- [Edit Dashboard] : ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。 [ダッシュレットの位置の変更 \(392 ページ\)](#) および [カスタムダッシュボードの作成 \(387 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 7 次の機能には、[Network Health] タイムラインを使用します。

より詳細な時間範囲を指定できます。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。これにより、ダッシュボードにカスタムチャート用の内容が設定されます。

タイムラインの右側にある矢印ボタンを使用して、最大 30 日間のデータを表示できます。

タイムラインチャート内でカーソルを重ねると、特定の時刻のネットワークデバイスのヘルススコアパーセンテージが表示されます。

点線の横線は、正常なネットワークのしきい値を表します。デフォルトでは、40%に設定されています。

しきい値を変更するには、次の手順を実行します。

1. 情報アイコン (ⓘ) にカーソルを合わせます。
2. ツールチップで、編集アイコン (✎) をクリックします。
3. [Network Health Threshold] スライドインペインで、青色の線をクリックしてドラッグし、しきい値のパーセンテージを設定します。
4. [Save] をクリックします。

(注) [Network Device Summary] の [Health Score] が赤色で表示されている場合、カスタムしきい値を変更すると、結果が変わります。カスタムしきい値によって、正常または異常なデバイスの数が変わることはありません。

(注) タイムラインのギャップは、デバイスからヘルスデータが取得されなかったことを示します。この状況は、デバイスがメンテナンスモードのときに発生する可能性があります。

ステップ 8 次の機能には、[Network Devices Health Summary] ダッシュレットを使用します。

[Network Device Health Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Network Device Health Summary] エリア	

[Network Device Health Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
	<p>次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Latest] : デフォルトで表示されます。左側のペインには、ネットワークの正常性の概要スコアとデバイスの合計数が表示されます。右側のペインには、チャートが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク正常性概要スコア : ネットワークの正常性の概要スコアは、ネットワーク全体または選択したサイトにおける正常（良好）なデバイスの割合です。ネットワークヘルススコア (129 ページ) を参照してください。 • [Total Devices] : ネットワークデバイスの総数と、[Good Health]、[Fair Health]、[Poor Health]、および [No Health Data] のデバイスの数が表示されます。 • [Charts] : この色分けされたスナップショット ビュー チャートは、過去 5 分間の各デバイスカテゴリ（アクセス、コア、ディストリビューション、ルータ、ワイヤレスコントローラ、アクセスポイント）のパフォーマンスを示します。 <p>いずれかの色の上にカーソルを重ねると、その色に関連付けられたデバイスのヘルススコアと数が表示されます。</p> <p>チャートに低い正常性スコア（赤またはオレンジ）が示されている場合、その低い正常性スコアに寄与した KPI がバーの隣に示されます。たとえば、リンクエラー、高い CPU 使用率、高いメモリ使用率、高ノイズ、低い電波品質などがあります。</p> <p>ハイパーリンク付きのデバイスカテゴリ（[Access]、[Core]（サードパーティ製デバイスを含む）、[Distribution]、[Router]、[Wireless Controller]、[Access Point]）をクリックして、スライドインペインに追加の詳細情報を表示できます。</p> • トレンド : [Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、ある時間範囲におけるデバイスのパフォーマンスを示しています。チャートにカーソルを重ねると、デバイスの合計数とその健全性が時系列で表示されます。 <p>チャートの色は、ネットワークデバイスの正常性を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● : 不良なネットワークデバイス。ヘルススコアの範囲は 1 ~ 3 です。 ● : 中程度のネットワークデバイス。ヘルススコアの範囲は 4 ~ 7 です。 ● : 良好なネットワークデバイス。ヘルススコアの範囲は 8 ~ 10 です。

[Network Device Health Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
	す。 ● : 正常性データなし (サードパーティ製デバイスとメンテナンスモードのデバイスを含む)。ヘルス スコアは 0 です。
[View Details]	[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

ステップ 9 [AP] ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

[Total APs Up/Down] ダッシュレット
次の AP のステータス情報 (ネットワークに接続している AP の数とネットワークに接続されていない AP の数) を示す、色分けされたチャート。 [Latest] タブには、5 分間のスナップショットビューが表示されます。 [Trend] タブには、時間範囲の設定で選択した時間範囲のトレンドビューが表示されます。たとえば、時間範囲を過去 3 時間に設定すると、[Trend] タブには 3 時間のデータが表示されます。 [View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

[Top N APs by Client Count] ダッシュレット
最も多くのクライアントを持つ AP に関する情報を示すチャート。 [Latest] タブには、5 分間のスナップショットビューが表示されます。 [Trend] タブには、時間範囲の設定で選択した時間範囲のトレンドビューが表示されます。たとえば、時間範囲を過去 3 時間に設定すると、[Trend] タブには 3 時間のデータが表示されます。 [View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

高干渉の上位 N の AP ダッシュレット

高干渉の AP に関する情報。2.4 GHz または 5 GHz を選択できます。

[Latest] タブには、5 分間のスナップショットビューが表示されます。




[Trend] タブには、時間範囲の設定で選択した時間範囲のトレンドビューが表示されます。たとえば、時間範囲を過去 3 時間に設定すると、[Trend] タブには 3 時間のデータが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

ステップ 10 次の機能には、[Network Devices] ダッシュレットを使用します。

[Networks Devices] ダッシュレット

アイテム	説明
[Type]	<p>[All]、[Access]、[Core]、[Distribution]、[Router]、[WLC]、および [AP] の各オプションを使用して、デバイスタイプに基づいてテーブルをフィルタリングします。</p> <p>(注) デバイスタイプ「ルータ」に基づいてデバイスをフィルタ処理すると、デバイスロール「ボーダールータ」を持つデバイスが表示されます。</p> <p>SDA ファブリックドメインの場合、オプション ([All]、[Fabric Control Plane]、[Fabric Border]、[Fabric Edge]、[Fabric WLC]、[Fabric AP]、[Extended Node]) を使用して、ファブリックタイプに基づいてテーブルをフィルタ処理します。</p>
全体的な正常性	<p>次のオプションを使用して、デバイスの全体的な正常性スコアに基づいてテーブルをフィルタリングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All] • [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のデバイス。 • [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のデバイス。 • [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のデバイス。 • [No Health] : 正常性データのないデバイス。

[Networks Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Network Devices] テーブル	<p>ネットワーク内のすべてのデバイス、または選択したサイトのデバイス情報を表形式で表示します。</p> <p>(注) 全体的な正常性スコアは、システムの正常性、データプレーンの接続性、およびコントロールプレーンの接続性の KPI メトリックの最小サブスコアです。</p> <p>[Overall Health Score] 列で、正常性スコアの上にマウスカーソルを合わせます。デバイスの正常性スコアが、すべての KPI メトリックの正常性とパーセンテージとともに表示されます。デバイスの正常性は、KPI メトリックの最小サブスコアです (デバイスのタイプに基づく)。ルータおよびスイッチの場合、次の KPI メトリックがあります。システムリソース (メモリ使用率と CPU 使用率)、データプレーン (アップリンクの可用性とリンクエラー)、ファブリック (コントロールプレーン到達可能性)。[Fabric Domain Name]、[Fabric Name]、および [Fabric Role] 列には、ファブリックドメイン名、ファブリック名、およびファブリックロール (エッジ、ボーダー、マップサーバーなど) が表示されます。</p> <p>[Reachability] 列には、デバイスのステータス (到達可能、アップ、到達不能、再起動など) が表示されます。</p> <p>(注) サードパーティ製デバイスの場合、デバイスの到達可能性ステータスは [Reachable] または [Unreachable] のいずれかになります。</p>
デバイス 360	<p>[Device] 列でデバイスの名前をクリックすると、デバイスの 360 度ビューが表示されます。</p> <p>[Device 360] には、デバイスの問題のトラブルシューティングに関する詳細情報が記載されています。</p>
 Export	<p>デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p>
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none">  をクリックします。 オプションのリストが表示されます。 テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 [Apply] をクリックします。

ステップ 11 [Network Devices Reachability] ダッシュレットを使用して、次の情報を表示します。

[Network Devices Reachability] ダッシュレット

色分けされたチャートには、ルータ、スイッチ、およびワイヤレスコントローラの到達可能性ステータスが表示されます。

- **Reachable**
- **Unreachable**

[Latest] タブには、5 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、時間範囲の設定で選択した時間範囲のトレンドビューが表示されます。たとえば、時間範囲を過去 3 時間に設定すると、[Trend] タブには 3 時間のデータが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインで、タイムラインスライダにカーソルを合わせると、一定期間の到達可能性ステータスを表示できます。ロールとロケーションに基づく上位デバイスの到達可能性ステータス数が、水平バーグラフとしてタイムラインスライダの下に表示されます。

水平バーとして表示されるデータを選択し、[All]、[Access]、[Core]、[Distribution]、[Router]、[WLC] の各オプションを指定すると、到達可能性ステータス、デバイスタイプ、およびロケーションに基づいてテーブルをフィルタ処理できます。

ステップ 12 [WAN Link Utilization] ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

[WAN Link Utilization] ダッシュレット

棒グラフには、使用可能な WAN リンクの WAN リンク使用率のみのステータスが表示されます。

- (注) リンクを WAN リンクと見なすには、システムで生成された WAN タグを必要なポートに手動で割り当てる必要があります。『Cisco DNA Center User Guide』の「Manage Your Inventory」の章の「Assign Tags to Ports」を参照してください。

[Latest] タブには、[Available] および [Not Available] の WAN リンクの 10 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、時間範囲の設定で選択した時間範囲のトレンドビューが表示されます。たとえば、時間範囲を過去 3 時間に設定すると、[Trend] タブには 3 時間のデータが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの要素を選択して、より詳細なデータを表示できます。

タイムラインスライダの下に水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の場所、デバイスタイプ、および場所に基づいてテーブルをフィルタ処理できます。

ステップ 13 [WAN Link Availability] ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

[WAN Link Availability] ダッシュレット

色分けされたチャートには、ネットワークで使用可能な WAN リンクの情報が表示されます。

[Latest] タブには、使用されている WAN リンクの割合が表示されます。

[Trend] タブには、時間範囲の設定で選択した時間範囲のトレンドビューが表示されます。たとえば、時間範囲を過去 3 時間に設定すると、[Trend] タブには 3 時間のデータが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの要素を選択して、より詳細なデータを表示できます。

タイムラインスライダの下に水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の場所（リンク数）とデバイスタイプ（リンク数）に基づいてテーブルをフィルタ処理できます。

デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング

この手順を使用して特定のデバイスに関する詳細情報を表示して、対処する必要がある潜在的な問題が存在するかどうかを判断します。

ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Network] タブをクリックします。

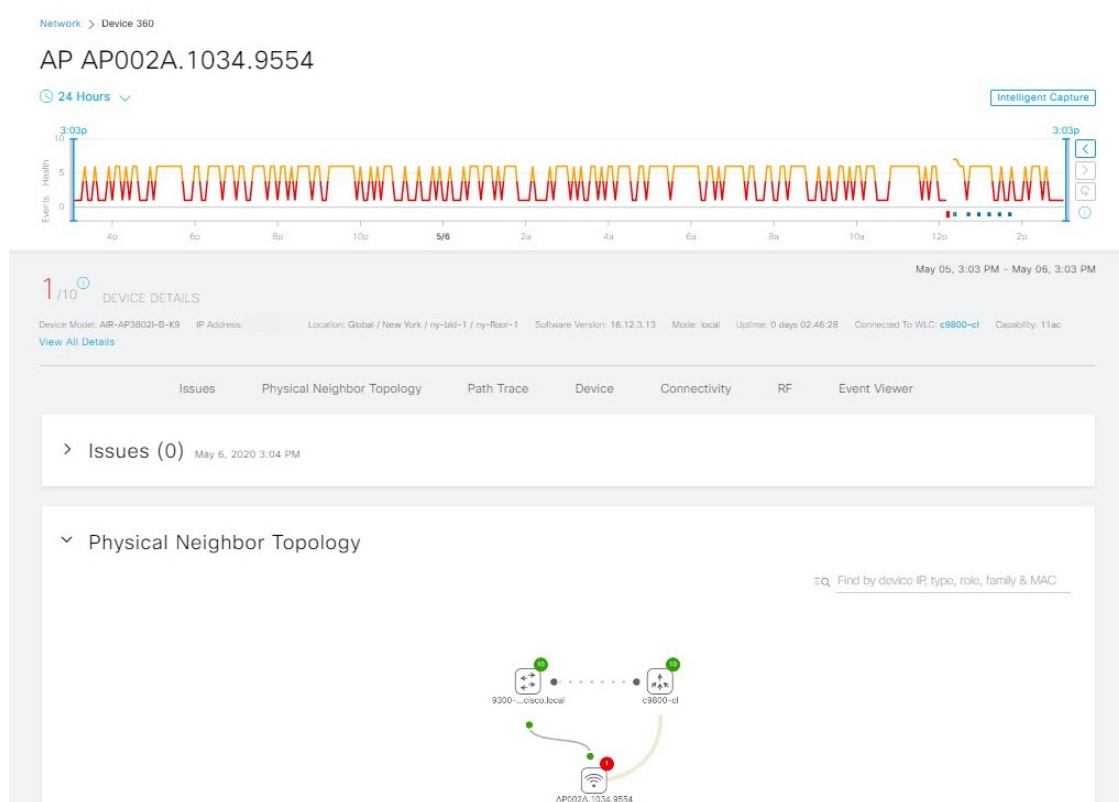
ステップ 3 [Network] 正常性ダッシュボードで、次のいずれかを実行します。

- [Network Devices] ダッシュレットの [Device Name] 列で、デバイス名をクリックします。
- [Search] フィールドで、デバイス名、IP アドレス、または MAC アドレスを入力します。

[Device 360] ウィンドウに、ネットワークデバイスの 360 度ビューが表示されます。

(注) デフォルトでは [Map View] が表示されます。

図 11: [Device 360] ウィンドウ



(注) デバイス名の横にある [View Device Details] ハイパーリンクをクリックすると、デバイスインベントリ ウィンドウを相互起動できます。

- ステップ 4** 時間範囲設定 (🕒 24 Hours ▾) をクリックして、ウィンドウに表示されるデータの時間範囲を指定します。
- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
 - 開始日時と終了日時を指定します。
 - [Apply] をクリックします。

- ステップ 5** [Intelligent Capture] をクリックすると、特定のネットワークデバイスのキャプチャされたオンボーディングおよびデータパケットを表示、モニターリング、およびトラブルシューティングして、対処する必要がある潜在的な問題が存在するかどうかを確認できます。RF 統計情報の表示とアクセスポイントのスペクトル解析データの管理 (461 ページ) を参照してください。

(注) インテリジェントキャプチャがサポートされていない AP モデルもあります。[Intelligent Capture] が表示されない場合は、AP がサポート対象のモデルであること、また AP が [Network Health] ダッシュボード上の場所に割り当てられていることを確認します。

- ステップ 6** タイムラインスライダを使用すると、一定期間のネットワークデバイスに関する正常性およびイベント情報を表示できます。

(注) タイムラインのギャップは、デバイスからヘルスデータが取得されなかったことを示します。この状況は、デバイスがメンテナンスモードのときに発生する可能性があります。

特定の期間にカーソルを合わせると、メンテナンスモードになっているアクセスポイントに対して [Under Maintenance] バナーが表示されます。

タイムラインスライダには、次の情報が表示されます。

- [Health] : タイムラインスライダの上にカーソルを合わせると、5分の時間枠におけるクライアントの正常性スコアと KPI が表示されます。デバイスの正常性スコアは、すべての KPI 正常性スコアの最小値です。

グラフをダブルクリックすると、1時間のタイムラインスライダが表示されます。

- (注) 1時間を超えて情報を表示するには、タイムラインスライダを必要な時間範囲に手動で移動します。

タイムラインをダブルクリックすると、1時間の期間のタイムラインスライダが表示されます。ウィンドウ全体が更新され、該当する1時間の最新情報が表示されます。各カテゴリ ([Issues]、[Connectivity] など) の横にあるタイムスタンプも更新されることに注意してください。

- [Events] : イベントデータは、色分けされた垂直バーとしてグラフに表示されます。緑の垂直バーは、成功したイベントを示し、赤の垂直バーは失敗したイベントを示します。

各垂直バーは、5分の時間枠を表します。各5分間ウィンドウに、複数の重要イベントが生成される場合があります。垂直バーにマウスカーソルを合わせると、イベントに関する詳細情報を取得できます。

ステップ 7 タイムラインの下の [Device Details] 領域で、デバイスの正常性スコアを確認できます。

- (注) メンテナンスモードのデバイスは、デバイスのヘルススコアの計算に含まれません。

デバイスの正常性スコアの詳細は次のとおりです。

- [Switch] : スイッチの正常性スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。メモリ使用率、CPU 使用率、リンクエラー、リンク破棄、アップリンクの可用性、コントロールパネルへの到達可能性。また、ファブリックデバイスの場合は、ファブリックの正常性も含まれます。詳細については、「[スイッチヘルススコア \(130 ページ\)](#)」を参照してください。

- (注) [Switches] : アップリンク可用性は、インフラストラクチャのリンクに基づいています。

[Cisco StackWise Virtual] : アップリンクの可用性は、インフラストラクチャリンク、Cisco StackWise Virtual リンク (SVL)、およびデュアルアクティブ検出 (DAD) リンクに基づいています。[Cisco StackWise Virtual と制限事項について \(124 ページ\)](#) を参照してください。

[Cisco StackWise] : アップリンクの可用性は、インフラストラクチャリンクおよび Cisco StackWise リンクに基づいています。[Cisco StackWise と制限事項について \(125 ページ\)](#) を参照してください。

- [Router] : ルータの正常性スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。メモリ使用率、CPU 使用率、リンクエラー、リンク破棄、アップリンクの可用性、コントロールプレーンへの到達可能性。詳細については、「[ルータヘルススコア \(132 ページ\)](#)」を参照してください。

- (注) アップリンクの可用性は、インフラストラクチャリンクに基づいています。

- **[AP]** : APの正常性スコアは次のパラメータの最小サブスコアです。メモリ使用率、CPU使用率、リンクエラー、無線使用率、干渉、ノイズ、電波品質。詳細については、[APヘルススコア \(132 ページ\)](#) を参照してください。
- **[Wireless Controller]** : ワイヤレスコントローラの正常性スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。メモリ使用率、空きタイマー、空きメモリバッファ (MBufs)、作業キュー要素 (WQE) プール、パケットプール、リンクエラー。ファブリックワイヤレスコントローラの場合、ファブリックヘルスが含まれます。詳細については、[ワイヤレスコントローラのヘルススコア \(134 ページ\)](#) を参照してください。

ヘルススコアの色は、その重大度を示します。正常性は1～10のスケールで測定され、10が最高スコアになります。スコア0は、データを取得できなかった、またはデバイスがメンテナンスモードであったことを示します。

- : 重大レベルの問題。ヘルススコアの範囲は1～3です。
- : 警告。ヘルススコアの範囲は4～7です。
- : エラーまたは警告はありません。ヘルススコアの範囲は8～10です。
- : 使用可能なデータがありません (メンテナンスモードのデバイスを含む)。ヘルススコアは0です。

ステップ 8 タイムラインの下の **[Device Details]** エリアを使用して、デバイスに関する最新情報を確認できます。これには、デバイスが配置されているビルディングやフロア、デバイスモデル、IP アドレス、デバイスにインストールされているソフトウェアのバージョン、デバイスロール、HA ステータス、IP アドレスまたは MAC アドレス、稼働時間などが含まれます。

(注) **[Fabric Site]** の場合、**[Fabric Role]**、**[Fabric Domain]**、**[System Resources]**、**[Data Plane]**、**[Virtual Network]**、**[Transits]** および **[Events]** の各要素がデバイス詳細エリアに表示されます。

[Cisco StackWise Virtual] の場合、**[Stack Status: Stackwise Virtual]** と **[StackWise Virtual Domain]** の2つの追加要素が表示されます。

[Cisco StackWise] の場合、**[StackWise]** という追加要素と、**[StackWise (2)]** のように、スタック内のスイッチ数が表示されます。スタックには最大8台のスイッチを設定できます。

[Mesh AP] の場合、**[Mode]**、**[Mesh Role]** および **[RAP]** の各詳細情報がデバイス詳細領域に表示されます。

PoE 対応デバイスの場合、**[IEEE Class]**、**[Negotiated Power Level]**、および **[PoE Status]** の各要素もデバイス詳細エリアに表示されます。

ステップ 9 **[View Details]** 領域で **[View All Details]** をクリックすると、一般的な情報、ネットワーク情報、ラックロケーションなど、デバイスの他の属性を表示するスライドインペインが開きます。デバイスタイプによっては、追加のデバイス固有の詳細が含まれる場合があります。

ステップ 10 **[Issues]** カテゴリを使用して、対処する必要がある問題を確認できます。

(注) デバイスがメンテナンスモードの場合、問題はトリガーされません。

問題は、タイムスタンプに基づいて一覧表示されます。直近の問題が最初にリストされます。問題名の横にメモアイコン (📝) があります。管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイ

コン (📄) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。

問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。

スライドインペインでは、次の操作を実行できます。

- この問題を解決するには、次の手順を実行します。
 1. ドロップダウンリストから [Resolve] を選択します。
 2. [Resolved Issues] をクリックすると、解決済みの問題が表示されます。
- 問題を無視するには、次の手順を実行します。
 1. ドロップダウンリストから [Ignore] を選択します。
 2. スライダで問題を無視する時間数を設定します。
 3. [Confirm] をクリックします。
 4. 無視された問題を表示するには、[Ignored Issues] をクリックします。

ステップ 11 [Physical Neighbor Topology] カテゴリを使用して、デバイスのトポロジと隣接するデバイスへの接続方法を確認できます。

次を実行できます。

- ノードをクリックして、ノードに関する情報が表示されたスライドインペインを表示します。
- 2つのデバイス間のリンクをクリックすると、その特定のリンクに関する詳細（リンクに対応するポート/インターフェイス、管理ステータス、ポートモードなど）が表示されます。
- リンクエンド（ドット）にカーソルを合わせると、リンクのステータスが表示されます。
- デバイスのグループにカーソルを合わせて [View Devices List] をクリックすると、デバイスのリストとその詳細が表示されます。
- [Onboarding] エリアの [Search] フィールドで、特定のデバイスを検索できます。特定のノードが選択され、デバイスの対応する情報が表示されます。

- (注)
- AP 360 では、2 GHz および 5 GHz のクライアントが表示されます。これら 2 つのクライアントからの点線のリンク回線はクリックできません。また、AP からワイヤレスコントローラへのリンク回線とワイヤレスコントローラから AP へのリンク回線はクリックできません。
 - SD-Access ファブリックの場合、ファブリックグループはファブリックバッジアイコンで表示されます。
 - Cisco StackWise Virtual および Cisco StackWise には、スタックのアイコン (📦) が表示されます。
 - Cisco StackWise Virtual または Cisco StackWise が含まれているパスには、パストレースでスイッチのアイコンが表示されます。

ステップ 12 [Event View] カテゴリを使用して、デバイスのイベントの監査証跡を確認できます。イベントビューアテーブルは、イベントが発生したときの理由コードやタイムスタンプなどの問題に関する情報を提供します。イベントをクリックすると、右側のペインにそのイベントに関する詳細情報が表示されます。

- [APs] : シナリオと、各シナリオにつながる一連のサブイベントが表示されます。これにより、どのサブイベントの間に問題が発生したのかを特定できます。送信電力の変更、RF チャネル変更、無線リセットなどの無線リソース管理 (RRM) イベントが表示されます。
- [Switches and Routers] : クリティカル以上の重大度 (致命的およびアラート) を示すすべての syslog、アップ/ダウンしているあらゆるリンクのイベント、到達可能デバイスまたは非到達可能デバイスのイベントが表示されます。また、クリティカルレベルより重大度が低い syslog (エラー、注意、通知、および情報) も表示されます。詳細については、[スイッチおよびルータの重大レベルに満たない選択済み Syslog \(123 ページ\)](#) を参照してください。
- [Wireless Controllers] : ワイヤレス コントローラ イベントを一覧表示します。Cisco AireOS デバイスの場合、選択したトラップと syslog が表示されます。Cisco IOS コントローラの場合、選択した syslog とイベントが表示されます。

ステップ 13 [Path Trace] カテゴリを使用して、パストレースを実行できます。

[Run New Path Trace] をクリックすると、指定した送信元デバイスと接続先デバイス間のネットワークポロジが表示されます。トポロジには、パスの方向とパスに沿ったデバイスが、その IP アドレスを含めて含まれます。ディスプレイには、パスに沿ったデバイスのプロトコル (**Switched**、**STP**、**ECMP**、**Routed**、**Trace Route**) や、その他のソース タイプも表示されます。

[パストレースの実行 \(475 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 14 [Application Experience] カテゴリをクリックすると、ネットワークで実行中のアプリケーションが表示されます。

メトリックをチャート形式で表示するには、アプリケーションの横にあるオプションボタンをクリックします。関連する情報を示すスライドインペインが開きます。

[アプリケーション エクスペリエンスとアプリケーションの可視性について \(173 ページ\)](#) および [ホストのアプリケーション エクスペリエンスの表示 \(182 ページ\)](#) を参照してください。

(注) このカテゴリは、ルータのみに表示されます。

ステップ 15 [Detail Information] カテゴリを使用して、デバイスの KPI の一定期間の履歴を確認できます。次の各タブをクリックすると、対応する詳細が表示されます。

[Device Info] タブ
<p>デバイスの CPU、メモリ、稼働時間、温度などに関する情報を表示します。</p> <p>Cisco Embedded Wireless Controller の [HA Redundancy] の状態に関する詳細が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Local State - READY (ACTIVE)• Peer State - READY (STANDBY HOT) <p>サードパーティ製デバイスの場合は、稼働時間チャートのみが表示されます。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none">• ワイヤレスコントローラに複数のセンサーがある場合、データには全センサーの最新の最高温度が反映されます。• 帯域外で設定されたネットワークデバイスの場合、稼働時間のチャートは正常性スコアやその他のデータと正しく関連しません。たとえば、24 時間ウィンドウの稼働時間のチャートで、午前 11 時 39 分と午後 2 時 40 分にデバイスがダウンしたことが示されていたとします。その場合、午前 11 時 00 分～午後 2 時 00 分の 3 時間ウィンドウを選択（タイムラインスライダを使用）しても、ダウンタイムが表示されません。この問題は、Cisco DNA Center がデバイスからシステム稼働時間情報を受信できないために発生します。この問題を回避するには、デバイスと Cisco DNA Center の間で構成を同期させます。

[Connectivity] タブ

デバイスのネットワークとの接続の正常性に関する情報が表示されます。このタブは、AP に対して表示されます。

[Connectivity] タブには、[Radio 0]、[Radio 1]、[Radio 2] のように、無線固有の KPI に対応するタブがあります。適切な無線をクリックして、[Current Channel]、[Extended Channel (s)]、[RF Profile]、[Band]、[Mode]、[Current Channel Width] などの情報を表示します。また、[Traffic]、[Client Count] などのチャートも表示できます。

- [Traffic] : 無線のトラフィック (Mbps 単位) が表示されます。Rx (レシーバ) データ パッケージと Tx (トランスミッター) データ パッケージ (バイト単位) が、色分けされた線でチャートに表示されます。

グラフの時間インスタンスの上にカーソルを重ねて、特定の日時に送信または受信されたトラフィック量 (Rx または Tx) を表示します。

- [Client Count] : 無線対応のクライアントの数が表示されます。クライアント数は、チャート上に色分けされた線で表示されます。

グラフの時間インスタンスの上にカーソルを重ねて、特定の日時に AP に接続されたクライアント数を表示します。

- [Link Error] : インターフェイスに関する情報を表示するには、チャートの右側にあるインターフェイスの横のチェックボックスをオンにします。選択したインターフェイスに基づき、各インターフェイスのエラー割合が、チャート上に色分けされた線で表示されます。

グラフの時間インスタンスの上にカーソルを重ねて、特定の日時のエラー割合を表示します。最大 5 つのインターフェイスを選択できます。

- [Ethernet Interface KPI] : [Ethernet Interface KPI] には、[GigabitEthernet0] や [GigabitEthernet1] などのインターフェイスが含まれています。適切なインターフェイスをクリックして、[Utilization]、[Error]、および [Rate] のチャートを表示します。また、AP 360 の上部で選択された時間範囲について集計された KPI の合計値と平均値も表示できます。

(注) スイッチに接続されているインターフェイスには、[Connected Switch] バナーが表示されます。

- [Top Clients with Tx Drops per SSID] : パケットドロップ数についての上位 5 つのクライアントを、選択した SSID 別に表示します。このチャートは、バージョン 17.12 以降の Cisco 9800 ワイヤレスコントローラに接続されているクライアントでのみ使用できます。

- [Retries] : 無線接続の再試行回数が再試行チャートに表示されます。

(注) リンクエラーについては、インフラストラクチャリンクだけが考慮されます。インフラストラクチャリンクとは、ネットワークデバイス (スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ、AP など) を接続するトポロジカルリンクを指します。

[Fabric Site] タブ

このタブは、SD-Access ファブリックで使用できます。

ファブリック KPI は、[Fabric Site Connectivity]、[Fabric Infrastructure] および [Fabric Control Plane] の各カテゴリにグループ化されます。カテゴリをフィルタ処理して、それぞれの KPI を表示できます。KPI 選択に基づいて、接続先、IP アドレス、タイプなどの到達可能性情報を含むテーブルを表示できます。コントロールプレーンの到達可能性ステータス、LISP、および Pub/Sub セッションのステータスチャートを表示するには、接続先の横にあるチェックボックスをオンにします。

(注) アップリンク ステータス チャートには、ファブリックアンダーレイの自動化を使用してファブリックをプロビジョニングする場合にのみデータが表示されます。

[Interfaces] タブ

名前、説明、動作ステータス、リンク速度など、選択したインターフェイスに関する情報が含まれます。

特定のポートタイプに関する情報を表示するには、[PORT TYPE] タブを使用します。表示されるタブは、選択されたデバイスのタイプによって異なります。

- [Switches and Routers] : [All]、[Access]、[Auto]、[Routed]、および [Trunk] ポートタイプを表示します。
- [Cisco StackWise Virtual] : [All]、[Access]、[Auto]、[Routed]、[Trunk]、[SVL]、および [DAD] ポートタイプを表示します。
- [Cisco StackWise] : [All]、[Access]、[Auto]、[Routed]、[Trunk]、および [StackWisePort] ポートタイプを表示します。
- [Wireless Controller] : [All]、[Ethernet]、および [Virtual] ポートタイプを表示します。

テーブルにはソート可能な列が含まれています。ただし、新しいパラメータを使用して列をソートしようとする、拡張インターフェイスリストが折りたたまれます。

(注) [Link Speed] データの列には、インターフェイスまたは物理ポートの速度容量が表示されます。ポートが特定の速度にネゴシエートされた場合は、ネゴシエートされた速度が表示されます。

特定の日時のインターフェイスに関する動作ステータスをチャート形式で表示するには、インターフェイスの横にあるチェックボックスをオンにします。最大 5 つのインターフェイスを選択できます。デフォルトでは、テーブル内の最初のインターフェイスが選択されます。

[Interface Availability]、[Utilization]、[Error]、および [Link Discard] チャートがテーブルの下に表示されます。

(注) ワイヤレスコントローラの場合、リンク破棄情報が別のチャートに表示されることはありません。リンク破棄情報は、他のデータとともに [Traffic Summary] テーブルに表示されます。[Traffic Summary] テーブルのデータは、ワイヤレスコントローラ上の物理インターフェイスとイーサネットインターフェイスについてのみ表示されます。

[Tx Utilization] チャートと [Rx Utilization] チャートの値が [Percentage] と [Rate (bps)] に入力されます。[Percentage] と [Rate] を切り替えて使用状況の値を表示できます。

[PoE] タブ

このタブは、PoE 対応スイッチおよび AP で使用できます。

デバイスの Power over Ethernet (PoE) テレメトリを表示します。

スイッチ

[POWER SUMMARY] セクションには、スイッチの全体的な PoE テレメトリが表示されます。


- [Power Budget] : PoE 対応デバイス用にスイッチから割り当てられている合計電力。
- [Used Power] : PoE 対応デバイスにスイッチから供給されている電力。
- [Remaining Power] : PoE 対応デバイスで使用可能な未使用の電力。
- [Power Usage] : PoE 対応デバイスにスイッチから供給されている電力の割合。この値は、[Used Power] の値を [Power Budget] の値で割った値になります。

[Power Stack] セクションには、PoE に接続された電源スタックデバイスが一覧表示され、電源スタック名、スタックモード、スタックトポロジ、割り当てられた電力、消費電力、残りの電力などが示されます。

[Module Power Details] セクションには、PoE に電力を供給するスイッチのコンポーネントのリストが表示されます。

[PoE Interfaces] セクションには、スイッチのインターフェイスに接続されている PoE 対応デバイスが一覧表示されます。セクションの上部に、現在オフになっているインターフェイスの数が表示されます。

このテーブルは次の方法でカスタマイズできます。

- テーブルの上にある [POE CONFIG]、[ADMIN STATUS]、および [POE OPER STATUS (SIGNAL PAIR)] のフィルタを使用して、インターフェイスをフィルタ処理できます。
- 検索バーを使用して、特定のインターフェイス、PoE 対応デバイス、またはその他の値を検索できます。
-  をクリックするとメニューが開き、特定のデータの種類の列を追加および削除できます。

AP

[Detail Information] セクションには、IEEE PD クラス、電力レベル、PoE 管理ステータス、PoE 動作ステータス、PoE ポリシングステータス、スイッチ名、インターフェイス名、割り当て電力、消費電力、最大使用電力、PoE 優先順位、PoE 構成、無停止型 PoE など、AP の PoE テレメトリが表示されます。

[Power Distribution] セクションには、選択された時間範囲の配電（割り当て済み電力と消費電力）のトレンドチャートが表示されます。

[StackWise] タブ

このタブは、Cisco StackWise に対して表示されます。

Cisco StackWise に関する情報（シリアル番号、製品 ID、MAC アドレス、ロール、状態、優先順位、隣接するスイッチの番号など）が表示されます。

[StackWise Virtual] タブ

このタブは、Cisco StackWise Virtual に対して表示されます。

Cisco StackWise Virtual に関する情報（シリアル番号、製品 ID、MAC アドレス、ロール、状態、優先順位、稼働時間、ポート番号など）が表示されます。

[RF] タブ

[RF] タブ

このタブは、AP とワイヤレスクライアントに対して表示されます。

- [RF] タブには、[Radio 0]、[Radio 1]、[Radio 2] のように、無線固有の KPI に対応するタブがあります。それぞれの無線のタブをクリックすると、その無線のチャンネル使用率、トラフィック使用率、干渉、ノイズ、電波品質、通信時間の効率、クライアントごとのワイヤレス遅延の分布、送信出力、SSID 別 Tx ドロップ数の上位クライアント、チャンネル情報などのチャートが表示されます。

(注) [RF] タブの制限


3 種類の無線を使用する AP (Cisco Catalyst 9130 AP など) を 17.2 以降を実行中のワイヤレスコントローラに接続した場合、デバイスで 3 種類すべての無線がサポートされ、[RF] タブに 3 種類の無線 (Radio 0、Radio 1、および Radio 2) が表示されます。

同じ AP を 17.1 以前のバージョンを実行中のワイヤレスコントローラに接続した場合、デバイスでは 2 種類の無線がサポートされ、[RF] タブに 2 種類の無線 (Radio 0 と Radio 1) が表示されます。

ただし、AP を新しいバージョンを実行するワイヤレスコントローラから古いバージョンを実行するワイヤレスコントローラに移行した場合 (17.2 以降から 17.1 以前) は、最初に検出された 3 種類の無線 (Radio 0、Radio 1、Radio 2) が [RF] タブにそのまま表示されます。

- AP の 5 GHz 無線については、[DFS] タブに動的周波数選択 (DFS) レーダーイベントに関する情報が表示されます。
- AP 360 については、[RF] タブに [Neighbors and Rogues] タブが含まれます。そのタブには、[Band] (2 GHz および 5 GHz 無線周波数)、[Type] (All、Neighbor、Rogue) および [RSSI Range] (0 ~ 100 dBm) フィルタが含まれます。選択されたフィルタに応じて、AP テーブルが更新されます。

AP テーブルデータには、AP の識別子、無線、RSSI (dBm)、チャンネル、タイプ、SSID などの情報が含まれています。AP デバイス、無線、または他の値を検索するには、検索バーを使用します。

 をクリックしてメニューを開き、[Edit Table Column] を使用して特定の列を有効または無効にできます。

CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。

- [KPI] ドロップダウンリストをクリックし、表示するチャートの横にあるチェックボックスをオンにします。チャートには、スループット、クライアント数、チャンネル使用率、クライアント/パケット数別の上位 SSID などのさまざまな情報が表示されます。選択したチャートが [RF] タブに表示されます。
- 選択されたフィルタに応じて、Wi-Fi Analyzer のグラフがテーブルの下に表示されます。Wi-Fi グラフでは、AP 360 タイムラインスライダの上部で選択された時間範囲について、集計された KPI の合計値と平均値の要約が示されます。

特定の AP に関する Wi-Fi Analyzer のグラフを表示するには、AP の横にあるチェックボックスをオンにします。詳細を表示するには、チャートにカーソルを合わせます。

[Chart Setting] アイコンをクリックして、各 AP のグラフに表示される [Access Point Label] を有効ま

[RF] タブ

たは無効にします。

[Virtual Network] タブ

このタブは、SD-Access ファブリックで使用できます。

KPI は、[VN Services] カテゴリと [Fabric Control plane] カテゴリにグループ化されます。カテゴリを選択して、[Dynamic Default Border]、[Remote Internet Availability]、[Multicast (external RP)]、[Pub-Sub Session Status] の各 KPI を表示できます。これらのカテゴリをフィルタ処理して、接続先、IP アドレス、タイプなどの到達可能性情報を含むテーブルを表示できます。コントロールプレーンの到達可能性ステータス、LISP、および Pub/Sub セッションのステータスチャートなどのステータスを表示するには、接続先の横にあるチェックボックスをオンにします。

[Transits and Peers Network] タブ

このタブは、SD-Access ファブリックで使用できます。

[Transits and Peers Network] タブには、[Transit Site Control Plane] の KPI である [BGP Session from Border to Transit Control Plane]、[LISP Session from Border to Transit Site Control Plane] および [Pub-Sub Session from Border to Transit Site Control Plane] が含まれています。適切な KPI チェックボックスをオンにして、接続先、IP アドレス、タイプなどの到達可能性情報を含むチャートとテーブルを表示します。

[Mesh] タブ

このタブは、メッシュ AP で使用できます。

[Mesh] タブには、デバイスのメッシュロール、メッシュプロファイル、ダウンストリーム MAP、メッシュバックホールチャネル、RAP へのホップ、ブリッジグループ名、およびバックホールインターフェイスが表示されます。

また、無線固有の次の KPI である [Current Channel]、[Extended Channel (s)]、[Mode]、[RF Profile]、[Band]、[Tx Power]、[Clean Air Status]、[Admin State]、および [Current Channel Width] も表示されます。

ステップ 16 建物内のフロア全体にわたる AP 無線の正常性を比較するには、右上隅のトグルボタンをクリックして、[Detail View] と [Map and Comparison View] を切り替えます。

[Map and Comparison View] には、AP 無線が配置されたフロアマップが表示されます。

ステップ 17 [View Floor] ドロップダウンリストから、AP 無線を比較するフロアを選択します。

フロアマップ上の AP アイコンにカーソルを合わせると、AP 無線のデバイスの詳細 ([MAC Address]、[Model]、[Mode]、[Issue Count] など) が表示されます。

ステップ 18 [Compare AP Radios] をクリックしてフロアマップ上の AP 無線を比較します。

[Map View] がデフォルトで表示され、最後の 5 分間の AP 無線データが表示されます。

ステップ 19 フロアマップ上の AP アイコンをクリックします。

比較する無線を選択または選択解除するためのダイアログボックスが表示されます。

ステップ 20 フロアで比較する無線のリストの横にあるチェックボックスをオンにします。

- (注)
- デフォルトでは、それぞれの AP の最初の無線がモニターモードの場合にのみ、Cisco DNA Center は現在の AP を比較対象として選択します。
 - 比較に使用可能な AP 無線のモードは、[Local]、[Remote]、[Hybrid] モードのみです。
 - 一度に最大 5 つの AP 無線を比較のために選択できます。

ステップ 21 [AP Radio Compatibility] を使用して、比較のために選択された AP 無線のリストを表示します。

[Radio]、[IP Address]、[Model]、[Uptime]、[Connected to WLC]、[Floor] を比較できます。

ステップ 22 [Comparative Metrics] を使用して、選択された KPI の比較メトリックを表示します。

ステップ 23 [Select KPI] ドロップダウンリストから、比較マトリックスを表示する KPI を選択します。

次の KPI から選択できます。

- チャネル情報
- スループット (Rx レート)
- 無線の再試行
- Interference
- 電波品質
- 管理フレーム
- Tx Errors
- Tx Power
- トラフィック使用率
- Tx トラフィック使用率
- スループット (Tx レート)
- 接続されているクライアントの数
- チャネルの使用率
- Noise
- ワイヤレス遅延
- データフレーム
- Rx Errors
- マルチキャストカウンタ
- Rx トラフィック使用率

ステップ 24 トグルボタンをクリックして [Map View] と [Table View] を切り替えます。

[Access Point Radios] テーブルビューには AP 無線が一覧表示されます。

ステップ 25 フロアマップで比較する AP 無線の横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 26 [AP Radio Comparison] エリアの比較からすべての無線を削除するには、[Clear Selection] をクリックします。

ステップ 27 [Exit Comparison] をクリックして終了します。

スイッチおよびルータの重大レベルに満たない選択済み Syslog

次の表に、[Device 360] ウィンドウの [Event Viewer] に表示される、クリティカルレベルに満たない syslog メッセージ（エラー、注意、通知、情報）の選択済みリストを示します。

プロトコルイベント	レイヤ2 イベント
OSPF-5-OSPF-5-ADJCHG	SW_MATM-4-MACFLAP_NOTIF
IFDAMP 5-UPDOWN	MAC_LIMIT-4-PORT_EXCEED
BGP-5-ADJCHANGE	MAC_LIMIT-4-VLAN_EXCEED
DUAL-5-NBRCHANGE	IGMP-6-IGMP_GROUP_LIMIT
BGP-5-ADJCHANGE-bfd	SPANTREE-5-ROOTCHANGE
CLNS-5-ADJCHANGE	UDLD-4-UDLD_PORT_DISABLED
LDP-5-NBRCHG-TDP	PM-4-ERR_DISABLE
LDP-5-NBRCHG-LDP	CDP-4-DUPLEX_MISMATCH
CDP-4-NATIVE_VLAN_MISMATCH	LINK-5-CHANGED
LISP-4-LOCAL_EID_RLOC_INCONSISTENCY	PORT-5-IF_DOWN
LISP-4-LOCAL_EID_NO_ROUTE	PORT-5-IF_UP
LISP-4-CEF_DISABLED	
LISP-4-LOCAL_EID_MAP_REGISTER_FAILURE	
LISP-4-MAP_CACHE_WARNING_THRESHOLD_REACHED	

ハードウェア プラットフォーム イベント
SYS-5-CONFIG_I
SYS-5-RELOAD
SYS-5-RESTART
OIR-6-INSCARD
OIR-6-REMCARD
OIR-SP-6-INSCARD
OIR-SP-6-REMCARD
PLATFORM_STACKPOWER-6-CABLE_EVENT
PLATFORM_STACKPOWER-6-LINK_EVENT
PLATFORM_STACKPOWER-4-TOO_MANY_ERRORS
PLATFORM_STACKPOWER-4-VERSION_MISMATCH
PLATFORM_STACKPOWER-4-UNDER_BUDGET
PLATFORM_STACKPOWER-4-INSUFFICIENT_PWR
PLATFORM_STACKPOWER-4-REDUNDANCY_LOSS
ILPOWER-5-POWER_GRANTED
ILPOWER-5-LINKDOWN_DISCONNECT
ILPOWER-5-IEEE_DISCONNECT
ILPOWER-5-INVALID_IEEE_CLASS
ILPOWER-4-LOG_OVERDRAWN
ILPOWER-5-CLR_OVERDRAWN

Cisco StackWise Virtual と制限事項について

Cisco StackWise Virtual はネットワークシステムの可視化技術です。2台の物理スイッチが 40-G または 10-G イーサネット接続を使用して 1台の論理的な仮想スイッチとして動作することを可能にします。

StackWise Virtual 対応デバイス

次の表に、StackWise Virtual をサポートする Cisco Catalyst スイッチを示します。

デバイス	サポート対象 IOS-XE ソフトウェアの最小バージョン
Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチ	16.11 +
Cisco Catalyst 9400 シリーズ スイッチ	16.11 +

デバイス	サポート対象 IOS-XE ソフトウェアの最小バージョン
Cisco Catalyst 9500 シリーズ スイッチ	16.11+

StackWise Virtual の制限事項

Cisco StackWise Virtual には、次の既知の制限事項があります。

- Cisco StackWise Virtual を設定した後も、2 番目のスイッチはインベントリに表示されたままになります。独自の IP アドレスがないため、応答を停止します。回避策として、次が可能です。
 1. インベントリから 両方のスイッチを削除します。[ネットワーク デバイスの削除 \(70 ページ\)](#) を参照してください。
 2. StackWise Virtual を設定します (2つのスイッチを1つの仮想スイッチに設定します)。
 3. デバイスを検出します。[IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出 \(27 ページ\)](#)、[CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#)、または[LLDP を使用したネットワークの検出 \(29 ページ\)](#) を参照してください。



(注) StackWise Virtual が検出されると、1 台のスイッチがアクティブな役割を果たし、もう 1 台はスタンバイの役割を果たします。スタック内の両方のスイッチは、1 つのプライマリ管理 IP アドレスに関連付けられます。

- Cisco StackWise Virtual を削除すると、2 つのスイッチは独立します。両方が同じ IP アドレスを持ち、デュアルアクティブ検出 (DAD) 状態で動作します。回避策として、次が可能です。
 1. 2 番目のスイッチで別の IP アドレスを設定します。
 2. デバイスをもう一度検出します。[IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出 \(27 ページ\)](#)、[CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#)、または[LLDP を使用したネットワークの検出 \(29 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco StackWise と制限事項について

Cisco StackWise テクノロジーは、スイッチで構成されるスタックの能力をまとめて活用する革新的な新しい手段を提供します。個別のスイッチがインテリジェントに結合され、32 Gbps のスイッチングスタックの相互接続により 1 つのスイッチングユニットが形成されます。スタック内のすべてのスイッチが設定情報とルーティング情報を共有することで、単一のスイッチングユニットを作り上げます。

Cisco StackWise 対応デバイス

Cisco StackWise をサポートするデバイスを次に示します。

- Cisco Catalyst 3650 シリーズ スイッチ
- Cisco Catalyst 3850 シリーズ スイッチ
- Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチ

StackWise の制限事項

Cisco StackWise には、次の既知の制限事項があります。

- リングのステータスが **Device 360** ヘッダーに表示されません。
- リンク速度の情報は、**[Detail Information]** > **[Interfaces]** タブに表示されません。

ネットワークデバイスの正常性スコアの設定

ネットワークデバイスの正常性スコアを設定するには、次の手順を実行します。KPI のしきい値を変更し、計算に含める KPI を指定すると、ネットワークデバイスの正常性スコアの計算をカスタマイズできます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** > **[Manage]** > **[Health Score Settings]** の順に選択します。

[Health Score] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ネットワーク デバイスカテゴリのタブをクリックして、正常性スコアの計算設定をカスタマイズします。

このタブには、ネットワークデバイスタイプの正常性スコアの計算に影響する KPI が表示されます。

ステップ 3 [KPI Name] 列で、KPI 名のリンクをクリックします。

KPI のスライドインペインが表示されます。

ステップ 4 KPI の正常性スコアを次のように設定します。

- a) 定量的 KPI しきい値の場合は、良好な正常性スコアと見なすしきい値をカスタマイズできます。
- b) 正常性と問題の設定の間で共通の KPI しきい値を同期または同期解除するには、**[Synced]** トグルボタンを使用します。正常性または問題の設定ページから同期した場合は、逆に同期されます。
- c) 正常性スコアの計算から KPI を削除するには、**[Included in Device health Score]** チェックボックスをオフにします。

(注) ネットワークデバイスの正常性スコアは、含まれるすべての KPI の中で最も低いスコアです。

制約事項 正常性スコアの計算には、少なくとも 1 つの KPI を含める必要があります。

注目 ネットワークデバイスの KPI 正常性スコアを表示する際、除外された KPI には正常性スコアの代わりに「NA」と表示されます。

- d) デフォルト設定に戻すには、カーソルを [View Default Setting] の上に置いて、[✓ Use default] をクリックします。

ステップ 5 [Apply] をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

ファブリック デバイスで SNMP コレクタ メトリックを有効化

ファブリック デバイスのヘルス スコアが正しく入力されるようにするには、SNMP コレクタ メトリックを有効化する必要があります。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Data Platform]。

ステップ 2 [Collectors] をクリックします。

コレクタのリストが表示されます。

ステップ 3 [COLLECTOR-SNMP] をクリックします。

[COLLECTOR-SNMP] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [+ Add] をクリックします。

[SNMP Configuration] ダイアログ ボックスが開きます。

ステップ 5 QOS を除くすべてのメトリックの横にあるチェックボックスをオンにします。

図 12: SNMP の設定

SNMP Configuration

Configuration for SNMP collector
Configuration

List of metrics to be enabled*

- CPU
- Memory
- Interface
- Environment Temperature
- Interface Availability
- Device Availability
- QOS
- RTTMON
- LISP
- CLISP

Polling Interval

10.00

Collector Information

Satellite ID

satellite0

Site ID

site0

Configuration Name*

SNMP_Config

Keep the name unique for this configuration

Keep the name unique for this configuration

Save Configuration

367645

ステップ 6 [Configuration Name] フィールドに、SNMP 設定の一意の名前を入力します。

ステップ 7 [Save Configuration] をクリックします。

ネットワークの正常性スコアと KPI メトリックについて

ここでは、ネットワーク正常性スコアと KPI メトリックの計算方法について説明します。

ネットワークヘルススコア

ネットワークの正常性スコアは、健全なネットワークデバイス（正常性スコアが8～10）の数をネットワークデバイスの総数で割ったパーセンテージです（メンテナンスモードのデバイスを除く）。スコアは5分ごとに計算されます。

次に例を示します。

90%（正常性スコア）= 90 （正常性スコア8～10のネットワークデバイス） \div 100 （ネットワークデバイスの総数 - メンテナンスモードのデバイス）

デバイスカテゴリの正常性スコア

デバイスカテゴリの正常性スコア（アクセス、コア、ディストリビューション、ルータ、ワイヤレス）は、ターゲットカテゴリ内の正常なネットワークデバイスの数（正常性スコアが8～10）をそのカテゴリのネットワークデバイスの総数で割ったパーセンテージです（メンテナンスモードのデバイスを除く）。スコアは5分ごとに計算されます。

次に例を示します。

90%（正常性スコア）= 90 （ターゲットカテゴリ正常性スコアが8～10のネットワークデバイス） \div 100 （そのカテゴリのネットワークデバイス - メンテナンスモードのデバイス）

個別のデバイス正常性スコア

個別のデバイスの正常性スコアは、KPIメトリック正常値スコア（システムの正常性、データプレーンの接続性、コントロールプレーンの接続性）の内の最小スコアになります。KPIメトリックスコアは、KPIごとに定義されるしきい値に基づきます。

デバイス正常性スコア = **MIN**（システムの正常性、データプレーンの接続性、コントロールプレーンの接続性）

デバイスのタイプに応じて、メトリックは変わります。

システムの正常性	
デバイスタイプ	説明
スイッチ（アクセスおよび配信）	CPU使用率やメモリ使用率などのシステムモニターリングメトリックが含まれます。
ワイヤレス	次のシステムモニターリングメトリックが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスコントローラの場合、メモリ使用率、空きタイマー、空き Mbuf が含まれます。 APの場合、CPU使用率とメモリ使用率が含まれます。
ルータ	CPU使用率やメモリ使用率などのシステムモニターリングメトリックが含まれます。

システムの正常性	
デバイスタイプ	説明
ファブリック	CPU 使用率やメモリ使用率などのシステムモニターリングメトリックが含まれます。

データプレーンの接続性	
デバイスタイプ	説明
スイッチ（アクセスおよび配信）	リンクエラーやリンクステータスなどのメトリックが含まれます。 スイッチの場合、デバイス間リンク可用性メトリックは、物理スタックポート、ネットワークデバイスに接続されたリンク、およびファブリックエッジ側のポートチャネルをカウントします。
ワイヤレス	次のシステムモニターリングメトリックが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスコントローラの場合、WQE プール、パケットプール、リンクエラーなどのメトリックが含まれます。 AP の場合、インターフェイス、ノイズ、電波品質、無線利用率などの RF メトリックが含まれます。
ルータ	リンクエラーなどのメトリックが含まれます。

コントロールプレーンの接続性	
デバイスタイプ	説明
ワイヤレス	次の KPI が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスコントローラの場合、コントロールプレーンノードサーバーへの接続性が含まれます。 ファブリックデバイスの場合、コントロールプレーンノードへの接続性などのメトリックが含まれます。

スイッチヘルススコア

スイッチヘルススコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。



(注) メンテナンスモードのデバイスは、デバイスのヘルススコアの計算に含まれません。

パラメータ	スコアの計算
CPU 使用率	<ul style="list-style-type: none"> • CPU 使用率が 95 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • CPU 使用率が 95 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
メモリ使用率	<ul style="list-style-type: none"> • メモリ使用率が 95 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • メモリ使用率が 95 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
リンクエラー (Rx および Tx)	<p>リンクエラーについては、インフラストラクチャリンクだけが考慮されます。インフラストラクチャリンクとは、ネットワークデバイス (スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ、AP など) 間のトポロジリンクを指します。</p> <p>物理インフラストラクチャインターフェイスにエラーがある場合のスコアは 8、すべてのリンクがダウンしている場合は 1、それ以外の場合は 10 です。</p>
リンク破棄	<p>リンク破棄については、インフラストラクチャリンクだけが考慮されます。インフラストラクチャリンクとは、ネットワークデバイス (スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ、AP など) 間のトポロジリンクを指します。</p> <p>物理インフラリンクにパケットドロップ (廃棄) がある場合、すべてのリンクで廃棄が発生した場合のスコアは 8、それ以外の場合は 10 です。</p>
リンクステータス	<p>リンクステータスのアップ/ダウンについては、インフラストラクチャリンクだけが考慮されます。インフラストラクチャリンクとは、ネットワークデバイス (スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ、AP など) 間のトポロジリンクを指します。</p> <p>物理インフラストラクチャインターフェイスがダウンしている場合のスコアは 8、すべてのインターフェイスがダウンしている場合は 1、それ以外の場合は 10 です。</p>
コントロールプレーンノードへの接続—ファブリックデバイスのみ (エッジおよびボーダー)	<ul style="list-style-type: none"> • コントロールプレーンノードが到達可能な場合、スコアは 10 です。 • コントロールプレーンノードが到達不能な場合、スコアは 1 です。 <p>(注) ファブリックネットワークに 1 つ以上のコントロールプレーンノードが存在し、すべてのコントロールプレーンノードに到達可能な場合、スコアは 10 です。そうでない場合、スコアは 1 です。</p> <p>(注) ヘルススコアをファブリックデバイス向けに正しく入力するには、SNMP コレクタメトリックを有効にします。 ファブリックデバイスで SNMP コレクタメトリックを有効化 (127 ページ) を参照してください。</p>

ルータ ヘルス スコア

ルータ ヘルス スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。



(注) メンテナンスモードのデバイスは、デバイスのヘルススコアの計算に含まれません。

パラメータ	スコアの計算
CPU 使用率	<ul style="list-style-type: none"> • CPU 使用率が 95 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • CPU 使用率が 95 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
メモリ使用率	<ul style="list-style-type: none"> • メモリ使用率が 95 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • メモリ使用率が 95 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
WAN 接続	<ul style="list-style-type: none"> • WAN 接続がダウンした場合、スコアは 1 です。 • WAN 接続がアップしている場合、スコアは 10 です。
リンクエラー	<p>リンクエラーについては、インフラストラクチャリンクだけが考慮されます。インフラストラクチャリンクとは、ネットワークデバイス（スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ、AP など）間のトポロジリンクを指します。</p> <p>物理インフラストラクチャ インターフェイスにエラーがある場合のスコアは 8、すべてのリンクがダウンしている場合は 1、それ以外の場合は 10 です。</p>
リンク破棄	<p>リンク破棄については、インフラストラクチャリンクだけが考慮されます。インフラストラクチャリンクとは、ネットワークデバイス（スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ、AP など）間のトポロジリンクを指します。</p> <p>物理インフラリンクにパケットドロップ（廃棄）がある場合、すべてのリンクで廃棄が発生した場合のスコアは 8、それ以外の場合は 10 です。</p>

AP ヘルス スコア

AP ヘルス スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。



(注) メンテナンスモードのデバイスは、デバイスのヘルススコアの計算に含まれません。

パラメータ	スコアの計算
CPU 使用率	<ul style="list-style-type: none"> • CPU 使用率が 90 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • CPU 使用率が 90 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
メモリ使用率	<ul style="list-style-type: none"> • メモリ使用率が 90 パーセント未満の場合、スコアは 10 です。 • 利用可能メモリ率が 90 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
無線使用率スコア	<p>スコアは無線ごとに個別に計算されて、平均無線スコアが確定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無線使用率が 70 パーセント未満の場合、スコアは 10 です。 • 無線使用率が 70 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
干渉スコア	<p>スコアは無線ごとに個別に計算されて、平均無線スコアが確定します。</p> <p>2.4 GHz 無線の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 干渉が 50 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • 干渉が 50 パーセントを超える場合、スコアは 1 です。 <p>5 GHz 無線の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 干渉が 20 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 • 干渉が 20 パーセントを超える場合、スコアは 1 です。
RF ノイズスコア	<p>スコアは無線ごとに個別に計算されて、平均無線スコアが確定します。</p> <p>2.4 GHz 無線の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • RF ノイズが -81 dBm 未満の場合、スコアは 10 です。 • RF ノイズが -81 dBm 以上の場合、スコアは 1 です。 <p>5 GHz 無線の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • RF ノイズが -83 dBm 未満の場合、スコアは 10 です。 • RF ノイズが -83 dBm 以上の場合、スコアは 1 です。

パラメータ	スコアの計算
電波品質スコア	<p>スコアは無線ごとに個別に計算されて、平均無線スコアが確定します。</p> <p>2.4 GHz 無線の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> 電波品質が 60 パーセント以上の場合、スコアは 10 です。 電波品質が 60 パーセント未満の場合、スコアは 1 です。 <p>5 GHz 無線の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> 電波品質が 75 パーセント以上の場合、スコアは 10 です。 電波品質が 75 パーセント未満の場合、スコアは 1 です。

ワイヤレスコントローラのヘルススコア

ワイヤレスコントローラのヘルススコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。



(注) メンテナンスモードのデバイスは、デバイスのヘルススコアの計算に含まれません。

パラメータ	スコアの計算
メモリ使用率	<ul style="list-style-type: none"> メモリ使用率が 90 パーセント未満の場合、スコアは 10 です。 利用可能メモリ率が 90 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
空きタイマースコア	<ul style="list-style-type: none"> 空きタイマーの数が 20 パーセント以上の場合、スコアは 10 です。 空きタイマーの数が 20 パーセント以下の場合、スコアは 1 です。
空きメモリバッファ (MBufs)	<ul style="list-style-type: none"> 空きメモリ バッファの数が 20 パーセント以上の場合、スコアは 10 です。 空きメモリ バッファの数が 20 パーセント以下の場合、スコアは 1 です。

パラメータ	スコアの計算
作業キュー要素 (WQE) のプールスコア	<ul style="list-style-type: none"> WQE プールが WQE プールのしきい値より大きい場合、スコアは 10 です。 WQE プールが WQE プールのしきい値と同じレベルかこれより低い場合、スコアは 1 です。
パケットプール	<ul style="list-style-type: none"> パケット プールがパケット プールのしきい値より大きい場合、スコアは 10 です。 パケット プールがパケット プールのしきい値と同じレベルかこれより低い場合、スコアは 1 です。
Link Errors	<ul style="list-style-type: none"> リンク エラーが 1 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。 リンク エラーが 1 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
コントロールプレーンノードへの接続—ファブリックワイヤレスコントローラのみ	<ul style="list-style-type: none"> コントロール プレーン ノードが到達可能な場合、スコアは良好です。 コントロール プレーン ノードが到達不能な場合、スコアは不良です。 <p>(注) ファブリックネットワークに 1 つ以上のコントロールプレーンノードが存在し、すべてのコントロールプレーンノードに到達可能な場合、スコアは 10 です。そうでない場合、スコアは 1 です。</p>

Catalyst ワイヤレス コントローラのヘルス スコア

Catalyst ワイヤレス コントローラのヘルス スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。

- メモリ使用率:
 - メモリ使用率が 90 パーセント未満の場合、スコアは 10 です。
 - 利用可能メモリ率が 90 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
- リンク エラー数:
 - リンク エラーが 1 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。
 - リンク エラーが 1 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。

スイッチ上の Catalyst ワイヤレス コントローラのヘルス スコア

スイッチ上の Catalyst ワイヤレス コントローラのヘルス スコアは、次のパラメータの最小サブスコアです。



(注) メンテナンスモードのデバイスは、デバイスのヘルススコアの計算に含まれません。

- CPU 使用率:
 - CPU 使用率が 95 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。
 - CPU 使用率が 95 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
- メモリ使用率:
 - メモリ使用率が 95 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。
 - メモリ使用率が 95 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
- リンク エラー (Rx および Tx) :
 - リンク エラーが 1 パーセント以下の場合、スコアは 10 です。
 - リンク エラーが 1 パーセント以上の場合、スコアは 1 です。
- リンク ステータス:
 - ステータスがリンク稼働中のとき、スコアは 10 です。
 - ステータスがリンク ダウンのとき、スコアは 1 です。

ネットワークヘルススコアと KPI メトリックに対するメンテナンスモードの影響

ネットワークデバイス（ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、またはアクセスポイント）がメンテナンスモードになると、そのクライアントもメンテナンスモードになります。たとえば、シスコワイヤレスコントローラをメンテナンスモードにすると、ワイヤレスコントローラに関連付けられている AP もすべてメンテナンスモードになります。Cisco DNA Center は、デバイスが管理アクションとして、またはデバイスとの関連付けの結果として、メンテナンスモードになったかに関係なく、メンテナンスモードのすべてのデバイスを同じように扱います。

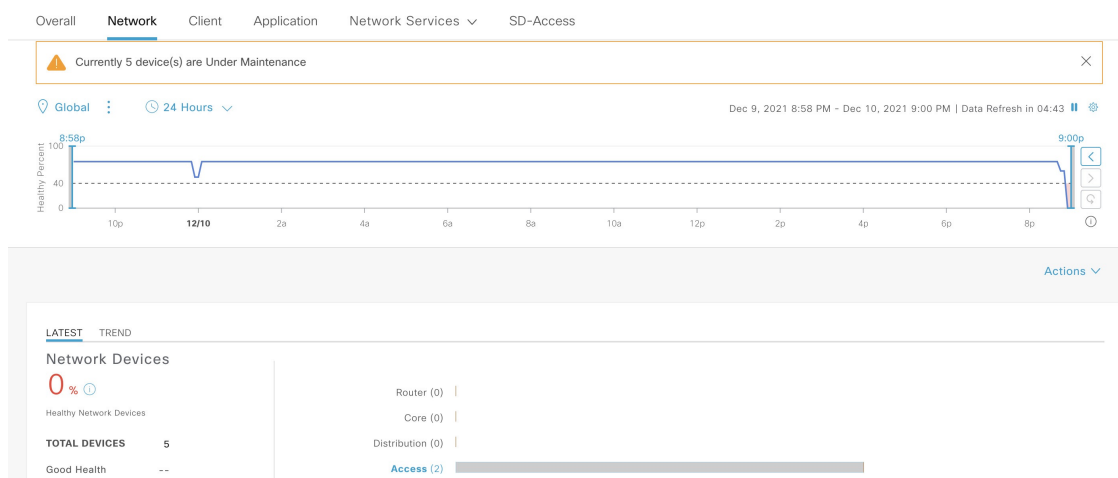
ネットワークデバイスがメンテナンスモードの間は、Cisco DNA Center はデバイスに対して次のタスクを実行しないため、ネットワーク正常性スコアと KPI メトリックには、メンテナンスモードのネットワークデバイスは含まれません。

- 正常性データを収集します。

- インターフェイス統計を収集します。
- トリガーの問題。
- サイトの正常性スコアなどの正常性スコアの計算にデバイスを含まず。

[Assurance]>[Health]>[Network]ウィンドウでデバイスがメンテナンスモードのときにネットワークの正常性スコアとKPIメトリックにアクセスすると、Cisco DNA Centerにデバイスがメンテナンスモードであることを示すバナーが表示されます。さらに、メンテナンス期間の開始時刻と終了時刻が [device 360] ウィンドウに表示され、システムステータスログにイベントとして記録されます。ダッシュボードでは、メンテナンスモードのデバイスでフィルタリングできます。

図 13: メンテナンスバナー付きの [Device 360]



Cisco DNA Center は、メンテナンスモードのデバイスに対して次のタスクの実行を継続します。

- 関連するイベントが引き続き生成され、メンテナンスモード中にイベントビューアに表示できます。
- イメージのアップグレード、一括プロビジョニングなどのメンテナンス関連の操作は、引き続きイベントをトリガーします。
- アシユアランスの可用性レポートは影響を受けません。
- トポロジは影響を受けません。



第 7 章

クライアント正常性のモニターとトラブルシューティング

- [クライアントについて](#) (139 ページ)
- [すべてのクライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング](#) (139 ページ)
- [クライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング](#) (157 ページ)
- [クライアントの正常性スコアと KPI メトリックについて](#) (170 ページ)

クライアントについて

クライアントが、ネットワークデバイス（アクセスポイントやスイッチ）に接続されているエンドデバイス（コンピュータ、電話など）であること。Cisco DNA Center は、有線クライアントとワイヤレスクライアントの両方をサポートしています。

すべてのクライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング

クライアントが、ネットワークデバイス（アクセスポイントやスイッチ）に接続されているエンドデバイス（コンピュータ、電話など）であること。Cisco DNA Center は、有線クライアントとワイヤレスクライアントの両方をサポートしています。

この手順を使用して、すべての有線およびワイヤレスのクライアントの正常性の概要を把握し、対処する必要がある潜在的な問題があるかどうかを判断します。

アシュアランス 機械学習（ML）アルゴリズムを使用してネットワーク内の動作パターンを抽出し、トレンドを予測します。これらのトレンドは、[Client Onboarding Time] ダッシュレットおよび [Client Count Per SSID] ダッシュレットに基準として表示されます。



(注) HA フェールオーバーが発生した場合、クライアントの正常性データの表示に 1 時間かかることがあります。

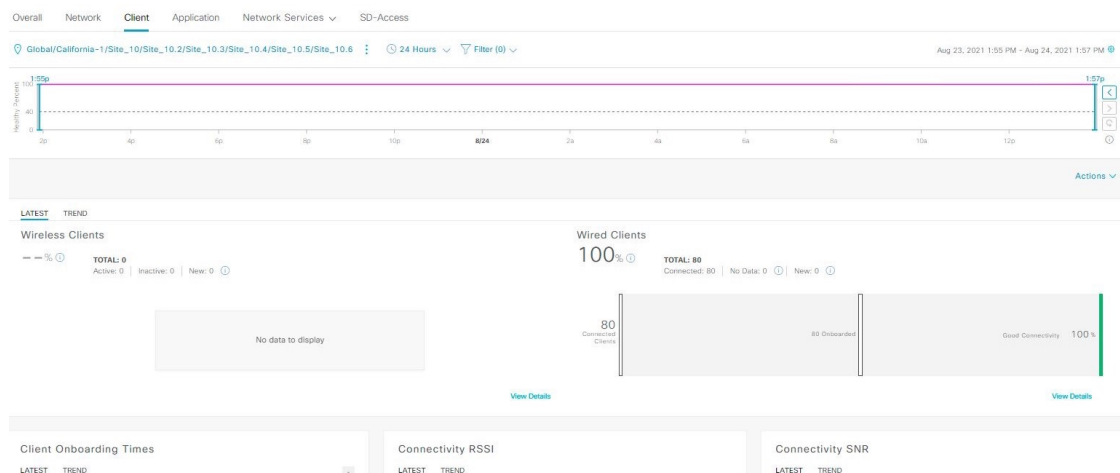
ステップ 1 [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス**。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。












ステップ 2 [Client] タブをクリックします。

[Client Health] ダッシュボードが表示されます。

図 14: クライアントの正常性ダッシュボード



ステップ 3 次の機能には、[Client] 正常性ダッシュボードの上部メニューバーを使用します。

[Client] 正常性ダッシュボードの上部メニューバー	
アイテム	説明
 Global [Location] ペイン	<p>クリックすると、次のアイコンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  Global  をクリックして、左側の階層ツリーペインからエリア/サイト、または建物を選択します。グローバルから下矢印をクリックして、関連するエリア、サイト、および建物に移動することもできます。 ネットワーク階層からフロアを選択することはできません。 ロケーションアイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して [Sites] テーブルを表示します。  Hide Sites をクリックして [Sites] テーブルを非表示にします。   : このトグルボタンをクリックすると、ドロップダウンリストを使用して、サイトまたは建物ごとの正常なクライアントの割合をテーブル形式で表示できます。ロケーションに対して [Apply] をクリックすると、[Client Health] ダッシュボードにはそのロケーションのクライアント情報のみが表示されます。   : このトグルボタンをクリックすると、すべてのクライアントサイトの正常性が、地理的ロケーションに基づいたクライアント正常性マップで表示されます。デフォルトでは、クライアントサイトは問題の重大度に従って色分けされています。 ヘルス スコアの色は、その重大度を示します。正常性は 1 ~ 10 のスケールで測定され、10 が最高スコアになります。スコア 0 は、クライアントが非アクティブであることを示します。 <p>[Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Client Health] ダッシュボードに表示されます。</p>
 時間範囲の設定	<p>ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ドロップダウンメニューで範囲の長さ ([3 Hours]、[24 Hours]、または[7 days]) を選択します。 [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。 [Apply] をクリックします。

[Client] 正常性ダッシュボードの上部メニューバー	
アイテム	説明
[Filter] アイコン	<p>[SSID] および [Band] オプションが含まれます。ドロップダウンリストから SSID と帯域周波数の隣にあるチェックボックスをオンにして選択し、[Apply] をクリックします。選択した内容に応じて、ダッシュボードの情報が更新されます。</p> <p>(注) 複数の SSID を選択できます。たとえば、クラス 1 およびクラス 2 の SSID を選択した場合、ダッシュボードには、クラス 1 SSID とクラス 2 SSID に接続されているクライアントの情報が表示されます。</p>
[Actions] ドロップダウン リスト	<p>クライアントダッシュボードを PDF 形式にエクスポートできます。[Export Dashboard] をクリックしてプレビューページを表示し、[Save] をクリックします。</p> <p>ドロップダウンリストから [Edit Dashboards] を選択すると、ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。ダッシュレットの位置の変更 (392 ページ) および カスタムダッシュボードの作成 (387 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 4 タイムラインスライダを使用すると、正常なクライアント比率をより詳細な時間範囲で表示できます。

タイムライン内でマウスのカーソルを合わせると、特定の時点のワイヤレスおよび有線クライアントの正常性スコアのパーセンテージが表示されます。

時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。これにより、ダッシュボードダッシュレットに表示されるクライアントデータのコンテキストが設定されます。

タイムラインの右にある矢印ボタンを使用して、最大 30 日分のデータを表示できます。

点線の横線は、正常なクライアントのしきい値を表します。デフォルトでは、40% に設定されています。

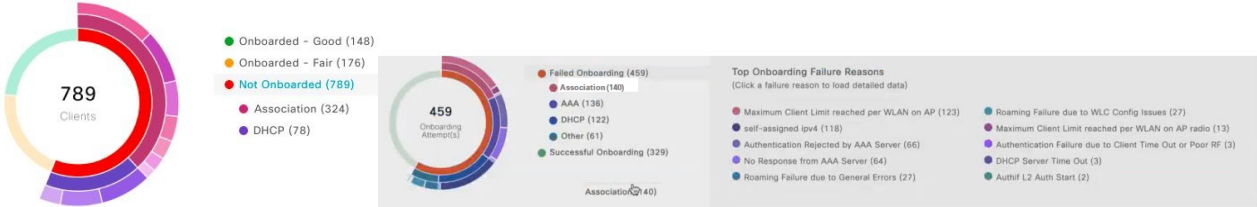
しきい値を変更するには、次の手順を実行します。

1. 情報アイコン (i) にカーソルを合わせます。
2. ツールチップで、編集アイコン (✎) をクリックします。
3. [Client Health Threshold] スライドインペインで、青色の線をクリックしてドラッグし、しきい値のパーセンテージを設定します。
4. [Save] をクリックします。

(注) [Client Summary] の [Health Score] が赤色で表示される場合、カスタムしきい値の変更に影響が出ます。カスタムしきい値によって、正常または異常なデバイスの数が変わることはありません。

ステップ 5 次の機能には、[Client Health] ダッシュレットを使用します。

[Client Health Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Health Summary] エリア	<p>次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Latest] : デフォルトで表示されます。主要な構成は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [Wireless Clients] と [Wired Clients Health Summary Score] : ワイヤレスおよび有線クライアントの正常性スコアは、正常にオンボードされ接続性が良好なクライアントの割合です。クライアントヘルススコア (170 ページ) を参照してください。 • [Total Devices] : クライアントの合計数、およびアクティブ、非アクティブ、新しいクライアントの数が表示されます。Cisco DNA Center は、5 分間の正常性スコア計算ウィンドウ内のアクティビティに基づいて、アクティブなクライアント、非アクティブなクライアント、および新しいクライアントを次のように定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Active] : 正常にオンボードし、データしきい値を満たすのに十分なデータを送信しているクライアント、正常にオンボードしたが切断されたクライアント、オンボードを試行したが失敗したクライアント、オンボードを試行したが除外されたクライアント。 • [Inactive] : データしきい値を満たすのに十分なデータを送信していないクライアント。ユーザーアイドルタイムアウト期間が経過すると、ワイヤレスコントローラは非アクティブなクライアントの認証を解除します。 • [New] : オンボーディング中のクライアント。これらのクライアントの正常性スコアは、次の 5 分間の計算ウィンドウに含まれます。 • [Charts] : このスナップショットビューチャートでは、過去 5 分間でオンボードに成功または失敗したクライアントの分布が示されます。次に、正常にオンボードしたクライアントの数を使用して、このチャートでは接続性が良好または中程度のクライアントの割合が示されます。 • [Trend] : 一定の期間にわたるクライアントの健全性を示すトレンドチャートを表示します。 <p>オンボードに失敗したクライアントの場合、オンボーディング失敗の理由が示されます。例には、AAA、DHCP、およびその他が含まれます。</p> <p>チャート内の色は、クライアントデバイスの正常性を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● : クライアントデバイスが不適切です。ヘルス スコアの範囲は 1 ~ 3 です。 ● : クライアントデバイスが適切です。ヘルス スコアの範囲は 4 ~ 7 です。 ● : クライアントデバイスが良好です。ヘルス スコアの範囲は 8 ~ 10 です。 ● : クライアントデバイスが非アクティブです。ヘルス スコアは 0 です。

[Client Health Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。</p> <p>放射状棒チャートは、オンボーディングに失敗したクライアントの分布と、オンボーディング失敗の理由を示します。各セグメントをクリックして、失敗の理由を表示できます。</p>  <p>The dashboard displays two donut charts. The first chart shows the overall client health with 789 clients, categorized into Onboarded - Good (148), Onboarded - Fair (176), and Not Onboarded (789). The Not Onboarded segment is further broken down into Association (324) and DHCP (78). The second chart shows 459 Onboarding Attempts, categorized into Failed Onboarding (459) and Successful Onboarding (329). The Failed Onboarding segment is broken down into Association (140), AAA (136), DHCP (122), and Other (61). A table lists the Top Onboarding Failure Reasons, including Maximum Client Limit reached per WLAN on AP (123), self-assigned ipv4 (118), Authentication Rejected by AAA Server (66), No Response from AAA Server (64), Roaming Failure due to General Errors (27), Roaming Failure due to WLC Config Issues (27), Maximum Client Limit reached per WLAN on AP radio (13), Authentication Failure due to Client Time Out or Poor RF (3), DHCP Server Time Out (3), and Authif L2 Auth Start (2).</p> <ul style="list-style-type: none"> • そのセグメントのクライアント数別のデータタイプカテゴリ。 • そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

ステップ 6 ネットワーク内のクライアントの特定の KPI とメトリックを表示するには、KPI ダッシュレットを使用します。次の表では、KPI ダッシュレットについて説明します。

(注) チャートデータは 5 分ごとに更新されます。

[Client Onboarding Times] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Onboarding Times] チャート	<p>すべてのサイトまたは選択したサイトでの、すべてのクライアントオンボード試行の時系列分布。このダッシュレットには、10秒以内にオンボードに成功したクライアントの割合が示されます。クライアントのオンボーディングは、関連付け、認証、アドレッシング、Web 認証、および DNS の各フェーズを対象としています。</p> <p>チャートには、次の2種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Latest] : デフォルトで表示されます。このスナップショットビューチャートでは、過去5分間オンボードに成功または失敗したクライアントの分布が示されます。次に、正常にオンボードしたクライアントの数を使用して、このチャートでは接続性が良好または中程度のクライアントの割合が示されます。 • [Trend] : [Client Count] タブと [Baseline] タブがあります。[Baseline] タブをクリックすると、機械学習によって生成されるオンボーディング時間のチャートが表示されます。 <p>(注) [Baseline] タブは、近い将来に廃止される予定です。AI ネットワーク分析の機能については、AI ネットワーク分析を有効にする必要があります。Cisco AI Network Analytics の 設定 (84 ページ) および Cisco AI Network Analytics の概要 (7 ページ) を参照してください。</p> <p>重要 基準チャートを表示するには、[Filter] オプションからサイトと SSID を選択する必要があります。</p> <p>基準チャートの詳細は、異なる色で表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑色のバンド : 予測基準値。 • 青色の実線 : 実際の値。 <p>オンボードに失敗したクライアントの場合、オンボーディング失敗の理由が示されます。例には、AAA、DHCP、およびその他が含まれます。</p>

[Client Onboarding Times] ダッシュレット	
アイテム	説明
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 左側のペインには、[Overall]、[Association]、[Authentication]、[DHCP] タブが表示されます。タブをクリックすると、右側のペインにチャートが表示されます。 右側のペインに表示される [Charts] には、次のタブがあります。 <ul style="list-style-type: none"> [Latest] : 全体の平均オンボーディング時間が表示されます。 <p>[Authentication] および [DHCP] の場合、[Latest] タブには、[Avg Latency Time]、[Authentication] の [Avg Authentication Time]、および [DHCP] の [Avg DHCP Time] に基づいてデータをフィルタリングするためのドロップダウンリストが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Trend] : [Baseline] タブが含まれます。このタブでは、機械学習の基準チャートを表示できます。 <p>左ペインで選択したタブに応じて、[Trend] > [Baseline] の下に追加のタブが表示されます。たとえば、[Association]、[Authentication]、または [DHCP] データの [Authentication]、[Time Baseline]、または [Failure Baseline] タブが表示されます。</p> <p>(注) [Failure Baseline] データは、グローバルサイトの場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) [Baseline]、[Time Baseline]、および [Failure Baseline] タブは、近い将来に廃止される予定です。AI ネットワーク分析の機能については、AI ネットワーク分析を有効にする必要があります。Cisco AI Network Analytics の設定 (84 ページ) および Cisco AI Network Analytics の概要 (7 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> チャートの上にマウスカーソルを合わせると、選択した時点の情報が同期化されたツールチップに表示されます。 チャート内の色付きセグメントをクリックすると、次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Access Points]、[Top Host Device Types]、[Top SSIDs]、[Top Bands]、および [Top Host Operating Systems]。 そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

[Connectivity RSSI] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Connectivity RSSI] チャート	すべてのサイトまたは選択したサイト内に配置されたすべてのクライアントの受信信号強度表示 (RSSI) 分布。このダッシュレットには、RSSI 測定値が -72 dBm (しきい値) より大きいすべてのクライアントの RSSI 測定値の割合が示されます。
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインでチャート内の色付きセグメントをクリックすると、次が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Access Points]、[Top Host Device Types]、[Top SSIDs]、[Top Bands]、および [Top Host Operating Systems]。 そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

[Connectivity SNR] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Connectivity SNR] チャート	すべてのサイトまたは選択したサイト内に配置されたすべてのクライアントの信号対雑音比 (SNR) 分布。このダッシュレットには、SNR 測定値が 10 dBm (しきい値) より大きいすべてのクライアントの SNR 測定値の割合が示されます。
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインでチャート内の色付きセグメントをクリックすると、次が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Access Points]、[Top Host Device Types]、[Top SSIDs]、[Top Bands]、および [Top Host Operating Systems]。 そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

[Client Roaming Times] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Roaming Times] チャート	ローミング時間および障害別のクライアント分布。このダッシュレットには、ローミング時間が 3000 ミリ秒未満のクライアントの割合が表示されます。

[Client Roaming Times] ダッシュレット	
アイテム	説明
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインでチャート内の色付きセグメントをクリックすると、次が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Access Points]、[Top SSIDs]、[Top Host Device Types]、[Top Bands]、[Top Locations]、および [Top Host Operating Systems]。 そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

[Client Count per SSID] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Count per SSID] チャート	<p>すべてのサイトまたは選択したサイトにおける SSID 別のクライアント数の時系列分布。チャートには、次の 2 種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Latest] : デフォルトで表示されます。このスナップショットビューチャートには、SSID または選択したサイトごとのクライアントの分布が表示されます。 [Trend] : [Client Count] タブと [Baseline] タブがあります。[Baseline] タブをクリックすると、機械学習によって生成される SSID 基準チャートが表示されます。 <p>(注) [Baseline] タブは、近い将来に廃止される予定です。AI ネットワーク分析の機能については、AI ネットワーク分析を有効にする必要があります。Cisco AI Network Analytics の設定 (84 ページ) および Cisco AI Network Analytics の概要 (7 ページ) を参照してください。</p> <p>重要 SSID 機械学習の基準チャートを表示するには、[Filter] オプションからサイトと SSID を選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準チャートの詳細は、異なる色で表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 緑色のバンド : 予測基準値。 青色の実線 : 実際の値。

[Client Count per SSID] ダッシュレット	
アイテム	説明
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。</p> <p>次の 2 種類のチャートから構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Latest • [Trend] : [Baseline] タブが含まれます。このタブでは、機械学習の基準チャートを表示できます。 <p>(注) [Baseline] タブは、近い将来に廃止される予定です。AI ネットワーク分析の機能については、AI ネットワーク分析を有効にする必要があります。Cisco AI Network Analytics の設定 (84 ページ) および Cisco AI Network Analytics の概要 (7 ページ) を参照してください。</p> <p>チャートの上にマウスカーソルを合わせると、選択した時点の情報が同期化されたツールチップに表示されます。</p> <p>チャート内の色付きセグメントをクリックすると、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Access Points]、[Top Host Device Types]、[Top Bands]、および [Top Host Operating Systems]。 • そのセグメント内のワイヤレスクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

[Connectivity Physical Link] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Connectivity Physical Link] チャート	<p>有線クライアントデバイスのリンクステートの分布。これは、物理リンクがアップ、ダウン、およびエラーであるクライアントデバイスの数です。</p>
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインでチャート内の色付きセグメントをクリックすると、次が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Switches]、[Top Host Device Types]、および [Top Host Operating Systems]。 • そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。

[Client Count per Band] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Count per Band] チャート	2.4 GHz 帯域または 5 GHz 帯域に接続されたワイヤレスクライアントの分布。 セグメントの上にカーソルを合わせると、特定の帯域に接続されているクライアントの割合と数が表示されます。
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインでチャート内の色付きセグメントをクリックすると、次が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Access Points]、[Top Host Device Types]、[Top SSIDs]、および [Top Host Operating Systems]。 そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。



[Client Data Rate] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Data Rate] チャート	クライアントのデータレートの分布。 使用しているクライアントプロトコルに基づいてクライアントをフィルタ処理するには、[Client Protocol] ドロップダウンリストを使用します。[802.11 n/ac/ax] または [802.11 a/b/g] を選択できます。
[View Details]	<p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインでチャート内の色付きセグメントをクリックすると、次が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント数別のデータタイプカテゴリ : [Top Locations]、[Top Access Points]、[Top Host Device Types]、[Top SSIDs]、[Top Bands]、および [Top Host Operating Systems]。 そのセグメント内のクライアントの詳細データが格納されたテーブル。




ステップ 7 ネットワーク内のクライアントに関する詳細情報を表示するには、[Client Devices] ダッシュレットを使用します。このダッシュレットには、次の機能があります。

[Client Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Type]	クライアントのタイプに基づいてテーブルをフィルタ処理します。オプションは、[Wired] および [Wireless] クライアントです。

[Client Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
ヘルス (Health)	<p>次のオプションを使用して、クライアントの正常性を基にテーブルをフィルタリングします。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべて• Inactive : 正常性スコアが 0 のクライアントデバイス。• Poor : 正常性スコアが 1 ~ 3 のクライアントデバイス。• Fair : 正常性スコアが 4 ~ 7 のクライアントデバイス。• Good : 正常性スコアが 8 ~ 10 のクライアントデバイス。• No Data : データのないクライアントデバイス。
データ	<p>次のオプションを使用して、データタイプを基にテーブルをフィルタリングします。</p> <ul style="list-style-type: none">• [Onboarding Time >= 10 s] : オンボーディング時間が 10 秒 (しきい値) 以上。• [Association >= 5 s] : 関連付け時間が 5 秒 (しきい値) 以上。• [DHCP >= 5 s] : DHCP 時間が 5 秒 (しきい値) 以上。• [Authentication >= 5 s] : 認証時間が 5 秒以上。• [RSSI <= -72 dBm] : RSSI が -72 dBm (しきい値) 以下。• [SNR <= 9 dB] : SNR が 9 dB (しきい値) 以下。

[Client Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Client Device] テーブル	

[Client Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
	<p>詳細なクライアントデバイス情報を表形式で表示します。デフォルトでは、[Client Device] テーブルに次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Identifier] : クライアントのユーザー ID、ホスト名、または MAC アドレスが、可用性に基づいてこの順序で表示されます。たとえば、ユーザー ID が使用不可能な場合は、ホスト名が表示されます。ユーザー ID とホスト名が使用不可能な場合は、MAC アドレスが表示されます。 <p>[Identifier] 列には、クライアントデバイスが有線と無線のどちらであるかを判別できる固有のアイコンも表示されます。ワイヤレスデバイスの場合、クライアントが接続している間、およびクライアントが新しく接続されると、アイコンに青い点が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [MAC Address] : デバイスの MAC および Randomized and Changing MAC Address (RCM) を含む MAC アドレスが表示されます。プライベート MAC  アイコンが RCM の前に表示されます。MAC アドレスのタイプ (すべて、デバイス MAC、RCM など) に基づいてテーブルをフィルタ処理できます。 • [IPv4 Address] : クライアントの IPv4 アドレスが、可用性に基づいて表示されます。 <p>(注)  メニューで [IPv6 Address] チェックボックスをオンにすると、クライアントの IPv6 アドレスを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Device Type] : デバイスタイプが表示されます。 • [Health] : オンボーディングスコアと接続済みスコアの平均が表示されます。クライアントヘルススコアは5分ごとに計算されます。 <p>(注) スコアが -- の場合、これはクライアントが直近でオンボーディングした (新規) ことを示します。新しいクライアントは、健全性スコア計算ウィンドウの開始5分後に、オンボードを試行するクライアントです。これらの新規クライアントのヘルススコアは、次の5分間の計算ウィンドウに含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Trust Score] : AI エンドポイント分析の信頼レベルに基づいて、ネットワークに接続されているエンドポイントの信頼スコアが表示されます。 • [Tracked] : クライアントのトラッキングステータスが表示されます。 • Last Seen • [AP Name] (ワイヤレスクライアントの場合のみ) : アクセスポイントの名前が表示されます。 • [Switch] (有線クライアントの場合のみ) • [Port] (有線クライアントの場合のみ)

[Client Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Location] : クライアントの割り当て済みロケーションが表示されます。 • [Security Group (Tag Value)] : 有線クライアントの場合のみ、セキュリティグループタグ値が表示されます。 • [Bridge-Mode Virtual Machine] : ワイヤレスクライアントの場合のみ、ブリッジモード仮想マシンが表示されます。 • [Average Latency By Access Category] : 平均ビデオ、平均音声、平均ベストエフォート、および平均バックグラウンド遅延が含まれます。 • [Link Speed] (有線クライアントの場合のみ) : インターフェイスまたは物理ポートの速度容量を示します。ポートが特定の速度にネゴシエートされた場合は、ネゴシエートされた速度が表示されます。 <p>(注)  メニューで [Link Speed] チェックボックスをオンにすると、リンク速度を表示できます。</p>
[Tracked Clients]	[Tracked Clients] をクリックするとスライドインペインが表示されます。このペインには、[MAC Address]、[Last Detected]、[Tracking Duration]、[Description]、および [Randomized MACs] を含むテーブルが表示されます。
Excluded Clients	<p>[Excluded Clients] をクリックするとスライドインペインが表示されます。このペインには、[Excluded MAC address]、[Excluded Since]、[Impacted Wireless Controllers]、および [Description] を含むクライアント除外リストが表示されます。</p> <p>クライアントの除外の詳細については、「除外クライアントの設定 (155ページ)」 [英語] を参照してください。</p>
クライアントの [Client 360] の表示	<p>クライアントデバイスの MAC アドレスまたは識別子をクリックすると、クライアントの 360 度ビューが表示されます。</p> <p>[Client 360] には、クライアント接続の問題のトラブルシューティングに関する詳細情報が記載されています。</p>
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.  をクリックします。 2. テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 3. [Apply] をクリックします。

[Client Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Export]	<p>CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p> <p>(注) テーブルの列が選択されていない場合、使用可能なすべての列のデータがエクスポートの対象になります。アプリケーションテーブルに適用されているフィルタは、エクスポート対象のデータに適用されます。</p>

トラッキング対象クライアントの設定

特定のクライアントをトラッキングおよびモニターし、接続日時と接続時間を表示できます。トラッキングリスト内のクライアントが接続したときに通知されるように通知を設定できます。

ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス**。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Client] タブをクリックします。

ステップ 3 [Client Devices] ダッシュレットで、トラッキングするクライアントの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [Actions] ドロップダウンリストから、[Track Client] を選択します。

ステップ 5 [Tracked Clients] slide-in pane でクライアントをトラッキングリストに追加するには、次の手順を実行します。

- トグルボタンをクリックしてクライアントのトラッキングを有効にします。
- 使用可能なオプションからトラッキング期間を選択します。
- 通知頻度を設定するには、[On First Detection] または [On Every Detection] を選択し、[Save] をクリックします。

ステップ 6 クライアントのトラッキングを停止するには、次の手順を実行します。

- トラッキングを停止するクライアントの横にあるチェックボックスをオンにします。
- [Actions] にカーソルを合わせて [Stop Tracking Client] を選択し、[OK] をクリックします。

除外クライアントの設定

この手順を使用して シスコワイヤレス コントローラ の除外クライアントを設定します。
[Excluded Clients] オプションを使用して、次を設定できます。

- クライアントを除外リストに追加する。

- 除外リストのクライアントを編集する。
- クライアントを除外する ワイヤレスコントローラ を追加する。
- 除外リストからクライアントを削除する。

ステップ 1 [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Client] タブをクリックします。

ステップ 3 [Client Devices] ダッシュレットで、[Excluded Clients] をクリックします。

ステップ 4 [Excluded Clients] スライドインペインで、除外リストにクライアントを追加するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ドロップダウンリストからクライアントを選択するには、[Add] をクリックして次を設定します。
 1. [MAC Address] ドロップダウンリストから MAC アドレスを選択します。または、検索フィールドに有効な MAC アドレスを入力し、プラスアイコン (+) をクリックして MAC アドレスを追加することもできます。
 2. [Description for Exclusion] フィールドに説明を入力します。
 3. (オプション) 別の MAC アドレスを追加するには、プラスアイコン (+) をクリックします。
 4. [Next] をクリックします。
 5. クライアントを除外する ワイヤレスコントローラ の横にあるチェックボックスをオンにします。
 6. [Save] をクリックします。
- クライアントのリストを CSV 形式でインポートするには、[Import Client List (CSV)] をクリックします。
 1. [CSV Sample] をクリックして、サンプル CSV ファイルをダウンロードします。
 2. サンプル CSV ファイルを編集してクライアントの情報を含めます。
 3. CSV ファイルをファイルアップロードエリアにドラッグアンドドロップします。または、[Choose a file] をクリックして CSV ファイルの場所に移動し、[Upload] をクリックすることもできます。
 4. [Next] をクリックします。
 5. クライアントを除外する ワイヤレスコントローラ の横にあるチェックボックスをオンにします。
 6. [Save] をクリックします。

ステップ 5 除外リストのクライアントを編集するには、次の手順を実行します。

- a) 編集する除外 MAC アドレスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] にカーソルを合わせて [Edit] を選択します。

- c) 説明を編集し、[Save] をクリックします。

ステップ 6 クライアントを除外する ワイヤレスコントローラ を追加するには、次の手順を実行します。

- a) ワイヤレスコントローラを追加する除外 MAC アドレスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] にカーソルを合わせて [Add WLC] を選択します。
- c) クライアントを除外する ワイヤレスコントローラ の横にあるチェックボックスをオンにします。
- d) [Save] をクリックします。

ステップ 7 除外リストからクライアントを削除するには、次の手順を実行します。

- a) 削除する除外 MAC アドレスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] にカーソルを合わせて [Delete] を選択します。
- c) [はい (Yes)] をクリックします。

クライアントデバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング

[Client 360] ウィンドウを使用して、ネットワーク管理者は、クライアントに発生した問題を簡単に特定できます。入手可能な情報により、クライアントの問題に関する次のインサイトが得られます。

- **問題の内容** : [Summary] カテゴリを使用して、オンボーディング、ローミング、接続の問題など、クライアントに発生した問題についてのインサイトをすばやく得ることができます。
- **時期** : 正常性タイムラインスライダを使用して、問題が発生した時期を特定します。問題がいつ発生したかがわかっている場合は、問題を設定の変更と関連付けることが可能な場合があります。
- **原因** : 問題の原因となったイベントと KPI を表示します。
- **影響** : 問題が 1 人のユーザーに限定されているか、多数のユーザーに広がっているかを判定します。

これらすべての機能により、IT 組織は、ネットワークをより効率的に運用し、ユーザーにより良いエクスペリエンスを提供できます。

この手順を使用して特定のクライアントデバイスに関する詳細情報を表示して、対処する必要がある潜在的な問題が存在するかどうかを判断します。



(注) ベストプラクティスとして、アンカーと外部 ワイヤレスコントローラ の両方を Cisco DNA Center に追加して、ゲストアンカーまたは L3 モビリティ クライアントセッションを完全に可視化します。

HA フェールオーバーが発生した場合、クライアントの正常性データの表示に最大 1 時間かかることがあります。

ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Client] タブをクリックします。

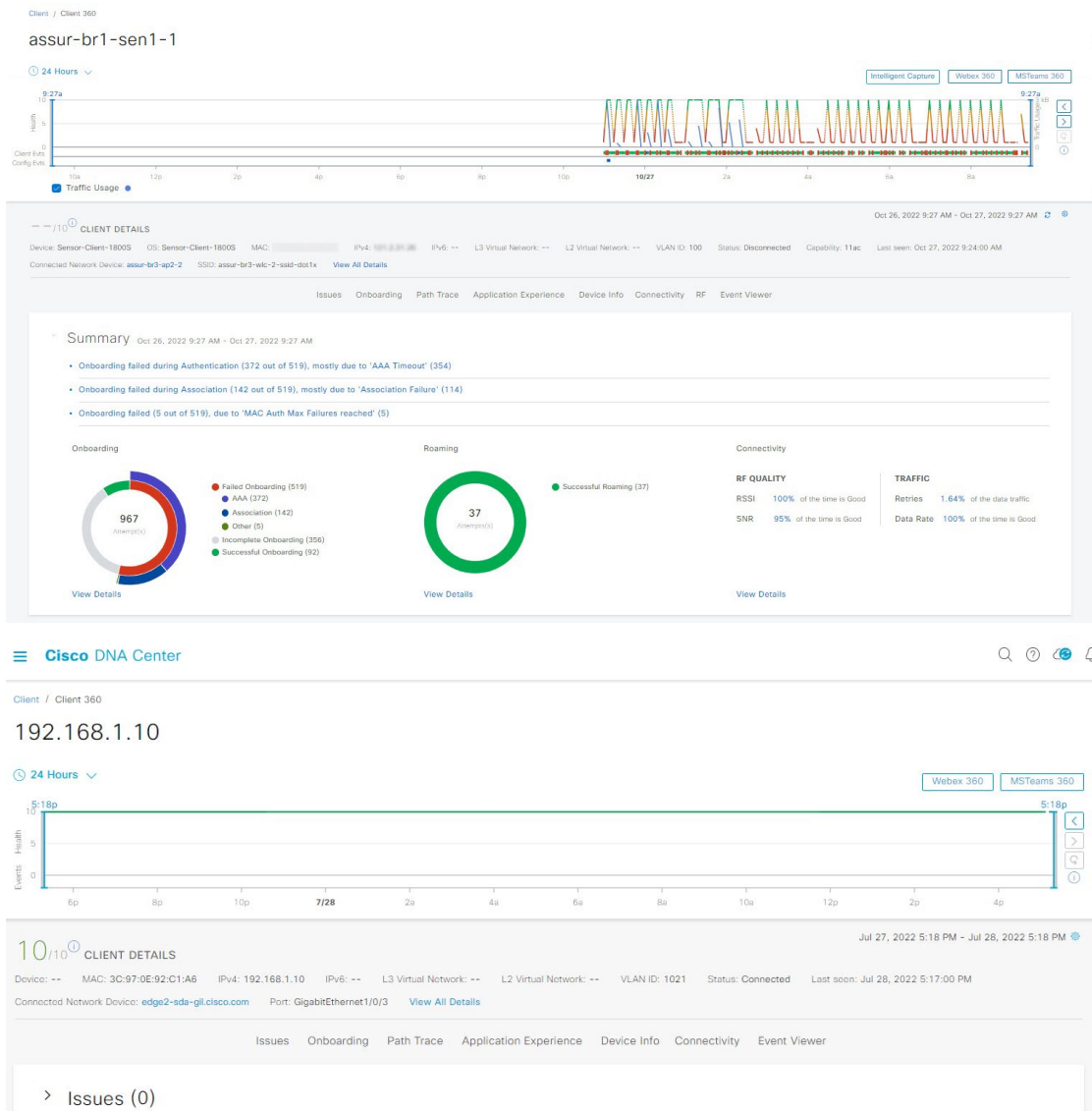
[Client Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- [クライアントデバイス (Client Devices)] 表で、ハイパーリンク付きの識別子またはデバイスの MAC アドレスをクリックします。
- [検索 (Search)] フィールド (右上端) に次のいずれかを入力します。ユーザ ID (Cisco ISE により認証済み) 、IP アドレス、MAC アドレス。

[Client 360] ウィンドウに、クライアントデバイスの 360 度ビューが表示されます。

図 15: [クライアント 360 (Client 360)] ウィンドウ



ステップ 4 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
- [Apply] をクリックします。

ステップ 5 右上隅にある [Intelligent Capture] をクリックすると、特定のクライアントデバイスのキャプチャされたオンボーディングやデータパケットを表示、モニター、およびトラブルシューティングして、対処する必要がある潜在的な問題が存在するかどうかを確認できます。クライアントデバイスのライブキャプチャセッションの有効化 (439 ページ) を参照してください。

(注) インテリジェント キャプチャはすべての AP モデルでサポートされていません。[Intelligent Capture]が表示されない場合は、クライアントがサポート対象の AP モデルに接続されていること、また AP が [Network Health] ダッシュボード上の場所に割り当てられていることを確認します。

ステップ 6 タイムラインスライダの右上隅にある [MS Teams 360] をクリックして、クライアントの MS Teams ミーティングを表示し、監視します。

[Application Experience for MS Teams] スライドインペインが表示されます。

Microsoft Teams の統合を設定するには、『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「[Configure MS Teams Integration](#)」を参照してください。

[Application Experience] スライドインペインでは、次の機能を利用できます。

- [Search bar] : 表示されたテーブルでミーティングを検索できます。
- [Time Range filter] : 時間フィルタをクリックして、表示するデータの時間範囲を指定します。
- クライアントミーティングテーブルが表示されます。これには、[Meeting Name]、[MS Teams Score]、[Network APM Score]、[Duration]、[Start Time]、[End Time]、[Status]、[Meeting Type]、および [Participants] が含まれます。

(注) ネットワーク APM スコアは、管理対象ネットワークデバイスからエクスポートされた NetFlow に基づいて計算される正常性スコアです。APM の詳細については、「[サポートされるプラットフォーム \(174 ページ\)](#)」[英語] を参照してください。

ミーティングを選択して、次のようにテーブルの下に表示されるミーティング品質 KPI データを表示できます。

- [Audio Quality] タブをクリックして [MS Teams Score] と [Network APM Score] を表示します。[Packet loss]、[Jitter]、[Media Bitrate] などのメトリックをグラフビューで確認できます。
- [Video Quality] タブをクリックして [MS Teams Score] と [Network APM Score] を表示します。[Packet loss]、[Jitter]、[Media Bitrate] などのメトリックをグラフビューで確認できます。
- [Share Quality] タブをクリックして [MS Teams Score] と [Network APM Score] を表示します。[Packet loss]、[Jitter]、[Media Bitrate] などのメトリックをグラフビューで確認できます。

ステップ 7 タイムラインスライダの右上隅にある [Webex 360] をクリックして、クライアントの Webex ミーティングを表示し、監視します。ミーティング検索ポップアップウィンドウが表示されます。

Webex の統合を設定するには、『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「[Configure Webex Integration](#)」を参照してください。

- a) クライアントの Webex ミーティングに関連付けられた電子メールアドレスを入力します。
- b) [Search Meetings] をクリックします。[Application Experience for Webex] スライドインペインが表示されます。
- c) このアプリケーションエクスペリエンス スライドインペインでは、次の機能を利用できます。
 - 検索バー : 表示されたテーブルでミーティングを検索できます。

- **時間範囲フィルタ**：時間フィルタをクリックして、テーブルに表示するデータの時間範囲を指定します。
- **クライアント ミーティング テーブル**が表示されます。これには、ミーティング番号、ミーティング名、アプリケーション、ネットワーク接続時間、開始時刻、終了時刻、およびステータスが含まれます。

ミーティングを選択して、ミーティングの品質 KPI データを表示できます。これは、アプリケーション（Webex API を使用して取得されたデータ）とネットワーク（NetFlow を使用して取得されたデータ）の遅延に基づくオーディオ品質、ビデオ品質、および共有品質を示す水平バーとしてテーブルの下に表示されます。ドロップダウンリストを使用して、送信および受信オプションに基づいてデータをフィルタ処理し、パケット損失、ジッターなどのメトリックに関連するアプリケーションとネットワークの遅延グラフを表示できます。

ステップ 8 タイムラインスライダを使用すると、一定期間のクライアントデバイスに関する正常性およびイベント情報を表示できます。タイムラインスライダには、次の機能があります。

- **[Health]**：タイムラインスライダの上にカーソルを合わせると、5 分の時間枠におけるクライアントの正常性スコアと KPI が表示されます。色付きの円が付いた KPI は、個々のクライアントの正常性スコアの算出に使用されます。

(注) [Speed] KPI には、インターフェイスまたは物理ポートの速度容量が表示されます。ポートが特定の速度にネゴシエートされた場合は、ネゴシエートされた速度が表示されます。

タイムラインをダブルクリックすると、1 時間の期間タイムラインスライダが表示されます。ウィンドウ全体が更新され、該当する 1 時間の最新情報が表示されます。各カテゴリ（[Issues]、[Onboarding]、[Event Viewer]、[Connectivity]など）の横にあるタイムスタンプも更新されます。

(注) 1 時間を超えて情報を表示する場合は、タイムラインスライダを必要な時間範囲に手動で移動します。

- **[Onboarding]**：タイムラインスライダにカーソルを合わせると、関連付け、認証、DHCP を含むクライアントのオンボーディング時間が表示されます。
- **[Events]**：イベントデータは、色分けされた垂直バーとしてグラフに表示されます。緑の垂直バーは、成功したイベントを示し、赤の垂直バーは失敗したイベントを示します。

各垂直バーは、5 分の時間枠を表します。各 5 分間ウィンドウに、複数の重要イベントが生成される場合があります。垂直バーにマウスカーソルを合わせると、イベントに関する詳細情報を取得できます。

ステップ 9 タイムラインスライダーの下にある [Usage] チェックボックスをオンにして、使用状況のタイムラインを表示します。タイムラインスライダの上にカーソルを合わせると、クライアントの使用状況に関する情報と正常性スコアおよび KPI が表示されます。

ステップ 10 タイムラインの下にある [Client Details] 領域で、個々のクライアントの正常性スコアを確認します。

個々のクライアントの正常性スコアは、クライアントのオンボーディングステータス、RSSI、および SNR を集約したものです。

ユーザー ID で検索する場合、表示される個別のクライアントヘルススコアは、そのユーザーに関連付けられているすべての監視対象クライアントデバイスの最も低いスコアです。詳細については、「[個別のクライアントヘルススコア \(171 ページ\)](#)」を参照してください。

MAC アドレスまたは IP アドレスで検索する場合、個別のクライアントヘルススコアはそのクライアントデバイスのヘルススコアです。

ヘルススコアの色は、その重大度を示します。正常性は 1 ～ 10 のスケールで計測されます。10 はベストスコアを示します。0 はクライアントデバイスが非アクティブであり、該当する正常性データが存在しないことを示します。

- : クライアントデバイスが不適切です。ヘルススコアの範囲は 1 ～ 3 です。
- : クライアントデバイスが適切です。ヘルススコアの範囲は 4 ～ 7 です。
- : クライアントデバイスが良好です。ヘルススコアの範囲は 8 ～ 10 です。
- : クライアントデバイスが非アクティブです。ヘルススコアは 0 です。

(注) ネットワークから切断されているクライアントの場合、スコアは - と表示されます。

ステップ 11 タイムラインの下にある [Client Details] 領域で、次の情報を確認します。

- ワイヤレスクライアントの場合、このエリアには、その OS バージョン、MAC アドレス (デバイス MAC と RCM を含む)、IPv4 および IPv6 アドレス、ブリッジモードの仮想マシン、接続された VLAN ID、接続ステータス、平均遅延、最終検出タイムスタンプ、接続されたネットワークデバイス、SSID、最後の既知のロケーションなど、クライアントデバイスに関する情報が表示されます。
- 有線クライアントの場合、このエリアには、MAC アドレス、IPv4 および IPv6 アドレス、セキュリティグループ (タグ値)、接続された VLAN ID、接続ステータス、最終検出タイムスタンプ、接続されたネットワークデバイス、ポート、最後の既知のロケーションなどのクライアントデバイスに関する情報が表示されます。
- PoE 対応デバイスの場合、[IEEE Class]、[Negotiated Power Level]、および [PoE Status] の各要素もクライアント詳細エリアに表示されます。

ステップ 12 [Client Details] エリアで [View All Details] をクリックすると、クライアントデバイスに関する追加の詳細を含む slide-in pane が開きます。

クライアントデバイスの分類情報 (デバイスタイプ、ユーザー名、ホスト OS、ホスト名など) を表示するには、Cisco DNA Center を Cisco ISE と統合するか、Cisco AI エンドポイント分析を Cisco DNA Center で展開して有効にする必要があります。

ステップ 13 問題、オンボーディング、イベントビューア、パストレース、アプリケーションエクスペリエンスに関する情報、および詳細情報を表示するには、折りたたみカテゴリを使用します。

概要カテゴリ

選択したタイムフレームにおける選択したクライアントのオンボーディング、ローミング、および接続情報が人間が判読可能な要約とグラフの形式で表示されます。情報には、カテゴリ（ビデオ、音声、ベストエフォート、およびバックグラウンド）別のトラフィックの削除数、データレート、平均遅延が含まれます。

リスト内の問題をクリックすると、スライドインウィンドウが表示され、クライアントが最後にアクセスした場所で遭遇した性能上の問題に関する詳細が見られます。このスライドインウィンドウには、クライアント、場所、および問題に基づく情報が表示されます。

問題によって、スライドインウィンドウには次の詳細が表示されます。

- **[Location]** : クライアントが過去 24 時間に訪れた建物またはフロアを、ドロップダウンフィールドから選択します。その場所でクライアントが遭遇した問題の詳細が表示されます。
- **[Issue radial bar chart]** : 問題の概要がグラフィックチャートに表示されます。
- **[Top Failure Reasons]** : クライアントがこの問題に遭遇した回数が表示されます。たとえば、オンボーディングの問題は、DHCP タイムアウトの回数を示す場合があります。
- **[Timeline slider]** : オレンジ色のバーは、一定期間中にいつクライアントがその問題に遭遇したかを表しています。この情報と、ネットワーク（選択した場所における他のクライアント）が同じ問題に遭遇した時を示す紫の線とを比較できます。クライアントが接続を試みた AP も記録されます。
- **[Event Viewer] タブ** : この問題に関する情報を表示します。
- **[Impact Analysis] タブ** : 上位の AP、SSID、帯域など、影響を受けるコンポーネントの上位を表示します。各コンポーネントの下にある括弧の数字は、そのコンポーネントの影響を受けたその他のクライアントの数です。
- **[Correlation] タブ** : クライアントが遭遇した KPI の失敗をタイムラインのチャートを表示します。デフォルトでは、接続されたワイヤレスコントローラとスイッチを含め、クライアントが問題に遭遇した AP の上位 3 つが表示されます。デフォルトの KPI に加えて、KPI ドロップダウンリストからもさらに選択できます。

問題のカテゴリ

対処する必要がある問題を表示します。問題は、タイムスタンプに基づいて一覧表示されます。直近の問題が最初にリストされます。

問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。

スライドインペインでは、次の操作を実行できます。

- この問題を解決するには、次の手順を実行します。
 1. ドロップダウンリストから [Resolve] を選択します。
 2. 解決済みの問題の一覧を表示するには [Resolved Issues] をクリックします。
- 問題を無視するには、次の手順を実行します。
 1. ドロップダウンリストから [Ignore] を選択します。
 2. スライダで問題を無視する時間数を設定します。
 3. [Confirm] をクリックします。
 4. 無視された問題の一覧を表示するには [Ignored Issues] をクリックします。

問題のタイプの詳細については、[問題の表示と管理 \(261 ページ\)](#) を参照してください。

オンボーディングカテゴリ

クライアントがどのようにネットワークに参加したかを示すトポロジ。AAA や DHCP などのサービスの情報も含まれます。

有線クライアントのトポロジの例：クライアント > スイッチ > ルータ

ワイヤレス クライアント トポロジの例：クライアント > SSID > アクセス ポイント > ワイヤレス コントローラ

トポロジでは、次の操作を実行できます。

- ノードをクリックして、ノードに関する情報が表示されたスライドインウィンドウを表示します。
- リンクの端（ドット）にマウスカーソルを合わせると、リンクのステータスとポートの詳細が表示されます。
- デバイスのグループにカーソルを合わせて、ポップアップから [View Devices List] をクリックすると、デバイスのリストとその詳細が表示されます。
- [Onboarding] エリアの右上隅にある [Search] フィールドで、特定のデバイスを検索できます。特定のノードが選択され、デバイスの対応する情報が表示されます。

イベントビューカテゴリ

[For Wireless Clients] : シナリオと、各シナリオにつながる一連のサブイベントが一覧されます。これにより、どのサブイベントの間に問題が発生したのかを特定できます。

次のシナリオがワイヤレスコントローラ向けに用意されています。

- **再認証 (Reauthentication)**
- [Broadcast Rekey] : 同一のキーによる暗号化データ量を制限するため、セッションキー (実行中の通信の暗号化キー) を変更するプロセス。
- **オンボーディング**
- **DHCP**
- [Delete]
- **内部ローミング**
- **内部ローミング**
- **ASSOC**
- **AUTH**
- **EAP**
- **DISASSOC**
- **DEAUTH**
- **11r 障害**
- **OKC 障害**
- **EAP 障害**

問題が発生するとイベントは赤色でマークされます。そうでない場合は緑色です。[Event Viewer] テーブルには、障害に関する情報 (エラーメッセージ、クライアントが接続されている AP とワイヤレスコントローラ、イベント発生時のタイムスタンプなど) が表示されます。イベントをクリックすると、右側のペインにそのイベントに関する詳細情報が表示されます。

For Wired Clients : ISE サーバーイベント、スイッチシステムレベルの syslog、スイッチポートまたはインターフェイス固有のイベント、およびクライアント固有のイベントがリストされますCisco ISE。各イベントカテゴリのメッセージのリストについては、「[有線クライアントのイベントビューアに表示されるメッセージ \(169 ページ\)](#)」を参照してください。

成功したイベントは緑色で表示されます。正常性スコアに影響する障害イベントは赤色で表示されます。[Event Viewer] テーブルには、障害に関する情報 (メッセージのタイプ、有線クライアントデバイスの接続先のデバイス情報、イベント発生時のタイムスタンプなど) が表示されます。イベントをクリックすると、右側のペインにそのイベントに関する詳細情報が表示されます。

パストレースのカテゴリ

[Run New Path Trace] をクリックすると、指定した送信元デバイスと接続先デバイス間のネットワークトポロジが表示されます。トポロジには、パスの方向とパスに沿ったデバイスが、その IP アドレスを含めて含まれます。ディスプレイには、パスに沿ったデバイスのプロトコル (**Switched**、**STP**、**ECMP**、**Routed**、**Trace Route**) や、その他のソース タイプも表示されます。

[パストレースの実行 \(475 ページ\)](#) を参照してください。

アプリケーションエクスペリエンスのカテゴリ

クライアント デバイスで実行中のアプリケーション、およびその質的および量的なメトリック。

メトリックをチャート形式で表示するには、テーブル内のアプリケーションの横にあるオプションボタンをクリックします。関連する情報を示すスライドインペインが開きます。

[アプリケーションエクスペリエンスとアプリケーションの可視性について \(173 ページ\)](#) および [ホストのアプリケーションエクスペリエンスの表示 \(182 ページ\)](#) を参照してください。

詳細情報のカテゴリ

詳細情報のカテゴリ

次のタブのいずれかをクリックして、対応する情報を表示します。

- **[Device Info]** : デバイスについての基本情報が表示されます。

Samsung デバイスについては、このタブに、ビルド番号、製造元、国番号、デバイスタイプ（モバイル、タブレットなど）、ホストのオペレーティングシステムといった詳細情報が表示されます。

ネットワークに接続されているエンドポイントの場合、このタブには、**[Hardware Manufacturer]**、**[Device Type]**、**[OS]**、および **[Endpoint Type]** などの **[Manufacturing]** の詳細が表示されます。

このタブには、デバイスの **[Tracked]** および **[Exclusion]** のステータスも表示されます。必要に応じて、対応するハイパーリンクをクリックして、デバイスの追跡ステータスおよび除外ステータスを更新します。

[Track Client] スライドインペインで、次の手順を実行します。

1. トグルボタンを使用して、デバイスの追跡ステータスを設定します。
2. トグルボタンを有効にする場合は、**[Tracking Expires After]** と **[Notification Frequency]** の必須オプションを選択します。
3. **[Save]** をクリックします。

[Exclude clients] スライドインペインで、次の手順を実行します。

1. トグルボタンを使用して、デバイスの除外ステータスを設定します。
2. トグルボタンを有効にする場合は、**[Description for Exclusion]** フィールドに説明を入力し、デバイスを除外するワイヤレスコントローラの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. **[Save]** をクリックします。

[Station Information] : Intel デバイスでのみ使用できます。HW モデル、SW バージョン、AC/DC 電圧などの詳細が表示されます。

- **[RF]** : ワイヤレスデバイスでのみ使用できます。
- **[User Defined Network]** : UDN 対応のネットワークデバイスでのみ使用できます。このタブには、登録済みの UDN、接続された UDN の詳細、デバイスの MAC アドレス、デバイスの所有者、デバイス名、デバイスタイプ、および現在のステータスが表示されます。
- **[Connectivity]** : Rx/Tx データレート、Tx/Rx パケット数、無線の Rx 再試行接続、DNS 要求と応答数、および Tx ドロップ（パケットドロップの割合）に関するそれぞれの KPI チャートが表示されます。
- **[PoE]** : PoE 対応クライアントでのみ使用できます。最初のセクションには、IEEE PD クラス、電力レベル、PoE 管理ステータス、PoE 動作ステータス、PoE ポリシングステータス、4 ペア、スイッチ名、インターフェイス名、割り当て電力、消費電力、最大使用電力、PoE 優先順位、Fast PoE、無停止型 PoE、UPOE+ など、AP の PoE テレメトリが表示されます。**[Power Distribution]** セクションには、選択された時間範囲の割り当て済み電力と消費電力を示す配電のトレンドチャートが表示されます。

詳細情報のカテゴリ

- [iOS Analytics] : Apple デバイスでのみ使用できます。
- [Intel Connectivity Analytics] : Intel ワイヤレスアダプタでサポートされているデバイスでのみ使用できます。サポートされているクライアントによって報告されたローミングイベント、報告されたエラー、一時的な切断レポート、および低 RSSI レポートが表示されます。

有線クライアントのイベントビューアに表示されるメッセージ

[Client 360] ウィンドウで有線クライアントのイベントビューアに表示されるメッセージのリストを次の表に示します。

ISE サーバーイベント
Client AUTH FAILURE Client AUTH SUCCESS
スイッチシステムレベルの syslog
ALLDEADSERVER <ul style="list-style-type: none"> • 到達不可能なデバイス • 到達可能デバイス
スイッチポートまたはインターフェイス固有のイベント
トラップイベント <ul style="list-style-type: none"> • リンクダウン • リンクアップ PM-4-ERR_DISABLE ILPOWER-5-POWER_GRANTED ILPOWER-5-IEEE_DISCONNECT ILPOWER-5-INVALID_IEEE_CLASS ILPOWER-4-LOG_OVERDRAWN ILPOWER-3-SHUT_OVERDRAWN
クライアント固有のイベント
DOT1X-5-FAIL MAB-5-FAIL

クライアントの正常性スコアと KPI メトリックについて

ここでは、クライアントの正常性スコアと KPI メトリックの計算方法について説明します。

クライアントヘルススコア

クライアントの正常性スコア（ワイヤレスまたは有線）は、ターゲットカテゴリ内の正常なクライアントデバイスの数（正常性スコアが 8～10）をそのカテゴリのクライアントデバイスの総数で割ったパーセンテージです。スコアは 5 分ごとに計算されます。

例：90%（ヘルススコア）= 90 （ターゲットカテゴリのヘルススコアが 8～10 のクライアントデバイス） \div 100 （そのカテゴリのクライアントデバイスの総数）

個々のクライアントヘルススコアは、クライアントオンボーディングスコアとクライアント接続スコアの合計です。クライアントヘルススコアの範囲は 1～10 で、非アクティブなクライアントのスコアは 0 です。これは、次のとおり計算されます。

有線クライアント：最初のスイッチへのリンクがアップ状態で、認証および認可が成功し、IP アドレスを受信しています。クライアントスコアは 10 です。

ワイヤレスクライアント：クライアントがネットワークに参加しており、RSSI および SNR KPI の観点から接続が良好な状態です。

クライアントオンボーディングスコア

クライアントオンボーディングスコアは、ネットワークに接続中のクライアントデバイスのエクスペリエンスを示します。

- クライアントがネットワークに正常に接続している場合、スコアは 4 です。
- クライアントがネットワークに接続できない場合、スコアは 1 です。
- クライアントがアイドル状態の場合、スコアは 0 です。

クライアントオンボーディングスコアは、次のように計算されます。

有線クライアント：最初のスイッチへのリンクがアップ状態であり、認証と認可に成功しており、IP アドレスを受信されています。

ワイヤレスクライアント：クライアントオンボーディングスコアの範囲は 1～4 です。クライアントがネットワークに正常に接続している場合、スコアは 4 です。クライアントがネットワークに接続できない場合、スコアは 1 です。

クライアント接続スコア

クライアント接続スコアは、デバイスがネットワークに接続された後のクライアントデバイスのエクスペリエンスを示します。スコアは、次のように計算されます。

有線クライアント：接続スコアは、2または6になります。リンクエラーにより、次のように、接続スコアとその結果の全体的な正常性スコアが決まります。

- クライアントオンボーディングは正常に行われたもののリンクエラーが発生した場合、接続スコアは2、全体的な正常性スコアは6です。
- クライアントオンボーディングが正常に行われ、クライアントとファーストホップスイッチの間にリンクエラーが発生していない場合、接続スコアは6、全体的なヘルススコアは10です。

ワイヤレスクライアント：接続スコアは、0、4、または10になります。RSSIとSNRの範囲によって接続スコアが決定され、その結果の全体的なヘルススコアはRSSI主導の接続スコアとSNR主導の接続スコアの加重平均として計算されます。

RSSI 主導の接続スコア	
クライアントの RSSI	RSSI 主導の接続スコア
RSSI が -72 dBm 以下の場合。	クライアントは、RSSI 主導の接続スコア 4 を獲得し、正常性が中程度であると見なされます。
RSSI が -72 dBm より大きい場合。	クライアントは、RSSI 主導の接続スコア 10 を獲得し、正常性が良好であると見なされます。

SNR 主導の接続スコア	
クライアントの SNR	SNR 主導の接続スコア
SNR が 9 以下の場合。	クライアントは、SNR 主導の接続スコア 4 を獲得し、正常性が中程度であると見なされます。
SNR が 9 より大きい場合。	クライアントは、SNR 主導の接続スコア 10 を獲得し、正常性が良好であると見なされます。

個別のクライアントヘルススコア

個々のクライアントヘルススコアは、クライアントオンボーディングスコアとクライアント接続スコアの合計です。クライアントヘルススコアの範囲は1～10で、非アクティブなクライアントのスコアは0です。これは、次のとおり計算されます。

有線クライアント：最初のスイッチへのリンクがアップ状態で、認証および認可が成功し、IPアドレスを受信しています。クライアントスコアは10です。

ワイヤレスクライアント：クライアントがネットワークに参加しており、RSSIおよびSNR KPIの観点から接続が良好な状態です。

クライアントのオンボーディングと接続性	クライアント正常性スコアの結果
クライアントがオンボーディングに失敗した場合。	クライアントの正常性スコアは1で、不良な状態であると見なされます。
クライアントのRSSIとSNRがしきい値を下回っている場合。	クライアントの正常性スコアは4で、正常性が中程度であると見なされます。
クライアントのRSSIとSNRのいずれかがしきい値を下回っている場合。	クライアントの正常性スコアは7で、正常性が中程度であると見なされます。
クライアントのRSSIとSNRがしきい値を超えている場合。	クライアントの正常性スコア10で、正常性が良好であると見なされます。



第 8 章

アプリケーション健全性のモニター

- [アプリケーションエクスペリエンスとアプリケーションの可視性について \(173 ページ\)](#)
- [サポートされるプラットフォーム \(174 ページ\)](#)
- [デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準 \(176 ページ\)](#)
- [アプリケーションの正常性の前提条件 \(179 ページ\)](#)
- [アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング \(181 ページ\)](#)
- [ホストのアプリケーションエクスペリエンスの表示 \(182 ページ\)](#)
- [ネットワークデバイスのアプリケーションエクスペリエンスの表示 \(183 ページ\)](#)
- [すべてのアプリケーションの健全性のモニター \(185 ページ\)](#)
- [アプリケーションの健全性のモニター \(194 ページ\)](#)
- [アプリケーションの正常性スコア設定の設定 \(207 ページ\)](#)
- [アプリケーションのヘルススコアと KPI メトリックスの理解 \(207 ページ\)](#)

アプリケーションエクスペリエンスとアプリケーションの可視性について

アシュアランスは、複雑なアプリケーションデータを処理し、その結果をアシュアランス正常性ダッシュボードで提示することで、アプリケーションのパフォーマンスに関するインサイトを提供します。

正常性データは、デバイスの観点 ([Device 360] ウィンドウ)、ユーザーの観点 ([Client 360] ウィンドウ)、アプリケーションの観点 ([Application 360] ウィンドウ) でそれぞれ提供されます。

データの収集元に応じて、次の一部またはすべての情報を確認できます。

- Application Name
- スループット
- DSCP マーキング
- パフォーマンスメトリック (遅延、ジッター、パケット損失)

アプリケーション名とスループットを総称して定量的メトリックと呼びます。定量的メトリックのデータは、アプリケーション可視性を有効にすることで得られます。

DSCP マーキングとパフォーマンスメトリック（遅延、ジッター、パケット損失）は、総称して定性的メトリックと呼ばれます。定性的メトリックのデータは、アプリケーションエクスペリエンスを有効にすることで得られます。

アプリケーションの可視性

アプリケーション可視性のデータは、IOS-XEを実行しているスイッチ、およびAireOSを実行しているワイヤレスコントローラから収集されます。

IOS-XEを実行しているスイッチについては、物理レイヤのアクセススイッチポートに双方向（入力および出力）で適用される事前定義されたNBARテンプレートを使用してアプリケーション可視性のデータが収集されます。

AireOSを実行しているワイヤレスコントローラについては、ワイヤレスコントローラでアプリケーション可視性のデータが収集され、そのデータがストリーミングテレメトリを使用してCisco DNA Centerに送られます。

Application Experience

アプリケーションエクスペリエンスのデータは、Cisco IOS-XEルータプラットフォームから、Cisco Performance Monitor (PerfMon) 機能とシスコのアプリケーション応答時間 (ART) メトリックを使用して収集されます。

ルータプラットフォームの例には、ASR 1000、ISR 4000、CSR 1000v などがあります。Cisco DNA Center と互換性があるデバイスについては、『[Cisco DNA Center Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

Cisco Performance Monitor 機能が使用可能かどうかを確認するには、[Cisco Feature Navigator](#) ツールを使用します。[Research Features] をクリックし、フィルタフィールドで [Easy Performance Monitor Phase II] を追加します。

最適化アプリケーションパフォーマンス モニタリング

最適化アプリケーションパフォーマンス モニタリング (APM) は、デバイスでのNetFlowデータの収集に関連するオーバーヘッドを軽減する機能です。APMは、Cisco IOS-XEルータ、Cisco 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ、および Cisco DNA トラフィック テレメトリ アプリアンスでサポートされています。最小ソフトウェアバージョンについては、[サポートされるプラットフォーム \(174 ページ\)](#) を参照してください。

サポートされるプラットフォーム

次の表に、サポートされるプラットフォーム、データ収集のタイプ、およびソフトウェアとライセンスの要件を示します。



(注) Cisco DNA Center と互換性があるデバイスについては、『[Cisco DNA Center Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

シスコのプラットフォームにおけるアプリケーション エクスペリエンスとアプリケーション可視性のサポート Cisco DNA Center		
プラットフォーム	Data Collection	注記
Cisco IOS XE ルータ	アプリケーションエクスペリエンスのデータ収集。	<ul style="list-style-type: none"> • アクティブな NBAR2 ライセンスが必要です。 • Cisco IOS XE 16.3 以上のソフトウェアバージョン。 • 最適化 APM の場合：Cisco IOS XE 17.3 以上のソフトウェアバージョン。
Catalyst 9000 シリーズ スイッチ	9200、9300、9400 のアプリケーション可視性のデータ収集	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco DNA Advantage ライセンスが必要です。 • Cisco IOS XE 16.10.1 以上のソフトウェアバージョン。 • IP ルーティングが有効にされている必要があります。
Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ	アプリケーション可視性のデータ収集	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco DNA Advantage ライセンスが必要です。 • 8.8 MR2 ソフトウェアが必要：8.8.114.130 以上のバージョン。
Cisco 9800 シリーズ ワイヤレスコントローラ	Flex/Fabric SSID のアプリケーション可視性のデータ収集。 中央スイッチング/ローカル SSID および Flex/Fabric SSID のアプリケーション エクスペリエンスのデータ収集。	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの可視性：最適化 APM の場合、Cisco IOS XE 16.12.1 以上のソフトウェアバージョン。 • アプリケーションエクスペリエンス：ローカルモードの場合、Cisco IOS XE 16.12.1 以上のソフトウェアバージョン。 <p>Flex/Fabric モードの場合、Cisco IOS XE 17.10.1 以上のソフトウェアバージョン。</p>

シスコのプラットフォームにおけるアプリケーションエクスペリエンスとアプリケーション可視性のサポート Cisco DNA Center		
プラットフォーム	Data Collection	注記
Cisco DNA トラフィック テレメトリ アプライアンス	アプリケーションエクスペリエンスのデータ収集。	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco DNA Advantage ライセンスが必要です。 • 最適化 APM の場合：Cisco IOS XE 17.3 以上のソフトウェアバージョン。

デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準

Cisco DNA Center では、新しい自動選択アルゴリズムに基づいてインターフェイスと WLAN を選択し、該当するすべてのインターフェイスと WLAN でアプリケーションテレメトリを自動的に有効にします。



- (注)
- 従来のタギングベースのアルゴリズムがサポートされ、インターフェイスまたは WLAN の新しい自動選択アルゴリズムよりも優先されます。
 - 自動選択アルゴリズムからタギングベースのアルゴリズムに切り替える場合は、タグ付き SSID をデバイスに対してプロビジョニングする前にテレメトリを無効にする必要があります。

次の表に、サポートされているすべてのプラットフォームについて、従来のタギングベースのアルゴリズム（キーワード **lan** を使用）と新しい自動選択アルゴリズムに基づくインターフェイスと WLAN の選択基準を示します。

プラットフォーム	従来のタギングベースのアルゴリズム	自動選択アルゴリズム
Router	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスの説明に lan キーワードが含まれている。12 • インターフェイスに管理 IP アドレス以外の IP アドレスがある。 	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスに管理 IP アドレス以外の IP アドレスがある。 • インターフェイスが次のいずれでもない。 <ul style="list-style-type: none"> • WAN <p>(注) インターフェイスにパブリック IP アドレスがあり、パブリック IP アドレスがインターフェイスを経由するルートルールがある場合、そのインターフェイスは WAN 側インターフェイスとして扱われます。</p> <p>このコンテキストでは、パブリック IP アドレスはプライベート範囲にない (たとえば、192.168.x.x、172.16.y.y、10.z.z.z にない) か、システムの IP プールにない IP アドレスです。</p> <p>ルートルールは動的に学習できます。このコンテキストでは、show ip route コマンドでこのインターフェイスを通過するパブリック IP アドレスへのルートは表示されません。</p> • ループバック • 管理インターフェイス : GIGABITETHERNET0、GIGABITETHERNET0/0、MGMT0、FASTETHERNET0、FASTETHERNET1

プラットフォーム	従来のタギングベースのアルゴリズム	自動選択アルゴリズム
スイッチ	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスの説明に lan キーワードが含まれている。^{1, 2} • スイッチポートがアクセスポートとして設定されている。 • スイッチポートに switch-mode access コマンドが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスが物理インターフェイスである。 • アクセスポートにネイバーがない。 • インターフェイスが次のいずれでもない。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理インターフェイス： FASTETHERNET0、 FASTETHERNET1、 GIGABITETHERNET0/0、MGMT0 • LOOPBACK0、Bluetooth、App Gigabit、WPAN、Cellular、Async • VSL インターフェイス
Cisco AireOS コントローラ	WLAN プロファイル名が lan キーワードでタグ付けされている。 ^{1, 2}	SSID が混在している場合、つまりローカルモード、フレックスモード、およびファブリックモードの場合、Wireless Service Assurance (WSA) の処理が有効になります。すべての SSID がローカルモードの場合、NetFlow が有効になります。
Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラと最適化アプリケーションパフォーマンス モニタリング (APM) プロファイルおよび IOS 16.12.1 以降	WLAN プロファイル名が lan キーワードでタグ付けされている。 ^{1, 2}	<p>SSID が混在している場合、つまり中央スイッチング、フレックスモード、およびファブリックモードの場合は、Cisco Application Visibility and Control (AVC) の基本レコードが設定されます。すべての SSID で中央スイッチングを使用している場合、最適化 APM レコードが設定されます。</p> <p>IOS 17.10 以降を備える Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラの場合、Cisco DNA Center は、フレックスおよびファブリック SSID に対して、AVC 基本プロファイルではなく、APM プロファイルをプッシュします。</p>
	(注) テレメトリ設定を更新する場合は、テレメトリを無効にしてから、設定の変更後にテレメトリを有効にする必要があります。	

プラットフォーム	従来のタギングベースのアルゴリズム	自動選択アルゴリズム
Cisco DNA トラフィックテレメトリアプライアンスと最適化 APM プロファイルおよび IOS 17.3 以降	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスの説明に lan キーワードが含まれている。^{1, 2} • インターフェイスが物理インターフェイスである。 	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスが物理インターフェイスである。 • インターフェイスが管理インターフェイス (GIGABITETHERNET0、GIGABITETHERNET0/0、MGMT0、FASTETHERNET0、および FASTETHERNET1) ではない。

¹ **lan** キーワードは、大文字と小文字の区別はなく、スペース、ハイフン、または下線で区切ることができます。

² ネットワークデバイスを再同期して、**lan** インターフェイスの説明を読み取ります。

アプリケーションの正常性の前提条件

ここでは、ルータ、AireOS ワイヤレスコントローラ、スイッチのアプリケーションの正常性に関連する前提条件を示します。

ルータのアプリケーションエクスペリエンスの前提条件

- Cisco IOS XE ソフトウェアのアクティブな NBAR2 ライセンスが必要です。
- レイヤ 3 ネットワーク内のアプリケーションフローは可視化されません。
- 管理インターフェイスに関連付けられたトラフィックは、アプリケーションエクスペリエンスに含まれません。
- ポートは ETA に対して有効にできません。
- アシユアランスでアプリケーションの正常性データを表示するには、Cisco DNA Center とデバイス間でクロックを同期する必要があります。
- 従来のタギングベースのアルゴリズム (キーワード「**lan**」を使用) もサポートされますが、インターフェイスと WLAN の新しい自動選択アルゴリズムにより、キーワード「**lan**」でタグ付けしなくても、インターフェイスと WLAN でアプリケーションテレメトリを有効にできます。使用される基準については、[デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準 \(176 ページ\)](#) を参照してください。

スイッチのアプリケーション可視性の前提条件

- Cisco IOS XE ソフトウェアが必要です。
- Cisco DNA Advantage ライセンスが必要です。
- **switchport mode access** コマンドが含まれているアクセスポートにのみ実装されません。

- L2 論理インターフェイスのサポートは使用できません。
- スイッチポートが AP に接続されて **switchport mode access** が設定されている場合、可視性が制限されます。
- ポートは ETA に対して有効にできません。
- IPv4 フローのみがモニターされます。
- 次の管理インターフェイスは、NetFlow エクスポートの送信元インターフェイスとして使用できません。
 - GIGABITETHERNET0/0
 - MGMT0
 - FASTETHERNET0
 - FASTETHERNET1
 - GIGABITETHERNET0
- アシュアランスでアプリケーションの正常性データを表示するには、Cisco DNA Center とデバイス間でクロックを同期する必要があります。
- 従来のタギングベースのアルゴリズム（キーワード「lan」を使用）もサポートされますが、インターフェイスと WLAN の新しい自動選択アルゴリズムにより、キーワード「lan」でタグ付けしなくても、インターフェイスと WLAN でアプリケーションテレメトリを有効にできます。使用される基準については、[デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準（176 ページ）](#)を参照してください。

AireOS ワイヤレスコントローラのアプリケーション可視性の前提条件

- Cisco DNA Advantage ライセンスが必要です。
- AireOS ソフトウェアを搭載したワイヤレスコントローラでのみサポートされ、IOS XE ソフトウェアを搭載したワイヤレスコントローラではサポートされません。
- Cisco AireOS ワイヤレスコントローラでは NetFlow を有効にする必要があります。
- アシュアランスでアプリケーションの正常性データを表示するには、Cisco DNA Center とデバイス間でクロックを同期する必要があります。
- Flexible NetFlow (FNF) フローモニターは実装されません。代わりに、Client-app-stat-events チャネルに登録することにより、ストリーミングテレメトリを使用してアプリケーション可視性のデータが収集されます。
- 従来のタギングベースのアルゴリズム（キーワード「lan」を使用）もサポートされますが、インターフェイスと WLAN の新しい自動選択アルゴリズムにより、キーワード「lan」でタグ付けしなくても、インターフェイスと WLAN でアプリケーションテレメトリを有効にできます。使用される基準については、[デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準（176 ページ）](#)を参照してください。

Cisco 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ のアプリケーション可視性の前提条件

- 最適化 APM には IOS XE ソフトウェアが必要です。 [デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準 \(176 ページ\)](#) を参照してください。
- アシユアランス でアプリケーションの正常性データを表示するには、Cisco DNA Center とデバイス の間でクロックを同期する必要があります。

アプリケーション エクスペリエンスの前提条件 Cisco DNA トラフィック テレメトリ アプライアンス

- Cisco DNA Advantage ライセンスが必要です。
- 最適化 APM には IOS XE ソフトウェアが必要です。 [デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準 \(176 ページ\)](#) を参照してください。
- アシユアランス でアプリケーションの正常性データを表示するには、Cisco DNA Center とデバイス の間でクロックを同期する必要があります。
- CAPWAP でカプセル化されたワイヤレストラフィックの可視性を有効にするには、Cisco DNA トラフィック テレメトリ アプライアンス で **ip nbar Classification tunneled-traffic CAPWAP** コマンドを手動で入力します。

アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング

テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定 (82 ページ) の説明に従って、グローバルテレメトリ設定を構成します。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します： **[Provision]>[Network Devices]>[Inventory]** の順に選択します。

[Inventory] ウィンドウには、検出プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。特定のサイトで使用可能なデバイスを表示するには、左側のペインで [Global] サイトを展開し、サイト、ビルディング、またはフロアを選択します。

ステップ 2 プロビジョニングするデバイスを選択します。

ステップ 3 [Actions] ドロップダウンリストから、[Telemetry] を選択し、次のいずれかを実行します。

(注) [Enable Application Telemetry] および [Disable Application Telemetry] オプションは、デバイスで Cisco DNA Center からのアプリケーションテレメトリがサポートされている場合のみ有効です。

- a) [Enable Application Telemetry] : 選択したデバイスでアプリケーションテレメトリを設定します。
- b) [Disable Application Telemetry] : 選択したデバイスからアプリケーションテレメトリ設定を削除します。

ステップ 4 [Apply] をクリックします。

[Application Telemetry] 列には、テレメトリの設定ステータスが表示されます。デフォルトの列設定で [Application Telemetry] 列が表示されない場合は、列見出しの右端にある省略記号アイコン (⋮) をクリックし、[Application Telemetry] チェックボックスをオンにします。

ホストのアプリケーションエクスペリエンスの表示

ホストで稼働しているアプリケーションの質的および量的なメトリックを確認するには、次の手順を実行します。

始める前に

- デバイス（ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、およびアクセスポイント）が検出されたことを確認します。[IPアドレス範囲またはCIDRを使用したネットワークの検出（27ページ）](#)、[CDPを使用したネットワークの検出（24ページ）](#)、または[LLDPを使用したネットワークの検出（29ページ）](#)を参照してください。
- ネットワークデバイスでアプリケーションテレメトリプロファイルを有効にし、設定します。[アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング（181ページ）](#)を参照してください。
- [アプリケーションの正常性の前提条件（179ページ）](#)を参照してください。

ステップ 1 [Client 360] ウィンドウで、[Application Experience] カテゴリを展開します。

ステップ 2 [Application Experience] カテゴリから、次の操作を実行できます。

- a) 特定のビジネス関連グループから、それに対応するタブをクリックすることで、アプリケーションエクスペリエンスデータをテーブル形式で表示します。タブは、[Business Relevant]、[Business Irrelevant]、または [Default] です。

(注) 表示されるデータは、[Client 360] ウィンドウでドロップダウンメニューから選択した時間に基づきます。オプションは、[3 Hours]、[24 Hours]、[7 Days] です。デフォルトは、[24 Hours] です。

- b) テーブルでアプリケーションエクスペリエンスデータを表示します。

- [Name] : アプリケーション名。
- [Health] : 正常性スコアはパケット損失、遅延、およびジッターのメトリックの組み合わせに基づいて計算されます。正常性スコアの計算にアプリケーション遅延を含めることもできます。詳細については、[個別アプリケーションの正常性スコア（208ページ）](#)を参照してください。
- [Usage Bytes] : このアプリケーションに対してクライアントが転送したバイト数。
- [Average Throughput] : クライアントとサーバー間を流れているアプリケーショントラフィックのレート（Mbps 単位）。

- [DSCP] : アプリケーションの現在 ([Observed]) とデフォルト ([Expected]) の DSCP 値。
(注) このメトリックは、最適化 APM については提供されません。
 - [Packet Loss] : パケット損失のパーセンテージ (最小と平均)。
 - [Network Latency] : ネットワーク遅延時間 (最大と平均) (ミリ秒単位)。
 - [Jitter] : ネットワーク上のデータパケット間の時間遅延のバリエーション (ミリ秒単位) (最大と平均)。
- c) アプリケーションエクスペリエンスメトリックをチャート形式で表示するには、アプリケーションの横にあるオプションボタンをクリックします。メトリックは、[Throughput]、[Packet Loss]、[Jitter]、[Network Latency]、[Client Network Latency]、[Server Network Latency]、および [Application Server Latency] です。
- (注) Cisco Catalyst 9200 スイッチ、Cisco Catalyst 9300 スイッチ、または Cisco AireOS ワイヤレスコントローラからエクスポートされるアプリケーション可視性のデータは、アプリケーション名、使用率、スループットのデータのみです。

ネットワークデバイスのアプリケーションエクスペリエンスの表示

この手順を使用して、ネットワークデバイスで稼働しているアプリケーションの質的および量的なメトリックを表示できます。

始める前に

- デバイス (ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、およびアクセスポイント) が検出されたことを確認します。 [IP アドレス範囲または CIDR を使用したネットワークの検出 \(27 ページ\)](#)、[CDP を使用したネットワークの検出 \(24 ページ\)](#)、または [LLDP を使用したネットワークの検出 \(29 ページ\)](#) を参照してください。
- ネットワークデバイスでアプリケーションテレメトリプロファイルを有効にし、設定します。 [アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング \(181 ページ\)](#) を参照してください。
- [アプリケーションの正常性の前提条件 \(179 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 [Device 360] ウィンドウで、[Application Experience] カテゴリを展開します。

ステップ 2 [Application Experience] カテゴリから、次の操作を実行できます。

- a) 対応するタブ ([Business Relevant]、[Business Irrelevant]、[Default]) をクリックして、特定のビジネスとの関連性グループからアプリケーション エクスペリエンス データを表形式で表示します。
- (注) 表示されるデータは、[Client 360] ウィンドウでドロップダウンメニューから選択した時間に基づきます。オプションは、[3 Hours]、[24 Hours] (デフォルト)、または [7 Days] です。
- b) 適切なフィルタ ([All VRFs] および [All Interfaces]) を使用して、特定の VRF または特定のルーターフェイスのアプリケーション エクスペリエンス データをフィルタ処理します。
- (注) [All VRFs] および [All Interfaces] フィルタは、ルーターでのみ使用できます。
- c) テーブルでアプリケーション エクスペリエンス データを表示します。
- [Name] : アプリケーション名。
 - [Health] : 正常性スコアはパケット損失、遅延、およびジッターのメトリックの組み合わせに基づいて計算されます。正常性スコアの計算にアプリケーション遅延を含めることもできます。

(注) 正常性スコアは、Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチおよび Cisco AireOS ワイヤレスコントローラについては提供されません。これらのデバイスは、正常性スコアの計算に必要な KPI をポーリングしません。
 - [Usage Bytes] : このアプリケーションに対してクライアントが転送したバイト数。
 - [Average Throughput] : クライアントとサーバー間を流れているアプリケーション トラフィックのレート (Mbps 単位) 。
 - [DSCP] : アプリケーションの現在 ([Observed]) とデフォルト ([Expected]) の DSCP 値。

(注) このメトリックは、最適化 APM については提供されません。
 - [Packet Loss] : パケット損失のパーセンテージ (最小と平均) 。
 - [Network Latency] : ネットワーク遅延時間 (最大と平均) (ミリ秒単位) 。
 - [Jitter] : ネットワーク上のデータパケット間の時間遅延のバリエーション (ミリ秒単位) (最大と平均) 。
- d) アプリケーションエクスペリエンス メトリックをチャート形式で表示するには、アプリケーションの横にあるオプションボタンをクリックします。メトリックは、[Throughput]、[Packet Loss]、[Jitter]、[Network Latency]、[Client Network Latency]、[Server Network Latency]、[Application Server Latency]、および [Application Response Time] です。
- (注) Cisco Catalyst 9200 スイッチ、Cisco Catalyst 9300 スイッチ、または Cisco AireOS ワイヤレスコントローラからエクスポートされるアプリケーション可視性のデータは、アプリケーション名、使用率、スループットのデータのみです。

すべてのアプリケーションの健全性のモニター

この手順を使用して、サイトにおけるアプリケーションのグローバルビューを表示します。

始める前に

- デバイス（ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、およびアクセスポイント）が検出されたことを確認します。[IPアドレス範囲またはCIDRを使用したネットワークの検出（27ページ）](#)、[CDPを使用したネットワークの検出（24ページ）](#)、または[LLDPを使用したネットワークの検出（29ページ）](#)を参照してください。
- ネットワークデバイスでアプリケーションテレメトリプロファイルを有効にし、設定します。[アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング（181ページ）](#)を参照してください。
- [アプリケーションの正常性の前提条件（179ページ）](#)を参照してください。

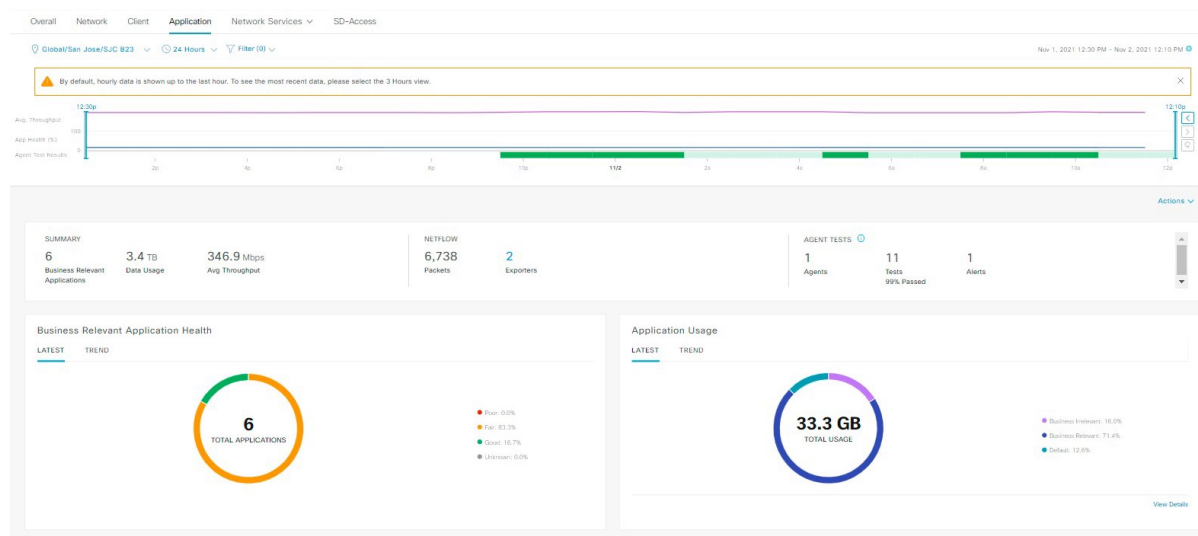
ステップ 1 [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[アシュアランス](#)。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。



ステップ 2 [Application] タブをクリックします。

[Application Health] ダッシュボードが表示されます。

図 16: [Application Health] ダッシュボード



ステップ 3 次の機能には、[Application] 正常性ダッシュボードの上部のメニューバーを使用します。

[Application] 正常性ダッシュボードの上部のメニューバー	
アイテム	説明
 Global ▾ [Location] ドロップダウンリスト	クリックすると、ロケーションアイコンが表示されます。ロケーションアイコンをクリックすると、[Site List View] が表示されます。特定のサイトまたは建物からアプリケーション情報を表示するには、適切な行で [Go to Site] をクリックします。ダッシュボード上の情報が、選択に応じて更新されます。
 [Time Range] の設定	ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> ドロップダウンメニューで範囲の長さ ([3 Hours]、[24 Hours]、または [7 days]) を選択します。 [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。 [Apply] をクリックします。
Filter	ドロップダウンリストから SSID を選択し、[Apply] をクリックします。選択した内容に応じて、ダッシュボードの情報が更新されます。
[Actions] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから [Edit Dashboards] を選択すると、ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。 ダッシュレットの位置の変更 (392 ページ) および カスタム ダッシュボードの作成 (387 ページ) を参照してください。
アプリケーションの正常性タイムラインスライダ	健全なビジネス関連アプリケーションの割合、スループット、およびエージェントテスト結果を、より詳細な時間範囲で表示できます。タイムライン内でマウスカーソルを合わせると、特定の時刻の正常性スコアパーセンテージが表示されます。 時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。これにより、ダッシュボードダッシュレットに表示されるアプリケーションデータのコンテキストが設定されます。 タイムラインの右側にある矢印ボタンを使用して、最大 30 日間のデータを表示できます。

ステップ 4 次の機能には、[Summary] ダッシュレットを使用します。

[Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
Summary	ネットワーク全体または選択したサイトのビジネス関連アプリケーションの総数、データ使用量、および平均スループットを表示します。

[Summary] ダッシュレット	
アイテム	説明
Netflow	<p>NetFlow パケットの合計数を表示します。</p> <p>エクスポートの合計数を表示します。エクスポートをクリックして、デバイス名、パケット数、レコード数、およびレート制限ドロップを含むテーブルを表示するスライドインペインを表示します。</p>
ThousandEyes Tests	<p>サポートされている Cisco Catalyst 9300 または 9400 シリーズ スイッチで実行されている ThousandEyes エンタープライズ エージェント、テスト、合格したテストの割合、およびアクティブなアラートの総数を表示します。</p> <p>次のタイプの ThousandEyes エージェントテストがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークエージェントからサーバーへのテスト：ジッター、パケット損失、遅延などのネットワークデータを収集します。 • Web HTTP サーバーテスト：応答時間を含む HTTP サーバーデータを収集します。 • ネットワークエージェントからエージェントのテスト：ジッター、パケット損失、遅延などのネットワークデータを収集します。 • Voice RTP テスト：平均オピニオンスコア（MOS）、パケット損失、遅延、およびパケット遅延変動（PDV）を収集します。 <p>ThousandEyes の統合を設定するには、『Cisco DNA Center Administrator Guide』の「<i>Configure ThousandEyes Integration</i>」を参照してください。</p>

ステップ 5 次の機能については、[Application Health] ダッシュレットを使用します。

[Application Health] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Business Relevant Application Health]	<p>ビジネス関連アプリケーションの正常性スコアが含まれています。正常性スコアは、ネットワーク全体または選択したサイトにおける正常（良好）なビジネス関連アプリケーションの割合です。アプリケーションのヘルススコアと KPI メトリックスの理解 (207 ページ) を参照してください。</p> <p>次のチャートが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション数分布トレンドチャートでは、すべてのビジネス関連のアプリケーション数が、正常性スコアに基づき積み上げ面グラフで時系列順に表示されます。 • 円グラフでは、ビジネス関連のアプリケーション数が、アプリケーションの正常性スコア別に分類されて示されます。カテゴリをクリックすると、カテゴリ内で正常性スコアが最も低いアプリケーションのリストが表示されます。



[Application Health] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Application Usage]	<ul style="list-style-type: none"> 円グラフ：アプリケーションのビジネス関連性グループによって分類されたアプリケーション使用率の合計が表示されます。カテゴリをクリックすると、カテゴリ内の使用状況別に、上位 10 個のアプリケーションのリストが表示されます。 <p>(注) アプリケーションの使用状況は、アプリケーションの双方向トラフィックから取得されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 詳細の表示：[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を含むスライドインペインが開きます。スライドインペインでは、次の操作を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> [All Applications]、[Business Relevant]、[Business Irrelevant]、および [Default] タブをクリックすると、アプリケーションの使用率と使用率別上位 10 個のアプリケーションが記載されたチャートが表示されます。 スライドインペインの右上にあるドロップダウンリストを使用すると、アプリケーショングループまたはトラフィッククラス別にチャートをフィルタリングできます。 チャート内のカテゴリをクリックすると、[Application] テーブルにアプリケーションとその詳細情報が表示されます。
[Top Applications by Throughput]	[LATEST] タブおよび [TREND] タブをクリックして、平均スループット値で上位 5 つのアプリケーションを表示します。各アプリケーション名はクリックすると、関連する app360 ページにリダイレクトされます。
[Top Endpoints by Throughput]	平均スループット値で上位 5 つのエンドポイントを表示します。各エンドポイント識別子 (IP アドレス) はクリックすると、関連する endpoint360 ページにリダイレクトされます。
[Worst Applications by Health]	<p>[LATEST] タブおよび [TREND] タブをクリックして、正常性スコアで下位 5 つのアプリケーションを表示します。各アプリケーション名はクリックすると、関連する app360 ページにリダイレクトされます。</p> <p>詳細の表示：[View Details] をクリックすると、パケット損失、ジッターなど、さまざまな正常性 KPI ごとに下位のアプリケーションを表示する追加の詳細を含むスライドインペインが開きます。</p>

ステップ 6 次の機能については、[Application] ダッシュレットを使用します。



[Application] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Type]	ビジネス関連グループに基づいてテーブルをフィルタリングします。オプションには、[Business Relevant]、[Business Irrelevant]、[Default]、[All] があります。
[Health]	アプリケーションの正常性スコアに基づいてテーブルをフィルタリングします。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none">• [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のアプリケーション。• [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のアプリケーション。• [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のアプリケーション。• [All] : すべてのアプリケーション。• [Unknown] : アプリケーションに正常性スコアを決定するための定性的なメトリックがありません。

[Application] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Applications] テーブル	

[Application] ダッシュレット	
アイテム	説明
	<p>アプリケーションの詳細情報を表形式で表示します。デフォルトでは、[Application] テーブルには次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Name] : アプリケーション名が表示されます。アプリケーション名は、シスコの次世代 Network-Based Application Recognition (NBAR) の標準アプリケーションに基づいています。 <p>アプリケーションポリシーパッケージを使用してアプリケーション名を変更しても、変更した名前はアプリケーションエクスペリエンスに表示されません。アプリケーションポリシーパッケージとアプリケーションエクスペリエンスは統合されていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションが NBAR の標準アプリケーションでない場合は、その HTTP ホスト名または SSL 共通名が表示されます（使用可能な場合）。これらのアプリケーションは、[Default] ビジネス関連性グループに割り当てられています。 <p>アプリケーション名をクリックして、アプリケーションの 360 度ビューを表示することもできます。アプリケーションの健全性のモニター (194 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの表には、以下の新しいアプリケーションが一覧表示されます。 <p>ms-teams-video、ms-teams-app-sharing、ms-teams-audio、ms-teams-media および ms-teams アプリケーション。これらは、microsoft-teams の下でグループ化されます。</p> <p>microsoft-teams をクリックして、Microsoft Teams アプリケーションの MS Teams 360 ビューを表示します。Microsoft Teams アプリケーションの正常性のモニターとトラブルシューティング (203 ページ) を参照してください。</p> <p>webex-video、webex-audio、および webex-app-sharing。これらは、データが NetFlow データから収集される [Webex] の下にグループ化されます。</p> <p>[Webex] をクリックして、Webex アプリケーションの Webex 360 ビューを表示します。Webex アプリケーション正常性のモニターとトラブルシューティング (199 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Health] : アプリケーションの正常性スコアが表示されます。 • [Business Relevance] : 有効な値は、[All]、[Business Relevant]、[Business Irrelevant]、および [Default] です。 • [Usage Bytes] : このアプリケーションに転送されたバイト数。 • [Average Throughput] : クライアントとサーバー間のアプリケーション

[Application] ダッシュレット	
アイテム	説明
	<p>トラフィックのフローレート (Mbps 単位)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Packet Loss (%)] : パケット損失の割合。 • [Network Latency] : Transmission Control Protocol (TCP) ベースのアプリケーションのネットワーク遅延時間 (ミリ秒)。 • [Jitter] : ネットワーク上のデータパケット間の時間遅延の差異 (ミリ秒単位)。ジッターは、Real-time Transport Protocol (RTP) ベースのアプリケーションの場合です。
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。 2. [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 3. [Apply] をクリックします。
 Export	<p>CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p>

ステップ7 [Enterprise Agent Tests] ダッシュレットには、次の機能が用意されています。

Enterprise Agent Tests	
アイテム	説明
[Enterprise Agent Tests] テーブル	<p>[Enterprise Agent Tests] 情報を表形式で表示します。エージェントテーブルには、次の詳細情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Test Name] : Enterprise エージェントテストの名前を表示します。名前をクリックして、ThousandEyes エージェントページに移動します。 • [Test Type] : テストの種類の名前を表示します。 • [Target] : エージェントテストに使用する対象サーバーを表示します。 • [Device Name] : デバイス名を表示します。 • [Average Packet Loss (%)] : エージェントとサーバー間のデータ収集中のパケット損失の平均パーセンテージ。 • [Average Jitter] : ネットワーク上のデータパケット間の時間遅延の差異（ミリ秒単位）。ジッターはRTPベースのアプリケーション用です。 • [Average Latency] : TCPベースのアプリケーションのネットワーク遅延時間（ミリ秒）。 • [# of Active Alerts] : エージェントテスト中のアクティブなアラートの数を表示します。 • [# of Alerts] : エージェントテスト中のアラートの総数を表示します。 • [# of Failed Tests] : 失敗したエージェントテストの数を表示します。 • MOS : 平均オピニオン評点の平均値と最新値を表示します。 • PDV (ms) : パケット遅延変動の平均値と最新値を表示します。
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。 2. [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 3. [Apply] をクリックします。
 Export	<p>CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p>

アプリケーションの健全性のモニター

この手順を使用して、特定のアプリケーションの詳細を表示します。

- ステップ 1** [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 2** [Application] タブをクリックします。
[Application Health] ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 3** [Application] テーブルで、アプリケーション名をクリックします。
[Application 360] ウィンドウが開き、アプリケーションの 360 度ビューが表示されます。
- ステップ 4** 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。
- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
 - [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
 - [Apply] をクリックします。
- ステップ 5** 特定のロケーションのアプリケーション情報を表示するには、[Location] ドロップダウンリストからロケーションを選択します。
- ステップ 6** [Filter] ドロップダウンリストから SSID を選択し、[Apply] をクリックして特定の SSID の情報を表示します。
- ステップ 7** アプリケーションの正常性タイムラインスライダを使用して、より詳細な時間範囲のアプリケーションの正常性スコアやアプリケーションの品質情報を確認します。
タイムライン内でカーソルを合わせると、次の情報が表示されます。
- [Health Score] : 特定の時点の正常性スコアが表示されます。[Quality] 領域のメトリックの色分けは正常性スコアに対応しています。
- [Quality] : [Quality] 情報領域には、遅延、ジッター、およびパケット損失に関する情報が表示されます。遅延については、クライアントとアプリケーションの間の遅延に関する次の情報が表示されます。
- LAN の遅延 : クライアントとルータの間の遅延 (ミリ秒) 。
 - WAN の遅延 : ルータとサーバーの間の遅延 (ミリ秒) 。
 - アプリケーションの遅延 : サーバーとアプリケーションの間の遅延 (ミリ秒) 。
- [Under Maintenance] : デバイスが特定の期間にメンテナンスモードになっている場合、特定のデバイス名が [Under Maintenance] バナーの下に表示されます。
- 時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。これにより、[Application 360] ウィンドウに表示されるアプリケーションデータのコンテキストが設定されます。

ステップ 8 タイムラインの下にある [Application Details] 領域で、次の情報を確認します。

Application Details	
アイテム	説明
[Health Score]	<p>アプリケーションの正常性スコアは、アプリケーションの定性的メトリック（パケット損失、ネットワーク遅延、およびジッター）の加重平均に基づいて計算されます。</p> <p>(注) 正常性スコアは、Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチおよび Cisco AireOS ワイヤレスコントローラについては提供されません。これらのデバイスは、正常性スコアの計算に必要な KPI をポーリングしません。</p>
[Time and Date] 範囲	[Application 360] ウィンドウに表示されているデータの時刻と日付の範囲が表示されます。
[Business Relevance] [Traffic Class] Category	アプリケーションの次世代 Network-Based Application Recognition (NBAR) 分類情報を表示します。
[Issues] タブ	クリックすると、問題のリストが表示されます。
[Exporters] タブ	クリックすると、NetFlow トラフィックを Cisco DNA Center に送信するデバイスのリストとその他の詳細情報が表示されます。

ステップ 9 [Issues] をクリックして、次の情報を確認します。

問題
<p>対処する必要がある問題を表示します。問題は、タイムスタンプに基づいて一覧表示されます。直近の問題が最初にリストされます。</p> <p>問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。</p> <p>スライドインペインでは、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この問題を解決するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Resolve] を選択します。 2. 解決済みの問題の一覧を表示するには [Resolved Issues] をクリックします。 • 問題を無視するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Ignore] を選択します。 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定します。 3. [Confirm] をクリックします。 4. 無視された問題の一覧を表示するには [Ignored Issues] をクリックします。 <p>問題のタイプの詳細については、問題の表示と管理 (261 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 10 [Exporters] をクリックして、次の情報を確認します。

エクスポータ	
アイテム	説明
[Device]	<p>NetFlow トラフィックを Cisco DNA Center に送信しているデバイス（ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、アプライアンスなど）のリストが表示されます。</p> <p>(注) 特定の時間範囲で、メンテナンスモードのデバイスに対して次の警告メッセージが表示されます。</p> <p>「警告アイコンが付いたエクスポータは、選択した期間中、メンテナンスモードになっていました。（The exporters with warning icon were in maintenance mode during the selected period of time.）」</p>

エクスポータ	
アイテム	説明
[Health Score]	直近の 5 分間の正常性スコア。正常性スコアは、アプリケーションの定性的メトリック（パケット損失、ネットワーク遅延、ジッターなど）に基づいて計算されます。 (注) 正常性スコアは、Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチおよび Cisco AireOS ワイヤレスコントローラについては提供されません。これらのデバイスは、正常性スコアの計算に必要な KPI をポーリングしません。
[Traffic Class]	該当する場合にアプリケーションの NBAR 分類情報が表示されます。
[Go to Device 360]	クリックすると、特定のデバイスの [Device 360] ウィンドウが開きます。

ステップ 11 メトリックチャートを表示するには、次の手順を実行します。

- ルータおよびアプライアンスの場合は、エクスポータの行をクリックします。その行の下に、使用状況、平均スループット、パケット損失、ジッター、および遅延のメトリックについてのチャートが表示されます。
 - スイッチおよびワイヤレスコントローラの場合は、デバイス名をクリックします。スライドインペインが開き、使用状況および平均スループットのメトリックについてのチャートが表示されます。
- また、スライドインペインで [Device 360] をクリックして、特定のデバイスの [Device 360] ウィンドウを開くこともできます。

メトリック グラフ	
チャート	説明
[Usage]	特定のアプリケーションに対してクライアントが転送したバイト数。
[Throughput]	クライアントとサーバーの間のアプリケーション トラフィックのレート (Mbps)。
[Packet Loss]	パケット損失のパーセンテージ (最大と平均)。 (注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。

メトリック グラフ	
チャート	説明
[Latency]	<p>ネットワークの遅延時間（最大と平均）（ミリ秒単位）。次の遅延のチャートが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク遅延 • クライアントネットワークの遅延 • サーバーネットワークの遅延 • アプリケーション ネットワークの遅延 <p>(注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。</p>
[Jitter]	<p>ネットワーク上のデータ パケット間の時間遅延（最大および平均）の差異（ミリ秒単位）。</p> <p>(注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。</p>
[DSCP]	<ul style="list-style-type: none"> • [Observed] : アプリケーションの現在の DSCP 値。 • [Expected] : NBAR によって割り当てられたデフォルトの DSCP 値。 <p>(注) このメトリックは、最適化 APM については提供されません。</p>

ステップ 12 [Application Endpoint] のテーブルで、アプリケーションにアクセスしているクライアントのリストを確認します（メトリックチャートの後に表示されます）。

Cisco DNA Center で管理されるクライアントのみを表示する場合は、[Managed Clients] タブをクリックします。

このテーブルには、各クライアントの詳細が表示されます。これには、識別子（ユーザー ID、ホスト名、IP アドレス、MAC アドレスのうち、この順序で使用可能なもの）、クライアント、クライアントの正常性、アプリケーションの正常性、使用状況、デバイスタイプ、MAC アドレス、VLAN ID などの情報が含まれます。

アクティブクライアントについては、[Identifier] 列をクリックして [Client 360] ウィンドウを開くことができます。

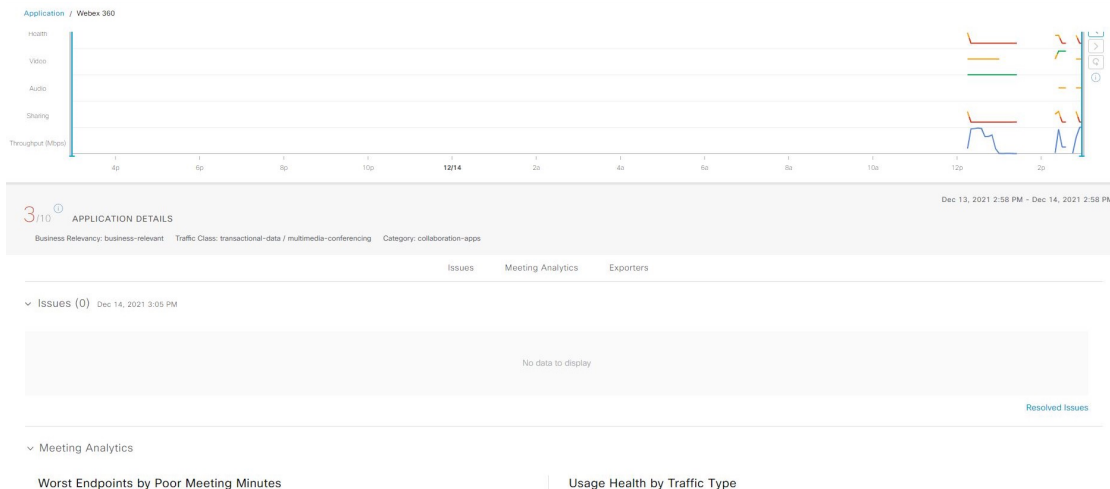
このテーブルには、クライアントが最大 100 個まで表示されます。追加のクライアントを表示するには、[Show More] をクリックします。

Webex アプリケーション正常性のモニターとトラブルシューティング

この手順を使用して、Webex アプリケーションの詳細を表示します。

- ステップ 1** [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 2** [Application] タブをクリックします。
[Application Health] ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 3** [Application] テーブルで、[Webex] アプリケーションをクリックします。
[Webex 360] ウィンドウが開き、アプリケーションの 360 度ビューが表示されます。

図 17: Webex 360



- ステップ 4** [Summary] ダッシュレットを使用して、ネットワーク全体または選択したサイト内のデータ使用量、平均スループット、およびアクティブなクライアントの総数を表示します。
- ステップ 5** 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するアプリケーションデータの時間範囲を指定します。
- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
 - [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
 - [Apply] をクリックします。
- ステップ 6** 特定のロケーションのアプリケーション情報を表示するには、[Location] ドロップダウンリストからロケーションを選択します。
- ステップ 7** アプリケーションの正常性タイムラインスライダを使用して、より詳細な時間範囲のアプリケーションの正常性スコア、サブアプリケーション、ネットワーク品質やアプリケーションの品質情報を確認します。
- タイムライン内でマウスカーソルを合わせると、特定の時刻の正常性スコアが表示されます。

ステップ 8 タイムラインの下にある [Application Details] 領域で、次の情報を確認します。

Application Details	
アイテム	説明
[Health Score]	アプリケーションの正常性スコアは、アプリケーションの定性的メトリック（パケット損失、ネットワーク遅延、およびジッター）の加重平均に基づいて計算されます。
[Time and Date] 範囲	[Webex 360] ウィンドウに表示されているデータの時間と日付の範囲が表示されます。
[Business Relevance] [Traffic Class] Category	アプリケーションの次世代 Network-Based Application Recognition (NBAR) 分類情報を表示します。
[Issues] カテゴリ	クリックすると、問題のリストが表示されます。
[Meeting Analytics]	クリックして、ミーティング分析データを表示します。
[Exporters] タブ	クリックすると、NetFlow トラフィックを Cisco DNA Center に送信するデバイスのリストとその他の詳細情報が表示されます。

ステップ 9 [Issue] カテゴリの問題に関する情報を確認できます。

- a) 問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響範囲、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。
- b) スライドインペインでは、次の操作を実行できます。
 - この問題を解決するには、次の手順を実行します。
 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Resolve] を選択します。
 2. [Resolved Issues] をクリックすると、解決済みの問題の一覧が表示されます。
 - 問題を無視するには、次の手順を実行します。
 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。
 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定します。
 3. [Confirm] をクリックします。

問題の詳細については、[問題の表示と管理](#)（261 ページ）を参照してください。

ステップ 10 次の機能には、[Meeting Analytics] ダッシュレットを使用します。

不良な会議時間の比較による下位エンドポイント

[Latest] および [Trend] グラフをクリックして、不良な会議時間の比較による下位エンドポイントのステータスを表示します。[By Percentage] または [By Total Poor Minutes] に基づいてデータをフィルタリングできます。

トラフィックタイプ別の使用状況正常性

[Latest] をクリックして、オーディオ、共有、およびビデオのトラフィックタイプに基づいた使用状況正常性を確認するグラフを表示します。

[Trend] をクリックして、オーディオ、共有、ビデオのトラフィックタイプに基づいた使用状況正常性を示すグラフを表示します。

グラフの色のセグメントにカーソルを合わせると、正常性のパーセンテージを表示できます。

ステップ 11 [Exporters] をクリックして、次の情報を確認します。

エクスポータ	
アイテム	説明
[Device]	<p>NetFlow トラフィックを Cisco DNA Center に送信しているデバイス（ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、アプライアンスなど）のリストが表示されます。</p> <p>(注) 特定の時間範囲で、メンテナンスモードのデバイスに対して次の警告メッセージが表示されます。</p> <p>「警告アイコンが付いたエクスポータは、選択した期間中、メンテナンスモードになっていました。（The exporters with warning icon were in maintenance mode during the selected period of time.）」</p>
[Health Score]	<p>直近の 5 分間の正常性スコア。正常性スコアは、アプリケーションの定性的メトリック（パケット損失、ネットワーク遅延、ジッターなど）に基づいて計算されます。</p> <p>(注) 正常性スコアは、Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチおよび Cisco AireOS ワイヤレスコントローラについては提供されません。これらのデバイスは、正常性スコアの計算に必要な KPI をポーリングしません。</p>
[Traffic Class]	該当する場合にアプリケーションの NBAR 分類情報が表示されます。
[Go to Device 360]	クリックすると、特定のデバイスの [Device 360] ウィンドウが開きます。

ステップ 12 オーディオ、ビデオ、共有のメトリックチャートを表示するには、次の手順を実行します。

メトリック グラフ	
チャート	説明
[Usage]	特定のアプリケーションに対してクライアントが転送したバイト数。
[Throughput]	クライアントとサーバーの間のアプリケーショントラフィックのレート (Mbps)。チャートにカーソルを合わせると、オーディオ、ビデオ、および共有のスループット値を表示できます。
[Packet Loss]	パケット損失のパーセンテージ (最大と平均)。 (注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。
[Latency]	ネットワークの遅延時間 (最大と平均) (ミリ秒単位)。次の遅延のチャートが提供されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク遅延 • クライアントネットワークの遅延 • サーバーネットワークの遅延 • アプリケーション ネットワークの遅延 (注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。
[Jitter]	ネットワーク上のデータ パケット間の時間遅延 (最大および平均) の差異 (ミリ秒単位)。 (注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。

ステップ 13 [Application Endpoint] のテーブルで、アプリケーションにアクセスしているクライアントのリストを確認します (メトリックチャートの後に表示されます)。

このテーブルには、各クライアントの詳細が表示されます。これには、識別子 (ユーザー ID、ホスト名、IP アドレス、MAC アドレスのうち、この順序で使用可能なもの)、クライアント、クライアントの正常性、アプリケーションの正常性、使用状況、デバイスタイプ、MAC アドレス、VLAN ID などの情報が含まれます。

アクティブクライアントについては、[Identifier] 列をクリックして [Client 360] ウィンドウを開くことができます。

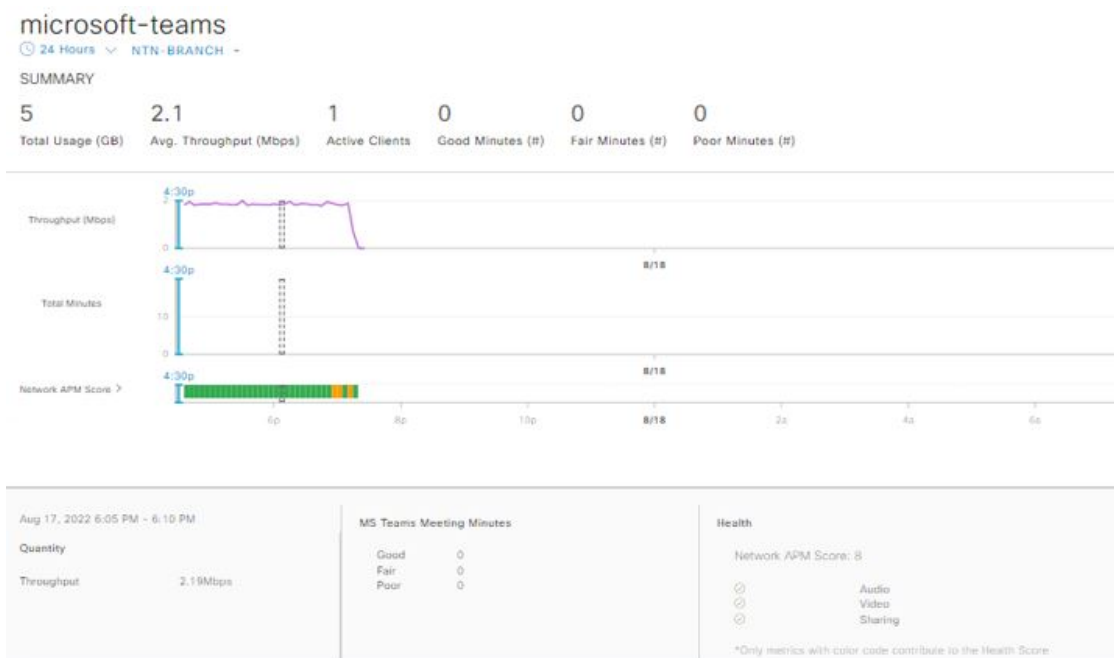
このテーブルには、クライアントが最大 100 個まで表示されます。追加のクライアントを表示するには、[Show More] をクリックします。

Microsoft Teams アプリケーションの正常性のモニターとトラブルシューティング

この手順を使用して、**Microsoft Teams** アプリケーションの詳細を表示します。

- ステップ 1** [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 2** [Application] タブをクリックします。
[Application health] ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 3** [Applications] テーブルで、[microsoft-teams] アプリケーションをクリックします。
アプリケーションの 360° ビューを提供する [MS Teams 360] ウィンドウが表示されます。

図 18: MS チーム 360



- ステップ 4** [Summary] ダッシュレットを使用して、ネットワーク全体または選択したサイト内のデータ使用量、平均スループット、アクティブなクライアント、良好だった時間、普通だった時間、不良だった時間の総数を表示します。
- ステップ 5** 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するアプリケーションデータの時間範囲を指定します。
- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
 - [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
 - [Apply] をクリックします。

(注) デフォルトでは、アプリケーションダッシュボードで選択したサイトと時間範囲が MS Teams 360 に表示されます。

ステップ 6 特定のロケーションのアプリケーション情報を表示するには、[Location] ドロップダウンリストからロケーションを選択します。

ステップ 7 アプリケーションの正常性タイムラインスライダーを使用して、スループット、合計分、およびネットワーク APM スコアを表示します。

タイムライン内でマウスカーソルを合わせると、特定の時刻の正常性スコアが表示されます。

(注) ネットワーク APM スコアは、管理対象ネットワークデバイスからエクスポートされた NetFlow に基づいて計算される正常性スコアです。APM の詳細については、「[サポートされるプラットフォーム \(174 ページ\)](#)」[英語] を参照してください。

ステップ 8 タイムラインの下にある [Application Details] 領域で、次の情報を確認します。

Application Details	
アイテム	説明
[Time and Date] 範囲	[MS Teams 360] ウィンドウに表示されているデータの時間と日付の範囲が表示されます。
ヘルス (Health)	オーディオ、ビデオ、および共有の正常性スコアを表示します。
数量	スループットデータを表示します。
[MS Teams Meeting Minutes]	良好だった時間、普通だった時間、不良だった時間に関する情報を表示します。
[Business Relevance Category] [Traffic Class]	アプリケーションの次世代 Network-Based Application Recognition (NBAR) 分類情報を表示します。
[Issues] カテゴリ	クリックすると、問題のリストが表示されます。
[Meeting Analytics]	クリックして、ミーティング分析データを表示します。
[Exporters] タブ	クリックすると、NetFlow トラフィックを Cisco DNA Center に送信するデバイスのリストとその他の詳細情報が表示されます。

ステップ 9 [Issue] カテゴリの問題に関する情報を確認できます。

- a) 問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。
- b) スライドインペインでは、次の操作を実行できます。
 - この問題を解決するには、次の手順を実行します。
 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Resolve] を選択します。

2. [Resolved Issues] をクリックすると、解決済みの問題の一覧が表示されます。
- 問題を無視するには、次の手順を実行します。
 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。
 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定します。
 3. [Confirm] をクリックします。

問題の詳細については、[問題の表示と管理 \(261 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 10 次の機能には、[Meeting Analytics] ダッシュレットを使用します。

[Meeting Analytics]	
アイテム	説明
上位アクセスデバイス	[Latest] および [Trend] チャートをクリックすると、上位アクセスデバイスのステータスを良好だった時間および不良だった時間別に表示します。 [By Poor Meeting Minutes]、[By Total Meeting Minutes]、[By Total Usage]、および [By Poor Network APM Score] に基づき、データをフィルタリングできます。
Top Endpoints	[Latest] および [Trend] チャートをクリックすると、上位エンドポイントのステータスを良好だった時間および不良だった時間別に表示します。 [By Poor Meeting Minutes]、[By Total Meeting Minutes]、[By Total Usage]、および [By Poor Network APM Score] に基づき、データをフィルタリングできます。

ステップ 11 [Exporters] をクリックして、次の情報を確認します。

エクスポータ	
アイテム	説明
[Device]	NetFlow トラフィックを Cisco DNA Center に送信しているデバイスを表示します。 (注) 特定の時間範囲で、メンテナンスモードのデバイスに対して次の警告メッセージが表示されます。 「警告アイコンが付いたエクスポータは、選択した期間中、メンテナンスモードになっていました。(The exporters with warning icon were in maintenance mode during the selected period of time.)」

エクスポート	
アイテム	説明
[Health Score]	直近の 5 分間の正常性スコア。正常性スコアは、アプリケーションの定性的メトリック（パケット損失、ネットワーク遅延、ジッターなど）に基づいて計算されます。 (注) 正常性スコアは、Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチおよび Cisco AireOS ワイヤレスコントローラについては提供されません。これらのデバイスは、正常性スコアの計算に必要な KPI をポーリングしません。
[Traffic Class]	該当する場合、アプリケーションの NBAR 分類情報が表示されます。

ステップ 12 オーディオ、ビデオ、共有のメトリックチャートを表示するには、次の手順を実行します。

メトリック グラフ	
チャート	説明
[Usage]	特定のアプリケーションに対してクライアントが転送したバイト数。
[Throughput]	クライアントとサーバー間のアプリケーショントラフィックのレート (Mbps)。チャートにカーソルを合わせると、オーディオ、ビデオ、および共有のスループット値を表示できます。
[Packet Loss]	パケット損失のパーセンテージ (最大と平均)。 (注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。
[Jitter]	ネットワーク上のデータ パケット間の時間遅延 (最大および平均) の差異 (ミリ秒単位)。 (注) このメトリックは、スイッチおよびワイヤレスコントローラについては提供されません。

ステップ 13 [Application Endpoint] のテーブルで、アプリケーションにアクセスしているクライアントのリストを確認します (メトリックチャートの後に表示されます)。

このテーブルには、各クライアントの詳細が表示されます。これには、識別子 (ユーザー ID、ホスト名、IP アドレスまたは MAC アドレス)、クライアントの正常性、ネットワーク APM スコア、Microsoft Teams スコア、使用状況、デバイスタイプ、MAC アドレス、VLAN ID などが含まれます。

アクティブクライアントについては、[Identifier] カラムをクリックして [Client 360] ウィンドウを開くことができます。

このテーブルには、クライアントが最大100個まで表示されます。追加のクライアントを表示するには、[Show More] をクリックします。

アプリケーションの正常性スコア設定の設定

アプリケーションの正常性スコアを設定するには、次の手順を実行します。トラフィッククラスごとにKPIのしきい値を変更し、計算に含めるKPIを指定すると、アプリケーションの正常性スコアの計算をカスタマイズできます。

- ステップ1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス**>**[Manage]**>**[Health Score Settings]**の順に選択します。
- ステップ2 **[Application Health]** タブをクリックします。
- ステップ3 アプリケーションカテゴリのタブをクリックして、正常性スコアの計算設定をカスタマイズします。
このタブには、アプリケーションの正常性スコアの計算に影響するKPIが表示されます。
- ステップ4 **[KPI Name]** 列で、KPI名のリンクをクリックします。
KPIのスライドインペインが表示されます。
- ステップ5 KPIの正常性スコアを次のように設定します。
 - a) **[Poor]**、**[Fair]**、および**[Good]** 正常性スコアのKPIしきい値をカスタマイズします。
 - b) **[Weight]**：有効な重みは1〜10です。重みが大きいほど、KPIがアプリケーションの正常性に及ぼす影響は大きくなります。
 - c) このKPIを正常性スコアの計算に含める場合は、**[Include for health score]** チェックボックスをオンにします。
 - d) デフォルトのKPI設定を復元するには、**[Reset to Default]** をクリックします。
- ステップ6 **[Apply]** をクリックします。

アプリケーションのヘルススコアとKPIメトリックスの理解

ここでは、アプリケーションのヘルススコアとKPIメトリックの計算方法について説明します。

全体的なアプリケーション正常性スコア

アプリケーション正常性スコアは、正常なビジネス関連アプリケーションの数（正常性スコアが8～10）をビジネス関連アプリケーションの総数で割ったパーセンテージです。このスコアは直近の5分間に対して計算されます。

例：90%（正常性スコア）=90（正常性スコアが8～10のビジネス関連アプリケーション数）
÷ 100（ビジネス関連アプリケーションの総数）

個別アプリケーションの正常性スコア

個別アプリケーションの正常性スコアは、アプリケーションの定性的メトリック（パケット損失、ネットワーク遅延、およびジッター）の加重平均に基づいて計算されます。

個別アプリケーションの正常性は1～10のスケールで測定され、10が最高スコアになります。個別アプリケーションの正常性スコアを計算するには、次の式を使用します。

個別アプリケーションの正常性スコア = $(\text{Latency_Weight} * \text{Latency_VoS_Score} + \text{Jitter_Weight} * \text{Jitter_VoS_Score} + \text{PacketLoss_Weight} * \text{PacketLoss_VoS_Score}) \div (\text{Latency_Weight} + \text{Jitter_Weight} + \text{PacketLoss_Weight})$



(注) 正常性スコアは、Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチおよび Cisco AireOS ワイヤレスコントローラについては提供されません。これらのデバイスは、正常性スコアの計算に必要な KPI をポーリングしません。

個別アプリケーションの正常性スコアを計算するためのワークフローは次のとおりです。

1. KPI（ジッター、遅延、パケット損失）を取得します。
2. フローレコードの DSCP 値に基づいて、アプリケーションのトラフィッククラスを決定します。
3. 各トラフィッククラスと KPI メトリックの Cisco Validated Design (CVD) しきい値を使用して、KPI 番号をサービススコア検証 (VoS スコア) に変換します。
4. アプリケーションのトラフィッククラスと許容度レベルに基づいて、KPI の重み付けを行います。重み付けは RFC4594 に基づきます。
5. アプリケーションの正常性スコアを計算します。これは、パケット損失、ネットワーク遅延、およびジッターの加重平均です。



第 9 章

ネットワークサービスの監視

- [AAA ネットワークサービスの監視 \(209 ページ\)](#)
- [DHCP ネットワークサービスの監視 \(212 ページ\)](#)
- [DNS ネットワークサービスの監視 \(216 ページ\)](#)

AAA ネットワークサービスの監視

この手順を使用して、ネットワーク内のワイヤレスコントローラから報告されたすべての AAA サーバートランザクションを表示および監視します。



(注) AAA 制約事項

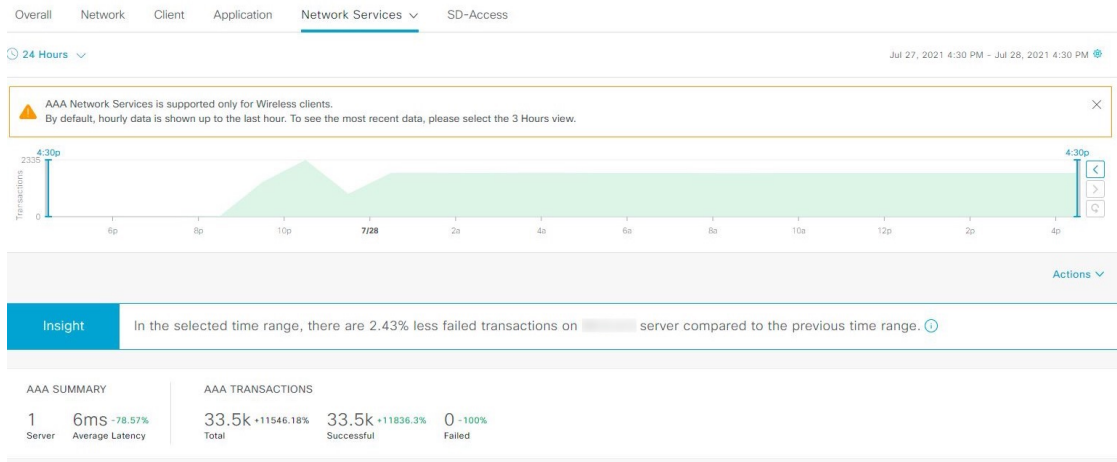
- AAA ネットワークサービスは、ワイヤレスクライアントおよびローカルモードをサポートします。
- AAA ネットワークサービスは、次をサポートしていません。
 - AireOS ワイヤレスコントローラ
 - フレックスモードまたはファブリックモード

始める前に

バージョン 17.6.1 以降の Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラがインストールされており、ローカルモード AP で展開されていることを確認します。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Health]の順に選択します。
[Overall] 正常性ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 2** [Network Services] > [AAA]を選択します。
[AAA] ダッシュボードが表示されます。

図 19: [AAA] ダッシュボード



- ステップ 3** 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、表示するデータの時間範囲を指定します。
- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
 - [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
 - [Apply] をクリックします。
- ステップ 4** 右上隅にある自動更新設定 (🔄) をクリックして、サポートされているアシュアランス ページで [Data Auto Refresh] を 5 分の更新間隔で有効または無効にします。
- ステップ 5** タイムラインスライダを使用して、一定期間における AAA サーバーの成功および失敗したトランザクションの合計に関する情報を表示します。タイムラインスライダには、次の機能があります。
- タイムラインスライダにカーソルを合わせると、5 分の時間枠の AAA サーバートランザクションが表示されます。
 - タイムラインをダブルクリックすると、1 時間の期間タイムラインスライダが表示されます。ウィンドウ全体が更新され、該当する 1 時間の最新情報が表示されます。
- ステップ 6** タイムラインスライダの下にある [Actions] ドロップダウンリストをクリックして、次の機能を実行できます。
- [EditDashboard] : ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。[ダッシュレットの位置の変更 \(392 ページ\)](#) および [カスタム ダッシュボードの作成 \(387 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 7** タイムラインの下にある [Insight] エリアを使用して、現在および以前の時間範囲と比較して、成功した AAA サーバートランザクションの割合を表示します。
- ステップ 8** AAA の概要ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

AAA の概要	
アイテム	説明
AAA の概要	ネットワークの AAA サーバーの数と平均遅延 (ミリ秒単位) を表示します。

AAA の概要	
アイテム	説明
AAA トランザクション	ネットワーク内の AAA トランザクション、成功したトランザクション、および失敗したトランザクションの合計数の割合を表示します。

ステップ 9 次の機能には、AAA サーバードッシュレットを使用します。

最も大きい遅延が発生した上位サイト
<p>チャートには、AAA サーバーの遅延（ミリ秒単位）が最も大きい上位サイトが表示されます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、チャートの色のセグメントにカーソルを合わせると、AAA サーバーの遅延が最も大きいサイトを表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の AAA サーバー、サイト、SSID、および AP に基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>
トランザクションエラーが発生した上位サイト
<p>チャートには、AAA サーバーのトランザクションエラーが最も多い上位サイトが表示されます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、チャートの色のセグメントまたはそれに対応する凡例にカーソルを合わせると、AAA サーバーのトランザクションエラーが最も多いサイトを表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の AAA サーバー、サイト、SSID、および AP に基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>
AAA サーバーの遅延
<p>このチャートには、各 AAA サーバーにおける AAA 平均遅延が表示されます。[All]、[MAB]、または [EAP] に基づいて遅延をフィルタ処理できます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、フィルタの選択に基づいてチャートを表示して、AAA サーバーの遅延を表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の AAA サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>

AAA サーバートランザクション



このチャートには、ワイヤレスコントローラによって報告された各 AAA サーバーの平均 AAA サーバートランザクションステータスが表示されます。[All]、[Failures]、または [Successes] に基づいてステータスをフィルタ処理できます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、フィルタの選択に基づいてチャートを表示して、AAA サーバーのトランザクションを表示できます。

水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の AAA サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。

ステップ 10 次の機能には、WLC による AAA サーバーダッシュレットを使用します。

WLC による AAA サーバーダッシュレット

アイテム	説明
AAA サーバーテーブル	AAA サーバーの IP、WLC 名、WLC の場所、トランザクション、障害、平均遅延などを含むテーブル形式で AAA サーバー情報を表示します。 [AAA Server IP] をクリックしてスライドインペインを開き、AAA サーバーの平均遅延およびトランザクションチャートを表示します。 水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の AAA サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。
 Export	デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。
	テーブルに表示するデータをカスタマイズします。 1. [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。 2. [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします 3. [Apply] をクリックします。

DHCP ネットワークサービスの監視

この手順を使用して、ネットワーク内のワイヤレスコントローラによって報告されたすべての DHCP サーバートランザクションを表示および監視します。

**(注) DHCP の制限事項**

- DHCP ネットワークサービスは、ワイヤレスクライアントおよびローカルモードをサポートします。
- DHCP ネットワークサービスは、以下をサポートしていません。
 - SD-Access ファブリッククライアント
 - AireOS ワイヤレスコントローラ
 - フレックスモードまたはファブリックモード

始める前に

バージョン 17.6.1 以降の Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラがインストールされていることを確認します。

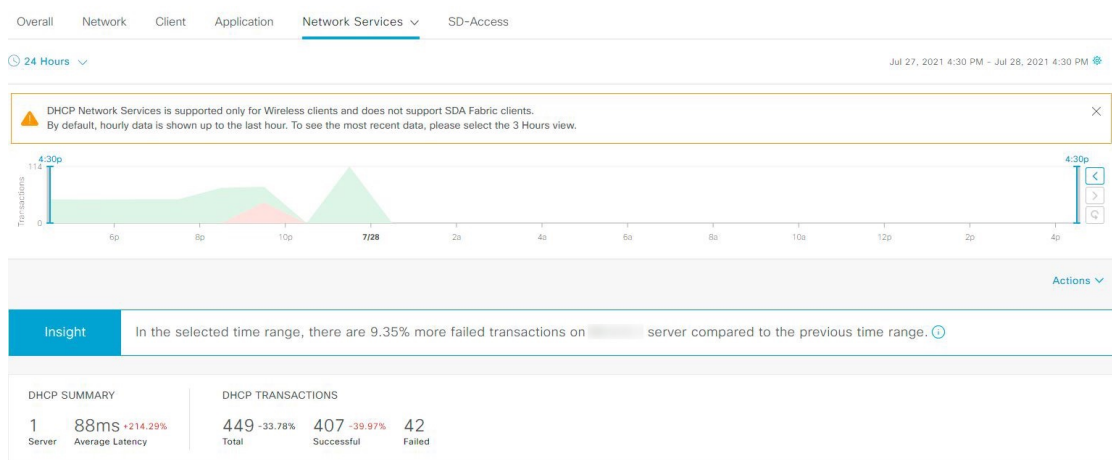
ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Health]の順に選択します。

[Overall] 正常性ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Network Services] > [DHCP]を選択します。

[DHCP] ダッシュボードが表示されます。

図 20: [DHCP] ダッシュボード



ステップ 3 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。

c) [Apply] をクリックします。

ステップ 4 右上隅にある自動更新設定 (⚙️) をクリックして、サポートされている アシユアランス ページで [Data Auto Refresh] を 5 分の更新間隔で有効または無効にします。

ステップ 5 タイムラインスライダを使用して、一定期間における DHCP サーバーの成功および失敗したトランザクションの合計に関する情報を表示します。タイムラインスライダには、次の機能があります。

- タイムラインスライダにカーソルを合わせると、5 分の時間枠の DHCP サーバートランザクションが表示されます。
- タイムラインをダブルクリックすると、1 時間の期間タイムラインスライダが表示されます。ウィンドウ全体が更新され、該当する 1 時間の最新情報が表示されます。

ステップ 6 タイムラインスライダの下にある [Actions] ドロップダウンリストをクリックして、次の機能を実行できます。

- [Edit Dashboard] : ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。[ダッシュレットの位置の変更 \(392 ページ\)](#) および [カスタム ダッシュボードの作成 \(387 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 7 タイムラインの下にある [Insight] エリアを使用して、現在および以前の時間範囲と比較して、成功した DHCP サーバートランザクションの割合を表示します。

ステップ 8 DHCP の概要ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

DHCP の概要	
アイテム	説明
DHCP Summary	ネットワークの DHCP サーバーの数と平均遅延 (ミリ秒単位) が表示されます。
DHCP Transactions	ネットワーク内の DHCP トランザクション、成功したトランザクション、および失敗したトランザクションの合計数の割合が表示されます。

ステップ 9 次の機能には、DHCP サーバーダッシュレットを使用します。

最も大きい遅延が発生した上位サイト

チャートには、DHCP サーバーの遅延 (ミリ秒単位) が最も大きい上位サイトが表示されます。



[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、チャートの色のセグメントにカーソルを合わせると、DHCP サーバーの遅延が最も大きいサイトを表示できます。

水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の DHCP サーバー、サイト、SSID、および AP に基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。

<p>トランザクションエラーが発生した上位サイト</p> <p>チャートには、DHCP サーバーのトランザクションエラーが最も多い上位サイトが表示されます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、チャートの色のセグメントまたはそれに対応する凡例にカーソルを合わせると、DHCP サーバーのトランザクションエラーが最も多いサイトを表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の DHCP サーバー、サイト、SSID、および AP に基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>
<p>DHCP サーバーの遅延</p> <p>このチャートには、各 DHCP サーバーにおける DHCP 平均遅延が表示されます。[All]、[Discover-offer]、または [Request-Ack] に基づいて遅延をフィルタ処理できます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、フィルタの選択に基づいてチャートを表示して、DHCP サーバーの遅延を表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の DHCP サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>
<p>DHCP サーバートランザクション</p> <p>このチャートには、ワイヤレスコントローラによって報告された各 DHCP サーバーの平均 DHCP サーバートランザクションステータスが表示されます。[All]、[Failures]、または [Successes] に基づいてステータスをフィルタ処理できます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、フィルタの選択に基づいてチャートを表示して、DHCP サーバーのトランザクションを表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の DHCP サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>

ステップ 10 次の機能には、WLC による DHCP サーバーダッシュレットを使用します。

WLC による DHCP サーバーダッシュレット	
アイテム	説明
DHCP サーバーテーブル	<p>DHCP サーバーの IP、WLC 名、WLC の場所、トランザクション、障害、平均遅延などを含むテーブル形式で DHCP サーバー情報を表示します。[DHCP Server IP] をクリックしてスライドインペインを開き、サーバーの平均遅延およびトランザクションチャートを表示します。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の DHCP サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>

WLC による DHCP サーバーダッシュレット	
アイテム	説明
 Export	デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。 [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 [Apply] をクリックします。

DNS ネットワークサービスの監視

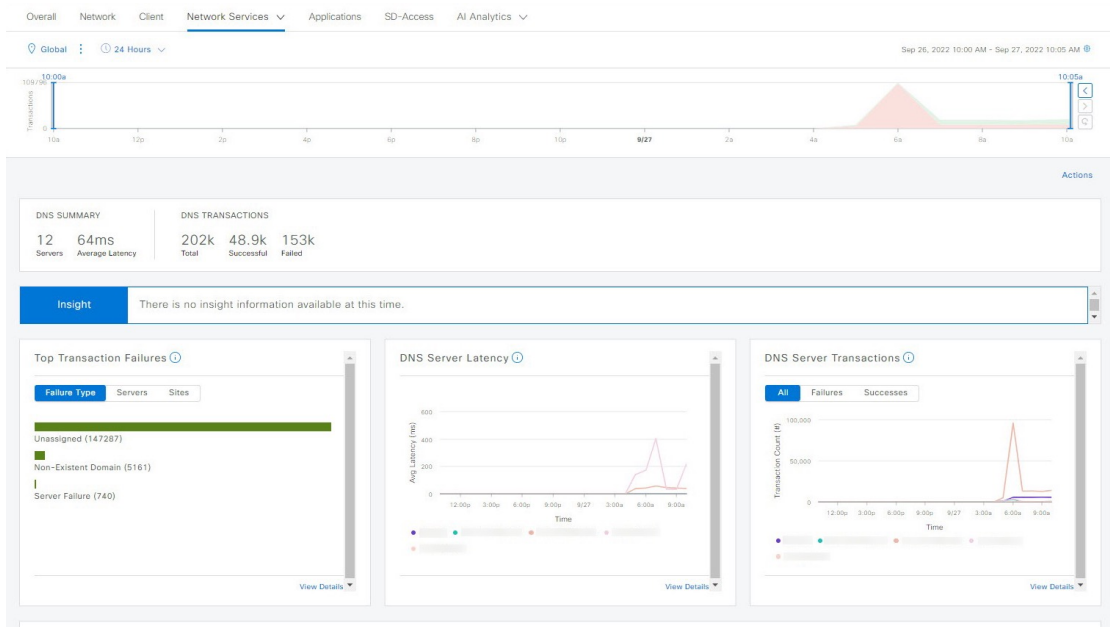
この手順を使用して、ネットワーク内のワイヤレスコントローラ（17.10.1 以降）、スイッチ（17.9.2 以降）、ルータ（17.9 以降）から報告された DNS サーバートランザクションをモニターします。

始める前に

- 監視する予定のネットワークデバイスで NetFlow が有効になっていることを確認します。
- Cisco DNA Center のアプリケーションテレメトリを有効にします。詳細については、[テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定（82 ページ）](#) を参照してください。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Health] の順に選択します。
[Overall] 正常性ダッシュボードが表示されます。
- ステップ 2** **Network Services > DNS** を選択します。
[DNS] ダッシュボードが表示されます。

図 21: DNS ダッシュボード



- ステップ 3** 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。
- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
 - [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
 - [Apply] をクリックします。
- ステップ 4** 右上隅にある自動更新設定 (⚙️) をクリックして、サポートされている アシユアランス ページで [Data Auto Refresh] を 5 分の更新間隔で有効または無効にします。
- ステップ 5** タイムラインスライダを使用して、一定期間における DNS サーバーの成功および失敗したトランザクションの合計に関する情報を表示します。タイムラインスライダには、次の機能があります。
- タイムラインスライダにカーソルを合わせると、5 分の時間枠の DNS サーバートランザクションが表示されます。
 - タイムラインをダブルクリックすると、1 時間の期間タイムラインスライダが表示されます。ウィンドウ全体が更新され、該当する 1 時間の最新情報が表示されます。
- ステップ 6** ダッシュボードの表示をカスタマイズするには、タイムラインスライダーの下にある [Actions] ドロップダウンリストをクリックし、[Edit Dashboard] を選択します。ダッシュレットの位置の変更 (392 ページ) およびカスタム ダッシュボードの作成 (387 ページ) を参照してください。
- ステップ 7** DNS の [Summary] ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

DNS の概要	
アイテム	説明
[DNS Summary]	ネットワークの DNS サーバーの数と平均遅延（ミリ秒単位）が表示されます。
DNS Transactions	ネットワーク内の DNS トランザクション、成功したトランザクション、および失敗したトランザクションの合計数の割合が表示されます。

ステップ 8 タイムラインの下にある [Insight] エリアを使用して、現在および以前の時間範囲と比較して、成功した DNS サーバートランザクションの割合を表示します。



ステップ 9 次の機能には、DNS サーバーダッシュレットを使用します。

[Top Transaction Failures]
<p>チャートには、DNS サーバーのトランザクションエラーが最も多いタイプ、サーバー、サイトがグラフに表示されます。チャートの色のセグメントにカーソルを合わせると、各項目におけるトランザクションエラーの回数が表示されます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、チャートの色のセグメントにカーソルを合わせると、エラーの詳細が表示されます。</p>

[DNS Server Latency]
<p>このチャートには、各 DNS サーバーにおける DNS 平均遅延が表示されます。チャートにカーソルを合わせると、各サーバーの遅延時間（ミリ秒単位）が表示されます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、タイムラインをクリックして詳細を表示できます。</p>

[DNS Server Transactions]
<p>このチャートには、ワイヤレスコントローラから報告された各 DNS サーバーの平均 DNS サーバートランザクションステータスが表示されます。[All]、[Failures]、または [Successes] に基づいてステータスをフィルタ処理できます。</p> <p>[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインから、フィルタの選択に基づいてチャートを表示して、DNS サーバーのトランザクションを表示できます。</p> <p>水平バーとして表示されるデータを選択して、上位の DNS サーバー、サイト、SSID、AP などに基づいてクライアントテーブルをフィルタ処理できます。</p>

ステップ 10 次の機能には、デバイスによる DNS サーバーダッシュレットを使用します。

デバイスによる DNS サーバー	
アイテム	説明
[DNS Server table]	DNS サーバー名、IP アドレス、場所などを含む表形式で DNS サーバー情報を表示します。サーバー名をクリックして、[Device 360] の情報を表示するスライドインペインを開きます。
 Export	デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。
	テーブルに表示するデータをカスタマイズします。 <ol style="list-style-type: none">1. [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。2. [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。3. [Apply] をクリックします。



第 10 章

SD-Access の正常性のモニターとトラブルシューティング

- [SD-Access ファブリック](#) (221 ページ)
- [SD-Access ファブリックの正常性の監視とトラブルシューティング](#) (226 ページ)
- [ファブリックサイトの正常性の監視](#) (231 ページ)
- [トランジットおよびピアネットワークの正常性の監視](#) (236 ページ)
- [仮想ネットワークの正常性の監視](#) (241 ページ)
- [仮想ネットワークの正常性スコア](#) (245 ページ)

SD-Access ファブリック

ファブリックテクノロジーは、SD-Access に不可欠な要素です。ファブリックネットワークは、1 つまたは複数の場所で単一のエンティティとして管理されるデバイスの論理グループです。ファブリックネットワークを使用すると、仮想ネットワークやユーザーおよびデバイスグループの作成、高度なレポート作成などが可能になります。その他の機能には、アプリケーション認識、トラフィック分析、トラフィックの優先順位付け、最適なパフォーマンスと運用効率のためのステアリングのインテリジェント サービスがあります。

Cisco DNA Center では、デバイスをファブリックネットワークに追加できます。これらのデバイスは、ファブリックネットワーク内のコントロールプレーン、ボーダーデバイスまたはエッジデバイスとして機能するように設定できます。

ファブリックサイトの追加

始める前に

IP デバイストラッキング (IPDT) がすでにサイトに設定されている場合にのみ、ファブリックサイトを作成できます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します： **[Provision] > [Fabric Sites]**.

ステップ 2 [SUMMARY] で、ファブリックサイトの数を示す数字をクリックします。

結果のウィンドウには、すでに作成されているすべてのファブリックサイトとその情報（正常性スコア、ファブリックゾーン、ファブリックデバイス、ファブリックロール、接続されたトランジットなど）が表形式で表示されます。

選択した列のみを表示するようにテーブルビューをカスタマイズできます。ウィンドウの右上隅にある歯車アイコンを使用して、[Table Settings] を編集し、[Apply] をクリックして変更を適用します。

ステップ 3 [Create Fabric Sites] をクリックします。

または、最初の 3 つの手順の代わりに、メニューアイコンをクリックして選択 [Workflow] > [Create Fabric Sites and Fabric Zones] の順に選択します。

ステップ 4 [Create Fabric Sites] ウィンドウで、[Let's Do it] をクリックして、ワークフローに直接移動します。

ステップ 5 [Fabric Site Location] ウィンドウで、ファブリックゾーンとして追加するエリア、建物、またはフロアを選択します。

ステップ 6 [Wired Endpoint Data Collection] ウィンドウで、[Wired Endpoint Data Collection] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

ステップ 7 [Authentication Template] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a) ファブリックサイトの認証テンプレートを選択します。

- [Closed Authentication] : 認証前のすべてのトラフィック（DHCP、DNS、ARP など）が廃棄されます。
- [Open Authentication] : ホストには、802.1X 認証を受ける必要なくネットワーク アクセスが許可されます。
- [Low Impact] : スイッチポートに ACL を適用することでセキュリティを追加して、認証前に非常に制限されたネットワークアクセスを許可します。ホストが正常に認証されると、追加のネットワークアクセスが許可されます。
- [None]

b) （オプション） [Closed Authentication]、[Open Authentication]、または [Low Impact] を選択した場合は、[Edit] をクリックして認証設定を編集します。

- [First Authentication Method] : [802.1x] または [MAC Authentication Bypass (MAB)] を選択します。
- [802.1x Timeout (in seconds)] : スライダーを使用して、802.1x タイムアウトを秒単位で指定します。
- [Wake on LAN] : [Yes] または [No] を選択します。
- [Number of Hosts] : [Unlimited] または [Single] を選択します。
- [BPDU Guard] : このチェックボックスを使用して、すべての [Closed Authentication] ポートでブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) ガードを有効または無効にします。
- [Pre-Authentication Access Control List] : トグルボタンを有効にして、[Low Impact] 認証の事前認証制御を構成します。[Implicit Action] ドロップダウンリストから、暗黙的なアクションを選択

し、ルールの説明を入力します。アクセスコントラクトを追加するには、[Add Contract Action] をクリックし、ルールを選択して、[Apply Table] をクリックします。

- ステップ 8** (オプション) [Fabric Zones] ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。
- 後でファブリックゾーンを指定するには、[Setup Fabric Zones Later] をクリックします。
 - ファブリックゾーンを指定し、範囲指定されたサブネットを作成するには、[Setup Fabric Zones Now] をクリックし、表示されたネットワーク階層からファブリックサイトを選択します。
- ステップ 9** [Summary] ウィンドウで、ファブリックサイトの設定を確認します。
ここでファブリックサイトまたはゾーン設定を編集できます。
- ステップ 10** [Fabric Site Creation Scheduler] ウィンドウで、[Visibility and Control of Configurations] の設定に基づいて、使用可能なオプションを選択します。
- 設定をすぐに展開するには、[Now] をクリックします。
 - 将来の日付と時刻で展開をスケジュールするには、[Later] をクリックし、展開する日付、時刻、タイムゾーンを定義します。
 - 設定をプレビューするには、[Generate Configuration Preview] をクリックします。

可視性のみが有効になっている場合、または可視性と制御の両方が有効になっている場合、[Generate Configuration Preview] がデフォルトで選択され、[Now] と [Later] がグレー表示（使用不可）になります。詳細については、『Cisco DNA Center ユーザガイド』の「Visibility and Control of Fabric Configurations」を参照してください。

- ステップ 11** [展開 (Deploy)] をクリックします。
- [Fabric Site Creation Scheduler] ウィンドウで [Now] または [Later] を選択した場合、デバイス構成はスケジュールされた時刻に展開されます。[Tasks] ウィンドウでタスクを確認できます。
- サイトとゾーンがプロビジョニングされるまでに数秒かかります。サイトの作成が成功すると、「Fabric Site Creation Completed」というメッセージが表示されます。
- 次に、新しいファブリックサイトを作成するか [Task] ウィンドウでアクティビティを表示するかを選択できます。

- ステップ 12** [Fabric Site Creation Scheduler] ウィンドウで [Generate Configuration Preview] を選択した場合は、[Visibility and Control of Configurations] の設定に応じて、次の手順を実行します。
1. デバイス構成を確認します。
詳細については、『Cisco DNA Center ユーザガイド』の「Visibility and Control of Fabric Configurations」を参照してください。
 2. 準備ができれば、[Deploy] または [Submit for Approval] をクリックします。構成の展開、または ITSM 承認のために送信する準備ができていない場合は、[Exit and Preview Later] をクリックします。
(注) ITSM 承認のためにデバイス設定を送信し、すべての設定をプレビューせずにこれらの設定を展開できます。

3. スライドインペインで、設定を展開するタイミングを指定し、タイムゾーンを選択します。可視性と制御が有効になっている場合は、IT 管理者へのメモを追加します。
4. [Submit] をクリックします。

設定が正常に送信されると、成功メッセージが表示されます。

展開するタスクをプレビューしてスケジュールした場合は、[Tasks] ウィンドウでタスクを確認できます。

ITSM 承認のために設定を送信した場合は、[Work Items] ウィンドウで作業項目のステータスを表示できます。承認されていない場合は、ITSM 承認のために作業項目を再送信する必要があります。設定が承認されると、スケジュールされた時刻に展開され、[Tasks] ウィンドウで確認できます。

ファブリックへのデバイスの追加

ファブリックサイトを作成すると、そのファブリックサイトにデバイスを追加できます。デバイスがコントロールプレーンノード、エッジノード、またはボーダーノードとして機能する必要があるかどうかも指定できます。

IP デバイストラッキング (IPDT) がファブリックサイトに設定されている場合にのみ、新しいデバイスをファブリックサイトに追加できます。

アクセスロールが割り当てられ、サイトで IPDT を有効にする前にプロビジョニングされたデバイスは、ファブリックに追加できません。このようなデバイスは、ファブリックサイトに追加する前に再プロビジョニングしてください。プロビジョニングワークフローを調べて、デバイスでの [Deployment of IPDT] のステータスを確認します。



- (注)
- ファブリックサイト内のデバイスをコントロールプレーンノードまたはボーダーノードとして指定する手順はオプションです。それらのロールがないデバイスもあります。ただし、各ファブリックサイトには、少なくとも1つのコントロールプレーンノードデバイスと1つのボーダーノードデバイスが存在する必要があります。有線ファブリックの現在のリリースでは、冗長性を確保するために最大6つのコントロールプレーンノードを追加できます。
 - 現在、シスコワイヤレスコントローラは2つのコントロールプレーンノードとのみ通信します。

始める前に

デバイスをプロビジョニングします (まだプロビジョニングしていない場合)。

- [Provision] > [Network Devices] > [Inventory] ウィンドウに、検出されたデバイスが表示されます。

- ファブリックの準備状況チェックに合格し、プロビジョニングする準備が整ったら、トポロジビューにデバイスがグレー色で表示されます。
- ファブリックの準備状況チェックの実行中にエラーが検出された場合、エラー通知が [topology] エリアに表示されます。[See more details] をクリックして、結果のウィンドウに一覧表示された問題のあるエリアを確認します。問題を修正し、[Re-check] をクリックして問題が解決されていることを確認します。
- 問題解決の一環としてデバイスの設定を更新する場合は、デバイスで [Inventory] > [Resync] を実行して、デバイス情報を再同期してください。



(注) ファブリックの準備状況チェックに失敗しても、デバイスのプロビジョニングを続行できます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します： [Provision] > [Fabric Sites].

ステップ 2 [SUMMARY] で、ファブリックサイトの数を示す数字をクリックします。

ステップ 3 デバイスを追加するファブリックサイトを選択します。

インベントリされたネットワーク内のすべてのデバイスが結果のトポロジビューに表示されます。トポロジ表示では、ファブリックに追加されるすべてのデバイスは青です。

ステップ 4 [Fabric Infrastructure] タブの [List] ビューで、デバイスをクリックします。slide-in paneに、次の [Fabric] オプションが表示されます。

オプション	説明
エッジノード	選択したデバイスをエッジノードとして有効にするには、このオプションの横にあるボタンをトグルします。
ボーダー ノード	選択したデバイスをボーダーノードとして有効にするには、このオプションの横にあるボタンをトグルします。
コントロールプレーンノード	選択したデバイスをコントロールプレーンノードとして有効にするには、このオプションの横にあるボタンをトグルします。

デバイスをファブリックインボックスとして設定するには、[Control Plane Node]、[Border Node]、および [Edge Node] オプションを選択します。

デバイスをコントロールプレーンおよびボーダーノードとして設定するには、[Control Plane Node] と [Border Node] の両方を選択します。

ステップ 5 [Add] をクリックします。

次のタスク

デバイスがファブリックに追加されると、ファブリック コンプライアンス チェックが自動的に実行され、デバイスがファブリックに準拠していることが確認されます。トポロジには、ファブリック コンプライアンス チェックに失敗したデバイスが青色で、横に十字マークが付いた状態で表示されます。エラー通知の [詳細の表示 (See more details)] をクリックして問題領域を特定し、修正します。

SD-Access ファブリックの正常性の監視とトラブルシューティング

この手順を使用して SD-Access ファブリックの概要を把握して、対処する必要がある潜在的な問題があるかどうかを判断します。

ファブリックネットワークは、1つまたは複数の場所で単一のエンティティとして管理されるデバイスの論理グループです。Cisco DNA Center では、デバイスをファブリックネットワークに追加できます。これらのデバイスは、ファブリックネットワーク内のコントロールプレーン、ボーダーデバイスまたはエッジデバイスとして機能するように設定できます。

始める前に

アシュアランスを設定します。「[基本的な設定のワークフロー \(13 ページ\)](#)」を参照してください。

ファブリックサイトを監視およびトラブルシューティングするには、最初にファブリックサイトを構成する必要があります。[ファブリックサイトの追加 \(221 ページ\)](#) および [ファブリックへのデバイスの追加 \(224 ページ\)](#) を参照してください。

マルチサイト ファブリック サイトの詳細情報については、[Cisco Digital Network Architecture Center ユーザー ガイド](#)の「Provision Your Network」の章を参照してください。



(注) サブテンドノードと拡張ノードは、ファブリックの正常性の対象にはなりません。ファブリックのプロビジョニング中、これらのノードには、エッジ、ボーダー、コントロールプレーンなどのファブリックロールが割り当てられません。

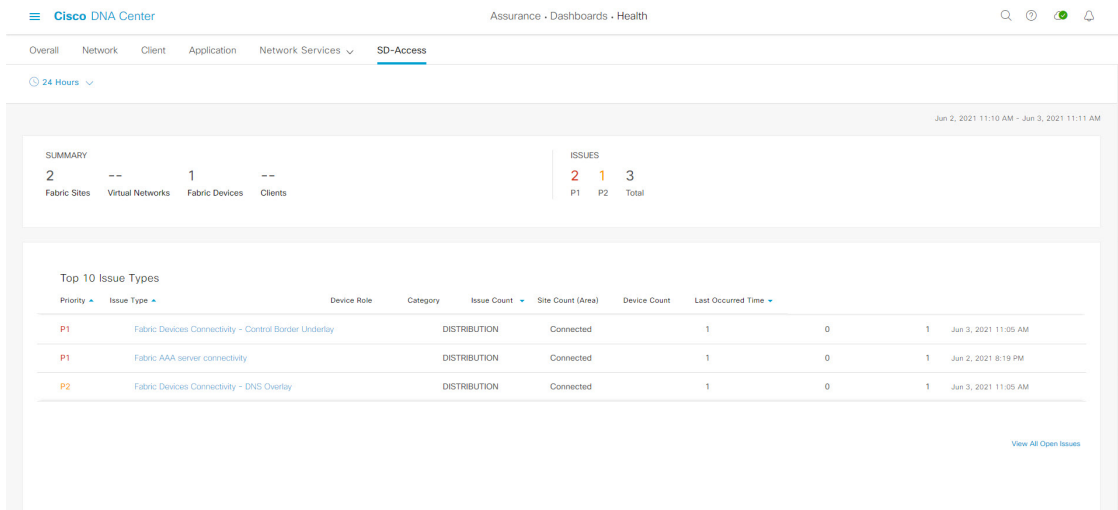
ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[アシュアランス](#) >。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [SD-Access] タブをクリックします。

[SD-Access health] ダッシュボードが表示されます。

図 22: [Network Health] ダッシュボード



ステップ 3 上部のメニューバーにある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ダッシュボードに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 Hours]、[24 Hours]、または [7 Days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
- [Apply] をクリックします。

ステップ 4 次の機能には、[SD-Access Health Summary] ダッシュレットを使用します。

アイテム	説明
Summary	<ul style="list-style-type: none"> [Fabric Sites] : ファブリックサイトの数。 [Virtual Networks] : 仮想ネットワークの数。 [Fabric Endpoints] : ファブリックエンドポイントの数。 [Endpoints] : エンドポイントの数。
問題	<ul style="list-style-type: none"> [P1] : 優先度 1 の問題の数。 [P2] : 優先度 2 の問題の数。 [Total] : P1、P2、および P3 の問題の合計数。


ステップ 5 次の機能には、SD-Access の [Top 10 Issue Types] ダッシュレットを使用します。

表 9:


[Top 10 Issues] ダッシュレット
<p>対処する必要がある上位 10 件の問題を表示します（存在する場合）。問題は色分けされ、事前割り当てられた P1 から始まる優先度レベルで並び替えられます。</p> <p>問題をクリックすると、スライドインペインが開き、問題のタイプに関する追加の詳細が表示されます。スライドインペインで問題のインスタンスをクリックします。必要に応じて、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するには、[Status] ドロップダウンメニューで [Resolve] を選択します。 問題のインスタンスを無視するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。 スライダで問題を無視する時間数を設定します。 [Confirm] をクリックします。 <p>[View All Issues] をクリックすると、[Open Issues] ウィンドウが開きます。</p>

ステップ 6 [Fabric Sites] ダッシュレットを使用して、ネットワーク内のファブリックサイトに関する詳細情報を表示します。このダッシュレットには、次の機能があります。

[Fabric Sites] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Health]	<p>次のオプションを使用して、クライアントの正常性を基にテーブルをフィルタリングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべて [Inactive] : 正常性スコアが 0 のファブリックサイト。 [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のファブリックサイト。 [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のファブリックサイト。 [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のファブリックサイト。 [No Data] : データのないファブリックサイト。

[Fabric Sites] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Fabric Site] テーブル	<p>ファブリックサイトの詳細情報を表形式で表示します。デフォルトでは、[Fabric Site] テーブルには次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Fabric Site] : ファブリックサイトの名前。 ファブリックサイト名をクリックして、ファブリックサイトの360度ビューを表示することもできます。 ファブリックサイトの正常性の監視 (231 ページ) を参照してください。 • [# of Fabric Devices] : ファブリックサイト内のファブリックデバイスの数。 • [Fabric Site Health] : <ul style="list-style-type: none"> • [Overall] : ファブリックサイトの全体的な正常性。 • [Fabric Site Connectivity] : ファブリックサイトとの接続の状態。 • [Fabric Infrastructure] : ファブリックサイトを構成するデバイスの正常性。
[Export]	<p>CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p> <p>(注) テーブルの列が選択されていない場合、使用可能なすべての列のデータがエクスポートの対象になります。アプリケーションテーブルに適用されているフィルタは、エクスポート対象のデータに適用されます。</p>
	<p>テーブルの表示をカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。 2. [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータを選択します。 3. [Apply] をクリックします。

ステップ 7 [Virtual Networks] ダッシュレットを使用して、ファブリックサイト内の仮想ネットワークに関する詳細情報を表示します。このダッシュレットには、次の機能があります。

[Virtual Networks] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Health]	<p>次のオプションを使用して、仮想ネットワークの正常性を基にテーブルをフィルタ処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All] • [Inactive]: ヘルス スコアが 0 の仮想ネットワーク。 • [Poor]: 正常性スコアが 1 ~ 3 の仮想ネットワーク。 • [Fair]: 正常性スコアが 4 ~ 7 の仮想ネットワーク。 • [Good]: 正常性スコアが 8 ~ 10 の仮想ネットワーク。 • [No Data]: データのない仮想ネットワーク。
[Virtual Networks] テーブル	<p>仮想ネットワークの詳細情報を表形式で表示します。デフォルトでは、[Virtual Networks] テーブルには次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VN Name]: 仮想ネットワークの名前。 <p>仮想ネットワーク名をクリックして、仮想ネットワークの 360 度ビューを表示することもできます。仮想ネットワークの正常性の監視 (241 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [# of Active Sites]: 仮想ネットワーク内のアクティブなサイトの数。 • [# of Clients]: 仮想ネットワーク内のエンドポイントの数。 • [Virtual Network Health]: <ul style="list-style-type: none"> • [Overall]: 仮想ネットワークの全体的な正常性。 • [VN Services]: 仮想ネットワークサービスの正常性。
[Export]	<p>CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p> <p>(注) テーブルの列が選択されていない場合、使用可能なすべての列のデータがエクスポートの対象になります。アプリケーションテーブルに適用されているフィルタは、エクスポート対象のデータに適用されます。</p>
	<p>テーブルの表示をカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Table Appearance] タブで、テーブルの密度とストライピングを設定します。 2. [Edit Table Columns] タブで、テーブルに表示するデータを選択します。 3. [Apply] をクリックします。

ファブリックサイトの正常性の監視

この手順を使用して、特定のファブリックサイトの詳細を表示します。

ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [SD-Access] タブをクリックします。
[SD-Access health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 3 [Fabric Site] テーブルで、ファブリックサイトの名前をクリックします。
ファブリックサイトの 360° ビューを提供する [Fabric Site] ウィンドウが表示されます。

図 23: Fabric Site 360



ステップ 4 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンリストから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
- [Apply] をクリックします。

ステップ 5 正常性タイムラインスライダを使用して、より詳細な時間範囲の正常性スコアや品質情報を確認します。
タイムライン内でカーソルを合わせると、次の情報が表示されます。

[Fabric Site Health] : 正常性は、このサイトの正常なファブリックノードの割合です。コントロールプレーンのデバイスヘルスには含まれません。[Fabric Sub Category Health] は、基礎となる KPI スコアの最小値です。

(注) KPI は正常性スコアに含まれません。

[Fabric Site Connectivity] : コントロールプレーンの到達可能性、拡張ノードの接続性など、サイトの到達可能性ステータスに寄与する KPI サブカテゴリが一覧表示されます。

ファブリック コントロール プレーン

ファブリック インフラストラクチャ

時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。この境界により、Fabric Site 360 ウィンドウに表示されるファブリックサイトデータのコンテキストが設定されます。

[Latest] および [Trend] タブをクリックすると、カテゴリに表示されるデータの範囲が切り替わります。

- [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。
- [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。

ステップ 6 タイムラインの下にある [Fabric Site Health] エリアで、次の情報を確認します。


ファブリックサイトの正常性	
アイテム	説明
Latest	<p>デフォルトで表示されます。2つのペインがあります。左側のペインには、ネットワークの正常性の概要スコアとデバイスの合計数が表示されます。右側のペインには、チャートが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Health Fabric Nodes] : 選択したサイトの正常な（良好な）ノードの割合。 • [Total Devices] : ネットワークデバイスの総数と、[Good Health]、[Fair Health]、[Poor Health]、および [No Health Data] 状態のデバイスの数。 • [Charts] : この色分けされたスナップショットビューチャートには、過去5分間のファブリックサイトの接続とインフラストラクチャが表示されます。 <p>いずれかの色の上にカーソルを重ねると、その色に関連付けられたデバイスの正常性スコアと数が表示されます。</p> <p>チャートに低い正常性スコア（赤またはオレンジ）が示されている場合、その低い正常性スコアに寄与した KPI がバーの隣に示されます。たとえば、ファブリック CP の到達可能性、マルチキャスト RP、AAA サーバーのステータスなどが示されます。</p> <p>チャート内のハイパーリンクされたファブリックカテゴリをクリックしてサイドペインを開き、それぞれの KPI サブカテゴリを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Fabric Site Connectivity] : コントロールプレーンの到達可能性、拡張ノードの接続性、ボーダーからコントロールプレーンへの BGP セッション、ボーダーからインフラ VN のピアノードへの BGP セッション。 • [Fabric Control Plane] : LISP セッションステータス。 • [Fabric Infrastructure] : インフラ VN の AAA サーバーステータスと Pub/Sub セッションステータス、CTS 環境データのダウンロード。



ファブリックサイトの正常性	
アイテム	説明
Trend	<p>[Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、ある時間範囲におけるデバイスのパフォーマンスを示しています。チャートにカーソルを重ねると、デバイスの合計数とその健全性が時系列で表示されます。</p> <p>チャートの色は、ネットワークデバイスの正常性を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● : 不良なネットワークデバイス。ヘルス スコアの範囲は 1～3 です。 ● : 中程度のネットワークデバイス。ヘルス スコアの範囲は 4～7 です。 ● : 良好なネットワークデバイス。ヘルス スコアの範囲は 8～10 です。 ● : 正常性データなし。ヘルス スコアは 0 です。

ステップ 7 [Top 10 Issue Types] エリアを使用して、次の情報を表示します。

問題
<p>対処する必要がある問題を表示します。問題は、タイムスタンプに基づいて一覧表示されます。直近の問題が最初にリストされます。</p> <p>問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。</p> <p>スライドインペインでは、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この問題を解決するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Resolve] を選択します。 2. 解決済みの問題の一覧を表示するには [Resolved Issues] をクリックします。 • 問題を無視するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Ignore] を選択します。 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定します。 3. [Confirm] をクリックします。 4. 無視された問題の一覧を表示するには [Ignored Issues] をクリックします。 <p>問題のタイプの詳細については、問題の表示と管理 (261 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 8 次の機能には、[Fabric Nodes] ダッシュレットを使用します。

[Networks Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Type]	オプション ([All]、[Fabric Control Plane]、[Fabric Border]、[Fabric Edge]、[Fabric WLC]、[Fabric AP]、[Extended Node]) を使用して、ファブリックノードタイプに基づいてテーブルをフィルタ処理します。
ファブリックサイトの正常性	次のオプションを使用して、ファブリックサイトの全体的な正常性スコアに基づいてテーブルをフィルタ処理します。 <ul style="list-style-type: none"> • [All] • [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のデバイス。 • [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のデバイス。 • [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のデバイス。 • [No Health] : 正常性データのないデバイス。
ファブリックノードテーブル	<p>選択したサイトのすべてのファブリックノードのデバイス情報を表形式で表示します。</p> <p>(注) 全体的な正常性スコアは、ファブリックサイト接続とファブリック インフラストラクチャの KPI メトリック正常性スコアの最小サブスコアです。</p> <p>[Name]、[Issue Type Count]、および [Fabric Role] 列には、ファブリック名、問題数、およびファブリックロール (エッジ、ボーダー、マップサーバーなど) が表示されます。</p> <p>[Device Fabric Site Health] の [Overall] 列で、正常性スコアの上にマウスカーソルを合わせます。全体の [Device Fabric Site Health] スコアが、すべての KPI メトリックの正常性とパーセンテージとともに表示されます。</p> <p>カーソルを [Fabric Site Connectivity]、[Fabric Control Plane]、および [Fabric Infrastructure] アイコンに合わせると、正常性スコアが表示されます。</p>
[Device 360]	<p>[Name] 列でデバイス名をクリックすると、デバイスの 360 度ビューが表示されます。</p> <p>[Device 360] には、デバイスの問題のトラブルシューティングに関する詳細情報が記載されています。</p>
 Export	デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。

[Networks Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none">  をクリックします。 オプションのリストが表示されます。 テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 [Apply] をクリックします。

トランジットおよびピアネットワークの正常性の監視

この手順を使用して、特定のトランジットネットワークの詳細を表示します。

ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：アシュアランス >。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

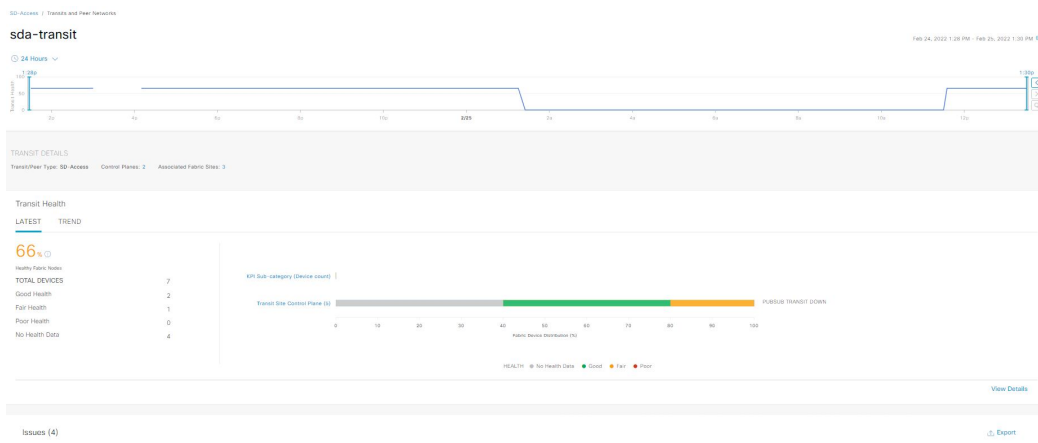
ステップ 2 [Overall Health] ダッシュボードで、[SD-Access] タブをクリックします。

[SD-Access Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 3 [Transit and Peer Network] テーブルで、トランジットの名前をクリックします。

ファブリックサイトの 360 度ビューを提供する [Transit Site 360] ウィンドウが表示されます。

図 24: トランジット 360



ステップ 4 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- a) ドロップダウンリストから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- b) [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
- c) [Apply] をクリックします。

ステップ 5 正常性タイムラインスライダを使用して、より詳細な時間範囲の正常性スコアや品質情報を確認します。タイムライン内でカーソルを合わせると、次の情報が表示されます。

[Transit Network Health] : 正常性スコアは、このサイトの正常なファブリックノードの割合です。コントロールプレーンのデバイスの正常性は含まれません。[Fabric Category Health] は、基礎となる KPI スコアの最小値です。

[Transit Site Control Plane] : トランジットの LISP セッションや Pub/Sub セッションなどの KPI サブカテゴリが一覧表示されます。トランジット正常性スコアが低い場合は、[View Device List] をクリックして、低いスコアの原因となっているデバイスおよび関連するダウンセッションのリストを表示します。ハイパーリンクされたデバイスの名前をクリックすると、デバイス情報が表示されます。

カテゴリに表示されるデータの範囲を変更するには、次のいずれかのタブをクリックします。

- [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。
- [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。

ステップ 6 タイムラインの下にある [Transit Health] エリアで、次の情報を確認します。




アイテム	説明
[LATEST]	<p>デフォルトで表示されます。2つのペインがあります。左側のペインには、ネットワークの正常性の概要スコアとデバイスの合計数が表示されます。右側のペインには、チャートが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Health Fabric Nodes] : 選択したサイトの正常な（良好な）ノードの割合。 • [Total Devices] : ネットワークデバイスの総数と、[Good Health]、[Fair Health]、[Poor Health]、および [No Health Data] 状態のデバイスの数。 • [Charts] : この色分けされたスナップショット ビュー チャートは、過去 5 分間のトランジット コントロール プレーンを示します。 <p>いずれかの色の上にカーソルを重ねると、その色に関連付けられたデバイスの正常性スコアと数が表示されます。</p> <p>チャート内のハイパーリンクされた [Transit Control Plane] をクリックしてサイドペインを開き、トランジットコントロールプレーンの次の KPI サブカテゴリを表示することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [BGP Session from Border to Transit Control Plane] • [LISP session from Border to Transit Control Plane] • [PubSub session from Border to Transit Control Plane] <p>チャートの色のセグメントにカーソルを合わせると、ファブリックノードの名前、問題数、ファブリックロール、ファブリックサイト、デバイスのトランジットの正常性などのファブリックノードの詳細を表形式で表示できます。</p>
[TREND]	<p>[TREND] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、ある時間範囲におけるデバイスのパフォーマンスを示しています。チャートにカーソルを重ねると、デバイスの合計数とその健全性が時系列で表示されます。</p> <p>チャートの色は、ネットワークデバイスの正常性を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● : 不良なネットワークデバイス。正常性スコアの範囲は 1 ~ 3 です。 ● : 中程度のネットワークデバイス。正常性スコアの範囲は 4 ~ 7 です。 ● : 良好なネットワークデバイス。正常性スコアの範囲は 8 ~ 10 です。 ● : 正常性データなし。正常性スコアは 0 です。

ステップ 7 [Top 10 Issue Types] エリアを使用して、次の情報を表示します。

問題
<p>対処する必要がある問題を表示します。問題は、タイムスタンプに基づいて一覧表示されます。直近の問題が最初にリストされます。</p> <p>問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。</p> <p>スライドインペインでは、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この問題を解決するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Resolve] を選択します。 2. 解決済みの問題の一覧を表示するには [Resolved Issues] をクリックします。 • 問題を無視するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Ignore] を選択します。 2. スライダで問題を無視する時間数を設定します。 3. [Confirm] をクリックします。 4. 無視された問題の一覧を表示するには [Ignored Issues] をクリックします。 <p>問題のタイプの詳細については、問題の表示と管理 (261 ページ) を参照してください。</p>




ステップ 8 次の機能には、[Associated Fabric Sites] ダッシュレットを使用します。

アイテム	説明
[Health]	<p>次のオプションを使用して、ファブリックサイトの全体的な正常性スコアに基づいてテーブルをフィルタ処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All] • [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のデバイス。 • [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のデバイス。 • [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のデバイス。 • [No Health] : 正常性データのないデバイス。
[Associated Fabric Sites] テーブル	<p>ファブリックテーブルに次の詳細を表示します。[Fabric Site]、[Health]、使用可能な [Connected Transit/ Peer Networks] の数、[Layer 3 Virtual Network]、および [Fabric Devices]。</p>

アイテム	説明
[Device 360]	[Name] 列でデバイス名をクリックすると、デバイスの 360 度ビューが表示されます。 [Device 360] ウィンドウには、デバイスの問題のトラブルシューティングに関する詳細情報が記載されています。
 Export	デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。
	テーブルに表示するデータをカスタマイズします。 1. 設定アイコン () をクリックします。 オプションのリストが表示されます。 2. [Table Settings] スライドインペインで、テーブルに表示するデータのトグルボタンを有効にします。 3. [Apply] をクリックします。

ステップ 9 次の機能には、[Fabric Nodes] ダッシュレットを使用します。

アイテム	説明
[Type]	オプション ([All]、[Transit Control Plane]、[Border]) を使用して、ファブリックノードタイプに基づいてテーブルをフィルタ処理します。
[Transit and Peer Network Health] テーブル	次のオプションを使用して、トランジットの全体的な正常性スコアに基づいてテーブルをフィルタ処理します。 <ul style="list-style-type: none"> • [All] • [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のデバイス。 • [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のデバイス。 • [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のデバイス。 • [No Health] : 正常性データのないデバイス。

アイテム	説明
[Fabric Node] テーブル	<p>選択したトランジットのすべてのファブリックノードのデバイス情報を表形式で表示します。</p> <p>(注) 全体的な正常性スコアは、トランジット サイト コントロールプレーンの KPI メトリック 正常性スコアの最小サブスコアです。</p> <p>[Name]、[Issue Type Count]、[Fabric Role]、および [Fabric Site] 列には、ファブリック名、問題数、ファブリックロール、およびファブリックサイトが表示されます。</p> <p>[Device Transit Health] の [Overall] 列で、正常性スコアの上にカーソルを合わせます。全体の [Device Transit Health] スコアが、すべての KPI メトリックの正常性とパーセンテージとともに表示されます。</p> <p>[Transit Site Control Plane] アイコンにカーソルを合わせると、正常性スコアが表示されます。</p>
[Device 360]	<p>[Name] 列でデバイス名をクリックすると、デバイスの 360 度ビューが表示されます。</p> <p>[Device 360] ウィンドウには、デバイスの問題のトラブルシューティングに関する詳細情報が記載されています。</p>
 Export	<p>デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p>
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設定アイコン () をクリックします。 2. [Table Settings] スライドインペインで、テーブルに表示するデータのトグルボタンを有効にします。 3. [Apply] をクリックします。

仮想ネットワークの正常性の監視

この手順を使用して、特定の仮想ネットワークの詳細を表示します。

- ステップ 1** [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [SD-Access] タブをクリックします。

[SD-Access health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 3 下にスクロールし、[Virtual Network] をクリックします。

ステップ 4 [Virtual Network] テーブルで、仮想ネットワークの名前をクリックします。

仮想ネットワークの 360 度ビューを提供する [Virtual Network 360] ウィンドウが表示されます。

図 25 : Virtual Network 360



ステップ 5 左上隅にある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
- [Apply] をクリックします。

ステップ 6 仮想ネットワークの正常性タイムラインスライダを使用して、より詳細な時間範囲の仮想ネットワークの正常性スコアや仮想ネットワークの品質情報を確認します。

タイムライン内でカーソルを合わせると、次の情報が表示されます。

[Virtual Network Health] : 正常性スコアは、VN における正常なデバイスの割合です。[VN Category Health] は、対応するサブカテゴリの KPI スコアの最小値です。[VN Services] には、[BGP Session from Border to Peer Node]、[Multicast (external RP)]、[Default Route Registration]、および [VN Control Plane] が含まれます。

VN 正常性スコアが低い場合は、[View Device List] をクリックして、低いスコアの原因となっているデバイスおよび関連するダウンセッションのリストを表示します。ハイパーリンクされたデバイスの名前をクリックすると、デバイス情報が表示されます。

時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。これにより、360 ウィンドウに表示されるデータのコンテキストが設定されます。

[Latest] および [Trend] タブをクリックすると、カテゴリに表示されるデータの範囲が切り替わります。

- [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。
- [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。

ステップ7 タイムラインの下にある [Virtual Network Health] エリアで、次の情報を確認します。




Virtual Network Health	
アイテム	説明
Latest	<p>デフォルトで表示されます。左側のペインには、仮想ネットワークの正常性の概要スコアとデバイスの合計数が表示されます。右側のペインには、チャートが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Healthy Fabric Nodes] : 選択したサイトの正常な（良好な）ノードの割合。 • [Total Devices] : ファブリックデバイスの総数と、[Good Health]、[Fair Health]、[Poor Health]、および [No Health Data] 状態のデバイスの数。 • [Charts] : この色分けされたスナップショットビューチャートには、[VN Control Plane] ([Pub-Sub Sessions Status]) や [VN Services] ([BGP Session from Border to Peer Node]、[Multicast-external RP] および [Default Route Registration]) などのサブカテゴリを持つ KPI が表示されます。 <p>いずれかの色の上にカーソルを重ねると、その色に関連付けられたデバイスの正常性スコアと数が表示されます。</p> <p>チャートに低い正常性スコア（赤またはオレンジ）が示されている場合、その低い正常性スコアに寄与した KPI がバーの隣に示されます。</p> <p>ハイパーリンクされたカテゴリをクリックして、詳細を含むサイドペインを開きます。</p>
Trend	<p>[Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、ある時間範囲におけるデバイスのパフォーマンスを示しています。チャートにカーソルを重ねると、デバイスの合計数とその健全性が時系列で表示されます。</p> <p>チャートの色は、ネットワークデバイスの正常性を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● : 不良なネットワークデバイス。ヘルススコアの範囲は1～3です。 ● : 中程度のネットワークデバイス。ヘルススコアの範囲は4～7です。 ● : 良好なネットワークデバイス。ヘルススコアの範囲は8～10です。 ● : 正常性データなし。ヘルススコアは0です。

ステップ8 [Top 10 Issue Types] エリアを使用して、次の情報を表示します。

問題
<p>対処する必要がある問題を表示します。問題は、タイムスタンプに基づいて一覧表示されます。直近の問題が最初にリストされます。</p> <p>問題をクリックするとスライドインペインが開き、問題の説明、影響、および推奨されるアクションなど、対応する詳細情報が表示されます。</p> <p>スライドインペインでは、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この問題を解決するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Resolve] を選択します。 2. 解決済みの問題の一覧を表示するには [Resolved Issues] をクリックします。 • 問題を無視するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドロップダウンリストから [Ignore] を選択します。 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定します。 3. [Confirm] をクリックします。 4. 無視された問題の一覧を表示するには [Ignored Issues] をクリックします。 <p>問題のタイプの詳細については、問題の表示と管理 (261 ページ) を参照してください。</p>

ステップ 9 次の機能には、[Virtual Network Devices] ダッシュレットを使用します。

[Virtual Network Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Type]	タイプに基づいてテーブルをフィルタ処理します。
[Virtual Network Health]	<p>次のオプションを使用して、仮想ネットワークの全体的な正常性スコアに基づいてテーブルをフィルタ処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All] • [Poor] : 正常性スコアが 1 ~ 3 のデバイス。 • [Fair] : 正常性スコアが 4 ~ 7 のデバイス。 • [Good] : 正常性スコアが 8 ~ 10 のデバイス。 • [No Health] : 正常性データのないデバイス。

[Virtual Network Devices] ダッシュレット	
アイテム	説明
[Virtual Network Devices] テーブル	<p>選択した項目のデバイス情報が表形式で表示されます。</p> <p>(注) 全体的な正常性スコアは、仮想ネットワーク接続とインフラストラクチャの KPI メトリック正常性スコアの最小サブスコアです。</p> <p>各種の正常性スコアとアイコンにカーソルを合わせると、追加情報が表示されます。 \</p>
[Device 360]	<p>[Name] 列でデバイス名をクリックすると、デバイスの 360 度ビューが表示されます。</p> <p>[Device 360] には、デバイスの問題のトラブルシューティングに関する詳細情報が記載されています。</p>
 Export	<p>デバイス情報を CSV ファイルにエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p>
	<p>テーブルに表示するデータをカスタマイズします。</p> <ol style="list-style-type: none">  をクリックします。 オプションのリストが表示されます。 テーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。 [Apply] をクリックします。

仮想ネットワークの正常性スコア

現在、マルチキャスト VN サービスが、VN 正常性スコアに関する唯一の KPI です。

仮想ネットワークの正常性スコア



第 11 章

サイト分析を使用したネットワークのモニターとトラブルシューティング

- [サイト分析について \(247 ページ\)](#)
- [サイト分析ダッシュボードのインサイト \(249 ページ\)](#)
- [サイト分析の表示 \(254 ページ\)](#)
- [サイト分析設定の構成 \(259 ページ\)](#)

サイト分析について

サイト分析は、ネットワークトラブルシューティングを可視化し、最も問題のあるサイト、建物、フロアまたは AP にドリルダウンすることを可能にします。KPI のしきい値を設定し、問題が発生する前の KPI ごとの傾向をモニターできます。

ネットワーク全体の問題について警告するために使用できる KPI しきい値を定義できます。KPI 値に基づいて、最もパフォーマンスの低いサイトを特定し、特定の建物とフロアにドリルダウンして問題を見つけることができます。オンボーディングの試行、オンボーディングの期間、ローミングの試行、ローミングの期間、カバレッジ、および接続速度に関する問題を分析できます。

[Site Analytics] ウィンドウは、パフォーマンスの問題を調査するときに、次の情報を得るのに役立ちます。

- **問題の内容** : KPI を使用して、問題の詳細を調べます。KPI カードには、KPI の名前、KPI の成功率、および最もパフォーマンスの低い参加者の名前とスコアが表示されます。KPI のしきい値に達している場合、KPI スコアは黒で表示されます。パーセンテージがしきい値未満の場合、スコアは赤で表示されます。

次のカテゴリを使用できます。

- **[Onboarding Attempts]** : 指定されたサイトの AP に正常にオンボーディングできるワイヤレスクライアントの割合を測定します。ワイヤレスクライアントがネットワークに正常に参加すると SLA が達成され、ワイヤレスクライアントがネットワークに正常に参加できないと SLA の達成に失敗します。たとえば、100 のクライアントがネットワークへのオンボーディングを試みたとします。50 のクライアントが正常にオンボー

ディングし、50がオンボーディングに失敗しました。この場合、[Onboarding Attempts]のKPI値は50%です。

- [Onboarding Duration] : 設定されたしきい値時間内にAPにオンボーディングできる、正常にオンボーディングされたワイヤレスクライアントの割合を測定します。ワイヤレスクライアントがオンボーディングに失敗した場合、メトリックにはカウントされません。ワイヤレスクライアントが正常にオンボーディングされたものの、設定されたSLA期間よりも時間がかかった場合、失敗としてカウントされます。たとえば、オンボーディングに成功した50のクライアントのうち、30のクライアントは10秒未満、20のクライアントは10秒以上かかったとします。この場合、[Onboarding Duration]のKPI値は60%です。
 - [Roaming Attempts] : 特定のサイト内に存在する1つのAPから別のAPに正常にローミングできるワイヤレスクライアントの割合を測定します。あるワイヤレスクライアントが正常にローミングして別のAP経由でネットワークに参加するとSLAが達成され、そのワイヤレスクライアントがネットワークに正常に参加できないと失敗と見なされます。たとえば、100のクライアントが一定時間内にローミングを試みたとして、50のクライアントが正常にローミングし、50のクライアントがローミングに失敗しました。この場合、[Roaming Attempts]のKPI値は50%です。
 - [Roaming Duration] : 設定されたしきい値時間内に、あるAPから別のAPに正常にローミングできるワイヤレスクライアントの割合を測定します。ワイヤレスクライアントが正常なローミングに失敗した場合、このメトリックにはカウントされません。ワイヤレスクライアントが正常にローミングしたものの、ローミング期間に設定されたしきい値よりも時間がかかった場合、失敗としてカウントされます。たとえば、正常にローミングした50のクライアントのうち、30のクライアントは10秒未満、20のクライアントは10秒以上かかったとします。この場合、[Roaming Duration]のKPI値は60%です。
 - [Connection Speed] : 設定されたしきい値レートより高い無線データレートのデータトラフィックがワイヤレスクライアントにある時間のパーセンテージを測定します。たとえば、正常にオンボーディングされた50のクライアントのコントローラによってサンプリングされたデータレートのうち、200のサンプルは11 Mbpsのしきい値より高く、50のサンプルは低かったとします。この場合、[Connection Speed]のKPI値は80%です。
 - [Coverage] : 設定されたしきい値より高いRSSI値のデータトラフィックがワイヤレスクライアントにある時間のパーセンテージを測定します。たとえば、コントローラによってサンプリングされた50の正常にオンボーディングされたクライアントのRSSI値のうち、200のサンプルはしきい値の-72 dBmを超えましたが、50のサンプルはそれよりも低かったとします。この場合、[Coverage]のKPI値は80%です。
- 時間 : 時間範囲設定 (🕒 24 Hours ▼) をクリックして、KPI、タイムラインスライダ、およびヒートマップで使用する期間を指定します。
 - 場所 : サイトレベルから建物、フロア、デバイスレベルへとドリルダウンします。

- ヒートマップ内の赤または緑の色で、パフォーマンスの低いサイトや建物、およびそれらに対応する KPI 値を簡単に識別できます。緑は KPI のしきい値が満たされていることを示し、赤は KPI が満たされていないことを示します。
- 建物レベルにドリルダウンすると、低い KPI スコアの原因となったいくつかの主要指標を確認できます。
- 正常性ステータスとデバイスの詳細を示すフロアヒートマップでアクセスポイントを表示します。
- 特定のフロアにあるアクセスポイントのリストを、各アクセスポイントの特定の KPI スコアおよびクライアント数とともに表示します。
- アクセスポイントをクリックして、その [Device 360] ウィンドウを表示します。

サイト分析ダッシュボードは、アシュアランスヘルスダッシュボードの [AI Analytics] メニューオプションから利用できます。

[AI Analytics] メニューオプションでは、AI ネットワーク分析ツールにもアクセスできます。これらのツールについては、[ネットワークのトレンドを観察し洞察を得る \(393 ページ\)](#) を参照してください。

サイト分析ダッシュボードのインサイト

サイト分析は、ワイヤレスネットワークの KPI をモニターするのに役立ちます。KPI は、オンボーディングの試行、オンボーディングの期間、ローミングの試行、ローミングの期間、接続速度、およびカバレッジです。これらの KPI ごとにパフォーマンスのしきい値を設定できます。その後、[Assurance] > [Health] > [Overall] 正常性ダッシュボードまたは [Assurance] > [Health] > [AI Analytics] > [Site Analytics] ダッシュボードで KPI をモニターできます。

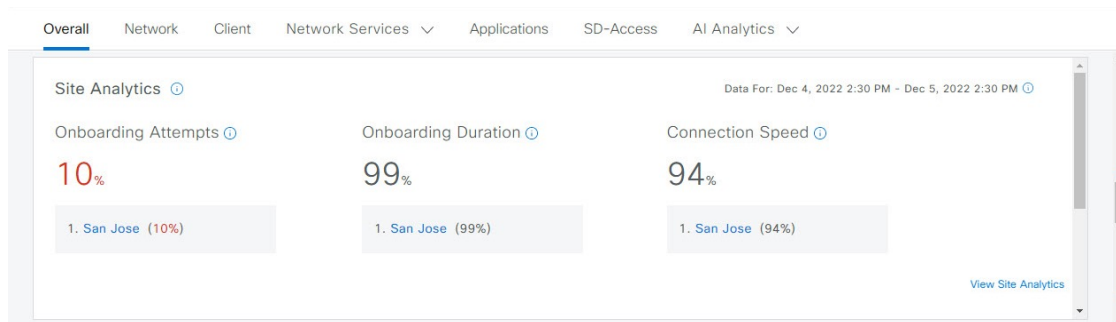
[Overall] 正常性ダッシュボードには、KPI のスコアを表示する [Site Analytics] ダッシュレットがあります。これらの KPI のいずれかのパフォーマンスが設定したしきい値を下回った場合、パフォーマンスが最も低いサイトが表示されます。[Site Analytics] ダッシュボードから、フロアおよびデバイスレベルにドリルダウンして、問題の発生場所、発生時期、根本原因を正確に特定できます。

次の例を検討して、問題の内容、発生時期、発生場所を判定しましょう。

オンボーディング試行 KPI を 85% に設定します。この KPI は、100 回のオンボーディング試行のうち少なくとも 85 回が成功した場合、少なくともこの KPI カテゴリでサイトがパフォーマンス基準を満たしていることを意味します。

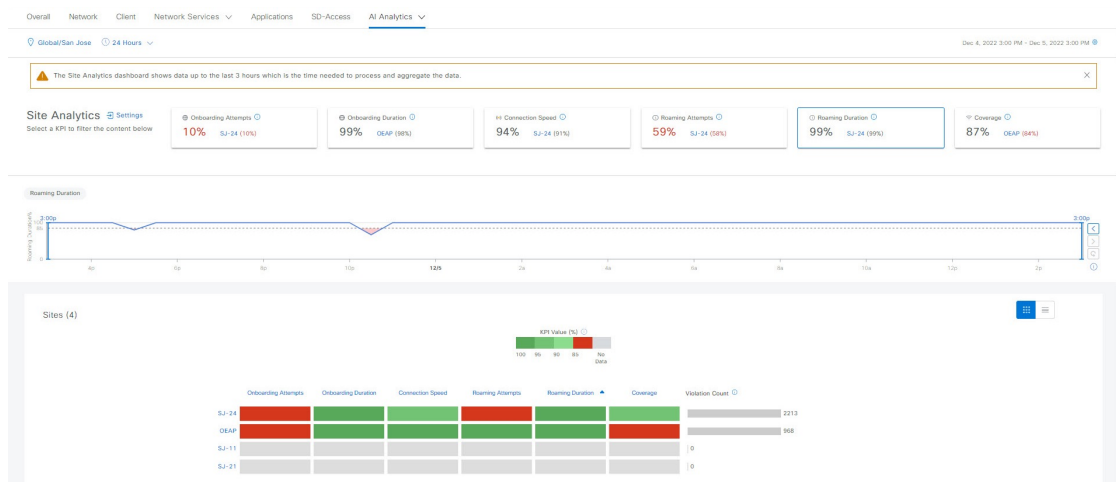
[Global] ドロップダウンリスト ([Global](#)) が [Global] に設定されている [Overall] 正常性ダッシュボードの [Site Analytics] ダッシュレットは、サンノゼのサイトが最もパフォーマンスの低いサイトであり、オンボーディングの試行が成功したのは 10% のみであることを示しています。このパーセンテージは、100 回のオンボーディング試行のうち 10 回が成功したことを意味します。KPI の計算方法の詳細を確認するには、KPI 名の横にある [i] アイコンにカーソルを合わせます。

図 26: [Site Analytics] ダッシュレットを表示する [Overall] 正常性ダッシュボード



何が影響を受けており、何が失敗の原因であるかを調べるには、サイトの名前である [San Jose] をクリックします。[Site Analytics] ダッシュボードが表示されます。[Global] ドロップダウンリスト (📍 Global) に、範囲として [Global/San Jose] が表示されていることに注目してください。サンノゼのサイトにある建物の分析結果が表示されます。表示には各 KPI のパフォーマンスが最も低い建物が含まれます。

図 27: タイムラインスライダとヒートマップグラフィックの表示によるサイト分析

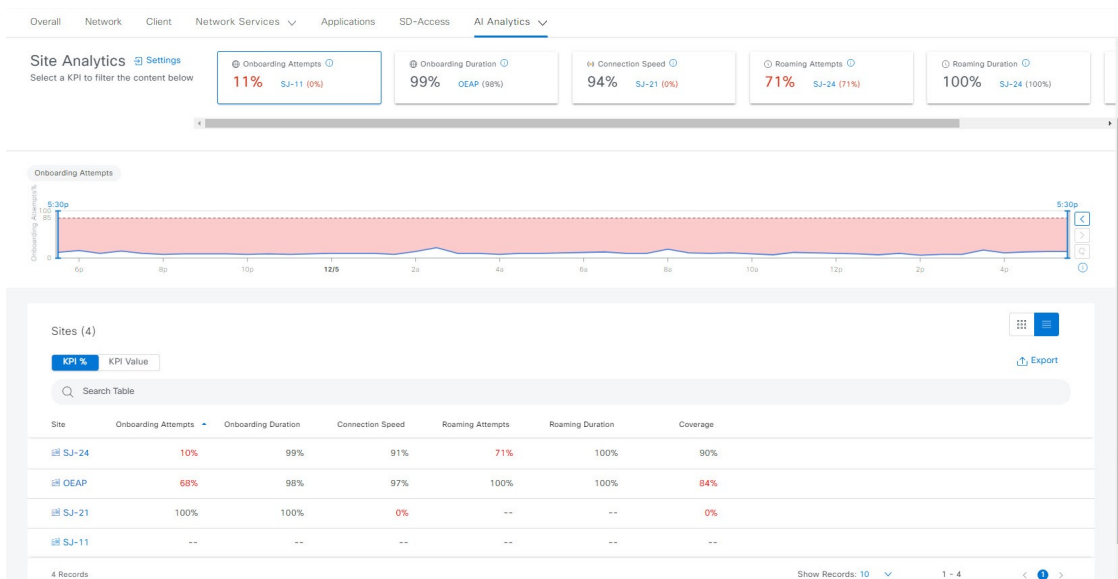


タイムラインスライダの基準値は 85% で、トレンドラインには 24 時間 (時間範囲設定 (🕒 24 Hours) で設定) の間に成功したオンボーディング試行のパーセンテージが表示されています。

表示からすると、サンノゼのサイトにオンボーディングの問題があります。では、具体的にどこで問題が発生しているのでしょうか。タイムラインスライダの下には、色分けされたデータを表示するヒートマップがあります。緑色のバーは、KPI 値のパーセンテージに基づく成功の度合いを示します。濃い緑色は成功率が高いことを示しており、薄い緑色は成功率が低いことを示しています。赤色のバーは達成できていない KPI を示しており、灰色のバーはデータがないことを示しています。[Violation Count] は、建物に関する KPI エラー数の未処理データを示します。

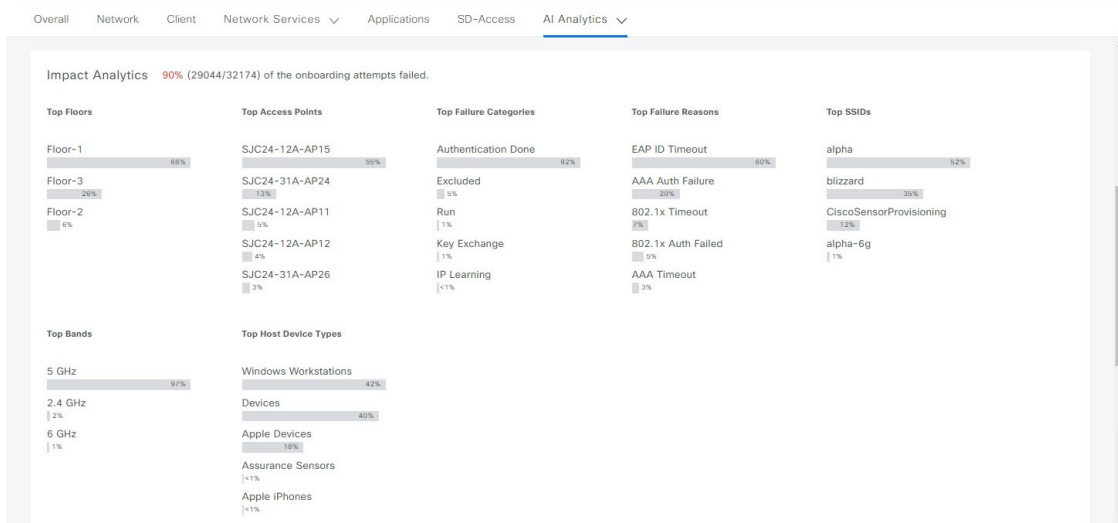
赤色のバーの上にカーソルを重ねると、サイトと特定のKPIに関する情報が表示されます。または、[List View] トグルボタン (☰) をクリックすると、すべての建物と KPI の詳細が表示されます。

図 28: タイムラインスライダとヒートマップテーブルの表示によるサイト分析



表示されたデータによると、SJ-24 の建物でオンボーディング試行の失敗が最も多く発生しています。影響分析を表示するには、建物の名前（この場合は [SJ-24]）をクリックします。

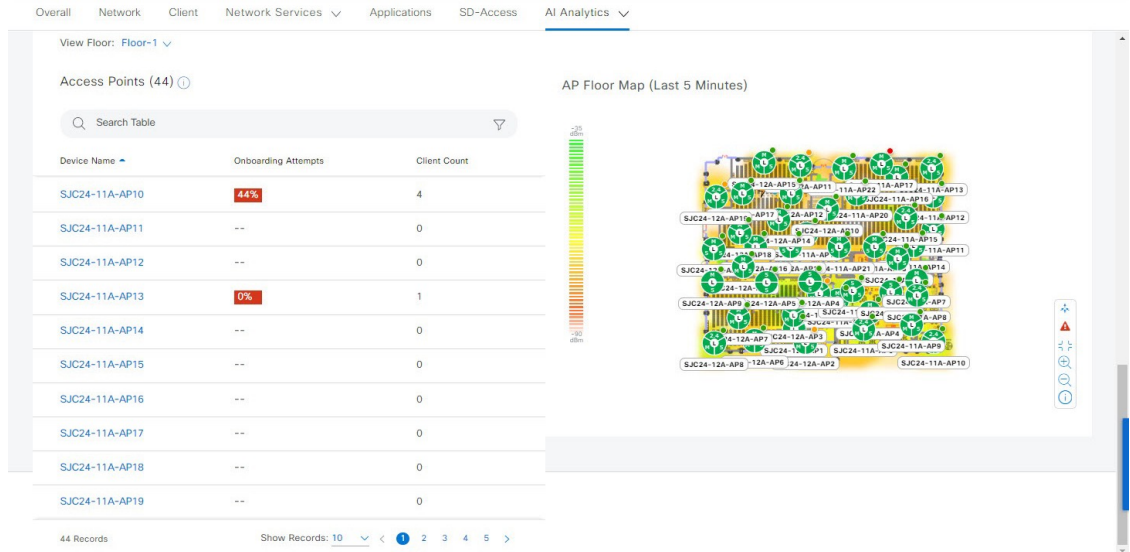
図 29: 影響分析の表示による建物のサイト分析



フロアの [Site Analytics] ダッシュボードが表示されます。このダッシュボードの [Impact Analysis] ダッシュレットには、上位のフロア、上位のアクセスポイント、上位の障害カテゴリ、上位の障害理由といったさまざまな情報が表示されます。

下にスクロールして AP フロアマップを表示します。

図 30: アクセスポイントテーブルとフロアヒートマップの表示によるフロアのサイト分析



[View Floor] ドロップダウンリストには、選択されているフロアが表示されます。

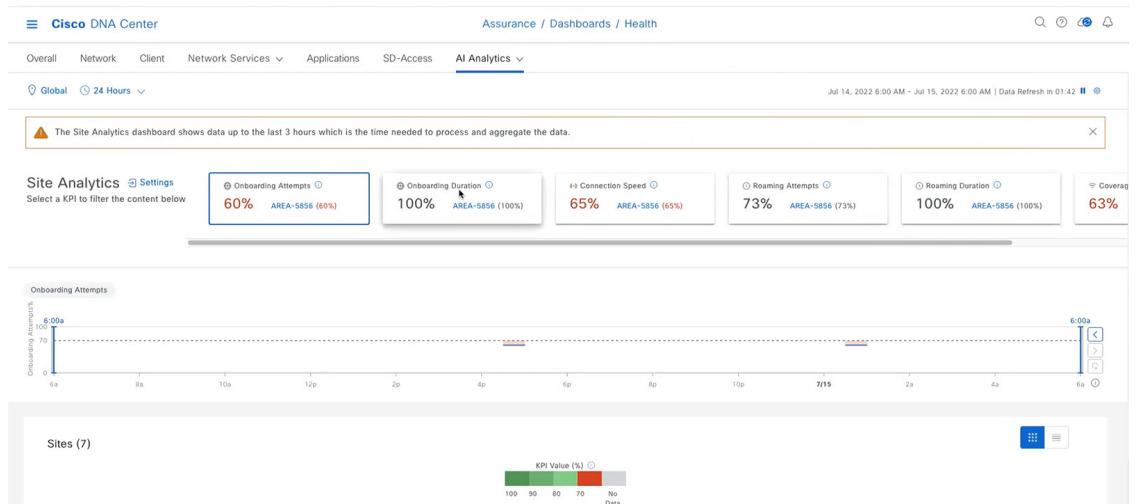
このテーブルには、選択されているフロアのデバイス、オンボーディング試行の成功率、およびオンボーディングに成功したクライアントの数が表示されます。

フロアヒートマップで、APにカーソルを合わせると、そのAPに関する詳細が表示されます。ヒートマップの右側にツールバーがあります。ヒートマップのアイコンに慣れていない場合は、[i] アイコンをクリックしてマップの凡例を表示します。

テーブル内のデバイスをクリックすると、そのデバイスの [Device 360] ウィンドウが表示されます。たとえば、オンボーディングの成功率が 45% の [SJC24-11A-AP10] デバイスをクリックします。[Device 360] に、問題のトラブルシューティングに役立つ非常に詳細な情報が表示されます。詳細については、[デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング \(107ページ\)](#) を参照してください。

この部分は現在非表示にしています。

デフォルトでは、サイト分析正常性ダッシュボードには、過去 24 時間に取得されたサイト分析のグローバルビューが表示されます。



いくつかの重要な KPI の値を設定してモニターできます。たとえば、ネットワーク管理者は、オンボーディング試行 KPI を 85% に設定できます。つまり、ネットワークに接続しているすべてのクライアントの成功率は 85% である必要があります。85% 未満の場合は、そのパーセンテージが表示されます。

このダッシュボードには、[Overall] 正常性ダッシュボードの [Site Analytics] ダッシュレットからアクセスするか、[Assurance] > [Health] > [AI Analytics] > [Site Analytics] を選択してウィンドウに直接移動することでアクセスできます。

たとえば、あるサイトのワイヤレスネットワークでとりわけ多くのオンボーディング試行の失敗が発生していることに気付くかもしれません。[View Site Analytics] をクリックして [Site Analytics] ウィンドウに直接移動することで、該当するサイトの詳細を確認できます。

[Global] ドロップダウンリスト (📍 Global) を [Global] に設定すると、[Site Analytics] ウィンドウにサイトレベルの情報が表示されます。

- **何を：** KPI カードを使用して、発生した問題の詳細を調べます。KPI カードには、KPI の名前、集計されたスコア、および最もパフォーマンスの低い参加者の名前とスコアが表示されます。KPI のしきい値に達している場合、KPI スコアは 100% です。KPI カードをクリックすると、タイムラインスライダーとヒートマップにその詳細が表示されます。
- **いつ：** 時間範囲設定 (🕒 24 Hours) をクリックして、KPI カード、タイムラインスライダー、およびヒートマップに表示するデータの時間範囲を指定します。
- **どこで：** [Global] ドロップダウンリスト (📍 Global) をクリックして、サイト、建物、またはフロアを選択します。選択に関する情報は、KPI カード、タイムラインスライダー、ヒートマップに反映されます。

サイトが表示され、該当する KPI 値がヒートマップの色で示されます。緑のさまざまな色合いは、KPI 値のパーセンテージに基づく成功の度合いを示します。赤は機能不全の KPI を示し、グレーはデータがないことを示します。

KPI (カラム) の横にある下矢印をクリックして、行を昇順または降順に並べ替えます。順序は違反数に基づきます。

KPI にカーソルを合わせると、KPI に関する追加の詳細が表示されます。

KPI をクリックしてさらにドリルダウンし、それに関する追加の詳細を表示します。

サイト分析の表示

サイト、建物、フロアのオンボーディング、ローミング、接続速度、ワイヤレスカバレッジに関する問題をモニターおよびトラブルシューティングします。

始める前に

- サイト分析データを収集するには、AI Network Analytics を有効にする必要があります。
[Enable AI Network Analytics] リンクをクリックして、このシステム設定を構成できる [Cisco AI Analytics] ウィンドウに直接移動します。詳細については、[Cisco AI Network Analytics の設定 \(84 ページ\)](#) を参照してください。

AI Network Analytics が有効になっていない場合、アシュアランスではサンプルデータを含むダッシュレットの例が表示されます。

- サイト分析設定の構成。詳細については、[サイト分析設定の構成 \(259 ページ\)](#) を参照してください。

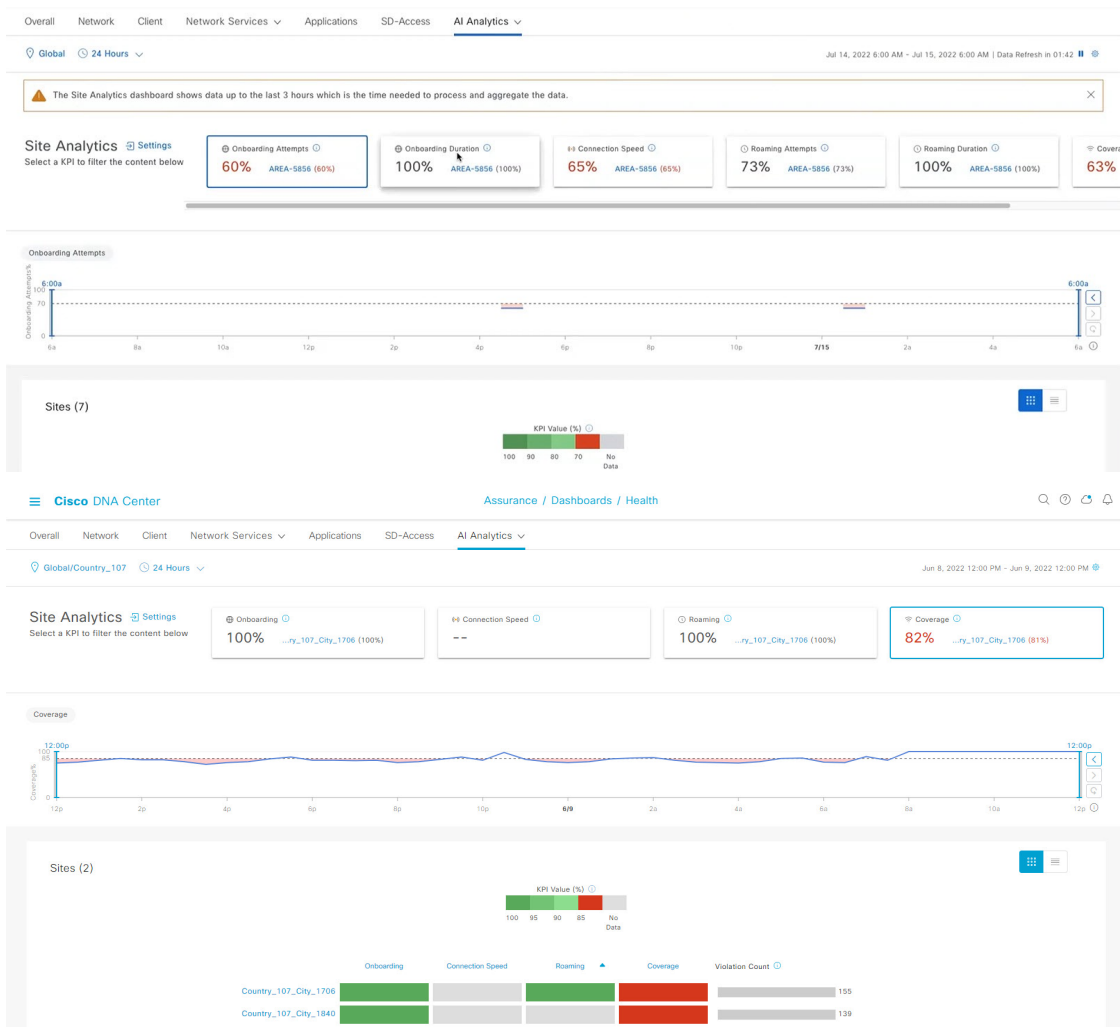
ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。

[Overall health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [AI Analytics] > [Site Analytics] を選択します。

[Site Analytics health] ダッシュボードが表示されます。表示される情報は、[Global] ドロップダウンリスト (📍 Global) で選択した場所によって異なります。[Global] を選択すると、ネットワーク内のすべてのサイトが表示されます。特定のサイトを選択すると、そのサイト内の建物すべてが表示されます。特定の建物を選択すると、その建物内のフロアすべてが表示されます。このガイドでは、サイト分析の説明を [Global] ロケーションから始めます。

図 31 : [Site Analytics Health] ダッシュボード



ステップ3 次の機能には、トップのメニューバーを使用します。

アイテム	説明
Global [Location] ペイン	<ul style="list-style-type: none"> Global をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。
時間範囲	過去3時間、24時間、または7日間のデータを表示できます。

ステップ4 ([Global] またはサイトレベルの) [Site Analytics] 領域で、次のいずれかを実行します。

- KPI カテゴリをクリックします。タイムラインスライダが更新され、選択した KPI が反映されます。

各 KPI カテゴリの表示には、集計された KPI 値（パーセンテージ）と、各カテゴリで最もパフォーマンスが低いサイトまたは建物が含まれます。次のカテゴリを使用できます。

- **[Onboarding Attempts]** : 指定されたサイトの AP に正常にオンボーディングできるワイヤレスクライアントの割合を測定します。ワイヤレスクライアントがネットワークに正常に参加すると SLA が達成され、ワイヤレスクライアントがネットワークに正常に参加できないと SLA の達成に失敗します。たとえば、100 のクライアントがネットワークへのオンボーディングを試みたとします。50 のクライアントが正常にオンボーディングし、50 がオンボーディングに失敗しました。この場合、**[Onboarding Attempts]** の KPI 値は 50% です。
 - **[Onboarding Duration]** : 設定されたしきい値時間内に AP にオンボーディングできる、正常にオンボーディングされたワイヤレスクライアントの割合を測定します。ワイヤレスクライアントがオンボーディングに失敗した場合、メトリックにはカウントされません。ワイヤレスクライアントが正常にオンボーディングされたものの、設定された SLA 期間よりも時間がかかった場合、失敗としてカウントされます。たとえば、オンボーディングに成功した 50 のクライアントのうち、30 のクライアントは 10 秒未満、20 のクライアントは 10 秒以上かかったとします。この場合、**[Onboarding Duration]** の KPI 値は 60% です。
 - **[Roaming Attempts]** : 特定のサイト内に存在する 1 つの AP から別の AP に正常にローミングできるワイヤレスクライアントの割合を測定します。あるワイヤレスクライアントが正常にローミングして別の AP 経由でネットワークに参加すると SLA が達成され、そのワイヤレスクライアントがネットワークに正常に参加できないと失敗と見なされます。たとえば、100 のクライアントが一定時間内にローミングを試みたとします。50 のクライアントが正常にローミングし、50 のクライアントがローミングに失敗しました。この場合、**[Roaming Attempts]** の KPI 値は 50% です。
 - **[Roaming Duration]** : 設定されたしきい値時間内に、ある AP から別の AP に正常にローミングできるワイヤレスクライアントの割合を測定します。ワイヤレスクライアントが正常なローミングに失敗した場合、このメトリックにはカウントされません。ワイヤレスクライアントが正常にローミングしたものの、ローミング期間に設定されたしきい値よりも時間がかかった場合、失敗としてカウントされます。たとえば、正常にローミングした 50 のクライアントのうち、30 のクライアントは 10 秒未満、20 のクライアントは 10 秒以上かかったとします。この場合、**[Roaming Duration]** の KPI 値は 60% です。
 - **[Connection Speed]** : 設定されたしきい値レートより高い無線データレートのデータトラフィックがワイヤレスクライアントにある時間のパーセンテージを測定します。たとえば、正常にオンボーディングされた 50 のクライアントのコントローラによってサンプリングされたデータレートのうち、200 のサンプルは 11 Mbps のしきい値より高く、50 のサンプルは低かったとします。この場合、**[Connection Speed]** の KPI 値は 80% です。
 - **[Coverage]** : 設定されたしきい値より高い RSSI 値のデータトラフィックがワイヤレスクライアントにある時間のパーセンテージを測定します。たとえば、コントローラによってサンプリングされた 50 の正常にオンボーディングされたクライアントの RSSI 値のうち、200 のサンプルはしきい値の -72 dBm を超えましたが、50 のサンプルはそれよりも低かったとします。この場合、**[Coverage]** の KPI 値は 80% です。
- サイトや建物とそのパフォーマンスに関する情報を表示するには、KPI カテゴリでサイト名または建物名をクリックします。


- タイムラインスライダで、ある KPI カテゴリについての情報を表示するには、その KPI カテゴリをクリックします。

ステップ 5 積み上げ棒グラフでタイムラインスライダを使用して、選択した時間範囲における選択した KPI に関する情報を表示します。

タイムラインスライダを使用すると、次の情報が表示されます。


- タイムラインと積み上げ棒グラフの横にある点線は、構成されたしきい値を表します。
- タイムライン内でマウスカーソルを合わせると、特定の時間範囲における KPI パーセンテージが表示されます。
- グラフにカーソルを合わせると、特定の時間範囲の KPI 情報が表示されます。たとえば、[Onboarding Attempts] は次の色コードを使用して表されます。
 - ● : 正常な試行の合計数
 - ● : 失敗した試行の合計数
- 時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。これにより、タイムラインの下に表示される KPI データのコンテキストが設定されます。
- タイムラインの右にある矢印ボタンを使用して、最大 30 日分のデータを表示します。

ステップ 6 [Site] 領域で、次のヒートマップビューを使用します。


項目	説明
 ヒートマップビュー	このトグルボタンをクリックすると、対応する KPI 値のデータがヒートマップビューに表示されます。ドロップダウンリストから [Hierarchical Site] または [Building] ビューを選択して、対応する建物またはサイトレベルのヒートマップデータを表示します。 ヒートマップデータは色分けされています。緑色のバーは、KPI 値のパーセンテージに基づく成功の度合いを示します。赤色のバーは達成できていない KPI を示しており、灰色のバーはデータがないことを示しています。 [Violation Count] は、特定のサイトや建物に関する KPI エラー数の未処理データを示します。 KPI (カラム) の横にある下矢印をクリックして、KPI を昇順または降順に並べ替えます。順序は違反数に基づきます。

項目	説明
[Summary] ダッシュレット	サイト、建物、フロア、AP などの影響を受けるエンティティの数を表示できます。色分けされたチャートには、KPI に基づいてエンティティの分布とインサイトが表示されます。[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。

ステップ 7 [Site] 領域で、次のバブルビューを使用します。

項目	説明
 バブルビュー	<p>このトグルボタンをクリックすると、対応する KPI 値のデータがバブルビューに表示されます。ドロップダウンリストから [Hierarchical Site] または [Building] ビューを選択して、対応する建物レベルまたはサイトレベルのヒートマップデータを表示します。</p> <p>[Count] ドロップダウンリストを使用して、[AP Count] または [Client Count] に基づいてバブルチャートに表示される KPI データをフィルタ処理します。</p> <p>バブルチャートのデータは色分けされています。緑色の円は、KPI 値のパーセンテージに基づく成功の度合いを示します。赤色の円は、失敗した KPI を示します。灰色の円は、データがないことを示します。</p> <p>円のサイズは、接続されているクライアントと AP の数を表します。小さな円には少数のクライアントが、大きな円には多数のクライアントが含まれます。</p> <p>バブルチャートにカーソルを合わせると、詳細が表示されます。</p> <p>[Summary] ダッシュレットに、サイト、建物、フロア、AP などの影響を受けるエンティティの数を表示できます。色分けされたチャートには、KPI に基づいてエンティティの分布とインサイトが表示されます。[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。</p>

ステップ 8 [Site] 領域で、次のテーブルビューを使用します。

項目	説明
 テーブル ビュー	このトグルボタンをクリックすると、KPI カテゴリの特定のサイトまたは建物に関するデータが表形式で表示されます。ドロップダウンリストから [Hierarchical Site] または [Building] ビューを選択して、各 KPI に対応する建物レベルまたはサイトレベルのデータを表示します。 CSV ファイルにテーブルをエクスポートするには、[Export] をクリックします。
[Summary] ダッシュレット	サイト、建物、フロア、AP などの影響を受けるエンティティの数を表示できます。色分けされたチャートには、KPI に基づいてエンティティの分布とインサイトが表示されます。[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。

ステップ 9 [Site Analytics] 領域またはヒートマップで建物名をクリックすると、建物レベルのビューにドリルダウンします。

建物レベルのビューには、次の付加的な領域が含まれます。

- [Impact Analysis] : 表示される情報は、選択した KPI カテゴリによって異なります。たとえば、[Onboarding Attempts] を選択した場合、[Impact Analysis] 領域の情報はオンボーディング試行の失敗に関連したものになります。この情報には、上位のアクセスポイント、上位の障害カテゴリ、上位の SSID、上位の帯域などが含まれます。

- [Access Points] テーブル : [View Floor] ドロップダウンリストのフロアに対応する AP、オンボーディング試行、およびクライアント数が表示されます。各 AP のクライアント数は、選択した時間範囲の間にネットワークに接続した個別のクライアントの数です。

特定のデバイスの [Device 360] ビューを表示するには、デバイス名をクリックします。

- [AP Floor Map (Last 5 Minutes)] : [View Floor] ドロップダウンリストで選択したフロアに関して、ヒートマップには、既存の AP とそのステータスを示すフロアマップビューが表示されます。

ヒートマップで、AP にカーソルを合わせると、その AP に関する詳細情報が表示されます。ヒートマップの右側には、ワイヤレスコントローラのステータスを表示したり、ズームインおよびズームアウトしたりできるツールバーがあります。ヒートマップのアイコンに慣れていない場合は、[i] アイコンをクリックしてマップの凡例を表示します。

サイト分析設定の構成

この手順では、主要なクライアント評価指標のしきい値を構成する方法を示します。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス > サイト分析の設定**
[Site Analytics Settings] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 しきい値の [KPI Value %] を変更するには、次の手順を実行します。

- a) [Edit] をクリックします。
- b) スライドインペインで、サイト評価指標の目標のパーセンテージを入力します。このしきい値は、任意のサイトの KPI データポイントの正常な割合を定義します。緑 (GOOD) の目標は 100% で、変更することはできません。赤 (POOR) の目標は 0 から 95 までの数値でなければなりません。これらの目標値は、すべてのクライアント評価指標に影響します。

ステップ 3 [KPI Name] 列で、KPI 名のリンクをクリックします。

KPI のスライドインペインが表示されます。

ステップ 4 KPI のしきい値を設定します。

- 定量的 KPI しきい値の場合は、良好な正常性スコアと見なすしきい値をカスタマイズできます。
- デフォルト設定に戻すには、[View Default Setting] をクリックします。

ステップ 5 [Apply] をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。



第 12 章

問題の表示と管理

- [問題について \(261 ページ\)](#)
- [機械推論エンジンについて \(262 ページ\)](#)
- [VLAN に関連するレイヤ 2 ループの問題について \(262 ページ\)](#)
- [未解決の問題を表示 \(263 ページ\)](#)
- [MRE を使用した有線クライアントの問題のトラブルシューティング \(279 ページ\)](#)
- [解決済みの問題の表示 \(282 ページ\)](#)
- [無視された問題の表示 \(284 ページ\)](#)
- [問題の解決または無視 \(286 ページ\)](#)
- [無線にアクティビティなしの問題のトリガー \(288 ページ\)](#)
- [自動問題解決 \(288 ページ\)](#)
- [グローバルな問題の設定の管理 \(292 ページ\)](#)
- [ユーザー定義問題の設定の管理 \(293 ページ\)](#)
- [カスタム問題の設定の管理 \(294 ページ\)](#)
- [問題の通知の有効化 \(296 ページ\)](#)
- [アシュアランス、Cisco AI Network Analytics、および MRE の問題 \(299 ページ\)](#)

問題について

アシュアランスシステムガイド付きとガイドなしの両方のトラブルシューティングを提供します。アシュアランスは多くの問題に対してシステムガイド付きアプローチを提供します。このアプローチでは、複数の重要業績評価指標 (KPI) が関連付けられています。また、テストやセンサーからの結果に基づき問題の根本原因が特定された後に、考えられる解決策が提供されます。データの監視ではなく、問題点を浮き彫りにすることに重点が置かれています。アシュアランスでは、非常に頻繁にレベル 3 サポートエンジニアの作業が実行されます。

Cisco DNA Center では、Cisco AI Network Analytics を使用して AI 駆動型の問題を表示およびトラブルシューティングできます。Cisco AI Network Analytics は、高度な人工知能 (AI) や機械学習 (ML) テクノロジーを基盤としたクラウドベースの学習プラットフォームを活用して、問題のインテリジェントな検出と分析を実現します。異常を検知すると、根本原因を特定してトラブルシューティングを容易にします。

Cisco AI Network Analytics 次のタイプのクラウドベースの AI 駆動型の問題を検出できます。

- **接続の問題**（オンボーディングの問題）：過剰な時間、過剰な障害回数、過剰な関連付け時間、過剰な関連付け障害回数、過剰な認証時間、過剰な認証障害回数、過剰な DHCP 時間、過剰な DHCP 障害回数。
- **アプリケーションエクスペリエンスに関する問題**：無線スループットの合計、メディアアプリケーションのスループット、クラウドアプリケーションのスループット、コラボレーションアプリケーションのスループット、およびソーシャルアプリケーションのスループット。

機械推論エンジンについて

機械推論エンジン（MRE）は、ネットワーク自動化エンジンであり、人工知能（AI）を使用して複雑なネットワーク運用ワークフローを自動化します。完全に自動化された推論エンジンに人間の知識と専門知識をカプセル化し、複雑な根本原因の分析、問題や脆弱性の検出、および手動または自動による是正処置の実行を支援します。MRE は、シスコのネットワークングエキスパートによって構築された、クラウドホスト型のナレッジベースを実装しています。

MRE を使用して、有線クライアントの問題、レイヤー 2 ループの問題、および PoE の問題をトラブルシューティングできます。問題のリストについては、[MRE の問題（319 ページ）](#) を参照してください。

手順については、[MRE を使用した有線クライアントの問題のトラブルシューティング（279 ページ）](#)、[レイヤ 2 のループ問題に関与するインスタンスの詳細（272 ページ）](#)、[PoE の問題に関する問題インスタンスの詳細（276 ページ）](#) を参照してください。

VLAN に関連するレイヤ 2 ループの問題について

レイヤ 2 のループ問題は、1 つ以上の VLAN パスで転送ループが形成されたときに発生します。この場合、リンクとデバイスが最大キャパシティに達するまで、パケットは転送され、影響を受けるパスで無限に増幅されます。ブロードキャストストームが発生すると、レイヤ 2 ネットワーク全体は即時にシャットダウンします。MRE の次の機能を使用することで、レイヤ 2 のループ問題をトラブルシューティングできます。

- ループに関係すると考えられる VLAN とポートが表示されます。
- ループに関係しているデバイスが表示されます。



(注) レイヤー 2 ループのスケールに関する制約事項は、次のとおりです。

- VLAN 数は 10 です。
- VLAN ごとのデバイス数は 30 です。



重要 現在、MRE では、アンマネージド ネットワーク デバイス、仮想マシン、または Cisco DNA Center で認識されるトポロジには含まれないエンティティが原因で発生するレイヤ 2 のループについては、根本原因分析が実行されません。

未解決の問題を表示

次のカテゴリに分類される未解決の問題をすべて表示するには、次の手順を実行します。

- **しきい値ベースの問題**：アシュアランスによって検出された問題。
- **駆動型の問題**：Cisco AI Network Analytics によって検出された問題。これらの問題は、特定のネットワーク環境の予測基準からの乖離度に基づいてトリガーされます。

Cisco DNA Center で Cisco AI Network Analytics アプリケーションをインストールおよび設定している場合は、次のタイプのクラウドベース AI 駆動型に関する問題を確認できます。

- **接続の問題**（オンボーディングの問題）：過剰な時間、過剰な障害回数、過剰な関連付け時間、過剰な関連付け障害回数、過剰な認証時間、過剰な認証障害回数、過剰な DHCP 時間、過剰な DHCP 障害回数。



(注) 接続の問題が表示されるようにするには、AP がサイトに適切に割り当てられていることを確認してください。

- **アプリケーションエクスペリエンスに関する問題**：無線スループットの合計、メディアアプリケーションのスループット、クラウドアプリケーションのスループット、コラボレーションアプリケーションのスループット、およびソーシャルアプリケーションのスループット。



(注) アプリケーションエクスペリエンスに関する問題を表示するには、ワイヤレスコントローラで Application Visibility and Control (AVC) が有効になっていることを確認してください。スループットの問題では、AVC データに基づいて基準化と異常検出を行います。

- **レイヤ 2 ループの問題と PoE の問題**：アシュアランスによって検出された、MRE ワークフローを使用してトラブルシューティングできる問題。[機械推論エンジンについて \(262 ページ\)](#) を参照してください。

始める前に

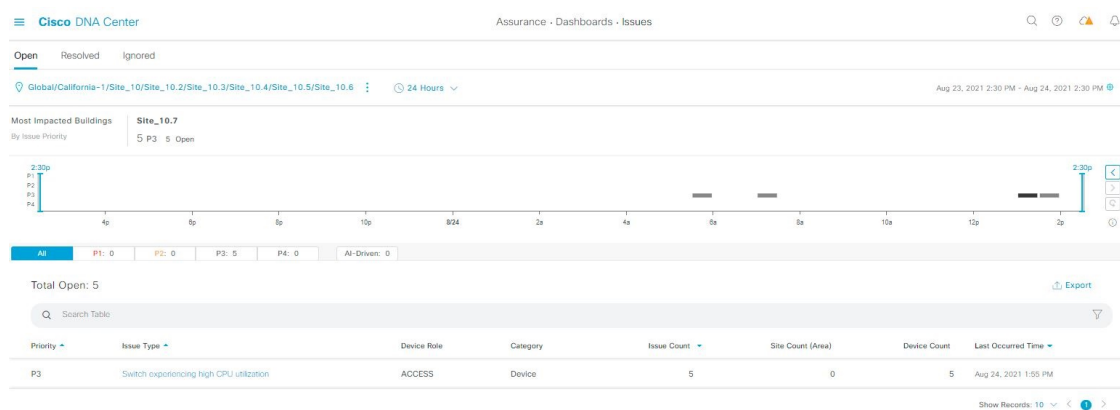
- 人工知能（AI）および機械学習（ML）テクノロジーを使用してインテリジェントな問題の検出と分析を行う AI 駆動型クラウドベースの問題を表示するには、Cisco AI Network Analytics データ収集が設定されていることを確認します。Cisco AI Network Analytics の設定（84 ページ）を参照してください。
- syslog メッセージを表示するため、syslog が設定されていることを確認します。『Cisco Digital Network Architecture Center ユーザー ガイド』で「テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定（82 ページ）」を参照してください。









ステップ 1 次のいずれかを実行します。

- Cisco DNA Center ホームページの **アシュアランス [Summary]> [Critical Issues]** エリアで、**[View Details]** を選択します。
- 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]> [Issues and Events]** の順に選択します。


[Open Issues] ダッシュボードが表示され、次の情報が示されます。

図 32 : [Open Issues] ダッシュボード




[Open Issues] ダッシュボード	
アイテム	説明
 Global	<ul style="list-style-type: none"> 上部のメニューバーで  をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。 ロケーションアイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して [Sites] テーブルを表示します。 ドロップダウンリストから [Hierarchical Site View] または [Building View] を選択します。選択した項目に基づいて、テーブルが更新されます。 [Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Open Issues] ダッシュボードに表示されます。
 [Time Range] の設定	<p>選択した時間範囲に基づく情報をウィンドウに表示できます。デフォルトは [24 Hours] です。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [24 Hours] ドロップダウンリストで、時間範囲 ([3 hours]、[24 Hours]、または [7 days]) を選択します。 [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。 [Apply] をクリックします。 これにより、タイムラインの範囲が設定されます。
タイムラインスライダ	<p>より詳細な時間範囲を指定できます。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。</p> <p>色は、問題のプライオリティを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> : P1 : P2 : P3 および P4 <p>(注) 色の明度は重要性（そのプライオリティ レベルで発生した問題数の多寡）を示します。たとえば、薄い黄色は、濃い黄色よりも（未解決の）P2 問題が少ないことを示します。</p>
Most Impacted Areas	<p>問題のプライオリティに基づいて最も影響を受けるエリアに関する情報が表示されます。ハイパーリンクされたロケーションをクリックすると、問題が発生した建物とフロアにドリルダウンします。</p>

ステップ 2 [All]、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、および [AI-Driven] のいずれかのタブをクリックすると、[Issue Type] テーブルにそのカテゴリの問題のリストが表示されます。

[Open Issue] ウィンドウの [Issue Type] 表	
アイテム	説明
Total Open	アクションを必要とする未解決の問題の合計数が表示されます。 [Total Open] の値は、選択したタブに応じて変わります。[All] (デフォルト)、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、および [AI-Driven] のいずれかを選択できます。
Priority	問題タイプの優先度レベル (事前割り当てされたもの)。
Issue Type	問題のタイプ。 (注) AI 駆動型の問題の場合、問題のタイプの前に  アイコンが表示されます。
Device Role	問題が検出されたデバイスに割り当てられたロール。ロールは、[Access]、[Core]、[Distribution]、[Border Router]、または [Unknown] です。
Category	問題の種類が分類されるカテゴリ (接続、可用性、オンボード、使用状況など)。
Issue Count	この種類の問題が発生した回数。
Site Count (Area)	このタイプの問題が発生したサイトの数。
Device Count	このタイプの問題の影響を受けたデバイスの数。
Last Occurred Time	この問題が発生した最新の日付と時刻。

ステップ 3 [Issue type] テーブルで、問題のタイプをクリックします。

最初のスライドインペイン [Issue Instances] に、その問題タイプに関するすべての問題が次の情報とともに一覧表示されます。

[Issue Instance] (最初のスライドインペイン)	
アイテム	説明
Open Issues	その問題タイプで未解決の問題の数。
Area	問題の影響を受けるビルディングとフロアの数。
[Device]	問題の影響を受けるデバイスの数。
[Actions] ドロップダウン リスト	個別に問題を解決または無視することも、一度に大量の問題を解決または無視することもできます。 問題の解決または無視 (286 ページ) を参照してください。
Issue	問題の説明。 管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン () をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。
Site	問題の影響を受けたサイト、ビルディング、またはフロア。

[Issue Instance] (最初のスライドインペイン)	
アイテム	説明
[Device]	問題の影響を受けたデバイス。デバイス名をクリックして、[Device 360] ウィンドウを開きます。
Device Type	問題の影響を受けたデバイスのタイプ。
Issue Count	この種類の問題が発生した回数。
Last Occurred Time	問題が発生した日付と時刻。
Last Updated Time	この問題の最終更新日時。
Updated By	この問題を更新したエンティティ名。

ステップ 4 [Issue Instances] スライドインペインの [issue] 列で、問題をクリックします。

2 番目のスライドインペイン [Issue Instance Details] に、問題に関する具体的な詳細が表示されます。問題に応じて、説明と推奨されるアクションが表示されます。これらの問題の詳細については、次のセクションを参照してください。

- [AI 駆動型の問題に関するインスタンスの詳細 \(267 ページ\)](#)
- [AP 切断の問題についての \[Issue Instance Details\] \(271 ページ\)](#)
- [レイヤ 2 のループ問題に関するインスタンスの詳細 \(272 ページ\)](#)
- [PoE の問題に関する問題インスタンスの詳細 \(276 ページ\)](#)


AI 駆動型の問題に関するインスタンスの詳細




(注) [Issue Instance Details] スライドインペインは、[Issue Instance Details] のワークフローの一部です。「[未解決の問題を表示 \(263 ページ\)](#)」のステップ 4 を参照してください。

AI 駆動型の問題が発生すると、[Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン) に次の情報が表示されます。

[Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
説明 (Description)	問題の説明。

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
[Status] ドロップダウンリスト	<p>問題のステータスを変更できます。次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するには、[Status] ドロップダウンメニューで [Resolve] を選択します。 問題の報告を停止するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。 スライダで問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。
注アイコン (📎)	<p>管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📎) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。</p>
[Summary] エリア	<p>問題の簡単な要約。ここには、影響を受ける無線、無線の場所、問題が発生した日時、問題の場所などの情報が表示されます。</p>
[Impacted Summary for this Network]	<p>問題によって影響を受けた場所と、影響を受けたクライアント数に関する情報が表示されます。</p>
[Feedback] アイコン	<p> アイコンをクリックして、このページの情報が役に立ったかどうかについてコメントを入力し、[Submit] をクリックしてください。</p>

[Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
Problem	<p>問題の簡単な説明と、実際の KPI 値が予測した正常な動作からどの程度乖離しているかを視覚的に示すグラフが表示されます。</p> <p>デフォルトでは、次の図に示すように、グラフは問題発生の前後 6 時間にズームインされます。</p> <p>図 33: 問題のチャート</p> <p>AI 駆動型の問題のチャートでは、詳細がさまざまな色で表されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑色の帯域：機械学習に基づいて予測されたネットワークの正常な動作。 • 青色の実線：実際の KPI 値。 • 垂直の赤色の線またはバー：問題を示します。青色の線（実際の KPI 値）が緑色の帯域（予測される正常な動作）の外側になると、問題が発生します。 • 垂直の黄色のバー：類似のイベントが発生したことを示します。 <p>グラフの上にカーソルを移動すると、選択した時点での KPI 値、予測下限値、予測上限値などの同期情報が表示されます。</p>
Impact	<p>問題の影響を受ける接続済みクライアント、AP、デバイス、およびアプリケーションに関する情報が表示されます。</p> <p>過剰なオンボーディング時間と失敗、過剰な DHCP、アソシエーション、または認証時間と失敗については、[Impacted Clients] タブと [Top 10 Impacted APs] タブが表示されます。</p> <p>合計無線スループットおよびアプリケーションスループット（クラウド、コラボレーション、メディアおよびソーシャル）については、[Impacted Clients] タブ、[Device Breakout] タブ、[Applications TX / RX] タブが表示されます。</p> <p>タブをクリックすると、チャートとチャートの下の表が更新されます。</p>

[Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
Root Cause Analysis	<p>次の図に示すように、問題とその問題の原因として考えられるネットワーク関連の原因がチャートに表示されます。</p> <p>図 34: 根本原因の分析チャート</p> <p>過剰なオンボーディング時間と失敗については、[Network Causes] タブ、[Failed Distribution] タブ、[Failed Percentage] タブ、[Failed Count] タブが表示されます。</p> <p>過剰な DHCP、アソシエーション、または認証時間については、[Network Causes] タブ、[Top Impacted APs] タブ、[Top Impacted Times] タブが表示されます。</p> <p>過剰な DHCP、アソシエーション、または認証の失敗については、[Network Causes] タブ、[Top Impacted APs] タブ、[Top Impacted Failures] タブが表示されます。</p> <p>合計無線スループットおよびアプリケーションスループット（クラウド、コラボレーション、メディアおよびソーシャル）については、[Network Causes] タブが表示されます。</p> <p>タブをクリックすると、下のチャートが更新されます。</p> <p>追加された KPI のグラフを表示するには、[KPI]  アイコンをクリックし、KPI を選択してから、[Apply] をクリックします。</p>
Suggested Actions	この問題を解決するために実行できるアクションが表示されます。

AP 切断の問題についての [Issue Instance Details]



(注) [Issue Instance Details] スライドインペインは、[Issue Instance Details] のワークフローの一部です。「未解決の問題を表示 (263 ページ)」のステップ 4 を参照してください。

AP 切断の問題が発生すると、[Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン) に次の情報が表示されます。

AP 切断の [Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
[Status] ドロップダウンリスト	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するには、[Status] ドロップダウンメニューで [Resolve] を選択します。 問題の報告を停止するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。 スライダで問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。
注アイコン (📎)	管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📎) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。
[Insights]	問題の簡単な要約として、影響を受けるスイッチ、問題の発生日時、スイッチの場所などの情報が表示されます。
[Impact Summary]	影響を受けるサイト、クライアント、および AP の数が表示されます。
[Problem Details]	<p>次の詳細を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題に関連するデバイスの説明 (既知の場合)。 関連する問題 (ある場合) とその問題の詳細へのリンク。 影響を受ける AP、その場所と電力の情報、切断の理由など、問題に関する詳細。 スイッチとそれに接続されている隣接デバイスを含む物理ネットワーク。
[Impact Details]	影響を受ける AP に接続されたワイヤレスクライアントとその場所が一覧表示されます。

AP 切断の [Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
Suggested Actions	この問題を解決するために実行できるアクションが表示されま す。

レイヤ2のループ問題に関するインスタンスの詳細



- (注) [Issue Instance Details] スライドインペインは、[Issue Instance Details] のワークフローの一部で
す。「未解決の問題を表示 (263 ページ)」のステップ 4 を参照してください。
- レイヤ2のループ問題と機械推論エンジンについては、「機械推論エンジンについて (262 ペー
ジ)」を参照してください。




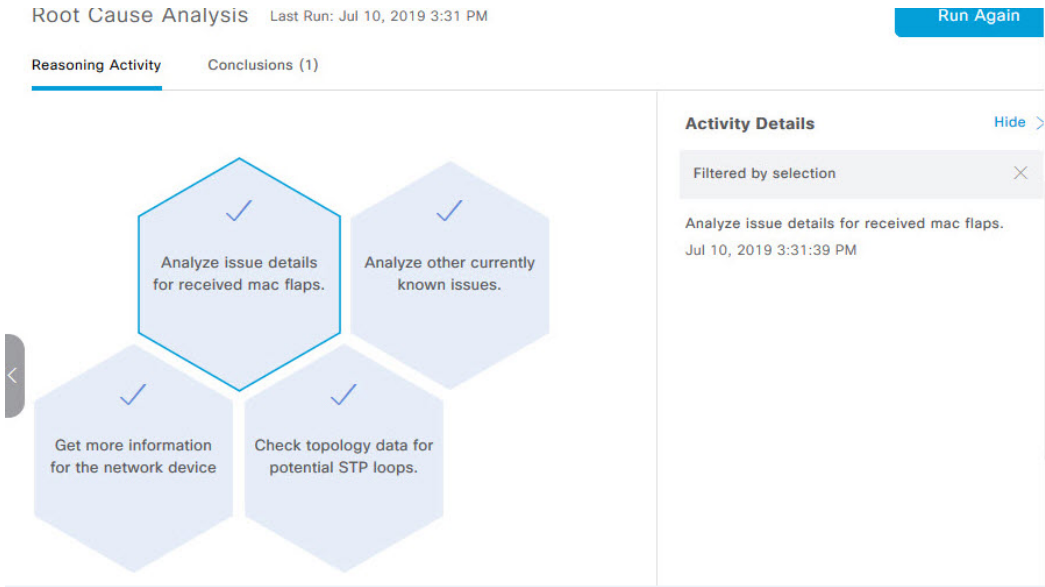
- (注) レイヤー 2 ループのスケールに関する制約事項は、次のとおりです。
- VLAN 数は 10 です。
 - VLAN ごとのデバイス数は 30 です。

機械推論をサポートするレイヤー 2 のループ問題については、[Issue Instance Details] スライド
インペインに次の情報が表示されます。

[Issue Instance Details] (2 番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
[Status] ドロップダウン リスト	問題のステータスを変更できます。次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 問題を解決するには、[Status] ドロップダウン メニューで [Resolve] を選択します。 • 問題の報告を停止するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。 2. スライダで問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。
注アイコン (📎)	管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📎) をクリックし、 [Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。
Summary	問題の概要。デバイス、ロール、時間、場所、考えられる根本原因などの情報が含まれます。 ループしている可能性のある VLAN やポートなどの初期アセスメントも提供されます。

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
Problem Details	<p>問題についての簡単な説明と以下の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• [Relevant Events] ドロップダウンリスト：ループ中に発生したイベントが一覧表示されます。イベントをクリックすると、サイドペインに詳細情報が表示されます。• [Potential Loop Details] ドロップダウンリスト：ループ情報（デバイス、ロール、ループ状態のポート、デュプレックスモード、ループに関与しているVLANなど）が表示されます。

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
Root Cause Analysis	

アイテム	説明
	<p>機械推論エンジン（MRE）により、複雑な根本原因を分析して、是正措置を提案できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Run Machine Reasoning] をクリックすると、MRE によるトラブルシューティングが開始されます。トラブルシューティングが完了すると、[Run Machine Reasoning] ポップアップダイアログボックスが表示されます。 このポップアップダイアログボックスで、[View Details] をクリックします。[Root Cause Analysis] エリアが表示されます。デフォルトでは [Conclusions] タブが開き、根本原因分析の詳細が表示されます。 [Conclusions] エリアで [View Relevant Activities] をクリックすると、アクティビティの詳細が表示されます。このアクティビティは、根本原因分析の各ステップで使用されたコマンドを示します。  アイコンをクリックして、このページの情報が役に立ったかどうかについてフィードバックを入力し、[Submit] をクリックしてください。 [Reasoning Activity] タブをクリックすると、MRE がどのようにしてその結論に到達したのかがわかります。各推論アクティビティは、次の図に示すように、七角形のブロックで表示されます。各七角形ブロックをクリックすると、右側のペインにアクティビティの詳細が表示されます。 <p>実行中の推論アクティビティをキャンセルするには、[Stop] をクリックします。</p> <p>(注) チェックマークは、ステップが完了したことを示します。</p> <p>図 35: 推論アクティビティ</p> 

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
	6. MRE を再実行する場合は、[Run Again] をクリックします。
[Topology] アイコン	✳ アイコンをクリックすると、ループが発生したネットワークセグメントのトポロジが表示されます。

PoEの問題に関する問題インスタンスの詳細




(注) [Issue Instance Details] スライドインペインは、[Issue Instance Details] のワークフローの一部です。「未解決の問題を表示 (263 ページ)」のステップ 4 を参照してください。

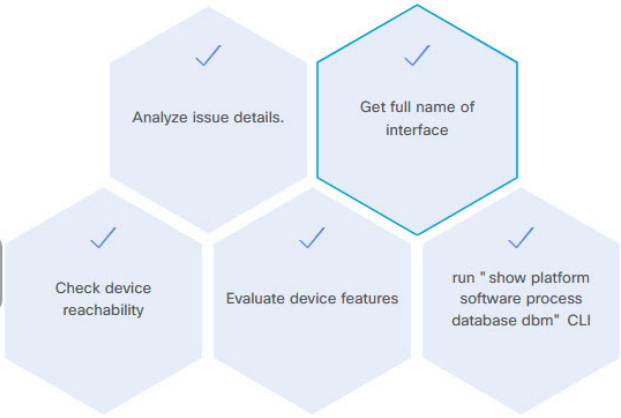
機械推論をサポートする PoE の問題については、[Issue Instance Details] スライドインペインに次の情報が表示されます。

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
[Status] ドロップダウンリスト	問題のステータスを変更できます。次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するには、[Status] ドロップダウンメニューで [Resolve] を選択します。 問題の報告を停止するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。 スライダを使用して、問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。
注アイコン (📎)	管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📎) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。
Summary	問題の概要。デバイス、ロール、時間、場所、考えられる根本原因などの情報が含まれます。
Problem Details	問題の簡単な説明と次の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none"> [Event Types] タブ：発生したイベントのタイプのタブが含まれます。イベントのタブをクリックすると、そのイベントタイプに関するエラーのリストが表示されます。 [Errors]：各イベントタイプに関して発生したエラー。エラーは、クリックした [Event Types] タブに基づいて更新されます。 [Detailed Information]：エラーをクリックすると、そのエラーに関する追加情報が表示されます。

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)

アイテム	説明
Root Cause Analysis	

[Issue Instance Details] (2番目のスライドインペイン)	
アイテム	説明
	<p>機械推論エンジン (MRE) により、複雑な根本原因を分析して、是正措置を提案できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Run Machine Reasoning] をクリックすると、MRE によるトラブルシューティングが開始されます。トラブルシューティングが完了すると、[Machine Reasoning Completed] ダイアログボックスが表示されます。 2. このポップアップダイアログボックスで、[View Details] をクリックします。[Root Cause Analysis] エリアが表示されます。デフォルトでは [Conclusions] タブが開き、根本原因分析の詳細が表示されます。 3. [Conclusions] エリアで [View Relevant Activities] をクリックすると、アクティビティの詳細が表示されます。このアクティビティは、根本原因分析の各ステップで使用されたコマンドを示します。 4.  アイコンをクリックして、このページの情報が役に立ったかどうかについてフィードバックを入力してください。 5. [Reasoning Activity] タブをクリックすると、MRE がどのようにしてその結論に到達したのかがわかります。各推論アクティビティは、次の図に示すように、七角形のブロックで表示されます。各七角形ブロックをクリックすると、右側のペインに [Activity Details] が表示されます。 <p>実行中の推論アクティビティをキャンセルするには、[Stop] をクリックします。</p> <p>(注) チェックマークは、ステップが完了したことを示します。</p> <p>図 36: 推論アクティビティ</p>

アイテム	説明
	<div data-bbox="472 344 1503 961"> <p>Root Cause Analysis Last Run: Oct 12, 2020 12:43 PM Run Again ⓘ</p> <p>Reasoning Activity Conclusions (1)</p>  <p>Activity Details Hide ></p> <p>Filtered by selection ✕</p> <ul style="list-style-type: none"> Get full name of interface Oct 12, 2020 12:43:53 PM ⓘ Get full name of interface Oct 12, 2020 12:43:53 PM ⓘ Get full name of interface Oct 12, 2020 12:43:53 PM ⓘ Get full name of interface Oct 12, 2020 12:43:53 PM ⓘ Get full name of interface Oct 12, 2020 12:43:53 PM ⓘ Get full name of interface Oct 12, 2020 12:43:53 PM ⓘ </div> <p>6. MRE を再実行する場合は、[Run Again] をクリックします。</p>

MRE を使用した有線クライアントの問題のトラブルシューティング

アシュアランスによって検出された有線クライアントの問題を表示し、MRE ワークフローを使用してトラブルシューティングするには、次の手順を使用します。MRE をサポートする有線クライアントの問題のリストについては、[MRE の問題 \(319 ページ\)](#) を参照してください。

始める前に

MRE ナレッジベースが最新のナレッジパックで更新されていることを確認します。[機械推論 ナレッジベースの更新 \(87 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[アシュアランス](#) >。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Client] タブをクリックします。

[Client Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 3 [Wired Clients] サマリーエリアで、[View Details] をクリックしてスライドインペインを開きます。

ステップ 4 スライドインペインの [Wired Clients] チャートで、[Authentication] または [DHCP] をクリックします。

[Authentication] をクリックすると、チャートの下に [Top Authentication Failure Reason]、[Top Location]、[Top Switch]、[Top Host Device Type] の情報が表示されます。認証に失敗したクライアントのリストを示すテーブルも表示されます。

[DHCP] をクリックすると、チャートの下に [Top DHCP Failure Reason]、[Top Location]、[Top Switch]、[Top Host Device Type] の情報が表示されます。テーブルも表示されます。

ステップ 5 次のいずれかを実行します。


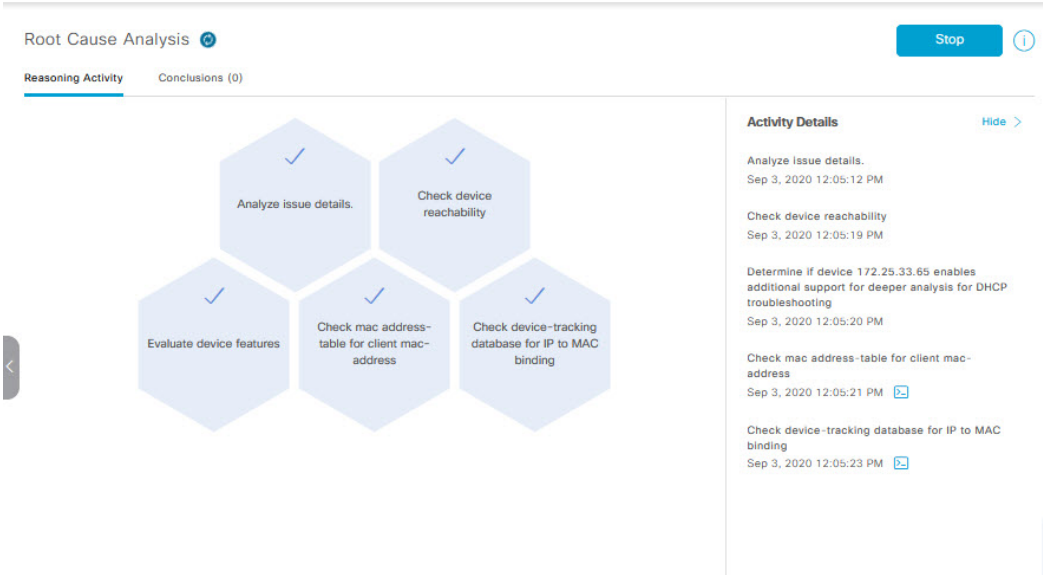
- SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザーの場合は、検索ツールにクライアントの MAC アドレスを入力します。
- テーブルの [Identifier] 列で、ハイパーリンクされた識別子をクリックします。

クライアントの [Client 360] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [Client 360] ウィンドウの [Issues] ダッシュレットで、認証または DHCP の問題をクリックします。

[Issue Details] ウィンドウに、次の情報が表示されます。

問題の詳細	
アイテム	説明
[Status] ドロップダウンリスト	<p>問題の現在のステータスが表示されます。このステータスは変更できます。次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 問題を解決するには、[Status] ドロップダウン メニューで [Resolve] を選択します。 • 問題の報告を停止するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。
注アイコン (📎)	<p>管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📎) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。</p>
Summary	<p>問題の概要。デバイス、ロール、時間、場所、考えられる根本原因などの情報が含まれます。</p>

問題の詳細	
アイテム	説明
Root Cause Analysis	<p>機械推論エンジン（MRE）により、複雑な根本原因を分析して、是正措置を提案できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Run Machine Reasoning] をクリックすると、MRE によるトラブルシューティングが開始されます。トラブルシューティングが完了すると、[Machine Reasoning Completed] ダイアログボックスが表示されます。 このダイアログボックスで、[View Details] をクリックします。[Root Cause Analysis] エリアが表示されます。デフォルトでは [Conclusions] タブが開き、根本原因分析の詳細が表示されます。 [Conclusions] エリアで [View Relevant Activities] をクリックすると、アクティビティの詳細が表示されます。  アイコンをクリックして、このページの情報が役に立ったかどうかについてフィードバックを入力し、[Submit] をクリックしてください。 [Reasoning Activity] タブをクリックすると、MRE がどのようにしてその結論に到達したのかがわかります。各推論アクティビティは、次の図に示すように、七角形のブロックで表示されます。各七角形ブロックをクリックすると、右側のペインにアクティビティの詳細が表示されます。 <p>実行中の推論アクティビティを停止するには、[Stop] をクリックします。</p> <p>(注) チェックマークは、ステップが完了したことを示します。</p> <p>図 37: 推論アクティビティ</p>  <ol style="list-style-type: none"> MRE を再実行する場合は、[Run Again] をクリックします。

解決済みの問題の表示

次のカテゴリに分類される解決済みの問題をすべて表示するには、次の手順を実行します。

- しきい値ベースの問題：アシュアランスによって検出された問題。
- AI 駆動型の問題：Cisco AI Network Analyticsによって検出された問題。これらの問題は、特定のネットワーク環境の予測基準からの乖離度に基づいてトリガーされます。

始める前に

AI 駆動型の解決済みの問題を表示するには、Cisco AI Network Analytics データ収集が設定されていることを確認してください。Cisco AI Network Analytics の設定 (84 ページ) を参照してください。





ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance]>[Issues and Events]の順に選択します。

[Open Issues] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Status] ドロップダウンリストから、[Resolve] を選択します。


[Resolved Issues] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Resolved Issues] ウィンドウには、次の情報が表示されます。

[Resolved Issues] ウィンドウ	
アイテム	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 上部のメニューバーで  Global をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。 • ロケーションアイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して [Sites] テーブルを表示します。 • ドロップダウンリストから [Hierarchical Site View] または [Building View] を選択します。選択した項目に基づいて、テーブルが更新されます。 • [Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Resolved Issues] ダッシュボードに表示されます。

[Resolved Issues] ウィンドウ	
アイテム	説明
[24 Hours] ドロップダウンリスト	<p>選択した時間範囲に基づく情報をウィンドウに表示できます。デフォルトは [24 Hours] です。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [24 Hours] ドロップダウンリストで、時間範囲 ([3 hours]、[24 Hours]、または [7 days]) を選択します。 [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。 [Apply] をクリックします。 <p>これにより、タイムラインの範囲が設定されます。</p>
タイムラインスライダ	より詳細な時間範囲を指定できます。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。

ステップ 4 [All]、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、および [AI-Driven] のいずれかのタブをクリックすると、[Issue Type] テーブルにそのカテゴリの問題のリストが表示されます。

[Resolved Issue] ウィンドウの [Issue Type] 表	
アイテム	説明
[Total Resolved]	<p>解決済みの問題の合計数を示します。</p> <p>[Total Resolved] 値は、選択したタブに応じて変わります。[All] (デフォルト)、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、および [AI-Driven] のいずれかを選択できます。</p>
Priority	問題タイプの優先度レベル (事前割り当てされたもの)。
Issue Type	<p>問題のタイプ。</p> <p>(注) AI 駆動型の問題の場合、問題のタイプの前に  アイコンが表示されません。</p>
Device Role	問題が検出されたデバイスに割り当てられたロール。ロールは、[Access]、[Core]、[Distribution]、[Border Router]、または [Unknown] です。
Category	問題の種類が分類されるカテゴリ (接続、可用性、オンボード、使用状況など)。
Issue Count	この種類の問題が発生した回数。
Site Count (Area)	このタイプの問題が発生したサイトの数。
Device Count	このタイプの問題の影響を受けたデバイスの数。
Last Occurred Time	この問題が発生した最新の日付と時刻。

ステップ 5 [Issue type] テーブルで、問題のタイプをクリックします。

最初のスライドインペイン [Issue Instances] に、その問題タイプに関するすべての解決済み問題と、サイト、デバイス、デバイスタイプ、オカレンス、最後のオカレンスのタイムスタンプ、問題を更新したエンティティ名などの情報が表示されます。管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📝) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。

問題状況がなくなった場合、システムによる自動解決として処理され、[Updated By] 列には [System] と表示されます。自動問題解決 (288 ページ) を参照してください。

ステップ 6 [Issue Instances] スライドインペインの [issue] 列で、問題をクリックします。

2 番目のスライドインペイン [Issue Instance Details] に、問題に関する詳細 (問題を解決したエンティティ名とタイムスタンプ) が表示されます。問題に応じて、説明と推奨されるアクションが表示されます。管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📝) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。

無視された問題の表示

無視されたとしてマークされているすべての問題を表示するには、次の手順を実行します。無視された問題は、次のカテゴリに分類されます。

- しきい値ベースの問題：アシュアランスによって検出された問題。
- AI 駆動型の問題：Cisco AI Network Analytics によって検出された問題。これらの問題は、特定のネットワーク環境の予測基準からの乖離度に基づいてトリガーされます。

始める前に

AI 駆動型の無視された問題を表示するには、Cisco AI Network Analytics データ収集が設定されていることを確認します。Cisco AI Network Analytics の設定 (84 ページ) を参照してください。





ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Issues and Events] の順に選択します。

[Open Issues] ダッシュボードが表示されます。


ステップ 2 [Status] ドロップダウンリストから、[Ignored] を選択します。

[Ignored Issues] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Ignored Issues] ウィンドウには、次の情報が表示されます。

[Ignored Issues] ウィンドウ	
アイテム	説明
 Global	<ul style="list-style-type: none"> 上部のメニューバーで  Global をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。 ロケーションアイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して [Sites] テーブルを表示します。 ドロップダウンリストから [Hierarchical Site View] または [Building View] を選択します。選択した項目に基づいて、テーブルが更新されます。 [Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Ignored Issues] ダッシュボードに表示されます。
[24 Hours] ドロップダウンリスト	<p>選択した時間範囲に基づく情報をウィンドウに表示できます。デフォルトは [24 Hours] です。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [24 Hours] ドロップダウンリストで、時間範囲 ([3 hours]、[24 Hours]、または [7 days]) を選択します。 [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。 [Apply] をクリックします。 これにより、タイムラインの範囲が設定されます。
タイムラインスライダ	より詳細な時間範囲を指定できます。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。

ステップ 4 [All]、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、および [AI-Driven] のいずれかのタブをクリックすると、[Issue Type] テーブルにそのカテゴリの問題のリストが表示されます。

[Ignored Issues] ウィンドウの [Issue Type] 表	
アイテム	説明
Total Ignored	<p>無視された問題の合計数が表示されます。</p> <p>[Total Ignored] の値は、選択したタブに応じて変わります。[All] (デフォルト)、[P1]、[P2]、[P3]、[P4]、および [AI-Driven] のいずれかを選択できます。</p>
Priority	問題タイプの優先度レベル (事前割り当てされたもの)。
Issue Type	<p>問題のタイプ。</p> <p>(注) AI 駆動型の問題の場合、問題のタイプの前に  アイコンが表示されます。</p>

[Ignored Issues] ウィンドウの [Issue Type] 表	
アイテム	説明
Device Role	問題が検出されたデバイスに割り当てられたロール。ロールは、[Access]、[Core]、[Distribution]、[Border Router]、または [Unknown] です。
Category	問題の種類が分類されるカテゴリ（接続、可用性、オンボード、使用状況など）。
Issue Count	この種類の問題が発生した回数。
Site Count (Area)	このタイプの問題が発生したサイトの数。
Device Count	このタイプの問題の影響を受けたデバイスの数。
Last Occurred Time	この問題が発生した最新の日付と時刻。

ステップ 5 [Issue type] テーブルで、問題のタイプをクリックします。

最初のスライドインペイン [Issue Instances] に、その問題のタイプのすべての無視された問題と、サイト、デバイス、デバイスタイプ、オカレンス、最後のオカレンスのタイムスタンプなどの情報が表示されます。

ステップ 6 [Issue Instances] スライドインペインの [issue] 列で、問題をクリックします。

2 番目のスライドインペイン [Issue Instance Details] に、問題に関する詳細が表示されます。問題に応じて、説明と推奨されるアクションが表示されます。管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📝) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。

問題の解決または無視

次の手順により、問題の解決や無視を一括して、または個別に行うことができます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Issues and Events] の順に選択します。

[Open Issues] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 複数の問題の解決や無視を一括して行うには、次の操作を実行します。

a) [Open Issues] ダッシュボードの [Issue Type] テーブルで、問題のタイプをクリックします。

最初のスライドインペイン [Issue Instances] が開き、その問題タイプに関するすべての未解決問題が一覧表示されます。このスライドインペインでは、問題の解決や無視を一括して行えます。管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📝) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。

b) 次のいずれかを実行します。

- 特定の問題を解決または無視するには、問題の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 問題タイプのブラウザウィンドウに表示される未解決の問題をすべて解決または無視するには、[issue] 列の隣にあるチェックボックスをオンにします。ブラウザウィンドウに表示されるすべての問題が選択されます。
- 未解決の問題数が 25 を超えている場合（例：100）、最初の 25 件の問題がブラウザウィンドウに表示されます。未解決の問題をすべて選択するには、次の手順を実行します。
 1. [Issue] 列の横にあるチェックボックスをオンにします。
最初の 25 件の問題が選択され、[Actions] ドロップダウンリストの横に [Select all number open issues] タブが表示されます。
 2. [[Select all number open issues] をクリックすると、その問題タイプのすべての未解決問題（例：100 件すべての問題）が選択されます。
 3. （オプション）ブラウザウィンドウで次の 25 件の問題を表示するには、ページの下部にある [Show More] をクリックします。次の 25 件の問題がブラウザウィンドウに追加され、表示される問題の数が 50 件に増えます。ブラウザウィンドウで次の 25 件の問題を表示するには、[Show More] をもう一度クリックします。

c) 問題を解決するには、[Actions] ドロップダウンリストで [Resolve] を選択します。

警告ダイアログボックスが表示されます。[Warning] ダイアログボックスで [Yes] をクリックして、アクションを続行します。

問題が解決されると、[View resolved issues] タブが表示されます。[View All Issues] をクリックすると、[Resolved Issues] ウィンドウが開きます。

d) 問題を無視するには、[Actions] ドロップダウンリストで [Ignore] を選択します。

スライダで問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。

問題が無視されると、[View ignored issues] タブが表示されます。[View ignored issues] をクリックすると、[Ignored Issues] ウィンドウが開きます。

(注) 750 を超える問題を解決または無視しようとする、アクションが完了するまでに 1 分ほどかかる可能性があることを知らせる警告メッセージが表示されます。

ステップ 3 問題を個別に解決または無視するには、次の手順を実行します。

a) [Issue Instances] スライドインペイン（最初のスライドインペイン）の [issue] 列で、問題をクリックします。

2 番目のスライドインペイン [Issue Instance Details] が開き、問題に関する詳細が表示されます。この 2 番目のスライドインペインで、表示している問題を解決または無視できます。管理者ユーザーは、メモを追加、編集、削除できます。メモアイコン (📝) をクリックし、[Add] をクリックします。管理者以外のユーザーは、メモ情報のみを表示できます。

- b) 問題を解決するには、[Status] ドロップダウンメニューで [Resolve] を選択します。
- c) 問題の報告を停止するには、次の手順を実行します。
1. [Status] ドロップダウンリストから、[Ignore] を選択します。
 2. スライダーで問題を無視する時間数を設定し、[Confirm] をクリックします。

無線にアクティビティなしの問題のトリガー

「無線にアクティビティなし」の問題は、次のすべての条件がデフォルトのトリガー時間である 60 分間にわたって満たされるとトリガーされます。



(注) デフォルトのトリガー時間を変更するには、**アシュアランス > [Manage] > [Issue Settings]** に移動します。 [グローバルな問題の設定の管理 \(292 ページ\)](#) を参照してください。

- AP 無線動作状態は [up] である。
- AP モードはローカルまたは FlexConnect である。
- この無線でクライアント数が 0 である。
- RX データまたは管理フレーム数が増えていない。
- AP 無線チャンネルの使用率が 0 である。
- AP は分離された AP ではない。

自動問題解決

次の問題については、問題の状態が存在しなくなった場合、システムは自動的に問題を解決します。

問題の名称
ワイヤレスコントローラ/スイッチ/ルータが到達不能である。
スイッチファンの障害。
スイッチの電源の障害。
インターフェイスが停止した。
スタックメンバーの削除

問題の名称
スタックポートリンクに障害が発生した場合
ワイヤレスコントローラからのAPの切断。
無線でのアクティビティなし。

次の問題は、最後に発生してからの時間に基づいて自動的に解決されます。

問題の名称	自動解決までの時間
ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - BGP フラップ	24 時間
ネットワークデバイスでインターフェイスのフラッピングが発生	24 時間
ネットワークデバイスの HA スイッチオーバー	24 時間
WLC が予期せず再起動	24 時間
AP のリブートクラッシュ	24 時間
デバイス リブート	24 時間
AP 異常	24 時間
AP フラップ	24 時間
フロアでの RF (5 GHz) の低下	24 時間
RF (6 GHz) の低下	24 時間
フロアでの RF (2.4 GHz) の低下	24 時間
AP の高 CPU 使用率	24 時間
AP の高メモリ使用率	24 時間
WLC での AP ライセンス枯渇	24 時間
スイッチの高メモリ使用率	24 時間
デバイスの高メモリ使用率	24 時間
スイッチの高 CPU 使用率	24 時間
ルータの高 CPU 使用率	24 時間
スイッチインターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間

問題の名称	自動解決までの時間
スイッチインターフェイスの入出力エラー率が高い	24 時間
スイッチインターフェイスの入出力破棄率が高い	24 時間
スイッチ WAN インターフェイスの入出力破棄率が高い	24 時間
スイッチ WAN インターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間
ルータインターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間
ルータ WAN インターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間
ルータインターフェイスの入出力破棄率が高い	24 時間
ルータ WAN インターフェイスの入出力破棄率が高い	24 時間
ルータ WAN インターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間
ボーダーノードからトランジット コントロール プレーンノードへのファブリック BGPセッションがダウン	6 時間
ファブリック BGPセッションステータスがピアデバイスでダウン (VN 単位)	6 時間
ボーダーノードからコントロールプレーンノードへの BGPセッションがダウン	6 時間
ファブリックボーダーノードのインターネットが使用できない (VN 単位)	6 時間
ファブリックボーダーノードのリモートインターネットが使用できない (VN 単位)	6 時間
ファブリック AAA サーバステータス	6 時間
ファブリック LISP セッションステータスがコントロールプレーンノードへ	6 時間
ファブリック LISP PubSub セッションステータスがダウン (VN 単位)	6 時間
Cisco TrustSec 環境データがファブリックノードで完全ではない	6 時間

問題の名称	自動解決までの時間
ファブリック LISP エクストラネット ポリシーステータスがダウン	6 時間
サードパーティデバイスインターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間
サードパーティデバイスインターフェイスの入出力エラー率が高い	24 時間
サードパーティデバイスインターフェイスの入出力破棄率が高い	24 時間
サードパーティデバイス WAN インターフェイスの入出力使用率が高い	24 時間
サードパーティデバイス WAN インターフェイスの入出力破棄率が高い	24 時間
高 TCAM 使用率の問題	24 時間
ファブリックデバイスの接続 - ボーダーアンダーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - ボーダーオーバーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - マルチキャスト RP	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - コントロールアンダーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - コントロールボーダーアンダーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - AAA サーバー	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - DHCP オーバーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - DHCP アンダーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - DNS オーバーレイ	6 時間
ファブリックデバイスの接続 - DNS アンダーレイ	6 時間
ファブリック WLC と MapServer の接続性	6 時間
コントロールプレーンノードでのファブリック LISP セッションステータス	6 時間
ファブリック LISP PubSub セッションステータスがダウン	6 時間

問題の名称	自動解決までの時間
ファブリックボーダーノードのインターネットが使用できない	6 時間
ファブリックボーダーノードのリモートインターネットが使用できない	6 時間
ファブリック BGP セッションステータスがピアデバイスでダウン	6 時間

問題が自動的に解決したか、手動で解決されたかを表示できます。**[Issue Settings]** > の **[Global Profile]** ウィンドウ内にある **[Issue Resolution]** 列に、システムが解決した問題には **[Auto]** が、手動で解決する問題には **[Manual]** が表示されます。

問題が解決されると、**[Resolved Issues]** > **[Issue Instance]** slide-in pane の **[Updated By]** 列に **[System]** と表示されます。[解決済みの問題の表示 \(282 ページ\)](#) を参照してください。

グローバルな問題の設定の管理

次の手順に従って、問題の設定を管理します。トリガー可能な特定の問題を有効または無効にする、問題の優先順位を変更する、問題がトリガーされるしきい値を変更する、トリガーされたときに問題を外部通知に登録するといった操作を実行できます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]** > **[Issue Settings]**。

[Global Profile] タブが選択された状態で **[Issue Settings]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 設定する問題のタイプを表示するには、**[DEVICE TYPE]** と **[CATEGORY]** フィルタを設定します。

AI 駆動型の問題を表示するには、**[CATEGORY]** フィルタの **[AI-Driven]** タブをクリックします。

ステップ 3 **[Issue Name]** 列の問題をクリックすると、次の設定を含む slide-in pane が開きます。

(注) いくつかの問題については、設定に加えられた変更は複数のデバイスタイプで共有されます。slide-in pane で、情報アイコン (i) にカーソルを合わせると、影響を受けるデバイスタイプが表示されます。

- 問題がトリガー可能かどうかを有効または無効にするには、**[Enabled]** トグルをクリックします。
- 問題の優先順位を設定するには、**[Priority]** ドロップダウンリストをクリックし、優先順位を選択します。次のオプションがあります。
 - **[P1]** : ネットワーク運用に幅広い影響を与える可能性がある、早急な対応を必要とする重大な問題。
 - **[P2]** : 複数のデバイスまたはクライアントに影響を与える可能性がある重大な問題。
 - **[P3]** : 局所的または最小限の影響を与える軽微な問題。

- [P4] : ただちに問題になるものではないが、対処するとネットワークのパフォーマンスを最適化できる警告レベルの問題。
- c) (一部の問題のみ) [Trigger Condition] エリアで、問題が報告される条件のしきい値を変更できます。
(注) 「無線にアクティビティなし」のトリガー条件については、[無線にアクティビティなしの問題のトリガー \(288 ページ\)](#) を参照してください。

トリガー条件の例 :

```
No Activity on Radio(2.4 GHz) >= 60 minutes.
```

```
アクセスポイントのメモリ使用率が 90% を超えた
```

- d) (任意) 設定に変更がある場合は、[View Default Settings] の上にカーソルを置くと、デフォルトの問題が表示されます。問題の設定をすべてデフォルト値に復元するには、[Use Default] をクリックします。
- e) [Apply] をクリックします。

ステップ 4 (特定の問題について) [Manage Subscriptions] をクリックすると、サポートされている問題がトリガーされたときの外部通知に登録できます。[問題の通知の有効化 \(296 ページ\)](#) を参照してください。

ユーザー定義問題の設定の管理

ユーザー定義問題の設定を管理するには、次の手順を使用します。ユーザー定義問題を作成する、トリガー可能な特定の問題を有効または無効にする、問題の優先順位を変更する、問題がトリガーされるしきい値を変更する、トリガーされたときに問題を外部通知に登録するといった操作を実行できます。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Assurance] > [Issue Settings]。

[Global Profile] タブが選択された状態で [Issue Settings] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [User Defined] タブをクリックして、ユーザー定義問題のリストを表示します。

ステップ 3 [Issue Name] 列の問題をクリックして、[Create an Issue] slide-in pane を開きます。

ステップ 4 syslog の詳細に基づいてユーザー定義問題を設定するには、[Create an Issue] slide-in pane で次の手順を実行します。

- a) [Issue name] フィールドに、問題名を入力します。
- b) [Description] フィールドに、問題の説明を入力します。
- c) [Syslog Details] の [Severity] ドロップダウンリストから、0 ~ 6 の重大度を選択します。
- d) [Facility] フィールドに、施設名を入力します。
- e) [Mnemonic] フィールドにニーモニック名を入力し、[Next] をクリックします。

- f) [Message Pattern] フィールドに、syslog メッセージを入力します。メッセージパターンの下にある syslog メッセージをプレビューできます。
- g) [Occurrences] フィールドに、発生回数の値を入力します。
- h) [Duration] ドロップダウンリストで、問題の継続時間を選択します。
- i) 問題がトリガー可能かどうかを有効または無効にするには、[Enabled] トグルをクリックします。
- j) 問題の優先順位を設定するには、[Priority] ドロップダウンリストをクリックし、優先順位のレベルを選択します。
 - [P1]：ネットワーク運用に幅広い影響を与える可能性があり、早急な対応を必要とする重大な問題。
 - [P2]：複数のデバイスまたはクライアントに影響を与える可能性がある重大な問題。
 - [P3]：局所的または最小限の影響を与える軽微な問題。
 - [P4]：ただちに問題になるものではないが、対処するとネットワークのパフォーマンスを最適化できる警告レベルの問題。
- k) 問題の通知を有効または無効にするには、[Notification] トグルをクリックします。
- l) [Save] をクリックします。

ステップ 5 問題がトリガーされた場合の問題の外部通知に登録するには、[Manage Subscriptions] をクリックします。[問題の通知の有効化 \(296 ページ\)](#) を参照してください。次に示すように、ユーザー定義の問題通知イベントに対するサブスクリプションを作成します。

図 38: ユーザー定義の問題通知イベント

Step 1 - Select Site and Events

Pick the site and events for your notification

Select a site ▼

Q user × Q

1 Selected

<input checked="" type="checkbox"/> Event Name ▾	Channels Supported
<input checked="" type="checkbox"/> User Defined Issue Notification	REST SYSLOG EMAIL WEBEX PAGERDUTY

カスタム問題の設定の管理

特定のサイトまたはサイトのグループ用にカスタムの問題設定を作成できます。これらの設定はアシュアランスのネットワークプロファイルと呼ばれ、アシュアランスと Cisco DNA Center の両方から管理できます。

アシュアランスのネットワークプロファイルを作成することで、監視する問題の設定を制御したり、問題の優先度を変更したりできます。

注：

- ネットワークデバイスの正常性スコアへの同期は、グローバルな問題設定に対してのみ使用できます。カスタムの問題設定では使用できません。詳細については、[デバイスの健全性のモニターとトラブルシューティング \(107 ページ\)](#) を参照してください。
- 一部のグローバルな問題はカスタマイズできません。これらの問題は、変更するカスタム問題のリストには表示されません。
- 変更された問題をリストの一番上に表示するには、[Last Modified] でソートします。
- カスタム設定を削除するには、最初にすべてのサイトの割り当てを解除する必要があります。

-
- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance] > [Issue Settings]**。
[Global Profile] タブが選択された状態で [Issue Settings] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Custom Profile] タブをクリックします。
- ステップ 3** [+Add a Profile] をクリックします。
- ステップ 4** [Profile Name] フィールドに有効なプロファイルの名前を入力し、[Next] をクリックします。
Cisco DNA Center によってプロファイルが追加され、プロファイルテーブルにプロファイル名、サイト、およびアクションが表示されます。
- ステップ 5** サイトにプロファイルを割り当てるには、[Sites] 列名の [Assign Sites] をクリックして、[Add Sites to Profile] slide-in pane を開きます。このプロファイルに関連付けるサイトの横にあるチェックボックスをオンにし、[Save] をクリックします。
[Edit Profile] ウィンドウが表示されます。
- (注) 親ノードまたは個々のサイトを選択できます。親ノードを選択すると、その親ノードに属する子もすべて選択されます。チェックボックスをオフにして、サイトの選択を解除できます。
- ステップ 6** 設定する問題のタイプを表示するには、[DEVICE TYPE] と [CATEGORY] フィルタを設定します。
- ステップ 7** [User Defined] タブをクリックして、ユーザー定義問題のリストを表示します。
- ステップ 8** [Issue Name] 列の問題をクリックすると、設定を含む slide-in pane が開きます。
- (注) いくつかの問題については、設定に加えられた変更は複数のデバイスタイプで共有されます。slide-in pane では、影響を受けるデバイスタイプを示す注意が Cisco DNA Center によって表示されます。
- ステップ 9** この問題の Cisco DNA Center によるモニターリングを有効または無効にするには、[Enabled] トグルボタンをクリックします。

- ステップ 10** 問題の優先順位を設定するには、[Priority] ドロップダウンリストをクリックし、優先順位を選択します。次のオプションがあります。
- [P1] : ネットワーク運用に幅広い影響を与える可能性がある、早急な対応を必要とする重大な問題。
 - [P2] : 複数のデバイスまたはクライアントに影響を与える可能性がある重大な問題。
 - [P3] : 局所的または最小限の影響を与える軽微な問題。
 - [P4] : ただちに問題になるものではないが、対処するとネットワークのパフォーマンスを最適化できる警告レベルの問題。
- ステップ 11** (一部の問題のみ) [Trigger Condition] エリアで、問題が報告される条件のしきい値を変更できます。トリガー条件の例 :
- ```
No Activity on Radio(2.4 GHz) >= 60 minutes.
Memory Utilization of Access Points greater than 90%
```
- ステップ 12** (任意) 設定に変更がある場合は、[View Default Settings] の上にカーソルを置くと、デフォルトの設定が表示されます。問題の設定をすべてデフォルト値に復元するには、[Use Default] をクリックします。
- ステップ 13** [Apply] をクリックします。
- ステップ 14** (特定の問題について) [Manage Subscriptions] をクリックすると、サポートされている問題がトリガーされたときの外部通知に登録できます。
- ステップ 15** ユーザー定義の問題を編集するには、問題の syslog メッセージで [Edit] をクリックし、[Save] をクリックします。
- ステップ 16** [Done] をクリックします。  
新しく追加されたプロファイルは、[Issue Settings] ウィンドウの [Custom Profile] タブに表示されます。

## 問題の通知の有効化

アシュアランスで特定の問題がトリガーされたときに外部通知を受信するには、次の手順を実行します。問題がトリガーされてステータスが変わると、アシュアランスは、REST または電子メール通知を生成できます。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Assurance] > [Issue Settings]。  
[Issue Settings] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Manage Subscription] をクリックします。  
[Platform] > [Developer Toolkit] > [Event Notifications] ウィンドウが表示されます。  
各通知はタイルで表され、通知の詳細を表示するためのリンクが含まれています。

**ステップ 3** 左側のペインの [CHANNELS] エリアで、それぞれの通知タイルを表示するチャンネルの横にあるオプションボタンをクリックします。

サポートされているチャンネルは、[REST]、[PAGERDUTY]、[SNMP]、[SYSLOG]、[WEBEX]、[EMAIL] です。アシュアランス イベントでは、SNMP はサポートされません。

- (注)
- それぞれのチャンネルでイベントの通知を作成し、通知をトリガーする必要があります。詳細については、[Cisco DNA Center ユーザガイド](#) の「**イベント通知の作成**」を参照してください。
  - 1 つのイベント通知で複数のチャンネルがサポートされます。

**ステップ 4** 通知の詳細を表示する通知タイルリンクをクリックします。

[Notification Details] スライドインペインには、選択したチャンネルに基づいて次の通知の詳細が表示されます。

- [Name] : イベントの名前。
- [Description] : イベントの説明
- [Sites]
- [Event]
- [REST] : REST 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。[REST] エリアには、次の情報が表示されます。
  - [URL] : イベントが送信される REST API エンドポイントの URL アドレス。
  - [Method] : PUT メソッドまたは POST メソッド。
  - [Trust certificate] : REST API エンドポイント通知に信頼できる証明書が必要かどうか。
  - [Headers] : [Header Name] と [Header Value]。
- [PAGERDUTY] : PAGERDUTY 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。[PAGERDUTY] エリアには、次の情報が表示されます。
  - [PagerDuty Events API URL]
  - [PagerDuty Integration Key]
  - [PagerDuty Events API Version]
- [SNMP] : [SNMP] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。
- [SYSLOG] : [SYSLOG] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。
- [WEBEX] : [WEBEX] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。
- [EMAIL] : [EMAIL] 通知の詳細を表示する場合にのみ表示されます。[EMAIL] エリアには、E メール受信者の [From] と [To] と E メールの [Subject] が表示されます。

- ステップ 5** [Notification Details] slide-in paneで、右上隅にあるトグルボタンをクリックして、それぞれの通知を有効または無効にします。
- ステップ 6** 特定の通知を編集するには、[Actions] ドロップダウンリストをクリックし、[Edit] を選択します。
- ステップ 7** [EDIT NOTIFICATION] ウィンドウで、選択したチャンネルに基づいて以下を設定します。
1. [Name] フィールドに一意の名前を入力します。
  2. [Description] フィールドに、それぞれのイベントの説明を入力します。
  3. [Site and Events] を展開し、[Select a site] ドロップダウンリストからサイトを選択します。
  4. イベントの横にあるプラスアイコンをクリックするか、[Add All] をクリックしてすべてのイベントをそれぞれの通知に追加します。
  5. 通知からイベントを削除するには、削除するイベントの横にあるプラスアイコンをクリックするか、[Remove All] をクリックして、それぞれの通知からすべてのイベントを削除します。
  6. [Configuration] を展開して、選択した通知チャンネルの構成を編集します。
- [Configuration] エリアで詳細を指定するには、『Cisco DNA Center ユーザガイド』の「**Create an Event Notification**」を参照してください。
- (注) [Configuration] エリアに表示されるフィールドは、選択した通知チャンネルのタイプによって異なります。
- ステップ 8** 右上隅にあるトグルボタンをクリックして、タイルビューとリストビューを切り替えます。
- ステップ 9** [Event Catalog] タブをクリックして、作成されたイベントのリストを表示します。
- (注) [Search] フィールドにキーワードを入力することで表示されるイベントを調整できます。
- ステップ 10** テーブル内の個々のイベントのデータを確認します。
- [Event Details] タブに表示されるデータは次のとおりです。
- [Description] : イベントとそれを発生させるトリガーの簡単な説明。
  - [Event ID] : イベントの識別番号。
  - [Version] : イベントのバージョン番号。
  - [Namespace] : イベントの名前空間。
  - [Severity] : 1 ~ 5。
- (注) シビラティ (重大度) 1 は最も重要または重大な優先度であり、このタイプのイベントに割り当てる必要があります。
- [Domain] : イベントが属する REST API ドメイン。
  - [Subdomain] : イベントが属する REST API ドメインの配下のサブグループ。
  - [Category] : エラー、警告、情報、アラート、タスクの進捗状況、タスクの完了。

- [Note] : イベントの理解に役立つ追加情報。
- [Event Link] : REST URL を使用したイベントブロードキャスト。
- [Tags] : イベントの影響を受ける Cisco DNA Center のコンポーネントを示すタグ。
- [Channels] : イベント通知でサポートされているチャンネル (REST API、電子メール、Webex など) 。
- [Model Schema] : イベントに関するモデルスキーマが提示されます。
  - [Details] : イベントのモデルスキーマの詳細の例。
  - [REST Schema] : イベントの REST スキーマのフォーマット。

ステップ 11 [Notifications] タブをクリックして、それぞれのイベントに関連付けられたアクティブな通知を表示します。

## アシュアランス、Cisco AI Network Analytics、および MRE の問題

### ルータの問題

アシュアランス で検出されるルータの問題を次の表に示します。

| ルータの問題 |                                  |                                                               |
|--------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| カテゴリ   | 問題の名称                            | [Summary]                                                     |
| 接続性    | BGP トンネル接続                       | 自律システム (AS) 番号が間違っているため、ピアとのボーダーゲートウェイ プロトコル (BGP) 接続に失敗しました。 |
| 接続性    | ネットワークデバイスを接続しているインターフェイスでダウン発生  | ネットワークデバイスに接続しているインターフェイスがダウンしています。                           |
| 接続性    | レイヤ 2 のループ症状                     | ネットワークデバイスでホスト MAC アドレスのフラッピングが見られます。                         |
| 接続性    | ネットワークデバイスインターフェイスの接続 - BGP フラップ | ネイバーとのボーダーゲートウェイ プロトコル (BGP) 接続がフラッピングしています。                  |
| 接続性    | ネットワークデバイスのインターフェイスの接続 - BGP ダウン | ネイバーとの BGP 接続がダウンしています。                                       |

| ルータの問題    |                                         |                                                                                          |
|-----------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ      | 問題の名称                                   | [Summary]                                                                                |
| 接続性       | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - EIGRP 隣接関係の障害 | ネイバーとの Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) 隣接関係に障害が発生しました。                |
| 接続性       | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - インターフェイスダウン   | デバイス上のインターフェイスがダウンしています。                                                                 |
| 接続性       | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - ISIS 隣接関係の障害  | デバイスで Intermediate System Intermediate System (ISIS) の隣接関係に障害が発生しました。                    |
| 接続性       | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - OSPF 隣接関係の障害  | ネイバーとの Open Shortest Path First (OSPF) 隣接関係に障害が発生しました。                                   |
| 接続        | WAN インターフェイスダウン                         | WAN インターフェイスがダウンしています。                                                                   |
| 接続されている状態 | SGT のアクセスポリシーのインストールに失敗                 | セキュリティグループタグ (SGT) のセキュリティグループアクセスコントロールリスト (SGACL) アクセスポリシーのインストールに失敗しました。              |
| 接続されている状態 | ルータ インターフェイスの入出力エラー率が高い                 | ルータ インターフェイスで、高い入出力エラー率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。                                         |
| 接続されている状態 | ルータ インターフェイスの入出力破棄率が高い                  | ルータ インターフェイスで、高い入出力廃棄率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。                                          |
| 接続されている状態 | ルータ インターフェイスの入力/出力使用率が高い                | ルータ インターフェイスで、高い入出力エラー率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。                                         |
| 接続されている状態 | ルータ WAN インターフェイスの入出力破棄率が高い              | ルータの WAN インターフェイスで、高い入出力廃棄率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。                                     |
| 接続されている状態 | ルータ WAN インターフェイスの入力/出力使用率が高い            | WAN インターフェイスの入出力使用率が高くなっています。<br>ルータの WAN インターフェイスで、高い入出力エラー率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。   |
| 接続されている状態 | デバイスで SGT アクセスポリシーのダウンロードに失敗            | セキュリティグループタグ (SGT) のセキュリティグループアクセスコントロールリスト (SGACL) アクセスコントロールエントリ (ACE) のダウンロードに失敗しました。 |



| ルータの問題    |                                  |                                                                                              |
|-----------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ      | 問題の名称                            | [Summary]                                                                                    |
| 接続されている状態 | デバイスでSGTアクセスポリシーのインストールに失敗       | セキュリティグループタグ (SGT) のアクセスポリシーのインストールに失敗しました。ロールベースのアクセスコントロールリスト (RBACL) でポリシールールエラーが見つかりました。 |
| 接続されている状態 | ポリシーサーバーからSGTアクセスポリシーをダウンロードできない | セキュリティグループタグ (SGT) のアクセスポリシーのソースリストをダウンロードできませんでした。                                          |
| 接続されている状態 | デバイスでSGTアクセスポリシーのアンインストールに失敗     | セキュリティグループタグ (SGT) のセキュリティグループアクセスコントロールリスト (SGACL) アクセスポリシーのアンインストールに失敗しました。                |
| デバイス      | DNA Centerとネットワークデバイスの時間差        | Cisco DNA Center とデバイス間に過剰なタイムラグがあります。                                                       |
| デバイス      | syslog イベントに基づく問題 - 高温           | 高温に関連する syslog イベントの単一オカレンスによって作成された問題。                                                      |
| デバイス      | ルータの高 CPU 使用率                    | ルータの CPU 使用率が高くなっています。しきい値はカスタマイズできます。                                                       |
| デバイス      | ルータの高メモリ使用率                      | ルータのメモリ使用率が高くなっています。しきい値はカスタマイズできます。                                                         |
| 可用性       | ネットワークデバイスの HA スイッチオーバー          | ネットワークデバイスで高可用性 (HA) スイッチオーバーが発生しました。                                                        |
| 可用性       | ルータ到達不能                          | ルータは、Cisco DNA Center から ICMP または SNMP を介して到達できません。                                          |

## コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題

アシュアランスによって検出されるコア層、ディストリビューション層、およびアクセス層の問題を次の表に示します。

| コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 |            |                                             |
|---------------------------------|------------|---------------------------------------------|
| カテゴリ                            | 問題の名称      | [Summary]                                   |
| 接続性                             | BGP トンネル接続 | 自律システム (AS) 番号が間違っているため、ピアとの BGP 接続に失敗しました。 |

## コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題

| コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 |                                         |                                                                           |
|---------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ                            | 問題の名称                                   | [Summary]                                                                 |
| 接続性                             | ネットワークデバイスを接続しているインターフェイスでダウン発生         | ネットワークデバイスに接続しているインターフェイスがダウンしています。                                       |
| 接続性                             | レイヤ2のループ症状                              | ネットワークデバイスでホストMACアドレスのフラッピングが見られます。                                       |
| 接続性                             | ネットワークデバイスのインターフェイスの接続 - BGP ダウン        | ネイバーとの BGP 接続がダウンしています。                                                   |
| 接続性                             | ネットワークデバイスインターフェイスの接続 - BGP フラップ        | ネイバーとの BGP 接続がフラッピングしています。                                                |
| 接続性                             | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - EIGRP 隣接関係の障害 | ネイバーとの EIGRP (Enhanced Interior Gateway Routing Protocol) 隣接関係に障害が発生しました。 |
| 接続性                             | ネットワークデバイスインターフェイスの接続 - インターフェイスダウン     | デバイス上のインターフェイスがダウンしています。                                                  |
| 接続性                             | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - ISIS 隣接関係の障害  | デバイスで Intermediate System Intermediate System (IS-IS) の隣接関係に障害が発生しました。    |
| 接続性                             | ネットワーク デバイス インターフェイスの接続 - OSPF 隣接関係の障害  | ネイバーとの Open Shortest Path First (OSPF) 隣接関係に障害が発生しました。                    |
| 接続                              | WAN インターフェイスダウン                         | WAN インターフェイスがダウンしています。                                                    |
| 接続性                             | ネットワークデバイスでデュアルアクティブ検出リンクに障害発生          | ネットワークデバイス <i>Switch Name</i> でデュアルアクティブ検出リンクに障害が発生しました。                  |
| 接続性                             | ネットワークデバイスで StackWise Virtual リンクに障害発生  | ネットワークデバイスの <i>Switch Name</i> で StackWise Virtual リンクに障害が発生しました。         |
| 接続                              | ネットワークデバイスで StackWise リンクに障害発生          | ネットワークデバイス <i>Switch Name</i> で StackWise リンクに障害が発生しました。                  |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - ボーダーオーバーレイ              | ファブリックエッジが仮想ネットワーク内のファブリックボーダーへの接続を失いました。                                 |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - ボーダーアンダーレイ              | ファブリックエッジが物理ネットワーク内のファブリックボーダーへの接続を失いました。                                 |

| コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 |                                          |                                                                 |
|---------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| カテゴリ                            | 問題の名称                                    | [Summary]                                                       |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - コントロールボーダーアンダーレイ         | ファブリックノードが、物理ネットワーク内の同じ場所に配置されたファブリックボーダーとコントロールプレーンへの接続を失いました。 |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - コントロールアンダーレイ             | ファブリックノードが、物理ネットワーク内のファブリック コントロールプレーン デバイスへの接続を失いました。          |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - DHCP オーバーレイ              | ファブリックノードが仮想ネットワーク内の DHCP サーバーへの接続を失いました。                       |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - DHCP アンダーレイ              | ファブリックノードが物理ネットワーク内の DHCP サーバーへの接続を失いました。                       |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - DNS オーバーレイ               | ファブリックノードが仮想ネットワーク内の DNS サーバーへの接続を失いました。                        |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - DNS アンダーレイ               | ファブリックノードが物理ネットワーク内の DNS サーバーへの接続を失いました。                        |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - 外部 URL                   | ユーザーがプロビジョニングした外部 URL にファブリックボーダーが到達できません。                      |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - ISE サーバー                 | ファブリックエッジが物理ネットワーク内の ISE サーバーへの接続を失いました。                        |
| 接続されている状態                       | ファブリック WLC と MapServer の接続性              | ファブリック ワイヤレスコントローラ でファブリック コントロールプレーン ノードへの接続が失われました。           |
| 接続されている状態                       | ファブリックとポートチャネルの接続性                       | ポートチャネルに接続しているファブリックノードがダウンしています。                               |
| 接続されている状態                       | ファブリック AAA サーバステータス                      | ファブリックノードの AAA サーバステータスがダウンしています。                               |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - マルチキャスト RP               | ファブリックボーダーノードは、マルチキャストランデブーポイント (RP) への接続を失いました。                |
| 接続されている状態                       | ファブリック コントロールプレーンとの BGP セッションの状態         | BGP セッションは、ファブリック サイトのコントロールプレーンとの境界でダウンしています。                  |
| 接続されている状態                       | Fabric Control Plane - LISP セッションの状態     | コントロールプレーンノードへの LISP セッションがダウンしています。                            |
| 接続されている状態                       | Fabric Devices Connectivity - インターネットの接続 | コントロールプレーンノードのデフォルトルートが失われたため、インターネットは使用できません。                  |

## コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題

| コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 |                                                |                                                           |
|---------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| カテゴリ                            | 問題の名称                                          | [Summary]                                                 |
| 接続されている状態                       | ファブリックエクストラネットポリシー ステータス                       | ファブリックエクストラネットポリシーのステータスがダウンしています。                        |
| 接続されている状態                       | Fabric Control Plane - LISP Pub/Sub セッションステータス | コントロールプレーンノードへの LISP Pub/Sub セッションがダウンしています。              |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - AAA サーバー                       | ファブリックエッジノードが物理ネットワーク内の AAA サーバーへの接続を失いました。               |
| 接続されている状態                       | Fabric Devices Connectivity - リモートインターネット接続    | コントロールプレーンノードのリモートインターネットへの接続が失われました。                     |
| 接続されている状態                       | ピア デバイスへの BGP セッションステータス                       | BGP セッションは、サイトの IP トランジットピアとの境界でダウンしています。                 |
| 接続されている状態                       | トランジットコントロールプレーンへの BGP セッションステータス              | BGP セッションは、SD-Access トランジットに接続された境界でダウンしています。             |
| 接続されている状態                       | ファブリックデバイスの接続 - アンカーされたボーダー                    | ファブリックボーダーノードが、物理ネットワーク内のファブリックのアンカーされたボーダーノードへの接続を失いました。 |
| 接続されている状態                       | SGT のアクセスポリシーのインストールに失敗                        | SGT の SGACL アクセスポリシーのインストールに失敗しました。                       |
| 接続されている状態                       | スイッチインターフェイスの入出力エラー率が高い                        | スイッチインターフェイスで、高い入出力エラー率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。          |
| 接続されている状態                       | スイッチインターフェイスの入出力破棄率が高い                         | スイッチインターフェイスで高い入出力廃棄率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。            |
| 接続されている状態                       | スイッチインターフェイスの入出力使用率が高い                         | スイッチインターフェイスで、高い入出力エラー率が検出されました。しきい値はカスタマイズできます。          |
| 接続されている状態                       | デバイスで SGT アクセスポリシーのダウンロードに失敗                   | SGT の SGACL ACE のダウンロードに失敗しました。                           |
| 接続されている状態                       | デバイスで SGT アクセスポリシーのインストールに失敗                   | SGT のアクセスポリシーのインストールに失敗しました。RBACL でポリシー規則エラーが検出されました。     |
| 接続されている状態                       | ポリシーサーバーから SGT アクセスポリシーをダウンロードできない             | SGT のアクセスポリシーのソースリストをダウンロードできませんでした。                      |
| 接続されている状態                       | デバイスで SGT アクセスポリシーのアンインストールに失敗                 | SGT の SGACL アクセス ポリシーのアンインストールに失敗しました。                    |

| コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 |                               |                                                                                                         |
|---------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ                            | 問題の名称                         | [Summary]                                                                                               |
| デバイス                            | デバイスリブートクラッシュ                 | ハードウェアまたはソフトウェアのクラッシュによりデバイスがリブートしました。                                                                  |
| デバイス                            | デバイス時間のずれ Cisco DNA Center    | Cisco DNA Center とデバイスネットワーク間に過剰なタイムラグがあります。                                                            |
| デバイス                            | ネットワークデバイスでインターフェイスのフラッピングが発生 | ポートインターフェイスがスイッチでフラッピングしています。デフォルトでは、この問題はインターフェイスが 30 分以内に 3 回以上フラップするとトリガーされます。デフォルトのフラップトリガーを変更できます。 |
| デバイス                            | syslog イベントに基づく問題 - 高温        | 高温に関連する syslog イベントの単一オカレンスによって作成された問題。                                                                 |
| デバイス                            | syslog イベントに基づく問題 - POE       | 電源に関連する syslog イベントの単一オカレンスによって作成された問題。                                                                 |
| デバイス                            | PoE ポートがエラー状態                 | PoE ポートがエラーにより無効になっていることが syslog イベントで報告されました。                                                          |
| デバイス                            | PoE 受電デバイスに障害フラグあり            | PoE ポートに接続された PoE 対応デバイスに障害フラグが設定されていることが syslog イベントで報告されました。                                          |
| デバイス                            | PoE 受電デバイスへの電力供給拒否            | PoE ポートに接続された PoE 対応デバイスへの電力供給が拒否されたことが syslog イベントで報告されました。                                            |
| デバイス                            | スタックメンバーの削除                   | スタックメンバーが削除されました。                                                                                       |
| デバイス                            | スタックメンバーが互換性のないイメージを実行        | スタックメンバーが互換性のないイメージを実行しています。                                                                            |
| デバイス                            | スイッチの高 CPU 使用率                | スイッチの CPU 使用率が高くなっています。しきい値はカスタマイズできます。                                                                 |
| デバイス                            | スイッチの高メモリ使用率                  | スイッチのメモリ使用率が高くなっています。しきい値はカスタマイズできます。                                                                   |
| デバイス                            | スイッチファンの障害                    | スイッチのファンに障害が発生しました。                                                                                     |
| デバイス                            | スイッチの電源障害                     | スイッチの電源に障害が発生しました。                                                                                      |
| デバイス                            | 高 TCAM 使用率の問題                 | レイヤ 2、レイヤ 3、QoS、および SGACL での TCAM 枯渇の問題。                                                                |
| 可用性                             | ネットワークデバイスの HA スイッチオーバー       | ネットワークデバイスで HA スイッチオーバーが発生しました。                                                                         |

| コア層、ディストリビューション層、およびアクセス層に関する問題 |                 |                                                     |
|---------------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------|
| カテゴリ                            | 問題の名称           | [Summary]                                           |
| 可用性                             | スイッチ到達不能        | スイッチは、ICMP または SNMP を介して Cisco DNA Center に到達できません。 |
| 使用率<br>(Utilization)            | マップキャッシュの上限に達した | マップキャッシュエントリがマップサーバーの上限を超えました。                      |

## サードパーティデバイスの問題

次の表に、アシュアランス で検出されるサードパーティ製デバイスの問題を示します。

| サードパーティデバイスの問題 |                                      |                                                             |
|----------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| Category       | 問題の名称                                | [Summary]                                                   |
| 可用性            | サードパーティ製デバイスに到達できない                  | Cisco DNA Center から ICMP または SNMP 経由でサードパーティ製デバイスに到達できません。  |
| 接続             | サードパーティ製デバイスインターフェイスの入出力エラー率が高い      | サードパーティ製デバイスインターフェイスで高い入出力エラー率が検出されます。しきい値はカスタマイズできます。      |
| 接続されている状態      | サードパーティ製デバイスインターフェイスの入出力破棄率が高い       | サードパーティ製デバイスインターフェイスで高い入出力破棄率が検出されます。しきい値がカスタマイズされています。     |
| 接続             | サードパーティ製デバイスインターフェイスの入出力使用率が高い       | サードパーティ製デバイスインターフェイスで高い入出力使用率が検出されます。しきい値はカスタマイズできます。       |
| 接続されている状態      | サードパーティ製デバイスの WAN インターフェイスの入出力破棄率が高い | サードパーティ製デバイスの WAN インターフェイスで高い入出力破棄率が検出されます。しきい値はカスタマイズできます。 |
| 接続されている状態      | サードパーティ製デバイスの WAN インターフェイスの入出力使用率が高い | サードパーティ製デバイスの WAN インターフェイスで高い入出力使用率が検出されます。しきい値はカスタマイズできます。 |

## コントローラの問題

アシュアランスによって検出されるコントローラの問題を次の表に示します。

| コントローラの問題         |                                 |                                                             |
|-------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| カテゴリ              | 問題の名称                           | [Summary]                                                   |
| 接続性               | ネットワークデバイスを接続しているインターフェイスでダウン発生 | ネットワークデバイスに接続しているインターフェイスがダウンしています。                         |
| 接続されている状態         | ファブリック WLC と MapServer の接続性     | ファブリック ワイヤレスコントローラ でファブリック コントロールプレーン ノードへの接続が失われました。       |
| デバイス              | デバイス時間のずれ Cisco DNA Center      | Cisco DNA Center とネットワークデバイス間に過剰なタイムラグがあります。                |
| 可用性               | ネットワークデバイスの HA スイッチオーバー         | ネットワークデバイスで HA スイッチオーバーが発生しました。                             |
| 可用性               | WLC モニター                        | ネットワークコントローラがワイヤレスコントローラからデータを受信していません。                     |
| 可用性               | WLC 電源の障害                       | このワイヤレスコントローラで電源が故障しました。                                    |
| 可用性               | WLC のリブートクラッシュ                  | ワイヤレスコントローラの再起動クラッシュが発生しました。                                |
| 可用性               | WLC 到達不能                        | ワイヤレスコントローラは、Cisco DNA Center から ICMP または SNMP を介して到達できません。 |
| 使用率 (Utilization) | WLC での AP ライセンス枯渇               | ワイヤレスコントローラ には現在、空いている AP ライセンスはありません。                      |
| 使用率 (Utilization) | WLC 高メモリ使用率                     | ワイヤレスコントローラのメモリ使用率が高くなっています。                                |

## アクセスポイントの問題

アシュアランスによって検出されるアクセスポイントの問題を次の表に示します。

| アクセスポイントの問題 |              |                                          |
|-------------|--------------|------------------------------------------|
| カテゴリ        | 問題の名称        | [Summary]                                |
| 可用性         | AP のカバレッジホール | ワイヤレス LAN コントローラが AP 周辺のカバレッジホールを検出しました。 |

## ■ アクセスポイントの問題

| アクセスポイントの問題          |                         |                                                                                                                          |
|----------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ                 | 問題の名称                   | [Summary]                                                                                                                |
| 可用性                  | Cisco WLC からの AP の切断    | AP がワイヤレス LAN コントローラから切断されます。ワイヤレス LAN コントローラへの AP の CAPWAP リンクがダウンしています。                                                |
| 可用性                  | AP のフラッピング              | AP でフラッピングが発生しています。AP がワイヤレス LAN コントローラから切断され、ワイヤレス LAN コントローラに再び接続しました。<br><br>この問題は AP が 15 分以内に 2 回以上フラップするとトリガーされます。 |
| 可用性                  | AP のリブートクラッシュ           | ハードウェアまたはソフトウェアのクラッシュにより AP がリブートしました。                                                                                   |
| 使用率<br>(Utilization) | AP の高 CPU 使用率           | AP で CPU 使用率が高くなっています。                                                                                                   |
| 使用率<br>(Utilization) | AP の高メモリ使用率             | AP のメモリ使用率が高くなっています。                                                                                                     |
| 使用率<br>(Utilization) | 無線の高使用率 (2.4 GHz)       | AP の 2.4 GHz 無線の使用率が高くなっています。                                                                                            |
| 使用率<br>(Utilization) | 無線の高使用率 (5 GHz)         | AP の 5 GHz 無線の使用率が高くなっています。                                                                                              |
| 使用率<br>(Utilization) | 無線の高使用率 (6 GHz)         | AP の 6 GHz 無線の使用率が高くなっています。                                                                                              |
| 使用率<br>(Utilization) | 無線でのアクティビティなし (2.4 GHz) | AP の 2.4 GHz 無線でアクティビティがありません。                                                                                           |
| 使用率<br>(Utilization) | 無線でのアクティビティなし (5 GHz)   | AP の 5 GHz 無線でアクティビティがありません。                                                                                             |
| 使用率<br>(Utilization) | 無線でのアクティビティなし (6GHz)    | AP の 6 GHz 無線でアクティビティがありません。                                                                                             |
| AP 異常                | AP 異常                   | AP で異常が発生しました。                                                                                                           |
| 可用性                  | フロアでの RF (2.4 GHz) の低下  | この問題は、AP のワイヤレスエクスペリエンスが低い場合に発生します。RF の低下の問題は、少なくとも 1 つの AP の干渉またはノイズが、30 分以内にしきい値を超えた場合に発生します。                          |



| アクセスポイントの問題 |                      |                                                                                                 |
|-------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ        | 問題の名称                | [Summary]                                                                                       |
| 可用性         | フロアでの RF (5 GHz) の低下 | この問題は、AP のワイヤレスエクスペリエンスが低い場合に発生します。RF の低下の問題は、少なくとも 1 つの AP の干渉またはノイズが、30 分以内にしきい値を超えた場合に発生します。 |
| 可用性         | フロアでの RF (6 GHz) の低下 | この問題は、AP のワイヤレスエクスペリエンスが低い場合に発生します。RF の低下の問題は、少なくとも 1 つの AP の干渉またはノイズが、30 分以内にしきい値を超えた場合に発生します。 |
| 可用性         | 無線ダウン (2.4GHz)       | AP で 2.4 GHz 無線がダウンしています。                                                                       |
| 可用性         | 無線ダウン (5GHz)         | AP で 5 GHz 無線がダウンしています。                                                                         |
| 可用性         | 無線ダウン (6GHz)         | AP で 6 GHz 無線がダウンしています。                                                                         |

## 有線クライアントの問題

アシュアランスによって検出される有線クライアントの問題を次の表に示します。

| 有線クライアントの問題 |                            |                                                                              |
|-------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ        | 問題の名称                      | [Summary]                                                                    |
| オンボーディング    | クライアントの DHCP 到達可能性の問題      | クライアントが DHCP サーバーから IP アドレスを取得できませんでした。                                      |
| オンボーディング    | クライアントの DNS 到達可能性の問題       | クライアントが DNS サーバーから応答を取得できませんでした。                                             |
| オンボーディング    | 有線クライアント認証エラー - Dot1.x エラー | Dot1.x の問題が原因で、有線クライアントの認証に失敗しました。<br><br>(注) この問題は、単独の有線クライアントにのみ適用されます。    |
| オンボーディング    | 有線クライアント認証エラー - MAB エラー    | MAC 認証バイパスの問題が原因で、有線クライアントの認証に失敗しました。<br><br>(注) この問題は、単独の有線クライアントにのみ適用されます。 |

## ワイヤレスクライアントの問題

アシュアランスによって検出されるワイヤレスクライアントの問題を次の表に示します。

## ワイヤレスクライアントの問題



(注) この問題は、単独のクライアントと複数のクライアントの両方に適用されます。

| ワイヤレスクライアントの問題 |                                            |                                                                                               |
|----------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ           | 問題の名称                                      | [Summary]                                                                                     |
| オンボーディング       | 802.11rクライアントの低速ローミング                      | 高速ローミングが可能なワイヤレスクライアントが、ローミング中に高速認証ではなくフル認証を実行しています。                                          |
| オンボーディング       | クライアントの DHCP 到達可能性の問題                      | クライアントが DHCP サーバーから IP アドレスを取得できませんでした。                                                       |
| オンボーディング       | クライアントの DNS 到達可能性の問題                       | クライアントが DNS サーバーから応答を取得できませんでした。                                                              |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの除外 - クライアントがローミング前に除外される       | ワイヤレスクライアントの除外 - クライアントがローミングの前に除外されました。                                                      |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - クライアントのタイムアウト           | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - クライアントのタイムアウトにより認証に失敗しました。                                                 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - DHCP タイムアウト             | ワイヤレスクライアントの接続に 10 秒を超える時間がかかりました。DHCP サーバーまたはクライアントのタイムアウトにより、IP 学習フェーズで遅延が発生しました。           |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - 不正な PSK                 | 複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗し、ワイヤレスコントローラによって除外されました。クライアントの PSK が、設定された WLAN PSK と一致しなかったため、除外されました。 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - WLC 内部エラー               | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - ワイヤレスコントローラ内部エラー。                                                          |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - AAA サーバーによるクライアントの拒否 | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - AAA サーバーによりクライアントが拒否されました。                                              |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - AAA サーバーのタイムアウト      | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - AAA サーバーでタイムアウトが発生しました。                                                 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - クライアント PMK 未検出       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - クライアント PMK が見つかりません。                                                    |

| ワイヤレスクライアントの問題 |                                              |                                                                                                                                |
|----------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ           | 問題の名称                                        | [Summary]                                                                                                                      |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - クライアントのタイムアウト          | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - クライアントのタイムアウトにより認証に失敗しました。                                                                               |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - セキュリティパラメータの不一致        | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - セキュリティパラメータが一致していません。                                                                                    |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - WLC 設定エラー              | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - ワイヤレスコントローラ 設定エラー。                                                                                       |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - WLC 内部エラー              | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - ワイヤレスコントローラ 内部エラー。                                                                                       |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの AP 間のローミング失敗 - 外部エラー            | ワイヤレスクライアントの AP 間のローミング失敗 - 外部エラーが発生しました。                                                                                      |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの AP 間のローミング失敗 - WLC 設定の不一致       | ワイヤレス LAN コントローラの設定不一致により、複数のワイヤレスクライアントが AP 間のローミングで失敗しました。                                                                   |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続に時間がかかった - 認証タイムアウトによる過剰な時間    | 複数のワイヤレスクライアントの接続に時間がかかりました。オンボーディングに過剰に時間がかかったのは、認証のタイムアウトが原因です。この問題が発生するクライアントは、AAA サーバーまたはワイヤレスコントローラでグループ化されています。          |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続に時間がかかる - DHCP サーバーの障害による過剰な時間 | 複数のワイヤレスクライアントの接続に時間がかかりました。オンボーディングに過剰に時間がかかるのは、DHCP サーバーの障害が原因です。この問題が発生するクライアントは、DHCP サーバーまたはワイヤレスコントローラです。                 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続に時間がかかった - ログイン情報エラーによる過剰な接続時間 | 複数のワイヤレスクライアントの接続に時間がかかりました。オンボーディングに過剰に時間がかかったのは、ログイン情報エラーによる認証の遅延が原因でした。この問題が発生するクライアントは、AAA サーバーまたはワイヤレスコントローラでグループ化されています。 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続に時間がかかった - WLC の障害による過剰な時間     | 複数のワイヤレスクライアントの接続に時間がかかりました。オンボーディングに過剰に時間がかかったのは、認証中のワイヤレス LAN コントローラの障害が原因でした。この問題が発生するクライアントは、ワイヤレスコントローラでグループ化されています。      |

## ワイヤレスクライアントの問題

| ワイヤレスクライアントの問題 |                                                         |                                                                                                                                                                             |
|----------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ           | 問題の名称                                                   | [Summary]                                                                                                                                                                   |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続に時間がかかった - AAA サーバーまたはネットワークの遅延による過剰な認証時間 | 複数のワイヤレスクライアントの接続に時間がかかりました。オンボーディングに過剰に時間がかかったのは、認証の遅延が原因でした。認証の遅延は、AAA サーバーまたはネットワークの遅延によるものでした。                                                                          |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの除外 - IP 盗難の問題                               | 複数のワイヤレスクライアントが、ワイヤレスネットワークへの接続から除外されました。クライアントで IP 盗難の問題が検出されました。この問題が発生するクライアントは、ワイヤレスコントローラでグループ化されています。                                                                 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - AAA サーバーによるクライアントの拒否                 | AAA サーバーの拒否の失敗が理由で、複数のワイヤレスクライアントが認証に失敗しました。AAA サーバーがクライアントの認証要求を拒否しました。この問題が発生するクライアントは、AAA サーバーまたはワイヤレスコントローラでグループ化されています。                                                |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - AAA サーバーのタイムアウト                      | AAA サーバーのタイムアウトの失敗により、複数のワイヤレスクライアントが認証に失敗しました。この障害は、ワイヤレスコントローラがAAA からクライアントの認証メッセージに対する応答を受信せず、再試行後にタイムアウトした場合に発生します。この問題が発生するクライアントは、AAA サーバーまたはワイヤレスコントローラでグループ化されています。 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - クライアント PMK 未検出                       | 認証の問題により、複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。クライアントの PMK が見つかりませんでした。                                                                                                                  |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - DHCP サーバーのタイムアウト                     | 複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。DHCP サーバーのタイムアウトにより、IP 学習フェーズで障害が発生しました。複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。この問題が発生するクライアントは、DHCP サーバーまたはワイヤレスコントローラでグループ化されています。                             |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - クライアントのタイムアウトにより認証失敗                 | 複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。クライアントがタイムアウトしたため、認証に失敗しました。クライアントが認証メッセージに時間内に応答できませんでした。この問題が発生するクライアントは、サイトまたは AP グループでグループ化されます。                                               |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - クライアントのタイムアウトによる IP アドレス取得失敗         | 複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。クライアントがタイムアウトしたため、IP アドレスを取得できませんでした。クライアントが DHCP メッセージに時間内に応答できませんでした。この問題が発生するクライアントは、サイトまたは AP グループでグループ化されます。                                  |

| ワイヤレスクライアントの問題 |                                                             |                                                                                                                                                                         |
|----------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ           | 問題の名称                                                       | [Summary]                                                                                                                                                               |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - DHCPサーバーまたはクライアントのタイムアウトによる IP アドレスを取得失敗 | 複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。DHCPサーバーのタイムアウト、またはクライアントのタイムアウトにより、IP アドレスを取得できませんでした。DHCPサーバーまたはクライアントが DHCP メッセージに時間内に応答できませんでした。この問題が発生するクライアントは、サイトまたは AP グループでグループ化されます。 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - セキュリティパラメータの不一致                          | セキュリティパラメータの不一致が原因で発生した認証の問題により、複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。                                                                                                               |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続失敗 - WLC 設定エラー                                | 認証の問題により、複数のワイヤレスクライアントが接続に失敗しました。ワイヤレス LAN コントローラの設定エラーがあります。この問題が発生するクライアントは、ワイヤレスコントローラでグループ化されています。                                                                 |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - WLC のクライアント除外ポリシー                     | 複数のワイヤレスクライアントがローミングに失敗しました。クライアントは、ワイヤレス LAN コントローラのクライアント除外ポリシーにより除外されました。この問題が発生するクライアントは、ワイヤレスコントローラでグループ化されています。                                                   |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - クライアントがローミングの前に除外される                  | 複数のワイヤレスクライアントがローミングに失敗しました。クライアントは、ローミング前にワイヤレス LAN コントローラで除外されました。この問題が発生するクライアントは、ワイヤレスコントローラでグループ化されています。                                                           |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントのローミング失敗 - WLC 設定の不一致                            | ワイヤレス LAN コントローラの設定不一致により、複数のワイヤレスクライアントが AP 間のローミングで失敗しました。                                                                                                            |
| オンボーディング       | ワイヤレスクライアントの接続に時間がかかる - WLC の障害                             | 複数のワイヤレスクライアントの接続に時間がかかりました。オンボーディングに過剰に時間がかかったのは、認証中のワイヤレス LAN コントローラの障害が原因でした。この問題が発生するクライアントは、ワイヤレスコントローラでグループ化されます。                                                 |
| 接続されている状態      | デュアルバンド対応クライアントが 5 GHz より 2.4 GHz を優先                       | デュアルバンド対応クライアントは、より優れたエクスペリエンスを提供する 5 GHz 無線が利用できるにもかかわらず、一貫して 2.4 GHz 無線に接続しています。                                                                                      |
| 接続されている状態      | ワイヤレスクライアントの RF が弱い                                         | ワイヤレスクライアントに、ローミングできる、信号の強いネイバー AP がないため、クライアントの RF 状態が低下しています。                                                                                                         |

## AAA 障害の根本原因分析の問題を有効にする

| ワイヤレスクライアントの問題 |                       |                                                                      |
|----------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ           | 問題の名称                 | [Summary]                                                            |
| 接続されている状態      | ワイヤレスクライアントのスティッキーな動作 | ワイヤレスクライアントは、信号が弱いAPとのアソシエーションを維持しています。信号強度の高い利用可能なAPにローミングする必要があります |

## AAA 障害の根本原因分析の問題を有効にする

Cisco DNA Center は、Cisco ISE syslog と統合して、次の問題をトラブルシューティングします。

- ワイヤレスクライアントの接続失敗：AAA サーバーによりクライアントが拒否されました
- ワイヤレスクライアントの接続失敗：AAA サーバーのタイムアウト

トラブルシューティング ワークフローは、[Client 360] ウィンドウの単一のクライアントの問題から、または [Issues] ダッシュボードのワイヤレスクライアントの問題からアクセスする MRE ワークフローです。

Cisco DNA Center は、クライアント認証の失敗に対して Cisco ISE によって生成された syslog を表示します。これにより、Cisco ISE にログインしてそこでクライアントを検索することなく、クライアント認証の失敗の根本原因を特定できます。

アシュアランス で AAA 障害の根本原因分析の問題を有効にするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Cisco DNA Center で、[System] > [Settings] > [External Services] > [Authentication and Policy Servers] の順に選択し、Cisco ISE を Cisco DNA Center に追加して設定します。この手順により、Cisco ISE ポリシーサーブスノード (PSN) が syslog 許可リストに追加されます。

**ステップ 2** Cisco ISE で、[Administration] > [System] > [Logging] > [Remote Logging Targets] の順に選択し、Cisco DNA Center を syslog の接続先として追加します。

**ステップ 3** Cisco ISE で、[Administration] > [System] > [Logging] > [Logging Categories] の順に選択し、前の手順で追加したターゲットをロギングカテゴリの [Failed Attempts]、[Authentication Flow Diagnostics]、および [RADIUS Diagnostics] に追加します。

Cisco ISE syslog を Cisco DNA Center に送信できるようになりました。Cisco DNA Center はクライアントのオンボーディングの問題について、Cisco ISE syslog を処理して保存します。

## アプリケーションの問題

アシュアランス によって検出されるアプリケーションの問題を次の表に示します。

| アプリケーションの問題 |                     |                             |
|-------------|---------------------|-----------------------------|
| カテゴリ        | 問題の名称               | [Summary]                   |
| アプリケーション    | アプリケーションエクスペリエンスの問題 | アプリケーションエクスペリエンスに関するすべての問題。 |

## センサーの問題

アシュアランス で検出されるセンサーの問題を次の表に示します。

同じフロアにある 2 つ以上のセンサーが 30 分間のテストに失敗した場合、センサーは失敗の根本原因に基づいて問題を報告することがあります。これらのセンサーの問題はすべてグローバルな問題です。つまり、すべてのフロアのセンサーの問題がエスカレーションされて、[Issues] ダッシュボードに表示されます。

| センサーの問題 |                          |                                                    |
|---------|--------------------------|----------------------------------------------------|
| カテゴリ    | 問題の名称                    | [Summary]                                          |
| センサーテスト | センサー-速度テスト HTTP エラー      | クエリサーバーへのアクセス中、複数のセンサーが速度テスト HTTP エラーを報告しています。     |
| センサーテスト | センサー - DHCP の障害          | 複数のセンサーが IPv4 アドレスを取得できませんでした。                     |
| センサーテスト | センサー - DNS 解決の失敗         | 複数のセンサーが DNS サーバーによるドメイン名の解決に失敗しました。               |
| センサーテスト | センサー - オンボーディング時の関連付けの失敗 | 複数のセンサーがオンボーディング時の関連付けに失敗しました。                     |
| センサーテスト | センサー - オンボーディング時の認証の失敗   | 複数のセンサーがオンボーディング時の認証に失敗しました。                       |
| センサーテスト | センサー - FTP テスト失敗         | 複数のセンサーが FTP サーバーに接続できないことを報告しています。                |
| センサーテスト | センサー - FTP 転送の失敗         | 複数のセンサーが FTP サーバーとのファイル転送に失敗したことを報告しています。          |
| センサーテスト | センサー - FTP 到達不能          | 複数のセンサーが FTP サーバーに到達できないことを報告しています。                |
| センサーテスト | センサー - iPerf の無効な設定エラー   | 無効な iPerf 設定を受信したため、複数のセンサーが iPerf テストを実行できませんでした。 |
| センサーテスト | センサー - iPerf サーバーがビジー状態  | iPerf のビジー状態エラーが原因で、複数のセンサーが iPerf テストを実行できませんでした。 |

| センサーの問題 |                           |                                                                   |
|---------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ    | 問題の名称                     | [Summary]                                                         |
| センサーテスト | センサー - iPerf テストネットワークエラー | iPerfのネットワークエラーが原因で、複数のセンサーがiPerfテストを実行できませんでした。                  |
| センサーテスト | センサー - iPerf 未定義のエラー      | 未定義エラーが原因で、複数のセンサーがiPerfテストを実行できませんでした。                           |
| センサーテスト | センサー - IPSLA IP アドレスなし    | 複数のセンサーが Cisco DNA Center から IPSLA テスト IP アドレスを受信していないことを報告しています。 |
| センサーテスト | センサー - IPSLA 応答なし         | 複数のセンサーが IPSLA テストで IPSLA 応答側からの応答がないことを報告しています。                  |
| センサーテスト | センサー - IPSLA ソケットエラー      | 複数のセンサーが IPSLA テストソケットエラーを報告しています。                                |
| センサーテスト | センサー - IPSLA テスト失敗        | 複数のセンサーが IPSLA テスト失敗を報告しています。                                     |
| センサーテスト | センサー - IPSLA 非対応プローブタイプ   | 複数のセンサーが IPSLA テスト非対応プローブタイプを報告しています。                             |
| センサーテスト | センサー - メールサーバーのテスト失敗      | 複数のセンサーがメールサーバーに接続できなかったことを報告しています。                               |
| センサーテスト | センサー - メールサーバーに到達不能       | 複数のセンサーがメールサーバーに到達できないことを報告しています。                                 |
| センサーテスト | センサー - NDT サーバーなし         | 複数のセンサーが速度テスト NDT サーバーが存在しないことを報告しています。                           |
| センサーテスト | センサー - オンボーディングの障害        | センサーがワイヤレスネットワークに接続できませんでした。                                      |
| センサーテスト | センサー - Outlook サーバーのテスト失敗 | 複数のセンサーが Outlook Web アクセスに接続できなかったことを報告しています。                     |
| センサーテスト | センサー - Outlook サーバーに到達不能  | 複数のセンサーが Outlook Web アクセスホストに到達できないことを報告しています。                    |
| センサーテスト | センサー - クエリサーバーのタイムアウト     | 複数のセンサーが速度テスト対象クエリサーバーのタイムアウトを報告しています。                            |
| センサーテスト | センサー - RADIUS 認証の失敗       | 複数のセンサーが RADIUS サーバーでの認証に失敗したことを報告しています。                          |
| センサーテスト | センサー - 速度テスト失敗            | 複数のセンサーが速度テスト失敗を報告しています。                                          |




| センサーの問題 |                            |                                               |
|---------|----------------------------|-----------------------------------------------|
| カテゴリ    | 問題の名称                      | [Summary]                                     |
| センサーテスト | センサー - 速度テストの一般的なエラー       | 複数のセンサーが速度テストの一般的な障害を報告しています。                 |
| センサーテスト | センサー - 速度テストのアップリンクタイムアウト  | 複数のセンサーが速度テストでのアップリンクテストのタイムアウトを報告しています。      |
| センサーテスト | センサー - 速度テスト URL エラー       | クエリサーバーへのアクセス中、複数のセンサーが速度テスト URL エラーを報告しています。 |
| センサーテスト | センサー - 到達不能なホスト            | 複数のセンサーがホストへの ping の失敗を報告しています。ホストに到達できません。   |
| センサーテスト | センサー - 到達不能な RADIUS        | 複数のセンサーが RADIUS サーバーに到達できないことを報告しています。        |
| センサーテスト | センサー - Web 認証の失敗           | 複数のセンサーが、クライアントが Web 認証テストに失敗していることを報告しています。  |
| センサーテスト | センサー - Web サーバーのテスト失敗      | 複数のセンサーが Web サーバーからページをロードできなかったことを報告しています。   |
| センサーテスト | センサー - Web サーバーに到達不能       | 複数のセンサーが Web サーバーに到達できないことを報告しています。           |
| センサーテスト | センサー - Web ソケットエラー         | 複数のセンサーがテスト中に速度テスト websocket エラーを報告しています。     |
| センサーテスト | センサー - 速度テストのアップリンクプロキシエラー | 複数のセンサーが速度テストのアップリンクテストでプロキシエラーを報告しています。      |

次の表には、前の表のすべての行に加えて、Cyclopsで削除するように求められた行が含まれています。次の表には、dnac\_hide\_content FID が適用されています。この情報が必要になる場合に備えて、行を保持します（ただし、すべてを非表示にします）。

## AI 駆動型の問題

Cisco AI Network Analytics によって検出される AI 駆動型の問題を次の表に示します。

| AI 駆動型の問題 |                                                                                                         |                                                                            |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 接続の問題     |                                                                                                         |                                                                            |
| オンボーディング  |  過剰な接続時間 - 基準から大きく乖離 | 通常と比較して、ネットワークでのオンボーディング時間がかなり長くなっています。クライアントは、SSID に接続するのに通常より時間がかかっています。 |

## AI 駆動型の問題

| AI 駆動型の問題           |                                      |                                                                                                                |
|---------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オンボーディング            | AI 過剰な接続障害回数 - 基準から大きく乖離             | ネットワークで、通常と比較して過剰なオンボーディングエラーが発生しています。クライアントは、 <i>SSID</i> に接続するのに通常より時間がかかっています。                              |
| オンボーディング            | AI 過剰なワイヤレスクライアントの接続時間 - 基準を上回る合計時間  | ワイヤレスクライアントが、 <i>location</i> にある <i>SSID</i> への接続に時間がかかりました。                                                  |
| AAA                 | AI 過剰な関連付け時間 - 基準から大きく乖離             | 過剰な関連付け時間 - <i>SSID</i> での時間が少なくとも <i>value%</i> 増加しています。                                                      |
| AAA                 | AI 過剰な関連付け障害回数 - 基準から大きく乖離           | 過剰な関連付け障害回数 - <i>SSID</i> での障害回数が少なくとも <i>value%</i> 増加しています。                                                  |
| AAA                 | AI 過剰な認証時間 - 基準から大きく乖離               | 過剰な認証時間 - <i>SSID</i> での時間が少なくとも <i>value%</i> 増加しています。                                                        |
| AAA                 | AI 過剰な認証障害回数 - 基準から大きく乖離             | 過剰な認証障害回数 - <i>SSID</i> での障害回数が少なくとも <i>value%</i> 増加しています。                                                    |
| DHCP                | AI IP アドレスの取得にかかる過剰な時間 - 基準から大きく乖離   | IP アドレスを取得するための過剰な時間 - <i>server_IP</i> からの取得時間が少なくとも <i>value%</i> 増加しています。                                   |
| DHCP                | AI 過剰な IP アドレス取得失敗回数 - 基準から大きく乖離     | 過剰な IP アドレス取得失敗回数 - <i>server_IP</i> での障害回数が少なくとも <i>value%</i> 増加しています。                                       |
| ネットワークの接続性に関する問題    |                                      |                                                                                                                |
| 接続性                 | AI ネットワークデバイスでホスト MAC アドレスのフラッピングが発生 | ネットワークでレイヤ 2 のループ症状が発生しています。                                                                                   |
| ローミングの問題            |                                      |                                                                                                                |
| オンボーディング            | AI 過剰な接続時間 - 基準から大きく乖離               | 通常と比較して、ネットワークでのオンボーディング時間がかなり長くなっています。                                                                        |
| オンボーディング            | AI ローミング時間の超過障害 - 基準から大きく乖離          | 通常と比較して、ネットワークでのローミング時間がかなり長くなっています。                                                                           |
| アプリケーションエクスペリエンスの問題 |                                      |                                                                                                                |
| スループット              | AI すべてのアプリケーションの合計無線スループットの低下        | ネットワーク内の AP で、すべてのアプリケーションの合計無線スループットが低下しています。これらの無線は <i>frequency</i> 帯域内にあります。これらの無線は <i>location</i> にあります。 |

| AI 駆動型の問題 |                               |                                                                                                              |
|-----------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スループット    | AI クラウドアプリケーションの無線スループットの低下   | ネットワーク内の AP で、クラウドアプリケーションのスループットが低下しています。これらの無線は <i>frequency</i> 帯域内にあります。これらの無線は <i>location</i> にあります。   |
| スループット    | AI ソーシャルアプリケーションの無線スループットの低下  | ネットワーク内の AP で、ソーシャルアプリケーションのスループットが低下しています。これらの無線は <i>frequency</i> 帯域内にあります。これらの無線は <i>location</i> にあります。  |
| スループット    | AI メディアアプリケーションの無線スループットの低下   | ネットワーク内の AP で、メディアアプリケーションのスループットが低下しています。これらの無線は <i>frequency</i> 帯域内にあります。これらの無線は <i>location</i> にあります。   |
| スループット    | AI Colab アプリケーションの無線スループットの低下 | ネットワーク内の AP で Colab アプリケーションのスループットが低下しています。これらの無線は <i>frequency</i> 帯域内にあります。これらの無線は <i>location</i> にあります。 |

## MRE の問題

次の表に、MRE ワークフローを使用してトラブルシューティング可能なアシュアランスで検出される問題を示します。

| MRE の問題     |                            |                                                                              |
|-------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ        | 問題の名称                      | [Summary]                                                                    |
| 有線クライアントの問題 |                            |                                                                              |
| オンボーディング    | クライアントの DHCP 到達可能性の問題      | クライアントが DHCP サーバーから IPv4 アドレスを取得できませんでした。                                    |
| オンボーディング    | 有線クライアント認証エラー - Dot1.x エラー | Dot1.x の問題が原因で、有線クライアントの認証に失敗しました。<br><br>(注) この問題は、単独の有線クライアントにのみ適用されます。    |
| オンボーディング    | 有線クライアント認証エラー - MAB エラー    | MAC 認証バイパスの問題が原因で、有線クライアントの認証に失敗しました。<br><br>(注) この問題は、単独の有線クライアントにのみ適用されます。 |
| PoE の問題     |                            |                                                                              |
| デバイス        | PoE 受電デバイスに障害フラグあり         | PoE ポートに接続された PoE 対応デバイスに障害があると Syslog イベントにフラグが付きました。                       |





## 第 13 章

# イベントの表示と管理

- [イベントダッシュボードの概要 \(321 ページ\)](#)
- [デバイスイベントの表示 \(322 ページ\)](#)
- [エンドポイントイベントの表示 \(325 ページ\)](#)
- [イベント分析の表示：ダッシュボードのプレビュー \(328 ページ\)](#)

## イベントダッシュボードの概要

イベントダッシュボードは、デバイス（ルーター、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、AP）およびエンドポイント（有線およびワイヤレス）のイベントのコンテキストビューを提供します。イベントに関連する他のデバイスに接続されているデバイスによってトリガーされたイベントを検索する代わりに、アシュアランスがこれらの詳細を提供します。

デフォルトでは、イベントダッシュボードにはタイムラインチャートとリストビューが表示されます。

タイムラインチャートは、一定期間に発生したデバイスタイプ別のイベント数を色で表現します。

リストビューには、イベントのテーブルが表示されます。最大 10,000 のイベントが表示できますが、それ以上のイベントがログに記録されている場合があります。最大 5000 件のイベントを CSV ファイルにエクスポートできます。ただし、5000 を超えるイベントがある場合、エクスポート機能は無効になります。

リストビューからイベントをクリックして、接続されたデバイスによってトリガーされたイベントなどの詳細を表示できます。イベントの時間の範囲は、15 分刻みで最大 1 時間（+/- 15 分、+/- 30 分、+/- 45 分、+/- 1 時間）設定できます。

複数のイベントを選択すると、イベントの詳細を含む複数のカードを表示できます。複数のイベントカードが表示されている場合、カードを最小化、最大化、および閉じることができます。たとえば、あるイベントについて接続デバイスイベントテーブルを表示するには、そのイベントカードを最大化します。複数のカードビューに戻るには、カードを最小化します。

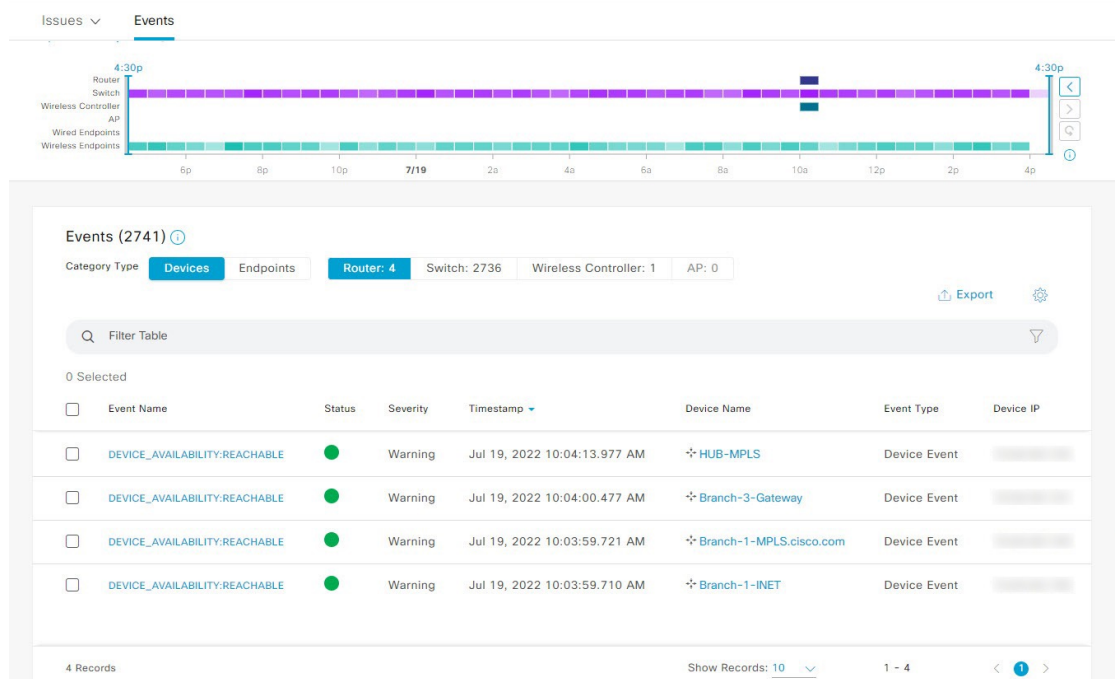
## デバイスイベントの表示










この手順を使用して、ルータ、スイッチ、ワイヤレスコントローラ、およびAPによって生成されたイベントを表示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Dashboards] > [Issues and Events] の順に選択します。

デフォルトで [Category Type] として [Device] が選択された状態で [Events] ダッシュボードが開きます。

図 39: Device Events ダッシュボード



| Device Events ダッシュボード                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|  Global           | <ul style="list-style-type: none"> <li>上部のメニューバーで  をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。</li> <li>[location] アイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して、各サイトのイベントカウントを表示します。</li> <li>ドロップダウンリストから [Hierarchical Site View] または [Building View] を選択します。選択した項目に基づいて、テーブルが更新されます。</li> <li>[Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのイベントのみが表示されます。</li> </ul>                       |
|  [Time Range] の設定 | <p>選択した時間範囲に基づく情報をウィンドウに表示できます。デフォルトは [24 Hours] です。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[24 Hours] ドロップダウンリストで、時間範囲 ([3 hours]、[24 Hours]、または [7 days]) を選択します。</li> <li>[Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。</li> <li>[Apply] をクリックします。<br/>これにより、タイムラインの範囲が設定されます。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| タイムラインスライダ                                                                                         | <p>より詳細な時間範囲を指定できます。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。</p> <p>色は、デバイスの種類を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> : ルータ</li> <li> : スイッチ</li> <li> : ワイヤレスコントローラ</li> <li> : AP</li> </ul> <p>色の明度は重要性（そのデバイスで発生したイベント数の多寡）を示します。たとえば、薄い青色は、濃い青色よりもルーターのイベントが少ないことを示します。</p> |
| <b>Total Events</b>                                                                                | 特定の時間範囲におけるすべてのデバイスタイプのイベントの総数。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

**ステップ 2** [Events] の [Category Type] で、[Router] タブ、[Switch] タブ、[Wireless Controller] タブ、または [AP] タブをクリックして、そのデバイスタイプのイベントのリストをテーブルに表示します。

| イベントの表             |                                                                                                   |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム               | 説明                                                                                                |
| <b>Event Name</b>  | イベントの名前。<br>イベント名をクリックすると、イベントの詳細が表示されたslide-in paneが開きます。                                        |
| <b>Status</b>      | デバイスのステータスです。<br>色はイベントの重大度を表します。<br>● : エラー。<br>● : 警告。<br>● : 情報。<br>● : 使用できるデータがありません。        |
| <b>重大度</b>         | イベントの重大度 : Critical 以上 (Emergency および Alert) と、Critical レベルよりも低い重大度 (Error、Warning、Notice、Info) 。 |
| <b>Timestamp</b>   | イベントが発生した日付と時刻。                                                                                   |
| <b>Device Name</b> | イベントの影響を受けたデバイス名。<br>デバイス名をクリックして、[Device 360] ウィンドウを開きます。                                        |
| <b>イベントタイプ</b>     | イベントのカテゴリ: Syslog、トラップ、イベント、または AP イベント。                                                          |
| <b>デバイス IP</b>     | デバイスの IP アドレス。                                                                                    |


**ステップ 3** 複数のイベントを表示するには、表示する各イベントの横にあるチェックボックスをオンにして、[Show Selected Events] をクリックします。


[Multiple Events] slide-in paneが開き、各イベントが個別のカードに表示されます。

カードの中から、次のことができます。

- カードを最小化、最大化、および閉じます。
- 下矢印をクリックして詳細を表示します。
- ハイパーリンクをクリックして、それぞれの [Device 360] ウィンドウを起動します。

カードを最大化すると、接続されているデバイスのイベントがすべて表示されます。

**ステップ 4** [Multiple Events] slide-in paneで、リストビューアイコン  をクリックすると、リスト内のすべてのサブイベントを集めたものが順番に表示されます。

カードビューに戻るには、カードビューアイコン  をクリックします。



# エンドポイントイベントの表示

この手順を使用して、有線およびワイヤレスエンドポイントによって生成されたイベントを表示します。

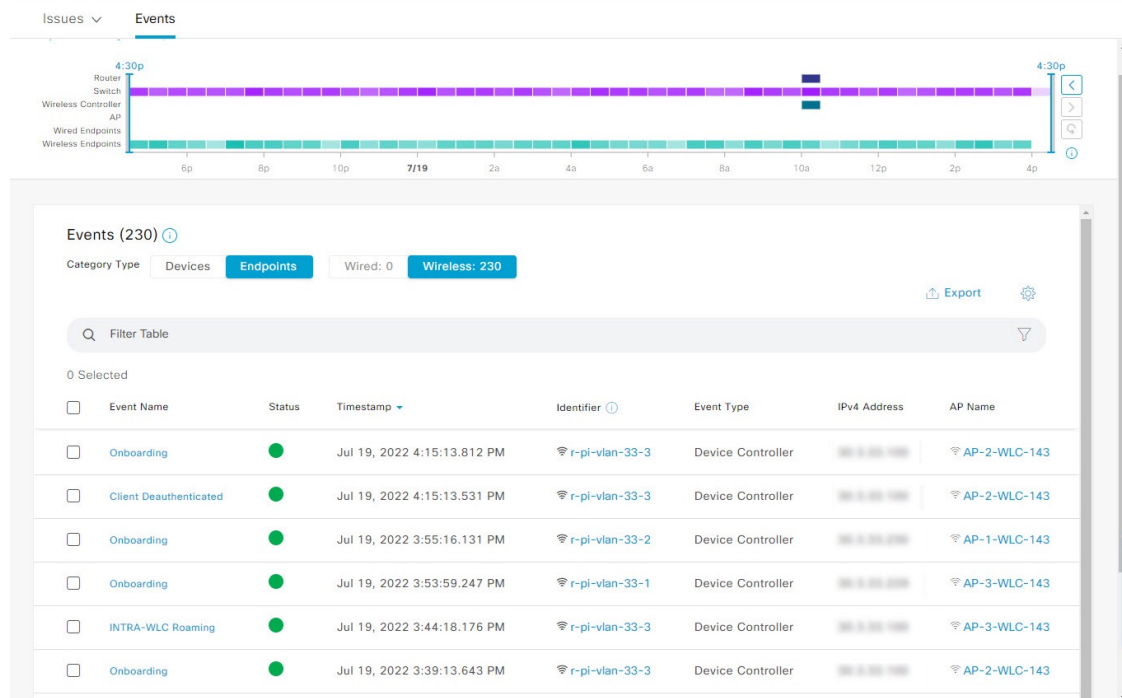
**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Dashboards] > [Issues and Events] の順に選択します。


**ステップ 2** [Events] タブをクリックします。

[Events] ダッシュボードが開きます。

**ステップ 3** [Category Type] で、[Endpoints] タブをクリックします。

図 40: Endpoint Events ダッシュボード



| Device Events ダッシュボード                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|  Global              | <ul style="list-style-type: none"> <li>上部のメニューバーで  Global  をクリックして、サイト階層からサイト、建物、またはフロアを選択します。</li> <li>[location] アイコンの横にある  をクリックし、[Site Details] を選択して、各サイトのイベントカウントを表示します。</li> <li>ドロップダウンリストから [Hierarchical Site View] または [Building View] を選択します。選択した項目に基づいて、テーブルが更新されます。</li> <li>[Go to sites] 列でサイトまたは建物の  をクリックすると、そのロケーションのイベントのみが表示されます。</li> </ul> |
| <br>[Time Range] の設定 | 選択した時間範囲に基づく情報をウィンドウに表示できます。デフォルトは [24 Hours] です。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>[24 Hours] ドロップダウンリストで、時間範囲 ([3 hours]、[24 Hours]、または [7 days]) を選択します。</li> <li>[Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。</li> <li>[Apply] をクリックします。</li> </ol> これにより、タイムラインの範囲が設定されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| タイムラインスライダ                                                                                            | より詳細な時間範囲を指定できます。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。<br>色は、エンドポイントの種類を表します。 <ul style="list-style-type: none"> <li> : 有線</li> <li> : ワイヤレス</li> </ul> 色の明度は重要性（そのデバイスで発生したイベント数の多寡）を示します。たとえば、薄い紫色は、濃い紫色よりもエンドポイントのイベントが少ないことを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>Total Events</b>                                                                                   | 特定の時間範囲におけるすべてのエンドポイントタイプのイベントの総数。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

ステップ 4 [Wired] または [Wireless] タブをクリックして、テーブル内のそのエンドポイントタイプのイベントのリストを表示します。

| イベントの表                                 |                                                                                                                     |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                   | 説明                                                                                                                  |
| <b>Event Name</b>                      | イベントの名前。<br>イベント名をクリックすると、その詳細が表示されたslide-in paneが開きます。                                                             |
| <b>Status</b> (有線エンドポイントのみ)            | 色はイベントの重大度を表します。<br>● : エラー。<br>● : 警告。<br>● : 情報。<br>● : 使用できるデータがありません。                                           |
| <b>Severity</b> (有線エンドポイントのみ)          | イベントのシビラティ (重大度) です。重大度は、Critical 以上 (Emergency、Alert)、およびこれより低い重大度 (Error、Warning、Notice、Info) の場合があります。           |
| <b>Timestamp</b>                       | イベントが発生した日付と時刻。                                                                                                     |
| [Identifier]                           | エンドポイントの識別子。これは、その順序での可用性に応じて、ユーザー ID、ホスト名、IP アドレス、MAC アドレスのいずれかになります。<br>識別子をクリックすると、その詳細が表示されたslide-in paneが開きます。 |
| <b>イベント タイプ</b>                        | イベントのカテゴリ: Syslog、トラップ、イベント、または AP イベント。                                                                            |
| <b>IPv4 アドレス (IPv4 Address)</b>        | エンドポイントに接続されているデバイスの IPv4 アドレス。                                                                                     |
| <b>AP Name</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ)        | ワイヤレスエンドポイントに接続されている AP の名前。<br>AP 名をクリックして、[Device 360] ウィンドウを開きます。                                                |
| <b>Switch</b> (有線エンドポイントのみ)            | 有線エンドポイントに接続されているスイッチの名前。<br>スイッチ名をクリックして、[Device 360] ウィンドウを開きます。                                                  |
| [MAC Address]                          | エンドポイントに接続されているデバイスの MAC アドレス。                                                                                      |
| <b>Port</b> (有線エンドポイントのみ)              | 有線エンドポイントに接続されているスイッチポート。                                                                                           |
| <b>VLAN ID</b> (有線エンドポイントのみ)           | 有線エンドポイントに接続されているスイッチポートの VLAN ID。                                                                                  |
| <b>Switch IP Address</b> (有線エンドポイントのみ) | 有線エンドポイントに接続されているスイッチの IP アドレス。                                                                                     |
| <b>APMAC</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ)          | ワイヤレスエンドポイントに接続されている AP の MAC アドレス。                                                                                 |

| イベントの表                                           |                                     |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------|
| アイテム                                             | 説明                                  |
| <b>SSID</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ)                     | ワイヤレスエンドポイントが使用している SSID。           |
| <b>UserID</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ)                   | ワイヤレスエンドポイントのユーザー ID。               |
| <b>Wireless Controller Name</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ) | ワイヤレスエンドポイントに接続されているワイヤレスコントローラの名前。 |
| <b>Band</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ)                     | ワイヤレスエンドポイントが使用している無線帯域。            |
| <b>DHCP Server</b> (ワイヤレスエンドポイントのみ)              | ワイヤレスエンドポイントが使用している DHCP サーバー。      |


**ステップ 5** 複数のイベントを表示するには、表示する各イベントの横にあるチェックボックスをオンにして、[Show Selected Events] をクリックします。


[Multiple Events] slide-in paneが開き、各イベントが個別のカードに表示されます。

カードの中から、次のことができます。

- カードを最小化、最大化、および閉じます。
- 下矢印をクリックして詳細を表示します。
- ハイパーリンクされたデータをクリックします。

カードを最大化すると、接続されているデバイスのイベントがすべて表示されます。

**ステップ 6** [Multiple Events] slide-in paneで、リストビューアイコン  をクリックすると、リスト内のすべてのサブイベントを集めたものが順番に表示されます。

カードビューに戻るには、カードビューアイコン  をクリックします。

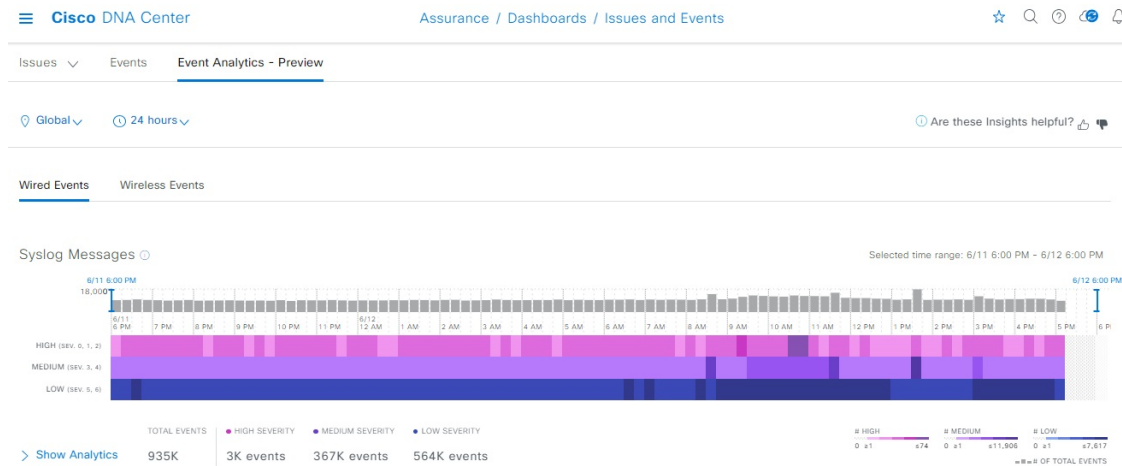
## イベント分析の表示：ダッシュボードのプレビュー

[Events Analytics - Preview] ダッシュボードには、さまざまなタイプのネットワークイベントである syslog メッセージが可視化されるため、ユーザーは異なるデータソース間のトレンドを識別し、イベントを関連付けられます。

この手順を使用して、syslog メッセージの数と有線およびワイヤレス ネットワーク イベントの到達可能性の遷移を表示するヒートマップとして表される分析とインサイトを表示します。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Assurance] > [Dashboards] > [Issues and Events]** の順に選択します。
- ステップ 2** **[Event Analytics - Preview]** タブをクリックすると、イベント分析ダッシュボードが開き、有線イベントが表示されます。

図 41 : **[Event Analytics - Preview]** ダッシュボード

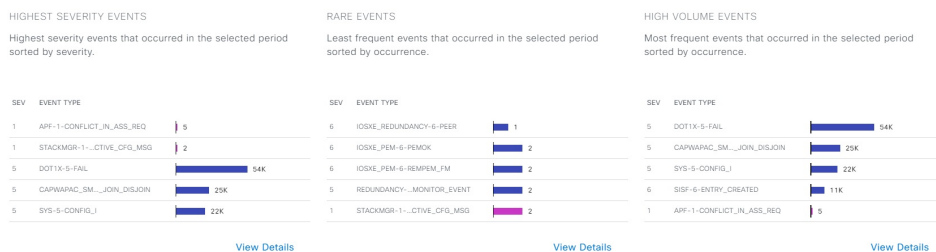


| [Event Analytics - Preview] ダッシュボード |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                     | 上部のメニューバーでこのアイコンをクリックして、[Select a location] スライドインページからサイト階層のサイト、建物、またはフロアを選択します。                                                                                                                                                                                                                                           |
| <br>[Time Range] の設定                | <p>選択した時間範囲に基づく情報をウィンドウに表示できます。デフォルトは [24 Hours] です。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[24 Hours] ドロップダウンリストで、時間範囲 ([24 hours]、[7 days]、[14 days]、[30 days]、または [60 days]) を選択します。</li> <li>[Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。</li> <li>[Apply] をクリックします。</li> </ol> <p>これにより、タイムラインの範囲が設定されます。</p> |

- ステップ 3** **[Wired Events]** をクリックして、syslog メッセージの数と有線デバイスからの到達可能性の遷移を表示するヒートマップを表示します。これには、最大 24 時間の期間に対して 15 分単位のメッセージ重大度データの内訳が含まれます。7 日の場合は 4 時間単位、14 日および 30 日の場合は 12 時間単位、60 日の場合は 24 時間単位となります。

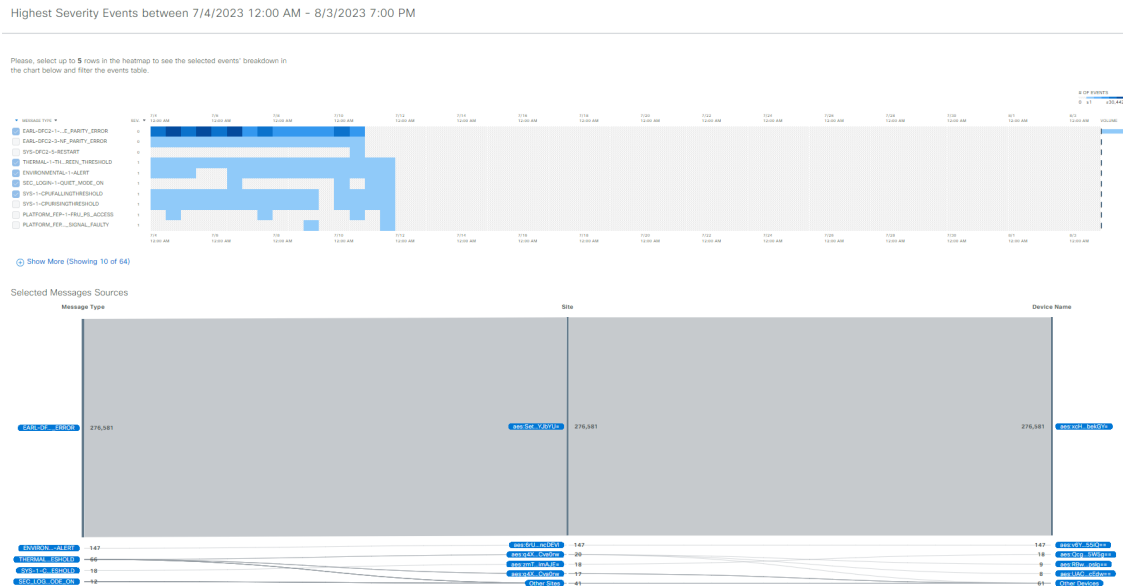
**Syslog メッセージ :**

- ヒートマップの上部にあるタイムスライダを使用して **syslog** メッセージのヒートマップに特定の期間を設定し、イベントの合計数、高、中、低に分類されたメッセージ重大度の数を表示できます。
- インサイトと分析データの **syslog** メッセージを表示するには、[Show Analytics] をクリックします。さまざまな可視化を備えた一連のカードには、**syslog** メッセージまたはデバイスの数が異なる分析基準に基づいた順序で表示されます。現在サポートされている **syslog** メッセージの分析は、次のとおりです。
  - 重大度が最も高いイベント：選択した期間に発生した重大度が最も高いイベントです（重大度別）。
  - 頻度の低いイベント：選択した期間に発生した最も頻度の低いイベントです（発生回数別）。
  - 大量のイベント：選択した期間に発生した最も頻度の高いイベントです（発生回数別）。
  - メッセージ量の増加：選択した期間内で増加量が最も高いイベントです（変動量別）。
  - メッセージ量の減少：選択した期間内で減少量が最も高いイベントです（変動量別）。
  - 新規イベント：選択した期間の終わりの時点で発生が開始されていたイベントです（発生回数別）。
  - 最もアクティブなデバイス：選択した期間に最も多くのイベントを生成したデバイスです（生成量別）。

図 42: **syslog** メッセージの分析

- [View Details] をクリックしてスライドインペインを開き、各イベントタイプのイベント数に関する詳細なヒートマップを時系列で表示します。ヒートマップで最大 5 つの **syslog** メッセージタイプを選択して Sankey チャートをフィルタ処理し、選択したイベントタイプの分布を表示して、特定のサイトおよびデバイス生成イベントについて学習できます。

図 43: Sankey チャートを使用した *syslog* イベントヒートマップ



- Sankey チャートでメッセージタイプ、サイト、またはデバイスを選択し、チャートの下にあるイベントテーブルをフィルタ処理してデータを表示できます。イベントテーブルには、最大 10,000 のイベントを表示できます。ユーザー定義の問題を作成するには、イベントテーブルの [messages] をクリックし、[Confirm] をクリックします。

**到達可能性の遷移 :**

- ヒートマップの上部にあるタイムスライダを使用してヒートマップで特定の期間を設定し、イベント、到達不能イベント、到達可能イベント、および ping 到達可能イベントの合計数を表示できます。
- 別のカードに表示された有線デバイスからの各到達可能性の遷移（上位ステータス遷移、イベント別上位デバイス）のインサイトと分析データを表示するには、[Show Analytics] をクリックします。
- [View Details] をクリックしてスライドインペインを開き、各イベントタイプのイベント数に関する詳細なヒートマップを時系列で表示します。ヒートマップで最大5つのイベントを選択して Sankey チャートをフィルタ処理し、選択したイベントタイプの分布を表示して、特定のサイトおよびデバイス生成イベントについて学習できます。
- Sankey チャートで From イベント、To イベント、サイト、またはデバイスを選択し、イベントテーブルをフィルタ処理して、各イベントの到達可能性の遷移を表示できます。イベントテーブルには、最大 10,000 のイベントを表示できます。

**ステップ 4** [Wireless Events] をクリックして、syslog メッセージの数と有線デバイスからの到達可能性の遷移を表示するヒートマップを表示します。これには、15 分単位のメッセージ重大度データの内訳が含まれます。

**syslog メッセージ :**

- ヒートマップの上部にあるタイムスライダを使用して syslog メッセージのヒートマップに特定の期間を設定し、イベントの合計数、高、中、低に分類されたメッセージ重大度の数を表示できます。

- 別のカードに表示される各 syslog メッセージのインサイトと分析データを表示するには、[Show Analytics] をクリックします。使用可能な syslog メッセージの分析カードが、重大度とイベントタイプとともに表示されます。
- [View Details] をクリックしてスライドインペインを開き、各イベントタイプのイベント数に関する詳細なヒートマップを時系列で表示します。ヒートマップで最大 5 つの syslog メッセージタイプを選択して Sankey チャートをフィルタ処理し、選択したイベントタイプの分布を表示して、特定のサイトおよびデバイス生成イベントについて学習できます。
- Sankey チャートでメッセージタイプ、サイト、またはデバイスを選択し、イベントテーブルをフィルタ処理して syslog メッセージを表示できます。イベントテーブルには、最大 10,000 のイベントを表示できます。

#### 到達可能性の遷移：

- ヒートマップの上部にあるタイムスライダを使用してヒートマップで特定の期間を設定し、イベント、到達不能イベント、到達可能イベント、および ping 到達可能イベントの合計数を表示できます。
- 別のカードに表示されたワイヤレスデバイスからの各到達可能性の遷移（上位ステータス遷移、イベント別上位デバイス）のインサイトと分析データを表示するには、[Show Analytics] をクリックします。
- [View Details] をクリックしてスライドインペインを開き、各イベントタイプのイベント数に関する詳細なヒートマップを時系列で表示します。ヒートマップで最大 5 つのイベントを選択して Sankey チャートをフィルタ処理し、選択したイベントタイプの分布を表示して、特定のサイトおよびデバイス生成イベントについて学習できます。
- Sankey チャートで From イベント、To イベント、サイト、またはデバイスを選択し、イベントテーブルをフィルタ処理して、各イベントの到達可能性の遷移を表示できます。イベントテーブルには、最大 10,000 のイベントを表示できます。





## 第 14 章

# センサーの管理とセンサー主導のテスト

- [センサーとセンサー主導のテストについて \(333 ページ\)](#)
- [センサーのプロビジョニング \(334 ページ\)](#)
- [センサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング \(340 ページ\)](#)
- [センサーの管理とバックホールの設定 \(348 ページ\)](#)
- [SCEP プロファイルの管理 \(353 ページ\)](#)
- [センサー主導テスト \(354 ページ\)](#)

## センサーとセンサー主導のテストについて

センサーはセンサー主導のテストを使用して、ワイヤレスネットワークの正常性を判断します。ワイヤレスネットワークには、AP 無線、WLAN の設定、ワイヤレス ネットワーク サービスが含まれます。

アシュアランス専用センサーをサポートしています。これはセンサー機能を実行するための専用ハードウェアです。

専用の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーは、PnP を使用してブートストラップされます。このセンサーは、アシュアランスサーバーの到達可能性の詳細を取得すると、アシュアランスサーバーと直接通信します。

### サポート対象のセンサーとシスコ ワイヤレス コントローラのソフトウェアリリース

センサー機能に必要なシスコ ワイヤレス コントローラと Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーイメージの最小ソフトウェアバージョンは、次のとおりです。

| サポート対象のセンサーとワイヤレスコントローラ           | 最小ソフトウェア リリース |
|-----------------------------------|---------------|
| シスコ ワイヤレス コントローラ (35xx、55xx、85xx) | 8.5.115.0     |

|                                 |                    |
|---------------------------------|--------------------|
| サポート対象のセンサーとワイヤレスコントローラ         | 最小ソフトウェア リリース      |
| Cisco Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラ | IOS-XE 16.12.1s 以降 |
| Cisco Aironet 1800s アクティブ センサー  | 8.8.263.0          |

## センサーのプロビジョニング

### ワイヤレス Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーのプロビジョニング

**ステップ 1** イーサネットモジュールなしで Cisco Aironet AP 1800S センサーを使用している場合は、ワイヤレスコントローラの Cisco プロビジョニング SSID を有効にする必要があります。

(注) ソフトウェアリリース 1.3.1.2 よりも前の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーの場合は、センサーデバイスプロファイル **CiscoProvisioningSSID** を選択しないようにしてください。代わりに、バックホール用に独自の SSID を選択します。[バックホールの設定の管理 \(350 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco ワイヤレス コントローラについては、[ワイヤレス コントローラのプロビジョニング SSID の有効化 \(335 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco Catalyst ワイヤレス コントローラについては、[Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラのシスコプロビジョニング SSID の有効化 \(335 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** センサのバックホール設定を作成します。

『[バックホールの設定の管理 \(350 ページ\)](#)』を参照してください。

**ステップ 3** Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーをプロビジョニングします。

『[ワイヤレスまたはセンサー デバイスのプロビジョニング \(336 ページ\)](#)』を参照してください。

**ステップ 4** (オプション) デバイスインベントリでセンサーデバイスが使用可能になった後、ソフトウェアイメージのアップグレードを選択できます。[Cisco DNA Center ユーザガイド](#) の「ソフトウェア イメージのプロビジョニング」のトピック を参照してください。

## ワイヤレスコントローラのプロビジョニング SSID の有効化

ステップ 1 Cisco ワイヤレスコントローラにログインします。

[ネットワークサマリー (Network Summary)] ページが表示されます。

ステップ 2 [Advanced] タブをクリックします。

[概要 (Summary)] ページが表示されます。

ステップ 3 上部のメニューバーで、[管理 (Management)] タブをクリックします。

ステップ 4 左側のナビゲーションウィンドウで、[クラウドサービス (Cloud Services)] > [センサ (Sensor)] を選択します。

[バックホール設定 (Backhaul Configuration)] ページが表示されます。

ステップ 5 [SSID] フィールドに「**TFTP**」と入力します。

ステップ 6 [Auth-type] ドロップダウンリストから [Open] を選択します。

ステップ 7 [Provisioning] ドロップダウンリストから [Enable] を選択します。

ステップ 8 [DHCP Interface] ドロップダウンリストが [management] に設定されていることを確認します。

ステップ 9 [Apply] をクリックします。

プロビジョニングを有効化すると、[CiscoSensorProvisioning] という非表示の WLAN が作成され、センサーは EAP-TLS クライアント証明書を使用して参加します。これにより、センサーは DHCP オプション 43 を使用するか、または DNS を介して Cisco DNA Center の IP アドレスを見つけることができます。

## Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラのスコーププロビジョニング SSID の有効化

ステップ 1 Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラ GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーションペインで、[Configuration] > [Cloud Services] の順に選択します。

[Cloud Services] ページが表示されます。

ステップ 3 [Network Assurance] タブで、次の手順を実行します。

- [Network Assurance Configuration] 領域で、[Service Status] トグルを [Enabled] に設定します。
- [Provisioning] エリアで、[Provisioning] トグルを [Enabled] に設定します。

ステップ 4 (オプション) [VLAN Interface] フィールドに VLAN インターフェイスの名前を入力します。

ステップ 5 [Apply] をクリックします。

プロビジョニングを有効化すると、[CiscoSensorProvisioning] という非表示の WLAN が作成されます。ウィンドウの右下隅に、次のエラーメッセージが表示されます。

**Error in Configuring**

CLI Line 2 Please associate the wlan and policy profile CiscoSensorProvisioning to the desired AP.

(注) このメッセージはエラーではありません。メッセージには、実行する必要があるアクションに関する情報が表示されます。

**ステップ 6** [CiscoSensorProvisioning] ポリシープロファイルが作成されていることを確認します。

a) 左側のナビゲーションペインで、**[Configuration]** > **[Policy]** の順に選択します。

[Policy Profile] ページが表示されます。

b) [CiscoSensorProvisioning] ポリシーが [Policy Tag Name] カラムの下に表示されていることを確認します。

**ステップ 7** WLAN および [CiscoSensorProvisioning] ポリシープロファイルを適切な AP に関連付けます。次の手順を実行します。

a) 左側のナビゲーションペインで、**[Configuration]** > **[Tags]** の順に選択します。

[Manage Tags] ページが表示されます。

b) [Policy] タブで [Add] をクリックします。

c) [Name] フィールドにポリシータグの一意の名前を入力します。

d) [Add] をクリックします。

e) [WLAN Profile] ドロップダウンリストから [CiscoSensorProvisioning] を選択します。

f) [Policy Profile] ドロップダウンリストから、[CiscoSensorProvisioning] を選択します。

g) ✓ をクリックします。

h) [Save & Apply to Device] をクリックしてポリシータグを保存します。

(注) AP のポリシータグを変更すると、AP に関連付けられているクライアントが切断され、再接続される可能性があります。

## ワイヤレスまたはセンサー デバイスのプロビジョニング

この手順では、[プラグアンドプレイデバイス (Plug And Play Devices)] リストからデバイスを要求する方法について説明します。代わりに、[Claim] をクリックしてデバイスの詳細ウィンドウからデバイスを要求することもできます。

### 始める前に

- プロビジョニングするシスコネットワークデバイスについて、サポートされているソフトウェアリリースがあり、工場出荷時のデフォルト状態になっていることを確認します。以前に設定されたネットワークデバイス、または不明な状態になっているネットワークデバイスを使用している場合は、『[Network Plug and Play Troubleshooting Guide for Cisco DNA Center](#)』で、デバイスのクリーンアップとリセットの詳細を参照してください。
- ネットワーク階層内のサイトを定義します。[ネットワーク階層の設計 \(33 ページ\)](#) を参照してください。

- デバイスの CLI および SNMP ログイン情報を定義します。



(注) CLI、SNMPv2c、または SNMPv3 ログイン情報を使用してワイヤレスデバイスを要求できます。SNMPv2cを使用している場合は、読み取りと書き込みの両方のログイン情報を指定します。

- 必要に応じて、イメージを展開する場合は、プロビジョニングされる Cisco Catalyst 9800-CL デバイスのソフトウェアイメージがアップロードされ、イメージリポジトリ内でゴールデンとしてマークされていることを確認します。



(注) Day-0 プロビジョニング中にプラグアンドプレイで使用されるイメージ導入プロセスは、後でデバイスイメージの更新時に使用されるプロセスと同じではありません。プラグアンドプレイプロビジョニングでは、デバイスが工場出荷時のデフォルト状態にあると想定されているため、デバイスの事前チェック、自動フラッシュクリーンアップ、事後チェックは行われません。

- センサー デバイスをプロビジョニングするには、センサーが Cisco DNA Center エンタープライズ IP アドレス (private/enp9s0) を介して到達可能であることを確認します。DHCP オプション 43 の文字列を使用すると、デバイスが Cisco DNA Center の未要求モードで到達可能になります。ただし、デバイスを要求するには、インターフェイス enp9s0 IP アドレスから到達可能である必要があります。DHCP サーバで ASCII 値「5A1D;B2;K4;I172.16.x.x;J80」を使用して、NTP サーバ (DHCP オプション 42) とベンダー固有の DHCP オプション 43 を設定します。ここで、172.16.x.x は enp9s0 インターフェイスに関連付けられた Cisco DNA Center の仮想 IP アドレスです。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Provision] > [Plug and Play]。

**ステップ 2** テーブル内のデバイスを表示します。

検索バーを使用して、特定のデバイスを検索できます。

**ステップ 3** 要求する 1 つ以上のデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。


**ステップ 4** デバイステーブルの上にあるメニューバーで、[Actions] > [Claim] の順に選択します。

**ステップ 5** (任意) [Assign Site] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a) 必要に応じてデバイスのホスト名を変更します。

b) 次のいずれかを実行して、サイトを割り当てます。

- 各デバイスに異なるサイトを割り当てるには、[Assign] をクリックし、[Select a Site] ドロップダウンリストからサイトを選択します。
- 最初のデバイスと同じサイトを他のすべてのデバイスに割り当てるには、[Actions] 列で、省略記号アイコン **...** の上にカーソルを置き、[Apply Site to All] を選択します。

- あるデバイスのサイトを別のデバイスに割り当てるには、[Actions]列で、省略記号アイコン  の上にカーソルを置き、[Assign this Site to Other Devices] をクリックし、デバイスを選択して [Assign] をクリックします。
- デバイスに割り当てられたサイトをクリアするには、[Clear Site] をクリックします。

割り当てられたサイトに関連付けられているワイヤレス ネットワーク プロファイルにオンボーディング テンプレートがある場合、Cisco DNA Center はこのテンプレートを PnP オンボーディングに使用します。

(注) **[System] > [Settings] > [Device Settings] > [PnP AP Location]** ウィンドウでは、次のようになります。

- **[Configure AP Location]** チェックボックスがオンの場合、Cisco DNA Center は PnP オンボーディング中にこのサイトを AP ロケーションとして割り当てます。
- **[Configure AP Location]** チェックボックスがオフの場合、Cisco DNA Center は PnP オンボーディング中にこのサイトを AP ロケーションとして設定しません。**[Configure Access Points]** ワークフローを使用して AP の場所を設定できます。

詳細については、『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure AP Location for PnP Onboarding」を参照してください。

c) [Next] をクリックします。

**ステップ 6** [Assign Configuration] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [Configuration] 列で、設定するデバイスの [Assign] をクリックします。
- デバイス構成を変更する必要がない場合は、[Cancel] をクリックして、次のステップに進みます。それ以外の場合は、次の設定のいずれかを変更または構成します。

- **[Device Name]** : 必要に応じてデバイスのホスト名を変更します。
- **[Image]** : このドロップダウンリストで、デバイスに適用するゴールデンソフトウェアイメージを選択します。イメージリポジトリにこのデバイスタイプのゴールデンイメージが 1 つしかない場合は、そのイメージがデフォルトで選択されます。
- **[Template]** : このドロップダウンリストで、デバイスに適用するオンボーディング設定テンプレートを選択します。このデバイスタイプに対して定義されているオンボーディング設定テンプレートが 1 つしかない場合は、そのテンプレートがデフォルトで選択されます。

(注) デバイスをサイトに割り当てていない場合は、デバイスのテンプレートを選択してから先に進む必要があります。

- **Catalyst ワイヤレス LAN コントローラの設定** : ワイヤレス LAN コントローラの場合、次のフィールドに値を入力します。[Wireless Management IP]、[Subnet Mask]、[Gateway]、[IP Interface Name]、また任意で [VLAN ID]。

IPv6 アドレスを持つ Cisco DNA Center コントローラを使用している場合は、最初の 3 つのフィールドに IPv6 値を入力する必要があります。IPv4 アドレスを持つコントローラを使用している場合は、それらのフィールドに IPv4 値を入力する必要があります。

- AP デバイスの場合、[Radio Frequency Profile] ドロップダウンリストで、デバイスに適用する無線周波数プロファイルを選択します。これは、1つのプロファイルをデフォルトとして指定した場合に設定できます。
- Mobility Express デバイスの場合は、[Wireless management IP]、[Subnet Mask]、および [Gateway] の各フィールドに値を入力します。
- ワイヤレスセンサーデバイスの場合、[Sensor Settings] ドロップダウンリストで、デバイスに適用するセンサーデバイスプロファイル（バックホール）を選択します。
  - (注) リリース 1.3.1.2 よりも前の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーの場合は、センサー デバイス プロファイル **CiscoProvisioningSSID** を選択しないようにしてください。代わりに、バックホール用に独自の SSID を選択します。
- 変更した場合は、[Save] をクリックします。それ以外の場合は、[Cancel] をクリックしてリストに戻り、他のデバイスを設定します。

- c) [Clear Configuration] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
- [Clear Device Certificates] : このオプションを選択し、証明書をクリアする各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにして、[Clear] をクリックします。
  - [Clear Images] : このオプションを選択し、イメージをクリアする各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにして、[Clear] をクリックします。
  - [Clear Templates] : このオプションを選択し、テンプレートをクリアする各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにして、[Clear] をクリックします。
  - [Clear License Levels] : このオプションを選択し、ライセンスレベルをクリアする各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにして、[Clear] をクリックします。
- d) あるデバイスのイメージまたはテンプレートを他のデバイスに適用するには、[Actions] 列で、省略記号アイコン **...** の上にカーソルを置き、[Apply Image to Other Devices] または [Apply Template to Other Devices] を選択します。
- ワイヤレス コントローラ デバイスの場合は、[Apply License Level to Other Devices] をクリックして、デバイスのライセンスレベルを他のデバイスに適用できます。
- e) プロビジョニングするデバイスを複数選択した場合は、リストにある次のデバイスの [Assign] をクリックし、この設定手順を繰り返します。これを、すべてのデバイスに対して実行します。
- f) すべてのデバイスを設定したら、[Next] をクリックします。

**ステップ 7** [テンプレートのプロビジョニング (Provision Templates) ] ウィンドウで、[デバイス (Devices) ] エリアからテンプレートを選択し、ドメインフィールドにドメイン名を入力して、[次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 8** [Summary] ウィンドウで、デバイスに関する詳細や構成プレビューを確認できます。

**ステップ 9** 設定プレビューが成功したかどうかを確認するには、各デバイスの [Device Configuration] 列をチェックします。

プレビューにエラーが表示された場合は、表の上にあるエラーメッセージの [Actions] リンクをクリックして、実行する必要があるアクションを確認します。アクションをクリックすると、変更が必要なウィンドウで新しいタブを開くことができます。デバイスを要求する前に問題を解決してプロビジョニングエラーを回避する必要があります。[割り当ての設定 (Assign Configuration)] 手順に戻って設定を変更したり、[設計 (Design)] エリアに再度アクセスしてネットワーク設計の設定を更新したり、ネットワーク接続の問題を解決したりすることが必要になる場合があります。問題を解決したら、このタブに戻り、[Retrying get Day-0 configuration Preview for failed device(s)] をクリックし、[OK] をクリックします。デバイスを管理しているワイヤレスコントローラがインベントリに追加され、ワイヤレスデバイスが割り当てられているサイトに割り当てられていることを確認します。

**ステップ 10** [Device Configuration] 列で、[Preview Configuration] をクリックして設定を確認します。

**ステップ 11** [要求 (Claim)] をクリックします。

**ステップ 12** 確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックしてデバイスを要求し、プロビジョニングプロセスを開始します。

(注) 選択したサイトに競合する操作がある場合、現在の設定を続行するには、既存、スケジュール済み、またはレビュー保留の操作が完了するまで待つか、この操作を破棄する必要があります。

---

#### 次のタスク

ネットワーク設定を構成している場合は、デバイスでこれらの設定をプロビジョニングします。詳細については、『[Cisco DNA Center ユーザーガイド](#)』の「Complete the Provisioning Process」[英語] を参照してください。

## センサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング

### すべてのワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング

すべてのワイヤレスセンサーから受信したデータに基づくネットワーク正常性のグローバルビューを取得するには、次の手順を実行します。

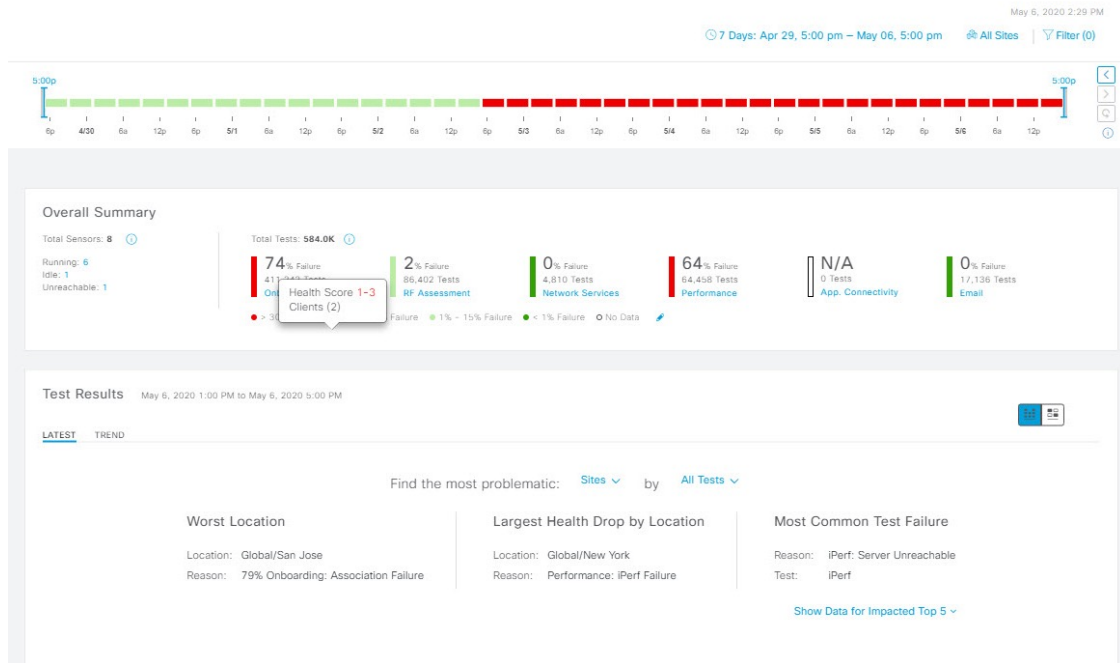
#### 始める前に

センサー主導テストが追加され、スケジュール済みであることを確認してください。[テンプレートを使用したセンサー主導テストの作成と実行 \(358 ページ\)](#) を参照してください。





**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Assurance] > [Dashboards] > [Wireless Sensors]** の順に選択します。

図 44 : **[Wireless Sensors]** ダッシュボード




**ステップ 2** 次の機能には、**[Wireless Sensors]** ダッシュボードの上部メニューバーを使用します。

| タイムラインエリア                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                       |
| <br>時間範囲の設定 | ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ドロップダウンメニューで範囲の長さ ([3 Hours]、[24 Hours]、または[7 days]) を選択します。</li> <li>[Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。</li> <li>[Apply] をクリックします。</li> </ol> |

| タイムラインエリア                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|  <p>階層ロケーションの設定</p> | <p>ダッシュボードに表示するデータをネットワークのロケーションから選択できます。ダッシュボードにセンサーデータを表示するには、ネットワーク内のサイト、ビルディング、またはフロアのチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) ダッシュボードにデータを表示しないように、すべてのロケーションを除外することはできません。すべてのロケーションのチェックボックスをオフにすると、すべてのロケーションのデータがダッシュボードに表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [Filter] アイコン                                                                                        | <p>SSID および無線周波数帯域に基づいて、ダッシュボードに表示するデータを選択できます。</p> <p>フィルタを追加するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[Filter] をクリックします。</li> <li>ドロップダウンメニューから [SSID] タブをクリックし、該当する SSID のチェックボックスをオンにします。</li> <li>ドロップダウンメニューから、[Band] タブをクリックし、[2.4 GHz] または [5 GHz] のオプションボタンを選択します。</li> <li>[Apply] をクリックします。</li> </ol> <p>選択したすべてのフィルタを削除するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[Filter] アイコンをクリックします。</li> <li>[Clear Filters] をクリックします。</li> </ol> |

**ステップ 3** タイムラインを使用して、時間範囲内の特定の時刻に全体テストが失敗した割合を表示します。

時間範囲は、タイムラインの上にある  の設定で決まります。

タイムラインのブロックは、時間範囲内の特定の時間枠を表します。各ブロックの時間枠は、タイムラインに設定された時間範囲によって決まります。



- 時間範囲が [3 Hours] の場合、各ブロックは 15 分を表します。
- 時間範囲が [24 Hours] の場合、各ブロックは 30 分を表します。
- 時間範囲が [7 Days] の場合、各ブロックは 4 時間を表します。

ブロックは、テストが失敗した割合の重大度を示すために色分けされています。



ブロックの上にマウスポインタを合わせると、各テストカテゴリごとにテスト失敗率の内訳が表示されません。


**ステップ 4** 次の機能には、[Overall Summary] ダッシュレットを使用します。

| [Overall Health Summary] ダッシュレット |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Total Sensors] エリア              | <p>ネットワーク内のすべてのセンサーとそのステータスの全体像が表示されます。センサーのステータスタイプは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Idle] : センサーはオンボードされており、スケジュールされたテストはありません。</li> <li>• [Running] : センサーはオンボードされており、テストスイートまたはテストテンプレートに含まれています。</li> <li>• [Unreachable] : センサーからハートビートが受信されませんでした。</li> </ul> <p>ステータスタイプの横にあるハイパーリンク番号をクリックすると、スライドインペインが開き。そのステータスのセンサーが表示されます。</p> <p>スライドインペインで[Name]カラムの下にあるセンサー名をクリックすると、そのセンサーの360度ビューが表示されます。「<a href="#">ワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング (346 ページ)</a>」を参照してください。</p> |

| [Overall Health Summary] ダッシュレット                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 全体テスト                                                                                          | <p>すべてのセンサーで実行されたテストの合計数と、次のテストカテゴリに基づくテスト結果の内訳が表示されます。</p> <p>[Onboarding]<br/> <b>RF アセスメント</b><br/>                     ネットワーク サービス<br/>                     パフォーマンス<br/> <b>App. 接続性</b><br/>                     電子メール</p> <p>テストカテゴリをクリックすると、そのテスト結果に関する追加の詳細情報が表示されるスライドインペインを開くことができます。</p> <p>スライドインペインで、左側のテストタイプのタブをクリックすると、そのテストタイプのデータが記載されたスライドインペインが表示されます。スライドインペインには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テスト結果、将来のトレンド、およびテストで使用された AP のリストが表示されたチャート。</li> </ul> <p>(注)      テストカテゴリが <b>RF アセスメント</b> の場合、チャートには、テスト結果ではなく、KPI データレートと SNR が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• データタイプのカテゴリ： <b>上位のエラー理由</b>（該当する場合）、<b>上位の AP</b>、<b>上位のロケーション</b>、<b>上位の帯域</b>、および <b>上位の SSID</b>（該当する場合）。</li> <li>• テストを実行したセンサーの詳細データが格納されたテーブル。</li> </ul> <p>データタイプカテゴリからデータセグメントをクリックすると、テーブルに表示するデータをフィルタリングできます。</p> |
| <br>しきい値の編集 | <p>テスト失敗率の重大度を示す色分けされた範囲のしきい値は、カスタマイズできます。</p> <p>● &gt; 30% Failure   ● 15% - 30% Failure   ● 1% - 15% Failure   ● &lt; 1% Failure</p> <p>しきい値をカスタマイズするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 編集アイコン（）をクリックします。</li> <li>2. [Edit Threshold] メニューで、色分けされた各範囲のフィールドにパーセンテージ値を入力します。</li> <li>3. [Apply] をクリックします。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

**ステップ 5** [Test Results] ダッシュレットを使用して、センサーテストが最も失敗したネットワーク内のロケーションを表示します。

| [Test Results] ダッシュレット                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Latest] タブと [Trend] タブ                                                                                            | <p>これらのタブでは、ダッシュレットに表示するデータの範囲を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。</li> <li>• [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|  [Heatmap View] と [Card View] トグル | <p>このトグルボタンで、ダッシュレットのビューを [Heatmap View] と [Card View] で切り替えることができます。</p> <p>デフォルトでは、[Heatmap View] が表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|  [Heatmap View]                   | <p>次の統計カテゴリの上位 5 ランキングがダッシュレットの上部に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Worst Location, Buildings, Floors] または [Sensors] : テスト失敗率が最も高かったサイト、ビルディング、フロア、またはセンサー。</li> <li>• [Largest Health Drop by Location, Buildings, Floors] または [Sensors] : 正常性の低下が最も急激なサイト、ビルディング、フロア、センサー。</li> <li>• [Most Common Test Failure] : テスト失敗率が最も高かったテストタイプ。</li> </ul> <p>各統計情報カテゴリの上位スポットのみが表示されます。[Show Data for Impact Top 5] をクリックすると、完全なランキングが表示されます。</p> <p>ランキングの下には、センサーテストエラーの結果がヒートマップでも表現されます。ヒートマップでは、テスト失敗率の重大度を示すために、ブロックが色分けされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ランキングやヒートマップに表示するデータをソートするには、[Find the most problematic] エリアのドロップダウンリストを使用します。最初のドロップダウンリストでは、ロケーションまたはセンサー別にデータをソートできます。2番目のドロップリストでは、テストタイプ別にデータをソートできます。</li> <li>• 特定のロケーションまたはセンサーのヒートマップをフィルタリングするには、検索フィールドを使用します。</li> <li>• ブロックの上にカーソルを合わせると、テスト失敗の正確なパーセンテージ値が表示されます。</li> <li>• 色分けされたブロックをクリックすると、スライドインペインが開き、交差する部分のテスト結果に関する詳細が表示されます。</li> </ul> |

| [Test Results] ダッシュレット                                                                        |                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                          | 説明                                                                                                              |
|  [Card View] | <p>カード形式でデータが表示され、高レベルのモニタリングと比較が可能です。</p> <p>データをソートするには、[Find the most problematic] エリアのドロップダウンリストを使用します。</p> |

## ワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニターとトラブルシューティング

特定のワイヤレスセンサーの360度ビューを表示するには、次の手順を実行します。センサーのテスト結果、パフォーマンスの傾向、およびネイバー AP を表示できます。また、センサーのイベントログの表示や、ダウンロードもできます。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Dashboards] > [Wireless Sensors] の順に選択します。

[Sensor Dashboard] が表示されます。

**ステップ 2** [Sensors Dashboard] から、次のいずれかを実行します。

- [Overall Summary] ダッシュレットで、[Running]、[Idle]、[Unreachable] エリアのいずれかでハイパーリンク番号をクリックします。

次に、[Sensor Status] スライドインペインで、センサーのハイパーリンク名をクリックします。


- [Overall Summary] ダッシュレットで、ハイパーリンクされたテストカテゴリをクリックします。

スライドインペインで、テーブルからセンサーのハイパーリンク名をクリックします。

- [Test Results] ダッシュレットで、ヒートマップから色分けされたボックスをクリックします。

スライドインペインで、テーブルからセンサーのハイパーリンク名をクリックします。

センサーの 360 度ビューが表示されます。

**ステップ 3** 右上隅にある  [Time Range] の設定をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- a) ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- b) 開始日付と時刻、終了日付と時刻を指定します。
- c) [Apply] をクリックします。

**ステップ 4** センサーの基本情報（センサーのシリアル番号、現在の状態、稼働時間、バックホールタイプ、IP アドレスなど）を表示するには、タイムラインの上にあるヘッダーを使用します。また、センサーのイベントログの表示やダウンロードも可能です。


イベントログの表示やダウンロードには、次の手順を実行します。

- a) ヘッダーの最後にある [View Logs] をクリックします。  
[Event Logs] スライドインペインが現れ、イベントログが表示されます。
- b) イベントログの保存先となるサポートバンドルファイルを生成するには、[Event Logs] スライドインペインで、[Request Support Bundle] をクリックします。

**注目** サポートバンドル要求がダウンロードできるようになるまでに、約 3 ~ 5 分かかります。

- c) [Download Support Bundle] をクリックして、サポートバンドルのダウンロードプロンプトを開きます。

**ステップ 5** タイムラインを使用して、指定した時間範囲内の特定の時刻に全体テストが失敗した割合を表示します。タイムラインには、次の機能があります。

- タイムラインの上にある [Time Range]  で時間範囲を設定します。
- タイムラインのブロックによって示される特定の時間枠で、全体テストが失敗した割合を表示します。ブロックの上にマウスカーソルを合わせると、各テストカテゴリごとにテスト失敗率の内訳が表示されます。

**ステップ 6** 折りたたみ可能なカテゴリを使用して、テスト結果、パフォーマンス傾向、およびネイバー AP に関する情報を表示します。

| テスト結果カテゴリ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>センサーテスト失敗の結果は、テスト対象の AP ごとにヒートマップでも表現されます。ヒートマップでは、テスト失敗率の重大度を示すために、ブロックが色分けされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テストタイプ別にデータをソートするには、[Test Type] ドロップダウンリストを使用します。</li> <li>• 特定の AP のヒートマップをフィルタ処理するには、検索フィールドを使用します。</li> <li>• ブロックの上にカーソルを合わせると、テスト失敗の正確なパーセンテージ値が表示されます。</li> <li>• [Latest] および [Trend] タブをクリックすると、カテゴリに表示されるデータの範囲が切り替わります。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。</li> <li>• [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。</li> </ul> </li> </ul> |

**センサーパフォーマンスのトレンドカテゴリ**

テストタイプに基づいて、センサーのパフォーマンスデータを折れ線グラフまたはチャートで表示します。時間ベースのテストタイプの場合、比較ビューを使用すると、現行センサー、最高パフォーマンスのセンサー、および最悪パフォーマンスのセンサーのパフォーマンスを表示できます。

- 特定のテストタイプのデータを表示するには、[Test Type] ドロップダウンリストを使用します。
- 時間ベースのテストタイプの場合は、[+ Add Custom Location] をクリックすると、メニューを使用して、特定のロケーションのセンサーパフォーマンスデータを追加できます。サイト、ビルディング、またはフロアのセンサーパフォーマンスを選択できます。

**ネイバー AP カテゴリ**

センサーのネイバー AP とその RSSI が、リストビューとマップビューで表示されます。

周波数帯域に基づいて AP をフィルタ処理するには、[Band] エリアのオプションボタンを使用します。

(注) センサーは、30 分ごとにネイバー AP をスキャンします。

## センサーの管理とバックホールの設定

### ネットワーク内のセンサーの管理

ネットワーク内のオンボード済みセンサーを表示するには、次の手順を実行します。SSH とステータス LED を有効にして、これらのセンサーの名前を変更できます。

#### 始める前に

センサーがサイトに割り当てられていることを確認します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Settings] > [Sensors] の順に選択します。

[Sensor List] ウィンドウが表示されます。



図 45: [Sensor List] ウィンドウ

| Sensor           | Status  | SSH | LED | Location                         | SCEP Profile | Last Seen           | Backhaul Type |
|------------------|---------|-----|-----|----------------------------------|--------------|---------------------|---------------|
| wired4540        | Running | On  | On  | .../New York/ny-bld-1/ny-floor-1 | MS           | May 6, 2020 2:48 pm | Wired         |
| AP70F3.5A88.4DB0 | Running | On  | On  | ...an Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | ISE51        | May 6, 2020 2:48 pm | Wireless      |
| AP70F3.5A80.6300 | Running | Off | On  | .../New York/ny-bld-1/ny-floor-1 | MS           | May 6, 2020 2:48 pm | Wireless      |
| AP70F3.5A80.2088 | Running | On  | On  | ...an Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | ISE52        | May 6, 2020 2:48 pm | Wired         |
| AP70F3.5A7E.3BC0 | Running | On  | On  | ...an Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | MS           | May 6, 2020 2:48 pm | Wireless      |
| AP70F3.5A7E.26C0 | Running | On  | On  | ...an Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | MS           | May 6, 2020 2:48 pm | Wired         |
| 60CBwireless     | Idle    | On  | On  | ...ngalore/blg-bld-1/blg-floor-1 | None         | May 6, 2020 2:48 pm | Wireless      |
| 5FE0wireless     | Idle    | On  | On  | ...ngalore/blg-bld-1/blg-floor-1 | ISE52        | May 6, 2020 2:48 pm | Wireless      |

**ステップ 2** 左側のペインで、表示するネットワーク階層を指定します。

**ステップ 3** 基準に適合するセンサーを表示するには、テーブルの上にあるカテゴリをクリックします。カテゴリは次のとおりです。

- [Total] : 選択したネットワーク階層内のすべてのセンサー。
- [Running] : 現在テストを実行しているセンサーが表示されます。
- [Idle] : テストが割り当てられていないセンサーが表示されます。
- [Unreachable] : オンボードされているが、Cisco DNA Center に応答していないセンサーが表示されません。

**ステップ 4** テーブルに表示するデータをカスタマイズできます。

- a) をクリックします。
- b) メニューからテーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。
- c) [Apply] をクリックします。

**ステップ 5** センサーの SSH 設定を構成するには、次の手順を実行します。

- a) センサーのチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Edit SSH] を選択します。  
[Edit SSH] スライドインペインが表示されます。
- c) [EDIT SSH] スライドインペインで、[SSH] トグルをクリックして SSH を有効にします。
- d) [Username] および [Password] フィールドに、使用する SSH ログイン情報を入力します。
- e) [Save] をクリックします。

**ステップ 6** センサーのステータス LED を変更するには、次の手順を実行します。

- a) センサーのチェックボックスをオンにします。

- b) [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Edit LED] を選択します。  
[Edit SSH] スライドインペインが表示されます。
- c) [Edit LED] スライドインペインで、[LED] トグルをクリックして、ステータス LED を有効または無効にします。

**ステップ7** [Save] をクリックします。

**ステップ8** センサーの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- a) センサーのチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] ドロップダウンリストから、[Edit Sensor Name (s)] を選択します。  
[Edit Sensor Name (s)] スライドインペインが表示されます。
- c) [Edit Sensor Name (s)] スライドインペインで、[Name] フィールドに名前を入力します。
- d) [Save] をクリックします。

**ステップ9** SCEP プロファイルを使用してセンサーを登録するには、次の手順を実行します。

- a) センサーのチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] ドロップダウンリストから、[Enroll using SCEP] を選択します。  
[Enroll using SCEP] スライドインペインが表示されます。
- c) [Select SCEP Profile] ドロップダウンリストから SCEP プロファイルを選択します。  
詳細については、「[SCEP プロファイルの管理](#)」を参照してください。
- d) [Username] と [Password] を選択し、必要な詳細情報を入力します。ユーザー名として [Custom] オプションを選択する場合は、[No Password] を選択します。
- e) [Save] をクリックします。
- f) ステータスを確認するには、[Sensor List] ウィンドウの [SCEP Profile] 列を確認します。緑のチェックマーク (✓) は成功、赤の X アイコンは失敗を示します。✓ または X アイコンにカーソルを合わせると、詳しい情報が表示されます。

## バックホールの設定の管理

ワイヤレスセンサのバックホール設定を表示、作成、管理するには、次の手順を実行します。ワイヤレスセンサーには、Cisco DNA Center と通信するためのバックホール SSID が必要です。

永続的なワイヤレスバックホール接続の詳細については、[センサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続 \(352 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance]>[Settings]>[Sensors] の順に選択します。

[Sensor List] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [Settings] タブにカーソルを合わせ、[Backhaul Settings] を選択します。

**ステップ 3** バックホール SSID を追加および管理するには、次の手順を実行します。

a) [Add Backhaul] をクリックします。

[Create Sensor Backhaul SSID Assignment] ウィンドウが表示され、[Wired Backhaul] と [Wireless Backhaul] の 2 つの領域が表示されます。

b) [Settings name] フィールドでバックホール SSID の名前を入力します。

c) [Wired Backhaul] 領域で、次を設定します。

- [Level of Security] : 選択した SSID で使用されている暗号化と認証タイプが表示されます。使用可能なセキュリティのオプションは次のとおりです。
  - [802.1x EAP] : Extensible Authentication Protocol (EAP) を有線 LAN で渡すために使用される規格。
  - [Open] : セキュリティまたは認証は使用されません。
- [EAP Method] : [802.1x EAP] を選択した場合は、ドロップダウンリストからユーザ認証に次のいずれかの EAP 方式を選択する必要があります。
  - [EAP-FAST] : 指定されたフィールドにユーザ名とパスワードを入力します。
  - [PEAP-MSCHAPv2] : 指定されたフィールドにユーザ名とパスワードを入力します。
  - [EAP-TLS] : [Enroll Using Certificate Bundle] または [Enroll Using SCEP] を選択します。  
[Enroll Using Certificate Bundle] を選択した場合は、[Certificate Bundle] の下にあるドロップダウン矢印をクリックし、[+ Add New Certificate Bundle] をクリックして、ユーザ名と証明書バンドルパスワードを入力します。
  - [PEAP-TLS] : [Enroll Using Certificate Bundle] または [Enroll using SCEP] を選択します。  
[Enroll Using Certificate Bundle] を選択した場合は、[Certificate Bundle] の下にあるドロップダウン矢印をクリックし、[+ Add New Certificate Bundle] をクリックして、ユーザ名と証明書バンドルパスワードを入力します。

d) [Wireless Network Name (SSID) ] 領域で、ワイヤレスネットワーク (SSID) を選択し、次を設定します。

- [Level of Security] : 選択した SSID で使用されている暗号化と認証タイプが表示されます。使用可能なセキュリティのオプションは次のとおりです。
  - [WPA2 Enterprise] : 拡張可能認証プロトコル (EAP) (802.1x) を使用してより高レベルのセキュリティを実現し、リモート RADIUS サーバでネットワークユーザを認証および承認します。
  - [WPA2-Personal] : パスフレーズまたは事前共有キー (PSK) を使用して、良好なセキュリティを実現します。ワイヤレスネットワークにアクセスするパスキーがあれば誰でも使用できます。  
[WPA2 Personal] を選択した場合は、[Passphrase] テキストボックスにパスフレーズを入力します。

- [PSK Format] : 使用可能な事前共有キーの形式は次のとおりです。
  - [ASCII] : ASCII PSK パスフレーズをサポートします。
  - [HEX] : 64 文字の HEX キー PSK パスワードをサポートします。
- [Open] : セキュリティまたは認証は使用されません。

e) [Save] をクリックします。

**ステップ 4** 既存のバックホール設定を編集するには、次の手順を実行します。

- a) バックホール設定のチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Edit] を選択します。

**ステップ 5** バックホール設定を削除するには、次の手順を実行します。

- a) バックホール設定のチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Delete] を選択します。

---

## センサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続

Cisco DNA Center はセンサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続をサポートしており、ワイヤレステストのアクティビティに関係なく、ワイヤレス接続は「常時オン」になっています。

- ワイヤレスセンサ専用のバックホール接続では、バックホールとワイヤレス用に次の2つの MAC アドレスが使用されます。
  - ベース無線 + 0x10 (バックホール SSID)
  - ベース無線 + 0x11 (テスト SSID)

有線センサーではベース無線 + 0x10 (テスト SSID) MAC アドレスがテスト用に使用されます。

- センサーではデュアル同時無線動作が使用されます。1 つはバックホール接続用、もう 1 つはワイヤレステスト用です。
- スキャンを実行している間、および別の帯域をテストするためにインターフェイスを切り換えている間は、バックホール接続が中断します。
- バックホール接続の中断の頻度は、テスト設定に応じて異なります。
- バックホールとテスト SSID の帯域が同じである場合、バックホール接続は永続になりません。

## SCEP プロファイルの管理

この手順では、ワイヤレスセンサーの登録に使用する Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) プロファイルを表示、作成、管理する方法を示します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Settings] > [Sensors] の順に選択します。

**ステップ 2** [Setting] > [SCEP Profiles] の順にクリックします。

**ステップ 3** SCEP プロファイルを追加および管理するには、次の手順を実行します。

a) [Add SCEP Profiles] をクリックします。

[Create SCEP Profile] ウィンドウが表示されます。

b) [Create SCEP Profile] ウィンドウで、次の詳細を入力します。

- [SCEP Profile Name] : SCEP プロファイルの名前を入力します。
- [URL Base] : 有効なサーバーを入力します。

(注) ISE の場合は、次のように入力します。

**`http://ISE_IP_or_FQDN_Name:9090/auth/caservice/pkiclient.exe`**

**Microsoft CA** の場合は、次のように入力します。

**`http://Microsoft_SCEP_IP_or_FQDN_Name/CertSrv/mscep/mscep.dll`**

- [Common Name] : 有効な名前を入力します。
- [State]
- [Country Code]
- [Locality]
- [Organization]
- [Organization Unit]
- [Email]
- [Sever certificate fingerprint]

c) [Save] をクリックします。

**ステップ 4** 既存の SCEP プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

- a) SCEP プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] ドロップダウン リストから、[Edit] を選択します。

**ステップ 5** SCEP プロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- a) SCEP プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。

b) [Actions] ドロップダウン リストから、[Delete] を選択します。

## センサー主導テスト

### センサー主導テストの作成方法 アシュアランス

アシュアランスでセンサー主導テストを作成する方法は2通りあります。次の方法の中から1つを選択してください。

| メソッド   | 説明                                                                                                                                                                 |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| レガシー   | レガシー方式（テストスイートとも呼ばれる）を使用してセンサー主導テストを作成できます。<br><a href="#">レガシーの方法を使用したセンサー主導テストの作成と実行（354ページ）</a> を参照してください。                                                      |
| テンプレート | テンプレートを使用してセンサー主導テストを作成できます。<br>このメソッドにより、再利用可能なセンサー主導テストのテンプレートを作成し、ネットワーク内の複数のロケーションに迅速に展開できます。<br><a href="#">テンプレートを使用したセンサー主導テストの作成と実行（358ページ）</a> を参照してください。 |

### レガシーの方法を使用したセンサー主導テストの作成と実行

レガシー方式（テストスイートとも呼ばれる）を使用してセンサー主導テストを作成および実行するには、次の手順を実行します。



**警告** レガシーテスト方式は、近い将来に廃止される予定です。

#### 始める前に

Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーを使用してセンサー主導のテストを実行している場合、必ず PnP を使用してセンサーをプロビジョニングし、[Inventory] で表示されるようにしてください。[ワイヤレス Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーのプロビジョニング（334ページ）](#)を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]>[Settings]>[Sensors]**の順に選択します。

**ステップ 2** [Legacy Tests] タブをクリックします。

[Legacy Tests] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 新しいセンサーテストを追加するには、右上隅にある [+ Add Test] をクリックします。

[Add Test] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** テストをスケジュールするには、次の設定を行います。

| 設定                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Test Name] フィールド      | <p>テストスイート名を入力します。</p> <p>(注) 文字、数字、アンダースコア、ハイフン、ピリオドのみ使用できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Location] ドロップダウン リスト | <p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ドロップダウンリストからセンサーのロケーションを選択します。</li> <li>テストに追加する無線センサーの SSID のチェックボックスをオンにします。</li> <li>必要に応じて、<b>ログイン情報</b>を設定します。</li> </ol> <p><b>Web 認証対応 SSID に適用</b></p> <p>レイヤ 3 セキュリティでは、SSID で <b>Web 認証</b>が有効になっている場合、次の機能を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー認証による <b>Web 認証</b>の場合は、必要なログイン情報を入力します。</li> <li><b>パススルー方式</b>による <b>Web 認証</b>の場合は、メールアドレスの入力を選択できます。</li> </ul> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センサーのテストでは、<b>内部認証</b>のみがサポートされています。</li> <li><b>Web 認証</b>は、シスコ ワイヤレス コントローラおよびソフトウェア リリース 8.7 を搭載した Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーでサポートされます。</li> </ul> <p><b>WPA2 Enterprise 対応 SSID に適用</b></p> <p>サポートされるメソッドは、<b>EAP-FAST</b>、<b>PEAP MSCHAPv2</b>、および <b>EAP-TLS</b> です。</p> <p>EAP-TLS を選択した場合は、証明書とそのパスワードが必要です。証明書をアップロードするには、[Certificate] ドロップダウンメニューをクリックしてから、[Add New Certificate Bundle] をクリックします。</p> |

| 設定                     | 説明                                                                                                                                                                                              |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Interval] ドロップダウンメニュー | <p>センサーテストのスケジュールを指定します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Daily] : センサーテストは継続的に反復実行されます。デフォルトの間隔は 1 時間です。</li> <li>• [Once] : センサーテストは、指定された日時に 1 回実行されます。</li> </ul> |

ステップ 5 [Next] をクリックして、[Select Tests] ステップに進みます。

ステップ 6 [Select Tests] ステップでは、次の設定を行います。

- a) 実行対象の [Network Tests] のチェックボックスをオンにして、テストに必要な情報を入力します。

| ネットワークのテスト   |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Test Type]  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                           |
| オンボーディングのテスト | <p>クライアントのオンボーディングテスト（通常、関連付け、AAA、および DHCP を含む）を実行します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このオプションはデフォルトで選択されていて、選択解除できません。</li> <li>• <b>オンボーディングのテスト</b>は、Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーのソフトウェアリリース 8.8.260.0 以降でサポートされています。</li> </ul> |
| DNS のテスト     | ドメイン名の IP アドレスを解決します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| ホストの到達可能性テスト | Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー要求を使用して到達可能性を確認します。                                                                                                                                                                                              |
| RADIUS のテスト  | センサーが Dot1x サプリカントとして機能し、ワイヤレスで認証します。Dot1x サプリカントは、Protected Extensible Authentication Protocol (PEAP) と Password Authentication Protocol (PAP) や Microsoft バージョンのチャレンジハンドシェイク認証プロトコル (MS-CHAP) などのプロトコルをサポートしています。                                          |

- b) 実行対象の [Performance Tests] のチェックボックスをオンにして、テストに必要な情報を入力します。

| パフォーマンステスト  |                                                                                                                                 |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Test Type] | 説明                                                                                                                              |
| 速度テスト       | ネットワーク診断テスト (NDT) サーバーがある場合は、所定のフィールドに NDT サーバーの IP アドレスを入力します。NDT サーバーがプロキシサーバー経由で到達可能である場合は、所定のフィールドにプロキシサーバーの IP アドレスを入力します。 |



| パフォーマンステスト  |                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Test Type] | 説明                                                                                                                                                                                                                         |
| IPSLA テスト   | <p>センサーから AP への UDP ジッター、UDP エコー、パケット損失、および遅延の測定を実行します。</p> <p>IPSLA テストを実行するには、ドロップダウンリストから各 SSID の [Service Level] オプションを選択します。[Platinum] (音声)、[Gold] (ビデオ)、[Silver] (ベストエフォート)、および [Bronze] (バックグラウンド) のオプションがあります。</p> |

(注) 速度テストと IPSLA テストは、シスコワイヤレスコントローラおよびソフトウェアリリース 8.8 以降の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーでサポートされます。

- c) 実行対象の [Application Tests] のチェックボックスをオンにして、テストに必要な情報を入力します。

| 電子メールのテスト   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Test Type] | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 電子メールのテスト   | <p>主要な構成は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [POP3] : Post Office Protocol3。POP3 サーバーの TCP ポート (110) に接続します。</li> <li>• [IMAP] : Internet Message Access Protocol。IMAP サーバーの TCP ポート (143) に接続します。</li> <li>• [Outlook Web Server] : Outlook Web サーバー (OWS) にログインします。</li> </ul> |
| Web のテスト    | 指定された URL へのアクセスと応答データの確認をテストします。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ファイル転送のテスト  | <p>ファイルのアップロードおよびダウンロード動作をテストします。</p> <p>(注) センサーテストの最大ファイルサイズは 5 MB です。</p>                                                                                                                                                                                                                        |

**ステップ 7** [Next] をクリックして、[Select Sensors] ステップに進みます。

**ステップ 8** [Select Tests] ステップでは、次の設定を行います。

- すべての AP について RSSI しきい値を設定するには、次の操作を実行します。
  1. [Threshold] をクリックして、[RSSI Threshold] スライダーを目的の値までドラッグします。
  2. [Number of Target APs] ドロップダウンリストから、センサでテストする AP 番号を選択します。
  3. [Apply] をクリックします。
- 特定の AP を選択してテストするには、次の手順を実行します。
  1. テストに使用するセンサーのチェックボックスをオンにします。

2. [Target AP #] 列の [V] をクリックして、すべてのセンサーのネイバー AP を表示します。
3. [Target AP] 列で、テストする AP のチェックボックスをオンにします。  
(注)
  - 最大 5 つの AP を選択できます。
  - センサーのネイバー AP は 30 分ごとに更新されます。

ステップ 9 [Next] をクリックして、センサーテストを作成します。

新しいテストが追加され、[Test Suites] ウィンドウに表示されます。

---

## テンプレートを使用したセンサー主導テストの作成と実行

テンプレートを使用してセンサー主導テストを作成および実行するには、次の手順を実行します。テンプレートを使用したセンサー主導テストのワークフローは、次の 2 つの部分から構成されます。

1. **テストテンプレートの作成**：テスト対象の SSID、使用するテストタイプ、AP カバレッジなどのテスト構成を設定します。
2. **テストテンプレートの展開**：テストテンプレートの作成後、テスト対象のロケーションを選択し、テストスケジュールを設定します。テストテンプレートを展開すると、実行の準備が整います。

センサー主導テストを複数のロケーションや複数のスケジュールで実行する必要があるユースケースの場合、テンプレートを使用すると便利です。テンプレートを使用すると、コピーを作成して、テストロケーションやスケジュールの各インスタンスに対して展開できます。これにより、各インスタンスに対して同じテストを繰り返し作成する必要がなくなります。

### 始める前に

- Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーを使用してセンサー主導のテストを実行している場合、必ず PnP を使用してセンサーをプロビジョニングし、[Inventory] で表示されるようにしてください。[ワイヤレス Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーのプロビジョニング \(334 ページ\)](#) を参照してください。
- センサーテストテンプレートを再起動すると、そのテンプレート上のすべてのセンサーで同時にテストの実行が開始されるため、結果のグラフに周期的なパターンが現れることに注意してください。

---

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Settings] > [Sensors] の順に選択します。

ステップ 2 [Test Templates] タブをクリックします。

[Test Templates ウィンドウが表示されます。

図 46: [Test Templates] ウィンドウ

| Test Name                               | SSID with Test Types                                                | AP Coverage                          | Location                              | Schedule                        |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> sjcdot1x       | 5520-LOCAL-WLAN-1: Onboarding, RF Assessment, Performance           | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/San Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | Continuous <span>Run Now</span> |
| <input type="checkbox"/> EAPTLS         | ISEEAPTLS: Onboarding, RF Assessment, App.Connectivity, Performance | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/San Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | Continuous <span>Run Now</span> |
| <input type="checkbox"/> 3rd party test | 8540-hidden: Onboarding, RF Assessment, Performance                 | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/San Jose/sjc-bld-1/sjc-floor-1 | Continuous <span>Run Now</span> |
| <input type="checkbox"/> NYC            | SensorSSID: Onboarding, RF Assessment, Net.Service, Performance     | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/New York/ny-bld-1/ny-floor-1   | Periodic <span>Run Now</span>   |
| <input type="checkbox"/> EAPTLS8540     | EAPTLS8540: Onboarding, RF Assessment                               | 5GHz: 1, -70dBm                      | Deploy Test                           | N/A                             |

Showing 5 of 5

**ステップ 3** 新しいセンサーテストテンプレートを作成するには、[+ Add Sensor Test] をクリックします。センサーテストテンプレートを作成するためのウィザードが表示されます。

**ステップ 4** [Set up Sensor Test] ステップでは、次の設定を行います。

- [Test Template Name] : テストの名前を入力します。  
(注) 文字、数字、アンダースコア、ハイフン、ピリオドのみ使用できます。
- [Ssid Selection] : センサーテストを行う SSID のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** [Next] をクリックします。

**ステップ 6** [Enter SSID Credentials] ステップでは、選択した SSID のログイン情報を入力します。

- セキュリティがオープンな SSID の場合は、次を選択します。
  - [Open] : パススルー方式の Web 認証を使用した SSID の場合は、電子メールアドレスを入力します。
  - [ISE Guest Portal] : ISE ゲストポータル ラベルを選択します。
  - [Clearpass Guest Portal] : Clearpass ゲストポータル ラベルを選択し、[Apply] をクリックします。
- **WPA2** パーソナルセキュリティを使用した SSID の場合は、パスワードを入力します。
- **WPA2** エンタープライズセキュリティを使用した SSID の場合は、EAP メソッド、ユーザー名、およびパスワードを入力します。

**ステップ 7** [Add Proxy Settings] チェックボックスをオンにして、プロキシ設定を有効にします。

**ステップ 8** 次のプロキシ設定を指定します。

- [Proxy Server]
- [Proxy Port]
- [Proxy UserName]
- [Proxy Password]

**ステップ 9** [Next] をクリックします。

**ステップ 10** [Define Sensor Test Category Details] ステップでは、対象にするテストタイプのチェックボックスをオンにします。

a) テストカテゴリが**オンボーディング**の場合、テストタイプは[Association]、[Authentication]、[DHCP]です。

(注) これらのテストタイプはすべてデフォルトで選択されており、テストテンプレートから除外できません。

b) テストカテゴリが**RF アセスメント**の場合、テストタイプは[Data Rate]、[SNR]です。

(注) これらのテストタイプはすべてデフォルトで選択されており、テストテンプレートから除外できません。

c) テストカテゴリが**ネットワークサービステスト**の場合は、次のテストタイプから選択します。

- [DNS] : ドメイン名の IP アドレスを解決します。
- [RADIUS] : センサーが Dot1x サブリカントとして機能し、ワイヤレスで認証します。

d) テストカテゴリが**パフォーマンステスト**の場合は、次のテストタイプから選択します。

- [Internet (NDT) ] : ネットワーク診断ツール (NDT) を使用して速度テストを実行します。

ネットワーク診断テスト (NDT) サーバーがある場合は、所定のフィールドに NDT サーバーの IP アドレスを入力します。NDT サーバーがプロキシサーバー経由で到達可能である場合は、所定のフィールドにプロキシサーバーの IP アドレスを入力します。

- [iPerf3] : iPerf3 テストは、ネットワークパフォーマンスの測定に使用されるツールです。この機能を使用すると、一定量のトラフィックでネットワークの速度テストを実行して、トラフィックが通過できるかどうかをテストできます。

iPerf3 テストを実行するには、[iPerf3] チェックボックスをオンにしてから、表示されるフィールドに iPerf3 サーバーの IP アドレス、UDP 帯域幅、およびポートの詳細を入力します。

#### **iPerf3 の制限事項**

- iPerf3 サーバーは最大 5 つまで追加できます。
- 各 iPerf3 サーバーについて、テンプレートごとに最大 5 つのポートを使用するように設定できます。iPerf3 テストを実行するポートはセンサーでランダムに選択されます。

- 特定の iPerf3 サーバーにおいて、2つのセンサーを同じポートに同時に接続することはできません。

- 「iPerf : サーバーがビジー状態 (iPerf: Server Busy) 」エラーメッセージは、iPerf3 テストを実行しているセンサーの数に対応する十分な iPerf3 インスタンスがないことを示します。

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- iPerf3 サーバーインスタンスを追加します。これを行うには、既存のサーバーで iPerf3 テストをサポートするポートを拡張します。
- iPerf3 テストを実行するように設定されているセンサーの数を減らします。これを行うには、iPerf3 テスト用に別個のテンプレートを作成します。

- [IP SLA] : センサーから AP への UDP ジッター、UDP エコー、パケット損失、および遅延の測定を実行します。

IPSLA テストを実行するには、ドロップダウンリストから各 SSID の [Service Level] オプションを選択します。[Platinum] (音声)、[Gold] (ビデオ)、[Silver] (ベストエフォート)、および [Bronze] (バックグラウンド) のオプションがあります。

- e) テストカテゴリが**アプリケーションテスト**の場合、次のテストタイプから選択します。

- [Host Reachability] : (ICMP) エコー要求を使用した到達可能性をテストします。
- [Web] : 指定した URL へのアクセスと応答データの検証をテストします。
- [FTP] : ファイルのアップロードおよびダウンロード動作をテストします。

(注) センサーテストの最大ファイルサイズは 5 MB です。

- f) テストカテゴリが**電子メール**の場合、次のテストタイプから選択します。

- [POP3] : Post Office Protocol3。POP3 サーバーの TCP ポート (110) に接続します。
- [IMAP] : Internet Message Access Protocol。IMAP サーバーの TCP ポート (143) に接続します。
- [Outlook Web Access] : Outlook Web サーバーにログインし、アクセスを検証します。

**ステップ 11** [Next] をクリックします。

**ステップ 12** **AP カバレッジの選択**ステップでは、次を実行します。

- [2.4GHz] と [5GHz] チェックボックスでテストする周波数帯域を選択します。
- 選択した帯域の [Number of Target APs] ドロップダウンリストで、センサーでテストする AP 番号を選択します。

(注) 最大 5 つの AP を選択できます。

- 選択した帯域の [RSSI Range] スライダーで、該当する RSSI までをドラッグします。

**ステップ 13** [Next] をクリックします。

- ステップ 14** [Summary] ステップでは、テンプレートの設定を確認します。  
[SSIDs] や [AP Coverage] ステップで、[Edit] をクリックすると、設定をやり直すことができます。
- ステップ 15** [Create Test] をクリックしてテンプレートを作成します。  
テストテンプレートが作成されると、確認のためのダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 16** [Done! **Sensor Test Created**] 確認ウィンドウで [Deploy Test to Locations] をクリックして、テストテンプレートを実行するロケーションとスケジュールを設定します。
- 重要** テストを展開せずに [Test Templates] ウィンドウに戻る場合は、[Location] 列から [Deploy Test] をクリックしてテスト展開の次の手順に進んでください。
- ステップ 17** [Select Location] ステップでは、左側の階層メニューを使用して、テストテンプレートを展開するサイト、ビルディング、ロケーションのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 18** [Next] をクリックします。
- ステップ 19** [Set Schedule] ステップでは、テスト頻度オプションを次から 1 つ選択します。
- [Periodic] : 指定した間隔でテストを実行します。 [Interval] ドロップダウンリストから、間隔を選択します。
  - [Scheduled] : 指定した期間中、指定した曜日にテストを実行します。
    1. [S]、[M]、[T]、[W]、[T]、[F]、[S] の各ボタンをクリックして、テストを実行する曜日を選択します。
    2. 選択した曜日に対して、[From] タイムピッカーからテスト期間の開始時刻と終了時刻を指定します。
    3. [Select Value] ドロップダウンメニューで、該当するテスト期間を選択します。
    4. 選択した曜日に別のテスト期間を追加するには、[+ Add] をクリックして、テスト期間を設定するための新しい行を追加します。
    5. テスト期間を削除するには、ごみ箱アイコンをクリックします。
  - [Continuous] : テストは無期限に実行され、完了後に繰り返されます。
- ステップ 20** [Next] をクリックします。
- ステップ 21** [Summary] ステップで、展開の詳細を確認します。  
[Location] や [Schedule] ステップで、[Edit] をクリックすると、設定をやり直すことができます。
- ステップ 22** [Deploy Test] をクリックします。  
[Test Template] ウィンドウにテストテンプレートが表示されます。
- ステップ 23** テストテンプレートでテストを実行するには、[Run Now] をクリックします。
-

## センサー主導テストの管理

センサー主導テストのテンプレートを管理するには、次の手順に従います。センサー主導テストのテンプレートの複製や削除だけでなく、実行中のテンプレートの展開を解除することもできます。

### 始める前に

センサー主導テストのテンプレートを作成します。[テンプレートを使用したセンサー主導テストの作成と実行 \(358 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]**>**[Settings]**>**[Sensors]** の順に選択します。

**ステップ 2** **[Test Templates]** タブをクリックします。

**[Test Templates]** ウィンドウが表示されます。

図 47: **[Test Templates]** ウィンドウ

| Test Name                               | SSID with Test Types                                                | AP Coverage                          | Location                              | Schedule   |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|------------|
| <input type="checkbox"/> sjcdot1x       | 5520-LOCAL-WLAN-1: Onboarding, RF Assessment, Performance           | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/San Jose/sjc-bid-1/sjc-floor-1 | Continuous |
| <input type="checkbox"/> EAPTLS         | ISEEAPTLS: Onboarding, RF Assessment, App Connectivity, Performance | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/San Jose/sjc-bid-1/sjc-floor-1 | Continuous |
| <input type="checkbox"/> 3rd party test | 8540-hidden: Onboarding, RF Assessment, Performance                 | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/San Jose/sjc-bid-1/sjc-floor-1 | Continuous |
| <input type="checkbox"/> NYC            | SensorSSID: Onboarding, RF Assessment, Net Service, Performance     | 2.4GHz: 1, -70dBm<br>5GHz: 1, -70dBm | Global/New York/ny-bid-1/ny-floor-1   | Periodic   |
| <input type="checkbox"/> EAPTLS8540     | EAPTLS8540: Onboarding, RF Assessment                               | 5GHz: 1, -70dBm                      | Deploy Test                           | N/A        |

**ステップ 3** テストテンプレートを複製するには、次の手順を実行します。

- 複製するテストテンプレートのチェックボックスをオンにします。
- [Actions]**>**[Duplicate]** の順に選択します。
- [Input the new Test Name]** ダイアログボックスで、テストテンプレートの複製名を入力します。
- [Save]** をクリックします。

**[Test Templates]** ウィンドウに複製されたテストテンプレートが表示されます。テストを展開するには、**[Location]** ステップから **[Deploy Test]** をクリックします。

**ステップ 4** テストテンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

- 複製するテストテンプレートのチェックボックスをオンにします。
- [Actions]**>**[Delete]** の順に選択します。

- c) [Warning] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。  
テストテンプレートが削除されます。

**ステップ 5** テストテンプレートの展開を解除するには、次の手順を実行します。

- a) 展開を解除する実行中のテストテンプレートのチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] > [Undeploy] の順に選択します。
- c) [Warning] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。  
テストテンプレートの実行が停止されます。

**警告**        テストテンプレートの展開を解除すると、ロケーションとスケジュールの設定が削除されます。

---





## 第 15 章

# Wi-Fi 6E および 6 の対応状況のモニター

- [Wi-Fi 6E および 6 の対応状況とその利点について \(365 ページ\)](#)
- [Wi-Fi 6E および 6 ネットワークの対応状況の確認 \(366 ページ\)](#)

## Wi-Fi 6E および 6 の対応状況とその利点について

Wi-Fi 6E および 6 の対応状況機能を使用して、次のことを判断できます。

- Wi-Fi 6E および 6 対応クライアントの割合。
- Wi-Fi 6E および 6 対応の AP インフラストラクチャの割合。
- 前述の情報に基づいて、Wi-Fi 6E および 6 ネットワークのメリットを最大限に活用するためのアクションに関する推奨事項が提供されます。

これらの推奨事項を提供するため、Cisco DNA Center は次の手順を実行します。

- ワイヤレスクライアントの Wi-Fi 機能を評価します。
- AP インベントリを収集して、Cisco DNA Center によって管理されている AP を特定し、これらの AP の Wi-Fi 機能を評価します。
- ネットワーク内にあるワイヤレスコントローラのタイプと、ワイヤレスコントローラにインストールされているソフトウェアが Wi-Fi 6E および 6 に対応しているかを判別します。
- 無線 LAN の設定と、Wi-Fi 6E および 6 の機能が有効かどうかを判断します。



(注) 特定の条件下では、AP プラットフォームの機能に関係なく、Wi-Fi 6E ワイヤレスクライアントの遅延または通信時間効率のデータが、Wi-Fi 6 またはレガシー Wi-Fi よりも最適でない場合があります。たとえば、次の場合、Wi-Fi 6E は最適ではない可能性があります。

- 非 Wi-Fi 6E AP よりも大幅に多くのクライアントが Wi-Fi 6E AP に接続されている。
- 非 Wi-Fi 6E 環境よりも Wi-Fi 6E 環境で、貧弱な RF 設計による干渉が多い。
- Wi-Fi 6E に接続されているクライアントが、信号強度 (RSSI) が弱い場所にいる。

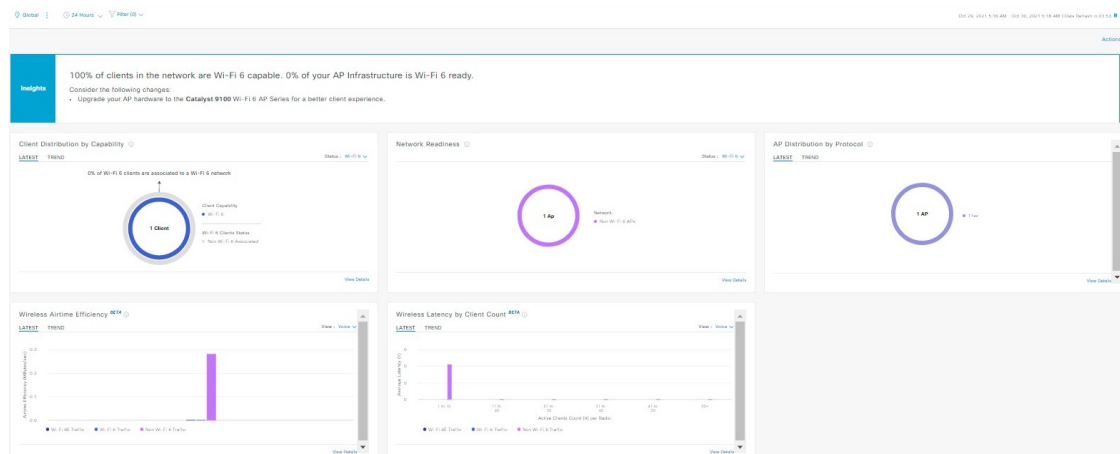
前述のシナリオは、従来の Wi-Fi に対する Wi-Fi 6E にも適用されます。

## Wi-Fi 6E および 6 ネットワークの対応状況の確認





Wi-Fi 6E および Wi-Fi 6 ネットワークの対応状況を確認するには、この手順を使用します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：アシュアランス > [Wi-Fi 6] の順に選択します。

[Wi-Fi 6] ダッシュボードが表示されます。



**ステップ 2** 次の機能には、上部のメニューバーを使用します。

| アイテム                                                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <br>[Location] ペイン | クリックすると、次のアイコンが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li> : [Hierarchical Site View] テーブルを表示するには、このトグルボタンをクリックします。サイト内のワイヤレスクライアントとワイヤレスネットワークデバイスの割合を示します。特定の建物の情報を表示するには、ドロップダウンリストから [Building View] を選択します。</li> <li> : このトグルボタンをクリックすると、すべてのネットワークサイトの正常性が、地理的ロケーションに基づいたネットワーク正常性マップで表示されます。デフォルトでは、提示されるネットワーク サイトは問題の重大度に従って色分けされています。</li> </ul> |
| <br>時間範囲の設定        | ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ドロップダウンメニューで範囲の長さ ([3 Hours]、[24 Hours]、または[7 days]) を選択します。</li> <li>[Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。</li> <li>[Apply] をクリックします。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [Filter] アイコン                                                                                       | [SSID] および [Band] オプションが含まれます。ドロップダウンリストから SSID と帯域周波数の隣にあるチェックボックスをオンにして選択し、[Apply] をクリックします。選択した内容に応じて、ダッシュボードの情報が更新されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [Actions] ドロップダウンリスト                                                                                | ダッシュボードを PDF 形式にエクスポートできます。[Export Dashboard] をクリックしてプレビューページを表示し、[Save] をクリックします。<br><br>ドロップダウンリストから [Edit Dashboards] を選択すると、ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。 <a href="#">ダッシュレットの位置の変更 (392 ページ)</a> および <a href="#">カスタム ダッシュボードの作成 (387 ページ)</a> を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                          |

**ステップ 3** ネットワークに関する情報を取得するには、[Insights] 領域を使用します。次の情報を出力します。

- Wi-Fi 6E および Wi-Fi 6 対応クライアントの割合。
- Wi-Fi 6E および Wi-Fi 6 対応の AP インフラストラクチャの割合。
- 上記の情報に基づいて、Wi-Fi 6E および Wi-Fi 6 ネットワークのメリットを最大限に活用するために実行できるアクションについての推奨事項が提供されます。

**ステップ 4** [Client Distribution By Capability] ダッシュレットを使用して、Wi-Fi 6E と Wi-Fi 6 間のクライアントの分布機能を比較し、Wi-Fi 6E または Wi-Fi 6 対応クライアントがネットワークに参加しているかどうかを確認します。

クライアントが関連付けられている AP に基づいて、クライアントは Wi-Fi 6 機能で動作する場合もあれば、それより低い機能で動作することもあります。たとえば、11ac AP に関連付けられた Wi-Fi 6 クライアントは、11ac クライアントとして機能します。

#### [Client Distribution By Capability] ダッシュレット

[Wi-Fi 6E] および [Wi-Fi 6] のステータスに基づいて、ワイヤレスネットワークに関連付けられているすべてのクライアントを表示できます。

このダッシュレットには、次のタブが含まれます。

- [Latest] : デフォルトで表示されます。
  - 円の**外側**のセグメントは、Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 および非 Wi-Fi 6 ネットワークに参加している（関連付けられている）Wi-Fi 6E 対応クライアントの数を示します。
  - 円の**外側**のセグメントは、Wi-Fi 6 および非 Wi-Fi 6 ネットワークに参加している（関連付けられている）Wi-Fi 6 対応クライアントの数を示します。
  - **内側**の円は、ネットワークに参加しているクライアントの実際のワイヤレス機能を示しています。ワイヤレスクライアントは、次のいずれかのプロトコルで機能します。
    - [Wi-Fi 6E] : 802.11ax 6 GHz 対応クライアント。
    - [Wi-Fi 6] : 802.11ax 対応クライアント。
    - [11ac] : 802.11ac Wave1 および Wave2 対応クライアント。
    - [11n] : 802.11n 対応クライアント。
    - [11abg] : 802.11a、b、または g 対応クライアント。
    - [Unclassified] : 次の理由で [Unclassified] に一覧表示されるクライアントがあります。
      - ネットワーク遅延のため、クライアントデバイスの機能が報告されません。
      - クライアントデバイスが接続されている AP またはワイヤレスコントローラに、正しいソフトウェアバージョンがインストールされていません。

チャートのいずれかの色にカーソルを重ねると、その色に関連付けられたクライアントの数が表示されます。

- [Trend] : [Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、選択したステータス ([Wi-Fi 6E] または [Wi-Fi 6]) に基づき一定の時間範囲で Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 または非 Wi-Fi 6 プロトコルに関連付けられているクライアントの数を示します。

チャートにカーソルを重ねると、クライアントの合計数と指定された日時におけるクライアントのプロトコルが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

**ステップ 5** [Network Readiness] ダッシュレットを使用して、Wi-Fi 6E および Wi-Fi 6 に対応し、Wi-Fi 6E または Wi-Fi 6 モードで動作するように設定（有効化）されている AP の数を確認します。

#### [Network Readiness] ダッシュレット

[Wi-Fi 6E] または [Wi-Fi 6E] のステータスに基づいて、ワイヤレスネットワークに関連付けられているすべてのクライアントを表示できます。

- 円の**外側**のセグメントは、6 GHz 帯域が有効になっている Wi-Fi 6E AP、または 11ax が無効になっている Wi-Fi 6 AP の数を示しています。

(注) Wi-Fi 6E AP は、ワイヤレスコントローラ および AP が 6 GHz 帯域をサポートするソフトウェアバージョンを実行している場合にのみ、Wi-Fi 6E モードで動作できます。

- **内側**の円は、Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 対応の AP および非 Wi-Fi 6 (11ac/n/a/b/g) 対応の AP の数を示しています。

(注) Wi-Fi 6 AP は、次の条件に従って Wi-Fi 6 モードで動作できます。

- Wi-Fi 6 AP で 11ax 設定が有効になっている。
- ワイヤレスコントローラと AP が Wi-Fi 6 (11ax) をサポートするソフトウェアバージョンを実行している。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色セグメントをクリックすると、[AP] タブと [WLC] タブが表示されます。[AP] タブと [WLC] タブをクリックすると、無線レベルと帯域レベルでの Wi-Fi 6 対応がそれぞれ表示されます。

**ステップ 6** [AP Distribution by Protocol] ダッシュレットを使用して、Wi-Fi 標準（Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 および 11 ac/n/a/b/g）をサポートするハードウェア機能をもつ AP の数を確認します。

**[AP Distribution by Protocol] ダッシュレット**

このダッシュレットには、次のタブが含まれます。

- [Latest] : デフォルトで表示されます。Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 (11ax) プロトコルをサポートする AP の数と、非 Wi-Fi 6 (11ac/n/a/b/g) プロトコルをサポートする AP の数を示します。
  - [Wi-Fi 6E] : 802.11ax 6 GHz 帯域対応 AP。
  - [Wi-Fi 6] : 802.11ax 対応 AP。
  - [11ac] : 802.11ac 対応 AP。
  - [11n] : 802.11n 対応 AP。
  - [11abg] : 802.11a/b/g 対応 AP。

チャートのいずれかの色にカーソルを重ねると、その色に関連付けられた AP の数が表示されます。

- [Trend] : [Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、一定の時間範囲でさまざまなプロトコル (Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 または非 Wi-Fi 6) に関連付けられている AP の数を示します。

チャートにカーソルを重ねると、AP の合計数と指定された日時における AP のプロトコルが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

**ステップ 7** [Wireless Airtime Efficiency] ダッシュレットを使用して、アクセスカテゴリ (音声、ビデオ、ベストエフォート、バックグラウンド) ごとに、Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 トラフィックと非 Wi-Fi 6 トラフィックの平均通信時間効率を比較します。

**[Wireless Airtime Efficiency] ダッシュレット**

[Voice]、[Video]、[Best Effort]、[Background]、および [All] のアクセスカテゴリに従って、ワイヤレス通信時間効率を表示できます。デフォルトは [Voice] です。

このダッシュレットには、次のタブが含まれます。

- [Latest] : デフォルトで表示されます。棒グラフでは、選択したアクセスカテゴリにおける Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 トラフィックと非 Wi-Fi 6 トラフィックの平均通信時間効率（1 ミリ秒あたりのバイト数）を比較できます。

AP の無線が、類似した RF 状態の他のネットワークよりも少ない通信時間（マイクロ秒）でより多くのトラフィック（クライアントに送信されるバイト数）を送信できる場合は、スペクトルが効率的に使用されています。効率的なネットワークでは、より多くのビデオまたは音声コールを処理できる可能性があります。

トラフィックは次のように分類されます。

- Wi-Fi 6E トラフィックは、Wi-Fi 6E の AP から Wi-Fi 6E として関連付けられているクライアントに送信されるトラフィックです。
- Wi-Fi 6 トラフィックは、Wi-Fi 6 の AP から Wi-Fi 6 として関連付けられているクライアントに送信されるトラフィックです。
- 非 Wi-Fi 6 トラフィックは以下を集約したものです。
  - Wi-Fi 6 AP から非 Wi-Fi 6 対応クライアントへのトラフィック。
  - 非 Wi-Fi 6 AP から非 Wi-Fi 6 対応クライアントへのトラフィック。
  - 非 Wi-Fi 6 AP から Wi-Fi 6 対応クライアントへのトラフィック。

(注) Wi-Fi 6 対応クライアントは、非 Wi-Fi 6 AP に接続すると非 Wi-Fi 6 モードで動作します。

- [Trend] : [Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。この色分けされたトレンドチャートは、一定の時間範囲でさまざまなワイヤレス ネットワーク モード（Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 または非 Wi-Fi 6）に関連付けられているクライアントの数を示します。

チャートにカーソルを重ねると、クライアントの合計数と指定された日時におけるクライアントのプロトコルが表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

**ステップ 8** [Wireless Latency by Client Count] ダッシュレットを使用して、アクセスカテゴリ（音声、ビデオ、ベストエフォート、バックグラウンド）ごとに、Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 トラフィックと非 Wi-Fi 6 トラフィックの平均ワイヤレス遅延を比較します。

クライアント数が多い AP 無線は、通常、類似した RF 条件下のクライアント数が少ない無線と比べて遅延が多くなります。

**[Wireless Latency by Client Count] ダッシュレット**

[Voice]、[Video]、[Best Effort]、[Background] トラフィックのワイヤレス遅延を表示できます。デフォルトは [Voice] です。

このダッシュレットには、次のタブが含まれます。

- [Latest] : デフォルトで表示されます。同様の数の「アクティブな」クライアントに対応する Wi-Fi 6E、Wi-Fi 6 および非 Wi-Fi 6 AP 無線間の平均ワイヤレス遅延を比較できます。ワイヤレス遅延は、パケットが AP からクライアントに正常に送信されるまでにかかる時間（マイクロ秒）で測定されます。

(注) アクティブなクライアント数には、単に関連付けられたクライアントではなく、特定のアクセスカテゴリのトラフィックをアクティブに送信しているクライアントが含まれます。

- [Trend] : [Trend] タブをクリックすると、トレンドチャートが表示されます。トレンドチャートには、すべてのアクセスカテゴリの平均ワイヤレス遅延が表示されます。

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載したスライドインペインが開きます。スライドインペインからチャートの色付きセグメントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。





## 第 16 章

# Power over Ethernet の監視

- [PoE について \(373 ページ\)](#)
- [PoE テレメトリの設定ワークフロー \(373 ページ\)](#)
- [PoE テレメトリに使用するデバイスでの NETCONF の設定 \(375 ページ\)](#)
- [PoE テレメトリのテレメトリ設定の更新 \(377 ページ\)](#)
- [ネットワーク内の PoE 対応デバイスの監視 \(378 ページ\)](#)

## PoE について

Cisco DNA Center Power over Ethernet (PoE) を使用してネットワーク内の PoE 対応デバイスをモニターできます。また、PoE を供給するスイッチの電源の概要がモニターされ、スイッチの電力バジェット、使用済み電力、残り電力、電力使用状況などの情報が提供されるため、スイッチの割り当て済み電力と電力負荷を表示できます。

## PoE テレメトリの設定ワークフロー

アシュアランスで PoE テレメトリと分析を有効にするには、必要な設定タスクを実行する必要があります。基本的な設定ワークフローのタスクは次のとおりです。

1. PoE テレメトリに使用するネットワークデバイスで NETCONF を設定します。  
詳細については、「[PoE テレメトリに使用するデバイスでの NETCONF の設定 \(375 ページ\)](#)」を参照してください。
2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。  
詳細については、「[PoE テレメトリのテレメトリ設定の更新 \(377 ページ\)](#)」を参照してください。

### 設定ワークフロー

PoE テレメトリの設定ワークフローは、Cisco DNA Center のソフトウェアバージョンと設定、および PoE テレメトリをサポートするネットワークデバイスによって異なります。

Cisco DNA Center の新規インストールの場合は、次の表を参照してください。

| Cisco DNA Center の新規インストール                                                                                                           |                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ネットワーク デバイス設定                                                                                                                        | 必要な設定タスク                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.3s である。</li> <li>NETCONF が無効になっている。</li> </ul>                           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.2 から 16.12.3s に SWIM でアップグレードされる。</li> <li>NETCONF が無効になっている。</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.2 から 16.12.3s に SWIM でアップグレードされる。</li> <li>NETCONF が有効になっている。</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol>                                    |

以前のリリースから Cisco DNA Center にアップグレードする場合は、次の表を参照してください。

| 以前のリリースからのアップグレード                                                                                                                    |                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ネットワーク デバイス設定                                                                                                                        | 必要な設定タスク                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.2 から 16.12.3s に SWIM でアップグレードされる。</li> <li>NETCONF が無効になっている。</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.2 から 16.12.3s に SWIM でアップグレードされる。</li> <li>NETCONF が有効になっている。</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol>                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.3s である。</li> <li>NETCONF が無効になっている。</li> </ul>                           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>IOS XE のバージョンが 16.12.3s である。</li> <li>NETCONF が有効になっている。</li> </ul>                           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol>                                    |

PoE テレメトリをサポートするネットワークデバイスのインベントリに変更がある場合は、次の表を参照してください。

| ネットワークデバイスのインベントリの変更                     |                                                                                                                          |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ネットワークデバイスの変更                            | 必要な設定タスク                                                                                                                 |
| インベントリからデバイスを削除して再度追加する。Cisco DNA Center | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |
| インベントリに新しいデバイスを追加する。Cisco DNA Center     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |
| インベントリの交換用デバイスを使用する。Cisco DNA Center     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで NETCONF を有効にします。</li> <li>2. Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新します。</li> </ol> |

## PoE テレメトリに使用するデバイスでの NETCONF の設定

この手順では、PoE テレメトリに使用するネットワークデバイスで NETCONF を設定する方法を示します。PoE テレメトリを使用するには、サポートするネットワークデバイスで NETCONF が有効になっている必要があります。

### 始める前に

Cisco DNA Center とネットワークデバイスの設定によっては、PoE テレメトリを設定するためにこの手順を実行する必要がない場合もあります。詳細については、「[PoE テレメトリの設定ワークフロー \(373 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 1** 既存のネットワークデバイスの NETCONF ポートを設定します。

- a) 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Provision]** > **[Inventory]** の順に選択します。

[Inventory] ウィンドウが表示されます。

- b) NETCONF が有効になるように設定するネットワークデバイスのチェックボックスをオンにします。
- c) **[Actions]** ドロップダウンリストから **[Inventory]** > **[Edit Device]** の順に選択します。
- d) **[Type]** ドロップダウンリストから、**[Network Device]** を選択します。
- e) **[NETCONF]** 領域を展開します。
- f) **[Port]** フィールドに、「**830**」と入力します。

(注) NETCONFは、ネットワークデバイスの設定をインストール、操作、削除するメカニズムです。


g) [Update] をクリックします。

デバイスの NETCONF ポートが設定されます。

**ステップ 2** [Template Editor] で NETCONF 設定のプロジェクトを作成します。

a) 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [Tools] > [Template Editor] の順に選択します。

[Template Editor] ウィンドウが表示されます。


b) 左ペインで  アイコンをクリックし、[Create Project] を選択します。

c) [Name] フィールドに、プロジェクトの名前を入力します。

d) [Add] をクリックします。

プロジェクトが [Template Editor] の左ペインに追加されます。

**ステップ 3** NETCONF 設定のプロジェクトでテンプレートを作成します。

a) 左ペインで、プロジェクトの右にある  アイコンにカーソルを合わせ、[Add Template] を選択します。

b) [Name] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。

c) [Device Type (s)] フィールドで、[Edit] をクリックします。

d) スイッチとハブを追加するには、[Switches and Hubs] のチェックボックスをオンにしてテンプレートを適用します。

(注) スイッチの正確なモデルを指定する場合は、[Switches and Hubs] を展開し、特定のスイッチモデルのチェックボックスをオンにします。

e) [Back to Add New Template] をクリックします。

f) [Software Type] ドロップダウンリストをクリックし、[IOS-XE] を選択します。

g) [Add] をクリックします。

テンプレートが作成されて表示されます。

**ステップ 4** テンプレートの内容を追加します。

a) テンプレートで次のように入力します。

```
netconf-yang
```

b) [Actions] ドロップダウンリストから、[Save] を選択します。

テンプレートの内容が保存されます。

c) [Actions] ドロップダウンリストから、[Commit] を選択します。

d) [Commit Note] テキストボックスに、メモを入力します。

e) [Commit] をクリックします。

**ステップ 5** ネットワークプロファイルを作成してテンプレートを関連付けます。

- a) 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Profile]** の順に選択します。  
[Network Profiles] ウィンドウが表示されます。
- b) **[+Add Profile]** をクリックし、**[Switching]** を選択します。
- c) **[Profile Name]** フィールドに、ネットワークプロファイルの名前を入力します。
- d) **[Day-N Templates]** タブをクリックします。
- e) **[Add]** をクリックします。
- f) **[Device Type]** ドロップダウンリストから、**[Switches and Hubs]** を選択します。
- g) **[Template]** ドロップダウンリストから、手順 3 で作成したテンプレートを選択します。
- h) **[Save]** をクリックします。  
ネットワークプロファイルが作成され、[Network Profiles] ウィンドウに表示されます。

**ステップ 6** ネットワークプロファイルのサイトを割り当てます。

- a) **[Sites]** 列で、**[Assign Site]** をクリックします。
- b) ネットワークデバイスが割り当てられているサイトのチェックボックスをオンにします。
- c) **[Save]** をクリックします。

**ステップ 7** NETCONF 設定をネットワークデバイスにプロビジョニングします。

- a) 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Provision]** > **[Inventory]** の順に選択します。  
[Inventory] ウィンドウが表示されます。
- b) PoE テレメトリのネットワークデバイスのチェックボックスをオンにします。
- c) **[Actions]** ドロップダウンリストから、**[Provision]** > **[Provision Device]** の順に選択します。
- d) **[Assign Site]** ステップで、**[Next]** をクリックします。
- e) **[Advanced Configuration]** ステップで、**[Provision these templates even if they have been deploy before]** チェックボックスをオンにします。
- f) **[Next]** をクリックします。
- g) **[Summary]** ステップで、**[Deploy]** をクリックします。
- h) **[Apply]** をクリックします。  
プロビジョニングが開始され、NETCONF 設定がネットワークデバイスにプッシュされます。

## PoE テレメトリのテレメトリ設定の更新

この手順では、Cisco DNA Center でテレメトリ設定を更新する方法を示します。これは、NETCONF ポートを設定し、PoE テレメトリに使用するネットワークデバイスに NETCONF 設定をプッシュした後に必要な手順です。

### 始める前に

PoE テレメトリ用に設定するネットワークデバイスで NETCONF ポートが確立され、NETCONF が適切に設定されていることを確認します。詳細については、「[PoE テレメトリに使用するデバイスでの NETCONF の設定 \(375 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Provision]** > **[Inventory]** の順に選択します。

**[Inventory]** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** PoE テレメトリ用に設定されているネットワークデバイスのチェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** **[Actions]** ドロップダウンリストから、**[Telemetry]** > **[Update Telemetry Settings]** の順に選択します。

**ステップ 4** **[Force Configuration Push]** チェックボックスをオンにします。

(注) このオプションを選択すると、設定の変更がデバイスにプッシュされます。

**ステップ 5** **[Next]** をクリックします。

**ステップ 6** 次のオプションボタンをクリックして、テレメトリ設定を更新するスケジュールを設定します。

- **[Now]** : テレメトリ設定をすぐに更新するには、このオプションを選択します。
- **[Later]** : タスクを別の時間にスケジュールするには、このオプションを選択します。日付と時刻を指定します。

**ステップ 7** **[Apply]** をクリックします。

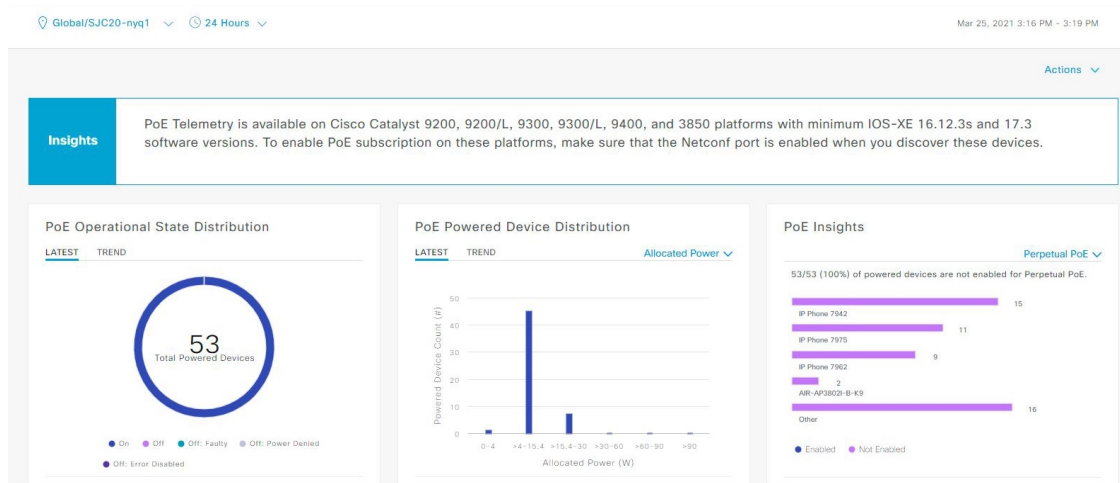
## ネットワーク内の PoE 対応デバイスの監視

ネットワーク内の PoE 対応デバイスのグローバルビューを取得するには、次の手順を使用します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]** > **[PoE]** の順に選択します。



**[PoE]** ダッシュボードが表示されます。

図 48: [PoE] ダッシュボード



**ステップ 2** 上部のメニューバーにあるロケーションオプション (📍 Global) をクリックして、ロケーションペインを表示します。

ロケーションペインには、次の機能があります。

| ロケーションオプション                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <br>トグルボタン<br>[List View] | <p>このトグルボタンをクリックすると、ネットワークのサイトとビルディングがリスト形式で表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストをクリックして、次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Hierarchical Site View] : リストをサイトレベルで並べ替えます。</li> </ul> <p>[Apply to Page Location] 列で特定のサイトまたはビルディングの [Apply] をクリックすると、そのロケーションのデータのみが [Network] ダッシュボードに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Building View] : リストをビルディングレベルで並べ替えます。</li> </ul> <p>[Apply to Page Location] 列で特定のビルディングの [Apply] をクリックすると、そのビルディングのデータのみが [Network] ダッシュボードに表示されます。</p> |
| <br>トグルボタン<br>[Map View]  | <p>このトグルボタンをクリックすると、すべてのネットワークサイトの正常性が、地理的ロケーションに基づいたネットワーク正常性マップで表示されます。デフォルトでは、提示されるネットワークサイトは問題の重大度に従って色分けされています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| ロケーションオプション                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <br>[Topology]ツール | <p>このアイコンをクリックすると、[Topology]ツールが開きます[Topology] ウィンドウには次のビューがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Geographical View]</b> : このトグルボタンをクリックすると、ネットワークが地理的マップで表示されます。 </li> </ul> <p>ロケーションにカーソルを合わせると、正常なデバイスの割合が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Topology View]</b> : このトグルボタンをクリックすると、ネットワークにおけるコンポーネントの接続状況を示すトポロジが表示されます。</li> </ul> <p>デバイスにカーソルを重ねると、デバイスロール、IP アドレス、ソフトウェアバージョンなどのデバイス情報が表示されます。デバイスの 360 度ビューを取得するには、[View Details 360] をクリックします。</p> |

**ステップ 3** 上部のメニューバーにある時間範囲設定 (🕒) をクリックして、ダッシュボードに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 Hours]、[24 Hours]、または [7 Days] を選択します。
- [Start Date] と時刻、[End Date] と時刻を指定します。
- [Apply] をクリックします。

**ステップ 4** 上部のメニューバーにある [Actions] ドロップダウンリストをクリックして、次の機能を実行できます。

- **[Export Dashboard]** : PoE ダッシュボードを PDF 形式にエクスポートできます。[Export Dashboard] をクリックしてプレビュー ページを表示し、[Save] をクリックします。
- **[Edit Dashboard]** : ダッシュボードの表示をカスタマイズできます。 [ダッシュレットの位置の変更 \(392 ページ\)](#) および [カスタム ダッシュボードの作成 \(387 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 5** 次の機能には、PoE ダッシュレットを使用します。



### AP 省電力モード分布

[AP Power Save Mode Distribution] には、AP 省電力機能、および省電力モードと通常モードの AP の平均数が表示されます。

[Latest] タブには、省電力機能および省電力モードと通常モードをサポートする AP の数が表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で [24 hours] を選択した場合、トレンドチャートには 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

(注) 表示されるデータポイントは、対応する 10 分または 1 時間の開始時刻です。たとえば、10:00 ~ 10:10 の間に受信されたすべてのデータは、時刻値 10:00 で表示されます。同様に、毎時ウィンドウでは、10:00 ~ 11:00 の間に受信されたデータは、10:00 のタイムスタンプで表示されます。このデータポイントは、対応する期間の終了後に使用可能になります。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane の色分けされたチャートにカーソルを合わせると、特定の時間に省電力モードと通常モードの省電力機能で配布された AP の総数が表示されます。上位サイトの AP の数と上位のデバイスタイプに基づいて、チャートの下に表示されるテーブルのデータをフィルタ処理できます。

### AP の省電力

AP 省電力モードでは、AP の無線をシャットダウンするか、無線空間ストリームを減らすことで消費電力を削減できます。また、その時間範囲中に消費および節約された全体的な電力が表示されます。

- 時間範囲の設定で [24 hours] を選択した場合、トレンドチャートには 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

(注) 表示されるデータポイントは、対応する 10 分または 1 時間の開始時刻です。たとえば、10:00 ~ 10:10 の間に受信されたすべてのデータは、時刻値 10:00 で表示されます。同様に、毎時ウィンドウでは、10:00 ~ 11:00 の間に受信されたデータは、10:00 のタイムスタンプで表示されます。このデータポイントは、対応する期間の終了後に使用可能になります。

[View Details] をクリックすると、[AP Power Savings] slide-in pane に追加の詳細情報が表示されます。slide-in pane の色分けされたチャートには、ある時間範囲における AP の消費電力が表示されます。チャートにカーソルを合わせると、AP の総数、省電力モードおよび通常モードで一定期間に節約された電力が表示されます。

**PoE AP 電力モードの分布**

完全に電力が供給されている AP と部分的に電力が供給されている AP の分布が表示されます。

[Latest] タブには、10 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で [24 hours] を選択した場合、トレンドチャートには 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

(注) 表示されるデータポイントは、対応する 10 分または 1 時間の開始時刻です。たとえば、10:00 ~ 10:10 の間に受信されたすべてのデータは、時刻値 10:00 で表示されます。同様に、毎時ウィンドウでは、10:00 ~ 11:00 の間に受信されたデータは、10:00 のタイムスタンプで表示されます。このデータポイントは、対応するウィンドウの終了後に使用可能になります。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの色付きセグメントまたは対応する凡例をクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

**PoE 動作状態の分布**

ネットワーク内の PoE 対応デバイスの数が表示されます。PoE で供給されているかどうかに基づいて、色分けされたチャートでデバイスの数が示されます。PoE で供給していないデバイスについては、その理由に応じてさらに分類されます。

[Latest] タブには、10 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で [24 hours] を選択した場合、トレンドチャートには 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

(注) 表示されるデータポイントは、対応する 10 分または 1 時間の開始時刻です。たとえば、10:00 ~ 10:10 の間に受信されたすべてのデータは、時刻値 10:00 で表示されます。同様に、毎時ウィンドウでは、10:00 ~ 11:00 の間に受信されたデータは、10:00 のタイムスタンプで表示されます。このデータポイントは、対応するウィンドウの終了後に使用可能になります。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの色付きセグメントまたは対応する凡例をクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

### PoE 受電デバイスの分布

現在 PoE を使用しているデバイスのうち、特定の基準に当てはまるデバイスの割合が表示されます。ドロップドロップリストを使用して、次の基準を指定します。

- 割り当て済み電力
- 受電デバイスクラス

[Latest] タブには、10 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で [24 hours] を選択した場合、トレンドチャートには 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

(注) 表示されるデータポイントは、対応する 10 分または 1 時間の開始時刻です。たとえば、10:00 ~ 10:10 の間に受信されたすべてのデータは、時刻値 10:00 で表示されます。同様に、毎時ウィンドウでは、10:00 ~ 11:00 の間に受信されたデータは、10:00 のタイムスタンプで表示されます。このデータポイントは、対応するウィンドウの終了後に使用可能になります。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの色付きセグメントまたは対応する凡例をクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

### 電力割り当て負荷分散

PoE の電力負荷に基づくスイッチの割合が表示されます。

[Latest] タブには、10 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で [24 hours] を選択した場合、トレンドチャートには 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

(注) 表示されるデータポイントは、対応する 10 分または 1 時間の開始時刻です。たとえば、10:00 ~ 10:10 の間に受信されたすべてのデータは、時刻値 10:00 で表示されます。同様に、毎時ウィンドウでは、10:00 ~ 11:00 の間に受信されたデータは、10:00 のタイムスタンプで表示されます。このデータポイントは、対応するウィンドウの終了後に使用可能になります。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの色付きセグメントまたは対応する凡例をクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

### PoE インサイト

現在 PoE を使用しているデバイスのうち、次の PoE テクノロジーをサポートするように設定されているデバイスや IEEE に準拠しているデバイスの割合が表示されます。

- 無停止型 POE
- 高速 PoE
- IEEE 準拠
- UPOE+

ドロップダウンリストを使用して、特性を選択します。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの色付きセグメントまたは対応する凡例をクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。

## 電力消費量

現在 PoE を使用しているデバイスごとの合計電力使用量と割り当て電力が表示されます。ドロップダウンリストを使用して [Consumption] または [Allocation] ビューを選択すると、[Latest] および [Trend] タブにそれぞれのデータが表示されます。

[Latest] タブには、10 分間のスナップショットビューが表示されます。円グラフには、[PoE Power Allocation]、[System Power Allocation]、[Available Power] などの [Power Allocation] の詳細と [PoE Power Consumption] や [System Power Consumption] などの [Power Consumption] の詳細がワット単位で表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で 24 時間を選択した場合、トレンドチャートには電力使用の 24 時間の範囲全体で 10 分のデータポイントが表示されます。
- 時間範囲の設定で 24 時間を超える時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの色付きセグメントまたは対応する凡例をクリックすると、一定期間におけるデバイスの [System Power] の情報（[System Power Consumption] および [System Power Allocation]）と [PoE Power] の情報（[PoE Power Consumption] および [PoE Power Allocation]）をチャートの下に表示されるテーブルで確認できます。

水平バーとして表示されるデータを選択して、電力使用量、デバイスロール、および場所に基づいて表示される前述のテーブルをフィルタ処理できます。

## PoE ポートの可用性

PoE の電力負荷に基づいてポートの可用性が表示されます。

[Latest] タブには、10 分間のスナップショットビューが表示されます。

[Trend] タブには、次の情報が表示されます。

- 時間範囲の設定で 24 時間以下の時間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 1 時間のデータポイント（10 分のデータから集約）が表示されます。
- 時間範囲の設定で 7 日間を選択した場合、トレンドチャートには、時間範囲全体に対して 12 時間のデータポイント（1 時間のデータから集約）が表示されます。

[View Details] をクリックして、追加の詳細を含む slide-in pane を開きます。slide-in pane からチャートの 1 時間のデータポイントをクリックすると、チャートの下に表示されるテーブルのデータを更新できます。





## 第 17 章

# Manage Dashboards

- [ダッシュボードについて \(387 ページ\)](#)
- [カスタム ダッシュボードの作成 \(387 ページ\)](#)
- [テンプレートからのダッシュボードの作成 \(388 ページ\)](#)
- [ダッシュボードの表示 \(390 ページ\)](#)
- [ダッシュボードの編集または削除 \(390 ページ\)](#)
- [ダッシュボードの複製 \(391 ページ\)](#)
- [ダッシュボードをお気に入りにする \(391 ページ\)](#)
- [ダッシュレットの位置の変更 \(392 ページ\)](#)

## ダッシュボードについて

ネットワーク監視用のカスタムダッシュボードを作成できます。ダッシュボードには、1つまたは複数のダッシュレット（チャート、表、地理マップなどの情報）で構成されます。

カスタムダッシュボードは、それを作成したユーザーアカウントにのみ表示されます。作成者であるユーザー以外のユーザーには表示されません。

## カスタム ダッシュボードの作成

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]>[Dashboard Library]**の順に選択します。

**[Dashboard Library]** ウィンドウが表示され、定義されているすべてのダッシュボードの一覧が表示されます。

**ステップ 2** **[+ Create a Dashboard]** をクリックします。

**ステップ 3** **[Create a Dashboard]** ダイアログ ボックスで、ダッシュボードのタイトルを入力します。

**ステップ 4** **[Save]** をクリックします。

空白のダッシュボードが表示されます。

**ステップ 5** ダッシュボードでは、次の操作を実行できます。

- a) [+ Add a Dashlet] をクリックして、このダッシュボードに内容を追加します。
- b) ダッシュボードに追加するダッシュレットの横にあるチェックボックスをオンにします。
  - (注) ドロップダウンリストからカテゴリを選択するか、右側にある検索ボックスを使用して、ダッシュレットを検索します。
- c) [Add] をクリックしてダッシュレットをダッシュボードに追加します。

**ステップ 6** (任意) ダッシュレットをドラッグアンドドロップすると、ダッシュボード上でのダッシュレットの場所を変更できます。

**ステップ 7** ダッシュボードからダッシュレットを削除するには、次の手順を実行します。

- a) ダッシュレットの右上隅にあるゴミ箱アイコンをクリックします。
- b) ダイアログボックスで、[Delete] をクリックします。

**ステップ 8** [Save] をクリックしてダッシュボードを保存します。

## テンプレートからのダッシュボードの作成

テンプレートからダッシュボードを作成すると、範囲を使用してダッシュボードデータをフィルタ処理できます。範囲は、場所、デバイスタイプ、およびその他のオプションでデバイスをフィルタ処理します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します: [Assurance] > [Dashboard Library] の順に選択します。

[Dashboard Library] ウィンドウが表示され、すべての定義されたダッシュボードとテンプレートを (下に) リスト表示します。

**ステップ 2** [Templates] エリアで、ダッシュボードテンプレートをクリックします。

**ステップ 3** [Create a Dashboard] ダイアログボックスで、ダッシュボードのタイトルを入力します。

**ステップ 4** [Save] をクリックします。

**ステップ 5** 既存の範囲を使用する場合は、既存の範囲を選択して [Select Scope] をクリックします。

既存の範囲を選択した場合は、スキップして先に進みます。新しい範囲を作成する場合は、次の手順を続けます。

**ステップ 6** 新しい範囲を作成する場合は、[Create New Scope] をクリックします。

最初のステップ [Create New Scope] が表示されます。

**ステップ 7** 範囲名を入力し、[Next] をクリックします。範囲名にスペースを入力すると、スペースは下線に変換されます。

2 番目のステップ [Select Location (s)] が表示されます。

**ステップ 8** 範囲の隣にあるチェックボックスをオンまたはオフにして、範囲に含まれる 1 つ以上の場所を選択します。

(注) 場所をフィルタリングするには検索フィールドを使用します。



- ステップ 9** [Next] をクリックします。  
3 番目のステップ [Select Filters] が表示されます。
- ステップ 10** [Client Health] テンプレートを使用している場合は、次のフィルタを使用できます。
- [Client Type] : 範囲の隣にあるチェックボックスをオンまたはオフにして有線またはワイヤレスを選択し、これらのタイプのデバイスを範囲に含めます。
  - [SSID] : 範囲の隣にあるチェックボックスをオンまたはオフにして、範囲に SSID を含めます。検索フィールドに入力して SSID をフィルタリングします。このフィルタはワイヤレスデバイスにのみ適用されます。
  - [Host Name] : 範囲に含めるホスト名を入力します。パーセント記号 (%) をワイルドカードとして使用し、それぞれの入力後に Enter キーを押します。
  - [Device Type] : デバイスの OS の種類 (iOS、Android など) を入力して範囲に含めます。パーセント記号 (%) をワイルドカードとして使用し、それぞれの入力後に Enter キーを押します。
  - [MAC Address] : 範囲に含める MAC アドレスを入力します。パーセント記号 (%) をワイルドカードとして使用し、それぞれの入力後に Enter キーを押します。
  - [IP Address] : 範囲に含める IP アドレスを入力します。パーセント記号 (%) をワイルドカードとして使用し、それぞれの入力後に Enter キーを押します。
- ステップ 11** [Network Health] テンプレートを使用している場合は、次のフィルタを使用できます。
- [Network Device Type] : 範囲の隣にあるチェックボックスをオンまたはオフにして、範囲に含まれる 1 つ以上のデバイスタイプを選択します。検索フィールドに入力してデバイスをフィルタリングします。
  - [Network OS] : 範囲の隣にあるチェックボックスをオンまたはオフにして、範囲に含めるネットワークの OS バージョンを選択します。検索フィールドに入力してバージョンをフィルタリングします。
  - [IP Address] : 範囲に含める IP アドレスを入力します。パーセント記号 (%) をワイルドカードとして使用し、それぞれの入力後に Enter キーを押します。
  - [Host Name] : 範囲に含めるホスト名を入力します。パーセント記号 (%) をワイルドカードとして使用し、それぞれの入力後に Enter キーを押します。
- ステップ 12** [Next] をクリックします。  
4 番目のステップの [Preview] が表示されます。
- ステップ 13** 選択したフィルタに基づいて更新されるクライアントのダイナミックリストを有効または無効にするには、[Dynamic list] トグルをクリックします。
- ステップ 14** [Save] をクリックして範囲を保存します。  
確認のダイアログが表示されます。
- ステップ 15** (任意) ダッシュレットをドラッグアンドドロップすると、ダッシュボード上でのダッシュレットの場所を変更できます。
- ステップ 16** ダッシュボードからダッシュレットを削除するには、次の手順を実行します。
- a) ダッシュレットの右上隅にあるゴミ箱アイコンをクリックします。
  - b) ダイアログボックスで、[Delete] をクリックします。
- ステップ 17** [Save] をクリックしてダッシュボードを保存します。

(注) 新しい範囲の場合は、ダッシュボードにデータが表示されるまで最大 15 分かかります。

## ダッシュボードの表示

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance]>[Dashboard Library]の順に選択します。

[Dashboard Library] ウィンドウが表示され、定義されているすべてのダッシュボードの一覧が表示されます。[SortBy]コントロールを使用すると、日付または名前でダッシュボードを並べ替えることができます。ダッシュボードは、[Find] フィールドにその名前を入力して検索することができます。

(注) ダッシュボードを [Date Modified] で並べ替えると、ダッシュボードに変更が加えられていない場合でも、ダッシュボードを最後に開いた日時で並べ替えられます。

**ステップ 2** お気に入りとしてマークされているダッシュボードを表示するには、[Favorite Dashboards] タブをクリックします。

**ステップ 3** 表示するダッシュボードをクリックします。

**ステップ 4** ダッシュボードのコントロールで、[Show] または [Hide] をクリックし、必要に応じてマップを表示または非表示にします。

**ステップ 5** (任意) フィルタから適切な値を選択して、期間、サイト、またはドメイン別にダッシュボードデータをフィルタ処理します。

## ダッシュボードの編集または削除

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance]>[Dashboard Library]の順に選択します。

[Dashboard Library] ウィンドウが表示され、定義されているすべてのダッシュボードの一覧が表示されます。[SortBy]コントロールを使用すると、日付または名前でダッシュボードを並べ替えることができます。ダッシュボードは、[Find] フィールドにその名前を入力して検索することができます。

**ステップ 2** 編集または削除するダッシュボードをクリックします。

**ステップ 3** 次のいずれかを実行します。


- 変更するには、[Actions] メニューで [Edit Dashboard] を選択します。ダッシュレットを追加または削除し、ダッシュレットをダッシュボード内の別の位置にドラッグできます。設定が終了したら、[Save] をクリックします。

- ダッシュボードを削除するには、[Actions] メニューで [Delete Dashboard] を選択します。確認ダイアログで [Delete] をクリックします。

## ダッシュボードの複製

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Dashboard Library] の順に選択します。
- [Dashboard Library] ウィンドウが表示され、定義されているすべてのダッシュボードの一覧が表示されます。[Sort By] コントロールを使用すると、日付または名前ですべてのダッシュボードを並べ替えることができます。ダッシュボードは、[Find] フィールドにその名前を入力して検索することができます。
- ステップ 2** ダッシュボードの複製アイコン（スターアイコンの隣）をクリックします。
- ステップ 3** [Duplicate a Dashboard] ダイアログボックスで、ダッシュボードコピーのタイトルを入力します。
- ステップ 4** [Save] をクリックします。
- ステップ 5** コピーしたこのダッシュボードは、ダッシュレットを追加、削除、または再配置することで変更できます。
- ステップ 6** [Save] をクリックしてダッシュボードを保存します。  
確認のダイアログが表示されます。
- ステップ 7** [OK] をクリックします。

## ダッシュボードをお気に入りにする

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Dashboard Library] の順に選択します。
- [Dashboard Library] ウィンドウが表示され、定義されているすべてのダッシュボードの一覧が表示されます。[Sort By] コントロールを使用すると、日付または名前ですべてのダッシュボードを並べ替えることができます。ダッシュボードは、[Find] フィールドにその名前を入力して検索することができます。
- ステップ 2** ダッシュレット名の横にある  をクリックすると、お気に入りにして登録されます。
- (注) [Favorite Dashboards] タブをクリックすると、お気に入りにしたダッシュボードにアクセスできます。

# ダッシュレットの位置の変更

アシユアランスのダッシュボード（デフォルト）で、ダッシュレットの位置を変更できます。

---

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシユアランス** >。  
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。
- 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシユアランス** > [Health] > [Network Health]。  
[Network Health] ダッシュボードが表示されます。
- 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシユアランス** > [Health] > [Client Health] の順に選択します。  
[Client Health] ダッシュボードが表示されます。
- 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシユアランス** > [Health] > [Application Health]。  
[Application Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** [Actions] ドロップダウンリストをクリックし、[Edit Dashboard] を選択します。  
ダッシュボードが更新され、編集可能になります。

**ステップ 3** 移動するダッシュレットをクリックしてダッシュボードの別の位置にドラッグします。

**ステップ 4** [Save] をクリックします。

---



## 第 18 章

# ネットワークのトレンドを観察し洞察を得る

- ネットワークのトレンドとインサイトについて (393 ページ)
- ワイヤレスアクセスポイントのパフォーマンスアドバイザリを表示する (394 ページ)
- ネットワークトレンドの表示とインサイトの取得 (398 ページ)
- ネットワークヒートマップでのアクセスポイントおよびスイッチの比較 (404 ページ)
- KPI 値をネットワーク内のピアと比較 (408 ページ)
- 建物、APモデルファミリ、およびワイヤレスエンドポイントタイプの比較 (409 ページ)
- ベースラインを使用したネットワークパフォーマンスの表示と監視 (413 ページ)
- AI 活用型 RRM ダッシュボードを使用した RF ネットワークの表示 (416 ページ)

## ネットワークのトレンドとインサイトについて

Cisco AI Network Analytics 機械学習アルゴリズムと AI テクノロジーを使用して、次の情報を提供します。

- **トレンドとインサイト**：グローバルパターン（トレンド）と乖離度を調べて、システム生成のインサイトを提供します。
- **[AP Performance Advisories]**：一貫してクライアントエクスペリエンスが低い AP を検出し、根本原因と推奨されるアクションを提供します。
- **比較分析**には、次の機能があります。
  - **AI 駆動型 AP 比較**：ヒートマップ内の特定の月について、ネットワーク内のすべての AP を比較してトレンドを把握し、洞察を得ます。
  - **AI 駆動型のピア比較**：選択した主要業績評価指標（KPI）について、ピアネットワークと比較してネットワークのパフォーマンスを判断します。
  - **AI 駆動型のネットワークの比較**：選択した KPI 全体で、ネットワーク内のオブジェクト（建物、AP モデルファミリ、ワイヤレスエンドポイント）のパフォーマンス改善の機会を表示、比較、および特定します。

# ワイヤレスアクセスポイントのパフォーマンスアドバイザリを表示する

Cisco AI Network Analytics は、機械学習アルゴリズムを使用して、潜在的にクライアントエクスペリエンスが低いワイヤレス AP を特定します。AP は長期間にわたって継続的に分析され、最適ではないクライアントエクスペリエンスを提供していると疑われる AP は、根本的な原因と提案される改善点によってグループ化されます。修正可能な根本的な問題を診断するために使用できる一連の無線およびネットワーク機能で構成されるインサイトが生成されます。インサイトには次の主要なコンポーネントがあります。

- さまざまなクライアントエクスペリエンス KPI によってパフォーマンスの低い AP を検出します。
- 根本原因分析 (RCA) の基礎として、重要であり、顧客によって実行可能な、不十分なクライアントエクスペリエンスまたは優れたクライアントエクスペリエンスを持つ AP を区別できる適切な機能を見つけます。

AP は、2.4 GHz、5 GHz、および 6 GHz の別々の周波数帯域で分析されます。SNR、RSSI、リンク速度、パケット再試行、パケット障害など、さまざまな KPI の統計分析を使用して、不十分なクライアントエクスペリエンスが検出されます。

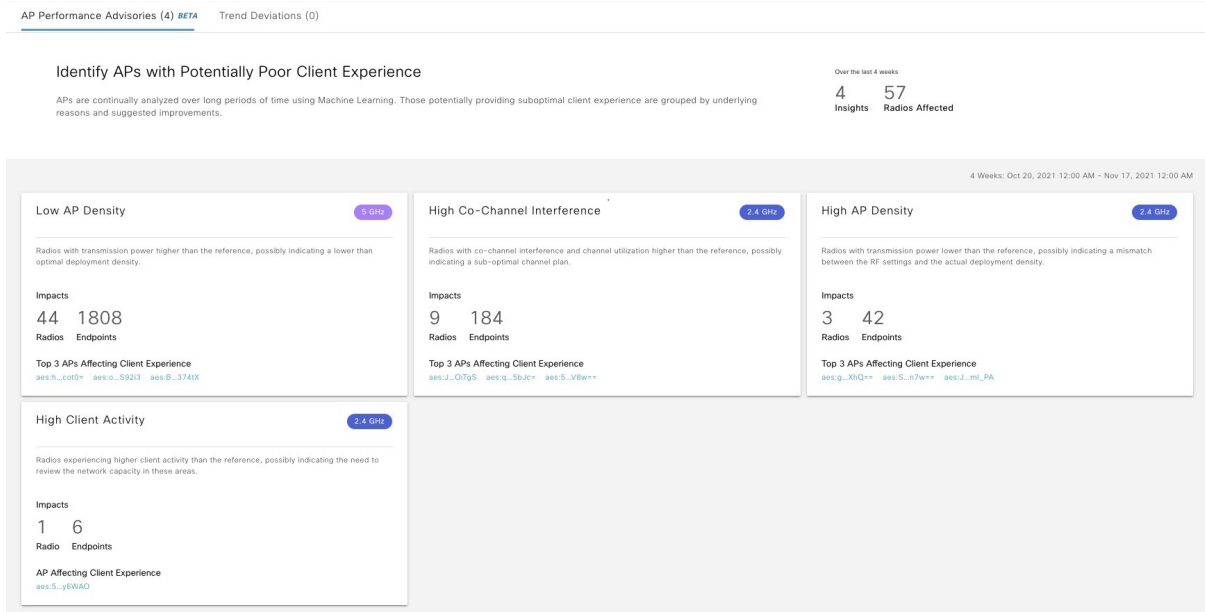
この手順を使用して、AP パフォーマンスアドバイザリを表示し、4 週間のデータの分析に基づいてクライアントエクスペリエンスが低い最もアクティブな AP を強調表示します。

---

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Trends and Insights] > [AP Performance Advisories] の順に選択します。

**ステップ 2** [AP Performance Advisories] タブをクリックすると、一般的な根本原因分析カテゴリと影響を受ける無線に関するさまざまなタイプのインサイトの概要が表示されます。

図 49: アクセスポイントパフォーマンスアドバイザリ



一般的な根本原因分析で発生する可能性のあるインサイトを以下に示します。

- 外部 RF 負荷
- クライアントアクティビティが多い外部 RF 負荷
- 頻繁なチャンネル変更
- 高 RF 負荷
- 高いチャンネル使用率
- 高いクライアントアクティビティ
- 高いクライアントの負荷
- 高い AP 展開密度
- 低い AP 展開密度
- 低い AP 展開密度および外部干渉
- 低い AP 展開密度および高負荷

ステップ 3 [AP Performance Advisories] ダッシュボードを使用して、次のインサイトの概要を確認します。

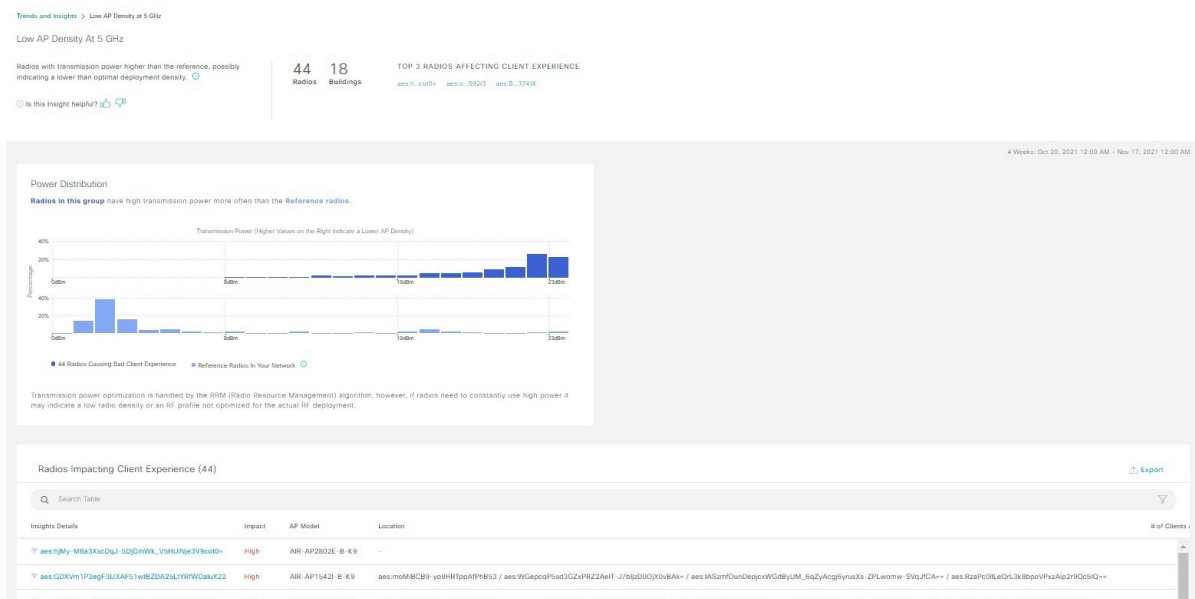
| [Network Overview] ウィンドウ |                                                           |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------|
| アイテム                     | 説明                                                        |
| インサイトサマリー                | 特定の周波数帯に関するインサイト（低 AP 密度、高クライアントアクティビティなど）の名前と問題定義を表示します。 |

ワイヤレスアクセスポイントのパフォーマンスアドバイザリを表示する

| [Network Overview] ウィンドウ    |                                                            |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------|
| アイテム                        | 説明                                                         |
| 影響                          | インサイトごとに影響を受ける [Radios] と [Endpoints] の数を表示します。            |
| クライアントエクスペリエンスに影響する上位3つの AP | 特定の周波数帯で影響を受ける上位3つの AP を表示します。これらは、手順5に示す詳細ページへのハイパーリンクです。 |

**ステップ 4** 次の情報について各インサイトダッシュレットをクリックすると、一般的な根本原因分析と、このカテゴリのすべての無線に対する推奨アクションが表示されます。

図 50: 影響を受ける無線のインサイトサマリーダッシュボード



| インサイトダッシュボード                              |                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                      | 説明                                                                                                                                  |
| [Summary]                                 | 4週間にわたって分析された無線の総数、建物の数、影響を受けた上位3つの AP を表示します。                                                                                      |
| [KPI] チャート                                | すべての無線での KPI の分布を示す RCA カテゴリに応じて、複数の KPI チャートを表示します。チャートを使用して、この一般的な RCA を使用した無線のパフォーマンスを、クライアントエクスペリエンスの問題が検出されていない参照の無線と比較対照できます。 |
| [Radios Impacting Client Experience] テーブル | インサイトの詳細、影響（低、中、または重大）、AP モデル、場所、影響を受けるクライアントの数、およびクライアントエクスペリエンスに影響を与える KPI が含まれます。                                                |



| インサイトダッシュボード |                                                |
|--------------|------------------------------------------------|
| アイテム         | 説明                                             |
| [Export]     | CSV ファイルにテーブルデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。 |

**ステップ 5** [Radios Impacting Client Experience] テーブルで、ハイパーリンクされた AP をクリックして、特定の AP に関する次の詳細なインサイトサマリーを表示します。

図 51: アクセスポイントのインサイトサマリー



| インサイトダッシュボード             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 上部バー                     | AP モデル、場所、影響を受けるクライアント、および [Assurance Device] ウィンドウにハイパーリンクされた追加の AP の詳細などの情報を表示します。また、クライアントエクスペリエンスを向上させるために、特定された根本原因と異常な KPI に固有の推奨アクションも提供します。                                                                                                                                                                                                            |
| [Client Experience KPIs] | <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラムは、クライアントエクスペリエンスに影響を与えるさまざまな KPI の分布を示し、個々の AP と顧客のネットワーク全体の参照 AP（クライアントエクスペリエンスの問題が観察されていない AP）を比較しやすくします。</li> <li>デフォルトでは、異常が検出された KPI のみが表示されます。SNR、RSSI、リンク速度、パケットの再試行、パケットの失敗など、KPI の分布を表示する KPI の数を増やすことができます。</li> <li>カーソルをヒストグラムの bin 値の上に置くと、AP の参照セットと比較して、選択した AP で観測された発生率の追加の詳細を表示できます。</li> </ul> |

| インサイトダッシュボード                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [Radio Specific Root-Cause Context] | <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラムは、無線に影響を与えるさまざまな根本原因分析KPIの分布を示します。デフォルトでは、異常が検出された KPI のみが表示されます。</li> <li>SNR、RSSI、リンク速度、パケットの再試行、パケットの失敗など、RCA KPI の分布を表示する KPI の数を増やすことができます。</li> <li>カーソルをヒストグラムの bin 値の上に置くと、無線の参照セットと比較して、選択した無線で観測された発生率の追加の詳細を表示できます。</li> </ul> |

## ネットワークトレンドの表示とインサイトの取得

トレンドは、一定期間にわたって観察されたネットワーク内の動作の長期的な進化です。次のトレンドは、ネットワークのパフォーマンス（蜂群グラフで表現）に関するインサイトを提供します。以下のタイプのインサイトがあります。

- [Intra-Site] : Cisco AI Network Analytics は、単一のサイトまたはビルを検索し、そのビル内だけの外れ値デバイスを強調表示します。この場合、蜂群グラフ内のエンティティは無線であり、円で表されます。
- [Inter-Site] : Cisco AI Network Analytics は、グローバルネットワークを調べ、選択した KPI に関して外れ値となっているビルを特定します。この場合、蜂群グラフ内のエンティティはビルであり、多角形で表されます。



ネットワークのトレンドを表示するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス > [Trends and Insights] > [Trend Deviations]**の順に選択します。

[Network Insights] ウィンドウに、[Capacity]、[Coverage]、[Throughput] のフィルタが表示されます。テーブルのデータを更新するには、該当するフィルタをクリックします。デフォルトでは、[Capacity] フィルタが選択されています。

(注) フィルタは動的です。フィルタに使用可能なインサイトがない場合、そのフィルタは表示されません。

| インサイトテーブル  |                                             |
|------------|---------------------------------------------|
| アイテム       | 説明                                          |
| Occurrence | このトレンドが観測された期間（[May 27 - June 03 2019] など）。 |

| インサイトテーブル                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                            |
| [Insight Type]                                                                         | [Daily] および [Weekly] という名前のインサイトタイプをリストします                                                                                                                                                                                                    |
| <b>Insight</b>                                                                         | 特定の期間に観測されたすべての AI 駆動型のインサイトのリスト。                                                                                                                                                                                                             |
| カテゴリ                                                                                   | <p>インサイトが観測されたカテゴリ。インサイトの KPI は次のカテゴリにグループ化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Capacity] : 無線クライアント数、チャンネル変更数</li> <li>• [Coverage] : 干渉、平均クライアント SNR、平均クライアント RSSI、トラフィック、使用率</li> <li>• [Throughput] : 総無線スループット</li> </ul> |
| Frequency band                                                                         | <p>インサイトが観測された AP で使用されていた周波数帯。</p> <p>値は [2.4 GHz]、[5 GHz]、[6GHz] またはすべての周波数帯です。</p>                                                                                                                                                         |
| <b>KPI</b>                                                                             | 特定のインサイトに関する重要業績評価指標 (KPI)。                                                                                                                                                                                                                   |
|  アイコン | <p>インサイトテーブルに表示する列をカスタマイズできます。  アイコンをクリックし、表示しない列のチェックボックスをオフにして、[Apply] をクリックします。</p>                                                                     |

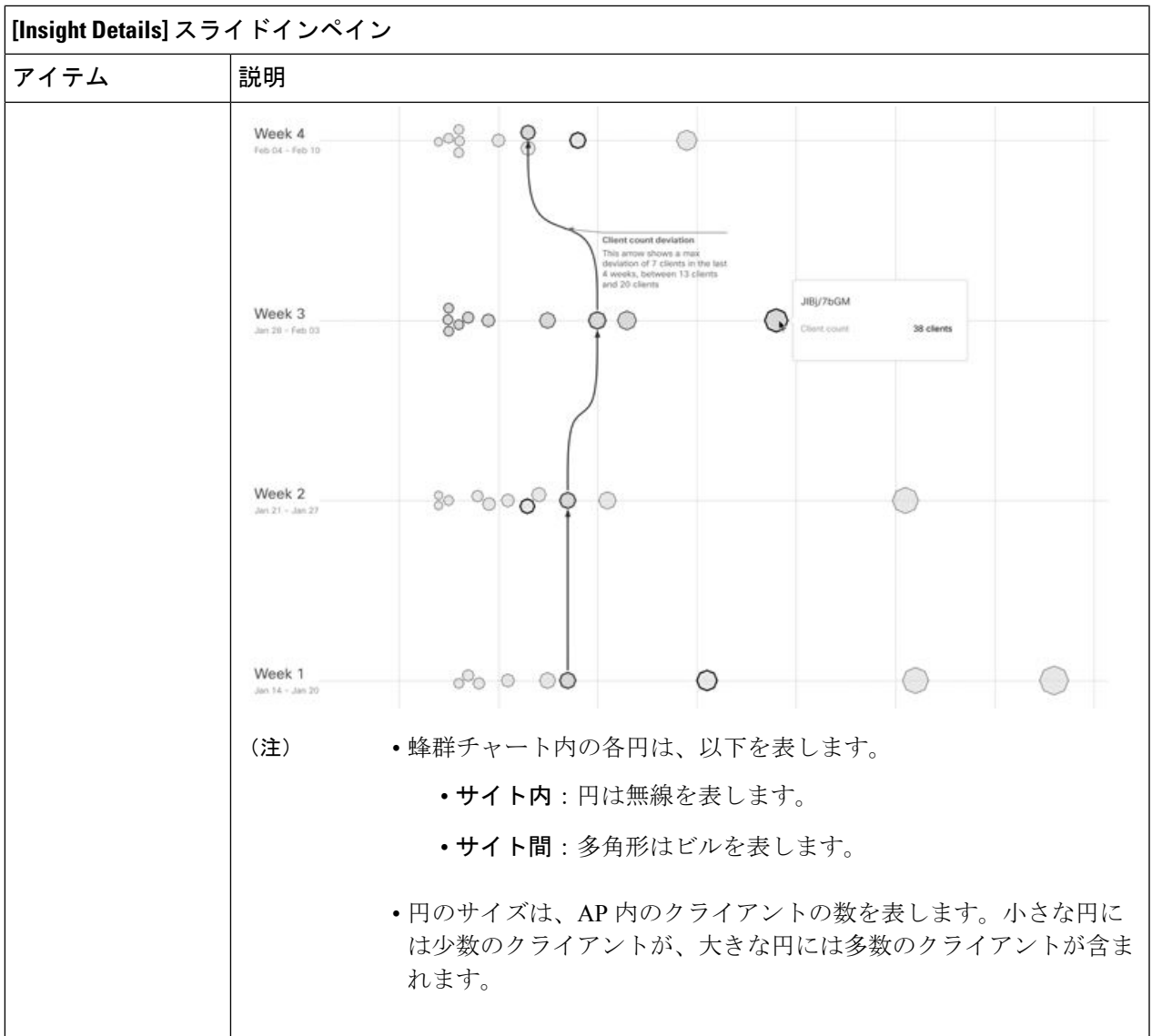
ステップ 2 [insights] 列でインサイトをクリックするとスライドインペインが開き、次の情報が表示されます。

| [Insight Details] スライドインペイン |                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                   |
| <b>Cisco AI</b>             | <p>インサイトの計算方法に関する情報が表示されます。</p> <p>人工知能の概要については、[Learn More]<a href="https://www.cisco.com/c/en/us/solutions/artificial-intelligence.html">https://www.cisco.com/c/en/us/solutions/artificial-intelligence.html</a> をクリックしてください。</p> |
| <b>Insight Summary</b>      | <p>蜂群グラフで確認されるトレンドに関する簡単なサマリー。このサマリーには、サイトまたは AP の名前、クライアント数、無線帯域周波数、および乖離が観測された時間帯などの情報が表示されます。</p>                                                                                                                                 |
| <b>Weekly Client Load</b>   | 週あたりのクライアント負荷。                                                                                                                                                                                                                       |

| [Insight Details] スライドインペイン |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| トラブルシューティング                 | <p>重大な問題になる前にトレンドのトラブルシューティングと修正を実施するためのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Network Heatmap] をクリックすると、ヒートマップが開き、蜂群グラフで強調表示されている AP またはビルディングに関する情報が提供されます。トレンドが観測された特定の月のヒートマップが表示されます。</li> <li>• [Intra-Site] : ヒートマップが起動し、特定の AP が優先順位に従って強調表示されたリストが表示されます。</li> <li>• [Inter-Site] : ヒートマップが起動し、ビルディング (サイト) 内の AP のフィルタ処理されたビューが表示されます。</li> </ul> <p>• AP の名前をクリックすると、その AP の [Device 360] ページが開きます。</p> |
| 問題数                         | 問題数のグラデーション。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

| [Insight Details] スライドインペイン |    |
|-----------------------------|----|
| アイテム                        | 説明 |
| チャート (Chart)                |    |

| [Insight Details] スライドインペイン |                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                        | 説明                                                                                                                                                                                                                     |
|                             | <p>蜂群グラフには、次の図に示すように、ネットワーク内のクライアントデバイスのパフォーマンスが4日（日次インサイト）および週（週次インサイト）の時間間隔で表示されます。一定期間にわたってネットワークの動作が体系的に乖離している場合、その傾向はチャート内の矢印によって表示されます。</p> <p>図 52: 蜂群チャート</p> <p>[Daily Insights]</p> <p>[Weekly Insights]</p> |



**ステップ 3** チャート内の円の上にカーソルを置くと、APの名前と MAC アドレス、帯域周波数、AP グループ、AP の場所、問題の数、クライアント数、および KPI 値などの情報が表示されます。

(注) グローバルサイトでは、チャート内の円の上にカーソルを置くと、トレンドが観測されたビルやクライアント数に関する情報が表示されます。

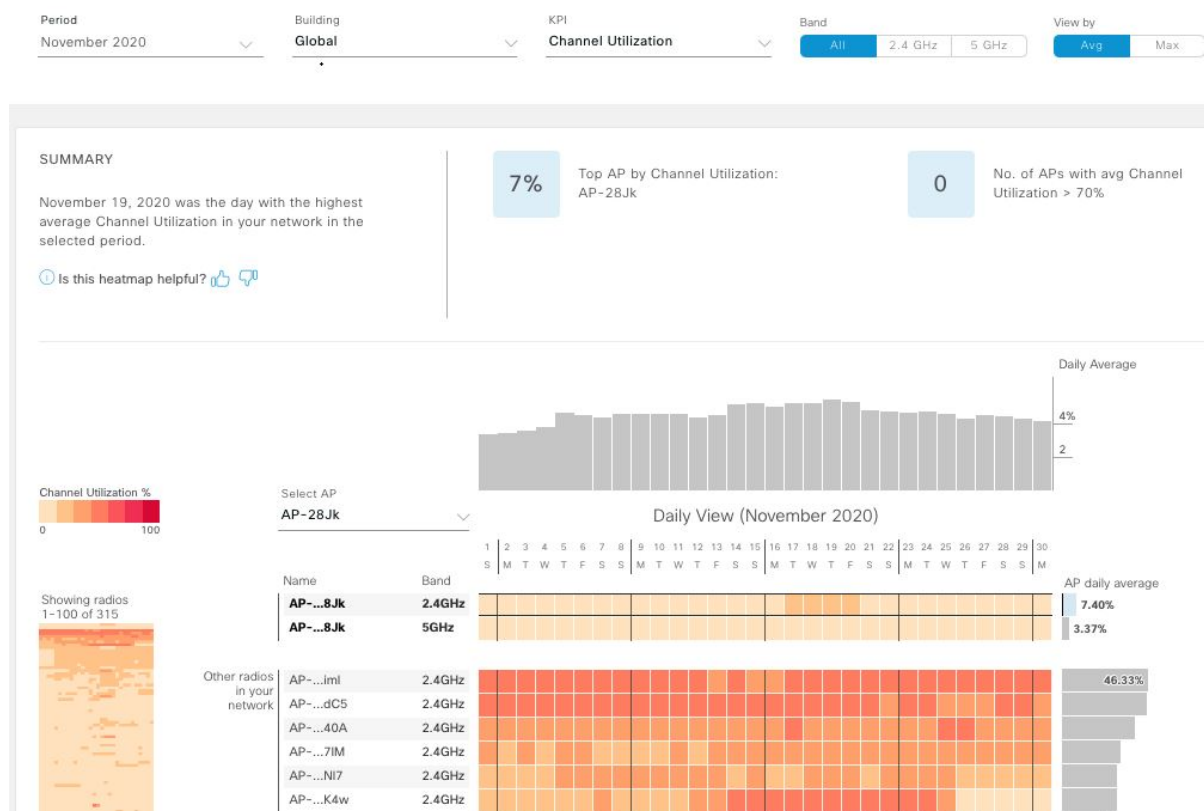
# ネットワークヒートマップでのアクセスポイントおよびスイッチの比較

ネットワークヒートマップを使用して、特定の月に関してネットワーク内のすべての AP を視覚的に比較し、トレンドを把握し、インサイトを取得します。異なる KPI と帯域周波数で AP を比較することを選択できます。取得したインサイトにより、最も輻輳が多い KPI、最も輻輳のある AP、およびそれらの AP のうち使用中の AP に関する情報が得られます。この情報により、トレンドが観察されたサイトまたはビルにさらにドリルダウンすることができます。AP または AP のグループを特定したら、それらの AP の動作履歴（1 日、1 週間、および月全体）を判断できます。


**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシユアランス > [Network Heatmap]** の順に選択します。

[Network Heatmap] ウィンドウに次の情報が表示されます。


図 53: [Network Heatmap] ウィンドウ





| [Network Heatmap] ウィンドウ           |                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                              | 説明                                                                                                                                                                                            |
| <b>Show</b>                       | ドロップダウンリストから選択したデバイスタイプに基づいてヒートマップ情報が表示されます。[Access Points] (デフォルト) または [Switches] を選択できます。                                                                                                   |
| <b>[KPI] ドロップダウンリスト</b>           | ドロップダウンリストから選択した KPI のヒートマップに情報を表示します。<br>[Access Points] の場合、デフォルトの KPI は [Client Count] です。<br>[Switches] の場合、デフォルトの KPI は [Temperature: All Sensors] です。                                   |
| <b>[Switch Family] ドロップダウンリスト</b> | ドロップダウンリストから選択したスイッチファミリーに基づいてヒートマップの情報が表示されます。<br>このドロップダウンリストは、[Show] ドロップダウンからデバイスタイプとして [Switches] を選択した場合にのみ表示されます。                                                                      |
| <b>Time Range</b>                 | [Time Range] ドロップダウンをクリックして [Month] または [Day] を選択すると、指定した月または日の情報がヒートマップに表示されます。                                                                                                              |
| <b>Location</b>                   | グローバルネットワーク全体またはドロップダウンリストから選択した特定のサイトとビルディングの情報がヒートマップに表示されます。デフォルトは [global] です。                                                                                                            |
| <b>[Band]</b>                     | 選択した帯域周波数のヒートマップに情報を表示します。[2.4 GHz]、[5 GHz]、[6 GHz] のいずれかを選択できます。デフォルトでは、3 つの帯域周波数がすべて選択されています。                                                                                               |
| <b>[View By]</b>                  | 選択したオプションに基づいてヒートマップの情報を表示します。<br>[View By] のリストに表示されるオプションは、選択した KPI に応じて異なります。<br>KPI に応じて、[Avg]、[Min]、または [Max] を並べ替えのオプションとして選択できる場合、[Avg] または [Max] を選択できる場合のほか、いずれのオプションも提供されない場合もあります。 |
| <b>[Summary] 領域</b>               | ヒートマップ分析から得られたインサイトの概要が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最もビジーだった日。</li> <li>• 無線あたりのクライアント数がゼロの AP またはスイッチの数。</li> <li>• 無線あたりのクライアント数が 50 を超えた AP またはスイッチの数。</li> </ul>      |
| <b>[Feedback] アイコン</b>            |  アイコンをクリックして、このページの情報が役に立ったかどうかについてコメントを入力し、[Submit] をクリックしてください。                                          |

| [Network Heatmap] ウィンドウ                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>KPI</b> のグラデーション                                                 | このエリアには、[KPI] ドロップダウンリストから選択した KPI に応じて、KPI のパフォーマンスに関する情報が色のグラデーションで表示されます。濃い色のブロックは、有意な KPI スコアを示します。たとえば、低い RSSI スコアは、高い RSSI スコアよりも有意になります。クライアント数が多いスコアは、クライアント数の少ないスコアよりも有意になります。                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Search AP] ドロップダウンリスト                                              | AP を検索および選択します。<br><ol style="list-style-type: none"> <li>[Search AP] ドロップダウンリストをクリックし、検索フィルタに AP 名を入力します。<br/>検索した AP がドロップダウンリストで強調表示されます。</li> <li>強調表示された AP をクリックして選択します。<br/>AP の個々の無線が、ヒートマップに個別に表示されます。</li> </ol>                                                                                                                                                                                               |
| Daily View                                                          | 選択した日のすべての AP が 1 時間ごとにどのように動作しているのかを確認します。<br><br>[Daily View] から日をクリックすると、別のウィンドウが開き、48 時間のデータを表示できます。これは、すべての AP に関する、その日の 24 時間のデータとその前後 12 時間ずつのデータです。<br><br>ヒートマップ内のカラーブロックにカーソルを合わせると、選択した KPI、建物、および期間のデータの 1 時間ごとの内訳が表示されます。<br><br>(注) [Daily View] では、KPI、建物、または日を変更できません。これらのパラメータを変更するには [Network Heatmap] ウィンドウに戻する必要があります。<br><br>翌日 (48 時間の期間) のデータを表示するには [>] 矢印をクリックします。前日のデータを表示するには、[<] 矢印をクリックします。 |
| [Network Daily Avg]、[Network Daily Min]、または [Network Daily Max] グラフ | 選択する [View By] オプションに応じて、該当するグラフが表示されます。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>[Avg] を選択した場合、日単位の平均値がグラフに表示され、最も高い日単位の平均値が強調表示されます。</li> <li>[Min] または [Max] を選択した場合、日単位の最小値または最大値がグラフに表示され、それぞれが強調表示されます。</li> </ul> <p>グラフのバーにカーソルを合わせると、それぞれの日の KPI 値が表示されます。</p>                                                                                                                                                 |

| [Network Heatmap] ウィンドウ                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [Showing Radios]<br>ヒートマップ                                                                 | <p>ヒートマップの圧縮ビューが表示されます。</p> <p>デフォルトでは、この領域には、最初の 100 個の無線のヒートマップが表示されます。追加の無線のヒートマップデータを表示するには、圧縮されたヒートマップの下部までスクロールして、ドロップダウンリストから適切なオプションを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [AP Heatmap] エリア                                                                           | <p>次が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[Radios in Your Network]</b> : AP の名前とクライアントによって使用された帯域周波数が表示されます。AP の横にあるアイコンをクリックすると、その AP の [Device 360] ウィンドウが開きます。</li> </ul> <p>この領域には、[Band] のオプションから選択した帯域周波数に応じて、対応する帯域の AP が一覧表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[AP Heatmap]</b> : AP の動作履歴（1 時間、1 日、1 週間、および月全体）を確認できます。ブロック内の色の明度は、その有意性を示します。濃い色のブロックは、薄い色のブロックよりも有意性が高くなります。ヒートマップの各行が 1 つの AP を表します。</li> </ul> <p>[Heatmap] 内のカラーブロックにカーソルを合わせると、AP に関する情報（名前と MAC アドレス、帯域周波数、場所、日次平均 KPI スコアなど）が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[AP Daily Average]</b> または <b>[AP Daily Max]</b> : この領域には、[Sort By] オプションで選択した内容に応じて、各 AP のその月の平均 KPI スコアまたは最大 KPI スコアが表示されます。スコアが最も高い AP がリストの一番上に表示されます。</li> </ul> <p>[AP Daily Average] または [AP Daily Max] 領域にカーソルを合わせると、AP のその月の平均 KPI または最大 KPI の値を確認できます。</p> |
|  Export | <p>CSV ファイルにヒートマップデータをエクスポートするには、[Export] をクリックします。</p> <p>ヒートマップに適用されている AP とフィルタが、エクスポートされたデータに適用されます。エクスポートは、日単位のビューでのみ有効になり、時間単位のビューでは有効になりません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

**ステップ 2** 追加の無線のヒートマップデータを表示するには、ウィンドウの下部までスクロールして、ドロップダウンリストから適切なオプションを選択します。

## KPI 値をネットワーク内のピアと比較

選択した重要業績評価指標 (KPI) について、ピアネットワークと比較してネットワークのパフォーマンスを判断します。



- (注) 比較に使用されるピアネットワークは、同様の規模のネットワークです。
- ピアの比較では、計算のために、オンボーディングの日付から数ヶ月のデータが使用されません。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス > [Peer Comparison]** の順に選択します。

[Peer Comparison] ウィンドウが開き、次の情報が表示されます。

| [Peer Comparison] ウィンドウ  |                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                     | 説明                                                                                                                                                                                                   |
| [KPI] ドロップダウンリスト         | ドロップダウンリストから KPI を選択します。[Radio Throughput] (デフォルト)、[Cloud Apps Throughput]、[Radio Resets]、[Packet Failure Rate]、[Interference]、[Onboarding Error Source]、[Roaming Error Source]、[RSSI] のいずれかを選択できます。 |
| Show                     | 自ネットワークとピアネットワークの間の KPI 値を比較する曜日を選択します。デフォルトは、 <b>All</b> です。                                                                                                                                        |
| 要約                       | AI ネットワーク分析は、棒グラフを分析し、結果に関する簡単なサマリーを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [2.4 GHz] : 2.4 GHz 帯域周波数のネットワーク値とピア値のサマリー。</li> <li>• [5 GHz] : 5 GHz 帯域周波数のネットワーク値とピア値のサマリー。</li> </ul>        |
| [Highlight Peers] トグルボタン | 自ネットワークとピアネットワークのグラフを切り替えることができます。                                                                                                                                                                   |

| [Peer Comparison] ウィンドウ         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------|---------------------|------|---------------------|-----|------------------------|-----|------------------|-----|----------------------|-----|-------------------------|-----|--------------------------|-----|----------------------|-----|----------------------------|-----|---------------------------------|------|---------------------|------|---------------------|-----|--------------------------|-----|----------------------|-----|------------------|-----|-------------------------|-----|----------------------------|-----|----------------------|-----|-----------------------------|-----|
| アイテム                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| ピア比較棒グラフ                        | <p>デフォルトでは、次の図に示すように、[Band 2.4 GHz] および [Band 5 GHz] グラフのネットワークの KPI 値が強調表示されます。</p> <p>ピアネットワークの KPI 値を強調表示するには、[Highlight Peers] ボタンをクリックします。</p> <p><b>図 54: ピア比較棒グラフ</b></p> <p>SUMMARY<br/>Comparing Roaming Error Source in your network to your peers in the past couple of months.<br/><input type="checkbox"/> Is this comparison helpful?  </p> <p>Distribution of Roaming Error Source</p> <p><b>Band: 2.4GHz</b></p> <table border="1"> <tr><td>Network Association MaxStations</td><td>~65%</td></tr> <tr><td>Client Auth Timeout</td><td>~30%</td></tr> <tr><td>Client Auth Invalid</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>Network Operation Fail</td><td>~2%</td></tr> <tr><td>Client Auth Fail</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Unknown Auth Timeout</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Client Auth Blacklisted</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Network Association Fail</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Network DHCP Timeout</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Client Association Unknown</td><td>~1%</td></tr> </table> <p><b>Band: 5GHz</b></p> <table border="1"> <tr><td>Network Association MaxStations</td><td>~80%</td></tr> <tr><td>Client Auth Timeout</td><td>~20%</td></tr> <tr><td>Client Auth Invalid</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>Network Association Fail</td><td>~2%</td></tr> <tr><td>Network DHCP Timeout</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Client Auth Fail</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Client Auth Blacklisted</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Client Association Unknown</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Unknown Auth Timeout</td><td>~1%</td></tr> <tr><td>Network Association Timeout</td><td>~1%</td></tr> </table> <p>グラフの色は、以下を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 青：自ネットワーク。</li> <li>• ピンク：ピアネットワーク。</li> </ul> | Network Association MaxStations | ~65% | Client Auth Timeout | ~30% | Client Auth Invalid | ~5% | Network Operation Fail | ~2% | Client Auth Fail | ~1% | Unknown Auth Timeout | ~1% | Client Auth Blacklisted | ~1% | Network Association Fail | ~1% | Network DHCP Timeout | ~1% | Client Association Unknown | ~1% | Network Association MaxStations | ~80% | Client Auth Timeout | ~20% | Client Auth Invalid | ~5% | Network Association Fail | ~2% | Network DHCP Timeout | ~1% | Client Auth Fail | ~1% | Client Auth Blacklisted | ~1% | Client Association Unknown | ~1% | Unknown Auth Timeout | ~1% | Network Association Timeout | ~1% |
| Network Association MaxStations | ~65%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Timeout             | ~30%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Invalid             | ~5%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network Operation Fail          | ~2%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Fail                | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Unknown Auth Timeout            | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Blacklisted         | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network Association Fail        | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network DHCP Timeout            | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Association Unknown      | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network Association MaxStations | ~80%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Timeout             | ~20%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Invalid             | ~5%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network Association Fail        | ~2%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network DHCP Timeout            | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Fail                | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Auth Blacklisted         | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Client Association Unknown      | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Unknown Auth Timeout            | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |
| Network Association Timeout     | ~1%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |      |                     |      |                     |     |                        |     |                  |     |                      |     |                         |     |                          |     |                      |     |                            |     |                                 |      |                     |      |                     |     |                          |     |                      |     |                  |     |                         |     |                            |     |                      |     |                             |     |

**ステップ 2** 特定の日について、自ネットワークとピアネットワークの KPI 値を表示するには、[Show] エリアで該当する日を選択します。

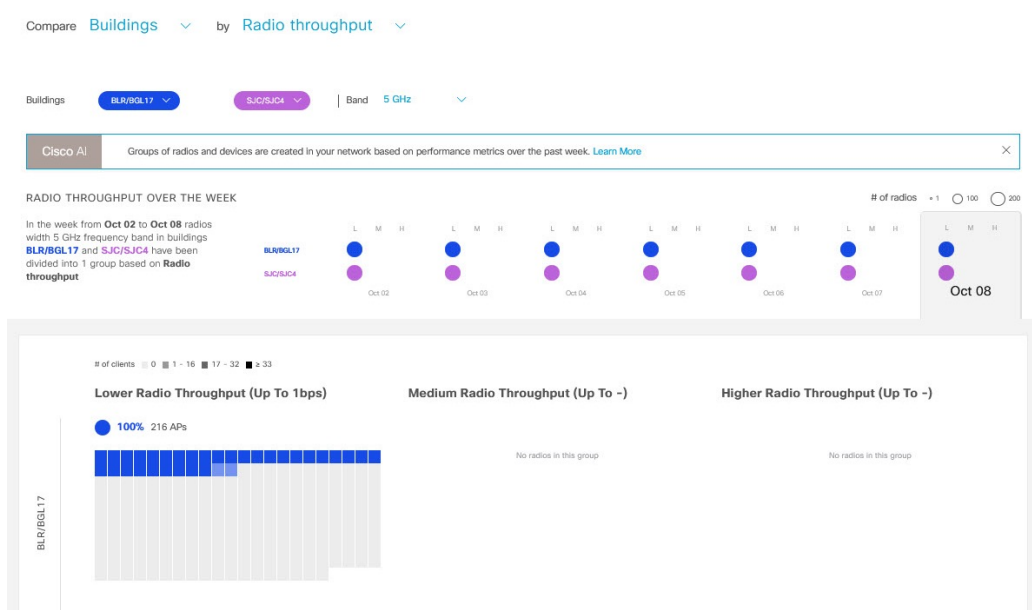
## 建物、AP モデルファミリ、およびワイヤレス エンドポイントタイプの比較

この手順を使用して、選択した重要業績評価指標 (KPI) 全体で、ネットワーク内のオブジェクト (建物、AP モデルファミリ、ワイヤレスエンドポイント) のパフォーマンス改善の機会を表示、比較、および特定します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：アシュアランス > ネットワークの比較。

[Network Comparison] ウィンドウが開き、次の情報が表示されます。

図 55 : [Network Comparison] ウィンドウ



| [Network Comparison] ウィンドウ |                                                                                                                                                                 |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                       | 説明                                                                                                                                                              |
| [Compare] ドロップ<br>ダウンリスト   | 比較するネットワーク内のオブジェクトを選択します。オプションは、[Buildings] (サイト)、[AP Model Families]、または [Wireless Endpoints] (Android デバイス、Android 携帯、IOS タブレット、IOS 携帯、Linux ワークステーションなど) です。 |

| [Network Comparison] ウィンドウ |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [By KPI] ドロップダウンリスト        | <p>ネットワーク内のオブジェクトを比較するために使用する KPI を選択します。</p> <p>[Buildings] の場合、オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Radio Throughput]</li> <li>• [Channel Utilization]</li> <li>• [Average Client RSSI]</li> <li>• [Average Client SNR]</li> <li>• [Average Onboarding Time]</li> <li>• [Average Authorization Time]</li> <li>• [Average DHCP Time]</li> <li>• [Cloud Throughput]</li> <li>• [Media Throughput]</li> <li>• [Social Throughput]</li> <li>• [Interference]</li> </ul> <p>[AP Model Families] の場合、オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Radio Throughput]</li> <li>• [Interference]</li> <li>• [Media Apps Throughput]</li> <li>• [Average Client RSSI]</li> <li>• [Channel Utilization]</li> <li>• [Average Client SNR]</li> <li>• [Cloud Throughput]</li> <li>• [Social Throughput]</li> </ul> <p>[Wireless Endpoints] の場合、オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Average AAA Time]</li> <li>• [Average Onboarding Time]</li> <li>• [Average DHCP Time]</li> </ul> |

| [Network Comparison] ウィンドウ                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Buildings]<br>[AP Model Families]<br>または<br>[Wireless Endpoints]<br>ドロップダウンリスト | KPI 値を比較する最初のネットワークオブジェクト（建物、AP モデルファミリー、またはワイヤレスエンドポイント）を選択します。最初のネットワークオブジェクトは青色で表示されます。<br><br>KPI 値を最初のネットワークオブジェクトと比較する2番目のネットワークオブジェクトを選択します。2番目のネットワークオブジェクトはピンク/紫色で表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Band]                                                                          | 帯域周波数を選択します。[Band 2.4 GHz] または [Band 5 GHz] を選択できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Summary/Timeline]                                                              | 各ネットワークオブジェクトの曜日ごとの平均KPIパフォーマンスが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [Client Count] のグラ<br>デーション<br><br>または<br>[Device Count]<br>のグラデーション            | [Radio Throughput] や [Average Client RSSI] などの KPI については、この領域に各サイトの無線ごとのクライアント数が示されます。<br><br>[Onboarding Time] などの KPI については、この領域に各サイトのデバイス数が示されます。<br><br>ブロックの色の濃さでクライアント数またはデバイス数が示されます。濃い色のブロックには、薄い色のブロックよりも多くのクライアントやデバイスが存在します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [AP Clusters]<br>または<br>[Device Type<br>Clusters]                               | この領域には、各ネットワークオブジェクトに1つずつ、2つのクラスタのセットが表示されます。この領域では、2つのネットワークオブジェクトのパフォーマンスを視覚的に比較できます。次の情報を出力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• KPI のパフォーマンス（パーセンテージ）。</li> <li>• ネットワーク内のオブジェクトの各サイトでのクラスタ化方法。</li> <li>• KPI 値が低、中、高のネットワーク内のオブジェクト。</li> </ul> <p>[Onboarding Time] や [Authorization Time] などの KPI については、この領域に次のような情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows ワークステーション、OS X ワークステーション、Linux ワークステーション、Android 携帯、IOS デバイスなど、各サイトでクライアントがオンボーディングしたデバイスのタイプ。</li> <li>• 各デバイスタイプの数。</li> <li>• KPI の時間が低、中、高のデバイスの数。</li> </ul> |

**ステップ 2** クラスタ内の色付きブロックにカーソルを合わせると、日付、AP が存在する建物、AP のモデル番号、無線プロトコル、無線クライアント数など、AP に関する情報が表示されます。濃い色のブロックには、薄い色のブロックよりも多くのクライアントが存在します。



# ベースラインを使用したネットワークパフォーマンスの表示と監視

Cisco AI Network Analytics は最先端の機械学習技術を使用して、特定のネットワークとサイトに関するベースラインを定義します。Cisco AI Network Analytics は、この情報に基づいて特定の時点における各ネットワークとサイトの正常な動作を定義し、最も重要な問題を特定できます。

機械学習アルゴリズムから派生したベースラインを使用してネットワークパフォーマンスを調査および監視するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [Baselines] の順に選択します。





[Baselines] ダッシュボードが表示されます。


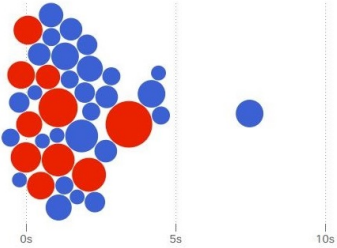
図 56: [Baselines] ダッシュボード



**ステップ 2** [Network Overview] ウィンドウを使用して、次の情報が表示されます。

| [Network Overview] ウィンドウ |                                                                                      |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                     | 説明                                                                                   |
| [Summary]                | ネットワーク内の建物の総数、問題の影響を受ける建物の総数、およびワイヤレスコントローラの総数が表示されます。                               |
| [AI Driven Issues]       | 特定のネットワーク環境の予測ベースラインからの乖離度に基づいてトリガーされ、Cisco AI Network Analytics によって検出された問題が表示されます。 |

| [Network Overview] ウィンドウ                                                                                            |                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                |
|  Global ▾<br>[Location] ドロップダウンリスト | ロケーションアイコンをクリックしてslide-in paneを開き、サイトまたは建物を選択します。ダッシュボード上の情報が、選択に応じて更新されます。                                                                                                                       |
| <br>[Time Range] の設定               | ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ドロップダウンメニューで範囲の長さ（24時間またはカスタム範囲）を選択します。</li> <li>• 開始日と終了日を指定します。</li> <li>• [Apply] をクリックします。</li> </ul> |
| [KPI] ドロップダウンリスト                                                                                                    | ドロップダウンリストからKPIを選択します。オプションは、[Onboarding Time]（デフォルト）、[Onboarding Failures]、[DHCP Time]、[Authentication Time]、および [Association Failures] です。                                                      |
| <br>[Map View]                    | このトグルボタンをクリックすると、すべてのネットワークサイトの正常性が、ネットワークの地理的ロケーションに基づいたマップビューに表示されます。                                                                                                                           |
| <br>[List View]                  | このトグルボタンをクリックすると、ネットワークのサイトとビルディングがリスト形式で表示されます。                                                                                                                                                  |

| [Network Overview] ウィンドウ                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                                                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|  <p>[Beeswarm Chart]</p> | <p>このトグルボタンをクリックすると、選択した KPI に関するネットワークのクライアントデバイスのパフォーマンスに関するインサイトを提供する蜂群チャートが表示されます。</p> <p>KPI: Onboarding Time ▾</p>  <p>この場合、蜂群チャート内のエンティティは建物であり、円で表されます。</p> <p>蜂群チャート内の各円は、以下を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 青色：円は建物を表します。チャート内の円の上にカーソルを合わせると、ロケーション、KPI、SSID、ワイヤレスコントローラ、クライアント数などの情報が表示されます。</li> <li>• 赤色：円は問題の影響を受けた建物を表します。チャート内の円の上にカーソルを合わせると、ロケーション、KPI 値、SSID、ワイヤレスコントローラ、クライアント数、AI に起因する問題などの情報が表示されます。</li> <li>• 円のサイズは、接続されているクライアントの数を表します。小さな円には少数のクライアントが、大きな円には多数のクライアントが含まれます。</li> </ul> |

**ステップ 3** 蜂群チャートから円をクリックして、次の情報の建物ビューを表示します。

**建物ビュー**

サイトまたは建物の特定の情報が表示されます。それぞれのドロップダウンリストから KPI、SSID、およびワイヤレスコントローラを選択して、データを表示できます。

より詳細な時間範囲を指定するには、タイムラインスライダを使用します。時間範囲を指定するには、タイムライン境界線をクリックしてドラッグします。

タイムラインスライダの下にある色分けされたチャートを使用して、ネットワークのパフォーマンスを判断します。指定した期間内の選択した KPI の予測ベースラインからの偏差に基づいて問題を表示します。チャートの上にカーソルを移動して合わせて、選択した時点での期間、予測上限範囲と予測下限範囲を表示する同期化されたツールチップを表示します。

カラーコードは次のことを表します。

- 赤は AI に起因する問題を表します
- 青は平均 KPI 期間を表します
- 緑は予測 KPI を表します

[View Details] をクリックすると、追加の詳細情報を記載した slide-in pane が開きます。この内容は、KPI チャートから選択した KPI によって異なります。slide-in pane に、平均 KPI 期間 ([Onboarding Time]、[DHCP Time]、[Onboarding Failures]、[Authentication Time] など) と固有のクライアントの色分けされたチャートが表示されます。

サンキョーグラフは、フロアとデバイスタイプ (クライアントデバイス) 間の主要なフローを強調するために表示されます。チャートの下に、AP 名、オンボーディング、失敗したオンボーディング、失敗したオンボーディングの割合、クライアント数などが表示されます。

(注) テーブルに表示されるクライアント数は、30 分間に観測された個々のクライアント数の測定値における選択された時間間隔の平均です。

## AI 活用型 RRM ダッシュボードを使用した RF ネットワークの表示

Cisco AI Network Analytics は、機械学習アルゴリズムを使用して、拡張無線リソース管理 (RRM) が有効になっている建物内の無線周波数 (RF) ネットワークの動作を定義します。

### 始める前に

- AI 活用型 RRM ダッシュボードを表示するには、AI RF プロファイルに場所を割り当てる必要があります。詳細については、『[Cisco DNA Center ユーザガイド](#)』の「**Assign Location to an Existing AI RF Profile**」[英語]を参照してください。

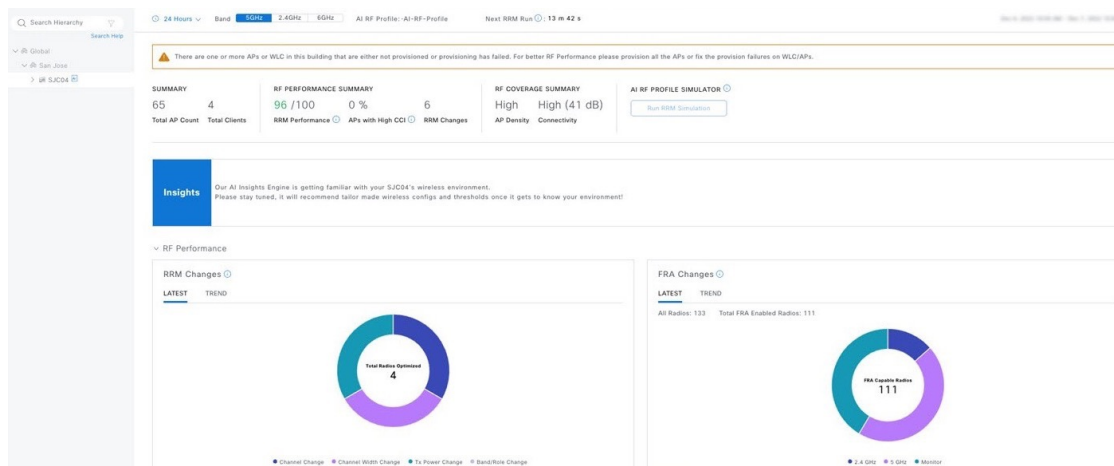
- AI 活用型 RRM インサイトにアクセスするには、AI RF プロファイルに割り当てられた場所全体にデバイスをプロビジョニングする必要があります。詳細については、『Cisco DNA Center ユーザガイド』の「Provision Wireless Devices」[英語]を参照してください。
- Cisco AI 活用型 RRM は、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ および Cisco IOS XE 17.7.1 以降でのみサポートされています。
- [Run RRM Simulation]、[Insights]、および [Service Bundle] オプションが使用できるのは、スーパー管理者またはネットワーク管理者のみです。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[AI-Enhanced RRM] > [AI-Enhanced RRM]の順に選択します。

**ステップ 2** 左ペインで、[Find Hierarchy] フィールドに名前を入力してサイトを検索するか、[Global] を展開してサイトを選択します。

[AI-Enhanced RRM] ダッシュボードが表示されます。

図 57: AI 活用型 RRM ダッシュボード



**ステップ 3** 次の機能には、[AI-Enhanced RRM] ダッシュボードの上部のメニューバーを使用します。

| アイテム            | 説明                                                                                  |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| [Time Range]    | ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。使用可能な時間範囲は、[24 Hours]、[7 Days]、または [14 Days] です。 |
| [Band]          | [2.4GHz] 帯域、[5GHz] 帯域、[6GHz] 帯域を切り替えて、特定の帯域のデータを表示できます。                             |
| [AI RF Profile] | 建物に割り当てられている現在の AI RF プロファイルを表示します。                                                 |
| [Next RRM Run]  | AI 拡張 RRM の計算は 30 分ごとに発生します。RRM の決定は、計算後に更新され、デバイスにプッシュされます。                        |

(注) 単一の建物が AI RF プロファイルに割り当てられている場合、新しい AI RF の割り当ては必要ありません。

- AI RF プロファイルが、同じワイヤレスコントローラによって管理されている他の建物間で共有されている場合、[Review Cisco AI Recommendation for 'RRM\_High'] ウィンドウが表示されます。さまざまな場所で次の推奨事項を選択して適用できます。
  - 観察された混雑時間
  - フレキシブル ラジオ アサインメント
  - [Channel Width]
  - TPC 出力しきい値
  - サポートされているデータ レート

[Assign a New RF Profile with Recommendations] エリアの [Profile Name] で、AI RF プロファイルを選択します。

- 左側のペインで、サイトまたは建物の横に、選択、適用、および使用可能な推奨事項が表示されます。
    - 緑のチェックマークは、適用するために選択された推奨事項を示しています。
    - 白いチェックマークは、サイトまたは建物から利用可能な推奨事項がないことを示しています。
    - 白い更新アイコンは、サイトまたは建物からの利用可能な推奨事項を示しています。
  - 選択した建物に Cisco AI の推奨事項を適用するには、目的の推奨事項の横にあるチェックボックスをオンにして、[Apply] をクリックします。
- Cisco DNA Center は、受け入れられた推奨事項をデバイスに自動的にプッシュします。

ステップ 4 [Summary] ダッシュレットを使用して、次の情報を確認できます。

| アイテム                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Summary</b>           | ネットワーク内の AP 数とクライアントの総数を表示します。                                                                                                                                                                                                                                          |
| [RF PERFORMANCE SUMMARY] | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [RRM Performance] : 同一チャネル干渉、ノイズ、SNR、無線使用率など、いくつかの KPI に基づいた複合メトリックを表示します。</li> <li>• [APs with High CCI] : 同一チャネル干渉が高い AP の割合を示します。</li> <li>• [RRM Changes] : RRM チャネル変更、チャネル帯域幅変更、および Tx 電力変更イベントの合計数を時刻別に表示します。</li> </ul> |
| [RF COVERAGE SUMMARY]    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [AP Density] : RF カバレッジの AP の密度を低、中、または高で示します。</li> <li>• [AP Density] : RF カバレッジ内の AP の接続性を示します。</li> </ul>                                                                                                                   |

**ステップ 5** [AI RF Profile Simulator] で、[Run RRM Simulation] をクリックして、RF 構成をシミュレートし、影響を視覚化し、RF プロファイルを作成します。

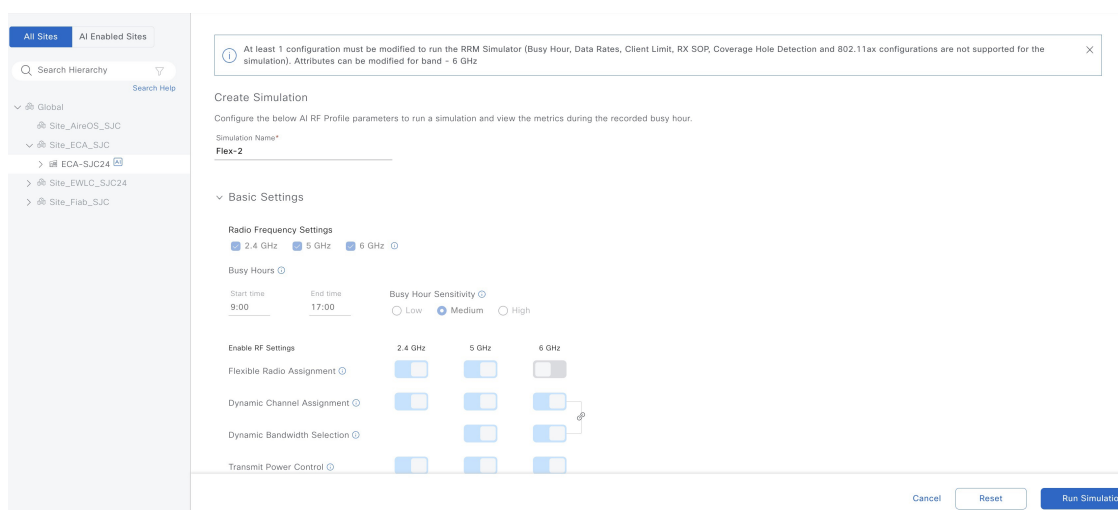
AIRF プロファイルシミュレータを使用すると、現在の RF プロファイルへの変更をシミュレートし、AI 活用型 RRM ダッシュボードに対して予測される結果を視覚化できます。

(注) RRM シミュレーションは、AI RF プロファイルで選択した無線帯域に基づいて実行され、シミュレータで変更することはできません。

a) [Welcome to RRM Simulator] ウィンドウで [Create Simulation] をクリックします。

現在の AI RF プロファイル情報が表示されます。

図 58: シミュレーションウィンドウの作成



b) 必要に応じて、シミュレーションに選択した帯域の下で属性を変更して、メトリックを表示できます。

- (注)
- 5 GHz の場合、[Busy Hour]、[Data Rates]、[Client Limit]、[RX SOP]、[Zero Wait DFS]、[Coverage Hole Detection]、[802.11ax] などの属性は、シミュレーションでは考慮されません。
  - 2.4 GHz の場合、[Busy Hour]、[Data Rates]、[Client Limit]、[RX SOP]、[Coverage Hole Detection]、[802.11 ax] などの属性は、シミュレーションでは考慮されません。
  - 6 GHz の場合、[Busy Hour]、[Data Rates]、[Client Limit]、[RX SOP]、[Coverage Hole Detection]、[802.11 ax] などの属性は、シミュレーションでは考慮されません。

c) [Reset] をクリックして、AIRF プロファイル属性値を対応するベース AIRF プロファイル値に変更します。

d) [Run Simulation] をクリックします。

(注) AIRF プロファイル属性を変更してからシミュレーションを実行してください。

[Simulation in Progress] のメッセージが表示されます。

- e) [Simulation Result] ウィンドウで、選択した帯域の AIRF プロファイルに設定されたシミュレーションを確認します。
- [Simulation Name]
  - [Profile Details]
  - [RF Performance]
  - [RF Coverage]

AI RF プロファイル属性を編集するには、[Profile Details] エリアの [Edit] オプションをクリックします。

図 59 : [Simulation Result] ウィンドウ



- f) シミュレートされた AIRF プロファイル構成と現在適用されている AIRF プロファイル構成を比較するには、[Compare to AI RF Profile] チェックボックスをオンにします。
- g) [Upgrade AI RF Profile] をクリックします。
- h) [Upgrading AI RF Profile] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- AI RF プロファイルが複数の建物に割り当てられている場合、新しい RF プロファイルが作成され、RF プロファイル名とタスク名を編集できます。
  - AIRF プロファイルが1つの建物に割り当てられている場合、タスク名は編集できますが、RF プロファイル名は編集できません。

[Now] または [Later] をクリックして、推奨事項をいつ適用するかを指定し、[Apply] をクリックします。

(注) AI RF プロファイルをアップグレードすると、AP はワイヤレスコントローラ とのセッションを一時的に失い、クライアント接続が中断する可能性があります。



- i) [Review Cisco AI Recommendations for RRM] ウィンドウで、選択したサイトで使用可能な推奨事項から AI RF プロファイルの設定を確認してチェックボックスをオンにし、[Apply] をクリックします。
- j) [AI RF Profile Successfully Updated] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
- k) [Simulation Result] ウィンドウで、構成された AI サポート RF プロファイルのシミュレーション結果を確認します。

**ステップ 6** [Insights] ダッシュレットを使用して、AI 活用型 RRM によって生成されたインサイトを確認します。インサイトは、AI RF プロファイルに適用できる構成の推奨事項です。

[Insights] ダッシュレットには、次の考えられるインサイトが表示されます。

- [Busy Hours]
- [Channel Width]
- Channel List
- [Enable FRA]
- 優先スキャンチャネル
- TPC しきい値
- TPC 出力範囲
- 最小データ レート

**ステップ 7** [Insights] アイコンをクリックして、シスコが推奨するインサイトを表示します。

- a) [Channel List] チェックボックスをオンにして、現在 AI RF プロファイルリストにあるチャネルリストを選択します。
- b) [Channel Width] チェックボックスをオンにし、[Apply] をクリックして、推奨される動的帯域幅選択を設定します。
- c) [Review Cisco AI Recommendations for RRM] ウィンドウで、選択したサイトで使用可能な推奨事項から AI RF プロファイルの設定を確認してチェックボックスをオンにします。
- d) [Run Simulation] をクリックして、シミュレーション結果を表示します。
- e) [Now] または [Later] をクリックして、推奨事項をいつ適用するかを指定し、[Apply] をクリックします。

(注) AI RF プロファイルをアップグレードすると、AP はワイヤレスコントローラ とのアソシエーションを一時的に失い、クライアント接続が中断する可能性があります。

**ステップ 8** 次の機能のために [RF Performance] を展開します。

| アイテム                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [RRM Changes] ダッシュレット | <p>次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [LATEST] : 過去 30 分間の RRM チャンネル変更、チャンネル帯域幅変更、Tx 電力変更、帯域またはロール変更イベントの合計数を表示します。</li> <li>• [TREND] : 時間範囲内で選択された時間に AP に行われたチャンネル変更、チャンネル帯域幅変更、Tx 電力変更、帯域またはロール変更イベントを表示します。</li> </ul> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 帯域やロールの変更イベントは、<b>6 GHz</b> 帯域を対象としていません。</li> <li>• チャンネル帯域幅の変更イベントは、<b>2.4 GHz</b> 帯域を対象としていません。</li> </ul> <p>グラフのいずれかの色のセグメントをクリックするか、[View Details] リンクをクリックして、[RRM Changes] を開きます。slide-in pane</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフの色のセグメントにカーソルを合わせると、[Change Category] と [Total Affected APs] が表示されます。</li> <li>2. グラフのセグメントをクリックして、チャートの下に表示される [Access Points] テーブルのデバイスデータを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセス ポイント (Access Point)</li> <li>• 無線機</li> <li>• [Change Category]</li> </ul> </li> <li>3. AP の横にあるオプションボタンをクリックして、RRM によって管理される変更カテゴリの [Event Reasoning] を表示します。 <p>(注) [Access Points] テーブルで、マウスカーソルを [i] アイコンの上に置くと詳細が表示されます。</p> </li> <li>4. [Export] をクリックして、AP テーブルデータをローカルマシンにダウンロードします。</li> </ol> |

| アイテム                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[FRA Changes] ダッシュレット</p> | <p>次の無線モードについて、無線、フレキシブル ラジオ アサインメント (FRA) 対応無線、および FRA 無線の合計数を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2.4 GHz</li> <li>• 5 GHz</li> <li>• Monitor</li> </ul> <p>(注) FRA は 6 GHz を対象としていないため、<b>6 GHz</b> 帯域の場合、[FRA Changes] ダッシュレットは表示されません。</p> <p>次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [LATEST] : FRA 対応無線および FRA 無線の総数を表示します。また、2.4 GHz と 5 GHz 帯域での FRA 対応無線の移動を表示し、無線モードを監視します。</li> <li>• [TREND] : 2.4 GHz、5 GHz 帯域の FRA 無線の数を表示し、時間範囲で選択した時間内の無線モードを監視します。</li> </ul> <p>グラフのいずれかの色のセグメントをクリックするか、[View Details] リンクをクリックすると、[FRA Changes Details] が開きます。slide-in pane</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフの色のセグメントにカーソルを合わせると、対応する無線モードの中から FRA 無線の数が表示されます。</li> <li>2. AP デバイスデータは、グラフの色のセグメントをクリックするとチャートの下に表示される [Radios] テーブルに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP Name</li> <li>• Slot ID</li> <li>• COF %</li> <li>• 推奨モード</li> <li>• チャンネル</li> </ul> <p>(注) [Radios] テーブルで、マウスカーソルを [i] アイコンの上に置くと詳細が表示されます。</p> </li> <li>3. [Export] をクリックして、データをローカルマシンにダウンロードします。</li> </ol> |

| アイテム                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[RRM Performance] ダッシュレット</p> | <p>次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [LATEST] : 過去 30 分間の [Poor]、[Fair]、および [Good] AP 正常性スコアに寄与した AP の総数を表示します。</li> <li>• [TREND] : 時間範囲内の AP カウントと選択された時間の割合について、AP の [Poor]、[Fair]、および [Good] RRM 正常性スコアを表示します。</li> </ul> <p>グラフのいずれかの色のセグメントをクリックするか、[View Details] リンクをクリックして、[RRM Health] を開きます。slide-in pane</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフの色のセグメントにカーソルを合わせると、AP とその無線の [Fair]、[Poor]、および [Good] RF パフォーマンススコアが表示されます。</li> <li>2. グラフの色のセグメントをクリックして、チャートの下に表示される [Access Points] テーブルの次のデバイスデータを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP Name</li> <li>• Slot ID</li> <li>• Neighbor</li> <li>• Interference</li> <li>• Noise</li> <li>• クライアント</li> <li>• Access Point</li> <li>• ヘルス スコア</li> <li>• 同一チャンネルの重複</li> <li>• 同一チャンネルネイバー利用</li> <li>• RSSI クライアントスコアが低い</li> <li>• 同じチャンネルのノイズ</li> <li>• 同じチャンネルの干渉</li> </ul> <p>(注) [Access Points] テーブルで、マウスカーソルを [i] アイコンの上に置くと詳細が表示されます。</p> </li> <li>3. [Export] をクリックして、AP テーブルデータをローカルマシンにダウンロードします。</li> </ol> |

| アイテム                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[Co-Channel Interference]<br/>ダッシュレット</p> | <p>次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [LATEST] : 過去 30 分間に [Low]、[Medium]、[High] の同一チャンネル干渉が発生している AP の総数を表示します。</li> <li>• [TREND] : 時間範囲内の AP カウントと選択された時間の割合について、AP の [Low]、[Medium]、[High] の同一チャンネル干渉の割合を示します。</li> </ul> <p>グラフの色のセグメントまたは [View Details] リンクをクリックして、[Co-Channel Interference] を開きます slide-in pane。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフの色のセグメントにカーソルを合わせると、AP の [Low]、[Medium]、[High] の同一チャンネル干渉が表示されます。</li> <li>2. グラフの色のセグメントをクリックして、チャートの下に表示される [Access Points] テーブルの次のデバイスデータを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP Name</li> <li>• Slot ID</li> <li>• チャンネル</li> <li>• 影響スコア</li> <li>• CCI (dBm)</li> <li>• Duty Cycle</li> <li>• Access Point</li> <li>• チャンネル</li> <li>• 影響スコア</li> <li>• CCI (dBm)</li> <li>• Duty Cycle</li> </ul> <p>(注) [Access Points] テーブルで、マウスカーソルを [i] アイコンの上に置くと詳細が表示されます。</p> </li> <li>3. [Export] をクリックして、AP テーブルデータをローカルマシンにダウンロードします。</li> </ol> |

| アイテム                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Utilization Per Channel]<br>ダッシュレット | <p>使用率チャートを表示します。</p> <p>6 GHz 帯域の場合、使用率チャートは、[View by] ドロップダウンリストで選択した UNII レベルに基づきます。UNII レベルは、[PSC]、[UNII 5]、[UNII 6 &amp; 7]、および [UNII 8] です。デフォルトのビューは [PSC] です。</p> <p>[LATEST] タブには、過去 30 分間に同一チャンネル干渉が発生している AP の総数が表示されます。</p> <p>次の詳細を表示するには、チャートにカーソルを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チャンネル番号 (Channel Number)</li> <li>• 使用率</li> <li>• インターフェイス</li> <li>• 最大使用率</li> <li>• 最小使用率</li> <li>• チャンネルの数</li> <li>• Tx/Rx の使用率</li> <li>• Interference</li> </ul> <p>[TREND] タブには、時間範囲内の使用率と選択された時間の割合に関するチャンネルごとの使用率の詳細が表示されます。</p> <p>(注) [Select Channel] ドロップダウンリストでは、名前を入力してチャンネルを検索するか、リストからチャンネルを選択して詳細を表示できます。</p> |

| アイテム                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[AP and Radar per Channel] ダッシュレット</p> | <p>5 GHz 帯域のチャンネルごとの AP およびレーダー情報を表示します。</p> <p>[LATEST] タブには、過去 30 分間の AP およびチャンネルのチャートに、チャンネルごとの AP およびレーダーの詳細が表示されます。</p> <p>チャートにカーソルを合わせると、5-GHz 帯域に関する以下の詳細が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チャンネル数</li> <li>• 無線の数</li> <li>• チャンネルごとのレーダーイベントの数</li> <li>• チャンネルの数</li> <li>• Tx/Rx の使用率</li> <li>• Interference</li> </ul> <p>[Trend] タブには、選択したチャンネルの無線およびレーダーイベントの数が表示されます。</p> <p>[TREND] タブには、時間範囲内の AP またはレーダーと選択された時間のチャートに、チャンネルごとの AP、不正、およびレーダーの詳細が表示されます。</p> |
| <p>[AP and Radar per Channel] ダッシュレット</p> | <p>2.4 GHz および 6 GHz 帯域のチャンネルごとの AP 情報を表示します。</p> <p>[LATEST] タブには、チャンネル番号とそのチャンネル上の無線の数が表示されます。</p> <p>次の詳細を表示するには、チャートにカーソルを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チャンネルの数</li> <li>• Tx/Rx の使用率</li> <li>• Interference</li> </ul> <p>[TREND] タブには、選択したチャンネルの無線の数が表示されます。</p>                                                                                                                                                                                                       |

**ステップ 9** 次の機能のために [RF Coverage] を展開します。

| アイテム                         | 説明 |
|------------------------------|----|
| [AP Spatial Density] ダッシュレット |    |



| アイテム | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>AP の空間密度の値は、インフラストラクチャ内で選択した AP のネイバーである -70 dBm 以上の AP の数を表します。AP の密度は、チャンネル、チャンネル幅、および Tx 電力の最適な実効値に影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [LATEST] : インフラストラクチャ内の選択された AP のネイバーである AP の数を、過去 30 分間の無線数の割合、AP ネイバーの密度、およびクライアント数の割合について示します。</li> </ul> <p>以下を表示するには、チャートにカーソルを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP ネイバー密度</li> <li>• [Radio Count]</li> <li>• [クライアントカウント (Client Count) ]</li> <li>• AP Count</li> <li>• エンドポイントカウント</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [TREND] : 時間範囲内の AP 数と選択した時間の平均隣接密度数と無線数を表示します。</li> </ul> <p>平均隣接密度範囲は、 [&lt;5]、 [5-10]、 [10-15]、 [15-20]、 [20-25]、 および [&gt;=25] です。</p> <p>グラフのいずれかの色のセグメントをクリックするか、 [View Details] リンクをクリックすると、 [AP Spatial Density Details] が開きます。 slide-in pane</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフ内の色のセグメントをクリックして、 [Top APs] グラフをネイバー密度の低/高別に表示し、 [Access Points] テーブルの次のデバイスデータを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセスポイント</li> <li>• AP Name</li> <li>• Slot ID</li> <li>• ネイバー密度メトリック</li> <li>• 合計 Rx ネイバー</li> <li>• チャンネルネイバー RSSI で最高</li> <li>• チャンネルネイバーの合計</li> </ul> <p>(注) [Access Points] テーブルで、マウスカーソルを [i] アイコンの上に置くと詳細が表示されます。</p> </li> <li>2. [Top APs] エリアで、ドロップダウンリストをクリックして、最も低いネイバー密度または最も高いネイバー密度で上位 AP を選択します。</li> </ol> |

| アイテム | 説明                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="594 279 1482 352">3. [Top APs] チャートにカーソルを合わせると、AP およびネイバーカウンターのチャートに [Min]、[Max]、および [Latest] の AP が表示されます。</li><li data-bbox="594 373 1482 447">4. [Export] をクリックして、AP テーブルデータをローカルマシンにダウンロードします。</li></ol> |

| アイテム                         | 説明 |
|------------------------------|----|
| [Power Distribution] ダッシュレット |    |

| アイテム | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>電力分布チャートは、環境内の物理的な Wi-Fi カバレッジエリアを視覚化するのに役立ちます。また、最大および最小の電力レベルで動作している AP を特定することもできます。</p> <p>6 GHz 帯域の場合、[Filter] ドロップダウンリストで選択した [Power Level] または [Power dBm] に基づいてデータを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [LATEST] : 過去 30 分間に、さまざまな電力レベルで動作している AP の数と、無線数の割合とネイバー数の割合が表示されます。</li> <li>• 以下を表示するには、チャートにカーソルを合わせます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Operating Power Level] (6 GHz 帯域の電力レベルビュー用)</li> <li>• [Operating Power dBm for the 6-GHz band] (電力 dBm ビューの場合)</li> <li>• 無線数</li> <li>• Neighbor Count</li> </ul> </li> <li>• [TREND] : 時間範囲内の動作電力レベル、無線数、および選択された時間を表示します。</li> </ul> <p>カーソルを傾向チャートに合わせると、さまざまな電力レベルで動作している無線数の割合が表示されます。</p> <p>電力レベルは、[Level 1] (最大電力レベル) から [Level 8] (最小電力レベル) まで計算されます。</p> <p>グラフの色のセグメントをクリックするか、[View Details] リンクをクリックすると、[Power Distribution Details] が開きます。slide-in pane</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフの色のセグメントをクリックすると、ネイバー密度の低/高別で表示された [Top APs] グラフと、以下のデバイスデータが [Radios] テーブルに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセス ポイント (Access Point)</li> <li>• AP Name</li> <li>• Slot ID</li> <li>• カバレッジホール数</li> <li>• 送信電力 (dBm)</li> <li>• Neighbor Count</li> <li>• 送信電力レベル</li> <li>• ネイバー密度メトリック</li> <li>• デルタ平均ネイバー送信電力 (dB)</li> </ul> </li> </ol> |

| アイテム | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>6 GHz 帯域の場合、[Power dBm] を使用してデータをフィルタリングすると、次のデバイス データが [Radios] テーブルに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP Name</li> <li>• Slot ID</li> <li>• カバレッジホール数</li> <li>• 送信電力 (dBm)</li> <li>• Neighbor Count</li> <li>• ネイバー密度メトリック</li> <li>• デルタ平均ネイバー送信電力 (dB)</li> <li>• チャネル幅 (MHz)</li> </ul> <p>(注) [Access Points] テーブルで、マウスカーソルを [i] アイコンの上に置くと詳細が表示されます。</p> <p>2. [Export] をクリックして、AP テーブルデータをローカルマシンにダウンロードします。</p> |

**ステップ 10** [Additional Site Level Information] を展開して、サービスバンドルをダウンロードします。

**ステップ 11** [Service Bundle] エリアで、[Request a Latest Service Bundle] リンクをクリックして、選択した建物の過去 1 時間のサービスバンドルをダウンロードします。

**ステップ 12** 過去 14 日間のサービスバンドルデータをダウンロードするには、[SELECT A PERIOD TO DOWNLOAD] エリアで [Start Date] と [Start Time] および [End Date] と [End Time] を指定し、[Download Service Bundle] をクリックします。

選択した期間に RRM アルゴリズムに使用される構成パラメータと RRM テレメトリを含むサービスバンドルがローカルマシンに保存されます。このサービスバンドルは、Cisco Technical Assistance Center (TAC) でトラブルシューティングに使用することがあります。





## 第 19 章

# インテリジェントキャプチャの管理

- [インテリジェントキャプチャについて \(435 ページ\)](#)
- [インテリジェントキャプチャ対応デバイス \(436 ページ\)](#)
- [インテリジェントキャプチャのベストプラクティス \(437 ページ\)](#)
- [クライアントデバイス向けのライブおよびスケジュール済みキャプチャセッション \(438 ページ\)](#)
- [クライアントデバイス向けデータパケットキャプチャ \(446 ページ\)](#)
- [アクセスポイント向けインテリジェントキャプチャ \(456 ページ\)](#)
- [インテリジェントキャプチャのトラブルシューティング \(467 ページ\)](#)

## インテリジェントキャプチャについて

Cisco DNA Center では、デバイスやクライアントの正常性に関するすべての情報は、通常シスコワイヤレスコントローラから入手できます。インテリジェントキャプチャ機能は Cisco DNA Center とアクセスポイント (AP) 間の直接通信リンクをサポートしているため、各 AP は Cisco DNA Center と直接通信できます。Cisco DNA Center はこのチャンネルを使用して、パケットキャプチャデータ、AP とクライアントの統計情報、およびスペクトルデータを受信できます。インテリジェントキャプチャ機能は、Cisco DNA Center と AP 間の直接通信リンクを利用することで、ワイヤレスコントローラからはアクセスできないデータに AP からアクセスできるようにします。



- (注)
- インテリジェントキャプチャは、ローカルモードまたは FlexConnect モードの AP でのみサポートされます。
  - インテリジェントキャプチャは、SDA 展開ではサポートされていません。

## インテリジェントキャプチャ対応デバイス

インテリジェントキャプチャをサポートするシスコ ワイヤレス コントローラを次の表に示します。

| サポート対象の Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラ |                      |
|------------------------------------|----------------------|
| デバイス                               | サポート対象の最小ソフトウェアバージョン |
| Cisco 3504 ワイヤレス コントローラ            | AireOS 8.8.125.0     |
| Cisco 5520 ワイヤレス コントローラ            | AireOS 8.8.125.0     |
| Cisco 8540 ワイヤレス コントローラ            | AireOS 8.8.125.0     |

インテリジェントキャプチャをサポートする Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラを次の表に示します。

| サポート対象の Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラ    |                            |
|---------------------------------------|----------------------------|
| デバイス                                  | サポート対象の最小ソフトウェアバージョン       |
| Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ | IOS-XE Gibraltar 16.12.1.s |

インテリジェントキャプチャをサポートする Cisco AP を次の表に示します。

| サポート対象の Cisco AP                  |                              |                              |
|-----------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| デバイス                              | サポート対象 AireOS ソフトウェアの最小バージョン | サポート対象 IOS-XE ソフトウェアの最小バージョン |
| Aironet 1540 AP <sup>3</sup>      | 8.10.105.0                   | 16.12.1.s                    |
| Aironet 1560 AP                   | 8.10.105.0                   | 16.12.1 s                    |
| Aironet 1815 AP <sup>1</sup>      | 8.10.105.0                   | 16.12.1 s                    |
| Aironet 1830 AP <sup>1</sup>      | 8.10.105.0                   | 16.12.1 s                    |
| Aironet 1840 AP <sup>1</sup>      | 8.10.105.0                   | 16.12.1 s                    |
| Aironet 1850 AP <sup>1</sup>      | 8.10.105.0                   | 16.12.1 s                    |
| Aironet 2800 シリーズ AP              | 8.8.125.0 または 8.10           | 16.12.1s                     |
| Aironet 3800 シリーズ AP              | 8.8.125.0 または 8.10           | 16.12.1s                     |
| Aironet 4800 シリーズ AP <sup>4</sup> | 8.8.125.0 または 8.10           | 16.12.1s                     |
| Catalyst 9105 AP <sup>1</sup>     | 8.10 MR3                     | 17.3.1                       |
| Catalyst 9115 AP <sup>1</sup>     | 8.10.105.0                   | 16.12.1 s                    |



| サポート対象の Cisco AP                   |                                      |                                |
|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| デバイス                               | サポート対象 AireOS ソフトウェアの最小バージョン         | サポート対象 IOS-XE ソフトウェアの最小バージョン   |
| Catalyst 9120 AP                   | 8.10.105.0<br>8.10.112.0 (スペクトル解析向け) | 16.12.1s<br>17.2.1 (スペクトル解析向け) |
| Catalyst 9130 AP <sup>2</sup>      | 8.10 MR3                             | 17.3.1                         |
| Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ AP | 8.10.105.0                           | 17.1.1s                        |
| Catalyst ESW6300 組み込みサービス AP       | 8.10.105.0                           | 17.1.1s                        |

<sup>3</sup> スペクトル解析は、Aironet 1540 AP、Aironet 1800 シリーズ AP、Catalyst 9105 AP、および Catalyst 9115 AP ではサポートされていません。

<sup>4</sup> データパケットキャプチャは、Aironet 4800 AP および Catalyst 9130 AP のみでサポートされます。

## インテリジェントキャプチャのベストプラクティス

インテリジェントキャプチャ機能を Cisco DNA Center で確実に最適化するためのベストプラクティスを以下で紹介します。

- 新しいワイヤレスコントローラデバイスを Cisco DNA Center に追加したら、インテリジェントキャプチャのグローバル設定を無効にしてから、設定を再度有効にします。これで、新しいワイヤレスコントローラにインテリジェントキャプチャが設定されます。
- Cisco DNA Center からワイヤレスコントローラデバイスを削除する前に、すべてのインテリジェントキャプチャ設定を無効にします。
- 管理対象のワイヤレスコントローラのアップグレードや Cisco DNA Center の再イメージ化の前に、すべてのインテリジェントキャプチャ設定を無効にします。アップグレード完了後に設定を再度有効にします。

# クライアントデバイス向けのライブおよびスケジュール済みキャプチャセッション

## クライアントデバイス向けのキャプチャセッションについて

クライアントデバイスに対して、次の種類のキャプチャセッションを実行できます。

オンボーディングパケットキャプチャセッションは、クライアントデバイスがワイヤレスネットワークに参加するために使用するパケット（802.11 管理フレーム、DHCP、EAP パケットなど）をキャプチャし、クライアントの RF 統計（5 秒のサンプル）を収集します。このデータは [Client 360] > [Intelligent Capture] ページに表示されます。セッションは、すぐに開始することも ([Run Now])、後で実行するようにスケジュールすることもできます。セッションのデフォルトの持続時間は 30 分で、最大 8 時間に設定されています。デフォルトでは、最後にクライアントに接続されたワイヤレスコントローラでキャプチャが有効になっています。クライアントローミングシナリオに対応するワイヤレスコントローラを 3 つまで選択できます。

### オンボーディング キャプチャ セッションの制限事項

オンボーディング キャプチャ セッションの制限事項は次のとおりです。

- キャプチャセッション（ライブおよびスケジュール済み）には合計 16 個のタイムスロットが割り当てられています。セッション内の各クライアントは 1 つのタイムスロットを使用します。

ライブキャプチャセッションの最大数は 16 であるため、16 のライブキャプチャセッションが同時に実行されている場合は、スケジュール済みキャプチャセッションに使用できるスロットはありません。

同時に実行可能なスケジュール済みキャプチャセッションは、最大 12 です。このため、常に 4 個（16 - 12）のスロットがライブキャプチャセッション用に確保されています。

たとえば、17 個目のライブキャプチャセッションを開始しようとする、この最大値を超えるため、次のエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージのダイアログボックスで [Yes] をクリックし、次に終了するライブキャプチャセッションを選択します。



(注) 16 個のタイムスロット制限は、ワイヤレスコントローラによって適用されます。

キャプチャセッションが Cisco DNA Center で設定されている場合、Cisco DNA Center が認識していないライブキャプチャセッションやスケジュール済みのキャプチャセッションはすべて削除されます（ワイヤレスコントローラで直接設定された部分的なパケットキャプチャセッションなど）。

- オンボーディングイベント期間中は、オンボーディングイベントに関連した最大 100 パケットのキャプチャが可能です。
- Cisco DNA Center に格納するすべてのスケジュール済みオンボーディング パケット ファイルの合計サイズには、3.5GB の制限があります。制限を超えると、合計サイズが 3.5GB の制限を下回るまで、最も古いパケットファイルから順番に削除されます。

## クライアント統計情報について

グローバル設定のオンボーディング パケット キャプチャ セッションを使用すると、サポート対象の AP でクライアント統計情報を 5 秒間隔で収集できます。

クライアント統計情報は、クライアントが接続されている AP で AP 統計が有効になっている場合にも 30 秒間隔で収集されます。

収集されたクライアント統計情報は、[Client 360] > [Intelligent Capture] ウィンドウの 4 つの RF 統計情報チャートに表示されます。

## クライアントデバイスのライブキャプチャセッションの有効化

以下の手順により、特定のクライアントデバイスに対してライブキャプチャセッションを有効にし、オンボーディングイベントと RF 統計情報のデータパケットを表示できます。

**ステップ 1** [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**アシュアランス** >。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** [Client Health] タブをクリックします。

[クライアントの健全性 (Client Health) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次のいずれかを実行して、特定のクライアントの [Client 360] ウィンドウを開きます。

- [クライアントデバイス (Client Devices) ] 表で、ハイパーリンク付きの識別子またはデバイスの MAC アドレスをクリックします。
- [検索 (Search) ] フィールド (右上端) に次のいずれかを入力します。ユーザ ID (Cisco ISE により認証済み)、IP アドレス、MAC アドレス。

クライアント デバイスの 360 度ビューが表示されます。

**ステップ 4** [Client 360] ウィンドウで、[Intelligent Capture] をクリックします。

[Intelligent Capture: Client Device] ウィンドウに次の情報が表示されます。

**注目** [GRPC link is not ready (CONNECTING)] というメッセージ付きの ▲ アイコンがクライアント名の横に表示される場合は、[クライアントまたはアクセスポイントがインテリジェント キャプチャ データを送信できない Cisco DNA Center \(467 ページ\)](#) で詳細を確認してください。

図 60: クライアントの [Intelligent Capture] ウィンドウ



ステップ 5 タイムラインスライダは、次の機能に使用できます。

| タイムラインスライダ          |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [1 hour] ドロップダウンリスト | ドロップダウンリストをクリックして期間を選択し、タイムラインの範囲を設定します。オプションは、[1 hour]、[3 hours]、および[5 hours]です。デフォルトは [1 hour] です。                                                                                                                                                                                    |
| タイムラインスライダ          | <p>タイムラインスライダは、表示されるすべてのデータの時間枠を決定します。ライブキャプチャの結果については、オンボーディングイベントの折れ線グラフが表示されます。緑色はオンボーディングイベント、赤色は異常イベントを示します。</p> <p>タイムラインを別の時間枠に調整するには、目的の時間枠になるまで [&lt;] ボタンと [&gt;] ボタンをクリックします。</p> <p>(注) タイムラインには、最長で過去2週間のデータを表示できます。</p> <p>タイムラインの範囲をさらにカスタマイズするには、境界線をクリックしてドラッグします。</p> |


ステップ 6 ライブキャプチャセッションを実行するには、次の手順を実行します。

- a) ライブキャプチャセッションを開始するには、右上隅にある [Start Live Capture] をクリックします。ライブキャプチャセッション中、[Onboarding Events] と [RF Statistics] ダッシュレットのデータパケットが収集されます。

- b) ライブキャプチャセッションを停止するには、[Stop Capturing] ボタンをクリックします。  
 (注) ライブキャプチャセッションは3時間実行されます。3時間が経過すると、セッションを延長するためのダイアログボックスが表示されます。
- c) 実行中のライブキャプチャセッションは、クライアントの [Intelligent Capture Settings] ウィンドウで確認できます。

**ステップ7** ネットワーク接続の確立に関連付けられているイベントを表示するには、[Onboarding Events ダッシュレット]を使用します。

| [Onboarding Events] ダッシュレット        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [All] および <b>Anomaly PCAP</b> フィルタ | <p>オンボーディングイベントをフィルタ処理できます。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [All] : すべてのイベントを表示します。これはデフォルトです。</li> <li>• <b>Anomaly PCAP</b> : 異常イベントのみをフィルタ処理します。</li> </ul> <p>(注) クライアントがネットワークに参加する際に問題が発生した場合は、特定のイベントの横に「PCAP」という語が赤色で表示されます。</p> <p>クライアントが問題なくネットワークに参加できる場合は、特定のイベントの横に「PCAP」という語が灰色で表示されます。</p>                                                                                                      |
| <b>Export PCAP</b>                 | <p>指定されたイベントの範囲の packets をダウンロードできます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [Export PCAP] をクリックします。</li> <li>2. PCAP に含める最初と最後のイベントを指定します。</li> <li>3. ダウンロードを開始するには、[Download PCAP] ボタンをクリックします。</li> </ol> <p>(注) ヒューリスティックを使用してイベントに属する packets を判断するため、最初のイベントの1分前と最後のイベントの1分後の packets がダウンロードに含まれます。これにより、すべての関連する packets がダウンロードされた PCAP に含まれるようになります。</p> <p>各エクスポートに含まれるのは、最もタイムスタンプが古いものから 2000 packets までに制限されます。</p> |

| [Onboarding Events] ダッシュレット |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| オンボーディング、不完全、および異常イベントのリスト  | <p>オンボーディング、不完全、および異常イベントのリストを時系列順に表示します。イベントは、以下を示すために色分けされています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● : 正常なオンボーディングイベント。</li><li>● : 不完全なイベント。</li><li>● : 異常イベント。</li></ul> <p>(注)  アイコン付きのイベントは、このイベントのデータパッケージがダウンロードまたは分析のためにキャプチャされていることを示します。</p> <p>親イベントグループをクリックすると、グループを展開して、そのグループの個々のイベントを表示できます。</p> |

| [Onboarding Events] ダッシュレット |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| Event Details               | <p>イベントグループまたは個々のイベントをクリックすると、次のセクションでさらに詳細情報を表示できます。</p> <p>[Client Location] : イベント中のクライアントの場所のマップとクライアントの移動のマップが表示されます。</p> <p>[Auto Packet Analyzer] : このセクションは、ライブキャプチャ、スケジュールされたキャプチャ、または異常キャプチャセッションがイベントの packets をキャプチャした場合に表示されます。イベントの横に表示される  アイコンは、イベントによって packets がキャプチャされたことを示します。</p> <p>[Auto Packet Analyzer] セクションには、次の情報を含むグラフが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• イベントを囲む packets (最大 100 個) は、次の 2 つのグループに分けられます。グレーのセクションは、オンボーディングセッション開始前の packets を示します。白のセクションは、オンボーディングセッション内の packets を示します。</li> </ul> <p>認証解除 packets と予期しない packets のパターンは赤色の三角形で表されます。これらは、クライアントのオンボーディングエクスペリエンスを低下させる可能性のある重要な意味を持つ packets です。</p> <p>[Download Packets] をクリックすると詳細分析のために packets をダウンロードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• packets (クライアントまたは AP からの packets)</li> <li>• オンボード packets のステージ識別子</li> <li>• packets 間ギャップ (ms)</li> <li>• packets ごとの RSSI (dBm)</li> <li>• 関連付けられている AP</li> </ul> <p>[RF Statistics] : イベントを囲む 10 分間隔の RF 統計データを使用したグラフが表示されます。</p> <p>RF 統計データは、RSSI および SNR 測定値 (デシベル単位)、Rx 平均データレートと Rx 最終データレート、Tx packets と Rx packets、および Tx packets の再試行で構成されます。</p> <p>(注) [Anomaly Capture] が有効になっている場合、ライブまたはスケジュールされたキャプチャが実行されていない場合でも、異常イベントの packets はキャプチャされます。</p> |

**ステップ 8** [Client Location] ダッシュレットでは、フロアマップを表示して次の情報を確認できます。

- フロア上のクライアントと AP の場所。
- カバレッジの強度を色の濃淡で視覚化したヒートマップ
- フロアマップ上のクライアントのリアルタイムロケーション。クライアントが別の場所に移動すると、その移動が表示されます。
- RF 統計情報 (RSSI、SNR、データレート、スループット、およびパケットドロップレート) を使用して接続が色分け表示されたクライアント証跡トラッキング。  
マップ上の色は、クライアントの正常性を示します。  
● : 良い ● : 平均 ● : 悪い
- 選択したオンボーディングイベントの時間を含む 1 分間のクライアントのトラッキング。
- マップの下のリプレイおよび停止/開始のコントロールを使用すると表示をコントロールできます。


(注) クライアントロケーション機能を使用するには、CMX が Cisco DNA Center と統合されている必要があります。詳細については、「[ワイヤレスマップ向け Cisco CMX の統合 \(479 ページ\)](#)」の章を参照してください。

**ステップ 9** [RF Statistics] ダッシュレットでは、RF 情報の詳細を確認できます。

クライアントの AP クライアント統計情報は、4 つのチャートに表示されます。[クライアント統計情報について \(439 ページ\)](#) を参照してください。データは色分けされていて、次の情報が含まれています。

- RSSI および SNR の測定値 (デシベル単位)。
- Rx 平均データレート (直近の 5 秒間) および Rx 最新データレート。
- Tx パケットおよび Rx パケット。
- Tx パケットの再試行。

チャートでは、次の操作を実行できます。

- チャートにカーソルを重ねると、特定の時点の統計を表示できます。
- チャート内をクリックしてドラッグすると、特定の期間を拡大表示できます。ビューをデフォルト表示に変更するには、 アイコンをクリックします。

**ステップ 10** クライアントデバイスのデータパケットキャプチャを実行するには、「[クライアントデバイスのデータパケットキャプチャの実行 \(448 ページ\)](#)」を参照してください。



## クライアントデバイス向けキャプチャセッションのスケジュールと管理

スケジュール済みのキャプチャセッションを停止、編集、削除するには、次の手順を実行します。

クライアントキャプチャセッションは、次のデータを収集します。

- オンボーディングイベントのデータパケットおよび **[Client 360] > [Intelligent Capture]** ウィンドウに表示される **[RF Statistics]** チャートデータ（5秒のサンプル）。 [クライアントデバイスのライブキャプチャセッションの有効化（439ページ）](#) を参照してください。
- **[Device 360] > [Intelligent Capture]** ウィンドウに表示されるチャートおよび表のデータ。 [RF 統計情報の表示とアクセスポイントのスペクトル解析データの管理（461ページ）](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance] > [Intelligent Capture Settings]**。  
**[Client Schedule Capture]** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** クライアント キャプチャ セッションをスケジュールするには、**[+ Schedule Client Capture]** をクリックします。

**[Schedule Client Capture]** スライドインペインで、次の設定を行います。

- a) **[Start Time]** エリアで、キャプチャセッションを開始するタイミングを指定します。**[Run Now]**、**[Run Later]** のどちらかを選択できます。
- b) **[Duration]** ドロップダウンリストをクリックして期間を指定します。
- c) **[Select Client Devices]** ドロップダウンリストをクリックすると、カテゴリの一致を返す検索文字列を入力できます（クライアント ユーザー ID、ホスト名、MAC アドレス）。

(注) 検索では、カテゴリごとに最大 10 個の一致が返されるため、エントリが見つからない場合は検索文字列を再調整します。

(注) キャプチャセッションの詳細については、[クライアントデバイス向けのキャプチャセッションについて（438ページ）](#) を参照してください。

d) **[Save]** をクリックします。

**ステップ 3** 実行中のキャプチャセッションを停止するには、次の手順を実行します。

- a) **[In-progress Captures]** タブをクリックします。
- b) テーブルからクライアントを選択します。
- c) **[Stop Capture]** をクリックします。

**ステップ 4** 将来の時間にスケジュールされたキャプチャセッションを編集するには、次の手順を実行します。

- a) **[Scheduled Captures]** タブをクリックします。
- b) テーブルからクライアントを選択します。

- c) [Edit Schedule] をクリックします。

**ステップ 5** 完了したキャプチャセッションを削除するには、次の手順を実行します。

- a) [Completed Captures] タブをクリックします。
- b) テーブルからクライアントを選択します。
- c) [Delete Schedule] をクリックします。

## クライアントデバイス向けデータパケットキャプチャ

### クライアントデバイス向けデータパケットキャプチャについて

データパケットキャプチャを使用すると、ネットワークデータをPCAPファイルにキャプチャできます。このファイルは Wireshark でダウンロードして表示できます。詳細については、[クライアントデバイスのデータパケットキャプチャの実行 \(448 ページ\)](#) を参照してください。

#### データパケットキャプチャの制限事項

データパケットキャプチャには、次の制限事項があります。

- データパケットキャプチャは、Cisco Aironet 4800 AP および Cisco Catalyst 9130、9136、9166 AP でのみサポートされます。データパケットキャプチャが有効になっていて、クライアントがパケットキャプチャに対応していない AP にローミングした場合、クライアントがパケットキャプチャ対応の AP に再接続するまで、パケットキャプチャは停止します。
- 一度に実行できるデータパケットキャプチャセッションは1つだけです。
- すべてのインテリジェントキャプチャ機能に共通するように、データパケットキャプチャを機能させるためには、Cisco DNA Center とシスコワイヤレスコントローラの間でクロックを同期させる必要があります。ワイヤレスコントローラが Network Time Protocol (NTP) サーバーに接続されていることを確認します。
- 各データパケットキャプチャセッションで最大 1 GB のローリングデータをキャプチャできます。ダウンロードを高速化するために、1 GB のデータが 10 個の 100 MB のファイルに分割されます。

## NAM 統合について

ソフトウェアバージョン 6.4(2) 以降を実行中の Network Analysis Module (NAM) または vNAM サーバーをご使用の場合は、お使いの NAM サーバーを Cisco DNA Center と統合できます。インストールと設定の詳細については、[Cisco Prime 仮想ネットワーク解析モジュール \(vNAM\) インストールおよびコンフィギュレーションガイド \[英語\]](#) を参照してください。

クライアントに対して NAM 統合とフルパケットキャプチャを有効にすると、[Client 360] > [Intelligent Capture] ウィンドウの [Wireless Packet Application Analysis] チャートにデータが提供されます。このテーブルとチャートには、クライアントが使用するアプリケーション、その QoS 設定、パケット損失、ワイヤレス遅延、およびジッターに関する情報が表示されます。

NAM サーバーを Cisco DNA Center と統合するには、次の手順を実行します。

1. NAM データポートで IP アドレスを設定します。
2. gRPC コレクタを設定します。



(注) NAM 統合は、IPv6 アドレスを使用する Cisco DNA Center クラスタではサポートされません。

## NAM データポートでの IP アドレス設定

NAM や vNAM のデータポートに有効な IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。この手順は、NAM と統合するために必要です。



(注) データポートはパケットを受信するためだけのもので、要求には応答しません。したがって、IP アドレスを正しく設定していても、データポートに ping を実行するとタイムアウトになります。IP アドレスが有効で、Cisco DNA Center から到達可能であることを確認します。

**ステップ 1** NAM サーバーの CLI にログインします。

**ステップ 2** コマンド `show data-port ip-addresses` を入力します。  
コマンドにより、ポート番号と IP アドレスが表示されます。

```
Device# show data-port ip-addresses
Port number: 1
IPv4 address: 172.20.125.125
```

**ステップ 3** `show data-port ip-addresses` コマンドで何も表示されない場合、コマンド `data-port 1 ip-address ip-address` を入力して、IP アドレスをポート 1 に割り当てます。

**ステップ 4** `show data-port ip-addresses` コマンドを再度実行し、そのデータポート 1 が IP アドレスに割り当てられたことを確認します。

**ステップ 5** データポート 1 またはその他の表示されているポートの IP アドレスの 1 つを記録します。

**ステップ 6** `cdb-export` が Cisco DNA Center で有効であることを確認します。そのためには、`show cdb-export all` コマンドを入力します。何も表示されない場合は、コマンド `cdb-export collector 1 ip-address IP-address-of-Cisco-DNA-Center` を入力します。

**ステップ 7** コマンド `autocreate-data-source erspan` を入力して、Cisco DNA Center からのデータパケットが処理されていることを確認します。

**ステップ 8** NAM や vNAM サーバーと Cisco DNA Center で時間が同期していることを確認します。NAM ユーザーインターフェイスから **[Administration] > [System] > [System Time]** の順に選択することにより、時刻を同期できます。

---

## gRPC コレクタの設定

この手順を gRPC コレクタに対して実行して NAM を統合します。gRPC は、オープンソースの高パフォーマンス RPC（リモートプロシージャコール）フレームワークです。

### 始める前に

NAM データポートで IP アドレスを設定します。[NAM データポートでの IP アドレス設定（447 ページ）](#) を参照してください。

---

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[System] > [Data Platform]**。

[Data Centers] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Collectors] タブをクリックします。

[Collectors] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [GRPC-COLLECTOR] をクリックします。

[GRPC-COLLECTOR] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** [+ Add] をクリックします。

[gRPC Collector Configuration] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** [GRPC-COLLECTOR] 設定を 1 つだけ追加します。次の手順を実行します。

- [ConfigData] エリアで [Agent Export] チェックボックスをオンにして、ネットワークパケットデータの NAM へのエクスポートを有効にします。
- [Agent IP Address] フィールドに、記録したデータポートの IP アドレスを入力します（[NAM データポートでの IP アドレス設定（447 ページ）](#) の [ステップ 5（447 ページ）](#) を参照してください）。
- [Configuration Name] フィールドに、GRPC-コレクタ設定の一意の名前を入力します。
- [Save Configuration] をクリックします。

---

## クライアントデバイスのデータパケットキャプチャの実行

この手順では、クライアントデバイスのデータパケットキャプチャを実行する方法を示します。

### 始める前に

アクセスされたアプリケーションとポート、QoSデータ、パケット損失、ワイヤレス遅延、およびジッターに関する情報を取得するには、NAM 統合を有効にする必要があります。詳細については、「[NAM 統合について \(446 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 1** [Health]左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[アシュアランス](#)。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** [Client Health] タブをクリックします。

[クライアントの健全性 (Client Health)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次のいずれかを実行して、特定のクライアントの [Client 360] ウィンドウを開きます。

- [クライアントデバイス (Client Devices)] 表で、ハイパーリンク付きの識別子またはデバイスの MAC アドレスをクリックします。
- [検索 (Search)] フィールド (右上端) に次のいずれかを入力します。ユーザ ID (Cisco ISE により認証済み)、IP アドレス、MAC アドレス。

クライアント デバイスの 360 度ビューが表示されます。

**ステップ 4** [Client 360] ウィンドウで、[Intelligent Capture] をクリックします。

[Intelligent Capture: Client Device] ウィンドウに次の情報が表示されます。


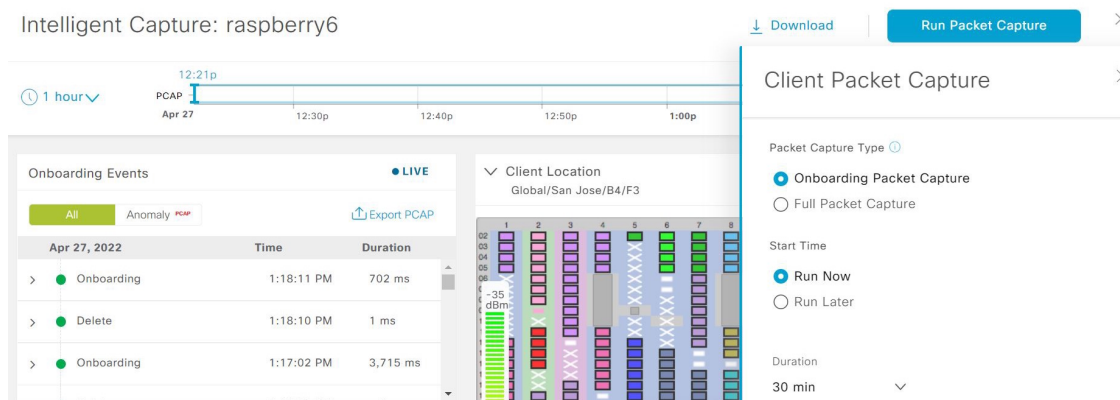
**注目** [GRPC link is not ready (CONNECTING)] というメッセージ付きの  アイコンがクライアント名の横に表示される場合は、[クライアントまたはアクセスポイントがインテリジェントキャプチャ データを送信できない Cisco DNA Center \(467 ページ\)](#) を参照してください。

図 61: クライアントの [Intelligent Capture] ウィンドウ



**ステップ 5** タイムラインスライダは、次の機能に使用できます。

| タイムラインスライダ          |                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                | 説明                                                                                                                                                                                                     |
| [1 hour] ドロップダウンリスト | ドロップダウンリストをクリックして期間を選択し、タイムラインの範囲を設定します。オプションは、[1 hour]、[3 hours]、および [5 hours] です。デフォルトは [1 hour] です。                                                                                                 |
| タイムラインスライダ          | <p>タイムラインスライダは、表示されるすべてのデータの時間枠を決定します。タイムラインを別の時間枠に調整するには、目的の時間枠になるまで [&lt;] ボタンと [&gt;] ボタンをクリックします。</p> <p>(注) タイムラインには、最長で過去 2 週間のデータを表示できます。</p> <p>タイムラインの範囲をさらにカスタマイズするには、境界線をクリックしてドラッグします。</p> |

**ステップ 6** データパケットキャプチャを実行するには、[Data Packet Capture] エリア（右上隅）で次の機能を使用します。

| [Data Packet Capture] エリア |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Run Packet Capture] ボタン  | <p>[Run Packet Capture] をクリックして、[Client Packet Capture] スライドインペインを開き、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[Onboarding Packet Capture] または [Full Packet Capture] オプションボタンをクリックして、[Packet Capture Type] を選択します。</li> <li>[Start Time] を選択します。[Run Now]、[Run Later] のどちらかを選択できます。</li> <li>[Duration] ドロップダウンリストから、パケットキャプチャの期間を選択します。デフォルトは 30 分です。</li> <li>パケットキャプチャを有効にする必要がある [Wireless Controllers] を選択します。ワイヤレスコントローラは最大 3 つまで選択できます。</li> <li>[Save] をクリックします。</li> </ol> <p>[Packet Capture Type] : このボタンを使用して、クライアントのデータパケットキャプチャを開始します。データパケットキャプチャファイルは、トラブルシューティングと [Wireless Packet Application Analysis] ダッシュレットに使用されます。データパケットキャプチャがクライアントに対して現在実行されている場合は、[Data Packet Capturing Stop] をクリックして停止します。</p> <p>(注) すべてのオンボーディングパケットキャプチャセッションは、<b>アシュアランス &gt; [Intelligent Capture Settings] &gt; [Client Schedule Capture]</b> の下に表示されます。</p> <p>一度に実行できるデータパケットキャプチャセッションは 1 つだけです。データパケットキャプチャの実行中に [Run Data Packet Capture] をクリックすると、現在のキャプチャを終了するか、または新しいキャプチャを開始するかのオプションが表示されたダイアログボックスが現れます。</p> <p>When a Data Packet Capture session is configured on Cisco DNA Center, any Data Packet Capture session that Cisco DNA Center is not aware of is removed (such as full packet capture sessions that were directly configured on the wireless controller).</p> <p>(注) すべてのインテリジェントキャプチャ機能に共通するように、データパケットキャプチャを機能させるためには、Cisco DNA Center とシスコワイヤレスコントローラの間でタイムゾーンを同期させる必要があります。ワイヤレスコントローラが Network Time Protocol (NTP) サーバーに接続されていることを確認します。</p> <p>(注) 新しいキャプチャセッションが開始されるたびに、新しい一連の PCAP ファイルが開始されます。</p> |

| [Data Packet Capture] エリア |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Download] ボタン            | <p>フルパケット PCAP ファイルがセッションからキャプチャされたら、このボタンをクリックして PCAP ファイルをダウンロードします。データパケットファイルをダウンロードするには、[Download] 列にあるアイコンをクリックします。次のいずれかのファイルをダウンロードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ワイヤレスデータ：AP とクライアント間のパケットの 802.11 ファイル。</li> <li>• 有線データ：AP とスイッチまたはワイヤレスコントローラ間のパケットのイーサネットファイル。</li> </ul> <p>(注) データパケットキャプチャファイルには、100 MB の制限があります。すべてのデータパケットキャプチャファイルの合計は、3.5 GB を超えることはできません。</p> <p>(注) 過去 7 日間の PCAP ファイルのみダウンロードできます。</p> |

**ステップ 7** クライアントデバイスのデータパケットキャプチャを実行するには、[Run Packet Capture] をクリックして、[Client Packet Capture] スライドインペインを有効にします。

| Client Packet Capture |                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                  | 説明                                                                                                                                                                                                               |
| [Packet Capture Type] | <p>[Packet Capture Type] を選択します。それぞれのタブから、次のパケットキャプチャのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Onboarding Packet Capture]</li> <li>• [Full Packet Capture]</li> <li>• [OTA Sniffer]</li> </ul> |



| Client Packet Capture                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [Onboarding and Full Packet Capture] タブ | <p>[Onboarding Packet Capture] タブまたは [Full Packet Capture] タブをクリックして、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [Start Time] を選択します。[Run Now]、[Run Later] のどちらかを選択できます。</li> <li>2. [Duration] ドロップダウンリストから、パケットキャプチャの期間を選択します。デフォルトは 30 分です。</li> <li>3. パケットキャプチャを有効にする [Wireless Controllers] を選択します。ワイヤレスコントローラは最大 3 つまで選択できます。</li> <li>4. [Save] をクリックします。</li> </ol> <p>(注) すべてのオンボーディングパケットキャプチャセッションは、<b>アシュアランス &gt; [Intelligent Capture Settings] &gt; [Client Schedule Capture]</b> の下に表示されます。</p> <p>一度に実行できるデータパケットキャプチャセッションは 1 つだけです。データパケットキャプチャの実行中に [Run Data Packet Capture] をクリックすると、現在のキャプチャを終了するか、または新しいキャプチャを開始するかのオプションが表示されたダイアログボックスが現れます。</p> <p>When a Data Packet Capture session is configured on Cisco DNA Center, any Data Packet Capture session that Cisco DNA Center is not aware of is removed (such as full packet capture sessions that were directly configured on the wireless controller).</p> |

| Client Packet Capture |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [OTA Sniffer] タブ      | <p>[OTA Sniffer] タブをクリックして、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パケットキャプチャを実行する AP の横にあるチェックボックスをオンにします。<br/><br/>Cisco DNA Center は、OTA スニファ機能がサポートする無線のみが表示されます。</li> <li>2. ドロップダウンリストから [Sniffer] モードを選択します。その他のオプションは、[Radio Mode] または [AP Mode] です。<br/><br/>それぞれのドロップダウンリストから、[Radio]、[Band]、[Channel Width]、および [Channel] を選択します。<br/><br/>(注) デュアル無線をサポートする AP の場合は、次のように、プライマリ無線またはセカンダリ無線を使用して OTA スニファデータパケットキャプチャを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AP でデュアル無線モードが無効になっている場合は、プライマリ無線を使用してデータパケットキャプチャを実行します。</li> <li>• AP でデュアル無線モードが有効になっている場合は、セカンダリ無線を使用してデータパケットキャプチャを実行します。</li> </ul> </li> <li>3. [Run] をクリックします。</li> <li>4. [Packet Captures] スライドインペインで、OTA スニファデータキャプチャを表示およびダウンロードできます。<br/><br/>(注) すべての OTA スニファデータキャプチャセッションが、<b>アシユアランス &gt; [Intelligent Capture Settings] &gt; [OTA Sniffer Capture]</b> の下に表示されます。</li> </ol> |

| Client Packet Capture |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ダウンロード                | <p>フルパケット PCAP ファイルがセッションからキャプチャされたら、このボタンをクリックして PCAP ファイルをダウンロードします。データパケットファイルをダウンロードするには、[Download] ボタンのアイコンをクリックします。次のいずれかのファイルをダウンロードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ワイヤレスデータ：AP とクライアント間で移動するパケットの 802.11 ファイル。</li> <li>• 有線データ：AP とスイッチまたはワイヤレスコントローラ間で移動するパケットのイーサネットファイル。</li> </ul> <p>(注) データパケットキャプチャファイルには、100 MB の制限があります。すべてのデータパケットキャプチャファイルの合計は、3.5 GB を超えることはできません。過去 7 日間の PCAP ファイルのみダウンロードできます</p> |

**ステップ 8** [Wireless Packet Application Analysis] ダッシュレットを使用して、データパケットキャプチャの詳細を確認します。

データパケットキャプチャが実行されている場合、このダッシュレットには、アクセスされたアプリケーションとポート、QoS データ、パケット損失、ワイヤレス遅延、およびジッターなど、分析されたパケットに関する詳細が表示されます。

(注) このダッシュレットにデータを表示するには、NAM の統合を設定する必要があります。 [NAM 統合について \(446 ページ\)](#) を参照してください。

## クライアントのデータパケットキャプチャ履歴の表示

クライアントのデータパケットキャプチャセッションの履歴（最初のパケットと最後のデータパケットがキャプチャされた時刻、キャプチャされたデータパケットの合計サイズ、パケットのタイプなど）を表示するには、以下の手順を実行します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance]>[Intelligent Capture Settings]。

[Client Schedule Capture] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Client Data Packet Capture] タブをクリックします。

[Client Data Packet Control] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [Intelligent Capture Settings - Client Data Packet Capture] ウィンドウには、次の情報が表示されます。

| オプション               | 説明                                                                                                     |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Identifier]        | クライアントのユーザー ID またはホスト名が表示されます。ユーザー ID またはホスト名をクリックすると、[Intelligent Capture: Client Device] ウィンドウが開きます。 |
| [MAC Address]       | クライアントデバイスの MAC アドレスが表示されます。                                                                           |
| [First Packet Time] | 最初のデータパケットがキャプチャされた時刻が表示されます。                                                                          |
| [Last Packet Time]  | 最後のデータパケットがキャプチャされた時刻が表示されます。                                                                          |
| [Total Size]        | キャプチャされたデータの合計サイズが表示されます。                                                                              |
| [Currently Running] | データパケットキャプチャが実行中かどうかを表示します。                                                                            |
| [Type of Packet]    | パケットのタイプ ([Wired]、[Wireless] など) が表示されます。                                                              |

## アクセスポイント向けインテリジェントキャプチャ

### アクセスポイントのインテリジェントキャプチャについて

AP インテリジェントキャプチャ機能を使用すると、1つ以上の AP で次のデータをキャプチャできます。

- AP 統計情報キャプチャには、次の情報が含まれます。
  - [Device 360] > [Intelligent Capture] ウィンドウの [RF Statistics] タブに表示される AP 無線および WLAN 統計情報。
  - 選択した AP に関連付けられているすべてのクライアントの [Client 360] > [Intelligent Capture] ウィンドウで [RF Statistics] エリアに表示される AP クライアントの統計情報（サンプリング時間は 30 秒）。
- 異常キャプチャは、選択した 1 つ以上の AP に関連付けられているすべてのクライアントの異常なオンボーディングイベントに関する情報です。異常キャプチャを有効にすると、すべての異常なオンボーディングイベント（グローバルまたは選択した AP に関連付けられているすべてのクライアント）をキャプチャして、ダウンロードまたは表示できます。

#### キャプチャの制限事項

Cisco DNA Center に格納する異常をトリガーしたパケットファイルの合計サイズには、1.05 GB の制限があります。制限を超えると、合計サイズが 1.05 GB の制限を下回るまで、最も古いパケットファイルから順番に削除されます。

## アクセスポイントのインテリジェントキャプチャの有効化と管理

1つまたは複数のアクセスポイント（AP）を有効にして次のデータをキャプチャするには、以下の手順を実行します。

- **AP 統計情報**：AP 無線の統計情報、WLAN 統計情報、および AP クライアントの統計情報が含まれます。Cisco DNA Center は、AP 統計情報のキャプチャに関して最大 1000 の AP をサポートできます。
- **異常キャプチャ**：選択した 1 つ以上の AP に関連付けられているすべてのクライアントの異常なオンボーディングイベントに関する情報です。異常キャプチャを有効にすると、すべての異常なオンボーディングイベント（グローバルまたは選択した AP に関連付けられているすべてのクライアント）をキャプチャして、ダウンロードまたは表示できます。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance]>[Intelligent Capture Settings]。[Client Schedule Capture] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Access Points] タブをクリックします。  
[Access Point] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** AP 統計情報キャプチャを有効または無効にするには、次のいずれかを実行します。
- 有効な AP がない場合は、[Configure AP Enablement] エリアが表示されます。[Specific] または [Global] のいずれかのオプションを選択し、[Get Started] をクリックします。
  - 1 つ以上の AP が有効になっている場合は、[AP Stats Capture] ウィンドウが表示されます。[AP Stats Capture] ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

| オプション                  | 説明                                                                                               |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| None - disable all APs | 1 つ以上の AP が有効になっている場合は、「None - disable all APs」と表示されます。<br>現在有効になっているすべての AP で統計情報キャプチャを無効にできます。 |

| オプション                                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Specific - select specific APs and enable</b> | <p>選択した AP の統計情報キャプチャを有効にできます。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="583 380 1485 443">1. [Specific - select specific APs and enable] オプションボタンをクリックします。</li> <li data-bbox="583 474 1485 611">2. 左側のペインで、[Global] を展開し、サイト&gt;ビルディング&gt;フロアの順にドリルダウンします。右側のペインには、そのフロアにある AP のリストが表示されます。[Enabled APs]、[Disabled APs]、[Not-Ready APs] の3つのタブがあります。</li> <li data-bbox="583 642 1485 884">3. 選択した AP の統計情報キャプチャを有効にするには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="667 726 1485 789">• [Disabled APs] タブをクリックします。統計情報キャプチャが現在無効になっている AP のリストが表示されます。</li> <li data-bbox="667 821 1485 884">• 統計情報キャプチャを有効にする AP の横にあるチェックボックスをオンにして、[Enable] をクリックします。</li> </ul> </li> <li data-bbox="583 926 1485 1262">4. 互換性のない AP を表示するには、[Not-Ready APs] タブをクリックします。 <p>(注) 互換性のない AP の条件は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="797 1062 1485 1125">• 動作モードが [local] または [FlexConnect] に設定されていない。</li> <li data-bbox="797 1157 1485 1262">• AP にインストールされている OS リリースには互換性がありません。OS リリースは MR1 以降である必要があります。</li> </ul> </li> </ol> |
| <b>Global - enable all capable APs</b>           | すべての対応 AP で統計情報キャプチャを有効にできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

**ステップ 4** 異常キャプチャを有効または無効にするには、[Anomaly Capture] タブをクリックして、次のいずれかを実行します。

- 有効になっている AP がない場合は、[Configure AP Enablement] エリアが表示されます。次のいずれかのオプションを選択してから、[Get Started] をクリックします。
- 1 つ以上の AP が有効になっている場合は、[Anomaly Capture] ウィンドウが表示されます。[Anomaly Capture] ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

| オプション                         | 説明                                                                                        |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>None - disable all APs</b> | 1つ以上のAPが有効になっている場合は、「None - disable all APs」と表示されます。<br>現在有効になっているすべてのAPで異常キャプチャを無効にできます。 |

| オプション                                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Specific - select specific APs and enable or disable</b> | <p>選択した AP の異常キャプチャを有効または無効にできます。次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [Specific - select specific APs and enable or disable] オプションボタンをクリックします。</li> <li>2. 左側のペインで、[Global] を展開し、サイト&gt;ビルディング&gt;フロアの順にドリルダウンします。右側のペインには、そのフロアにある AP のリストが表示されます。[Enabled APs]、[Disabled APs]、[Not-Ready APs] の3つのタブがあります。</li> <li>3. 選択した AP の異常キャプチャを有効にするには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Disabled APs] タブをクリックします。異常キャプチャが現在無効になっている AP のリストが表示されます。</li> <li>(注) 以前に AP を有効にしようとして失敗した場合、[Config Status] 列にエラーメッセージが表示されます。</li> <li>• 異常キャプチャを有効にする AP の横にあるチェックボックスをオンにして、[Enable] をクリックします。</li> </ul> </li> <li>4. 選択した AP の異常キャプチャを無効にするには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Enabled APs] タブをクリックします。異常キャプチャが現在有効になっている AP のリストが表示されます。</li> <li>• 異常キャプチャを無効にする AP の横にあるチェックボックスをオンにして、[Disable] をクリックします。</li> </ul> </li> <li>5. 互換性のない AP を表示するには、[Not-Ready APs] タブをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(注) 互換性のない AP の条件は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 動作モードが [local] または [FlexConnect] に設定されていない。</li> <li>• AP にインストールされている OS リリースには互換性がありません。OS リリースは MR1 以降である必要があります。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>6. インテリジェントキャプチャをサポートしている AP のリストを表示するには、[Not-Ready APs] タブの横にある情報アイコンをクリックします。</li> </ol> |



| オプション                           | 説明                          |
|---------------------------------|-----------------------------|
| Global - enable all capable APs | すべての対応 AP の異常キャプチャを有効にできます。 |

## RF統計情報の表示とアクセスポイントのスペクトル解析データの管理

RF 統計情報を表示し、特定のアクセスポイントのスペクトル解析データを開始および管理するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** [Health] 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[アシュアランス](#)。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** [Network Health] タブをクリックします。

[Network Health] ウィンドウが表示されます。


**ステップ 3** 次のいずれかを実行します。

- [Network Devices] ダッシュレットで、AP のデバイス名（ハイパーリンクされた識別子）をクリックし、AP の詳細を表示します。
- [Search] フィールド（右上隅にあります）で、デバイス名、IP アドレス、または MAC アドレスを入力します。

AP の 360 度ビューが表示されます。

**ステップ 4** [Client 360] ウィンドウで、右上隅にある [Intelligent Capture] をクリックします。

[Intelligent Capture: AP Name] ウィンドウが表示されます。

**注目** [GRPC link is not ready (CONNECTING)] というメッセージ付きの  アイコンが AP 名の横に表示される場合は、「[クライアントまたはアクセスポイントがインテリジェントキャプチャデータを送信できない Cisco DNA Center \(467 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 5** [RF Statistics] タブをクリックすると、RF 統計情報の詳細が表示されます。

(注) [AP Stats Capture] が有効になっていない場合は、有効にします。[アクセスポイントのインテリジェントキャプチャの有効化と管理 \(457 ページ\)](#) を参照してください。


**ステップ 6** [RF Statistics] タブでは、次の操作を実行できます。

a) タイムラインを使用すると、指定された時間の RF 統計情報を表示し、データの範囲を指定できます。

| タイムラインスライダ          |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [1 hour] ドロップダウンリスト | ドロップダウンリストをクリックして期間を選択し、タイムラインの範囲を設定します。オプションは、[1 hour] (デフォルト)、[3 hours]、および[5 hours]です。                                                                                                                                                                         |
| タイムラインスライダ          | <p>タイムラインスライダは、表示されるすべてのデータの時間枠を決定します。タイムラインスライダは、APの正常性を表示するために色分けされています。特定の時刻にカーソルを合わせると、デバイスの正常性スコア、システムリソース、データプレーンなどの詳細を表示できます。</p> <p>タイムラインを別の時間枠に調整するには、目的の時間枠になるまで [&lt;] ボタンと [&gt;] ボタンをクリックします。</p> <p>タイムラインの範囲をさらにカスタマイズするには、境界線をクリックしてドラッグします。</p> |

- b) タイムラインの下にある無線周波数セクタを使用すると、周波数帯域に基づいてダッシュレットのデータをフィルタ処理できます。ドロップダウンリストをクリックして、サポートされている無線の数に応じて [Radio 0 (2.4 GHz or 5 GHz)]、[Radio 1 (5 GHz)]、または [Radio 2 (6 GHz)] を選択します。
- c) このダッシュレットで、RF 統計情報の詳細を確認できます。

(注) ダッシュレットに表示されるチャートでは、次の操作を実行できます。

- 詳細を表示するには、チャートにカーソルを合わせます。
- チャート内をクリックしてドラッグすると、特定の期間を拡大表示できます。ビューをデフォルトに変更するには、 をクリックします。
- チャートの下の色分けされたデータタイプをクリックすると、チャートに表示されているそのデータタイプを無効化または有効化できます。

| ダッシュレット                                              | 説明                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Clients] ダッシュレット                                    | この AP を使用しているクライアントの数が表示されます。データソースは AP WLAN 統計情報からのものです。                                                                                                     |
| [Top Clients with Tx Failed Packets by SSID] ダッシュレット | <p>テーブル内の SSID のリストが表示されます。テーブルのデータソースは、AP WLAN 統計情報からのものです。棒グラフのデータソースは、AP クライアントの統計情報からのものです。</p> <p>SSID を選択すると、その SSID の送信に失敗したパケットの上位のクライアントが表示されます。</p> |
| [Channel Utilization] ダッシュレット                        | AP およびその他のワイヤレスおよびワイヤレス以外のデバイスで使用されているチャンネル使用率が表示されます。棒グラフのデータソースは、AP 無線統計情報からのものです。                                                                          |

| ダッシュレット                                     | 説明                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Channel Utilization by this Radio] ダッシュレット | AP によって使用されている現在のチャンネル使用率、SSID のリスト、接続されているクライアントの数、およびクライアントの過去 15 分間に送受信されたパケット数が表示されます。<br><br>テーブルのデータソースは、AP WLAN 統計情報からのものです。円グラフのデータソースは、AP 無線統計情報からのものです。 |
| [Frame Count] ダッシュレット                       | 管理フレームとデータフレームの数が表示されます。データソースは AP 無線統計情報からのものです。                                                                                                                 |
| [Frame Errors] ダッシュレット                      | 送受信エラーの数が表示されます。データソースは AP 無線統計情報からのものです。                                                                                                                         |
| [Tx Power and Noise Floor] ダッシュレット          | 送信電力とノイズフロアが表示されます。データソースは AP 無線統計情報からのものです。                                                                                                                      |
| [Multicast/Broadcast Counter] ダッシュレット       | 各 SSID のマルチキャストおよびブロードキャストの数が表示されます。データソースは AP WLAN 統計情報からのものです。                                                                                                  |

**ステップ 7** [Spectrum Analysis] タブをクリックします。

**ステップ 8** [Start Spectrum Analysis] タブをクリックし、スペクトル解析セッションを開始します。

- (注)
- スペクトル解析期間は 10 分です。
  - 同時スペクトル解析セッションの最大数は 10 です。

**ステップ 9** [Spectrum Analysis] タブでは、次の操作を実行できます。

- タイムラインを使用すると、指定された時間のスペクトル解析データを、データの範囲を指定して表示できます。

| タイムラインスライダ          |                                                                                             |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                | 説明                                                                                          |
| [1 hour] ドロップダウンリスト | ドロップダウンリストをクリックして期間を選択し、タイムラインの範囲を設定します。オプションは、[1 hour] (デフォルト)、[3 hours]、および [5 hours] です。 |

| タイムラインスライダ |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| タイムラインスライダ | <p>タイムラインスライダは、表示されるデータの時間枠を決定します。タイムラインスライダは、APの正常性を表示するために色分けされています。特定の時刻にカーソルを合わせると、デバイスの正常性スコア、システムリソース、データプレーンなどの詳細を表示できます。</p> <p>スペクトル解析の場合、時間範囲は5分の枠に設定されます。</p> <p>タイムラインを別の時間枠に調整するには、目的の時間枠になるまで [&lt;] ボタンと [&gt;] ボタンをクリックします。</p> <p>(注) タイムラインには、最長で過去2週間のデータを表示できます。</p> <p>境界線をクリックしてドラッグすると、特定の時間のデータが表示されます。</p> |

- b) タイムラインの下にある無線周波数セクタを使用すると、周波数帯域に基づいてチャートのデータをフィルタ処理できます。[2.4 GHz]、[5 GHz]、または [6 GHz] をクリックします。

(注) [Radio Mode] と [Channel] ([Spectrum Analysis] チャートの上) にデータが表示されない場合、その AP には選択された帯域を使用している無線がないことを示します。これは、AP に [5 GHz] の無線を出力するクライアントがあるが、無線周波数セクタが [2.4 GHz] に設定されている場合に発生します。

詳細については、[スペクトル解析時の Cisco AP 機能について \(466 ページ\)](#) を参照してください。

- c) [Spectrum Analysis] チャートには、次の機能が用意されています。

| スペクトル解析チャート         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイテム                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 上位チャート (パーシステンス)    | <p>このチャートは、RF 環境で検知された各信号の振幅 (電力) とチャンネル周波数をリアルタイムで提供します。X 軸は振幅を表し、Y 軸はチャンネル周波数を表します。</p> <p>チャート内の色は、選択された 5 分間で同じ振幅およびチャンネル周波数で検知される信号の数を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青色は、オーバーラップする信号の数が少ない (または信号が同じ振幅と周波数で検知される) ことを示します。</li> <li>赤色は、オーバーラップする信号の数が多ことを示します。</li> </ul> <p>より多くの信号が検知されるにつれ、色の強度が増加します (青色 &gt; 緑色 &gt; 黄色 &gt; オレンジ色 &gt; 赤色)。チャート内の線がオーバーラップし、交差すると、色が変わります。</p> <p>色の透過性は、信号データの経過時間を表し、古いデータはより透過的になります。</p> <p>リアルタイムで RF 環境を表示するには、[Real-TimeFFT (Fast Fourier Transform)] をクリックして有効にします。リアルタイム FFT を有効にすると、永続化チャートが制限されて 5 分間のデータストリームのコレクションではなく、「1 つ」の最新データストリームが表示されます。</p> <p>特定の範囲のチャンネルのデータをズームインして表示するには、マウスをクリックしてドラッグし、範囲を選択します。チャートが更新され、選択した特定のチャンネルのデータが表示されます。</p> <p>チャート全体をズームアウトして表示するには、右上隅の虫めがねをクリックします。</p> |
| ボトムチャート (ウォーターフォール) | <p>このチャートは、データの時間的な解釈を提供します。このチャートは、パーシステンスチャートと同じ情報を提供しますが、フォーマットは異なります。X 軸は時間を表し、Y 軸はチャンネル周波数を表します。チャート内の行は、イベントが発生した正確な順序を表します。これにより、問題が発生した場合に根本原因をトラブルシューティングすることができます。</p> <p>チャート内の色は、振幅を表します。青色は低い値 (-100 dBm) を示し、赤色は高い値 (-20 dBm) を示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

d) [Interference and Duty Cycle] チャートには、次の情報が表示されます。

- 検出された干渉とその重大度：
  - 干渉は、半径が干渉の帯域幅を表す円としてプロットされます。X 軸は干渉が検出された周波数を表し、Y 軸は重大度を表します。

- [Severity] は、干渉と範囲の影響を測定します。範囲は 0（影響がないことを示す）から 100（大きな影響を示す）です。
- 干渉タイプは RF 署名から決定され、Cisco CleanAir テクノロジーによって識別されます。
- 各チャンネルのデューティサイクル。

## スペクトル解析時の Cisco AP 機能について

Cisco Aironet 2800 シリーズ、3800 シリーズ、および 4800 シリーズ アクセスポイント (AP) には、フレキシブル ラジオ アサインメント (FRA) を備えたデュアルバンド無線がスロット 0 に搭載されています。この FRA 無線は 2.4 GHz で動作しますが、5 GHz で動作するように割り当てることができます。このモードは、AP の動作モードとは異なるように変更できます。AP の FRA 無線を 5 GHz で動作するように設定すると、クライアント無線は 2.4 GHz 帯域で動作できなくなります。



- (注) スペクトル解析は、Aironet 1540 AP、Aironet 1800 シリーズ AP、および Catalyst 9115 AP ではサポートされていません。



- (注) AP に正しいソフトウェアバージョンがインストールされていることを確認します。[インテリジェントキャプチャ対応デバイス \(436 ページ\)](#) に記載された「サポート対象の Cisco AP」の表を参照してください。

スペクトル解析のための無線スロットの割り当ては次のとおりです。

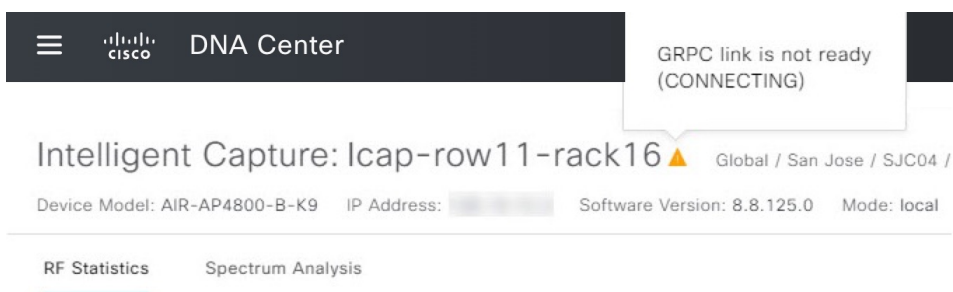
| デバイス モデル                           | スペクトル解析の無線スロットの割り当て        |
|------------------------------------|----------------------------|
| Aironet 2800 シリーズ AP               | 無線スロット 0 および 1 が有効になっています。 |
| Aironet 3800 シリーズ AP               |                            |
| Aironet 1560 AP                    |                            |
| Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ AP |                            |
| Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ AP |                            |

| デバイス モデル                                                     | スペクトル解析の無線スロットの割り当て                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Aironet 4800 シリーズ AP<br>Catalyst 9120 AP<br>Catalyst 9130 AP | これらの AP には、3 つの無線スロットがあります。<br>データパケットキャプチャが実行されている場合は、無線スロット 0 および 1 が有効になります。<br>データパケットキャプチャが実行されていない場合は、無線スロット 2 が有効になります。<br><br>(注) AP スペクトル解析データは、2.4 GHz チャネル帯域では表示されません。また、2.4 GHz 帯域を提供する AP 無線がない場合、[Radio Mode] フィールドと [Channel] フィールドは空になります。こうした状況になるのは、FRA 無線が 5 GHz で動作するように設定され、パケットキャプチャが有効になっている場合です。 |

## インテリジェントキャプチャのトラブルシューティング

### クライアントまたはアクセスポイントがインテリジェントキャプチャデータを送信できない Cisco DNA Center

**問題：**クライアントまたはアクセスポイントがインテリジェントキャプチャデータを Cisco DNA Center に送信できません。警告 (▲) アイコンが「GRPC link is not ready (CONNECTING)」というメッセージと共に表示されます。



**バックグラウンド：**AP がインテリジェントキャプチャデータを Cisco DNA Center に送信するためには、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ または シスコ ワイヤレス コントローラ のインテリジェントキャプチャポート番号を 32626 に設定する必要があります。通常、Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ または ワイヤレス コントローラ が Cisco DNA Center によって検出されると、ポート番号は自動的に 32626 に設定されます。

ただし、Cisco DNA Center のアップグレードパスによっては、ポート番号が適切に設定されない場合があります。

**解決策：**この問題を解決するには、次の作業を実行します。

1. Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ または ワイヤレスコントローラ でインテリジェント キャプチャ サーバーのポート番号が 32626 に設定されていることを確認します。
2. ポート番号が 32626 に設定されていない場合は、手動で設定します。





## 第 20 章

# SSID モニタリング設定の管理

- [SSID モニタリングの概要 \(469 ページ\)](#)
- [SSID モニタリングの設定 \(470 ページ\)](#)
- [SSID モニタリングのプロビジョニングステータスの表示 \(471 ページ\)](#)

## SSID モニタリングの概要

デフォルトでは、Cisco DNA Assurance ですべての SSID に関するテレメトリデータをモニターおよび収集します。ただし、ネットワーク内のすべての SSID をモニターする必要がない場合のシナリオもあります。たとえば、ゲストまたはパブリック Wi-Fi サービスを提供する小売、輸送、またはサービス業のユースケースのように、ユーザー数が非常に多くなる可能性があります。このようなシナリオでは、上記の SSID に対するモニタリングをオフにする一方で、同じインフラストラクチャからの企業 SSID に対する豊富なデータは継続して収集することができます。

特定の SSID に対する SSID モニタリングを、その SSID の設定や SSID へのワイヤレス接続に影響を与えることなく有効または無効にすることができます。AP の SSID 機能への影響もありません。ワイヤレスクライアントは、設定に従って、該当する SSID および他のすべての SSID に引き続き接続します。モニタリング対象の SSID のクライアントは、引き続き [Client 360] ウィンドウの詳細データを使用できます。

SSID がモニタリングされていない場合、Cisco DNA Assurance はクライアントデータを収集しません。その場合、[Client 360] ウィンドウで、該当するクライアントの詳細データとグラフを使用することはできません。また、クライアントの正常性、クライアント固有の問題、インテリジェントキャプチャなどの他のデータも、これらのクライアントに関しては使用できません。さらに、[Client Health] ウィンドウのダッシュレットには、モニタリング対象ではない SSID のクライアントからのデータは含まれません。



- (注) Cisco AireOS ワイヤレスコントローラに関する SSID モニタリングはサポートされていません。Cisco AireOS ワイヤレスコントローラに関して、Cisco DNA Center は、モニタリングが無効になっている SSID のテレメトリデータをドロップします。

左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]**>**[SSID Monitoring Settings]** を選択して **[SSID Monitoring]** ウィンドウを表示します。**[SSID Monitoring]** ウィンドウから、次の手順を実行できます。

- SSID モニタリング設定を表示する。
- 特定の SSID の SSID モニタリングを有効または無効にする。詳細については、[SSID モニタリングの設定 \(470 ページ\)](#) を参照してください。
- 設定された SSID モニタリングアクションに関するプロビジョニング要求を表示および管理する。詳細については、[SSID モニタリングのプロビジョニングステータスの表示 \(471 ページ\)](#) を参照してください。

## SSID モニタリングの設定

デフォルトでは、すべての SSID がモニタリングされます。ただし、1 つ以上の SSID のモニタリングをいつでも無効にしたり、再度有効にしたりすることができます。SSID モニタリング設定を更新するには、次の手順を使用します。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Assurance]**>**[SSID Monitoring Settings]** の順に選択します。

**[SSID Monitoring]** ウィンドウが開き、自分の SSID が表示されます。

**ステップ 2** (任意) SSID のリストを絞り込むには、フィルタアイコン (▼) をクリックし、アクティブなフィールド (**[Network Name (SSID)]**)、**[DNAC Monitoring Status]**、**[Action]**、または **[Controller Config Status]**) のいずれかに値を入力します。

フィルタを使用して、表示しない SSID やトラブルシューティングを行わない SSID を除外します。たとえば、テスト用に作成された SSID、社内 IT で使用する SSID、またはゲスト SSID (空港や地下鉄など) は表示する必要がないかもしれません。

**ステップ 3** **[Action]** 列で、SSID に対応する **[Disable]** または **[Enable]** オプションをクリックします。

**ステップ 4** slide-in pane で、次の手順を実行します。

- a) SSID モニタリングの変更を今すぐプロビジョニングするか、後で実行するようにスケジュールするか、または選択したデバイスに設定を展開するために後で使用できるプレビューを作成するかを選択します。
- b) **[Task Name]** フィールドにタスクの名前を入力します。
- c) **[Apply]** をクリックします。

### 次のタスク

スケジュールされた SSID モニタリングタスクのステータスを表示するには、**[SSID Monitoring]** ウィンドウで **[Activity Page]** をクリックします。または、メニューアイコンをクリックして選択 **[Activities]**>**[Tasks]** を選択します。

[Generate Preview] を選択した場合、ステータスを表示するには、メニューアイコンをクリックして選択 [Activities] > [Work Items] を選択します。

## SSID モニタリングのプロビジョニングステータスの表示

SSID モニタリング設定のプロビジョニングステータスを表示するには、次の手順を使用します。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Assurance] > [SSID Monitoring Settings] の順に選択します。  
[SSID Monitoring] ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** テーブルで必要な SSID 名をクリックします。  
クリックすると、slide-in pane にその SSID に対する SSID モニタリングのプロビジョニング要求のステータスが表示されます。

| プロビジョニングステータス      | 説明                                                                                             |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Configuring</b> | ワイヤレスコントローラで SSID モニタリングアクションの設定が進行中であることを示します。                                                |
| <b>Not Started</b> | ワイヤレスコントローラに SSID モニタリングアクションがまだ設定されていませんが、設定がまもなく開始されることを示します。                                |
| <b>Pending</b>     | SSID モニタリングアクションがキューに入れられており、ワイヤレスコントローラが間もなく設定されることを示します。                                     |
| <b>成功</b>          | ワイヤレスコントローラで SSID モニタリングアクションがプロビジョニングされたことを示します。                                              |
| <b>不合格</b>         | ワイヤレスコントローラで SSID モニタリングアクションがプロビジョニングされていないことを示します。                                           |
| <b>N/A</b>         | ワイヤレスコントローラがテレメトリの無効化をサポートしていないソフトウェアを実行していることを示します。Cisco DNA Center は SSID のテレメトリデータをドロップします。 |

### 次のタスク

SSID のプロビジョニングステータスが [Failed] で、再度ワイヤレスコントローラのプロビジョニングを試みる場合は、[Retry Failed Configuration] をクリックします。





## 第 21 章

# デバイスのパスをトレース

- [パス トレースについて \(473 ページ\)](#)
- [パス トレースの制限事項 \(473 ページ\)](#)
- [パス トレースの実行 \(475 ページ\)](#)

## パス トレースについて

ネットワーク内の2つのノード（指定された送信元デバイスと指定された接続先デバイス）間でパス トレースを実行できます。2つのノードは、有線または無線ホスト、レイヤ3 インターフェイスの組み合わせ、あるいは両方で構成できます。さらに、Cisco DNA Center コントローラがパス トレース接続（TCP または UDP）を確立する際に使用するプロトコルを指定できます。

パス トレースを開始すると、Cisco DNA Center コントローラは、検出されたデバイスのネットワークトポロジおよびルーティングデータを確認して収集します。Cisco DNA Center コントローラはこのデータを使用して、2つのホストまたはレイヤ3 インターフェイス間のパスを計算し、パス トレーストポロジにパスを表示します。このトポロジには、パスの方向とパスに沿ったデバイスが含まれ、デバイスの IP アドレスも表示されます。ディスプレイには、パスに沿ったデバイスのプロトコル（**Switched**、**STP**、**ECMP**、**Routed**、**Trace Route**）や、その他のソース タイプも表示されます。

## パス トレースの制限事項

パス トレースには次の制限事項および制約があります。

- ファブリッククライアントと非ファブリッククライアントの間のパス トレースは、サポートされていません。
- 複数の Virtual Routing Forwarding (VRF) 仮想ネットワーク (VN) 上にある2つのファブリッククライアント間のパス トレースは、サポートされていません。
- 複数のサイト (ドメイン) 上にある2つのファブリッククライアント間のパス トレースは、サポートされていません。

- いずれかのエッジスイッチがファブリックに含まれていない、同じファブリックの同じサイト内に接続されているクライアントは、サポートされていません。
- ルータのループバック インターフェイスからのパストレースは、サポートされていません。
- 重複する IP アドレスは、ファブリックの有無にかかわらずサポートされていません。
- パストレースを Locator/ID Separation Protocol (LISP) ファブリックで機能させるには、トラフィックが実行されていて、エッジスイッチでキャッシュを利用できることを確認します。
- Cisco 適応型セキュリティアプライアンス (ASA) は CDP をサポートしていないため、Cisco ASA のパストレースはサポートされていません。Cisco ASA アプライアンスを通るパスを識別することはできません。
- タグなしモードのワイヤレスコントローラの管理インターフェイスでは、パストレースはサポートされていません。
- 集中管理型ワイヤレス モビリティ モードの非対称モビリティ トンネリングに対するパストレースは、サポートされていません。
- 仮想スイッチング システム (VSS) 、マルチリンク集約制御プロトコル (MLACP) 、または仮想 PortChannel (vPC) のパストレースはサポートされていません。
- スイッチ仮想インターフェイス (SVI) 上の等コスト マルチパスルーティング (ECMP) のパストレースは、サポートされていません。
- NAT またはファイアウォールを使用するデバイスでのパストレースはサポートされていません。
- Cisco Performance Routing (PfR) は DMVPN トンネルでサポートされていません。
- VLAN ACL (VACL) が有効になっているパストレースは、サポートされていません。
- 非周期的な更新 (NPR) パスシナリオでは、アップグレード後にコントローラでパスは更新されません。また、統計収集が停止します。統計収集を続行するには、新しいパス要求を開始する必要があります。
- Hot Standby Router Protocol (HSRP) VLAN のホストから任意の HSRP ルータに接続されている 非 HSRP VLAN のホストへのパストレースは、サポートされていません。
- オブジェクト グループは ACL トレースでサポートされていません。
- ポートチャネルのポート集約プロトコル (PAgP) モードは、サポートされていません。LACP モードのみがサポートされています。
- インターフェイスに異なるパフォーマンス モニター ポリシーが設定されている場合は、Cisco DNA Center を使用したパフォーマンスモニター設定の適用が失敗します。インターフェイスのパフォーマンスモニター設定を削除して、パストレース要求を再送信します。
- パフォーマンスモニター統計情報のパストレースは、Cisco ASR 1000 シリーズルータ (Cisco IOS XE 16.3.1) ではサポートされていません。

- パフォーマンスモニター統計情報のパストレースは、Cisco Catalyst 3850 スイッチ（Cisco IOS XE 16.2.x および 16.3.1）ではサポートされていません。
- Cisco Mobility Express（ME）ワイヤレスコントローラのパストレースはサポートされていません。
- Cisco SD-Access ファブリックで OTT を使用するワイヤレスクライアントのパストレースはサポートされていません。
- レイヤ 2 スイッチからのパストレースはサポートされていません。
- シスコの産業用イーサネット（IE）スイッチは、SD-Access ソリューションの一部として拡張されたノードです。現在、パストレースは拡張ノードを認識していないため、トポロジに拡張ノードが含まれている場合は、エラーメッセージが表示されます。
- デバイス用に IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を使用するデュアルスタックはサポートされていません。この状況になると、指定されたアドレスが不明であることを示すエラーメッセージが表示されます。
- シスコ ワイヤレス コントローラは SNMP モビリティトラップを送信しないため、次の点に注意してください。
  - パストレース要求の場合、Cisco DNA Centerの外部ワイヤレスコントローラでは、右側の出力仮想インターフェイスは強調表示されません。
  - パストレース要求では、外部ワイヤレスコントローラに適用されている ACL は強調表示されません。



---

(注) 回避策は、インベントリサイクルが完了するまで待機することです。

---

## パス トレースの実行

パス トレース機能は、すべてのデバイスで同様の方法で動作します。[Client 360]または[Device 360] ウィンドウからパス トレースを実行できます。

### 始める前に

- パストレースの既知の制限事項を確認してください。[パス トレースの制限事項（473 ページ）](#)を参照してください。
- デバイス（ルータ、スイッチ、ワイヤレス コントローラ、およびアクセス ポイント）が検出されたことを確認します。[IP アドレス範囲またはCIDRを使用したネットワークの検出（27 ページ）](#)、[CDPを使用したネットワークの検出（24 ページ）](#)、または[LLDPを使用したネットワークの検出（29 ページ）](#)を参照してください。

- デバイスで CDP が有効であることを確認してください。

**ステップ 1** [Client 360] または [Device 360] ウィンドウの [Path Trace] カテゴリで、[Run New Path Trace] をクリックします。

[Set up Path Trace] スライドインペインが表示されます。

**ステップ 2** 送信元の IP アドレス、インターフェイス、およびポート番号、宛先の IP アドレス、インターフェイス、およびポート番号を入力します。

| フィールド                         | アクション                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Source] フィールド                | [Source] フィールドの IP アドレスは事前に入力されていますが、次の操作を実行して別の送信元 IP アドレスを入力できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 送信元 IP アドレスを入力します。</li> <li>• [Source] フィールドをクリックして、使用可能なオプションから IP アドレスを選択します。</li> </ul> |
| [Interface (optional) ] フィールド | ドロップダウンリストからインターフェイスを選択します。<br>(注) 送信元 IP アドレスがネットワーク デバイスの場合は、このフィールドが表示されます。                                                                                                                          |
| [Port (optional) ] フィールド      | トレースを開始するホストのポート番号を入力します。                                                                                                                                                                               |
| [Destination] フィールド           | 次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• トレースを終了するホストまたはレイヤ 3 転送インターフェイスの IP アドレスを入力します。</li> <li>• [Destination] フィールドをクリックして、使用可能なオプションから IP アドレスを選択します。</li> </ul>                     |
| [Interface (optional) ] フィールド | ドロップダウンリストからインターフェイスを選択します。<br>(注) [Destination] フィールドで選択した IP アドレスがネットワーク デバイスの場合、このフィールドが表示されます。                                                                                                      |
| [Port (optional) ] フィールド      | トレースを終了するホストのポート番号を入力します。                                                                                                                                                                               |

**ステップ 3** [Options] エリアで、必要に応じて次の操作を実行します。

| フィールド                 | アクション                           |
|-----------------------|---------------------------------|
| [Protocol] ドロップダウンリスト | (オプション) [tcp] または [udp] を選択します。 |



| フィールド                 | アクション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Live Traffic]        | <p>[On] に切り替えて有効にすると、選択したデバイスを通るネットワークパケットを .pcap ファイルとしてリアルタイムでキャプチャできます。</p> <p>[Max number of packets to capture] ドロップダウンリスト：キャプチャするパケットの最大数を選択します。</p> <p>(注) [Live Traffic] トグルボタンを有効にすると、[Refresh Every 30sec] トグルボタンが自動的に無効になります。その逆も同様です。</p>                                                                                                          |
| [Refresh Every 30sec] | <p>(オプション) パストレーストポロジを 30 秒ごとに更新するように設定するには、このトグルを [On] に設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [ACL Trace]           | <p>(オプション) 一致した ACL と特定のトラフィックフローの ACL 結果（許可または拒否）を表示するには、このトグルを [On] に設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [Include Stats] オプション | <p>(オプション) 追加の統計を収集するようにパス トレースを設定するには、必要に応じて次のチェック ボックスをチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Device]：デバイス CPU やメモリ使用率などの情報を収集して表示します。</li> <li>• [Interface]：デバイスインターフェイスに関する情報を収集して表示します。</li> <li>• [QoS]：collector-voice-egress、collector-broadcast-video-egress、collector-real-time-interactive-egress などの QoS 情報を収集して表示します。</li> </ul> |

**ステップ 4** [Start] をクリックします。

パス トレース トポロジが表示されます。IP アドレス、プロトコル、およびパス トレースの最終更新日時を示すタイムスタンプが、トポロジの上に表示されます。

**ステップ 5** パストレーストポロジでは、次の操作を実行できます。

a) デバイスにカーソルを合わせると、次の情報が表示されます。

- CPU 使用率
- メモリ使用率
- ACL、トンネリング、およびキューの平均処理遅延
- 転送およびドロップされたパケットの数とドロップの理由を含むパケット転送の決定

[ACL Trace] が [On] に設定されている場合、ACL 名と ACL の結果（許可または拒否など）が表示されます。

次の 5 タプル値（送信元 IP アドレスとポート番号、宛先 IP アドレスとポート番号、使用されているプロトコル）が指定されている場合、表示されている ACL トレースは 100% 正確です。情報が部分的に

指定されている場合、表示されている ACL トレースはベストエフォートに基づきます。このような場合、ACL 結果に許可と拒否の両方が表示される可能性があります。

特定のトラフィックフローで一致した ACL は、色付きのアイコンで表示されます。緑は許可を示します。赤は拒否を示します。入力 ACL の場合、アイコンはデバイスの左側に表示されます。出力 ACL の場合、アイコンはデバイスの右側に表示されます。

- b) デバイスをクリックすると、デバイスの詳細情報を含むスライドインペインが開きます。
  - c) レイヤ 2 または レイヤ 3 ポート チャネル インターフェイスの上にカーソルを重ねると、使用された VLAN や出力ドロップなどの情報が表示されます。[More Details] をクリックすると、追加情報を含むスライドインペインが開きます。
  - d) パスの上にカーソルを重ねると、パスに沿ったデバイスのプロトコル (Switched、STP、ECMP、Routed、Trace Route) や、その他のソース タイプも表示されます。
-



## 第 22 章

# ワイヤレスマップ向け Cisco CMX の統合

- [Cisco Connected Mobile Experiences の統合について \(479 ページ\)](#)
- [Cisco CMX API サーバーへのユーザーの追加 \(479 ページ\)](#)
- [Cisco CMX 設定の作成 \(480 ページ\)](#)
- [Cisco CMX のトラブルシューティング \(482 ページ\)](#)

## Cisco Connected Mobile Experiences の統合について

Cisco DNA Center は、ワイヤレスマップのためのオンプレミス Cisco Connected Mobile Experiences (CMX) の統合をサポートしています。CMX を統合すると、Cisco DNA Center ユーザーインターフェイス内で、フロアマップ上でのワイヤレスクライアント、不正アクセスポイントおよび干渉源の正確な場所を把握できます。

CMX の設定は、ユーザーの要件に応じて、グローバルレベルで、あるいはサイト、ビルディング、またはフロアレベルで作成できます。小企業の場合はグローバルレベル（親ノード）で CMX を割り当てることができます。すべての子ノードが親ノードから設定を継承します。中企業の場合はビルディングレベルで、大企業の場合はフロアレベルで CMX を割り当てることができます。



(注) セキュリティ上の理由から、CMX は匿名にする必要があります。

## Cisco CMX API サーバーへのユーザーの追加

Cisco CMX インスタンスを Cisco DNA Center ネットワーク設定に追加する前に、Cisco CMX API サーバーにユーザーを追加する必要があります。

**ステップ 1** cmxadmin アカウントを使用して Cisco CMX に SSH 接続します。次のコマンドを入力します。

```
ssh -l cmxadmin (cmx-ip-address)
```

**ステップ 2** Cisco CMX API サーバーを起動します。次のコマンドを入力します。

```
cmxos apiserver start
```

**Example**

The following example shows how to start the Cisco CMX API server:

```
[root@server]# cmxos apiserver start
```

```
Starting CMX API Server...
```

**ステップ 3** Cisco CMX API サーバーへのユーザーの追加次のコマンドを入力します。

```
cmxos apiserver user add
```

パスワードプロンプトが表示されたら、Cisco CMX Web 管理画面のユーザー パスワードと同じパスワードを入力します。

**Example**

The following example shows how to add a user for the Cisco CMX API server:

```
[root@server]# cmxos apiserver user add
```

```
Please enter the userid for the CMX API Server: user1
```

```
Please enter the password for the CMX API Server: password
```

```
Please re-enter the password for the CMX API Server: password
```

```
Restarting CMX API Server...
```

```
Stopping CMX API Server...
```

```
Starting CMX API Server...
```

```
Successfully updated userid/password and restarted the CMX API Server
```

### 次のタスク

Cisco DNA Center で Cisco CMX の設定を作成します。[Cisco CMX 設定の作成 \(480 ページ\)](#) を参照してください。

## Cisco CMX 設定の作成

### 始める前に

- CMX が有効な SSL/TLS 証明書で設定されていることを確認します。「[CMX 10.5 SSL certificate installation procedure](#)」を参照してください。
- Cisco CMX API ユーザーを追加します。[Cisco CMX API サーバーへのユーザーの追加 \(479 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System]>[Settings]の順に選択します。

**ステップ 2** [External Services] セクションで、[CMX Servers/Cisco Spaces] をクリックします。

[CMX Servers/Cisco Spaces] ウィンドウが開きます。

**ステップ 3** [CMX Servers] テーブルから、[Add] をクリックします。

**ステップ 4** [Add CMX Server] スライドインペインで、次のフィールドに入力します。

- [IP Address] : CMX Web GUI の有効な IP アドレスを入力します。

- [User Name] : CMX Web GUI のユーザー名を入力します。

(注) CMX サーバーをサイト、ビルディング、またはフロアに割り当てるには、[ネットワーク階層 ( **Network Hierarchy** ) ] に対する書き込み権限が必要です。詳細については、『*Cisco DNA Center Administrator Guide*』の「Cisco DNA Center User Role and Permissions」の項を参照してください。

- [Password] : パスワードログイン情報を入力します。

(注) CMX が到達可能であることを確認してください。

#### ステップ 5 [Add] をクリックします。

接続ステータスは、次の 3 段階で表示されます。

- [接続の開始 ( **Initiating Connection** ) ] : サーバーへの接続を確認します。
- [信頼の確立 ( **Establishing Trust** ) ] : CMX サーバーへの信頼を確立します。CMX サーバーには、信頼を確立するために設定された有効な SSL/TLS 証明書が必要です。証明書が Cisco DNA Center の信頼できる証明書にまだ保存されていない場合、続行するには証明書を **受け入れる** ように求められます。
- [CMXサーバーに接続 ( **Connecting CMX Server** ) ] : 指定されたユーザーログイン情報を検証します。

#### ステップ 6 CMX サーバーをサイト、建物、またはフロアに割り当てるには、メニューアイコンをクリックし、**[Design] > [Network Settings]** の順に選択します。

#### ステップ 7 [Wireless] タブをクリックします。

#### ステップ 8 [Global] または必要なエリア、建物、フロアを左側の階層ツリーから、。

#### ステップ 9 [DNA Spaces/CMX Servers] をクリックします。

#### ステップ 10 [DNA Spaces/CMX Servers] セクションで、[Location Settings] ドロップダウンリストから CMX サーバーを選択します。

#### ステップ 11 **[Save]** をクリックします。

[Create CMX Settings] ウィンドウが開きます。

CMX の追加後に [Network Hierarchy] ページのフロアに変更を加えた場合、その変更は自動的に CMX と同期されます。

CMX が同期されると、Cisco DNA Center はクライアントロケーションを CMX に照会し、その場所がフロアマップに表示されます。

#### ステップ 12 フロアマップでは、次のことを実行できます。

- クライアントの場所を表示します。これは青色のドットとして表示されます。
- AP 上にカーソルを移動します。ダイアログボックスは、[Info]、[Rx Neighbor]、[Clients] タブで表示されます。詳細については、各タブをクリックしてください。[Device 360] をクリックして、デバイス 360 ウィンドウを開き、問題を表示します。問題をクリックして、問題の場所とクライアントデバイスの場所を表示します。

- AP をクリックして、AP に関する詳細を含むサイドバーを開きます。
- Intelligent Capture と CMX を統合するときにリアルタイムでクライアント トラッキングを実行します。

**ステップ 13** 変更を加えたときに CMX がダウンした場合は、手動で同期する必要があります。同期するには、[Network Hierarchy] ページで、左側の階層ツリーで変更を加えた建物やフロアの隣にある省略記号...の上にカーソルを置き、[Sync: CMX Server/Cisco Spaces] を選択して、変更を手動でプッシュします。

**ステップ 14** CMX サーバーの詳細を編集する場合や CMX サーバーを削除する場合は、次の手順を実行します。

- a) 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System]>[Settings]の順に選択します。
- b) [External Services] セクションで、[CMX Servers/Cisco Spaces] をクリックします。
- c) 編集する CMX サーバーを選択して変更を加え、[Update] をクリックします。
- d) 削除する CMX サーバーを選択し、[Delete] をクリックします。
- e) [OK] をクリックして削除を実行します。

## Cisco CMX のトラブルシューティング

### CMX 認証に失敗した場合

- Cisco DNA Center で CMX 設定の作成時に指定したログイン情報で、CMX Web UI にログインできるかどうかを確認します。
- SSH を使用して CMX コンソールにログインできるかどうかを確認します。
- CMX UI の API ドキュメンテーションリンクを使用して CMX REST API を使用できるかどうかを確認します。

### クライアントがフロアマップに表示されない場合

- 特定のフロアのシスコ ワイヤレス コントローラが CMX で設定されており、アクティブであるかどうか確認します。
- CMX UI がフロア マップにクライアントを表示するかどうか確認します。
- Cisco DNA Center マップ API を使用して、フロアにクライアントをリスト表示します。  

```
curl -k -u <user>:<password> -X GET
/api/v1/dna-maps-service/domains/<floor group
id>/clients?associated=true
```



## 第 23 章

# アシュアランス監査ログの表示

・ [監査ログの表示 アシュアランス \(483 ページ\)](#)

## 監査ログの表示 アシュアランス

監査ログは、設定の変更が要求されたとき、設定の変更が実行されたとき、設定中にエラーが発生したかどうかなどの重要なアクティビティを記録するために作成されます。アシュアランスでは、インテリジェントキャプチャ、問題のしきい値、センサー、および AI ネットワーク分析の設定が変更されると、監査ログが提供されます。

監査ログにアクセスするには、[**アクティビティ**] > [**監査ログ**] の順に選択します。詳細な手順については、[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#) の「監査ログの表示」を参照してください。

アシュアランスでは、次のデータが監査ログにキャプチャされます。

表 10: 監査ログ

| アイテム                 | 説明                |
|----------------------|-------------------|
| <b>Date and Time</b> | ログが受信または実行された日時。  |
| <b>Description</b>   | 監査ログについて簡単な説明。    |
| <b>User</b>          | 変更を要求または実行したユーザー。 |

### インテリジェントキャプチャの監査ログ

インテリジェントキャプチャについては、次の設定変更をキャプチャするために監査ログが提供されます。

- AP 統計情報のグローバルな有効化/無効化。
- 一連の個々の AP に関する統計情報の有効化/無効化。
- 異常キャプチャのグローバルな有効化/無効化。
- 一連の個々の AP についての異常キャプチャの有効化/無効化。

- スペクトラム解析の有効化。
- スケジュールされたキャプチャの有効化/無効化。
- ライブキャプチャの有効化/無効化。
- データパケットキャプチャの有効化/無効化。

設定中にエラーが発生した場合は、その情報も監査ログに記録されます。

#### 問題のしきい値の監査ログ

問題のしきい値については、次の更新をキャプチャするために監査ログが提供されます。

- サイトの正常性の更新。
- 正常性スコアの更新。
- 問題設定の更新。

#### センサー監査ログ

センサーについては、次の設定要求をキャプチャするために監査ログが提供されます。

- テストスイートの追加要求を受信。
- テストスイートの更新要求を受信。
- テストスイートの削除要求を受信。
- 証明書バンドルに関するテストの更新要求を受信。
- テストステータスの追加要求を受信。

#### AI 分析の監査ログ

AI 分析については、次の AI エージェントの設定変更をキャプチャするために監査ログが提供されます。

- エージェントのオンボード。
- エージェントの復元。
- エージェントの再設定。





## 第 24 章

# データプラットフォームを使用した Cisco DNA Center のトラブルシューティング

- [データプラットフォームについて \(485 ページ\)](#)
- [分析 Ops センターを使用したトラブルシューティング \(486 ページ\)](#)
- [コレクタの設定情報の表示または更新 \(488 ページ\)](#)
- [データ保持設定の表示 \(489 ページ\)](#)
- [パイプラインステータスの表示 \(489 ページ\)](#)

## データプラットフォームについて

データプラットフォームには、Cisco DNA Center アプリケーションのモニターとトラブルシューティングに役立つツールがあります。[Data Platform] には、ネットワークのパターン、トレンド、問題領域を特定するのに役立つ、さまざまな入力から合成されたデータが表示されます。たとえば、ネットワークに問題が発生した場合、パイプラインがエラー状態になっているかどうか、特定のエリアにおけるリアルタイムトラフィックフローが何かなど、問題に対する回答を迅速に得ることができます。データプラットフォームの主なエリアは次のとおりです。

- [Analytics Ops Center] : データがコレクタとパイプラインを経由してどのように流れているかをグラフィカルに表示します。また、ネットワーク内のパターン、傾向、次のような問題領域を特定できる Grafana ダッシュボードも用意されています。[分析 Ops センターを使用したトラブルシューティング \(486 ページ\)](#) を参照してください。
- [Collectors] : さまざまなネットワークテレメトリとコンテキストデータをリアルタイムで収集します。データが取り込まれると、Cisco DNA Center はデータを関連付けて分析します。コレクタのステータスを表示し、問題領域をすばやく見分けることができます。[コレクタの設定情報の表示または更新 \(488 ページ\)](#) を参照してください。
- [Store Settings] : アプリケーションのデータの保存期間を表示できます。[データ保持設定の表示 \(489 ページ\)](#) を参照してください。
- [Pipelines] : Cisco DNA Center アプリケーションが、ストリーミングデータを処理できるようにします。データパイプラインでは、外部ソースからの入力データを受け入れ、有用な情報を提供するためにそのデータを変換し、出力データを生成する一連の計算をカプセル

化します。パイプラインのステータスを表示し、問題領域をすばやく見分けることができます。[パイプライン ステータスの表示 \(489 ページ\)](#) を参照してください。

- [Task Managers] : タスクマネージャのリストを、最後のハートビート、すべてのスロット、空きスロットなどの詳細情報とともに表示できます。この詳細情報は CSV ファイルとしてエクスポートできます。

## 分析 Ops センターを使用したトラブルシューティング

分析 Ops センターは、データがコレクタとパイプラインを経由してどのように流れているかに関するグラフィカル表示を提供します。また、ネットワーク内のパターン、傾向、次のような問題領域を特定するために役立つ Grafana ダッシュボードを提供します。

- アシユアランス の見つからないデータ。
- 不正確な正常性スコア。
- デバイスがインベントリではモニター対象として表示され、アシユアランスではモニター対象外として表示される。

**ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : [System] > [Data Platform]。

**ステップ 2** [Analytics Ops Center] をクリックします。  
アプリケーションのリストが表示されます。

**ステップ 3** メトリックを表示するアプリケーション名、たとえば、[Assurance] をクリックします。

アプリケーション内のすべての既存のコレクタとパイプラインのグラフィカル表示が現れます。また、各パイプラインに対応する CPU またはスループット値も提供されます。

各コンポーネントの現在のヘルス ステータスは、色によって示されます。

- 赤色 : エラー
- 黄色 : 警告
- 灰色 : 通常動作

**ステップ 4** パイプラインの履歴データを表示するには、[Timeline & Events] をクリックします。

時間間隔のデータを提供するタイムラインバーが表示されます。次のことも実行できます。

- スライダーを移動して、特定の時間のデータを表示する
- Hover your cursor over an event in the timeline bar to display additional details or a group of events that occurred at the same time.
- イベントをクリックして、その特定の時点での分析 Ops センターの可視化を表示する

- ステップ 5** 問題のトラブルシューティングに役立つ追加の詳細を表示し、エラーまたは警告の原因を特定するには、コレクタ名をクリックします。
- スライドインペインに次のタブが表示されます。
- **[Metrics]** : 直近 30 分間に収集された使用可能なメトリックの選択肢が提示されます。コンポーネントのステータス、開始時間と停止時間、およびエラーの例外を示す概要情報が表示されます。別の時間間隔を選択することもできます。
  - **[Grafana]** : より詳細にデバッグするために各コンポーネントに関連付けられているダッシュボードが表示されます。
- ステップ 6** データが特定のパイプラインを経由して流れているかどうかを表示するには、パイプラインストリームをクリックします。
- スライドインペインが表示され、内部にグラフが表示されます。グラフは、アプリケーションが基盤となるパイプラインからデータを受信しているかどうかを表示します。グラフの情報は、スライドインペインでドロップダウンリストから選択する時間間隔に基づきます。オプションは、**[Last 30 Min]**、**[Last Hour]**、**[Last 2 Hours]**、および **[Last 6 Hours]** です。デフォルトは、**[Last 30 Min]** です。
- ステップ 7** パイプラインが通常レベルで流れていない場合は、カーソルをストリームに合わせると、遅延メトリックが表示されます。
- ステップ 8** 特定のパイプラインの詳細情報を表示するには、パイプライン名をクリックします。
- 適切な **[Pipeline]** ページが、次のタブとともに表示されます。
- (注) **[Exceptions]** タブをクリックして、パイプラインで例外が発生していないかどうかを確認してください。通常の動作状況では、このタブは **null** を表示します。
- **メトリック** : グラフ中で 30 分ごとに更新されるメトリックを表示します。
  - **サマリ** : 統計、ランタイム、マニフェストなどのサマリ情報を表示します。
  - **例外** : パイプラインで発生した例外を表示します。
  - **ステージ** : パイプラインのステージを表示します。
- ステップ 9** **[Analytics Ops Center]** ページに表示されるメトリックを変更するには、**[Key Metrics]** をクリックして、最大 2 つのメトリックを選択し、**[Apply]** をクリックします。
- デフォルトでは、Cisco DNA Center は CPU とスループットのメトリックを表示します。
- ステップ 10** 特定のフローのメトリックを表示するには、次を実行します。
- a) **[View Flow Details]** をクリックします。
  - b) コンポーネントの左上隅にあるチルダ (~) をクリックして、3 つの接続されたコンポーネント (コレクタ、パイプライン、ストア) を選択します。
  - c) **[View Flow]** をクリックします。  
Cisco DNA Center は、その特定のフローに関連付けられたメトリックを表示します。

## コレクタの設定情報の表示または更新

コレクタは、さまざまなネットワークテレメトリおよびコンテキストリアルタイムデータをリアルタイムで収集します。データが取り込まれると、Cisco DNA Center はデータを関連付けて分析します。コレクタのステータスを表示し、問題領域をすばやく見分けることができます。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Data Platform]。
- ステップ 2** [Collectors] をクリックします。各コレクタの横にある色付きの点は、全体的なステータスを示しています。
- ステップ 3** 追加の詳細を表示するには、コレクタ名をクリックします。
- 適切な [Collector] ページが表示されます。デフォルトでは、Cisco DNA Center に [Configuration] タブが表示され、現在の設定リストを確認できます。
- ステップ 4** 構成を表示、更新、または削除するには、特定の構成名をクリックします。
- ステップ 5** 新規の設定を追加するには、[Configuration] タブで [+ Add] をクリックします。
- ステップ 6** 設定に必要な情報をスライドインペインに入力します。
- ステップ 7** (任意) ワイヤレスコレクタなどの一部のコレクタでは、[Anonymize] チェックボックスをオンにして、[Client Health] ウィンドウに表示されるホスト名とユーザー ID を、復号化できない一方向ハッシュを用いてスクランブル処理することができます。
- 重要** データを匿名化する場合は、[Discovery] ツールを使用してデバイスを検出する前に、[Anonymize] チェックボックスをオンにしてください。デバイスを検出した後にデータを匿名化した場合、システムに入ってくる新しいデータは匿名化されますが、既存のデータは匿名化されません。
- ステップ 8** [Save Configuration] をクリックします。
- ステップ 9** 設定されているインスタンスを表示するには、[Instances] タブをクリックします。
- ステップ 10** 概要情報とメトリックを表示するには、リストからインスタンスを選択します。
- ステップ 11** (任意) Cisco DNA Center を Cisco Connected Mobile Experience (CMX) と統合する場合は、CMX 側でデータの匿名化を選択できます。次の手順を実行します。
- SSH クライアントを使用して、cmxadmin CLI ユーザとして Cisco CMX にログインします。
  - ルートユーザに変更します。
  - /opt/cmx/etc/node.conf に移動し、[location] の下に **user\_options** を追加します。次に例を示します。

```
[location]
...
user_options=-Dhideusername=true
```
  - Cisco CMX CLI で、次のコマンドを入力します。

```
cmxctl agent restart
cmxctl location restart
```

## データ保持設定の表示

アプリケーションのデータの保存期間を表示できます。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Data Platform]。
- ステップ 2** [Store Settings] をクリックします。
- ステップ 3** 完了した履歴消去ジョブのリストを表示するには、[Data Purge Schedule] をクリックします。  
[HISTORY] テーブルには、消去ジョブの名前、結果、時刻、その他のデータが表示されます。テーブル内のデータをソート、フィルタリング、エクスポートすることができます。
- ステップ 4** 現在のデータの保持または消去の設定を表示するには、[Data Retention & Purge Configuration] をクリックします。次の出力が表示されます。
  - [Document Store]：最大サイズ、ウォーターマークの下限および上限しきい値など、すべての時間ベースのデータの設定。
  - [Trigger Store]：データが保存される最大日数。
  - [Metric Graph Store]：最大サイズ、ウォーターマークの下限および上限しきい値など、すべての時間ベースのグラフィカルデータの設定。

## パイプラインステータスの表示

データパイプラインによって、Cisco DNA Center アプリケーションは、ストリーミングデータを処理できます。データパイプラインでは、外部ソースからの入力データを受け入れ、有用な情報を提供するためにそのデータを変換し、出力データを生成する一連の計算をカプセル化します。パイプラインのステータスを表示し、問題領域をすばやく見分けることができます。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[System] > [Data Platform]。
- ステップ 2** [Pipelines] をクリックします。
- ステップ 3** アプリケーションが基盤となるパイプラインからデータを受信しているかどうかを表示するには、パイプライン名をクリックします。  
適切な [Pipeline] ページが、次のタブとともに表示されます。

(注) [Exceptions] タブをクリックして、パイプラインで例外が発生していないかどうかを確認してください。通常の動作状況では、このタブは **null** を表示します。

- **メトリック** : グラフ中で 30 分ごとに更新されるメトリックを表示します。
  - **サマリ** : 統計、ランタイム、マニフェストなどのサマリ情報を表示します。
  - **例外** : パイプラインで発生した例外を表示します。
  - **ステージ** : パイプラインのステージを表示します。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。